都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第 1 冊

高松城跡（丸の内地区）

2016 年 2 月

高松市教育委員会

例　言

1　本書は都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第1冊で、高松市丸の内に所在する高松城跡の調査報告を収録した。
2　発掘調査地及び調査期間、調査面積は次のとおりである。
　調査地　　高松市丸の内
　調査期間　平成 24 年2月 13 日～8月9日
　調査面積　1,070 ㎡
3　発掘調査及び整理作業は高松市創造都市推進局文化・観光・スポーツ部文化財課文化財専門員小川賢及び同非常勤嘱託職員中西克也が担当した。
4　本報告書の執筆は、第１章第１節を小川が、それ以外は中西が担当し、編集は小川･中西が行った。
5　発掘調査から整理作業、報告書執筆を実施するにあたって、下記の関係諸機関から御教示・御協力を得た。記して厚く謝意を表すものである。
　香川県教育委員会　　国立大学法人　香川大学
6　発掘調査で得られた資料は高松市教育委員会が保管している。

凡　例

1　本報告書の挿図として、国土地理院発行５万分の１「高松」及び高松市都市計画図２千５百分の1「高松市街地」を一部改変して使用した。
2　標高は東京湾平均海面高度を基準とし、座標は国土座標第Ⅳ系(世界測地系)、方位は座標北を表す。
3　本報告書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
　ＳＤ：溝　ＳＥ：井戸　ＳＫ：土坑　ＳＰ：柱穴　ＳＴ：墓　ＳＸ：性格不明遺構
4　挿図の縮尺は、遺構の平・断面図が1/40、出土遺物の実測図は土器が1／３、金属製品・土製品・石製品が1／２、瓦・石造物が1／４を基本とする。
5　発掘調査のうち、掘削業務を株式会社サンモールに、測量業務を株式会社四航コンサルタントに委託した。整理作業のうち、遺物の写真撮影業務を西大寺フォトに，遺物保存処理は株式会社吉田生物研究所に委託した。
6　土層及び土器観察の色調表現は、『新版　標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に拠る。
7　報告書は図化した遺物が出土した遺構を中心に記述しており、記述していない遺構は文末に記載した遺構表に規模等を表記する。
8　遺物観察表の法量のうちで、(　) は推定値、〔　〕は残存値である。

本 文 目 次

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯 …… 1
第２節　調査の経過 …… 1

第２章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境 …… 2
第２節　歴史的環境 …… 3

第３章　発掘調査の成果

第１節　調査方法 …… 5
第２節　１工区の遺構と遺物 …… 9
第３節　２工区の遺構と遺物 …… 42
第４節　３工区の遺構と遺物 …… 86
第５節　４工区の遺構と遺物 …… 91
第６節　５工区の遺構と遺物 ……127

第４章　自然化学分析

高松城跡出土木製品の樹種調査結果 ……166

第５章　まとめ

第１節　遺構の変遷 ……168
第２節　区画の検討 ……171
第３節　屋敷墓について ……172

挿 図 目 次

第 1 図　遺跡位置図 ……1
第 2 図　高松平野 ……2
第 3 図　調査地位置図 ……2
第 4 図　高松城跡周辺発掘調査地位置図 ……4
第 5 図　1 工区土層図 ……6
第 6 図　1 工区第 1 遺構面遺構配置図……7～8
第 7 図　ＳＤ１-1101 ～ 1104
平・断面図、出土遺物実測図……10
第 8 図　ＳＫ１-1103 ～ 1105
平・断面図、出土遺物実測図……12
第 9 図　ＳＫ１-1113・1114
平・断面図、出土遺物実測図……13
第 10 図　ＳＰ１-1104・ＳＥ１-1101
平・断面図、出土遺物実測図……14
第 11 図　1 工区第 2 遺構面遺構配置図……15～16
第 12 図　ＳＤ１-2201 平･断面図、出土遺物実測図（１）…18
第 13 図　ＳＤ１-2201 出土遺物実測図（２）……19
第 14 図　ＳＫ１-2212・ＳＰ１-2205・2212
平・断・立面図、出土遺物実測図……19
第 15 図　ＳＥ１-2202 平・断面図、出土遺物実測図 ……21
第 16 図　ＳＸ１-2202・2203
平・断面図、出土遺物実測図……22
第 17 図　1 工区第 3 遺構面遺構配置図（１）……23～24
第 18 図　1 工区第 3 遺構面遺構配置図（２）……25
第 19 図　1 工区第 3 遺構面遺構配置図（３）……25
第 20 図　ＳＤ１-3301 平・断面図、出土遺物実測図 ……26
第 21 図　ＳＫ１-3303・3305・3307・3308・3310
平・断面図、出土遺物実測図……28
第 22 図　ＳＫ１-3311・3312
平・断面図、出土遺物実測図……29
第 23 図　ＳＫ１-3313 ～ 3315
平・断面図、出土遺物実測図……30
第 24 図　ＳＰ１-3302・3325・3326・3346・3347
平・断面図、出土遺物実測図……31
第 25 図　ＳＰ１-3362・3374・3385・3391 ～ 3394
平・断面図、出土遺物実測図……33
第 26 図　ＳＰ１-3396・3409・3490・3506
平・断面図、出土遺物実測図……34
第 27 図　ＳＴ１-3301・3302
平・断面図、出土遺物実測図……36
第 28 図　ＳＥ１-3301 平･断面図、出土遺物実測図……37
第 29 図　ＳＥ１-3303 平･断面図、出土遺物実測図……38
第 30 図　ＳＸ１-3301・3303・3304
平・断面図、出土遺物実測図……40
第 31 図　ＳＸ１-3305・3307・3308
平・断面図、出土遺物実測図……41
第 32 図　1 工区第 3 遺構面・深掘り
出土遺物実測図……41
第 33 図　2 工区第 1 遺構面遺構配置図……43
第 34 図　ＳＫ２-1101 ～ 1103
平・断面図、出土遺物実測図……44
第 35 図　ＳＫ２-1104
平・断面図、出土遺物実測図（１）……45
第 36 図　ＳＫ２-1104 出土遺物実測図（２）……46
第 37 図　ＳＫ２-1106 平・断面図、出土遺物実測図……46
第 38 図　ＳＫ２-1108 平・断面図……47
第 39 図　ＳＫ２-1108 出土遺物実測図（１）……48
第 40 図　ＳＫ２-1108 出土遺物実測図（２）……49
第 41 図　ＳＫ２-1108 出土遺物実測図（３）……50
第 42 図　ＳＥ２-1101・1102
平・断面図、出土遺物実測図……51
第 43 図　2 工区第 2 遺構面遺構配置図……53
第 44 図　ＳＫ２-2201 ～ 2205
平・断面図、出土遺物実測図……54
第 45 図　ＳＫ２-2206 平・断面図、出土遺物実測図……55
第 46 図　ＳＫ２-2207 平・断面図、出土遺物実測図……56
第 47 図　ＳＰ２-2204・2209・2216
平・断面図、出土遺物実測図……58
第 48 図　ＳＰ２-2206 ～ 2208
平・断面図、出土遺物実測図（１）……59
第 49 図　ＳＰ２-2206 ～ 2208 出土遺物実測図(２)　……60
第 50 図　2 工区第 3 遺構面遺構配置図……61
第 51 図　ＳＤ２-3301・3302
平・断面図、出土遺物実測図……62
第 52 図　ＳＤ２-3303 平・断面図……63
第 53 図　ＳＤ２-3303 出土遺物実測図（１）……64
第 54 図　ＳＤ２-3303 出土遺物実測図（２）……65
第 55 図　ＳＤ２-3303 出土遺物実測図（３）……66
第 56 図　ＳＤ２-3303 出土遺物実測図（４）……67
第 57 図　ＳＫ２-3301 平・断面図……68
第 58 図　ＳＫ２-3301 出土遺物実測図（１）……69
第 59 図　ＳＫ２-3301 出土遺物実測図（２）……70
第 60 図　ＳＫ２-3301 出土遺物実測図（３）……71
第 61 図　ＳＫ２-3301 出土遺物実測図（４）……72
第 62 図　ＳＫ２-3301 出土遺物実測図（５）……73
第 63 図　ＳＫ２-3301 出土遺物実測図（６）……74
第 64 図　ＳＫ２-3301 出土遺物実測図（７）……75
第 65 図　ＳＫ２-3301 出土遺物実測図（８）……76
第 66 図　ＳＫ２-3303 ～ 3306
平・断面図、出土遺物実測図……77
第 67 図　ＳＫ２-3307 平・断面図、出土遺物実測図……78
第 68 図　2 工区第 4 遺構面遺構配置図……79

第 69 図　ＳＤ２-4401 平・断面図、出土遺物実測図……80
第 70 図　ＳＥ２-4401 平・断面図、出土遺物実測図……81
第 71 図　２工区第５遺構面遺構配置図……83
第 72 図　ＳＤ２-5501・ＳＫ２-5502
平・断面図、出土遺物実測図……84
第 73 図　２工区第５遺構面出土遺物実測図……85
第 74 図　２工区深掘り出土遺物実測図……85
第 75 図　３工区土層図……86
第 76 図　３工区第１遺構面遺構配置図……87
第 77 図　３工区第２遺構面遺構配置図……88
第 78 図　ＳＰ３-2204・2206
平・断面図、出土遺物実測図……88
第 79 図　３工区第３遺構面遺構配置図……89
第 80 図　ＳＤ３-3301 平・断面図、出土遺物実測図……89
第 81 図　３工区第３遺構面出土遺物実測図……90
第 82 図　４工区土層図……92
第 83 図　４工区第１遺構面遺構配置図……93
第 84 図　ＳＫ４-1101・1102・1104
平・断面図、出土遺物実測図……94
第 85 図　ＳＫ４-1105・1106・1111・1114
平・断・立面図、出土遺物実測図……96
第 86 図　ＳＫ４-1115・1116
平・断面図、出土遺物実測……97
第 87 図　ＳＰ４-1101・1102・1111・1118・1122・1125
平・断面図、出土遺物実測図……99
第 88 図　ＳＰ４-1123 平・断面図、出土遺物実測図 ……100
第 89 図　ＳＥ４-1101 平・断面図、出土遺物実測図 ……100
第 90 図　４工区第１遺構面出土遺物実測図 ……101
第 91 図　４工区第２遺構面遺構配置図 ……102
第 92 図　ＳＤ４-2201 平・断面図、出土遺物実測図……103
第 93 図　ＳＤ４-2202・2204
平・断・立面図、出土遺物実測図 ……104
第 94 図　ＳＫ４-2201 ～ 2203
平・断面図、出土遺物実測図 ……106
第 95 図　ＳＫ４-2204・2206 ～ 2209
平・断面図、出土遺物実測図 ……107
第 96 図　ＳＫ４-2210・2211
平・断面図、出土遺物実測図 ……108
第 97 図　ＳＰ４-2203 ～ 2207・2215
平・断面図、出土遺物実測図 ……109
第 98 図　ＳＰ４-2220・2229・2230
平・断面図、出土遺物実測図 ……110
第 99 図　ＳＥ４-2201 平・断面図、出土遺物実測図 ……112
第 100 図　ＳＥ４-2202 平・断面図、出土遺物実測図……113
第 101 図　ＳＥ４-2204 平・断面図、出土遺物実測図……114
第 102 図　ＳＥ４-2205 平・断面図、出土遺物実測図……115
第 103 図　ＳＸ４-2201 ～ 2203
平・断面図、出土遺物実測図……116
第 104 図　４工区第２遺構面出土遺物実測図……117
第 105 図　４工区第２遺構面下層遺構配置図……118
第 106 図　ＳＫ４-2212 ～ 2216
平・断面図、出土遺物実測図……119
第 107 図　ＳＥ４-2203 平・断面図、出土遺物実測図……120
第 108 図　４工区第３遺構面遺構配置図……121
第 109 図　ＳＤ４-3301・3302・
ＳＫ４-3301・3302・3304・3305・3307 ～ 3309
平・断面図、出土遺物実測図……123
第 110 図　ＳＰ４-3310・3323・3328・3356・3364・3425
平・断面図、出土遺物実測図……125
第 111 図　ＳＰ４-3426・3450・3454・3455・3457
平・断面図、出土遺物実測図……126
第 112 図　５工区土層図……128
第 113 図　５工区第１遺構面遺構配置図 ……129～130
第 114 図　ＳＤ５-1101 ～ 1103
平・断面図、出土遺物実測図……132
第 115 図　ＳＫ５-1101 平・断面図、出土遺物実測図……133
第 116 図　ＳＫ５-1102 ～ 1105
平・断面図、出土遺物実測図……134
第 117 図　ＳＫ５-1107・1113・1114
平・断面図、出土遺物実測図……135
第 118 図　ＳＫ５-1115・1117
平・断面図、出土遺物実測図……136
第 119 図　ＳＰ５-1114 平・断面図、出土遺物実測図……137
第 120 図　ＳＥ５-1101・1102
平・断面図、出土遺物実測図……138
第 121 図　５工区第１遺構面出土遺物実測図……139
第 122 図　５工区第２遺構面遺構配置図 ……141～142
第 123 図　ＳＤ５-2201・2202
平・断面図、出土遺物実測図……143
第 124 図　ＳＫ５-2201・2203・2204
平・断面図、出土遺物実測図……144
第 125 図　ＳＫ５-2206・2208
平・断面図、出土遺物実測図……145
第 126 図　ＳＫ５-2209・2213 ～ 2215 平・断面図……146
第 127 図　ＳＰ５-2201・2208・2230
平・断面図、出土遺物実測図……147
第 128 図　ＳＰ５-2233 平・断面図、出土遺物実測図……148
第 129 図　ＳＴ５-2201 平・断・立面図、出土遺物実測図 149
第 130 図　５工区第２遺構面出土遺物実測図……150
第 131 図　５工区第３遺構面遺構配置図 ……151～152
第 132 図　ＳＫ５-3301 ～ 3304 平・断面図……153
第 133 図　ＳＰ５-3321・3343・3352
平・断面図、出土遺物実測図……154
第 134 図　ＳＥ５-3301 平・断面図、出土遺物実測図……155
第 135 図　ＳＴ５-3301 平・断・立面図……156
第 136 図　ＳＴ５-3301 出土遺物実測図……157

第 137 図　５工区第３遺構面出土遺物実測図……157
第 138 図　５工区第４遺構面遺構配置図 ……159～160
第 139 図　ＳＤ５-4401 ～ 4405 平・断面図……161
第 140 図　ＳＫ５-4401 ～ 4403・4406
平・断面図、出土遺物実測図……162
第 141 図　ＳＰ５-4401・4415・4446・4456・4506
平・断面図、出土遺物実測図……163
第 142 図　ＳＰ５-4535・4537・4567
平・断面図、出土遺物実測図……164
第 143 図　５工区第４遺構面出土遺物実測図……165
第 144 図　調査地周辺地割図……171

挿 表 目 次

第１表　遺構表 …… 174～188
第２表　遺物観察表 …… 189～202

写 真 図 版 目 次

図版１
１工区北側第３遺構面（西から）
４工区北側第３遺構面（南から）
図版２
１工区南側第３遺構面（東から）
２工区第５遺構面（南から）
４工区南側第３遺構面（東から）
４工区南側第３遺構面（南から）
５工区南側第１遺構面（東から）
５工区北側第２遺構面（西から）
５工区北側第４遺構面（西から）
５工区南側第４遺構面（西から）
図版３
１工区北側第１遺構面（東から）
１工区北側第１遺構面（西から）
１工区南側第１遺構面（東から）
１工区南側第１遺構面（西から）
１工区ＳＤ１-1102（東から）
１工区ＳＤ１-1102（西から）
１工区ＳＫ１-1105・1106
１工区北側第２遺構面（東から）
図版４
１工区北側第２遺構面（西から）
１工区南側第２遺構面（東から）
１工区南側第２遺構面（西から）
１工区ＳＤ１-2201
１工区ＳＤ１-2201（南から）
１工区ＳＫ１-2212
１工区北側第３遺構面（東から）
１工区北側第３遺構面（西から）
図版５
１工区南側第３遺構面（東から）
１工区南側第３遺構面（西から）
１工区南側第３遺構面（南から）
１工区ＳＤ１-3301
１工区ＳＤ１-3301（南から）
１工区ＳＰ１-3326
１工区ＳＥ１-3301
１工区ＳＥ１-3301（南から）
図版６
１工区ＳＴ１-3302
１工区ＳＴ１-3301・3302（南から）
１工区ＳＴ１-3301・3302（東から）
１工区北側第３遺構面以下
２工区北側第１遺構面（東から）
２工区北側第１遺構面（西から）
２工区ＳＫ２-1101
２工区ＳＫ２-1104（西から）
図版７
２工区ＳＥ２-1103
２工区第２遺構面（東から）
２工区第２遺構面（西から）
２工区ＳＫ２-2206（西から）
２工区ＳＫ２-2207（南から）
２工区ＳＫ２-1108
２工区ＳＫ２-1108（南西から）
２工区ＳＫ２-1108（北から）
図版８
２工区ＳＰ２-2206 ～ 2208
２工区第３遺構面（西から）
２工区第３遺構面（西から）

２工区ＳＤ２-3301（南から）
２工区ＳＤ２-3302（西から）
２工区ＳＤ２-3303
２工区ＳＤ２-3303（南から）
２工区ＳＫ２-3301（東から）
図版９
２工区ＳＫ２-3306 上面
２工区ＳＫ２-3306（南から）
２工区第４遺構面（西から）
２工区ＳＤ２-4401
２工区ＳＤ２-4401（南西から）
２工区ＳＥ２-4401（東から）
２工区ＳＥ２-4401（西から）
２工区第５遺構面（西から）
図版 10
２工区第５遺構面（南から）
２工区第５遺構面以下（南から）
３工区第１遺構面（東から）
３工区第２遺構面（西から）
３工区第３遺構面（西から）
４工区北側第１遺構面（南から）
４工区北側第１遺構面（東から）
４工区北側第１遺構面（西から）
図版 11
４工区南側第１遺構面（東から）
４工区南側第１遺構面（南から）
４工区南側第１遺構面（南から）
４工区ＳＰ４-1125（東から）
４工区北側第２遺構面（東から）
４工区北側第２遺構面（西から）
４工区南側第２遺構面（南東から）
４工区南側第２遺構面（南から）
図版 12
４工区南側第２遺構面（西から）
４工区ＳＤ４-2202（東から）
４工区ＳＫ４-2202（南から）
４工区ＳＰ４-2229
４工区ＳＰ４-2230
４工区ＳＥ４-2201（南から）
４工区ＳＥ４-2202
４工区ＳＥ４-2202（西から）
図版 13
４工区ＳＥ４-2204・2205（南から）
４工区北側第２遺構面下層（北から）
４工区北側第２遺構面下層（東から）
４工区北側第３遺構面（東から）
４工区北側第３遺構面（南から）
４工区北側第３遺構面（南から）
４工区南側第３遺構面（東から）
４工区南側第３遺構面（西から）
図版 14
４工区南側第３遺構面（南から）
４工区南壁（北西から）
４工区南側第３遺構面以下（北から）
４工区北側第３遺構面以下（東から）
５工区北側第１遺構面（東から）
５工区北側第１遺構面（西から）
５工区南側第１遺構面（東から）
５工区南側第１遺構面（西から）
図版 15
５工区ＳＤ５-1103・ＳＫ５-1110（北から）
５工区北側第２遺構面（東から）
５工区北側第２遺構面（西から）
５工区南側第２遺構面（東から）
５工区南側第２遺構面（北から）
５工区南側第２遺構面（北から）
５工区南側第２遺構面（西から）
５工区ＳＴ５-2201（西から）
図版 16
５工区北側第３遺構面（東から）
５工区北側第３遺構面（西から）
５工区ＳＥ５-3301（東から）
５工区ＳＴ５-3301
５工区ＳＴ５-3301（西から）
５工区ＳＴ５-3301（南から）
５工区北側第４遺構面（東から）
５工区北側第４遺構面（南から）
図版 17
５工区南側第４遺構面（東から）
５工区南側第４遺構面（東から）
５工区北側第４遺構面（南から）
５工区北側第４遺構面（南から）
５工区北壁（南東から）
５工区北壁（南から）
５工区南壁（北東から）
５工区第４遺構面以下（南から）
図版 18　出土遺物
図版 19　出土遺物
図版 20　出土遺物
図版 21　出土遺物
図版 22　出土遺物
図版 23　出土遺物
図版 24　出土遺物
図版 25　出土遺物
図版 26　出土遺物
図版 27　出土遺物

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯

現在、高松城跡中堀の堀端に相当する都市計画道路高松海岸線は拡張・整備事業が計画されている。この事業の実施にあたっては、当路線が国史跡高松城跡に北接していること、かつ高松城の武家屋敷地跡が推定されることから、事業主体である高松市（都市計画課）と高松市教育委員会（以下、市教委）との事前協議を経て、市教委が拡張工事の範囲について逐次、試掘調査を実施し、埋蔵文化財の包蔵状況の確認を行ってきた経緯がある。

平成 24 年2月13日に高松市（都市計画課）より埋蔵文化財発掘の通知が提出され、これに対し、香川県教育委員会から事前に発掘調査を行うよう指導があった。これを受け、都市計画課と協議を行った結果、道路建設前の平成 24・25 年度に発掘調査を実施し、記録保存を行うことで合意した。

以上のような経緯のもと、市教委が平成 24 年２月から発掘調査を実施することとなった。

第２節　調査の経過

発掘調査は平成 24 年２月 13 日から同年８月９日の間で実施した。調査対象面積は約 1,070 ㎡であるが、現有の道路や歩道の保護や駐車場・住宅・ビル等の保護、ガス管・水道管の保護措置を取ったことと、調査区内にコンクリート基礎が多量に存在していたため、調査面積は非常に狭くなった。本遺跡と隣接する高松城跡（江戸長屋跡）の調査結果から判断して、遺構検出面は２～３面と想定した。調査対象範囲は市街地にあって細長く、調査区域を横断する道路や南側にある駐車場やビル・住宅等を考慮し５つの調査区に分割した。調査は作業効率と周辺の状況等を考え、西端の１工区から着手し、その後に２工区･４工区･５工区の調査を行い、最後に３工区を行った。委託業務とした空中写真測量は遺構が多数検出された最下位の遺構面に重点を置いて 14 回実施した。空中写真測量を実施できなかった遺構面は、平面図測量を行った。

以下､発掘調査期間中の主要な工程を期す。

２月 13 日～４月　３日	１工区の調査
４月　４日～５月 11 日	２工区の調査
５月 14 日～６月 18 日	４工区の調査
６月 20 日～８月　３日	５工区の調査
８月　６日～８月　９日	３工区の調査

整理作業については、高松市埋蔵文化財センターにて調査終了時から平成 27 年７月末までの期間で実施し、委託業務とした遺物写真撮影及び遺物保存処理業務については平成 26 年３月末に完了した。

第１図　遺跡位置図(1/50,000)

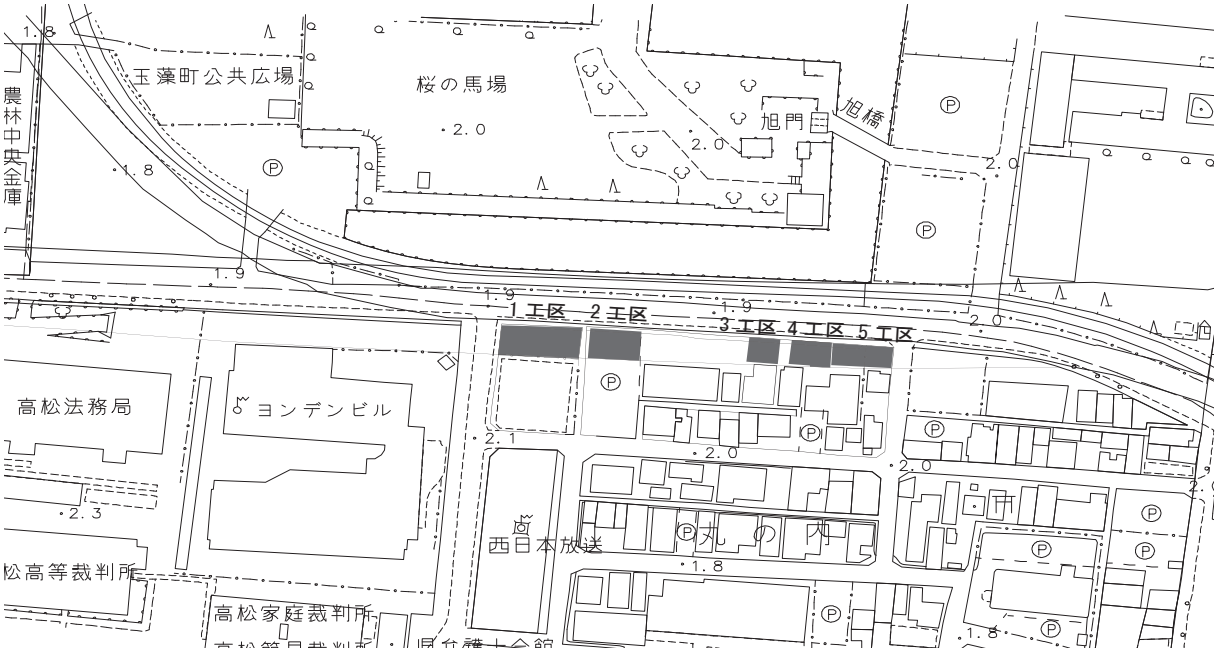
第２章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

瀬戸内海に北面した香川県のほぼ中央に、低い山塊に囲まれた高松平野がある。高松平野は西側が南から五色台へと続く山地、東側が立石山山地によって取り囲まれた東西 20km、南北 16km の範囲に及んでいる。この平野は、讃岐山脈から流下し、北へ流れて瀬戸内海へ注ぐ香東川をはじめ本津川・春日川・新川等の河川が運んだ土砂の堆積によって形成された扇状地でもある。香東川は、現在、石清尾山塊の西を直線に北流する西流路のみだが、17 世紀初頭、高松藩に招かれた西嶋八兵衛の河川改修によって一本化されたものである。なお、17 世紀の廃川直前の流路は御坊川としてその名残をとどめている。

第２図　高松平野

高松城跡周辺は中世前半には安定した地盤が面的に形成されたと考えられ、特に大手筋は周辺より高いことから、微高地状を呈した比較的安定した土地の可能性が考えられている。その堆積過程は『高松城跡（丸の内地区）』において詳細に報告されている。それによると、黄灰色砂質シルト層を基調とする中・近世の基盤層は弥生土器や須恵器を含み、その直上から９～10 世紀の遺物が出土していることから、この基盤層は９～10 世紀以前に堆積したと考えられる。また、花粉分析の結果からも周辺地域は９～10 世紀以前にも安定した地盤が形成されていたことが明らかである。なお、丸の内地区の北側に位置する松平大膳家上屋敷においては、同じ基盤層と思われる土層の直上から８世紀末～９世紀と考



第３図　調査地位置図(1/3,000)

えられる溝が検出され、さらに下層の標高 0.2 ～ 0.3 mの砂層の上面で弥生時代終末と考えられるピット群が見られ、微高地の形成がさらにさかのぼる可能性がある。

一方、史跡高松城跡（天守台）や厩跡や東町奉行所跡では中世前半の旧河道が検出されていることから、少なくとも中世前半にはこの周辺に旧河道が数条存在していたことが判明している。また、中・近世の遺構面を形成する堆積層は調査地ごとに変化しており、その形成過程が一様でなく、低地や旧河道に囲まれた微高地が点在した可能性も考えられる。このような複数の低地や旧河道や微高地の存在は「八輪島」と呼ばれていた景観を示唆するものである。

高松城の城下町として発展した高松市街地は、香東川の東流路が瀬戸内海に注いでいた河口の中洲や砂堆上に立地している。このため、城下町は高松城築城と同時にこの中洲や砂堆を大規模に埋め立てて形成されたと考えられる。

第 2 節　歴史的環境

高松市街地の下に埋没している中洲や砂堆上に初めて人の活動が認められるのは、弥生時代後期である。高松城内南に位置する高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）では、ベースとなる砂層上面より柱穴とともに弥生土器が多く出土し、付近に集落が存在していた可能性が指摘できる。また、この遺跡では、平安時代前期の溝もわずかながら確認している。

この地域の土地が安定し、人が恒常的に居住できるようになるのは平安時代後期と考えられる。当時、この地域は箆原郷と呼ばれ、安楽寿院領である野原庄が高松城跡の南方に所在していた。野原庄は、白河院の勅使田が応徳年間頃（11 世紀末葉）に立券荘号されたものである。康治２年（1143）８月 19 日の太政官符によれば野原庄の四至が条里によって表記されていることから、土地が安定し条里地割又は条里呼称がこの地まで普及していたと考えられる。

さらに時代が下ると、荘園としての機能以外にも、文安２年（1445）の「兵庫北関入舩納帳」には船籍地として名前が記載されていることから、中世においては港町としての機能を有していたと考えられる。時代は遡るが、高松城跡西の丸町地区の発掘調査では、11 世紀後半～ 13 世紀前半の護岸施設とともに県外から搬入された土器が高い比率で出土している。さらに、西の丸地区に隣接する浜ノ町遺跡では、白磁四耳壺を埋納していた 13 世紀末から 15 世紀末の集落跡が確認されている。また、高松城跡（寿町一丁目）では第 3 遺構面において 16 世紀に存在した寺院である無量壽院に関係する遺構･遺物が見つかっている。一方､高松城跡東の丸地区に目を転じると、16 世紀後半以前の漁民の墓群が検出されている｡城跡より南東方向にある片原町遺跡においては、15 ～ 16 世紀に属するＬ字形の大溝を検出しており、これは居館の外側にめぐらしていた堀の一部と考えられている。

このように、高松市街地下において、古代末から中世の集落等が確認され、かつて港町が栄えていたと考えられる。この砂堆や中洲上に中世都市が立地する状況は、博多や草戸千軒遺跡にも見られるように全国的な傾向であり、これらの都市をつなぐ交易が行われていたのであろう。このような時代背景のもとに、高松城がこの地に築かれ、城下町が整備されたと考えられる。

さて、この高松城及び城下町を造ったのは、豊臣秀吉の家臣であった生駒親正である。豊臣秀吉の四国出兵により、天正 13 年（1585）長宗我部元親が降伏し、讃岐国は仙石秀久・十河存保に与えられ、その後尾藤知宣の領国となったが、天正 15 年（1587）生駒親正が入部し、讃岐一国を領した。高松城は、生駒親正の居城として、翌天正 16 年から築城された水城である。北の守りを瀬戸内海にゆだね、堀には海水が引き込まれるのが水城と呼ばれる由縁である。また、南方には大手（旧太鼓門）を構え、城の南側に城下町が展開する「後堅固」の城でもある。城の構造は、内堀・中堀・外堀といった三重の堀をめぐらし、中堀より内側には本丸・二ノ丸・三ノ丸などの曲輪を配している。本丸は、さらに堀によって他の曲輪と独立しており、本丸と二ノ丸をつなぐ

鞘橋を落とすことによって敵の侵入を防ぐ構造となっている。

生駒氏は御家騒動により寛永 17 年（1640）出羽国矢島に転封となり、代わって松平頼重が寛永 19 年（1642）に高松城主となり、東讃岐 12 万石を領した。松平頼重は、城の改修を度々行っているが、寛文 10 年（1670）頃の大規模な改修では、北ノ丸・東ノ丸を造成するとともに、月見櫓・渡櫓などを作り、北に設けた水手御門より直接海から出入りができるようにしている。松平氏は明治 4 年（1871）に廃城になるまで 11 代にわたって 230 年間城主を務めた。その後、天守は老朽化のため明治 17 年（1884）に取り壊され、高松城跡は昭和 29 年（1954）に高松市が取得し、翌 30 年に玉藻公園として市民に開放し、現在に至っている。一方、史跡として昭和 30 年（1955）に国指定を受け、文化財の保護が図られている。

高松城跡の史跡指定地内において近年発掘調査が実施されている。主な調査を年次順に並べると、最も古いのが 1990 年の水手御門、以後 1998 年の三の丸、1999 年の地久櫓台、2005 年の鉄門、2006 ～ 2008 年の天守台、2013 年の桜御門の調査である。最も注目すべきは石垣解体修理に伴って実施された天守台の調査であり、天守の内部構造や石垣の内部構造の一端を解明することができた。

高松城跡外堀内側の史跡指定地外においても近年発掘調査が実施されている。主な遺跡を地区別に列挙すると、以下の通りである。高松城跡の西側に位置する西の丸町には概述した高松城跡（西の丸町地区）Ⅱ、高松城跡（西の丸町地区）Ⅲ、高松城跡（西の丸町地区）Ⅰがあり、寿町１丁目には概述した高松城跡（寿町一丁目）がある。南西の西内町に高松北警察署地区、寿町 2 丁目には高松城跡（寿町二丁目地区）、南側の丸の内には高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）、同（松平大膳家上屋敷跡）、同（丸の内地区）、内町には高松城跡（厩跡）がある。南東の鶴屋町には高松城跡（東町奉行所跡）がある。東側の玉藻町には東ノ丸跡（県民ホール地区）、同（県民小ホール地区）、同（香川県歴史博物館地区）、同（作事丸）、同（大手前地区城内中学校跡地）がある。また、本遺跡の近隣地においても高松城跡（江戸長屋跡）、同（丸の内）の発掘調査が行われている。

第 4 図　高松城跡周辺発掘調査地位置図

1. 東ノ丸跡　2. 水手御門　3. 県民小ホール地区　4. 県立歴史博物館地区　5. 西の丸町地区Ⅱ　6. 西の丸町地区Ⅲ　7. 作事丸　8. 西内町　9. 地久櫓　10. 高松北署地区　11. 内町　12. 三の丸　13. 西の丸地区Ⅰ　14. 地久櫓台　15. 丸の内地区　16. 松平大膳家中屋敷跡　17. 松平大膳家上屋敷跡　18. 三の丸、竜櫓台北側　19. 西の丸町Ｄ地区　20. 丸の内　21. 寿町一丁目（無量壽院跡）　22. 中堀、北浜町　23. 丸の内、都市計画道路高松海岸線街路事業　24. 丸の内、再生水管布設工事　25. 丸の内、個人住宅建設　26. 二の丸、玉藻公園西門料金所整備工事　27. 外堀、西内町、共同住宅建設　28. 丸の内、共同住宅　29. 東町奉行所跡　30. 西の丸町　31. 丸の内　32. 丸の内　33. 鉄門　34. 厩跡　35. 外堀、兵庫町　36. 寿町二丁目地区　37. 天守台　38. 江戸長屋跡Ⅰ　39. 江戸長屋跡Ⅱ　40. 丸の内　41. 丸の内　42. 城内中学校　43. 中堀南岸石垣　44. 本町　**45. 丸の内地区**　46. 浜ノ町遺跡　47. 片原町遺跡　48. 紺屋町遺跡　49. 生駒親正夫妻墓所　50. 扇町一丁目遺跡 51. 亀井戸跡　52. 二番丁小学校遺跡　53. 丸の内

第３章　発掘調査の成果

第１節　調査方法

１　調査区の設定

調査地は高松海岸線街路事業に伴う発掘調査で、既存道路の拡幅であるため、調査区の全長約100ｍに対して幅約10ｍを測る細長い範囲であり、北側には主要な幹線道路の一つである高松海岸線（通称、浜街道）が走り、南側は駐車場や宅地、ビルと接する。調査区の配置は南北方向の道路や調査地内にある駐車場等の関係で、第３図に示すとおり西側から１～５工区と設定した。

調査の工程は、隣接する高松城跡（江戸長屋跡）の調査結果から遺構面が２～３面存在することが判明しているため、発掘調査での重機掘削と遺構調査の効率を考慮して各工区を南北方向に二分割し、北側あるいは南側部分の調査が終了した後にもう一方の調査を実施することとした。

２　調査の方法

調査の順番は工区番号の順でなく、作業効率と調査地内を駐車場に使用している宅地やビルの所有者との調整等を考慮して、まず西端の１工区から調査を開始し、その後は２工区、４工区、５工区を調査し、最後に３工区の調査を実施した。調査の方法は、各工区で重機掘削の後に人力による遺構検出を行い、検出した順にその平面の形態から想定した性格の遺構番号を付け、遺構掘削を実施した。測量は委託業務によって４級基準点及び水準点測量を行い、調査地の脇に３ヵ所の基準点を打設し、遺構の遺存状態が良い遺構面において14回の空中写真測量を行った。空中写真測量ができなかった遺構面に関しては、３ヵ所の基準点をもとに平面図・断面図ともに手測りで記録を作成した。

１工区は北側部分から調査を開始した。まず、重機による第１遺構面直上までの掘削を行った後、人力による遺構掘削を実施した。その後に手測りによる遺構平面図を作成し、写真撮影を行った。第２・３遺構面は同様な工程で調査を行い、第３遺構面において空中写真測量を行った。北側部分の調査終了した後に埋戻して重機の作業スペースを確保してから南側部分の調査を開始した。調査の工程は北側と同様である。

２工区は南側に隣接する駐車場への通路を確保する必要から北側部分のみの調査となった。調査の工程は１工区と同様に重機による掘削の後に人力による遺構掘削を実施した。２工区では１～５面の遺構面があり、第３遺構面と第５遺構面において空中写真測量を行った。

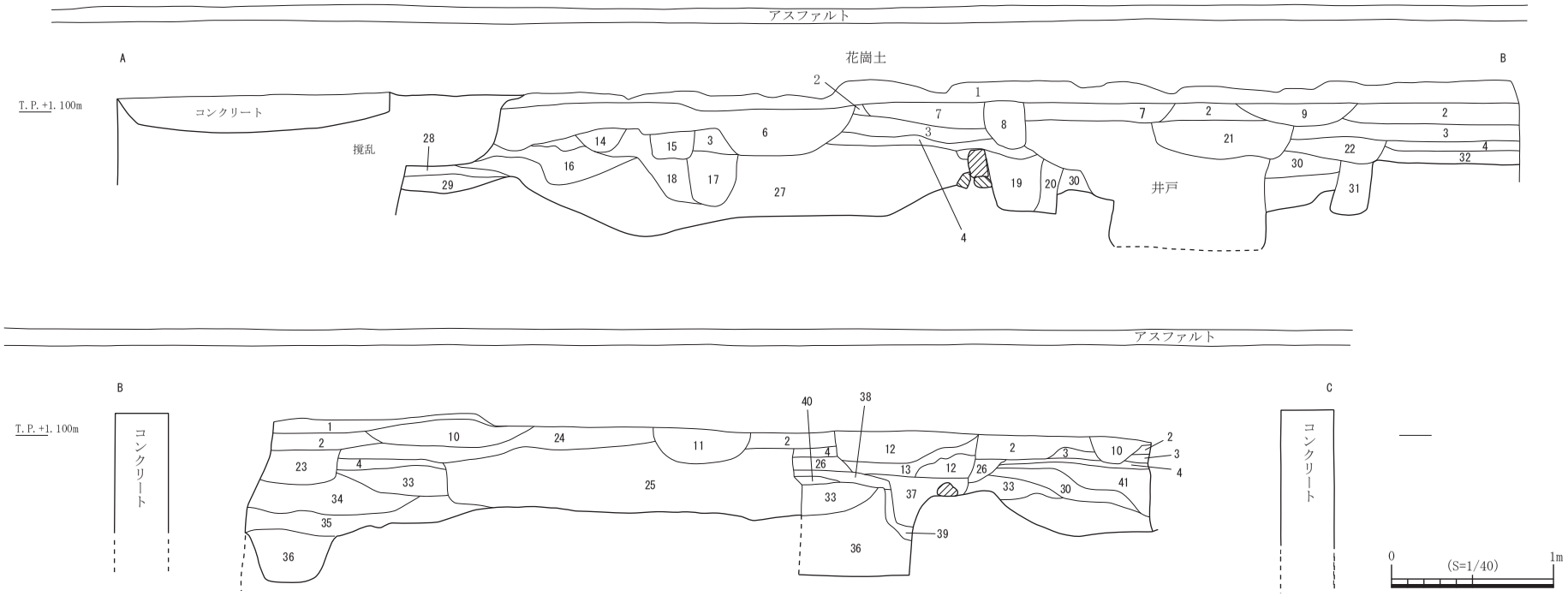
３工区は、南側に隣接するビルへの進入通路を確保する必要と西側にガス管と水道管が埋設されているため非常に狭い調査面積となった。３工区では１～３面の遺構面があり、面ごとに重機掘削後に人力による遺構掘削を行った。第２・３遺構面で空中写真測量を行った。

４工区は南側から調査を開始した。４工区では１～３面の遺構面があり、調査の工程は１工区と同様に面ごとに重機による掘削の後に人力による遺構掘削を実施した。第３遺構面において空中写真測量を行った。南側部分の調査終了した後に埋戻して重機の作業スペースを確保してから北側部分の調査を開始した。調査の工程は南側と同様である。

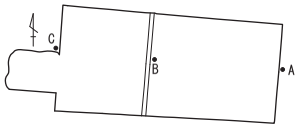
５工区は南側から調査を開始した。５工区では１～４面の遺構面があり、調査の工程は１工区と同様に面ごとに重機による掘削の後に人力による遺構掘削を実施した。第１・２・４遺構面において空中写真測量を行った。南側部分の調査終了した後に埋戻して重機の作業スペースを確保してから北側部分の調査を開始した。調査の工程は南側と同様である。

３　遺構番号

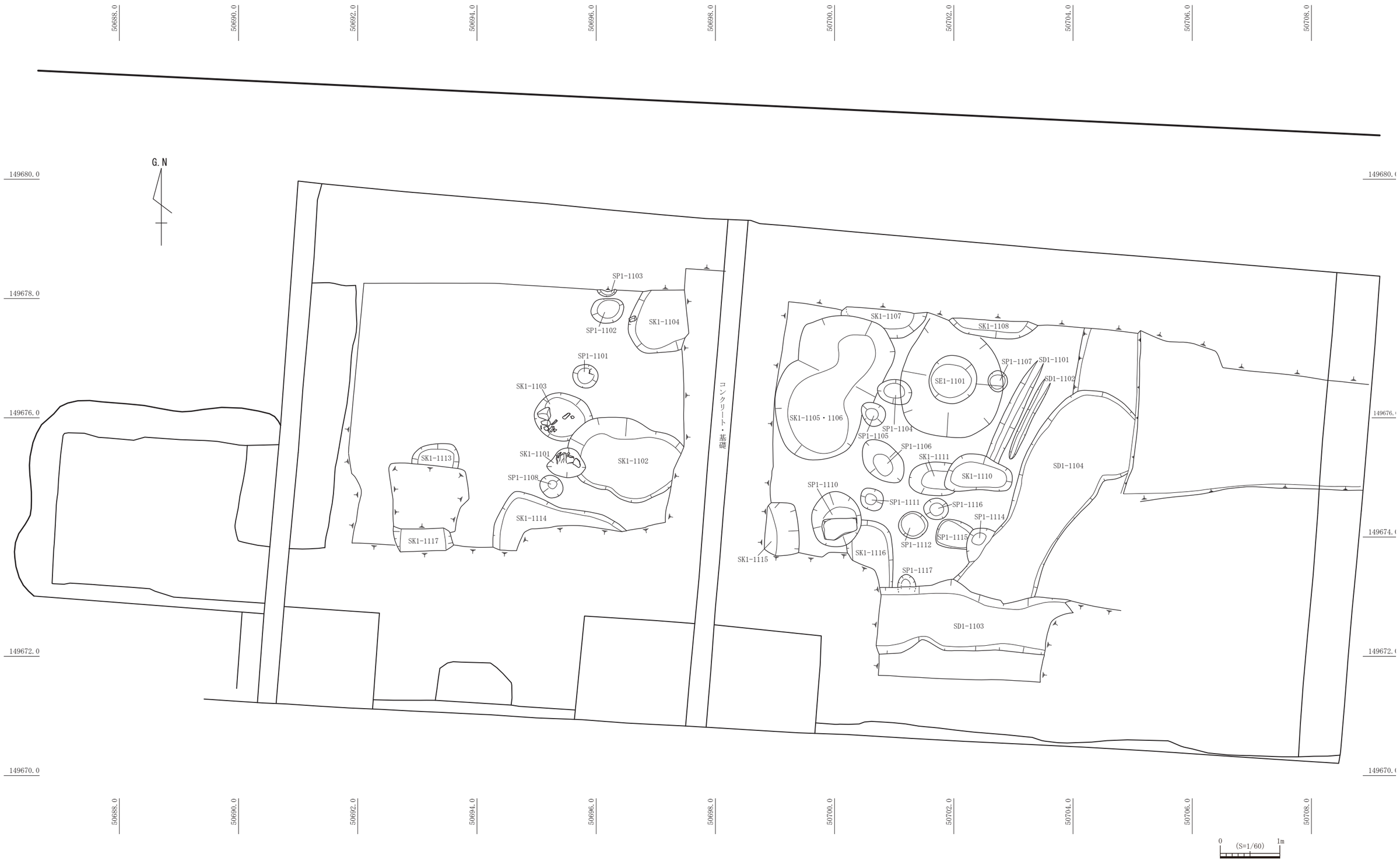
検出した遺構には、工区・遺構面ごとに遺構の種類別に番号を付けた。遺構の種類は平面形態



1. 焼土（高松空襲）
2. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR6/2　焼土・炭化材を若干含む）－第１面
3. にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/3）
4. 淡黄色シルト＋灰黄褐色シルト質細砂（2.5Y8/3+10YR6/2）－第２面
6. 褐灰色シルト質細砂（10YR4/1　瓦を多量に含む）
7. 褐灰色シルト質細砂（10YR4/1）
8. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR6/2　焼土を含む）
9. 灰黄褐色＋淡黄色シルト質細砂（10YR6/2+2.5Y8/3）
10. 淡黄色シルト質細砂（2.5Y8/3）
11. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR6/2+5/2　炭化材を多量に含む）
12. 灰白色シルト＋灰黄色シルト質細砂（7.5Y8/2+2.5Y7/2）
13. 灰黄色シルト質細砂（2.5Y7/2）
14. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR6/2　焼土・炭化材を含む）
15. 褐灰色シルト質細砂（7.5YR6/1）
16. 灰白色シルト質細砂、粗砂（10YR7/1+5Y7/2）
17. にぶい褐色シルト質細砂（7.5YR5/3　焼土・炭化材を含む）
18. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　焼土・炭化材を含む）
19. 黒褐色シルト質細砂（10YR3/1　焼土・炭化材を多量に含む）
20. 淡黄色シルト＋灰黄色シルト質細砂（5Y8/3+2.5Y7/2）
21. にぶい黄褐色シルト質細砂（10YR5/3　焼土を含む）
22. 淡黄色シルト＋灰黄褐色シルト質細砂（2.5Y8/3+10YR6/2）
23. 淡黄色シルト質細砂（2.5Y7/3　焼土・炭化材を含む）
24. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR6/2+2.5Y6/2　焼土・炭化材を含む）
25. 灰白色＋にぶい黄色シルト質細砂（7.5Y8/2+2.5Y6/3　焼土・炭化材を含む）
26. にぶい黄色シルト質細砂（2.5Y6/4　焼土・炭化材を含む）
27. 灰黄褐色＋灰白色シルト質細砂（10YR6/2+7/1）
28. 褐灰色シルト質細砂（10YR5/1）
29. 淡黄色シルト＋灰黄色シルト質細砂（5Y8/3+2.5Y6/2）
30. 灰黄褐色シルト質極細砂（10YR6/2）
31. 暗褐色シルト質極細砂（7.5YR3/2）
32. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　焼土・炭化材を含む）
33. 灰白色細～粗砂（5Y8/2）
34. 灰黄褐色＋灰白色シルト質細砂（10YR6/2+2.5Y8/2　炭化材を含む）
35. 褐灰色シルト質細砂（10YR5/1）
36. 灰白色＋褐灰色シルト質細砂（2.5Y8/2+10YR5/1）
37. 浅黄色シルト質細砂＋灰白色シルト（2.5Y7/3+5Y8/2）
38. 灰白色シルト（7.5Y8/1）
39. 灰白色シルト（5Y8/2）
40. にぶい黄色シルト細砂（2.5Y6/3）
41. 焼土



第５図　１工区土層図



第６図　　１工区第１遺構面遺構配置図

から想定した性格を判断し、遺構番号の上に遺構の略号を冠した。遺構番号は工区・遺構面ごとに検出した順に付けた。数字は以下のことを表記する。略号に続く１桁の数字は工区を示し、次の４桁の数字は４桁目が遺構面を表し、残り３桁の数字は発掘調査時に付けた遺構番号を表し、頭に遺構面の数字を付けた。例えば、１工区の第１遺構面において最初に検出された溝ＳＤ 101 は「ＳＤ１－ 1101」となる。「ＳＰ４－ 3305」は４工区の第３遺構面の遺構番号 305 の柱穴であることを示し、「ＳＰ４－ 3401」は４工区の第３遺構面の遺構番号 401 の柱穴であることを示している。

第２節　１工区の遺構と遺物

１　調査の概要

１工区は調査対象範囲の西端に位置する調査区であり、対象面積は 318 ㎡であるが、南側に隣接する駐輪場への通路と北側と西側に接する歩道と東側の道路の保護のため境界から約 0.5 ～ 1.0 m内側を残して掘削した。北側ではコンクリート基礎とそれに伴う攪乱があるため、境界から約 1.5 ～ 2.3 m内側から掘削を行った。保護部分とコンクリート基礎があるため、実質的に調査できた範囲は非常に狭くなり、その面積は約 174 ㎡となった。

調査に先立ちアスファルトと埋め立てた花崗土を撤去すると、調査区の北側と東側、南西隅にコンクリート基礎が確認され、さらに調査区内においても南北方向のコンクリート基礎が２本確認された。これらのコンクリート基礎は第３遺構面より深くまで達しており、その周囲は約 1.0 mの幅で攪乱が及んでおり、遺構の検出は不可能であった。このため調査が可能となったのはさらに狭い範囲である。また、北東側では攪乱が第３遺構面まで達していたので調査は実施しなかった。第１・２遺構面では調査区東側に大きな攪乱があるため遺構の検出は不可能であった。

２　基本土層（第５図）

調査区は四方をコンクリート基礎と攪乱に囲まれ、各壁面は土層観察には適さないので、コンクリート基礎の少ない調査区中央部において東西方向の土層を観察した。壁面には複数の遺構や整地層が重複しており、水平堆積を呈した範囲が非常に少ないが、その特徴からＡ～Ｇ層に分類し、基本土層とした。

Ａ層:表土に相当する埋め立てである。表面はアスファルト舗装であり、その下は花崗土である。

Ｂ層：第２次世界大戦の高松空襲による焦土・焼土層で、標高 1.7 m前後に堆積する。

Ｃ層：灰黄褐色シルト質細砂であり、焼土粒･炭化材を含み、その上面において遺構を検出した。この面が第１遺構面であり、標高は 1.55 m前後である。

Ｄ層：にぶい黄橙色シルト質細砂であり、上面の標高は 1.4 mである。

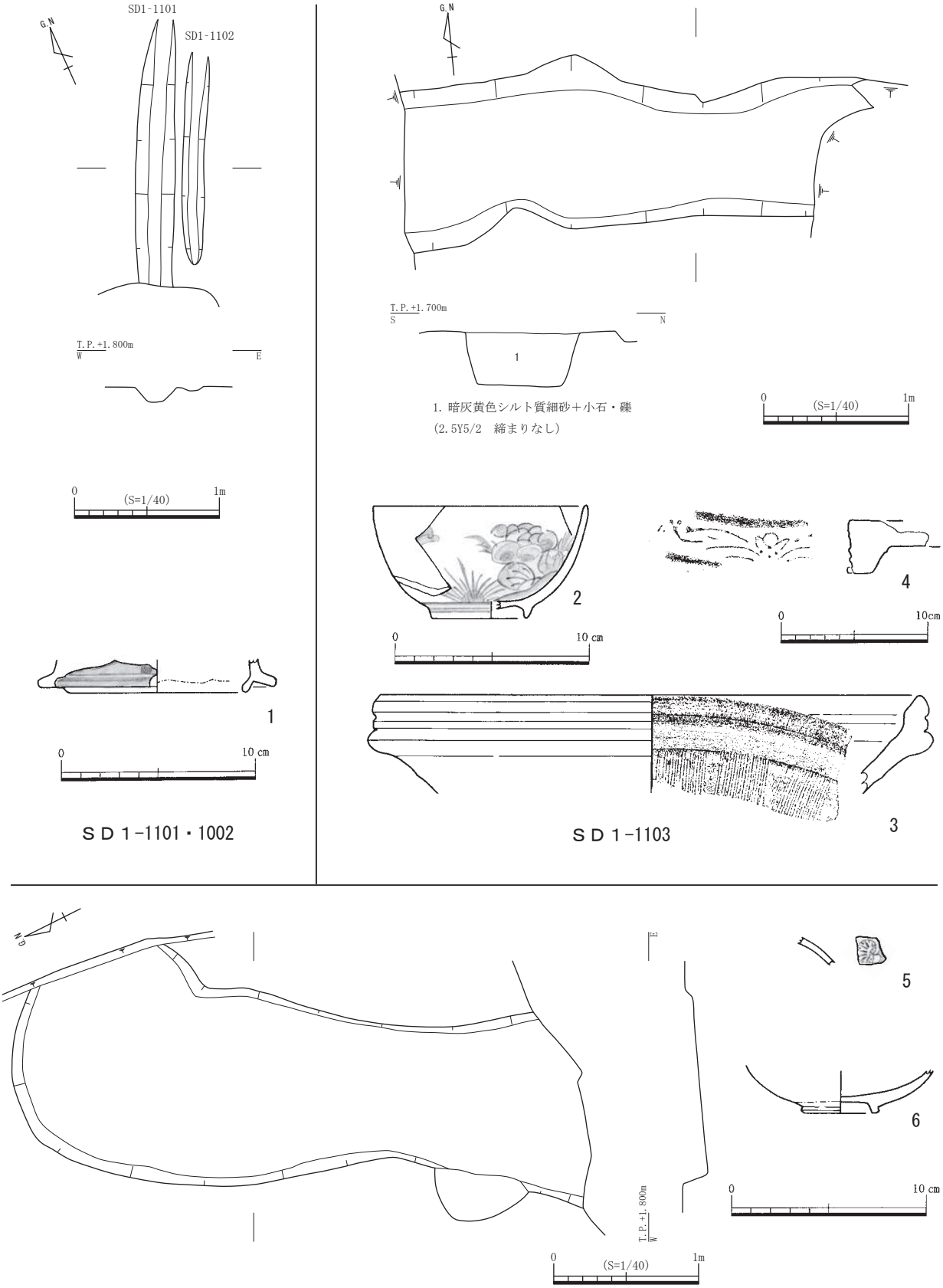
Ｅ層：淡黄色砂質シルトと灰黄褐色シルト質細砂であり、その上面において遺構を検出した。この面が第２遺構面であり、標高は 1.3 m前後である。

Ｆ層：灰黄褐色シルト質細砂であり、焼土粒・炭化材を含む。上面の標高は 1.25 mである。

Ｇ層：黄灰色砂質シルトを基調とする土層であり、周辺の遺跡において中・近世の基盤層と考えられている層に相当する。その上面において遺構を検出した。この面が第３遺構面であり、標高は 1.2 m前後である。第３遺構面の調査後に、可能な限りＧ層より下層の断ち割り調査を行ったが、遺構は検出されなかった。Ｇ層以下の詳細な土層観察はできなかったが、灰白色細砂～粗砂が厚く堆積し、標高 0.2 m前後で湧水を伴う砂礫層となる。

３　遺構・遺物

（１）第１遺構面（第６図）



第７図　ＳＤ１-1101 ～ 1104 平・断面図、出土遺物実測図

溝

ＳＤ１－1101（第７図）

調査区北東側において検出した溝である。検出面の標高は1.55ｍである。検出した長さは1.85ｍ、幅0.27ｍ、深さ0.10ｍを測り、溝の方位はＮ－25°－Ｅである。ＳＫ１－1110に切られている。埋土は灰黄色シルト質細砂の単一層である。出土遺物は陶磁器碗、陶器甕等があるが、図化できるものはない。所属時期は遺構面より19世紀後半と考えられる。

ＳＤ１－1102（第７図）

調査区北東側において検出した溝であり、ＳＤ１－1101の東側にほぼ平行して延びている。検出面の標高は1.55ｍである。検出した長さは1.44ｍ、幅0.15ｍ、深さ0.03ｍを測り、溝の方位はＮ－25°－Ｅである。埋土は灰黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土土器より19世紀と考えられる。

出土遺物は図化した以外に軟質施釉陶器蓋、須恵器甕、弥生土器甕がある。１は肥前系磁器蓋である。

ＳＤ１－1103（第７図）

調査区中央において検出した溝であり、ＳＫ１－1112・1116・ＳＰ１－1117を切る。検出面の標高は1.55ｍ前後である。溝の東側と西側はコンクリート基礎により消滅しており、検出できた長さは3.25ｍ、幅0.84～1.10ｍ、深さ0.38ｍを測る。溝の方位はＮ－90°－Ｅである。断面はＵ字形を呈し、底面は平坦である。埋土は小石・石を含む暗灰黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土土器より18世紀第４四半期以降と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器皿、陶器、須恵質土器甕、弥生土器甕等がある。２は肥前系磁器碗であり、外面に草花文が描かれている。３は備前焼擂鉢である。４は軒平瓦で、陽刻線で輪郭を表現した三葉を中心飾りとし、唐草文は長く延びて１転させ、その下側に２条並行する波形の子葉を伴う。佐藤竜馬氏の分類（佐藤2002以下､「佐藤分類」とする）のＶ類11である。

ＳＤ１－1104（第７図）

調査区東側において検出した溝であり、北側では形状から土坑と判断しＳＫ１－1112として調査したが、南側の調査により溝であることが判明したので溝として報告する。検出面の標高は1.55ｍ前後である。溝の南端はＳＤ１－1103に切られ､検出した長さは3.94ｍ､幅0.92～1.37ｍ、深さ0.17ｍを測る。溝の方位はＮ－10°－Ｅである。埋土は３層であり、最上の浅黄色シルト質細砂は多量の焼土を含む。所属時期は遺構面及び出土土器より18世紀後半以降と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器皿、同足釜、陶磁器碗、同瓶、同擂鉢、須恵器、弥生土器甕、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦等がある。５は理兵衛焼の陶器蓋で、暗赤褐色の三葉葵文が描かれている。６は理兵衛焼の陶器碗である。

土坑

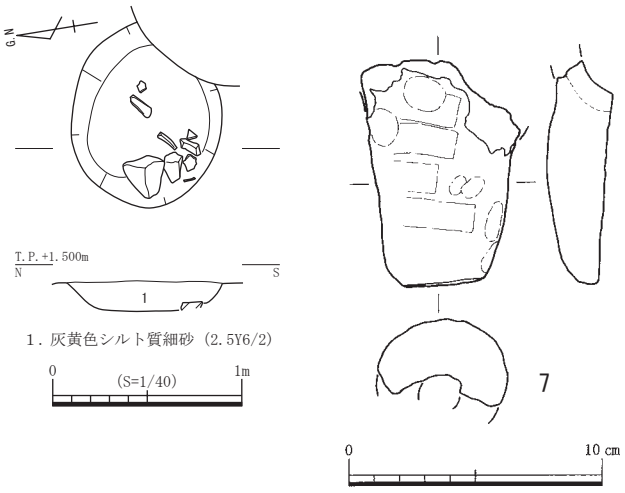
ＳＫ１－1103（第８図）

調査区中央やや西寄りにおいて検出した土坑であり、ＳＫ１－1102に切られている。検出面の標高は1.48ｍ前後である。平面形は円形を呈し、直径0.80×0.98ｍ、深さ0.16ｍを測る。埋土は灰黄色シルト質細砂の単一層である。西寄りの底面に径0.08～0.21ｍの石を検出した。所属時期は遺構面及び出土土器より18世紀後半以降と考えられる。

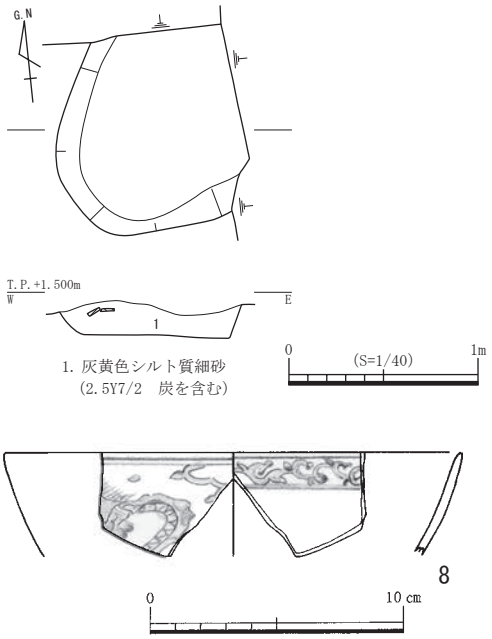
出土遺物は図化した以外に肥前系磁器碗等がある。７は羽口の一部であり、表面は黒く煤化し、断面には接合痕が明瞭に残る。

ＳＫ１－1104（第８図）

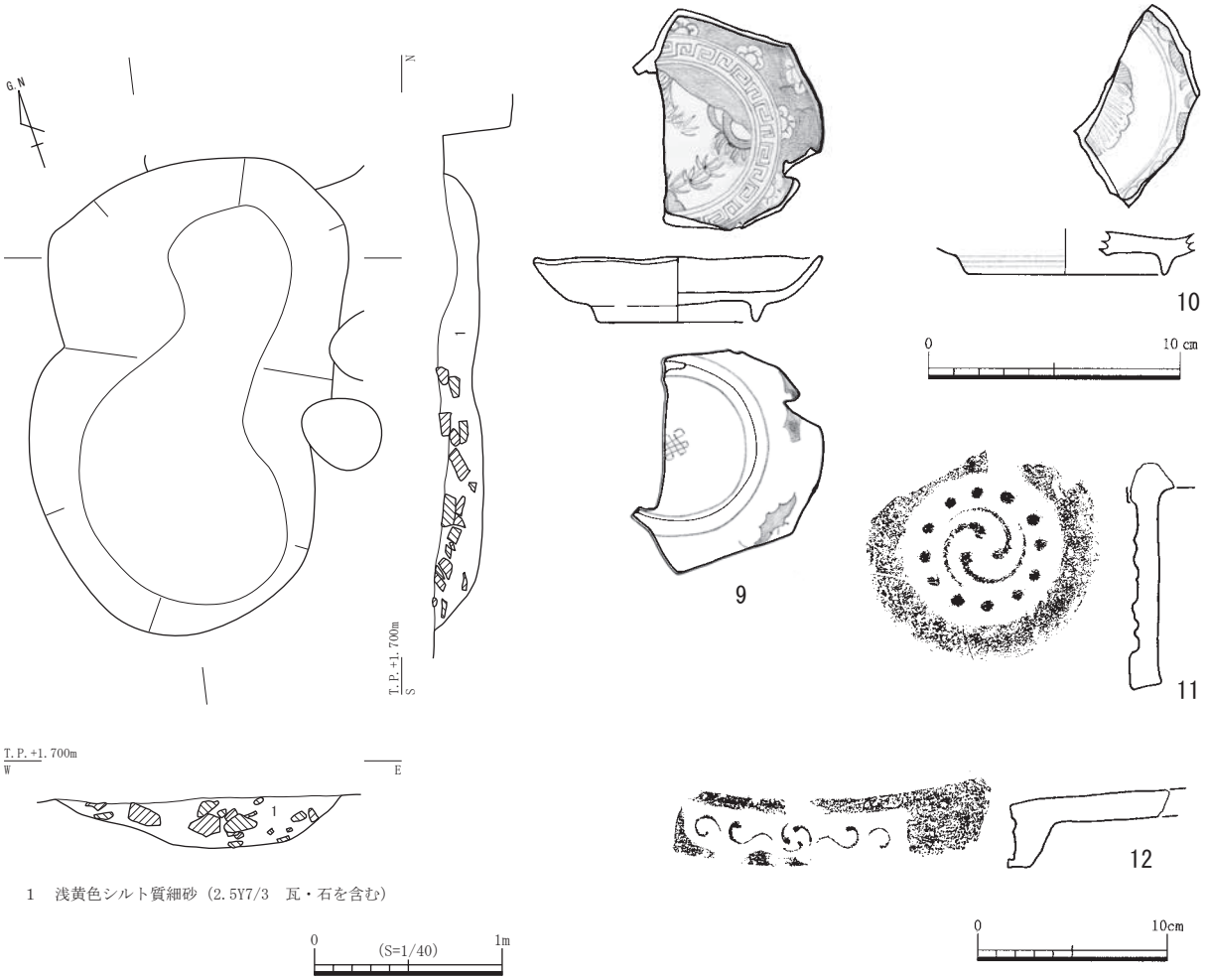
調査区中央やや西寄りにおいて検出した土坑であり、北側・東側はコンクリート基礎により消滅している。検出面の標高は1.45ｍである。平面形は不整な円形を呈し､残存する直径は1.05ｍ、深さ0.20ｍを測る。埋土は炭を含む灰黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は出土土器



ＳＫ１-1103



ＳＫ１-1104



ＳＫ１-1105

第８図　ＳＫ１-1103 ～ 1105 平・断面図、出土遺物実測図

より 18 世紀中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、同鍋、陶磁器碗、軒丸瓦、丸瓦、平瓦、釘等がある。８は肥前系磁器碗で、外面に山水、口縁部内面に唐草が描かれている。

ＳＫ１－1105（第８図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＫ１－1107 を切っており、ＳＰ１－1104・1105 に切られている。検出面の標高は 1.50 m前後である。遺構検出時においては二つの土坑が合体したものと考えて別々の遺構番号を付けたが、調査で同一の遺構と判明した。平面形は中央がやや抉れる不整な楕円形を呈し、南北方向の長軸は 2.55 m、深さ 0.20 mを測る。埋土は瓦・石を含む浅黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は出土土器より 18 世紀後半～ 19 世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶磁器碗、軟質施釉陶器、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、釘、漆喰等がある。９は肥前系磁器皿で、外面に蝙蝠、内面に梅花、見込みに草花文･雷文が描かれている。高台内に変字の銘款が認められる。10 は肥前系磁器皿で、蛇の目凹形高台であり、見込みに松文が描かれている。11 は佐藤分類のⅣ類 110 に類似する軒丸瓦で、瓦当裏面の調整は指オサエ後に弱いナデが施されている。12 は巴文を中心飾りとする軒平瓦で、佐藤分類のＸⅨ類 62 である。

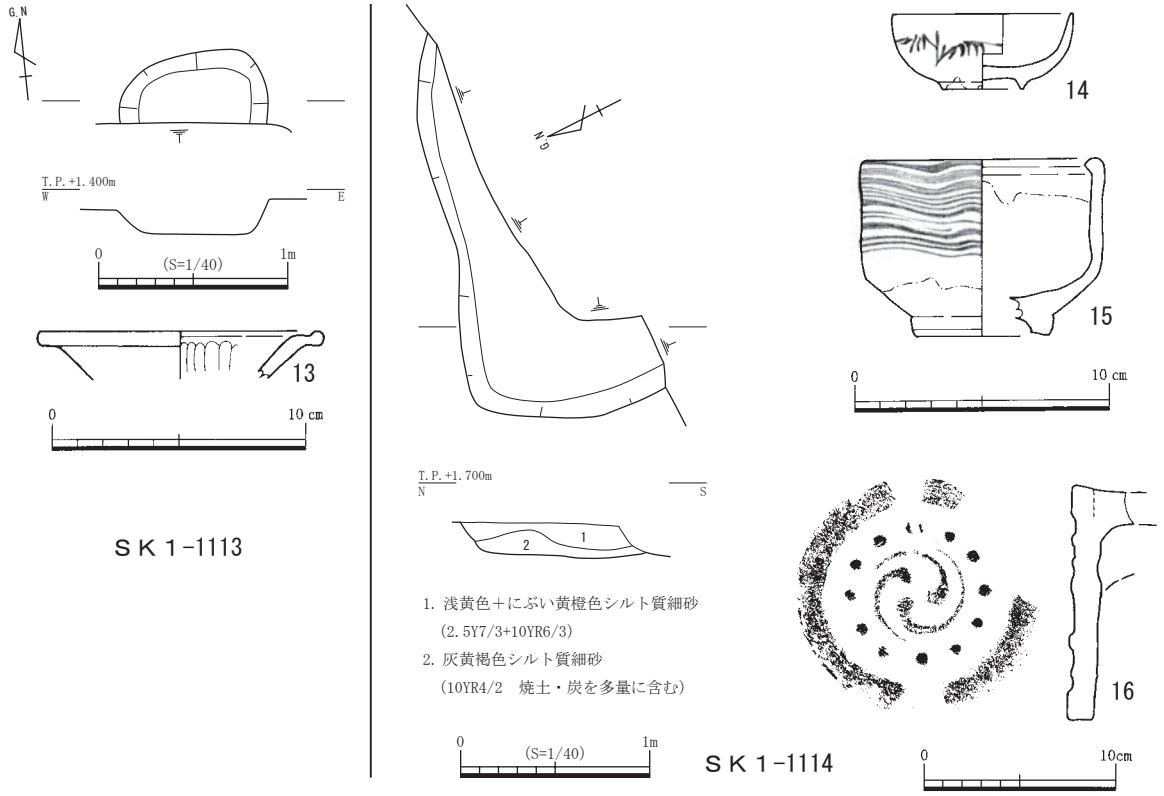
ＳＫ１－1113（第９図）

調査区西側において検出した土坑であり、南側は攪乱により消滅している。検出面の標高は 1.52 mである。平面形は円形と推測され、直径は 0.69 m、深さ 0.38 mを測る。埋土は灰白色シルト＋灰黄色シルト質細砂の単一層である。出土遺物は 17 世紀中葉であるが、遺構面より 18 世紀後半以降と考えられる。

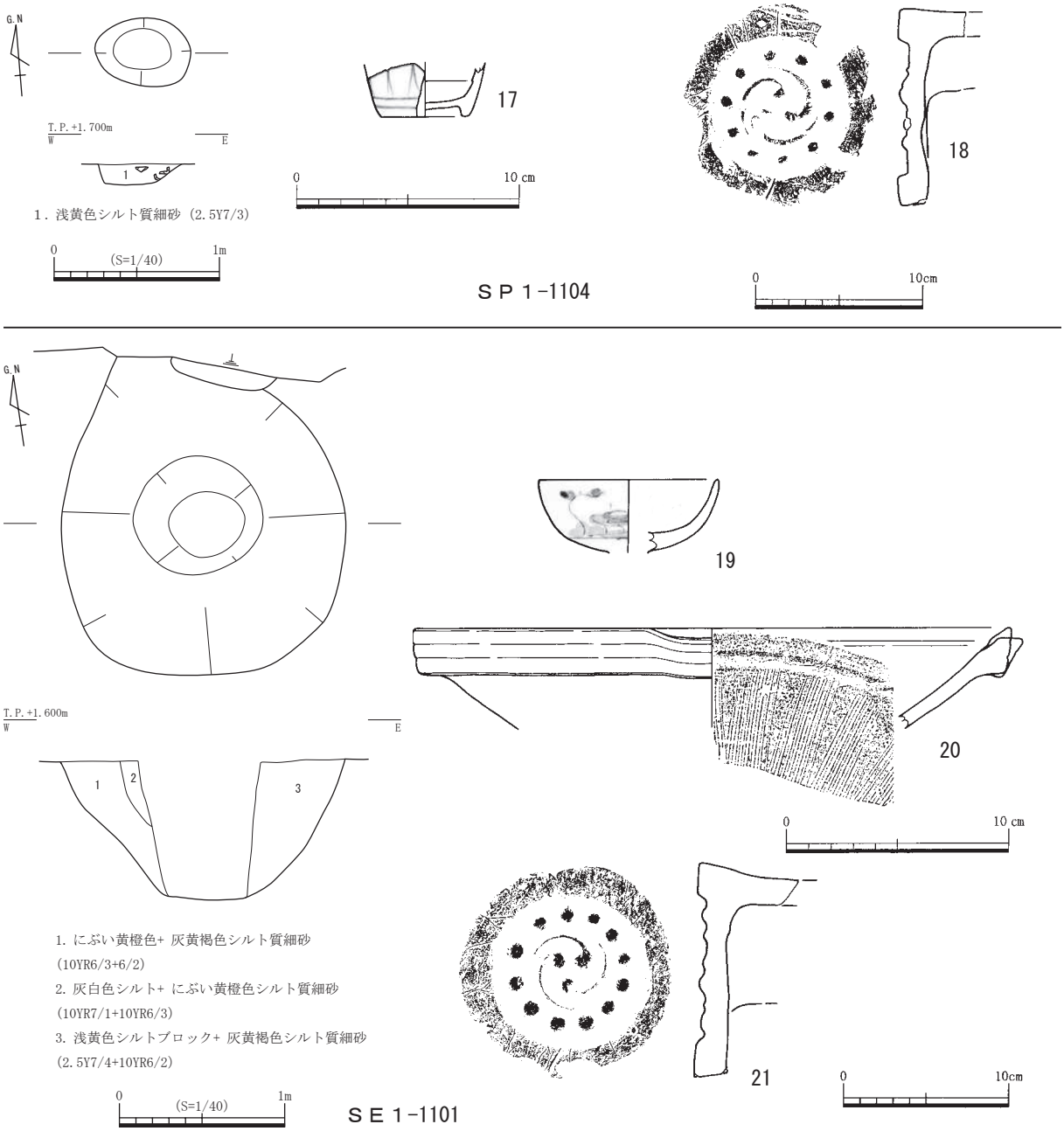
出土遺物は図化した以外に陶器鉢、須恵質土器杯がある。13 は瀬戸・美濃系陶器の折縁ソギ皿である。

ＳＫ１－1114（第９図）

調査区中央西寄りにおいて検出した土坑であり、南側は攪乱により消滅している。検出面の標高は 1.50 mである。平面形は方形と推測され、一辺は 2.05 m以上、深さ 0.18 mを測る。埋土



第９図　ＳＫ１-1113・1114 平・断面図、出土遺物実測図



第 10 図　ＳＰ１-1104・ＳＥ１-1101 平・断面図、出土遺物実測図

は２層に分かれ、下層には焼土・炭を多量に含む。所属時期は出土土器より 18 世紀中葉と考えられる。

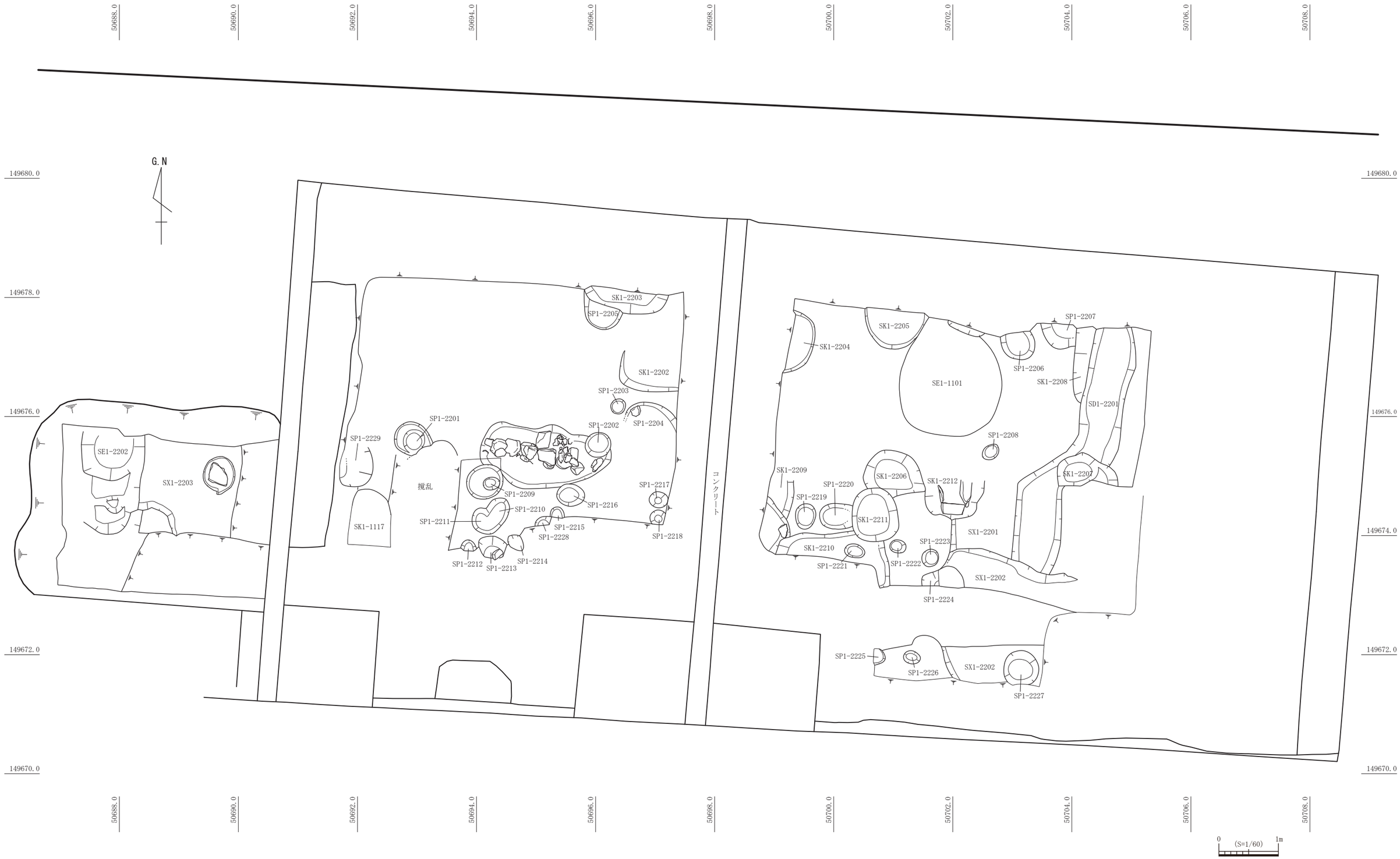
出土遺物は図化した以外に陶磁器碗、同鉢、土師質土器小皿、同焙烙、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、釘等がある。14 は肥前系磁器小杯で、外面に笹文が描かれている。15 は肥前系陶器碗で、外面は白泥による刷毛目が施されている。16 は佐藤分類のⅣ類 53 の軒丸瓦で、瓦当裏面は指オサエ後にナデが施されている。

柱穴

ＳＰ１－ 1104（第 10 図）

調査区中央において検出した柱穴で、検出面の標高は 1.52 ｍである。平面形は楕円形で、直径 0.40 × 0.58 ｍ、深さ 0.10 ｍを測る。所属時期は出土土器より 18 世紀末と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器鉢、カマドがある。17 は肥前系磁器中瓶で、外面に松葉状の文様が描かれている。18 は佐藤分類のⅣ類 174 に類似する軒丸瓦であり、瓦当裏面の調整は指オサエ後に顎周辺にナデが施されている。



第 11 図　１工区第２遺構面遺構配置図

井戸

ＳＥ１－1101（第10図）

調査区中央において検出した井戸である。第１面では円形の平面形を呈し、直径0.80ｍ、深さ0.10ｍの規模の土坑（ＳＫ１－1109）として認識したが、約0.10ｍ下の第２面において同一位置でほぼ垂直に掘り込まれた落ち込みを検出し、さらにその周囲に掘り方も確認したことにより、本遺構は第１面の井戸であると判断した。井戸の平面形は円形で、その規模は直径0.80ｍ、深さ0.97ｍを測り、ほぼ垂直に掘り込まれている。埋土は黄灰色細～粗砂であり、石や瓦、陶磁器が含まれる。掘り方は上端の直径1.95×1.73ｍを測り、非常に緩やかな傾斜で掘り込まれている。所属時期は出土土器より18世紀前半以降と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶磁器碗、土師質土器小皿、同羽釜、弥生土器、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、鉄、サザエ等がある。19は肥前系磁器小碗で、外面に草花文を描いている。20は須恵質土器擂鉢で、片口を有する。卸目は７本１単位で放射状に施されている。21は軒丸瓦で、佐藤分類のⅣ類60に類似する。瓦当裏面は弱いナデが施され、凹面にはコビキＢが残る。

（２）第２遺構面（第11図）

溝

ＳＤ１－2201（第12・13図）

調査区東側において検出した溝であり、北端は攪乱により削平され、中央はＳＫ１－2207に切られ、南端はＳＸ１－2202に切られている。検出面の標高は1.38ｍ前後である。検出した長さは4.25ｍ、幅0.77ｍ、深さ0.10～0.20ｍを測る。溝の方位はＮ－20°－Ｅである。埋土は褐灰色シルト質細砂の単一層であり、焼土と炭を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

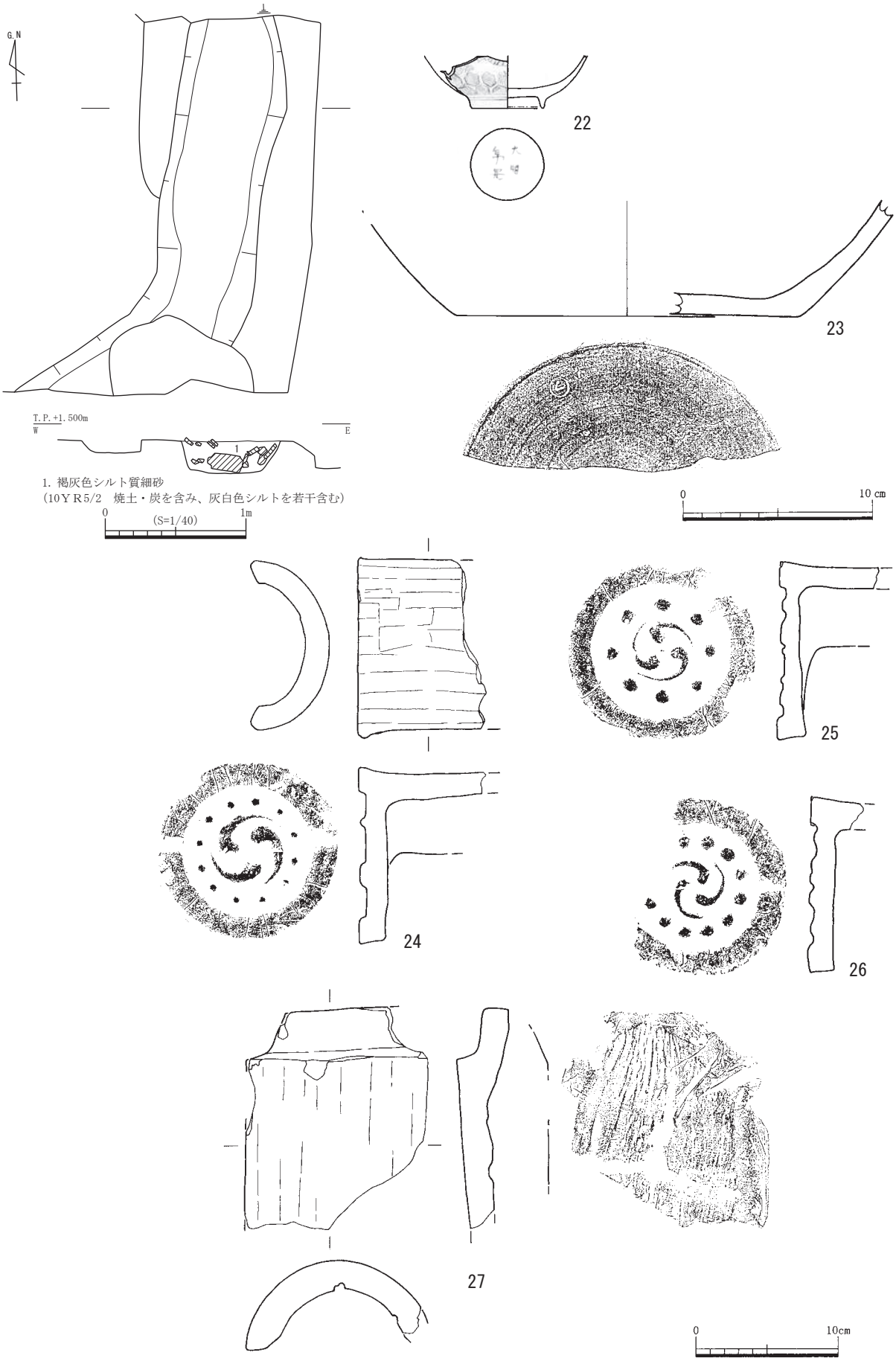
出土遺物は図化した以外に陶磁器碗、備前焼擂鉢、土師質土器小皿、同足釜、軒丸瓦、平瓦、弥生土器、鉄、サザエ、フジツボ等がある。22は肥前系磁器碗で、高台内に「大明年製」の銘款があり、外面の文様は亀甲文が描かれている。23は陶器大甕で、底部に「〇」の刻印が押されている。24は佐藤分類のⅣ類201の軒丸瓦で、瓦当裏面と凹面の調整はナデが施されている。25は佐藤分類のⅣ類98の軒丸瓦で、瓦当裏面の調整は指オサエ後に弱いナデ周縁にナデが施されている。26は佐藤分類のⅣ類247の軒丸瓦で、瓦当裏面の調整は指オサエ後に周縁にナデが施されている。27・28は丸瓦で、27の凹面には布目・抜取紐痕が残り、28の凹面には布目・コビキＢが残る。

土坑

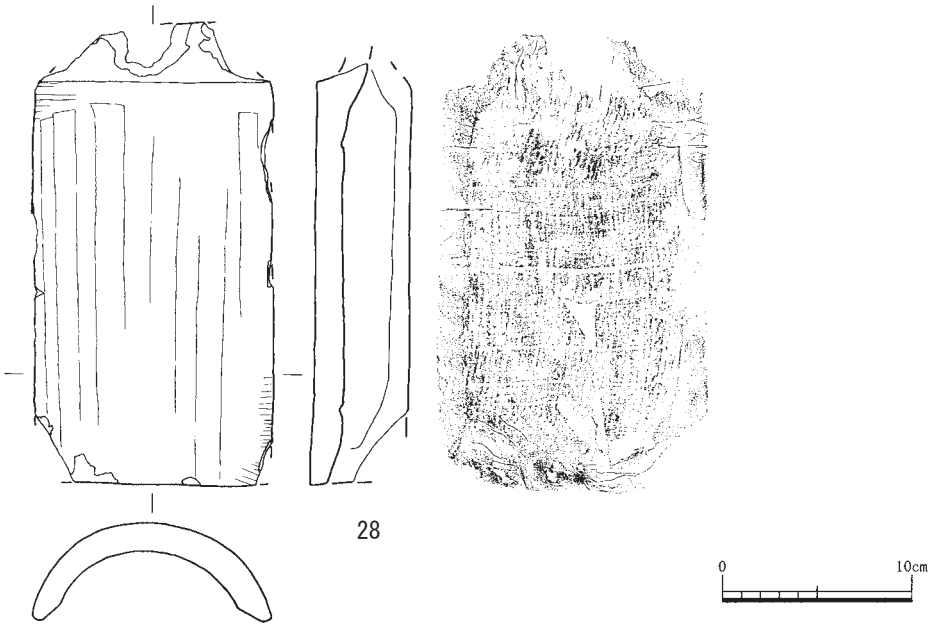
ＳＫ１－2212（第14図）

調査区中央東寄りにおいて検出した土坑であり、北側は検出時に遺構と認識できなかった。検出面の標高は1.40ｍである。平面形は不整な隅丸方形を呈し、一辺0.98ｍを測る。土坑の中央には３個の石を「コ」の字状に組まれていた。石の形状は方形ないし三角形を呈し、石の大きさは一辺0.30～0.63ｍ、厚さ0.06～0.20ｍの板状である。石組みの規模は、内側の一辺0.30ｍ、深さ0.40ｍを測り、焼土と炭を多量に含む黒褐色シルト質細砂が充填されていた。石組み外側の掘り方と上部の埋土は淡黄色シルトである。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

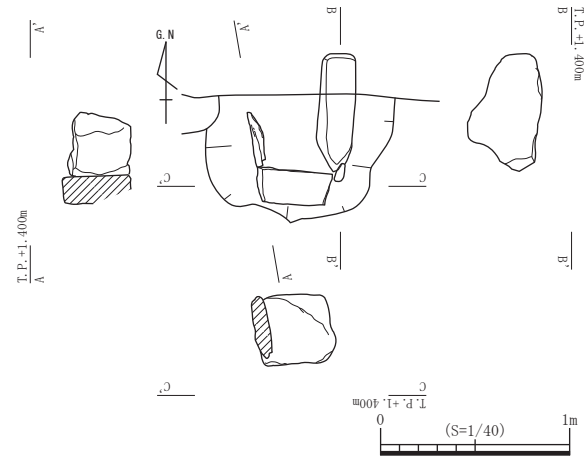
出土遺物は図化した以外に磁器碗、黒色土器椀、土師質土器足釜、軒丸瓦等が見られる。29は肥前系磁器碗で、高台は三角形の断面である。高台内に「宣徳年製」の銘款が見られる。30は軒丸瓦で佐藤分類のⅣ類47に類似する。瓦当裏面は弱いナデが施され、瓦当と丸瓦との接合方法として瓦当裏面にキザミを付けている。

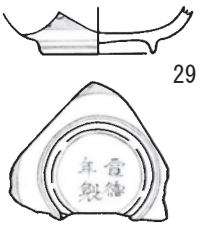


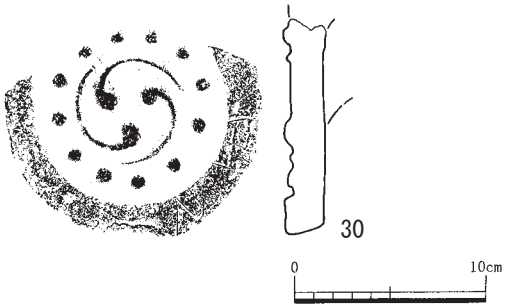
第12図　ＳＤ１-2201平・断面図、出土遺物実測図（１）



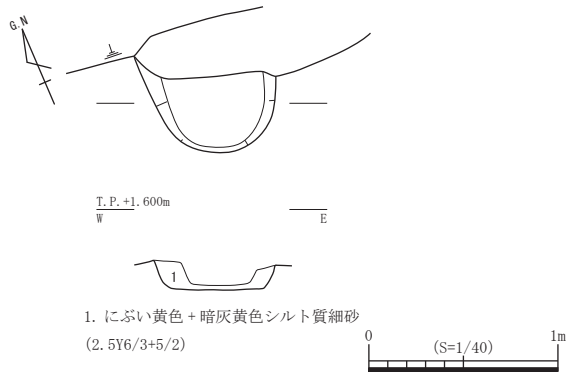
第13図　ＳＤ１-2201出土遺物実測図（２）

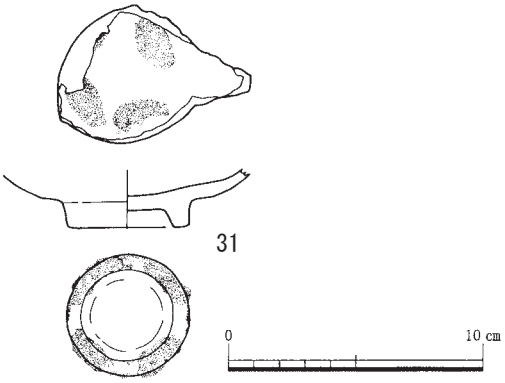




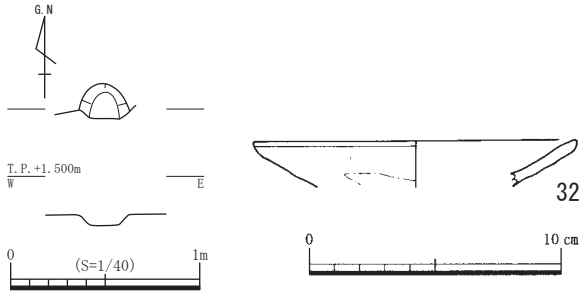


ＳＫ１-2212





ＳＰ１-2205



ＳＰ１-2212

第14図　ＳＫ１-2212・ＳＰ１-2205・2212平・断・立面図、出土遺物実測図

柱穴

ＳＰ１－2205（第14図）

調査区中央北側において検出した柱穴であり、ＳＫ１－2203に切られている。検出面の標高は1.34ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.63ｍ、深さ0.16ｍを測る。埋土はにぶい黄色＋灰黄色シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀中頃と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶器甕がある。31は陶器皿で、高台は厚く台形の断面である。見込みと高台畳付けに砂目が４カ所残る。

ＳＰ１－2212（第14図）

調査区中央やや西寄りにおいて検出した柱穴で、南半分は攪乱により消滅している。検出面の標高は1.30ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.26ｍ、深さ0.06ｍを測る。埋土は焼土を若干含むにぶい黄橙色シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀中頃と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶器碗、備前焼甕、土師質土器小皿がある。32は肥前系陶器皿で体部はほぼ直線的に延びている。

井戸

ＳＥ１－2202（第15図）

調査区西端において検出した遺構であり、第２遺構面では溝（調査時ではＳＤ１－2202）として認識し調査したが、調査区北壁の土層観察では溝状の落ち込みはなく、標高1.30ｍから掘り込まれた大規模な遺構が確認され、さらに第３面において井側等の構造物はないが素掘りの井戸（調査時ではＳＥ１－3302としていた）であることが判明したため、本遺構を第２面の井戸として報告する。北側と西側は調査区外となっており、井戸の平面形は不明である。検出した規模は径1.64ｍ、深さ1.20ｍを測る。ＳＸ１－2203を切る東側掘り込みはほぼ垂直であるが、南側掘り込みは非常に緩やかな傾斜であり２カ所の平坦面を有する。最深部の平面は円形を呈し、直径は0.65ｍを測り、その標高は0.10ｍである。埋土は６層に分層でき、焼土粒と炭化材を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、同甕、備前焼甕、同擂鉢、土師質土器小皿、同甕、瓦器椀、須恵器甕、弥生土器甕、丸瓦、釘、骨等がある。33・34は肥前系陶器皿で、端反り皿の器形である。35は輸入陶器鉢で、内外面に染付が描かれている。36は肥前系陶器鉢で、高台は四角形の断面で、見込みの２カ所の僅かな窪みに金粉状のものが付着している。37は堺焼陶器擂鉢で、僅かな高台が付き、畳付には回転糸切り痕が残る。38は土師質土器杯で、底部は切り離し後に板目が施されている。39は玉縁式丸瓦で、凹面は布目が残り、側縁にはヘラ切りが施されている。

性格不明遺構

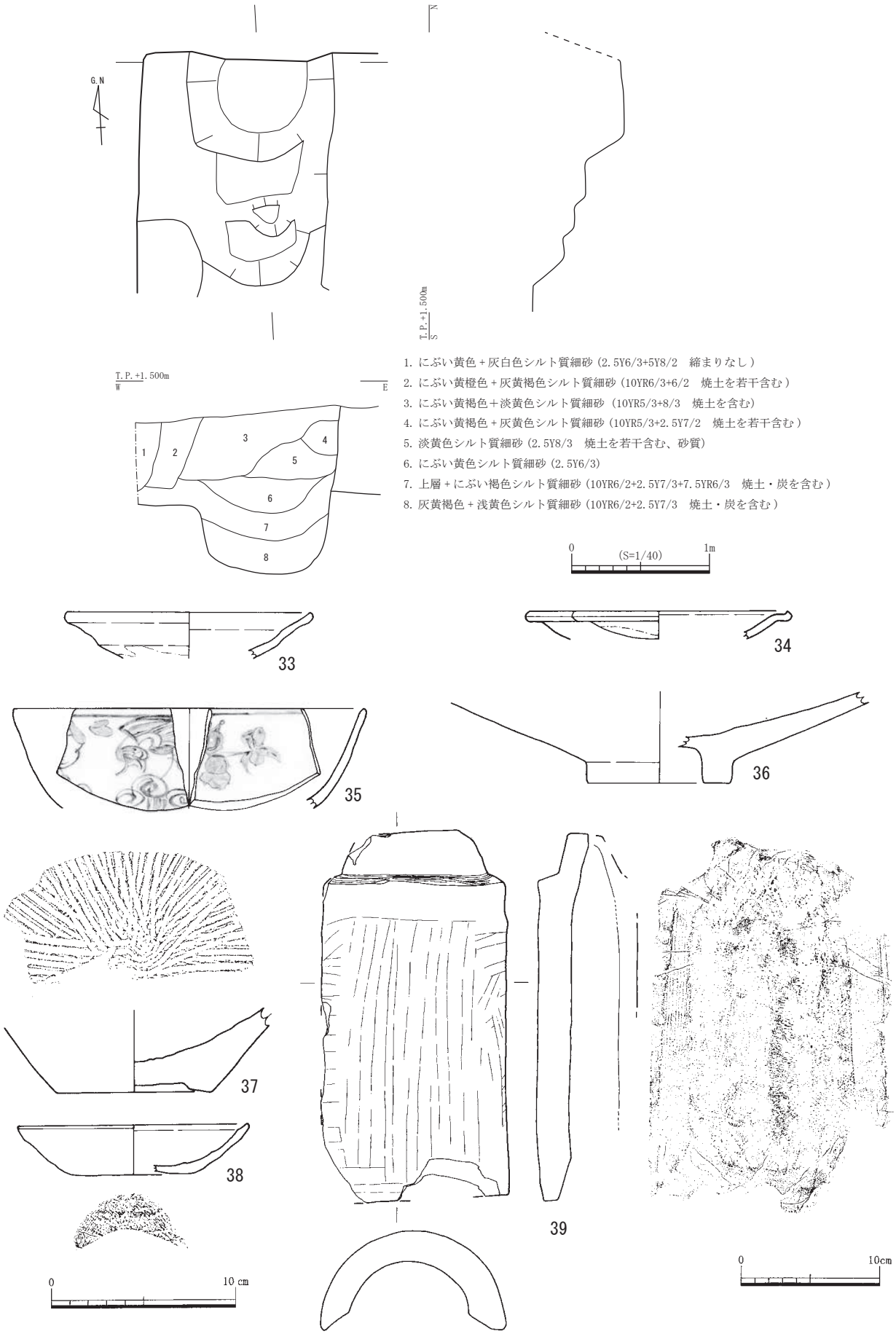
ＳＸ１－2202（第16図）

調査区南東側において検出した落ち込みで、中央部をＳＤ１－1103により切断され、ＳＰ１－2224に切られ、ＳＤ１－2201・ＳＰ１－2227・ＳＸ１－2201を切っている。検出面の標高は1.40ｍ前後である。平面形は不明であるが、北西隅がやや角張る。規模は南北・東西共に2.25ｍ以上、深さ0.20～0.30ｍを測る。埋土全体に焼土と炭が含まれる。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

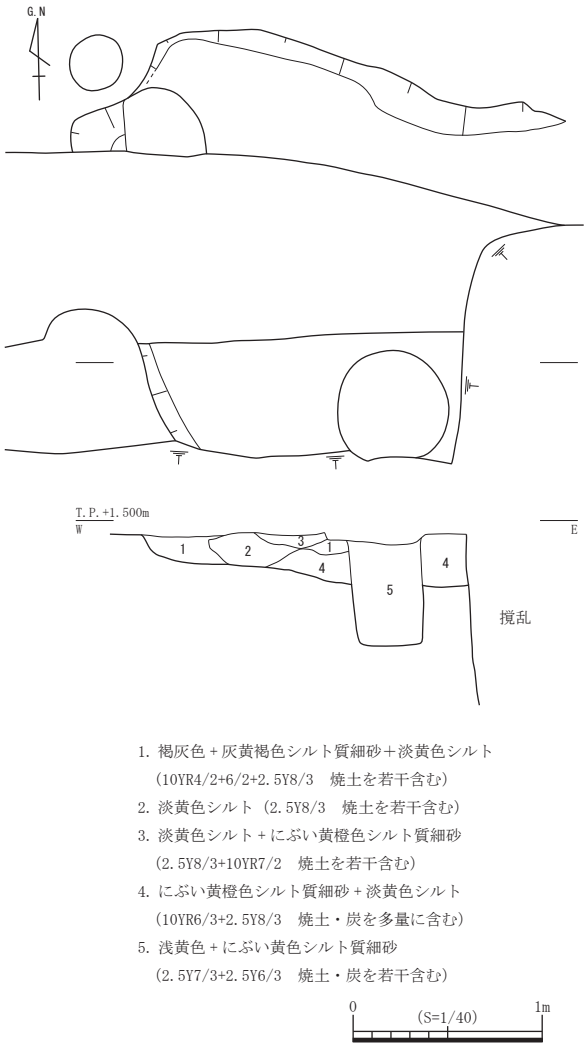
出土遺物は図化した以外に陶器碗、土師質土器足釜、軒丸瓦等がある。40は肥前系陶器蓋で摘み部が欠損している。外面に花文が描かれ、内面は無釉である。41は寛永通宝である。

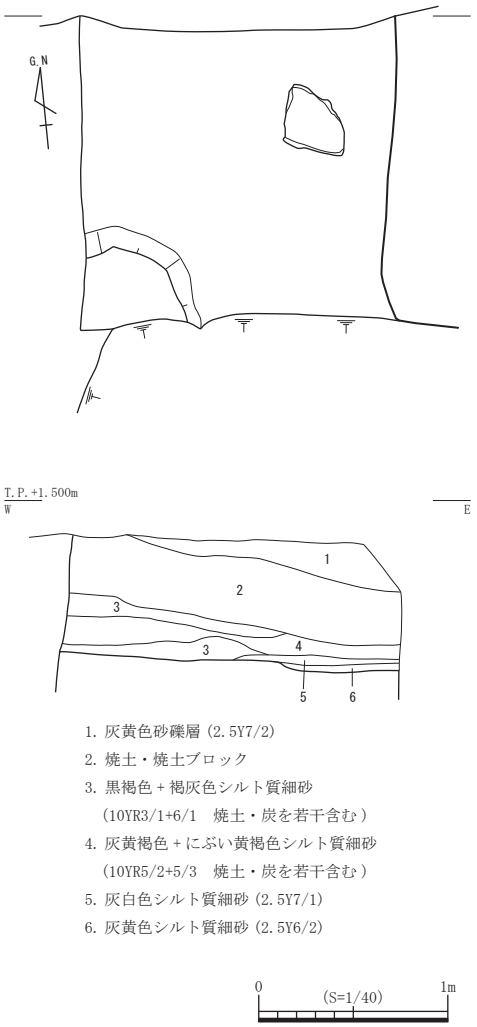
ＳＸ１－2203（第16図）

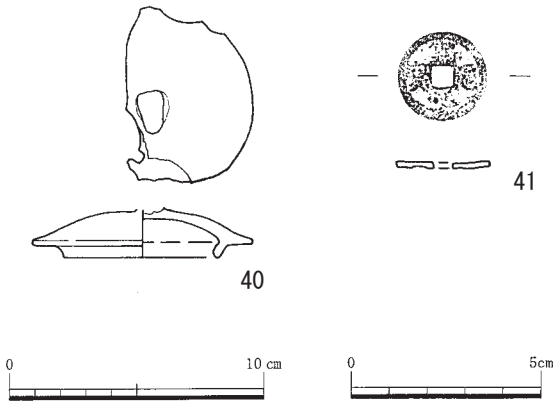
調査区西端において検出した遺構であり、第２面では深さ0.20ｍの遺構であるが、調査区北



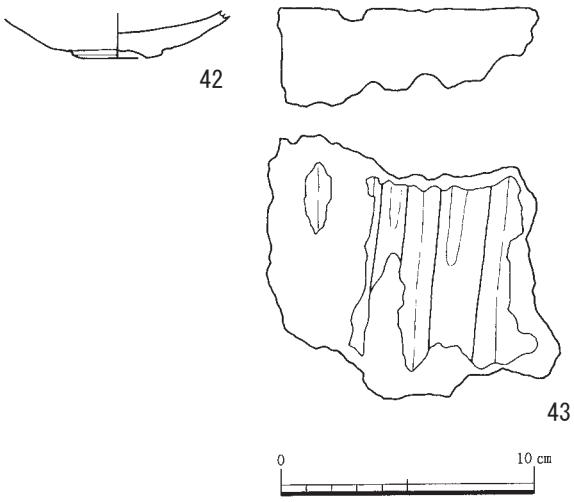
第 15 図　ＳＥ１-2202 平・断面図、出土遺物実測図







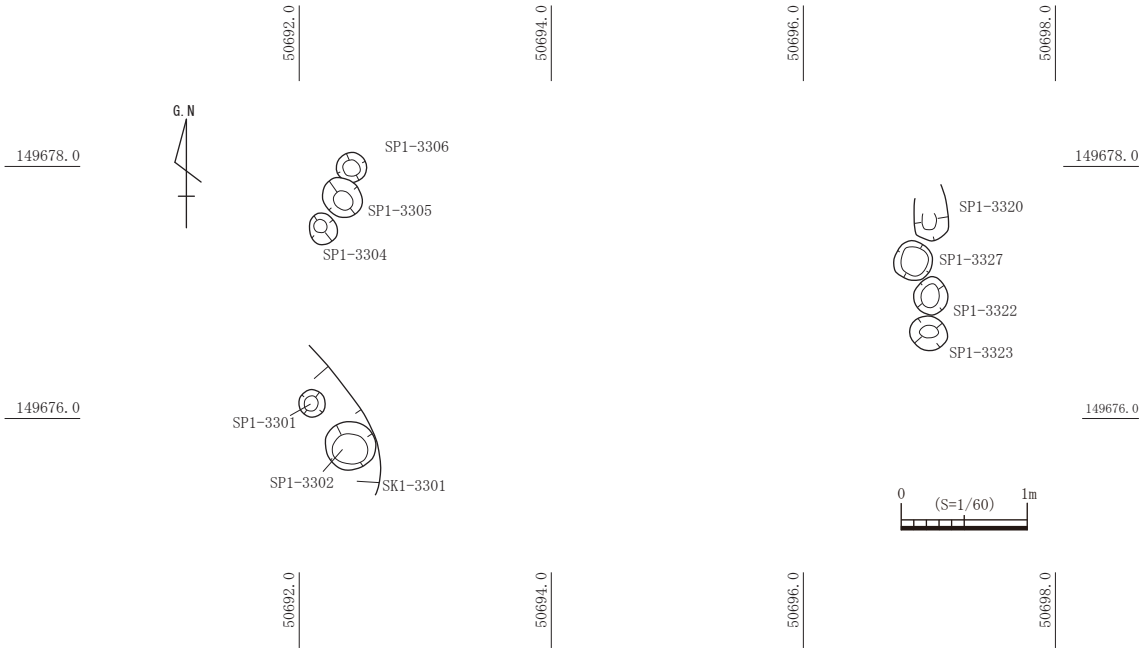
ＳＸ１-2202



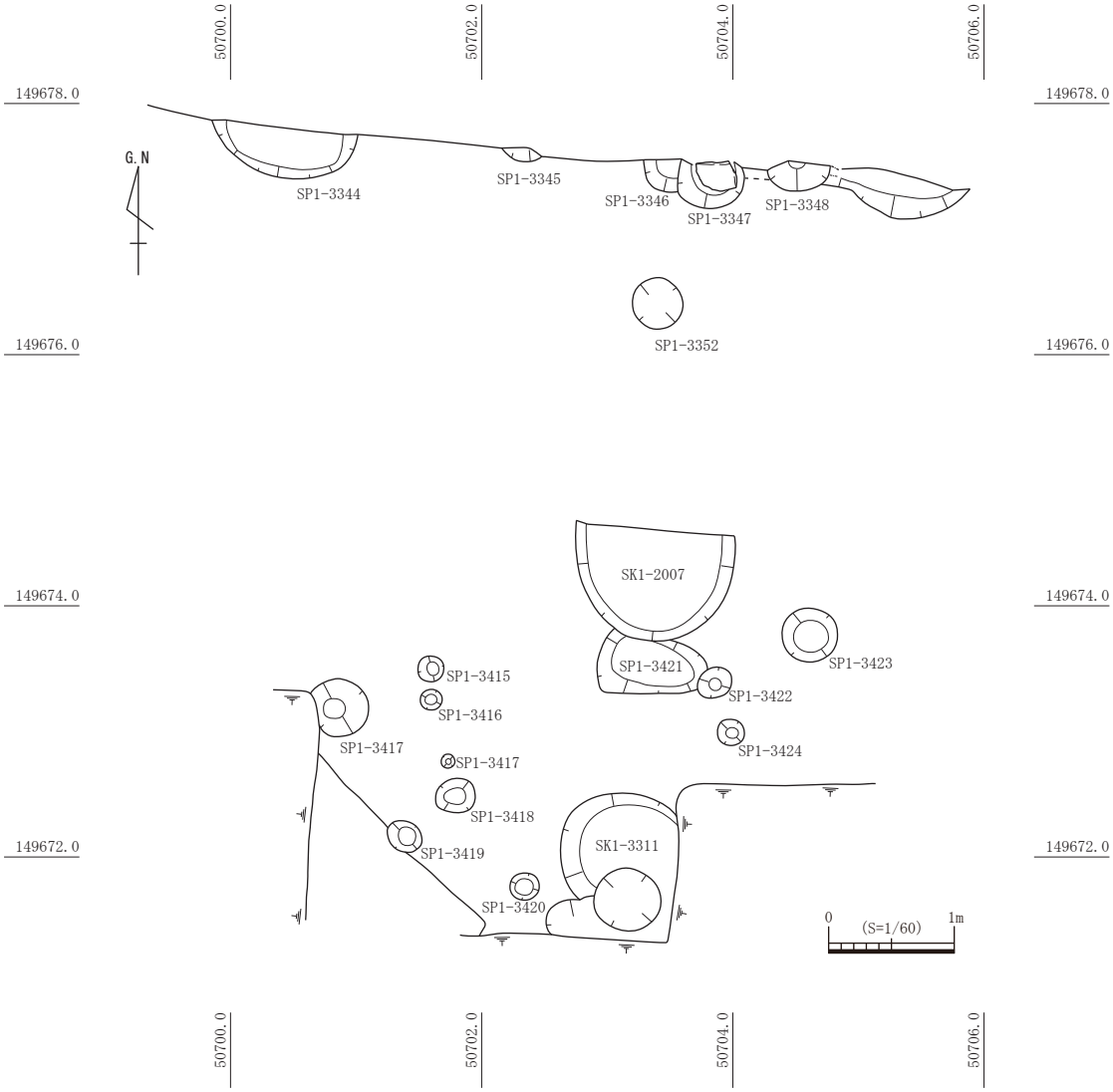
ＳＸ１-2203

第 16 図　ＳＸ１-2202・2203 平・断面図、出土遺物実測図

第 17 図　１工区第３遺構面遺構配置図（１）



第 18 図　１工区第３遺構面遺構配置図（２）



第 19 図　１工区第３遺構面遺構配置図（３）

壁の土層観察では標高 1.30 mから掘り込まれた大規模な遺構である。平面形と規模は不明であるが、ＳＥ１－2202 に切られている。底面は東方向に緩やかに下がっており、最深部の標高は 0.60 mである。埋土は７層に細分されるが、上から２層目の焼土･焼土ブロックは厚さ 0.30 mを測る。

出土遺物は図化した以外に陶器碗、土師質土器小皿、同鍋、瓦器椀、鉄等がある。42 は肥前系陶器皿で、削り出し高台は低い。43 は壁土である。

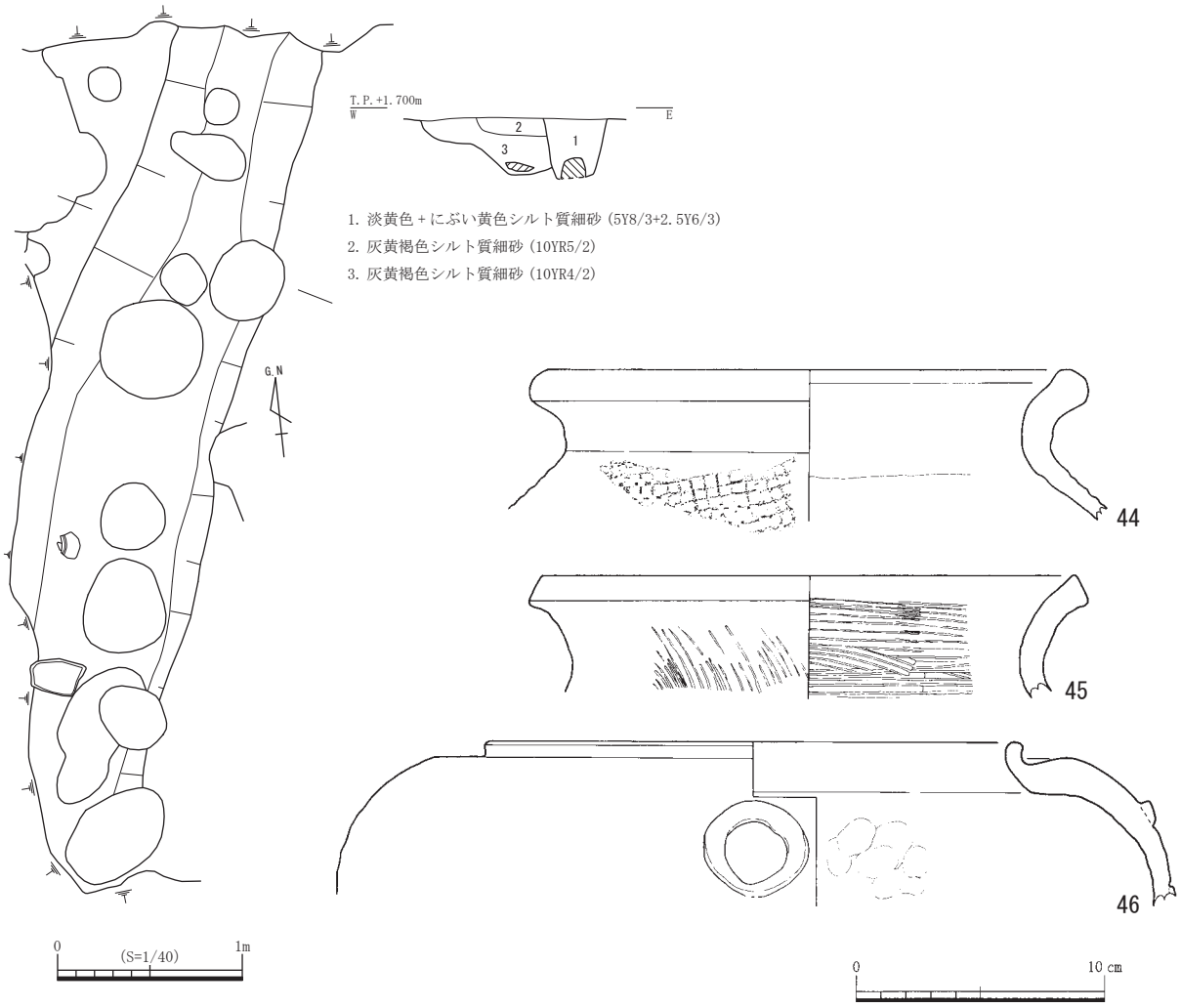
（３）第３遺構面（第 17 ～ 19 図）

溝

ＳＤ１－ 3301（第 20 図）

調査区西側に検出した南北方向の溝で、北側と南側はコンクリート基礎により削平され、ＳＰ１－ 3301・3302・3310・3325・3391 ～ 3394 に切られ、ＳＰ１－ 3307 ～ 3309 を切っている。検出面の標高は 1.06 ～ 1.09 mである。検出した長さは 4.67 m、幅 1.00 m、深さ 0.17 ～ 0.32 mを測る。溝の方位はＮ－ 15°－Ｅである。溝底面のレベルは南から北に向かって緩やかに低くなっており、その比高差は６㎝である。埋土は２層に分かれるがほぼ同一の土である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 14 世紀と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶器壺、同擂鉢、土師質土器小皿、丸釘、土錘、骨、貝等がある。44 は土師質土器甕で、体部外面に格子状タタキが施されている。45 は瓦質土器甕で、口縁端部は角張り、内外面には６条１単位の粗いハケが施されている。46 は備前焼陶器壺で、口縁部は非常に短く、体部外面にリング状の薄い円盤を有している。



第 20 図　ＳＤ１-3301 平・断面図、出土遺物実測図

土坑

ＳＫ１-3303（第 21 図）

調査区中央において検出した土坑で、ＳＴ１－3302、ＳＰ１－3333･3385 ～ 3388 を切っている。検出面の標高は 1.00 m前後である。平面形は隅丸長方形を呈し、東西方向の長軸は 1.33 m、短軸は 0.75 m、深さは 0.38 mを測る。埋土は３層に分かれる。出土遺物は磁器碗、陶器甕、土師質土器小皿、同こね鉢、平瓦等があるが、図化できるものはなかった。

ＳＫ１－3305（第 21 図）

調査区東端において検出した土坑で、ＳＰ１－3329・3362 に切られ、南東側はコンクリート基礎の攪乱により削平されている。検出面の標高は 1.00 mである。平面形と規模は不明だが、深さは 0.05 mである。所属時期は遺構面、井戸の構造及び出土遺物より 17 世紀末～ 18 世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器皿、陶器甕、土師質土器足釜、軒平瓦、丸瓦、菊瓦がある。47 は肥前系磁器皿で、底部は厚い。高台内に染付の一部が見られ、内面に風景（松？）が描かれている。48 は軒平瓦で、佐藤分類のＸⅨ類 60 である。内区下縁は波形であり、平瓦と瓦当の接合はカキメである。

ＳＫ１－3307（第 21 図）

調査区中央やや西寄りにおいて検出した土坑で、ＳＴ１－3301、ＳＰ１－3311・3326 に切られ、南側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 1.10 m前後である。平面形は西辺が飛び出る不整な長方形である。南北方向の長軸は 1.45 m、短軸は 1.10 m、深さは 0.65 mを測る。埋土は５層に分けられ、人為的な堆積状態を示す。図化できた出土遺物は無いが、陶器甕、土師質土器小皿、同鍋、瓦器椀、鉄製品、土錘等が出土した。所属時期は出土遺物と他の遺構との重複関係から 18 世紀初頭と考えられる。

ＳＫ１－3308（第 21 図）

調査区東側において検出した土坑である。検出面の標高は 1.08 mである。平面形はやや不整な方形で、１辺 1.25 m、深さ 0.32 mを測る。底面は西方に片寄った位置にあり、その中央に直径 0.32 mで深さ 0.20 mの落ち込みを検出した。この落ち込みはＳＫ１－3308 とは別な柱穴である可能性も考えられる。所属時期は遺構面、井戸の構造及び出土遺物より 17 世紀末～ 18 世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶器碗、土師質土器杯、弥生土器、丸瓦、平瓦等がある。49 は肥前系磁器蓋で、外面に草花文が描かれている。

ＳＫ１－3310（第 21 図）

調査区中央やや西寄りにおいて検出した土坑で、ＳＰ１－3395・3426 に切られ、西側と南側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 1.04 m前後である。平面形は隅丸長方形と推定でき、南北方向の長軸は 1.20 m以上、短軸は 0.96 m、深さは 0.20 mを測る。埋土は３層に分かれる。図化できた出土遺物はないが、土師質土器小皿、同足釜、同鍋、同擂鉢等が出土した。所属時期は出土遺物から 17 世紀末～ 18 世紀初頭と考えられる。

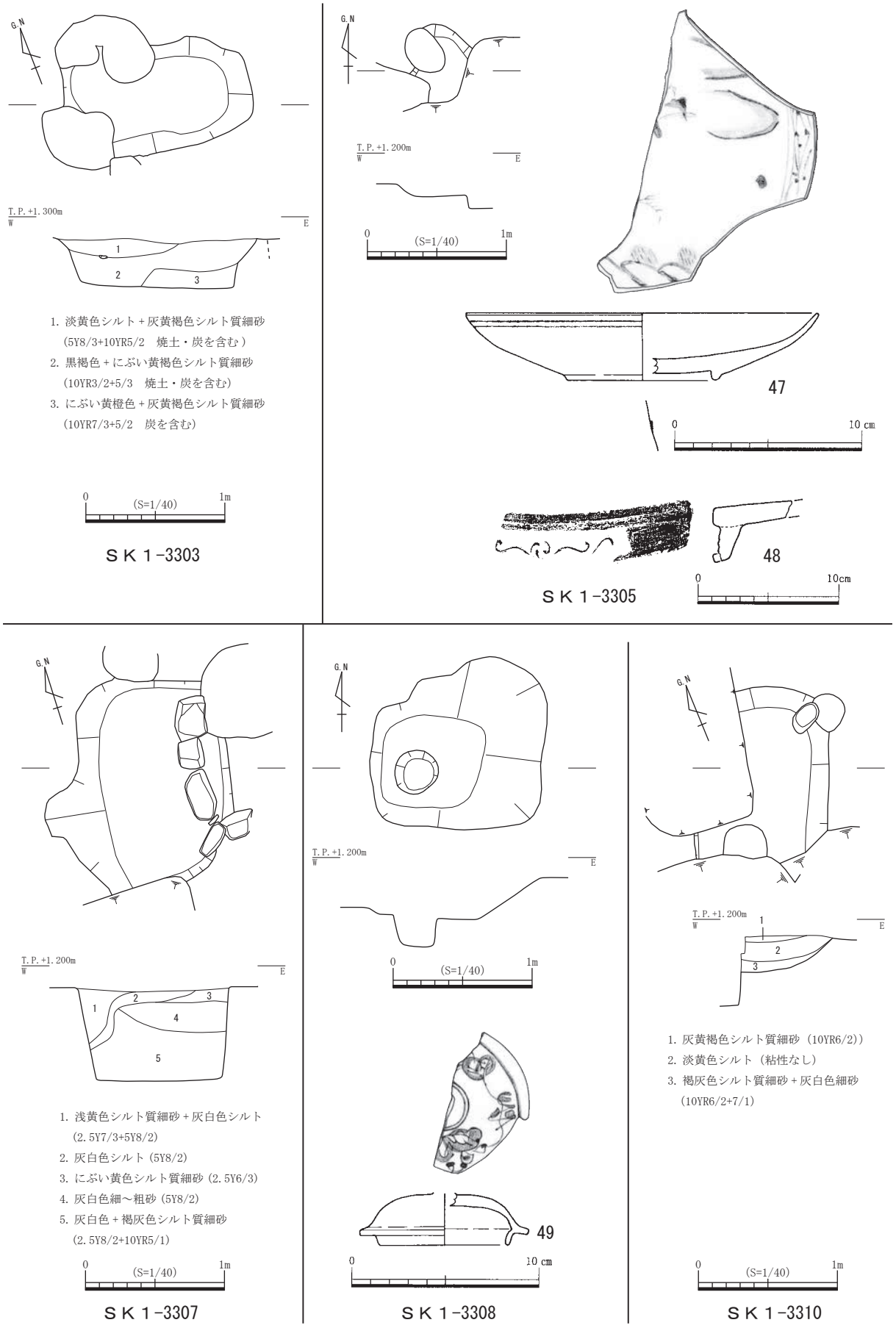
ＳＫ１－3311（第 22 図）

調査区やや東側において検出した土坑であり、検出面の標高は 1.10 mである。調査区東側は地山が緩やかに下がっており、そこに堆積した土層上面から本遺構が掘り込まれている。平面形は円形を呈し、直径は 0.93 m以上、深さ 0.07 mを測る。出土遺物は土師質土器甕、弥生土器甕であるが、図化できた遺物はない。

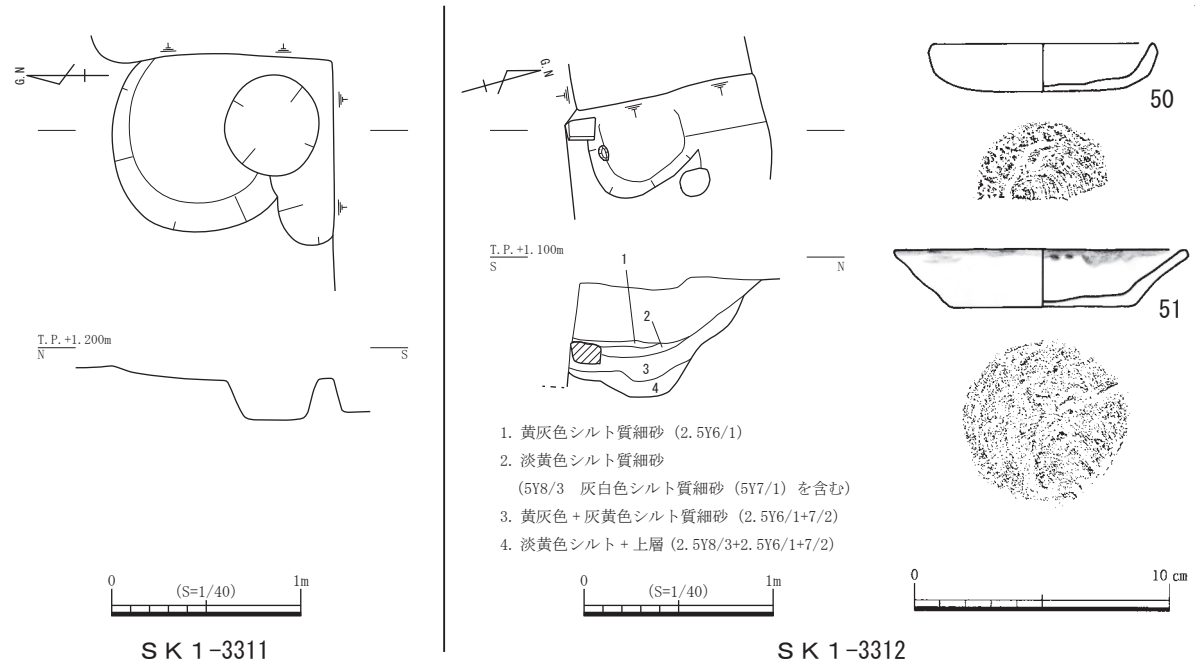
ＳＫ１－3312（第 22 図）

調査区中央にある土坑で、ＳＸ１－3304 の底面より検出した。検出面の標高は 0.68 mである。西側と南側はコンクリート基礎の攪乱により削平されているため、平面形・規模は不明である。確認面からの深さは 0.30 mで、埋土は４層に分かれる。所属時期は 17 世紀末～ 18 世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶器甕、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦等がある。50 は土師質土器



第 21 図　ＳＫ１-3303・3305・3307・3308・3310 平・断面図、出土遺物実測図



第 22 図　ＳＫ１-3311・3312 平・断面図、出土遺物実測図

小皿で、底部の切り離しは回転糸切りである。51 は土師質土器皿で、底部の切り離しは回転糸切りである。口縁部内外面に煤が付着しており灯明皿として使用されていたと考えられる。

ＳＫ１－ 3313（第 23 図）

調査区東南隅において検出した土坑で、東側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 0.90 mである。平面形は隅丸長方形と考えられ、東西方向の長軸は 0.71 m以上、短軸は 0.78 m、深さ 0.30 mを測る。埋土は 1 層であり礫や小石を多量に含む。所属時期は出土遺物から 17 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、同鍋、丸瓦がある。52 は白磁碗であり、口縁部が玉縁状になる。53 は須恵質土器皿である。

ＳＫ１－ 3314（第 23 図）

調査区西端において検出した土坑で、西側の調査区外に広がっている。検出面の標高は 0.76 mである。平面形は隅丸方形を呈し、南北方向は 0.73 m、深さ 0.13 mを測る。所属時期は出土遺物から 16 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶器碗、土師質土器小皿、平瓦等である。54 は備前焼擂鉢であり、８本 1 単位の卸目が放射状に施されている。

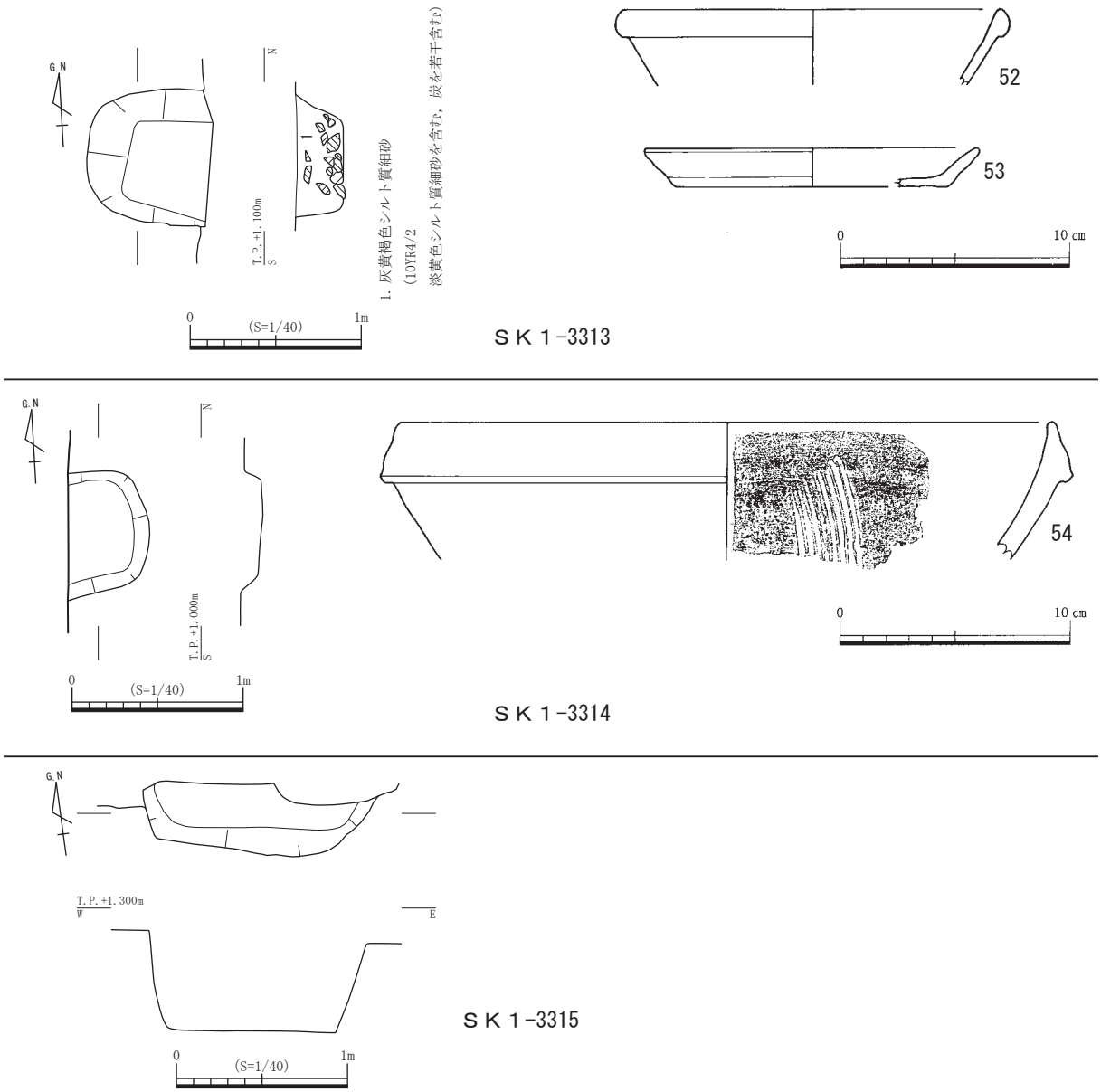
ＳＫ１－ 3315（第 23 図）

調査区中央北端において検出した土坑で、北側の攪乱に削平されている。検出面の標高は 1.17 mである。平面形は隅丸方形を呈し、東西方向は 1.35 m、深さ 0.56 mを測る。埋土は暗灰黄色シルト質細砂と淡黄色シルトの単一層である。出土遺物は土師質土器足釜のみである。所属時期は中世である。

柱穴

ＳＰ１－ 3302（第 24 図）

調査区中央西寄りにおいて検出した柱穴であり、ＳＤ１－ 3301 を切っている。検出面の標高は 1.15 mである。平面形はやや不整な円形を呈し、直径 0.40 m、深さ 0.50 mを測る。埋土は淡黄色シルト＋黄褐色シルト質細砂の単一層である。底面に根石が残存している。所属時期は遺構の重複関係より 17 世紀後半と考えられる。遺物の出土はない。



第 23 図　ＳＫ１-3313 ～ 3315 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＰ１－ 3325（第 24 図）

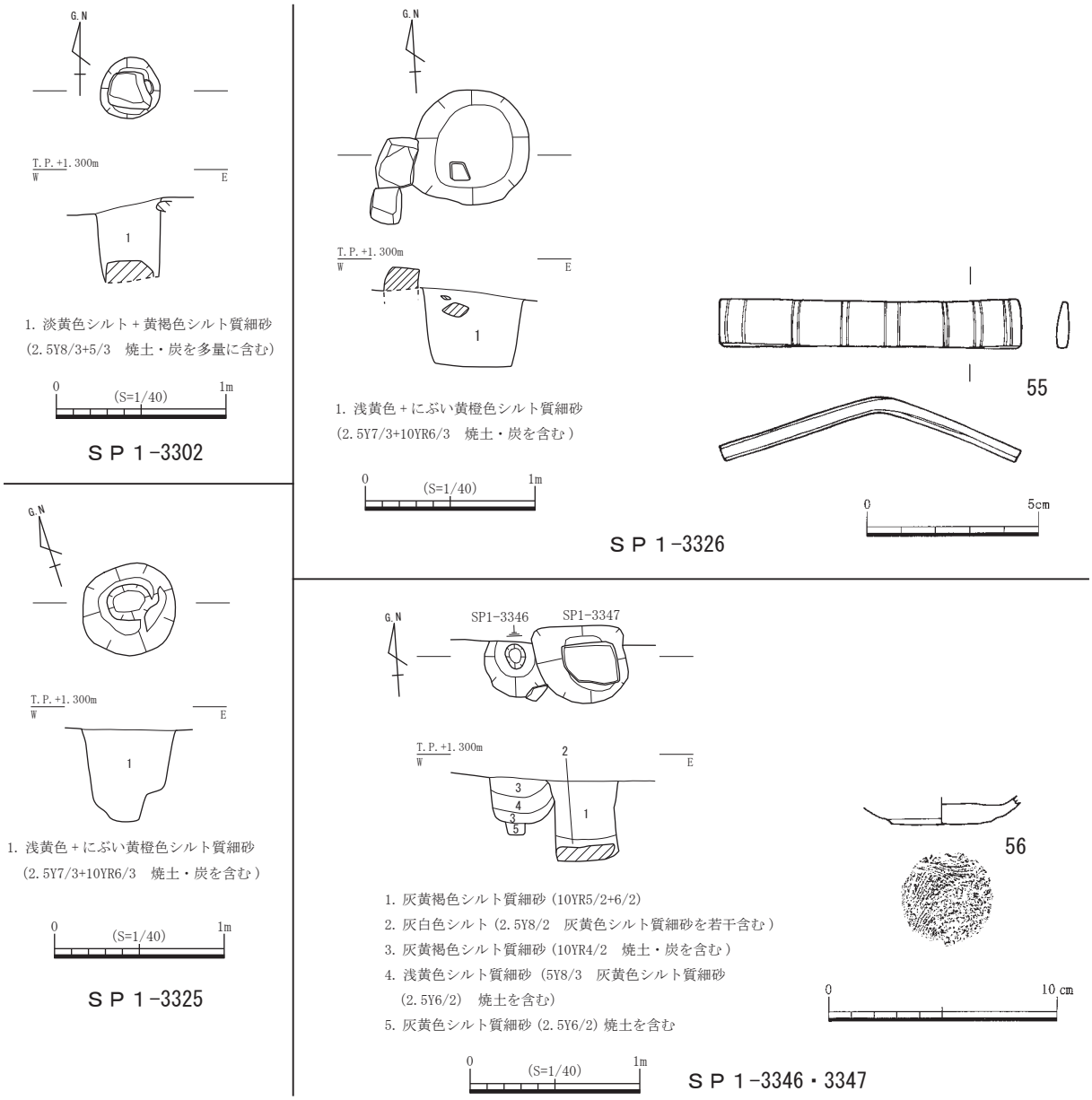
調査区中央西寄りにおいて検出した柱穴であり、ＳＤ１－ 3301 を切っている。検出面の標高は 1.15 ｍである。平面形はやや不整な円形を呈し、直径 0.55 ｍ、深さ 0.52 ｍを測る。埋土は淡黄色＋にぶい黄橙色シルト質細砂の単一層であり、焼土・炭化材を含む。底面近くに僅かな段を有している。所属時期は遺構の重複関係より 17 世紀と考えられる。

出土遺物は陶磁器碗、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦等であるが図化できたものはない。

ＳＰ１－ 3326（第 24 図）

調査区中央西寄りにおいて検出した柱穴であり、ＳＴ１－ 3301 を切っている。検出面の標高は 1.12 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 0.65 ｍ、深さ 0.46 ｍを測る。埋土は淡黄色＋にぶい黄橙色シルト質細砂の単一層であり、焼土・炭化材を含む。所属時期は遺構の重複関係より 17 世紀中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶磁器碗、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦等がある。55 は青銅製品であり、用途は不明である。中央で折れて「く」の字状になっているが、本来は一直線的なものである。２本単位の非常に浅い沈線を７ヵ所巡らせている。



第 24 図　ＳＰ１-3302・3325・3326・3346・3347 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＰ１－ 3346（第 24 図）

調査区東側の北端において検出した柱穴であり、北側は攪乱により削平され、ＳＰ１－ 3347 に切られている。検出面の標高は 1.12 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 0.32 ｍ以上、深さ 0.33 ｍを測る。埋土は３層に分かれ、全てに焼土を含む。所属時期は出土遺物から 17 世紀中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器杯がある。56 は土師質土器杯の底部であり、底部の切り離しは静止糸切りである。

ＳＰ１－ 3347（第 24 図）

調査区東側の北端において検出した柱穴であり、北側は攪乱により削平され、ＳＰ１－ 3346 を切っている。検出面の標高は 1.12 ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径 0.53 ｍ、深さ 0.48 ｍを測る。埋土は２層に分かれ、底面に根石が残存している。所属時期は遺構の重複関係より 17 世紀初頭と考えられる。

ＳＰ１－ 3362（第 25 図）

調査区東側において検出した柱穴であり、ＳＰ１－ 3361・3363 と重複している。検出面の標高は 1.00 ｍ前後である。平面形は長方形を呈し、長軸 0.64 ｍ、短軸 0.33 ｍ、深さ 0.46 ｍを測る。

底面近くに根石と考えれる石が残存し、東側上方に段を有する。所属時期は出土遺物から 17 世紀前半と考えられる。

57 は土師質土器擂鉢であり、口縁部が内傾する。内面に５本１単位の卸目が放射状に施されている。体部外面は板ナデが施され、底部近くには工具による押圧痕が見られる。

ＳＰ１－ 3374（第 25 図）

調査区東側において検出した柱穴であり、ＳＰ１－ 3355 と重複し、ＳＸ１－ 3302 を切っている。検出面の標高は 1.07 ｍである。平面形は不整な円形を呈し、一辺 0.60 ｍ、深さ 0.25 ｍを測る。所属時期は出土遺物から 18 世紀初頭と考えられる。

58 は肥前系陶器碗であり、削り出し高台の畳付に砂目、見込みには蛇ノ目釉剥ぎが見られ、砂目が残存する。

ＳＰ１－ 3385（第 25 図）

調査区中央において検出した柱穴であり、ＳＰ１－ 3386 と重複し、ＳＫ１－ 3303 に切られる。検出面の標高は 1.06 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 0.35 ｍ、深さ 0.54 ｍを測る。所属時期は出土遺物から 18 世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、砥石、釘がある。59 は土師質土器小皿であり、底面には静止糸切り後にナデが施されている。

ＳＰ１－ 3391（第 25 図）

調査区中央西寄りにおいて検出した柱穴であり、ＳＤ１－ 3301 を切っている。検出面の標高は 1.06 ｍである。平面形は不整な円形で、直径 0.50 ｍ、深さ 0.45 ｍを測る。所属時期は遺構の重複関係より 17 世紀中頃と考えられる。出土遺物は陶器小瓶の小片のみである。

ＳＰ１－ 3392（第 25 図）

調査区中央西寄りにおいて検出した柱穴であり、ＳＤ１－ 3301 とＳＰ１－ 3393 を切っている。検出面の標高は 1.08 ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径 0.38 ｍ、深さ 0.40 ｍを測る。所属時期は遺構の重複関係と出土遺物より 17 世紀と考えられる。

出土遺物は磁器碗・土師質土器小皿・丸瓦があるが、図化できるものはない。

ＳＰ１－ 3393（第 25 図）

調査区中央西寄りにおいて検出した柱穴であり、ＳＤ１－ 3301 を切っており、ＳＰ１－ 3392 に切られている。検出面の標高は 1.08 ｍである。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸 0.80 ｍ、短軸 0.34 ｍ、深さ 0.30 ｍを測る。所属時期は遺構の重複関係と出土遺物より 17 世紀と考えられる。

出土遺物はない。

ＳＰ１－ 3394（第 25 図）

調査区中央西寄りにおいて検出した柱穴であり、ＳＤ１－ 3301 を切っている。検出面の標高は 1.08 ｍである。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.60 ｍ、短軸 0.40 ｍ、深さ 0.28 ｍを測る。埋土は灰白色＋浅黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構の重複関係と出土遺物より 17 世紀と考えられる。

出土遺物は磁器皿・土師質土器捏鉢があるが、図化できるものはない。

ＳＰ１－ 3396（第 26 図）

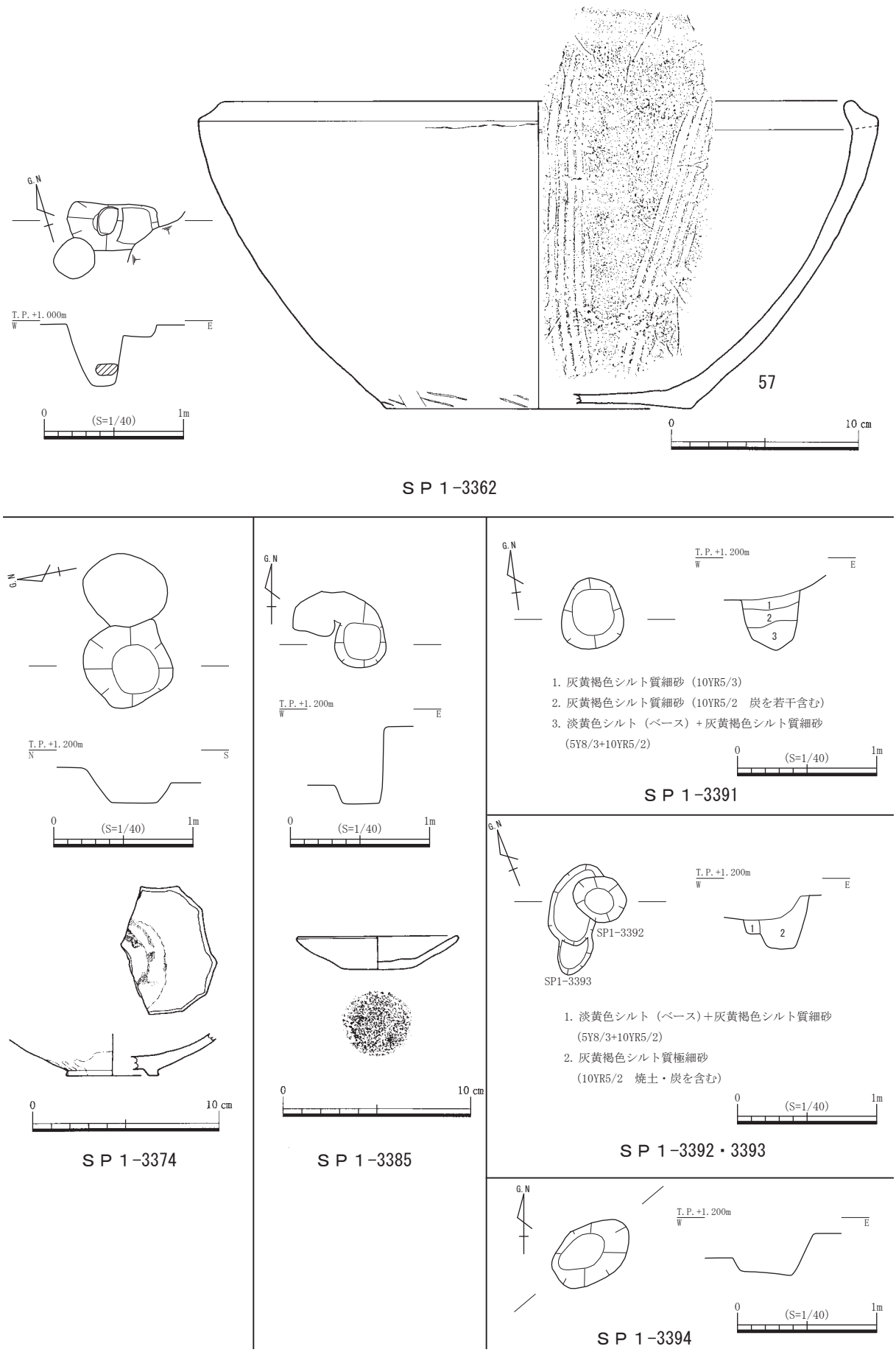
調査区中央西寄りにおいて検出した柱穴であり、上面を攪乱により削平されている。検出面の標高は 0.85 ｍである。平面形は楕円形で、長軸 0.63 ｍ、短軸 0.49 ｍ、深さ 0.27 ｍを測る。所属時期は出土遺物より 17 世紀と考えられる。

出土遺物は陶器碗があるが、図化できるものはない。

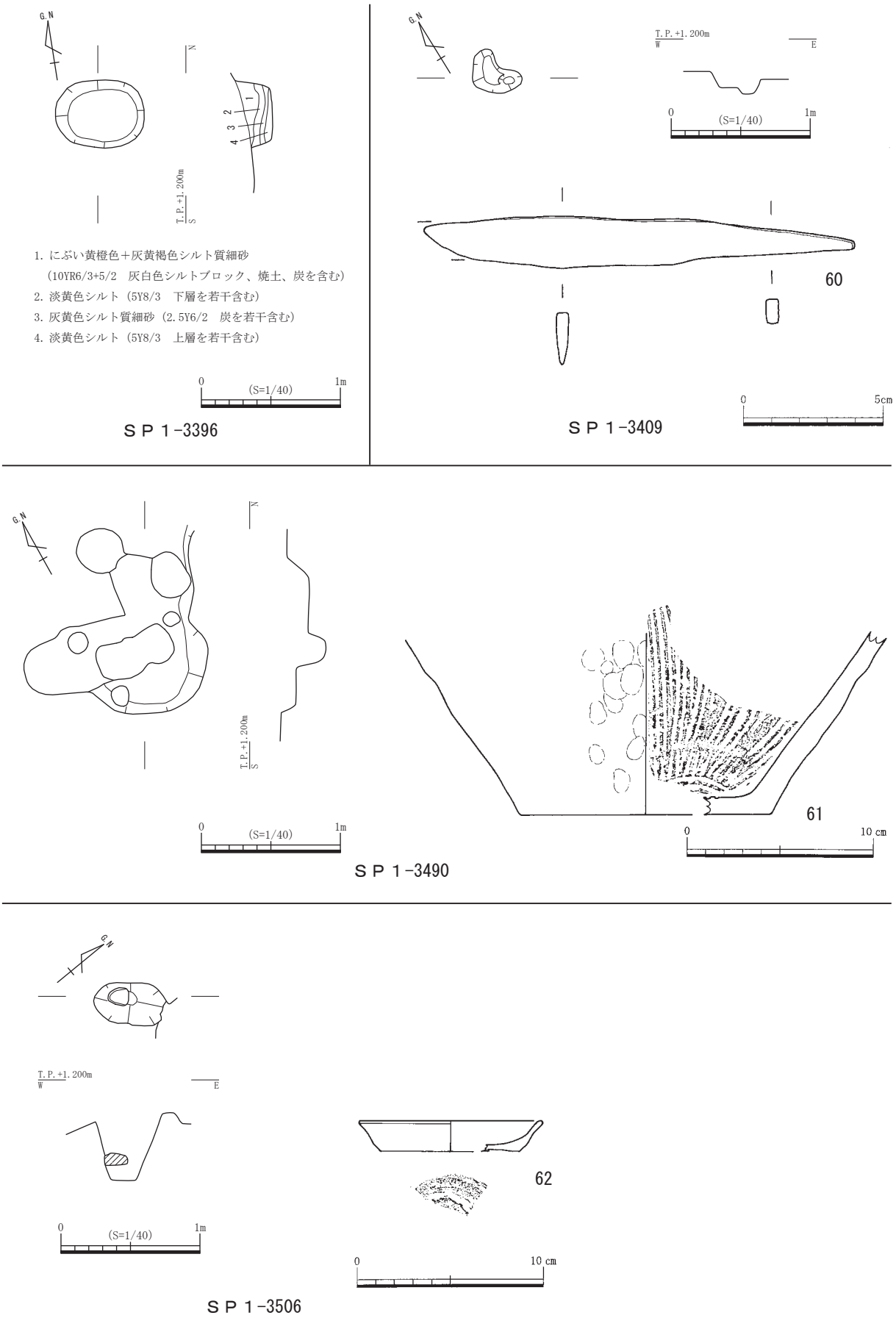
ＳＰ１－ 3409（第 26 図）

調査区中央において検出した柱穴であり、ＳＫ１－ 3304 を切っている。検出面の標高は 0.98 ｍである。平面形は抉りの入る不整形を呈し、直径は 0.35 ｍ、深さ 0.19 ｍを測る。西側に段を有する。埋土は焼土・炭を若干含む灰黄褐色シルト質細砂の単一層である。

出土遺物は図化した以外に土師質土器鍋がある。60 は小刀である。



第 25 図　ＳＰ１-3362・3374・3385・3391 ～ 3394 平・断面図、出土遺物実測図



第 26 図　ＳＰ１-3396・3409・3490・3506 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＰ１－3490（第26図）

調査区中央東寄りにおいて検出した柱穴であり、ＳＰ１－3489を切っており、ＳＰ１－3472・3500～3502と重複している。検出面の標高は1.00ｍである。平面形は楕円形であると考えられる。直径0.87ｍ、深さ0.13ｍを測り、規模から土坑の可能性が高い。埋土は焼土・炭を含む褐灰色シルト質細砂の単一層である。所属時期は出土遺物より17世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した61のみである。61は備前焼擂鉢であり、底部は平底である。内面に卸目が放射状に施されている。

ＳＰ１－3506（第26図）

調査区中央において検出した柱穴であり、ＳＸ１－3304に切られ、ＳＰ１－3511と重複している。検出面の標高は0.97ｍである。平面形は楕円形であり、長軸0.52ｍ、短軸0.30ｍ、深さ0.49ｍを測る。所属時期は出土遺物より15世紀前葉と考えられる。

出土遺物は図化した62のみである。62は土師質土器小皿で、底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

墓

ＳＴ１－3301（第27図）

調査区中央やや西寄りにおいて検出した墓であり、東側にＳＴ１－3302が並列している。検出面の標高は石積みの最頂部で1.36ｍであり、第２遺構面直下である。石積みのみの検出であり、掘り方は確認することができなかった。北部を欠くが、平面形は長方形と推定され、石積みの内法は南北方向1.42ｍ以上、東西方向0.88ｍを測る。主軸方位はＮ－10°－Ｅである。東面の石積みはＳＴ１－3302と併用されている。底面は平坦であり、標高は1.05ｍである。石積みは１段ないし２段残存し、最も残存する所の高さは0.30ｍであり、安山岩を主体とした自然石を用いて、乱積みを行っている。裏込め部分には小角礫が使用されている。石積み内の埋土はＳＴ１－3302と同様ににぶい黄橙色細砂と灰黄褐色シルト質細砂＋にぶい黄橙色細砂の２層である。所属時期は出土遺物より17世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した３点のみである。63は石積み内の埋土から出土した土師質土器小皿で、体部外面に指頭圧痕が施されている。64は中央に谷家紋の「下藤」が施された鬼瓦の一部であり、南面の石積み上面から出土した。65は南西隅近くの底面直上から出土した青銅製の小刀である。

ＳＴ１－3302（第27図）

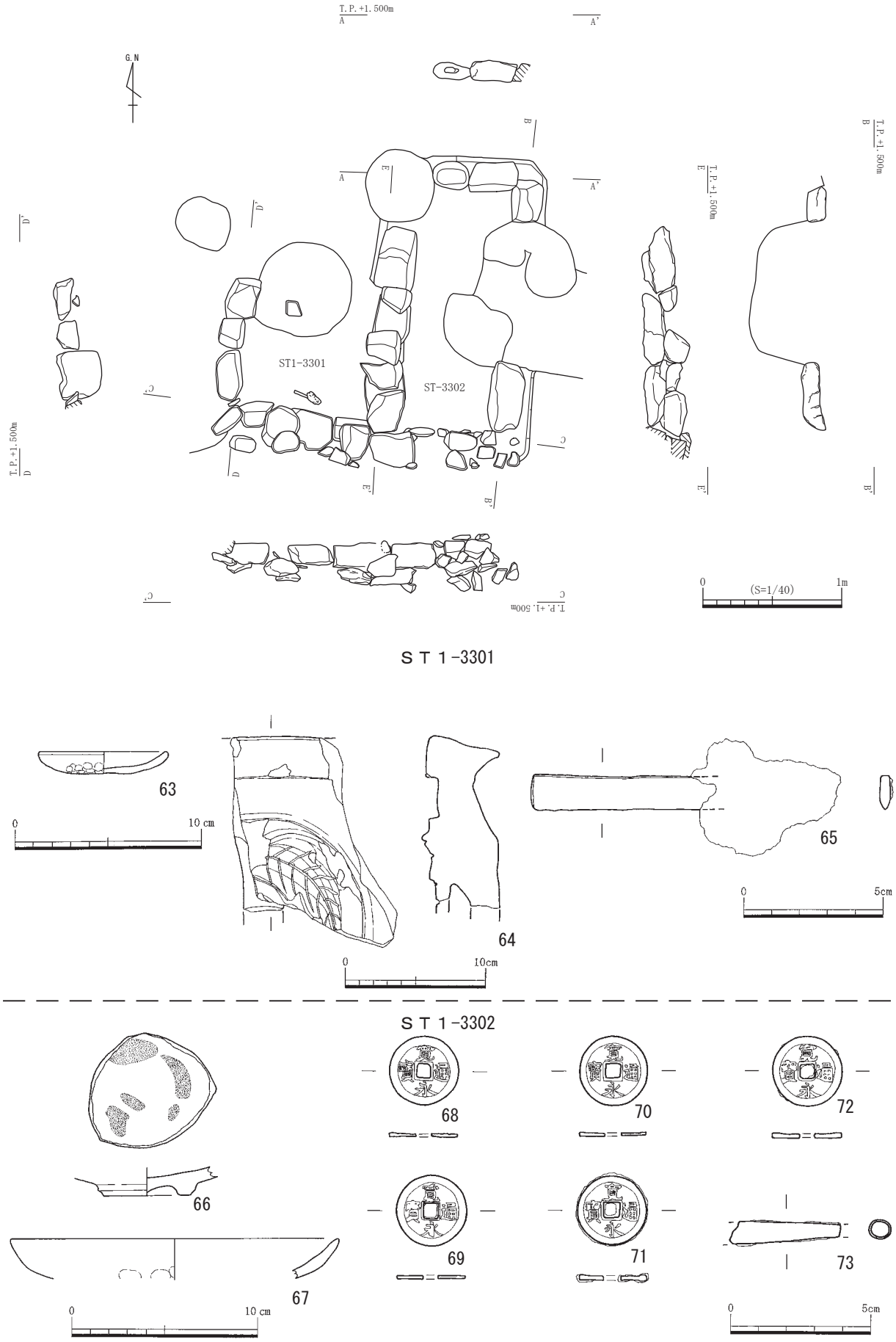
調査区中央やや西寄りにおいて検出した墓であり、西側にＳＴ１－3301が並列している。検出面の標高は石積みの最頂部で1.35ｍであり、第２遺構面直下である。掘り方上面は1.10ｍ前後である。掘り方は北側と東側において検出することができた。平面形は長方形を呈し、石積みの内法は南北方向1.70ｍ、東西方向0.60ｍを測る。主軸方位はＮ－10°－Ｅである。西面の石積みはＳＴ１－3301と併用されている。底面は平坦であり、標高は1.07ｍである。石積みは１段ないし２段残存し、最も残存する所の高さは0.30ｍであり、安山岩を主体とした自然石を用いて、乱積みを行っている。裏込め部分には小角礫が使用されている。石積み内の埋土はＳＴ１－3301と同様ににぶい黄橙色細砂と灰黄褐色シルト質細砂＋にぶい黄橙色細砂の２層である。所属時期は出土遺物より17世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶磁器碗・同甕・土師質土器小皿・軒平瓦・平瓦がある。66は陶器碗で、削り出し高台である。見込みに砂目が残る。67は須恵質土器皿で、体部の傾斜は非常に緩やかである。68～72は寛永通宝である。73は真鍮製の煙管の吸口である。

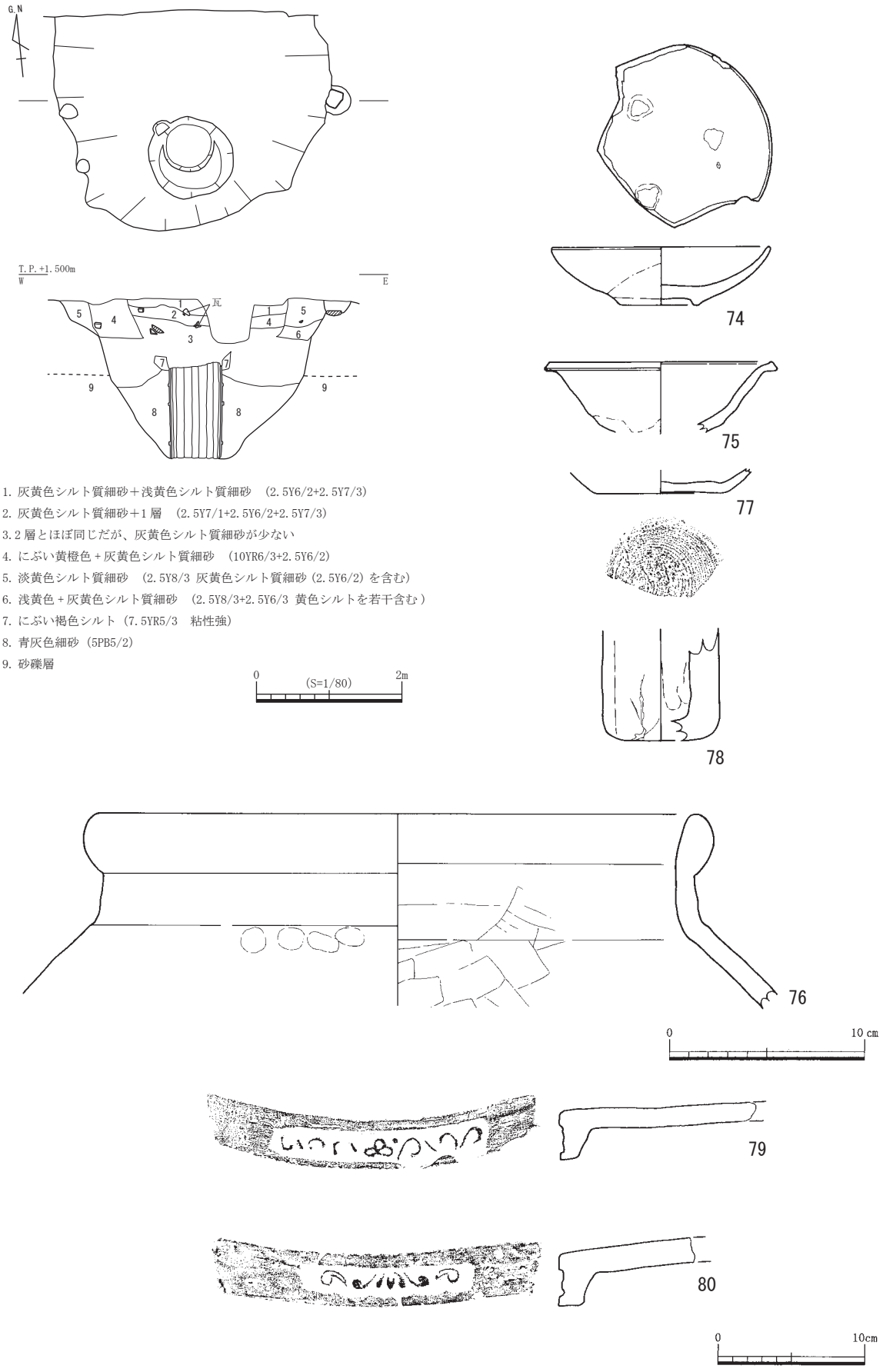
井戸

ＳＥ１－3301（第28図）

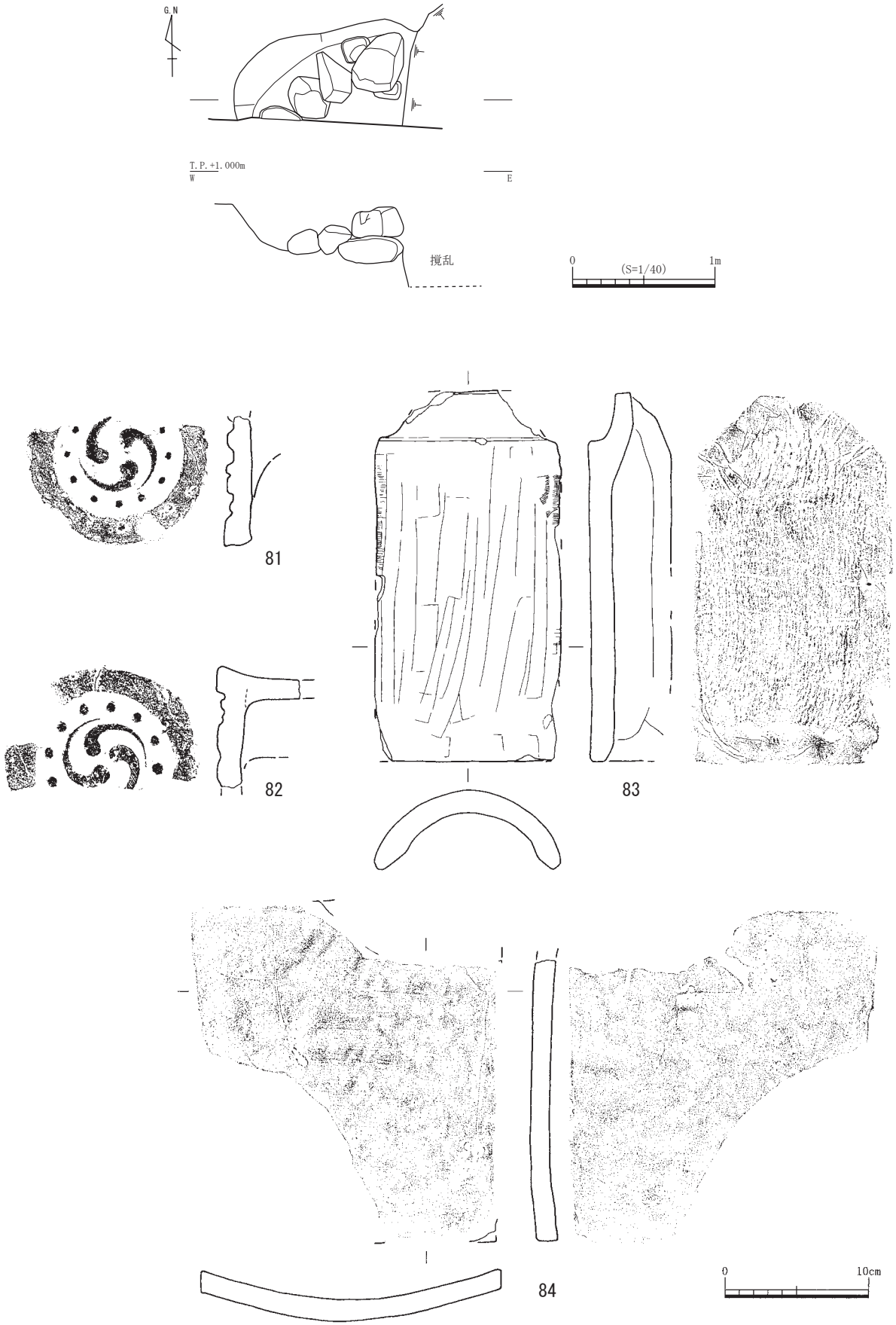
調査区中央やや東寄りにおいて検出した結物を井側とする井戸であり、ＳＰ１－3344・3345・3052に切られ、周囲に検出した多くの柱穴等の遺構を切っている。検出面の標高は1.13ｍ前後である。掘り方の平面形は不整な円形であり、直径は3.75ｍを測る。井側は掘り方の中心から



第 27 図　ＳＴ１-3301・3302 平・断面図、出土遺物実測図



第 28 図　ＳＥ１-3301 平・断面図、出土遺物実測図



第 29 図　ＳＥ１-3303 平・断面図、出土遺物実測図

ずれた南壁寄りの位置にあり、平面形は直径 1.15 mの円形で、ほぼ垂直に掘り込まれている。標高 0.25 mにおいて木製の結物を検出した。井側は結物１段で構成されており、土層の観察からは井側の抜き取り痕が確認できないため、井側の上部は腐食したと考えられる。井側は長さ約 1.30 m、幅 0.10 mの板を円形に組み合わせており、外側に竹製の箍が３条巡っている。井側上部の直径は0.74 m、下部は0.70 mを測り、上に向かって僅かに広がっている。下端の標高は－1.04 mで、湧水点に達している。所属時期は遺構面、井戸の構造及び出土遺物より 17 世紀第２四半期と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、青磁鉢、陶器碗、同壺、備前焼甕、同擂鉢、土師質土器小皿、同足釜、弥生土器、鉄製品、木、骨等がある。74 は肥前系陶器皿で、削り出し高台の畳付に回転糸切りが一部残存し、見込みに胎土目が３カ所見られる。75 は肥前系陶器小鉢である。76 は備前焼陶器大甕で、口縁部は直立し、口縁端部が外側に肥厚している。77 は土師質土器杯で、底部の切り離しは回転糸切りである。78 は土師質土器焼塩壺である。79 は佐藤分類のⅦ類 29、80 は佐藤分類のⅥ類 23 の軒平瓦である。

ＳＥ１－3303（第 29 図）

調査区南西隅において検出した石組み井戸で、東側は攪乱により削平され、南側は調査区外のため検出できたのは全体の 1/4 以下である。検出面の標高は 0.75 mである。掘り方の平面形は円形と推定され、深さは 0.38 mを測る。井側の石組みは１段ないし２段残存するのみである。石は安山岩である。湧水はほとんど認められない。所属時期は遺構面と出土遺物より 17 世紀中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶磁器碗がある。81 は佐藤分類のⅣ類 63 の軒丸瓦で、瓦当裏面の調整は指オサエとナデが施されている。82 は佐藤分類のⅣ類 64 の軒丸瓦で、瓦当裏面の調整は指オサエとナデが施され、周縁は面取りされている。83 は玉縁式丸瓦で、凸面の調整は板ナデ、凹面には布目・コビキＢが残る。84 は平瓦で、凸面下端に弓状圧痕が見られる。

性格不明遺構

ＳＸ１－3301（第 30 図）

調査区北東隅において検出した落ち込みである。西側の落ち込みのみの検出であり、平面形と規模は不明である。検出面の標高は 1.09 mである。深さは 0.05 mである。底面は平坦である。

出土遺物は図化した以外に磁器鉢、陶器碗、同擂鉢、土師質土器小皿、鉄片がある。85 は残存長 15.8 ㎝の小柄と考えられる。

ＳＸ１－3303（第 30 図）

調査区中央において検出した。北側の落ち込みのみの検出であり、平面形と規模は不明である。検出面の標高は 1.14 mである。深さは 0.10 mである。所属時期は 17 世紀前半である。

出土遺物は図化した以外に磁器酒盃、同碗、青磁碗、土師質土器小皿、同鍋、軒丸瓦がある。86 は肥前系陶器碗で、削り出し高台の畳付と見込みに砂目が見られる。87 は古銭であるが錆が著しく判読不明である。

ＳＸ１－3304（第 30 図）

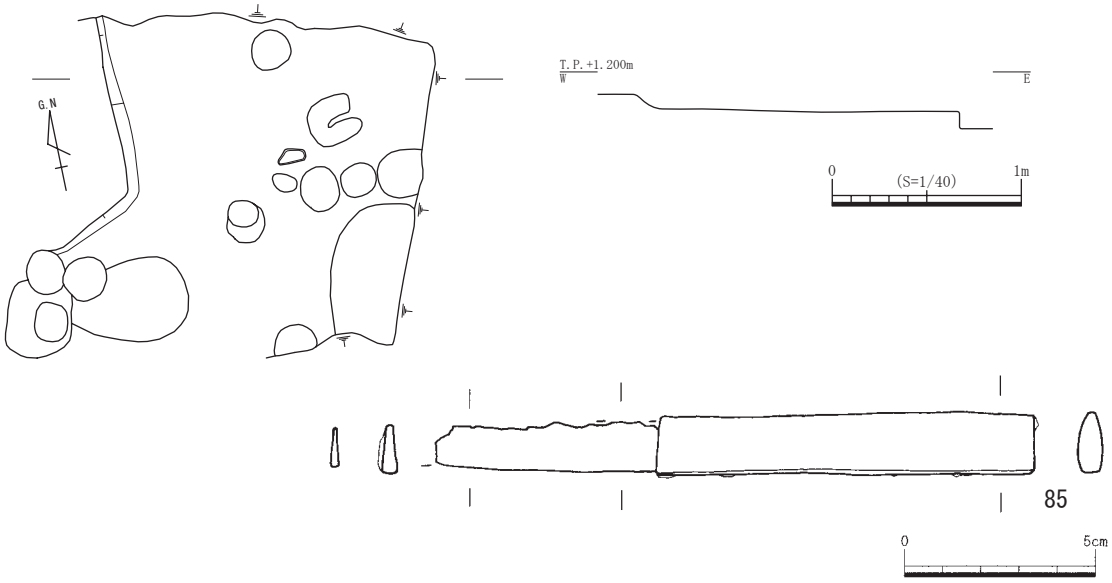
調査区中央において検出した落ち込みで、ＳＫ１－3312 を切っている。北側の落ち込みのみの検出であり、平面形と規模は不明である。検出面の標高は 0.98 mである。深さは 0.25 mである。底面は平坦である。所属時期は 15 世紀初頭である。

出土遺物は図化した以外に磁器皿、同碗、土師質土器小皿、同擂鉢、丸瓦がある。88 は土師質土器灯明皿で、口縁部内外面に煤が付着している。底部の切り離しは回転糸切りである。

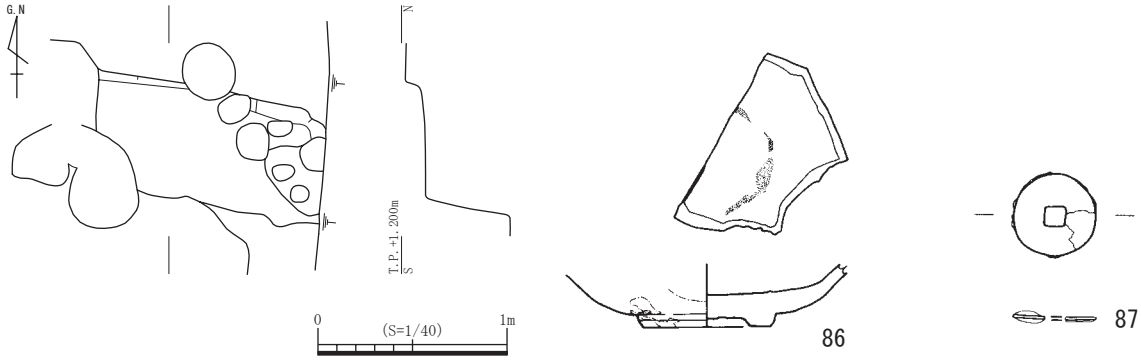
ＳＸ１－3305（第 31 図）

調査区中央南端において検出した。北側の落ち込みのみの検出であり、平面形と規模は不明である。検出面の標高は 0.92 mである。深さは 0.52 mである。所属時期は古代である。

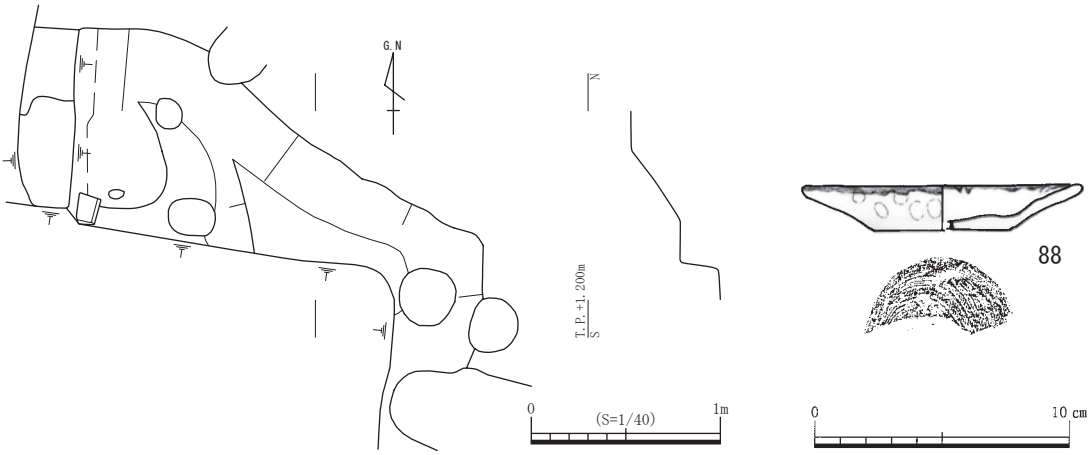
出土遺物は図化した以外に陶器壺、土師質土器小皿、同擂鉢、弥生土器甕、丸瓦がある。89 は土師質土器小皿で、底部の切り離しは静止糸切りである。90 は土師器盤で、口径 24 ㎝の大型品



ＳＸ１-3301

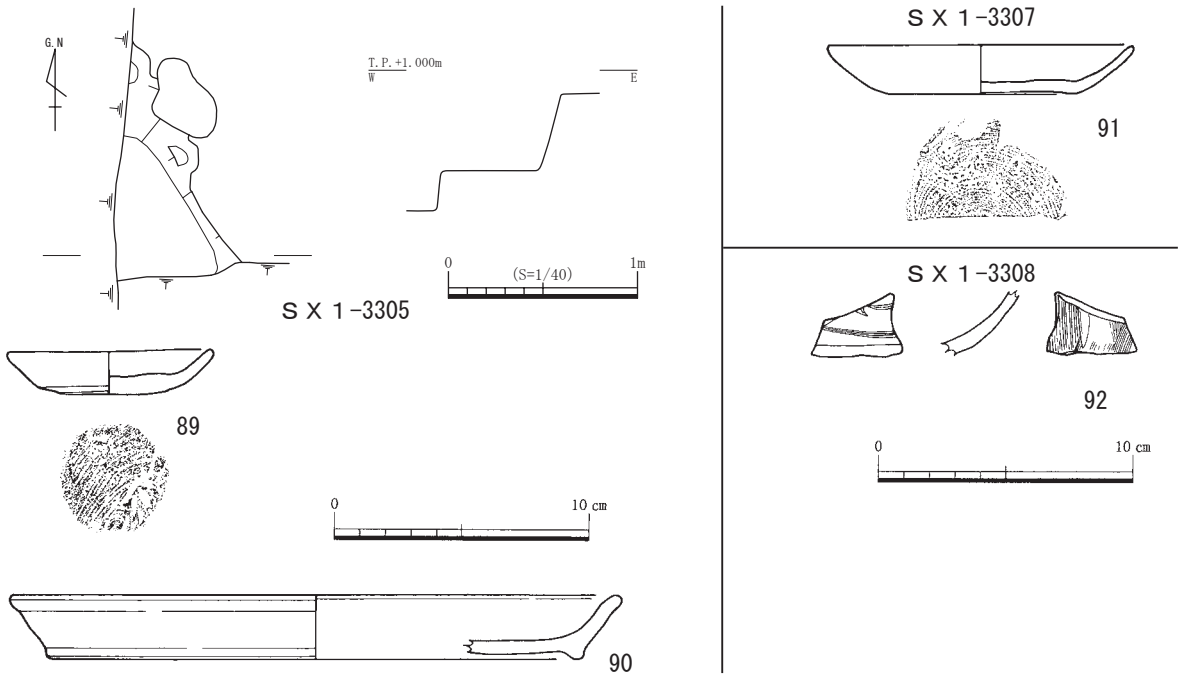


ＳＸ１-3303



ＳＸ１-3304

第 30 図　ＳＸ１-3301・3303・3304 平・断面図、出土遺物実測図



第 31 図　ＳＸ１-3305・3307・3308 平・断面図、出土遺物実測図

であり、口縁部内面に浅い沈線が巡っている。

ＳＸ１－ 3307（第 17・31 図）

調査区中央やや東寄りにおいて検出した落ち込みである。平面形と規模は不明である。ＳＸ１－ 3302 と同一遺構の可能性も考えられる。検出面の標高は 0.97 ｍである。深さは 0.12 ｍである。底面は平坦である。

出土遺物は図化した以外に陶器碗、青磁碗、土師質土器小皿、同擂鉢、同鍋、須恵器甕、弥生土器甕、釘、骨片がある。91 は須恵質土器杯で、底部の切り離しは回転糸切りである。外面全体と底部内面に煤が付着し灯明皿と考えられる。

ＳＸ１－ 3308（第 17・31 図）

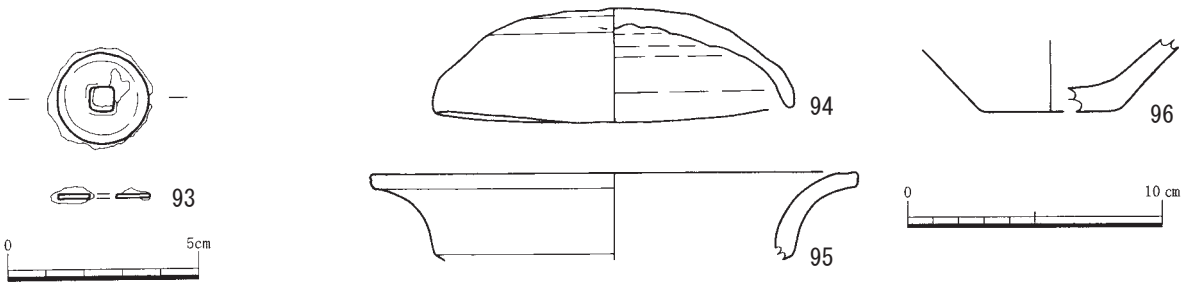
調査区中央において検出した落ち込みである。平面形と規模は不明である。検出面の標高は 1.03 ｍである。深さは 0.09 ｍである。底面は平坦である。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、同椀、同鍋、瓦器椀、須恵器甕、弥生土器甕、丸瓦、骨片がある。92 は青磁碗で、内外面に片刃彫りが施されている。

１工区第３遺構面出土遺物及び深掘り出土遺物（第 32 図）

93 は第３面遺構検出時に出土した古銭で、錆が著しく判読不可能である。

94 ～ 96 は現地表から約 2.00 ｍ掘り下げた砂礫層直上より出土した。94 は完形の須恵器蓋で、口縁部がややある。陶邑編年のＴＫ 10 形式の段階に該当する。95 は弥生土器高杯で弥生時代後期のものである。96 は弥生土器底部である。



第 32 図　１工区第３遺構面・深掘り出土遺物実測図

第３節　２工区の遺構と遺物

１　調査の概要

２工区は１工区の東側に隣接する調査区であり、対象面積は 225 ㎡であるが、北側に接する歩道と西側の道路の保護のため境界から約１ｍ内側を残して掘削し、南側にある駐車場への進入路を確保するため調査区の北側のみの掘削となった。このため実質的な調査面積は 75 ㎡となった。

調査に先立ち埋め立てられた花崗土を撤去すると、調査区の西端と東端に幅広いコンクリート基礎があり、その間には１辺３ｍの正方形のコンクリート基礎６個とそれをつなぐ３本の細いコンクリート基礎が確認され、さらに調査区南端にも東西方向のコンクリート基礎を確認した。これらのコンクリート基礎は第５遺構面より深くまで達しており、その周囲は約 0.30 ～ 0.60 ｍ幅の攪乱が及んでおり、遺構の検出は不可能であった。このため調査が可能となったのはさらに狭い範囲である。

２　基本土層

調査区は四方をコンクリート基礎と攪乱に囲まれているため全域にわたる土層観察を行うことができなかった。部分的な観察によれば、基本土層は西隣する１工区とほぼ同様である。しかし、Ｄ～Ｆ層が１工区と比較するとより細分化されるに伴い、遺構確認面が１工区より多い５面となる。第１遺構面であるＣ層の標高は 1.45 ｍ前後であり、第２遺構面は 1.30 ｍ前後、第３遺構面は 1.00 ｍ前後、第４遺構面は 0.80 ｍ前後、第５遺構面は 0.70 ｍ前後である。１工区の中・近世の基盤層であるＧ層は第５遺構面に相当し、基盤層が東方向に下がっていることが確認できた。

３　遺構・遺物

（１）第１遺構面（第 33 図）

土坑

ＳＫ２－ 1101（第 34 図）

調査区中央において検出した土坑である。検出面の標高は 1.42 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 0.81 ｍ、深さ 0.22 ｍを測る。備前系陶器甕の底部が遺存していた。埋土は甕内部に堆積した１層と土坑の掘り方に堆積した２層である。便槽・肥甕に使われたものと考えられる。所属時期は 18 世紀後半と考えられる。

出土遺物は軒平瓦（97）のみで、佐藤分類のＸＸⅡ類 142 であるが、中心飾りが上下逆となっている。

ＳＫ２－ 1102（第 34 図）

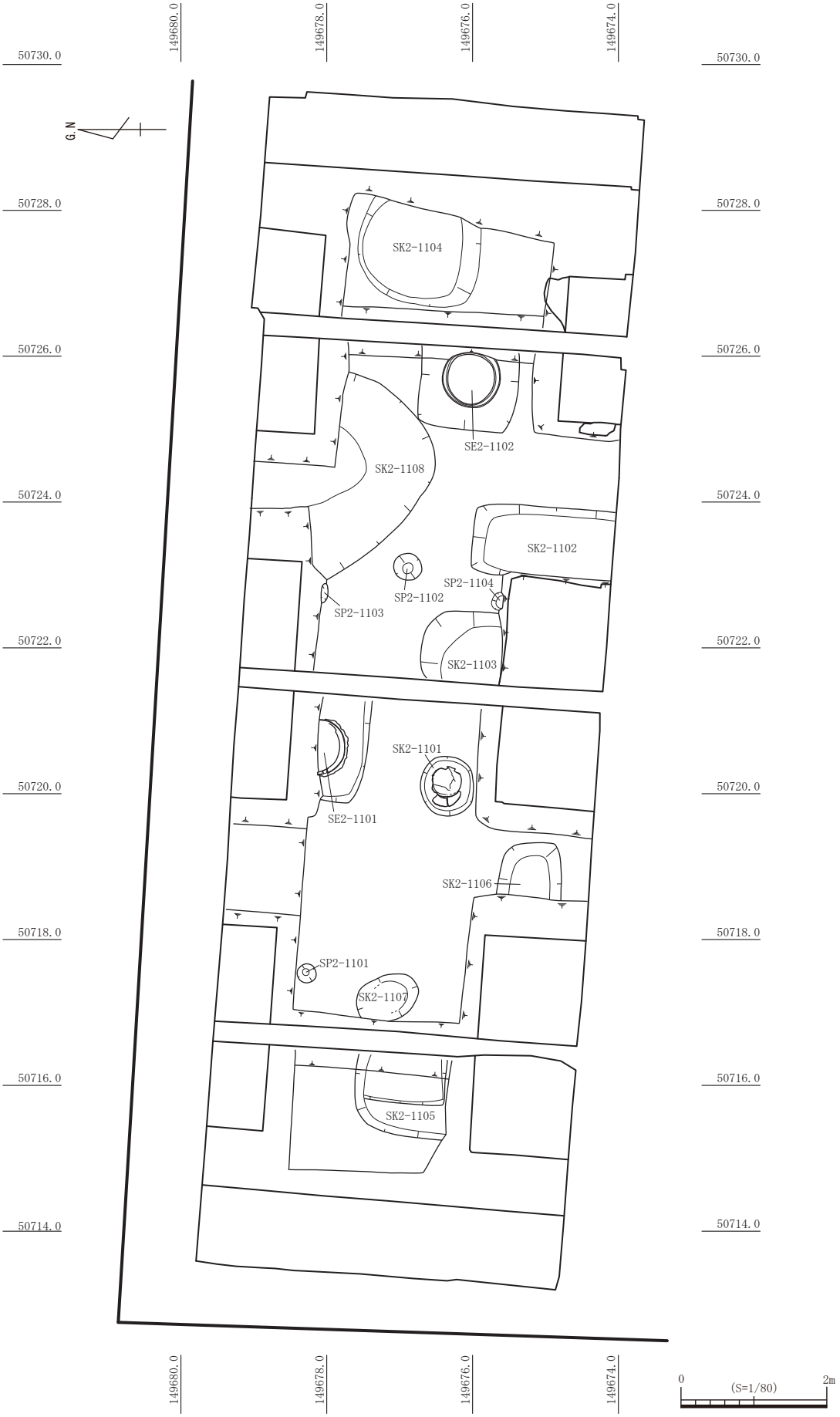
調査区中央やや東寄りにおいて検出した土坑で、西側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 1.47 ｍである。平面形は長方形を呈し、長辺 1.93 ｍ以上、短辺 0.98 ｍ、深さ 0.29 ｍを測る。埋土は４層に分層され、焼土と炭を含む。底面はほぼ平坦である。所属時期は出土遺物より 18 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶磁器碗、土師質土器小皿がある。98 は軒丸瓦で、佐藤分類Ⅳ類 62 に類似する。99 は菊丸瓦で、佐藤分類Ｉ類３である。

ＳＫ２－ 1103（第 34 図）

調査区中央において検出した土坑で、西側と南側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 1.43 ｍである。平面形は隅丸方形と推測され、直径 1.10 ｍ以上、深さ 0.24 ｍを測る。埋土は５層に分層され、第５層を除き焼土と炭を含む。底面はほぼ平坦である。所属時期は出土遺物より 18 世紀後半と考えられる。

出土遺物は陶器碗、同瓶、丸瓦があるが、図化できたものはない。

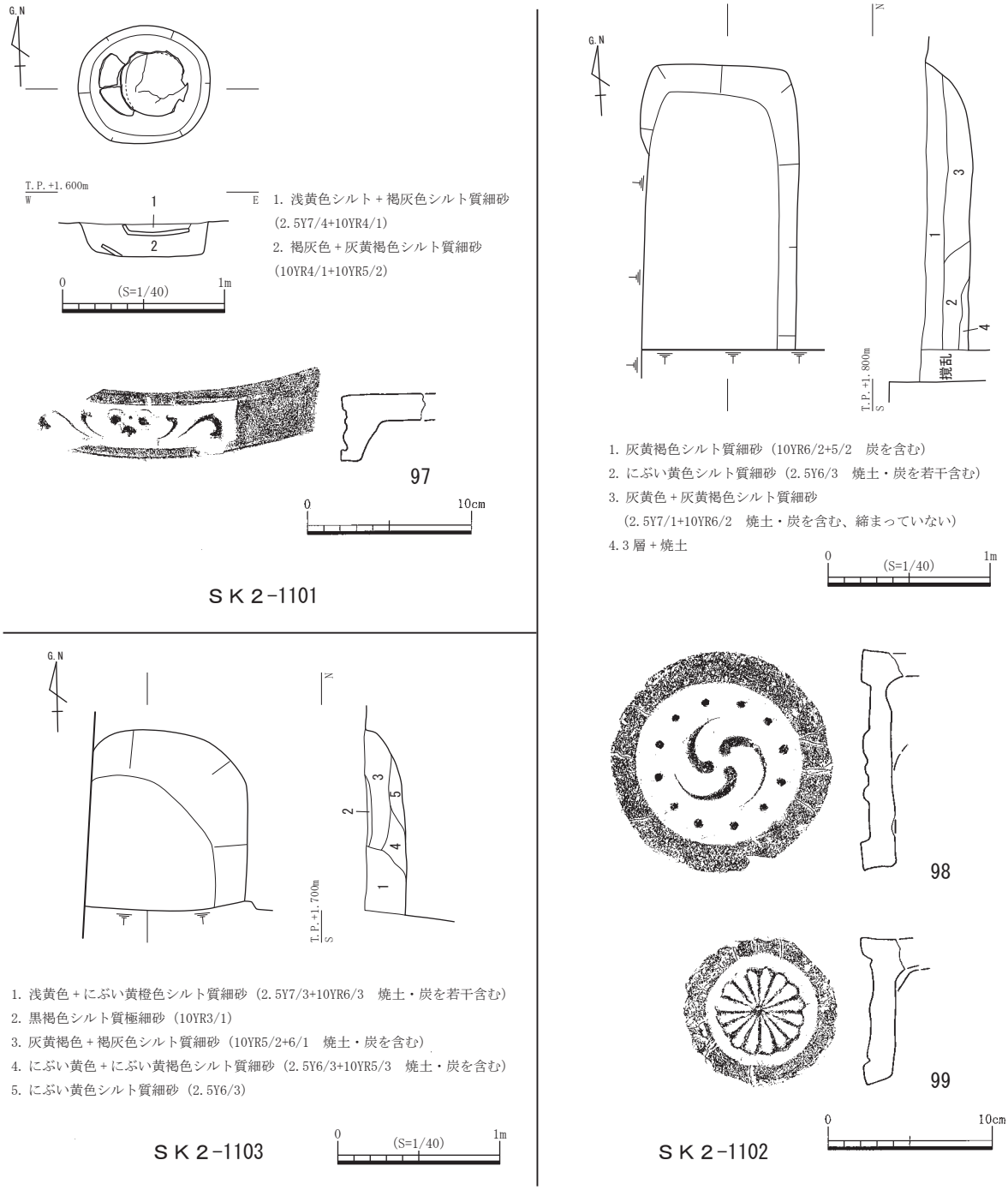


第 33 図　２工区第１遺構面遺構配置図

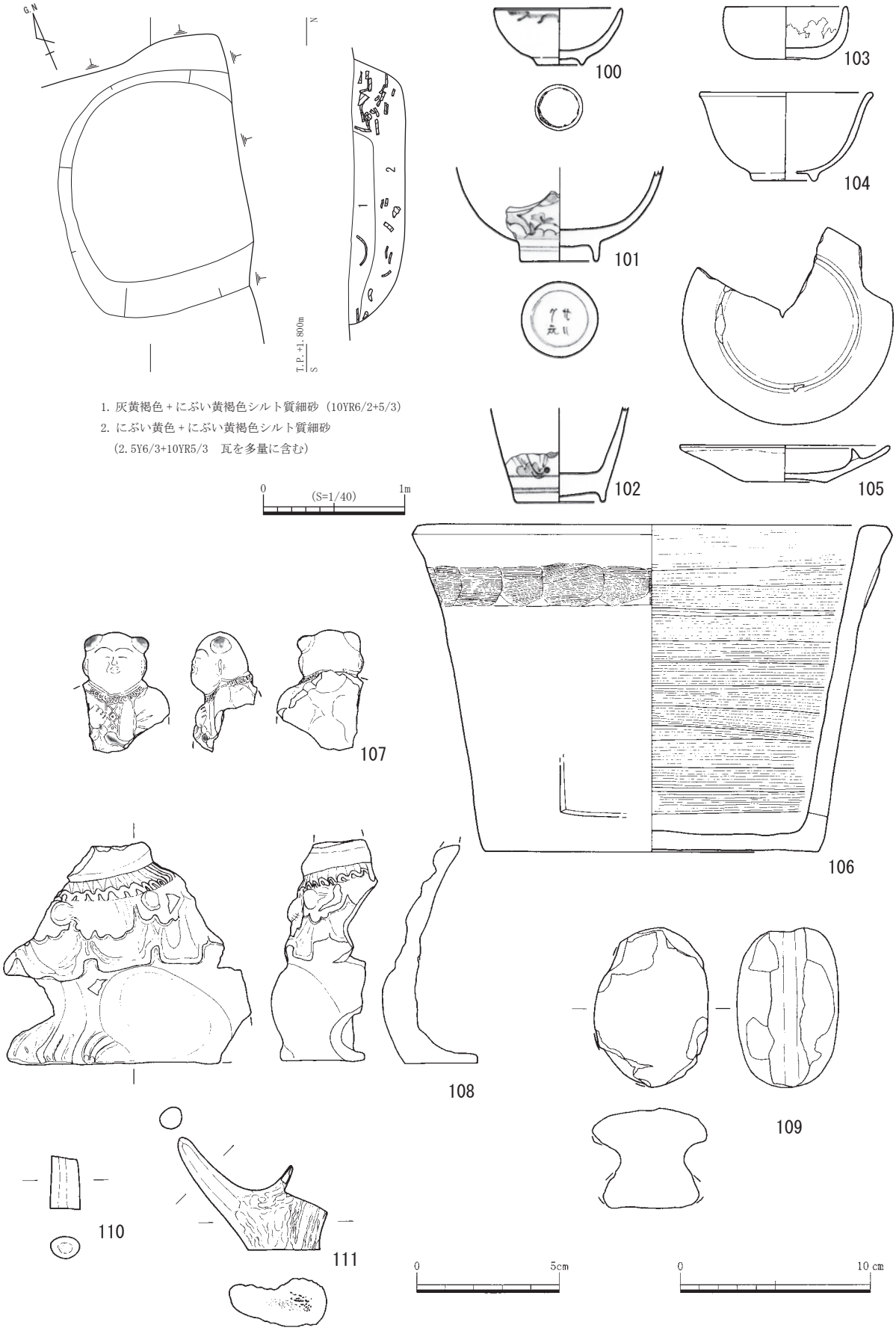
ＳＫ２－1104（第35・36図）

調査区東端において検出した。調査時に土坑と判断したので土坑と報告するが、ＳＤ2-3303の最終埋没の落ち込みの可能性が高い。検出面の標高は1.49ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径1.67ｍ、深さ0.38ｍを測る。埋土は２層に分層され、多量の瓦を含む。底面はほぼ平坦である。所属時期は出土遺物より18世紀後半～19世紀初頭と考えられる。

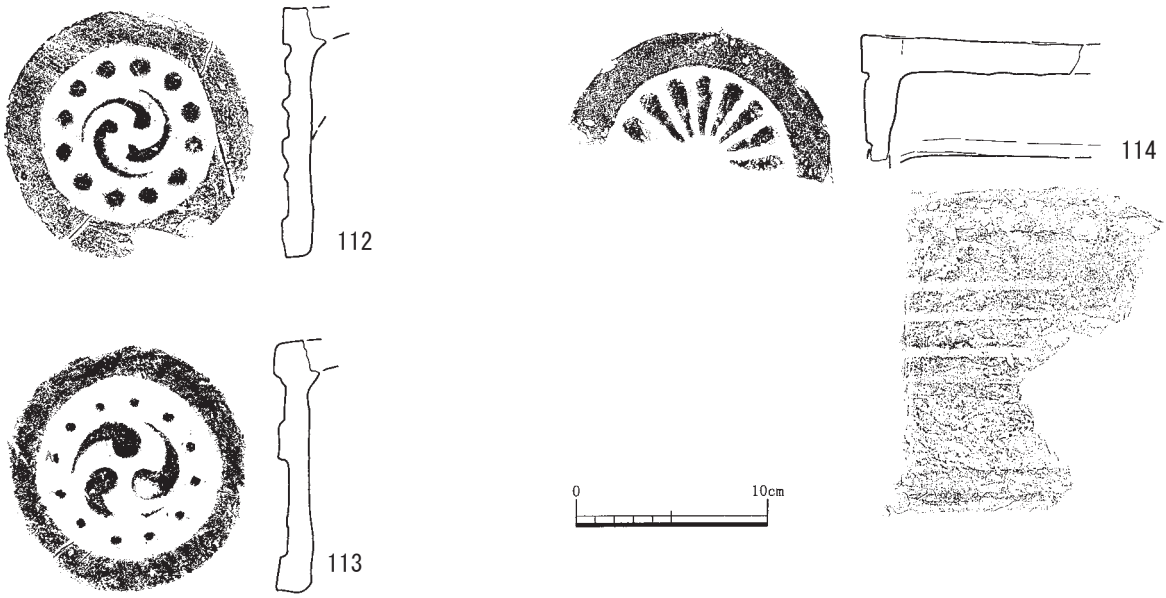
100は肥前系磁器酒盃で、外面に笹文の染付が見られる。畳付に砂目が付着している。101は肥前系磁器碗で、外面に牡丹の文様が描かれている。高い高台の内側には非常に崩れた文字の銘款が記される。102は肥前系磁器中瓶であり、外面に草花文と圏線が描かれている。畳付に砂目が付着する。103は京・信楽系陶器小鉢であり、内面に漆と考えらる焦げ茶色の付着物があり、掻き取った跡が明瞭に残る。104は京・信楽系陶器小碗である。105は備前焼陶器灯明皿の受皿であり、内面は塗土されている。受け部の開口部は１カ所である。106は土師質土器七輪で、体



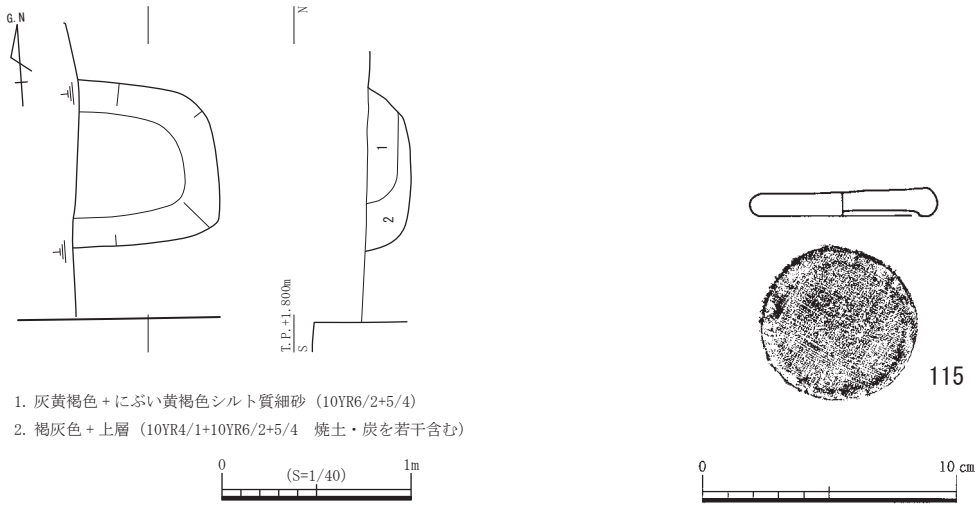
第34図　ＳＫ２-1101～1103平・断面図、出土遺物実測図



第 35 図　ＳＫ２-1104 平・断面図、出土遺物実測図（１）



第36図　ＳＫ２-1104出土遺物実測図（２）



第 37 図　ＳＫ２-1106 平・断面図、出土遺物実測図

部下位に方形の窓を有している。体部は直線的に立ち上がり、口縁部の下に幅広いが非常に低い凸帯を巡らせている。内面の調整は明確な横方向のハケである。107 は陶器の人形である。108 は土師質土器玩具で、頭部を欠損するが獅子と思われる。製作方法は型合わせである。109 は有溝土錘で、重さ 247 g である。110・111 は鹿の角であり、両端が人為的に切断されている。112・113 は軒丸瓦で、瓦当裏面にカキメをつける接合方法であり、瓦当裏面の調整は弱いナデの後に顎周辺の円周にナデが施されている。112 は佐藤分類のⅣ類 177、113 はⅣ類 202 に類似する。114 は大型の菊丸瓦で、凹面はコビキＢとタタキが残る。佐藤分類のⅢ類 23 である。

ＳＫ２－ 1106（第 37 図）

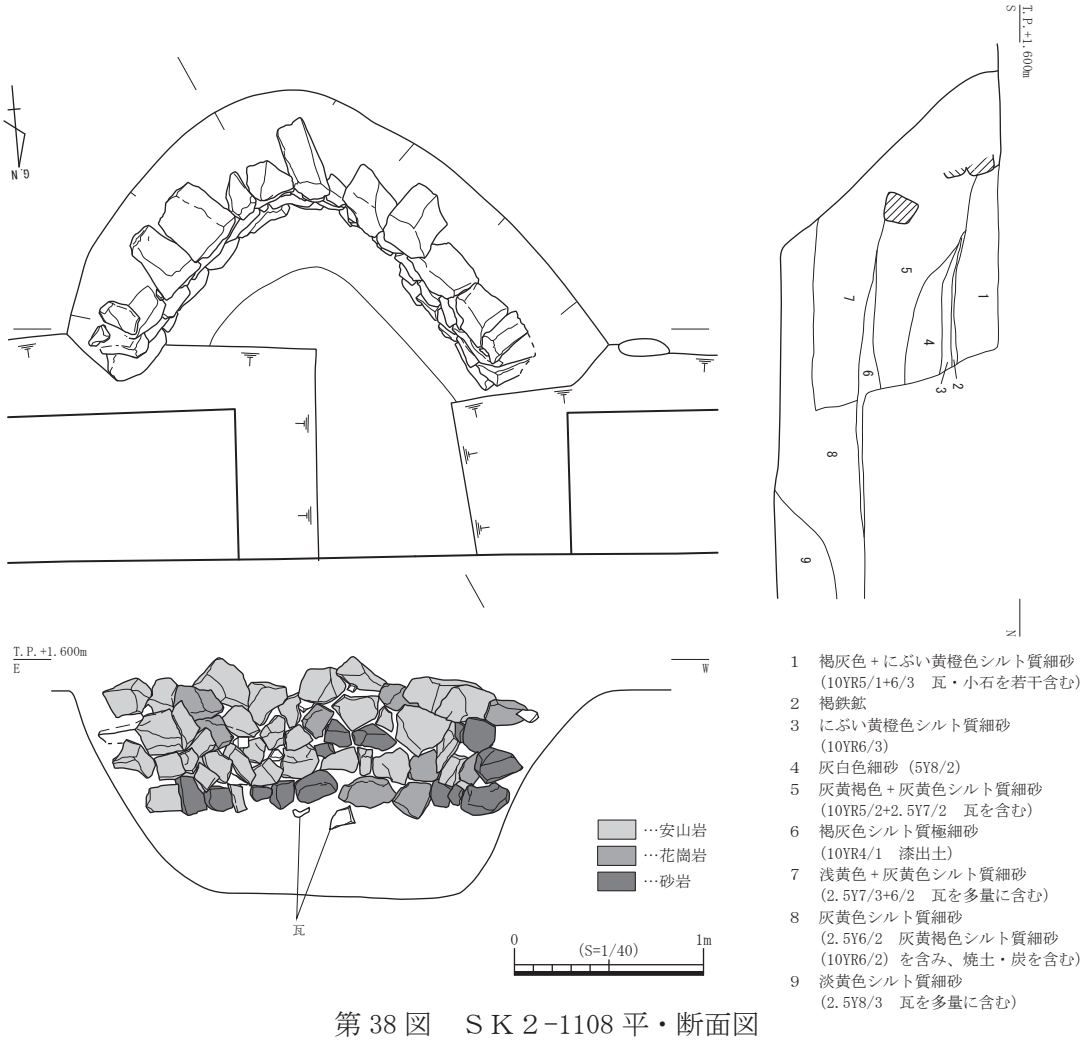
調査区中央やや西寄りにおいて検出した土坑であり、西側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 1.41 ｍである。平面形は隅丸長方形と推定され、長辺 0.74 ｍ以上、短辺 0.85 ｍ、深さ 0.24 ｍを測る。埋土は２層に分かれ、下層には焼土・炭化材が若干含まれる。所属時期は出土遺物より 19 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿がある。115 は土師質土器焼塩壷の蓋で、内面には布目が残る。

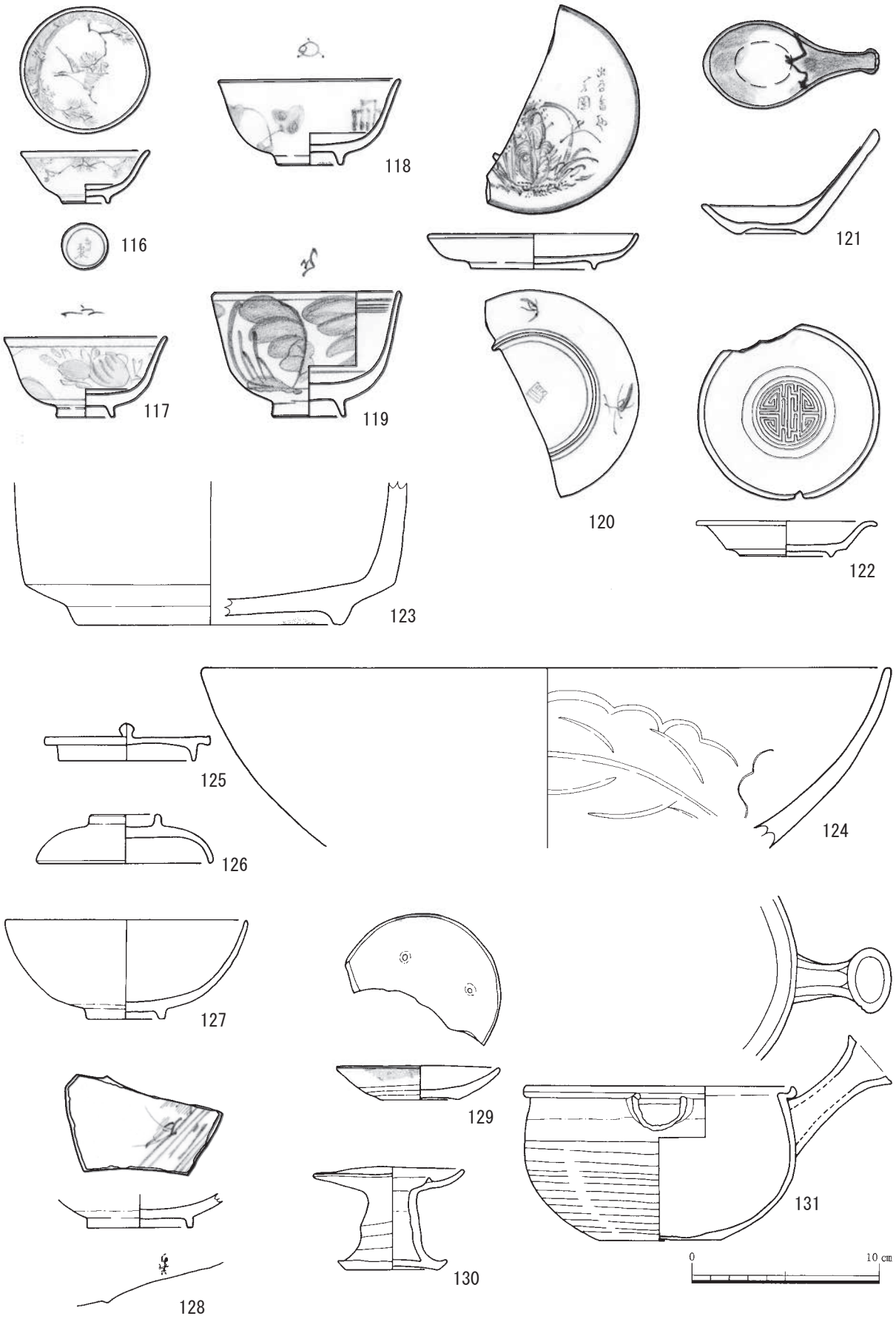
ＳＫ２－1108（第 38 ～ 41 図）

調査区中央東寄りにおいて検出した土坑であり、発掘調査時では石組みのあることから井戸と判断し、ＳＥ２－1103 の遺構番号を付けたが、石組みが底面まで達していないことから報告書には土坑として報告する。検出面の標高は 1.50 m前後である。北側はコンクリート基礎により削平されているため平面形全体は検出できなかったが、石組みの形から掘り方は隅丸方形を呈すると推定される。残存する規模は南北方向 2.50 m以上、東西方向 2.86 mを測る。検出面から底面までの深さは 1.15 mであり、コンクリート基礎より深い位置まで遺構の掘り込みが達しているが、コンクリートを撤去できないため全域の調査は実施できなかった。残存する石組みの平面形は方形を呈し、中央部に角としての変化点がある。石組みの現存長は約 2.80 m、深さ約 0.80 mを測り、土坑掘り方の上半部に石組みが見られる。石組みは自然石を使用した乱積みである。石材は安山岩を中心に花崗岩・砂岩の３種類である。石組み内側の埋土は９層に分けられ、自然堆積を示している。すべての層から陶磁器や瓦が多量に出土した。所属時期は 18 世紀後半～ 19 世紀後半と考えられる。

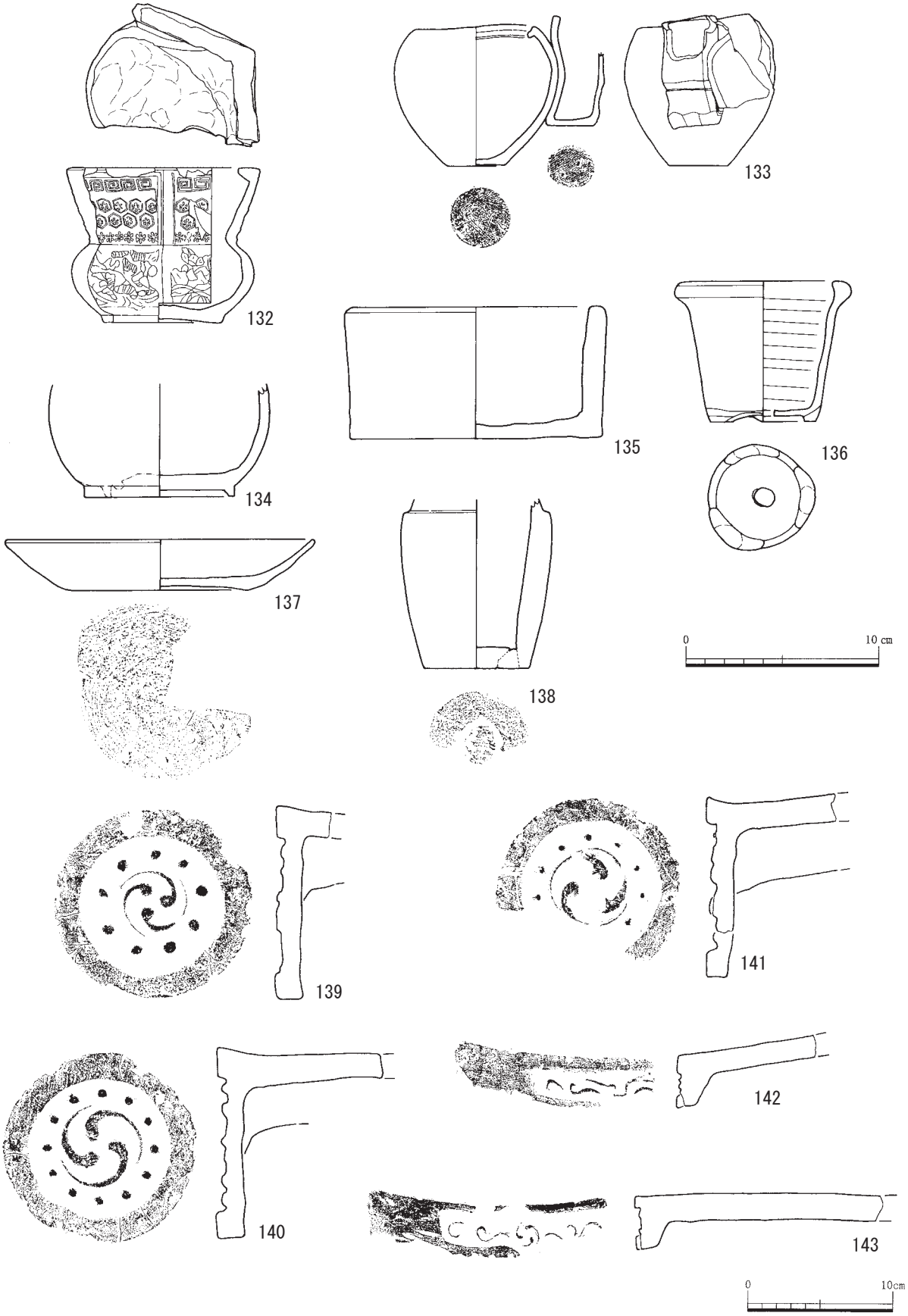
出土遺物は図化した以外に多量の陶磁器・瓦、漆椀、鉄、植物遺体がある。漆椀は非常に遺存状態が悪く図化できるものはない。116 は瀬戸・美濃系磁器酒盃で、外面に松、内面に松と鶴が描かれ、高台内に銘款が見られる。117 は肥前系磁器碗で、見込みに記号が見られる。118 は瀬戸・美濃系磁器碗で、外面に草花文と「ヨ」字状連続文、見込みに宝文が描かれている。畳付に砂目が残る。119 は瀬戸・美濃系磁器碗で、高台が高い。外面に草花文、見込みに記号が描かれている。120 は肥前系磁器皿で、外面に草文、内面に草花文が描かれ、高台内に１重方形枠内に変形字銘が見られる。121 は磁器散り蓮華。122 は白磁皿で、口縁部が大きく外反する。見込みに陰刻の



第 38 図　ＳＫ２-1108 平・断面図

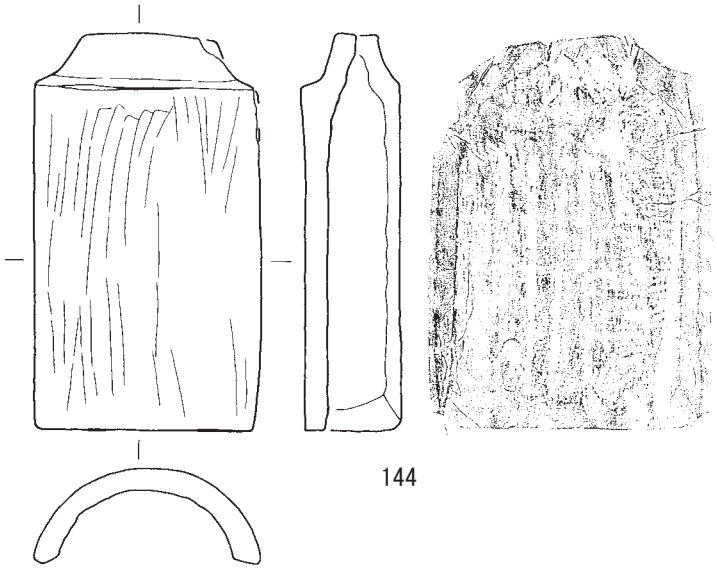


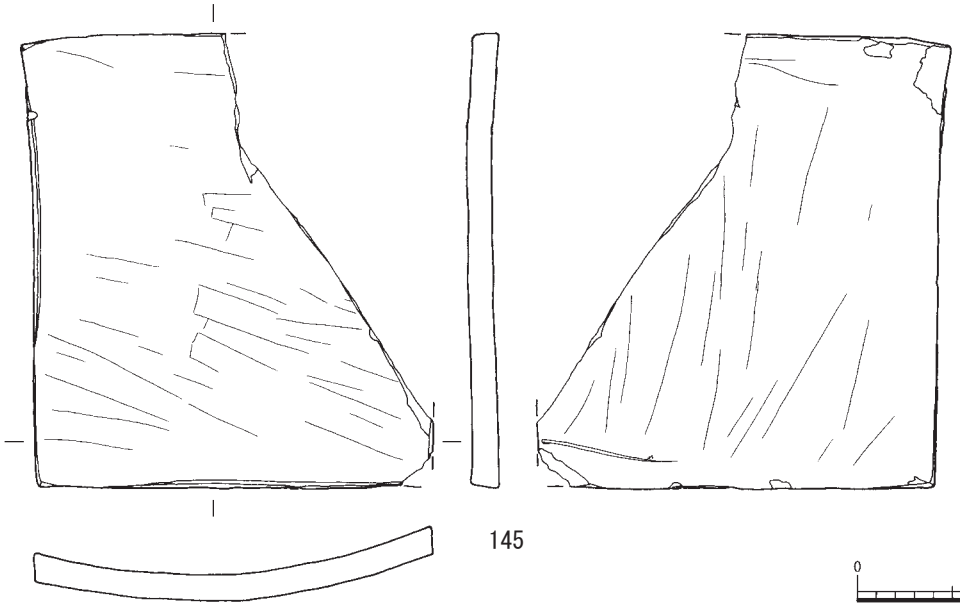
第39図　ＳＫ２-1108出土遺物実測図（１）



第40図　ＳＫ２-1108出土遺物実測図（２）

幾何学文が見られる。123 は青磁水鉢で、畳付と高台内側に砂目が若干付着している。124 は青磁鉢で、口径 36.4 ㎝を測る。内面に片刃彫りの文様が見られる。125 は肥前系陶器蓋。126 は陶器蓋で、見込みに蛇ノ目釉剥ぎが見られる。127 は京･信楽系陶器碗で、理兵衛焼の可能性もある。128 は京・信楽系陶器皿で、見込みに水文が描かれ、高台内に刻印が見られる。129 は陶器灯明皿で、体部外面にヘラケズリが施されている。内外面に重ね焼き痕が見られ、見込みに２個のピン痕が残る。口縁部外面には煤が付着している。130 は陶器の灯明受皿で、受け部の開口部は１カ所である。131 は軟質施釉陶器の行平で、体部外面下半には回転ヘラナデが施されている。底部から体部下位にかけて煤が付着している。132 は輸入陶器の香炉であろう。底部は円形であるが、体部と口縁部は六角形となっている。製作方法は型合わせであり、接合痕が明瞭に残る。口縁部外面全体に３種類の陰刻が見られ、上位より雷文、亀甲花弁文、花弁文である。体部外面には花文が彫られている。133 は備前焼陶器小壺であり、直径 2.5 ㎝の円筒が付いている。本体と円筒の底部の切り離しは回転糸切りである。134 は輸入灰釉陶器壺である。135 は備前焼陶器火入で、口縁端部と底部周辺に重ね焼き痕が見られる。136 は備前焼陶器植木鉢で、口縁部が肥大している。高台には抉りが３カ所入っている。137 は土師質土器皿で、口径 15.8 ㎝、底径 9.1 ㎝を測る。底部の切り離しは回転糸切りである。138 は土師質土器焼塩壺で、底部外面に布目が残る。底央





第41図　ＳＫ２-1108出土遺物実測図（３）

部充填により接合痕が明確に残る。

139 ～ 141 は軒丸瓦である。139 は瓦当裏面の調整は弱いナデ・指頭圧の後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類 91 である。140 は巴文が大きく、瓦当裏面の調整はナデ・指頭圧の後に周縁にナデを施している。凹面にはゴザ目・コビキＢが残る。佐藤分類Ⅳ類 76 である。141 は珠径が小さく、巴尾部が繋がっている。瓦当裏面の調整は弱い指頭圧の後に周縁にナデを施している。凹面には布目・コビキＢが残る。佐藤分類Ⅱ類６である。142・143 は軒平瓦である。143 の中心飾りは三巴文で、佐藤分類ＸＩＸ類 62 である。144 は玉縁式丸瓦で、凸面は縦方向の板ナデ、凹面は布目・タタキが見られる。145 は平瓦で、下端に面取りがあり、凸面に弓状圧痕が残る。

井戸

ＳＥ２－ 1101（第 42 図）

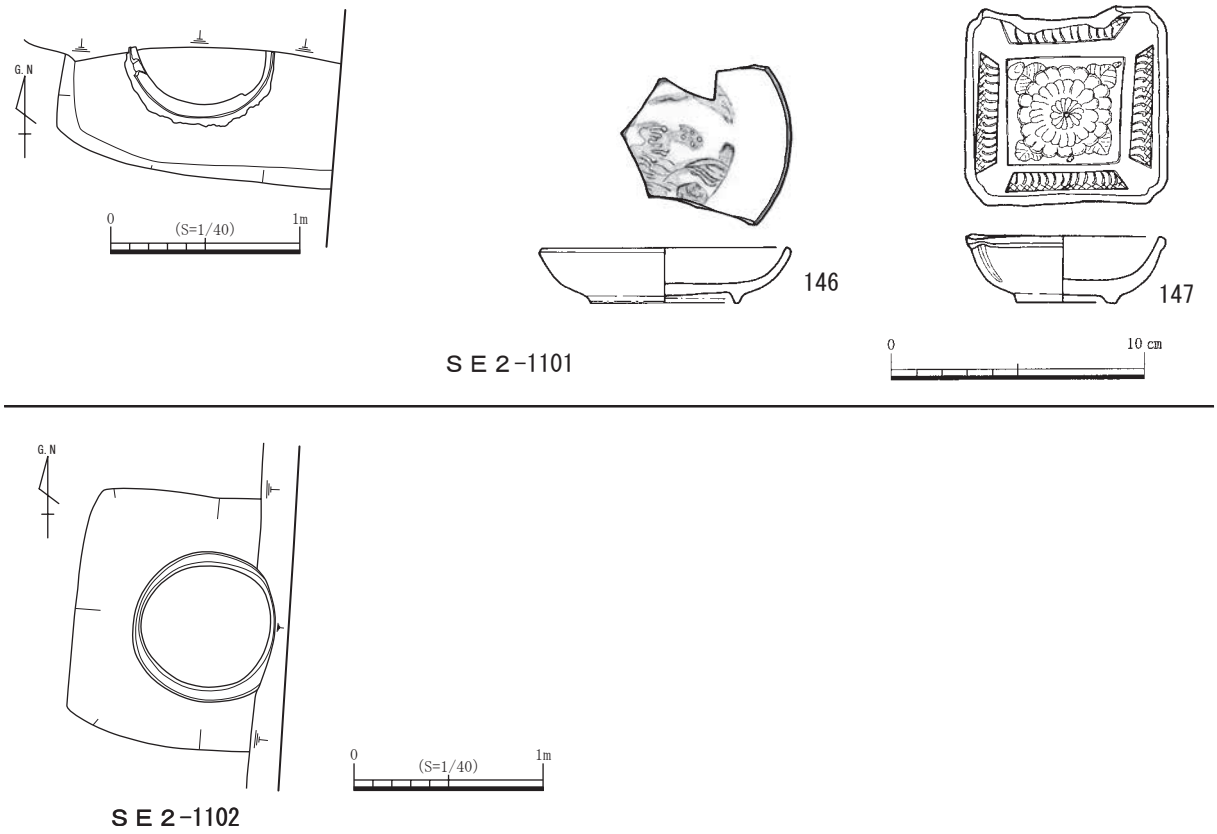
調査区ほぼ中央において検出した土器を井側とする井戸であり、北側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 1.42 ｍである。掘り方は一辺 1.40 ｍ以上の方形であり、近代以降のものであるので約 0.20 ｍだけ掘り下げた。井側は顎を有する円筒で、内径 0.60 ｍを測り、下に数段続くと考えられる。所属時期は近代以降である。

出土遺物は図化した以外に陶磁器、土師質土器、瓦、ニシガイ等がある。146 は肥前系磁器皿であり、見込みに草花文の染付が見られる。147 は瀬戸・美濃系陶器皿であり、型作りである。

ＳＥ２－ 1102（第 42 図）

調査区東側において検出した土器を井側とする井戸であり、東側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 1.46 ｍである。掘り方は一辺 1.35 ｍの方形であり、近代以降のものであるので約 0.20 ｍだけ掘り下げた。井側は顎を有する円筒で、内径 0.60 ｍを測り、下に数段続くと考えられる。所属時期は近代以降である。

出土遺物は陶磁器、土師質土器、須恵器、丸瓦等がある。



第 42 図　ＳＥ２-1101・1102 平・断面図、出土遺物実測図

（２）第２遺構面（第 43 図）

土坑

ＳＫ２－ 2201（第 44 図）

調査区西端において検出した土坑で、ＳＰ２－ 2204 を切っており、ＳＰ２－ 2201・2202 に切られる。検出面の標高は 1.27 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 0.82 ｍ、深さ 0.19 ｍを測る。埋土はにぶい黄褐色シルト質細砂の単一層で焼土・炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀と考えられる。

出土遺物は土師質土器杯があるが図化できなかった。

ＳＫ２－ 2202（第 44 図）

調査区西端において検出した土坑で、西側と南側は攪乱により削平され、東側は第 1 遺構面ＳＫ２－ 1105 に切られている。検出面の標高は 1.27 ｍである。検出した範囲が狭いため平面形は不明であるが円形と推定できる。検出できた規模は 1.25 ｍであり、深さは 0.17 ｍである。埋土は灰黄褐色シルト質細砂の単一層で焼土・炭化材を多量に含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、同鍋、弥生土器甕、丸瓦がある。148 は花崗岩製の砥石であり、上面と下面を使用している。割れた両側面には細い溝状の使用痕がある。

ＳＫ２－ 2203（第 44 図）

調査区ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は 1.32 ｍである。平面形は楕円形を呈し、長軸 1.00 ｍ、短軸 0.76 ｍ、深さ 0.35 ｍを測る。埋土は２層あるが、灰黄褐色＋にぶい黄橙色シルト質細砂が大部分を占める。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀と考えられる。

出土遺物は陶器甕、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦があるが図化できなかった。

ＳＫ２－ 2204（第 44 図）

調査区中央西寄りにおいて検出した土坑で、西側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 1.27 ｍである。平面形は隅丸長方形を呈し、長辺 0.93 ｍ以上、短辺 0.82 ｍ、深さ 0.29 ｍを測る。埋土は２層に分かれる。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀と考えられる。

出土遺物は土師質土器小皿があるが図化できなかった。

ＳＫ２－ 2205（第 44 図）

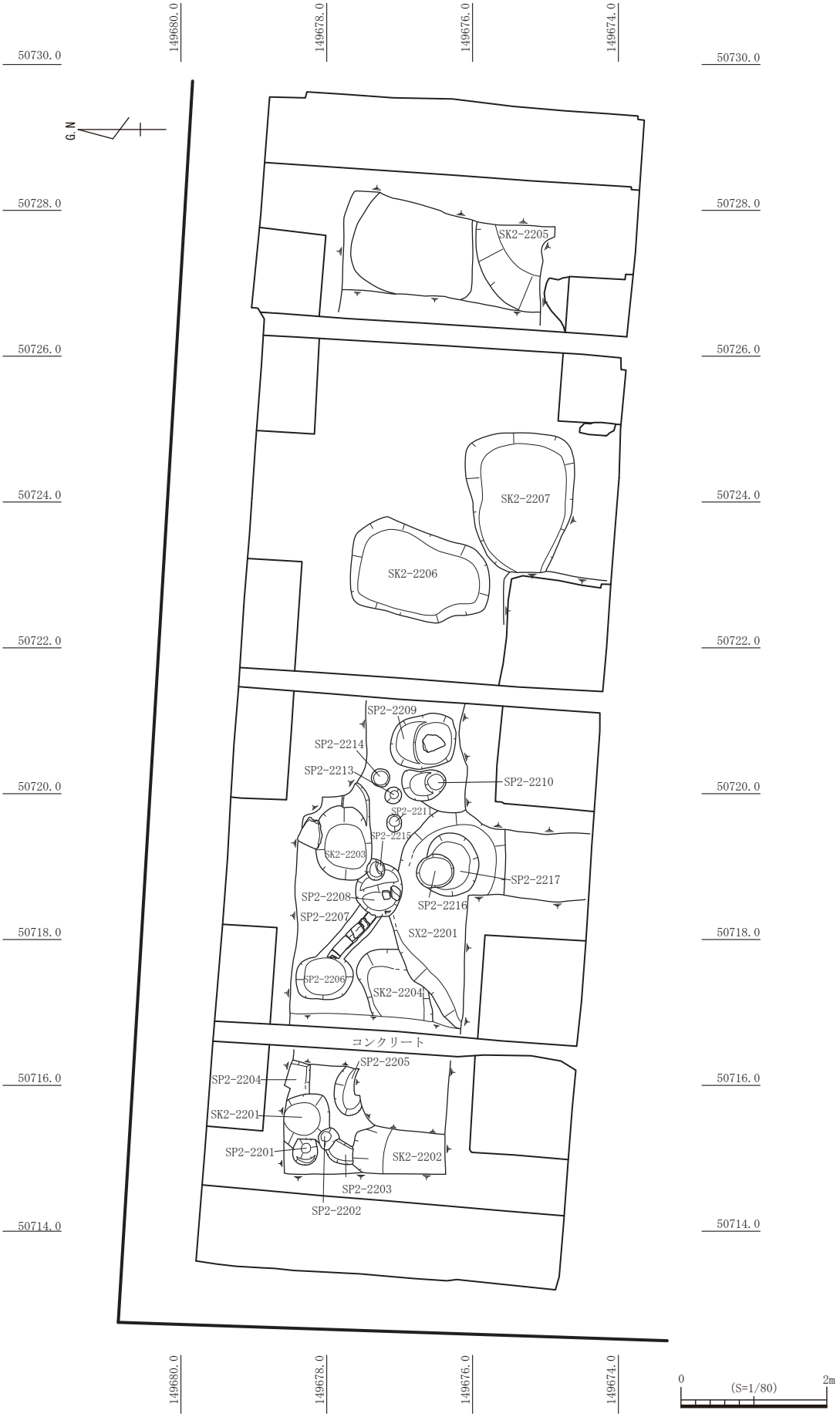
調査区東端において検出した。調査時に土坑と判断したため、土坑と報告するが、ＳＤ２-3303 の埋没の落ち込みである。検出面の標高は 1.34 ｍである。検出した範囲が狭いため平面形は不明であるが、円形と推定できる。検出できた規模は 1.17 ｍであり、深さは 0.26 ｍである。埋土は２層に別れ、大部分を占める下層は焼土・炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 19 世紀頃と考えられる。

出土遺物は陶器擂鉢、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦があるが図化できなかった。

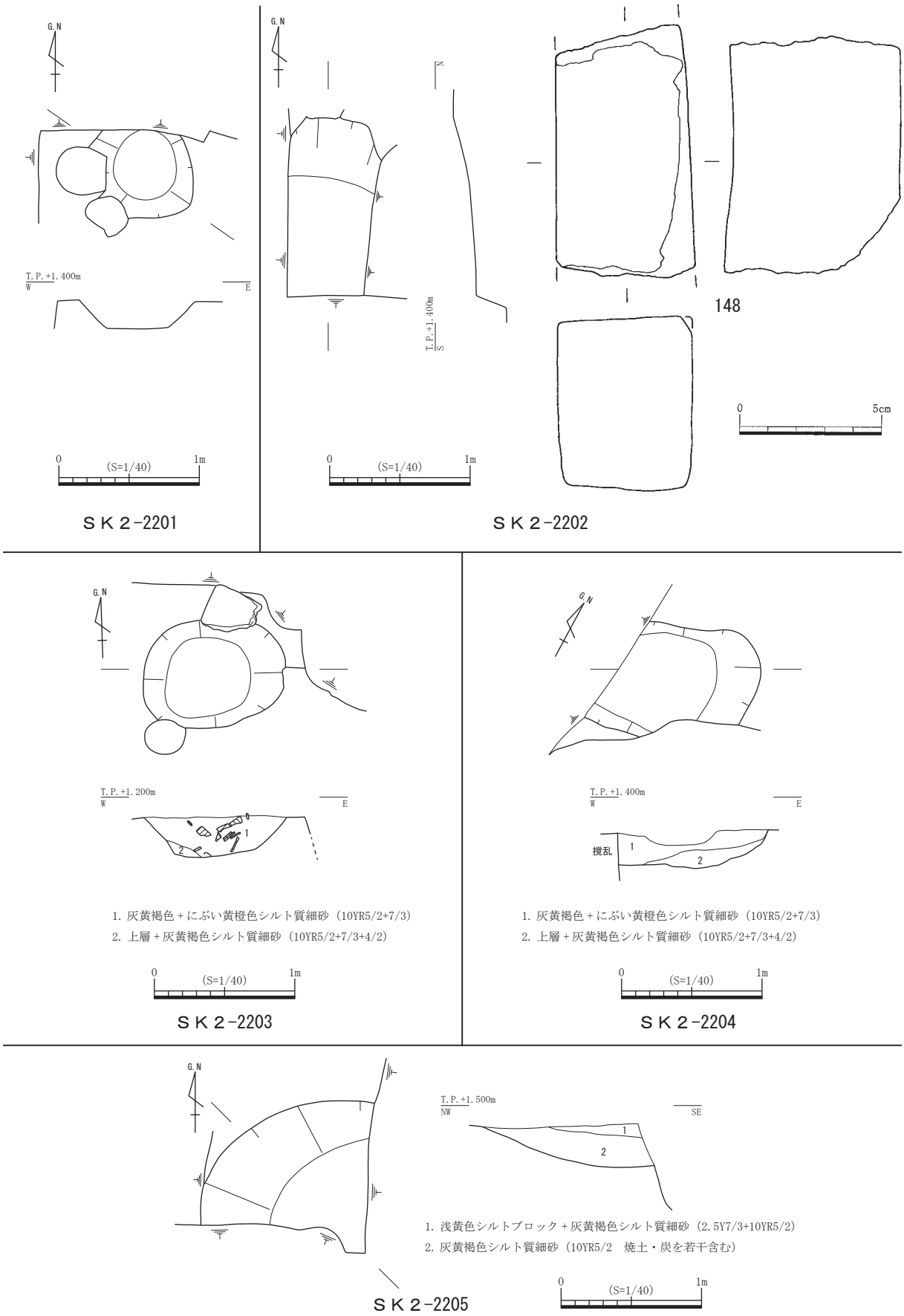
ＳＫ２－ 2206（第 45 図）

調査区中央やや東寄りにおいて検出した土坑である。検出面の標高は 1.30 ｍである。平面形は南西隅がやや括れる不整な隅丸長方形を呈し、長辺 1.92 ｍ、短辺 1.20 ｍ、深さ 0.37 ｍを測る。埋土は単一層で、瓦が多量に出土した。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀前半と考えられる。

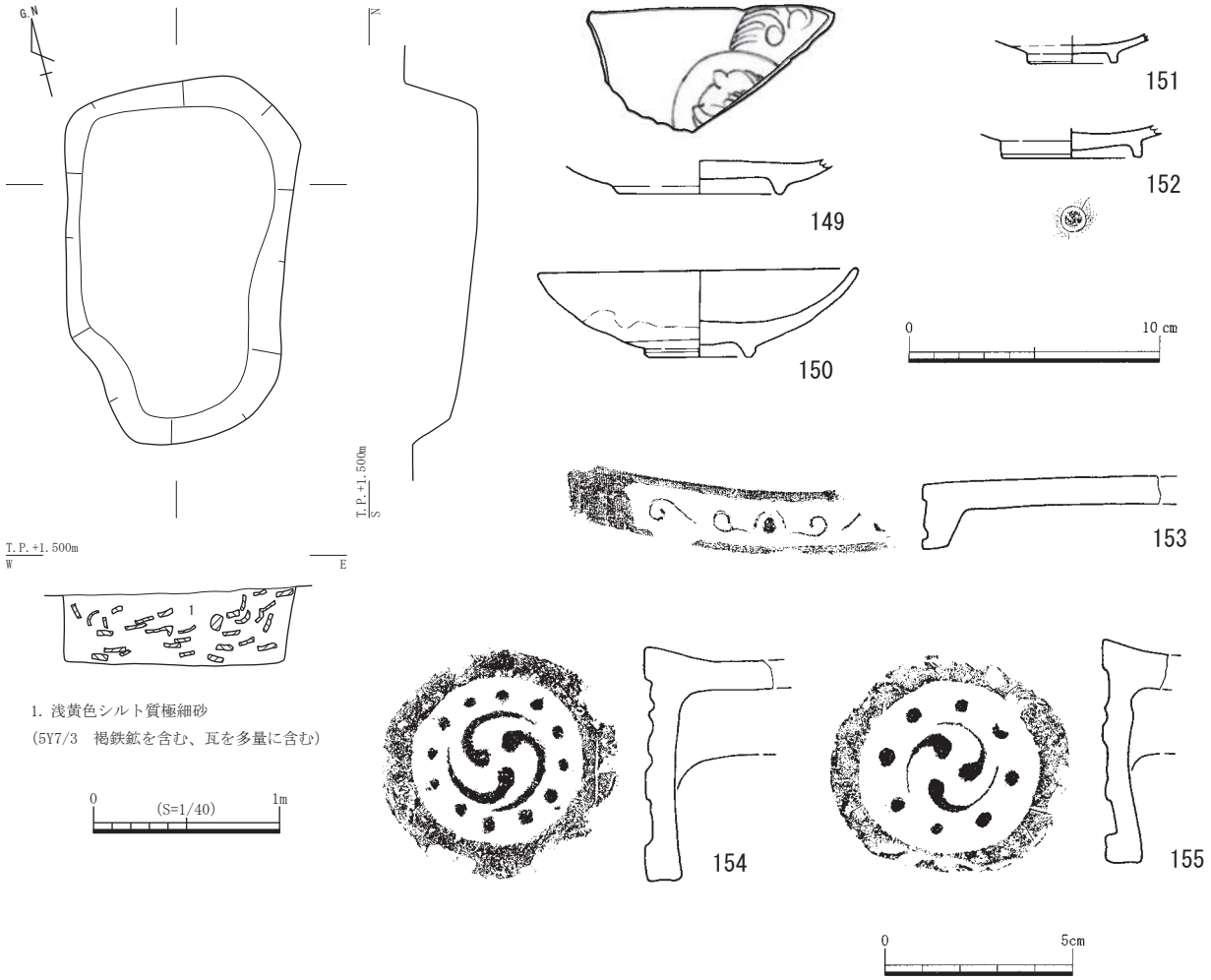
出土遺物は図化した以外に陶磁器碗、土師質土器小皿がある。149 は肥前系磁器皿で、見込みに草花文の染付が見られる。150 は肥前系陶器皿で、削り出し高台である。蛇ノ目釉剥ぎがなされ、高台と見込みに砂目が付着する。151・152 は京・信楽系陶器碗で、152 の高台内に「松吉」の刻印が見られる。153 は軒平瓦で、中心飾りは陽刻線で輪郭を表し、その内側にレリーフ状の



第 43 図　２工区第２遺構面遺構配置図



第 44 図　ＳＫ２-2201 ～ 2205 平・断面図、出土遺物実測図



第 45 図　ＳＫ２-2206 平・断面図、出土遺物実測図

宝珠文があしらわれている。佐藤分類のＸＸ類 104 である。154 は軒丸瓦で、凹面にゴザ目が残る。瓦当裏面の調整は指頭圧後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類 75 に類似する。155 は軒丸瓦で、巴尾部が短い。瓦当裏面の調整は指頭圧後に周縁にナデを施している。佐藤分類Ⅳ類 78 に類似する。

ＳＫ２－ 2207（第 46 図）

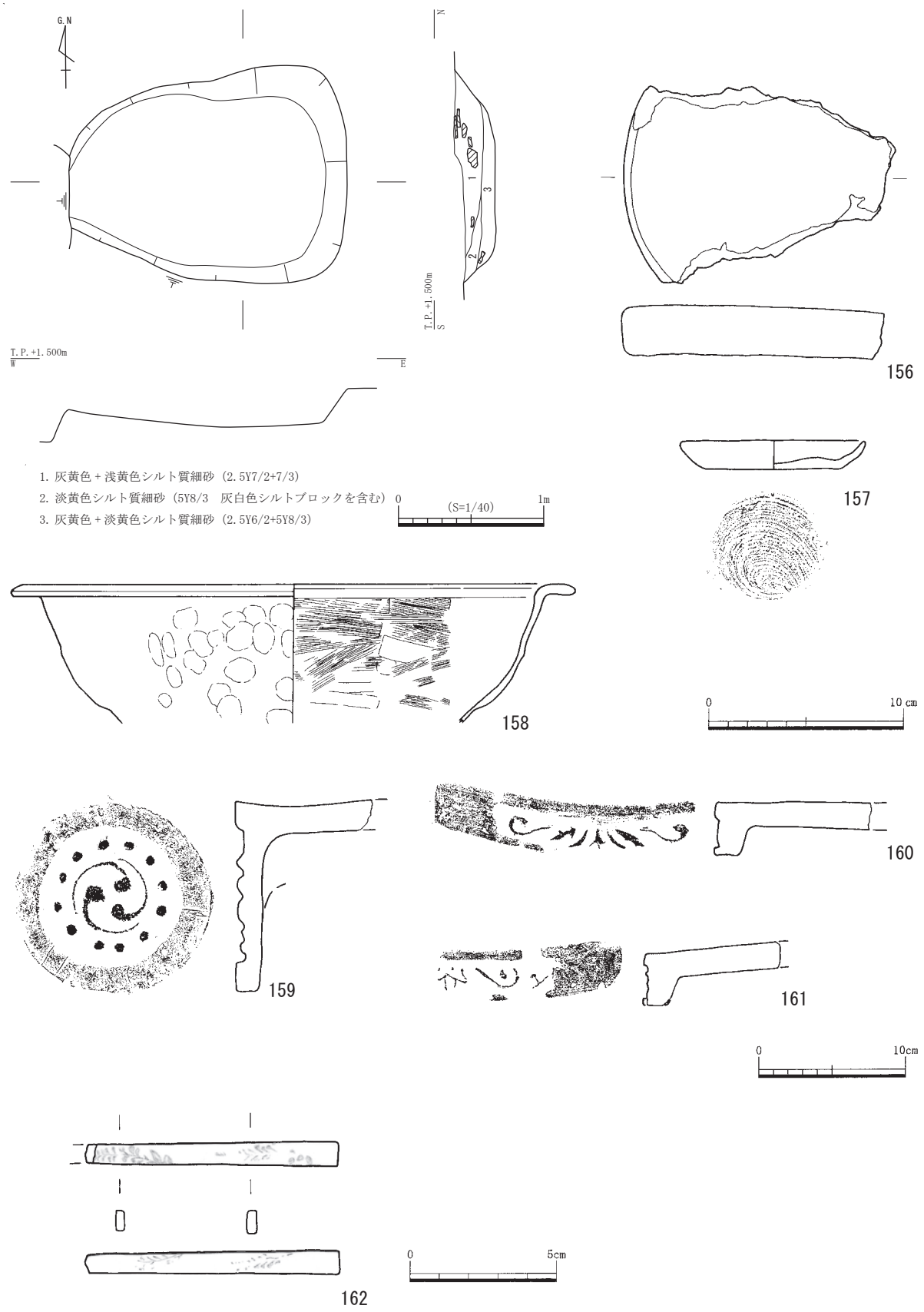
調査区中央やや東寄りにおいて検出した土坑で、西端が攪乱により削平されている。検出面の標高は1.28ｍである。平面形は西側辺が短い不整な隅丸長方形を呈し、長辺1.90ｍ以上、短辺1.43ｍ、深さ 0.26 ｍを測る。埋土は３層に分かれる。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後半（第３四半期）と考えられる。

156 は陶器蓋である。157 は土師質土器小皿で、底部の切り離しは回転糸切りである。158 は土師質土器焙烙で、体部外面は指頭圧、内面はハケ・ナデが施されている。159 は軒丸瓦で、凹面に布目が残る。瓦当裏面の調整は指頭圧後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅱ類 23 である。160 は軒平瓦で、中心飾りが棘状の輪郭の三葉文である。佐藤分類のⅥ類 21 である。161 は軒平瓦で、中心飾りが陽刻線による輪郭を持つ三葉である。佐藤分類のⅥ類 25 に類似する。162 は象牙製の笄であり、表面と裏面に草花が描かれている。

柱穴

ＳＰ２－ 2204（第 47 図）

調査区西側において検出した遺構で、ＳＫ２－ 2201 に切られ、北側は攪乱により削平されて



第 46 図　ＳＫ２-2207 平・断面図、出土遺物実測図

いる。形状的には土坑の可能性も考えられるが、柱穴として報告する。検出面の標高は 1.26 m である。検出範囲が狭いため平面形・規模は不明であるが、方形と考えられる。深さは 0.36 m である。埋土は灰黄褐色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀末～ 18 世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿がある。163・164 は土師質土器小皿であり、口縁部がやや歪である。底部の切り離しは回転糸切りである。165 は土師質土器羽釜で、顎は接合面において剥離している。外面は指頭圧後にハケ・ナデ、内面はハケが施されている。

ＳＰ２－ 2206（第 48 図）

調査区中央西寄りにおいて検出した柱穴で、ＳＰ２－ 2207 と連結している。検出面の標高は 1.30 mである。平面形は円形を呈し、直径 0.78 m、深さ 0.28 mを測る。埋土は２層に分けられる。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀末～ 18 世紀前半と考えられる。

出土遺物は陶磁器碗、土師質土器小皿、丸瓦、土錘があるが、図化できるものはない。

ＳＰ２－ 2207（第 48・49 図）

調査区中央西寄りにおいて検出した。柱穴として報告するが、形状的にはＳＰ２－ 2206 と 2208 を繋ぐ溝状遺構である。検出面の標高は 1.30 mである。幅は 0.32 m、深さ 0.07 mを測る。丸瓦を２段に並べて土管状にしている。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀末～ 18 世紀前半と考えられる。

出土遺物は丸瓦のみである。169 ～ 171 は完形の玉縁式丸瓦である。169 は凸面下端に指オサエがあり、凹面には布目・コビキＢ・タタキが残る。170 は玉縁上端と凸面下端を面取りしており、凹面には布目・コビキＢが残る。171 は凹面に布目・コビキＢ・タタキが残る。

ＳＰ２－ 2208（第 48 図）

調査区中央西寄りにおいて検出した柱穴で、ＳＰ２－ 2207・ＳＫ２－ 2203 と連結しており、ＳＰ２－ 2215・ＳＸ２－ 2201 を切っている。検出面の標高は 1.30 mである。平面形は円形を呈し、直径 0.70 m、深さ 0.27 mを測り、東側に段を有する。埋土は単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀末～ 18 世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、平瓦がある。168 は備前焼陶器火入であり、外面に工具痕が残り、底部にヘラ記号が見られる。

ＳＰ２－ 2209（第 47 図）

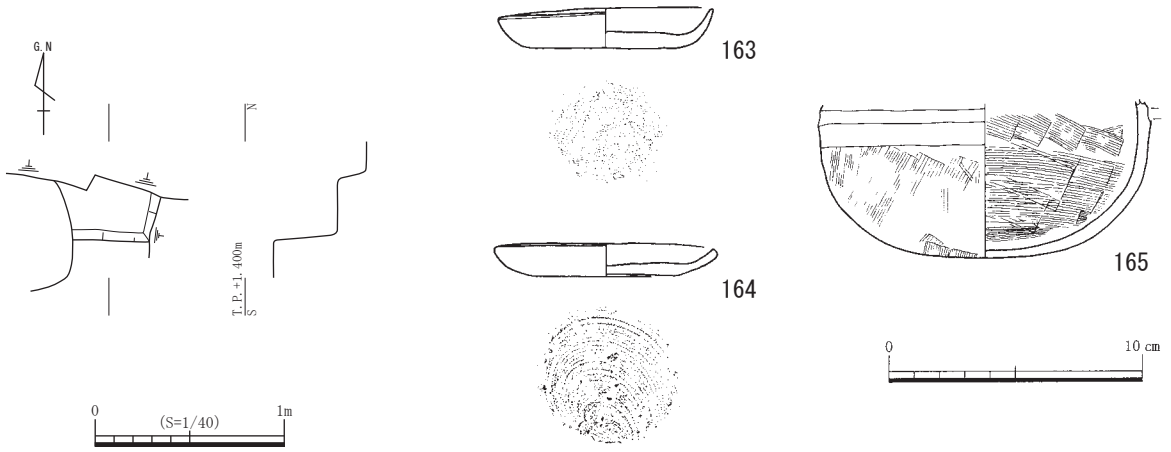
調査区中央において検出した柱穴である。検出面の標高は 1.30 mである。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.90 m、短軸 0.72 m、深さ 0.23 mを測る。北側に段を有し、上方に板状の石が出土した。埋土は単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀末～ 18 世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶器瓶、土師質土器小皿、瓦器椀がある。166 は輸入陶器皿で、内外面に貫入が見られる。内面に草花文と鱗状文様の染付が見られる。

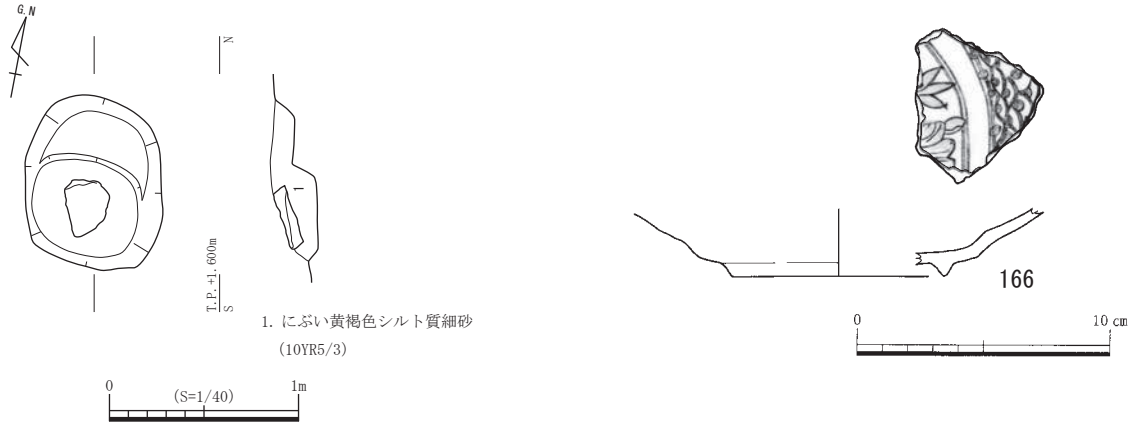
ＳＰ２－ 2216（第 47 図）

調査区ほぼ中央において検出した柱穴で、ＳＸ２－ 2201 に切られ、ＳＰ２－ 2217 を切っている。検出面の標高は 1.20 mである。平面形は円形を呈し、直径 0.52 m、深さ 0.50 mを測る。埋土は２層に分かれる。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀末～ 18 世紀前半と考えられる。

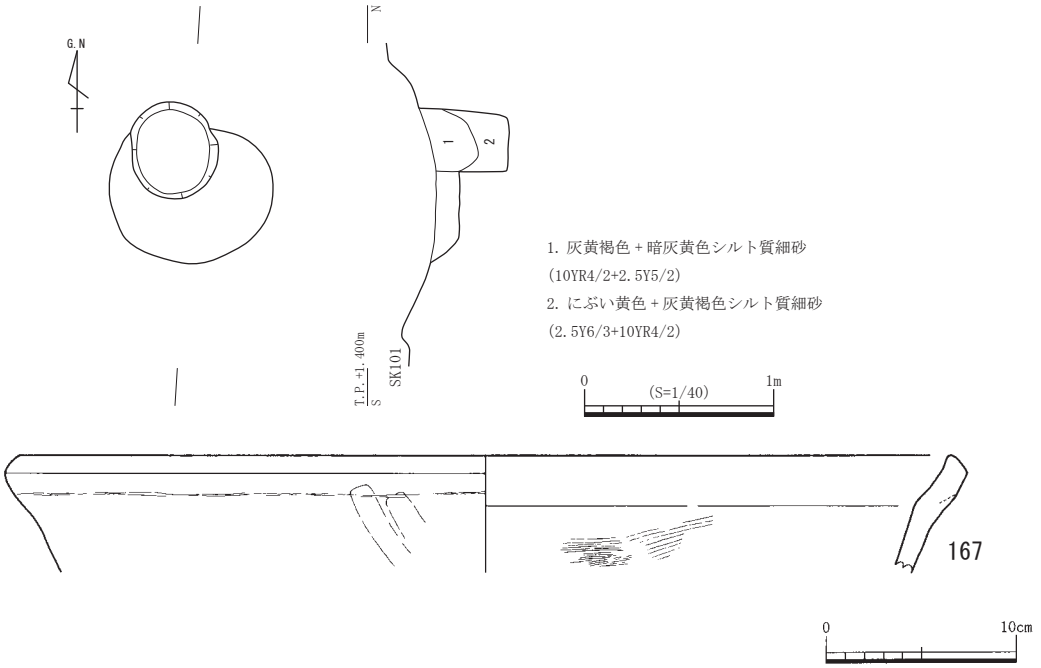
出土遺物は図化した以外に備前焼陶器甕、土師質土器小皿、同鍋である。167 は土師質土器甕である。



ＳＰ２-2204

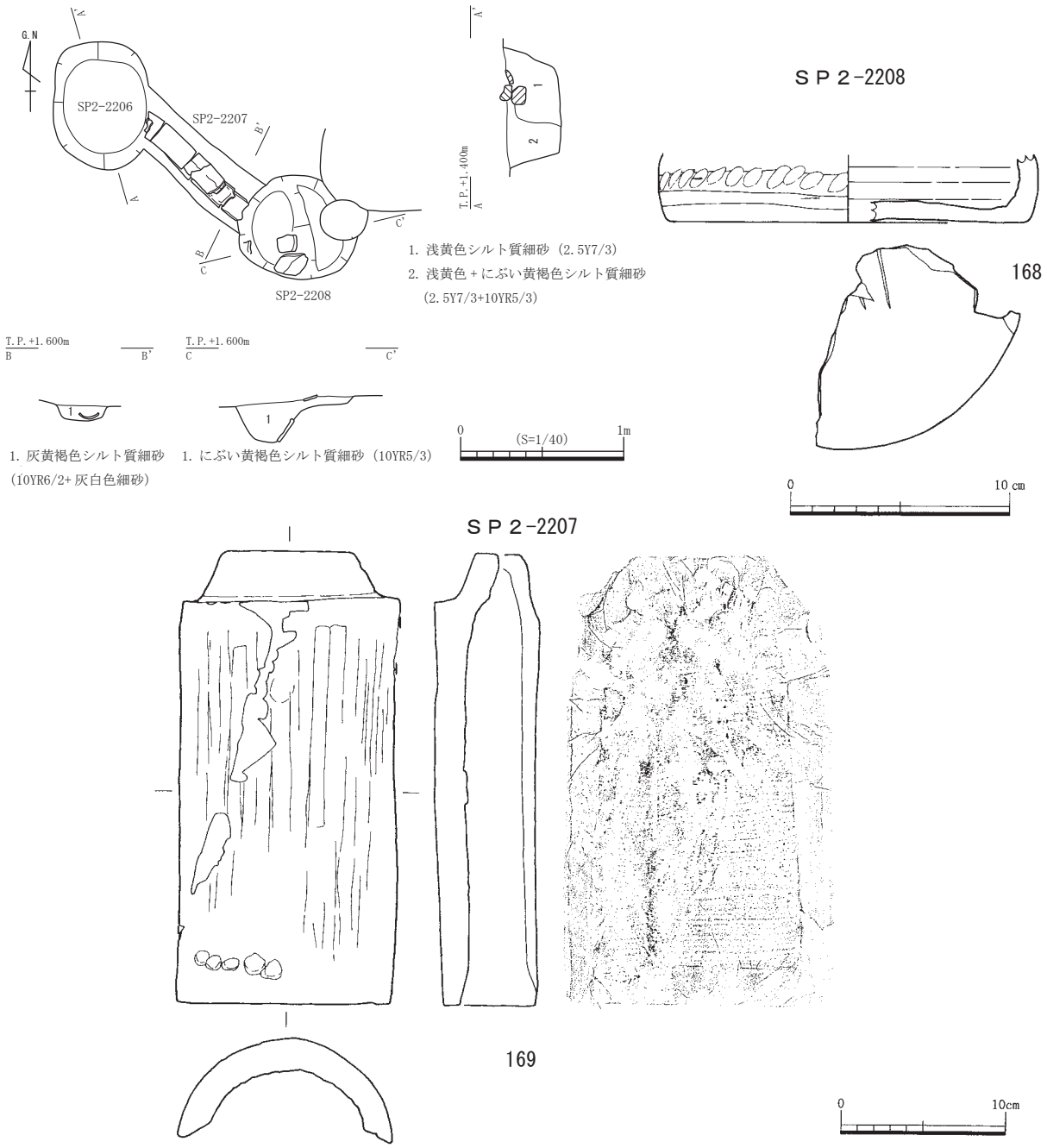


ＳＰ２-2209



ＳＰ２-2216

第 47 図　ＳＰ２-2204・2209・2216 平・断面図、出土遺物実測図



第 48 図　ＳＰ２-2206 ～ 2208 平・断面図、出土遺物実測図（１）

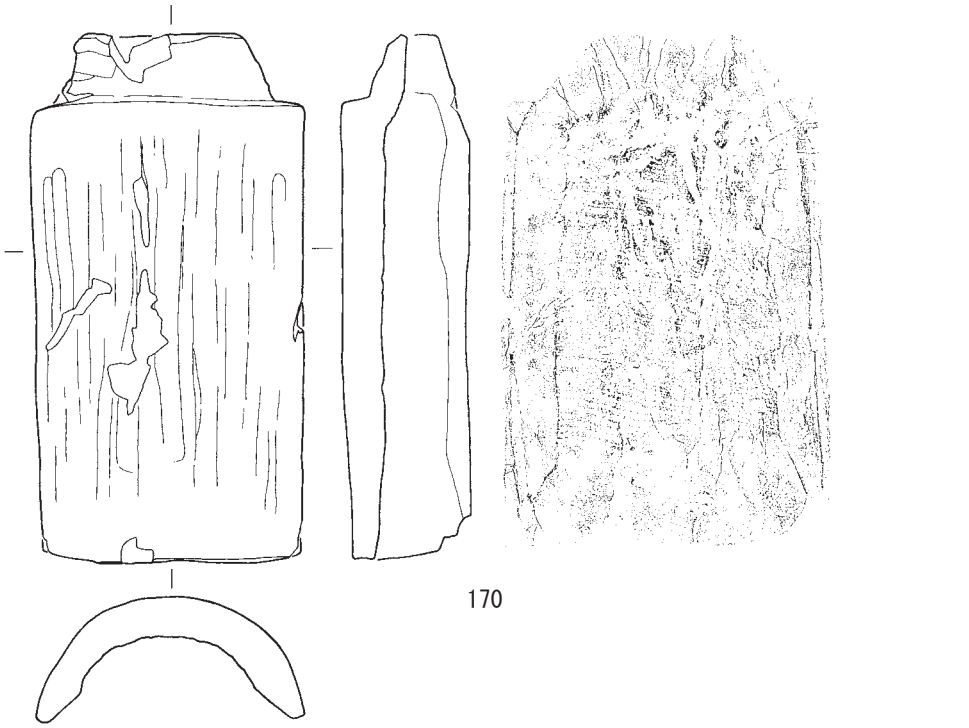
（３）第３遺構面（第 50 図）

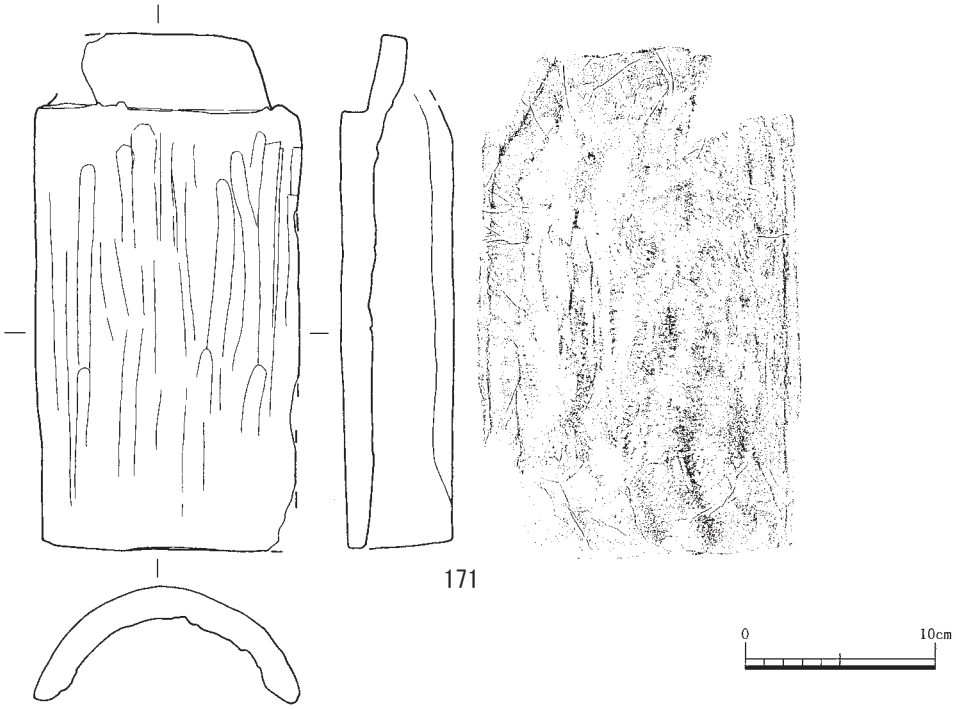
溝

ＳＤ２－ 3301（第 51 図）

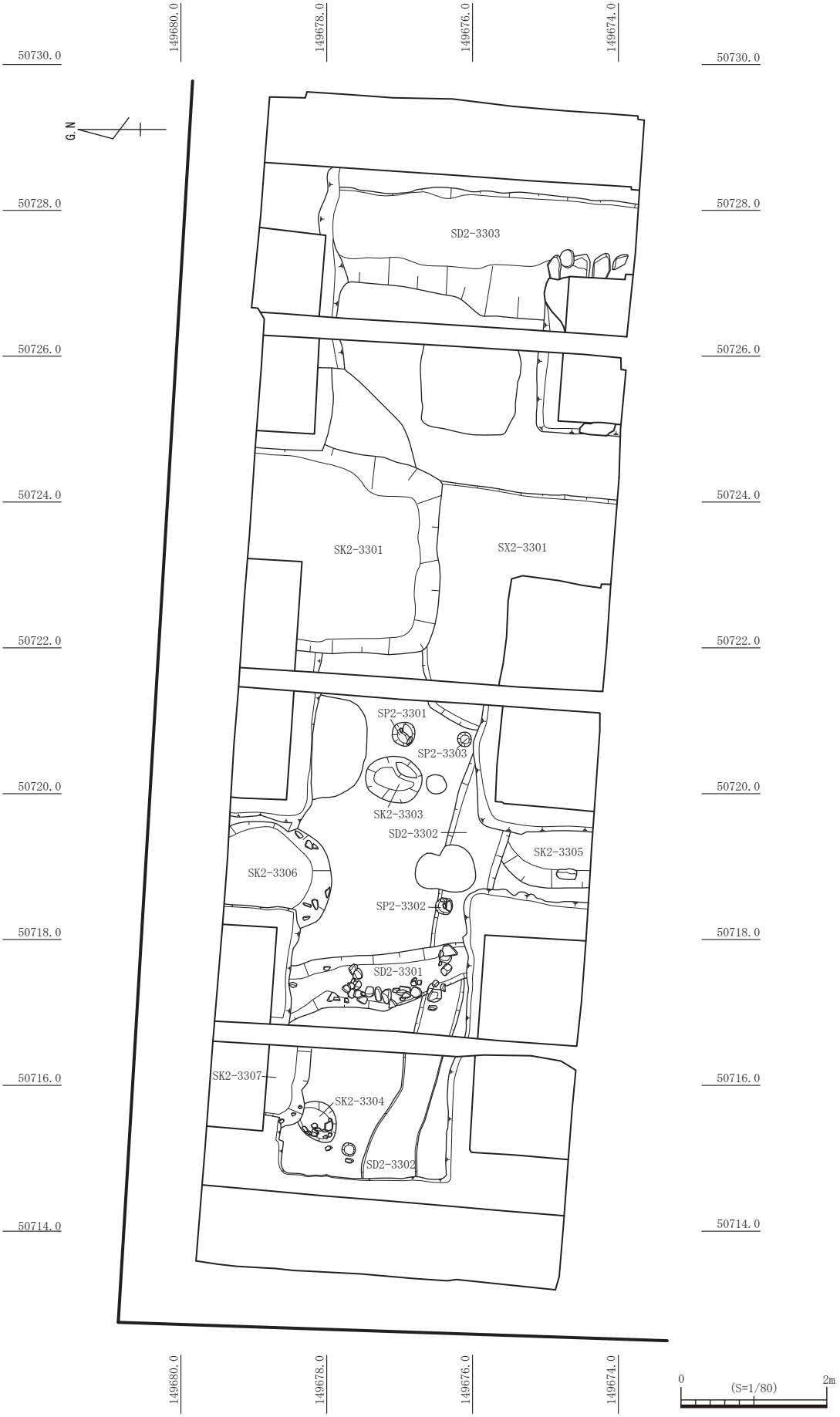
調査区西側において検出した溝であり、ＳＤ２－ 3302 を切っており、溝の南北両端はコンクリート基礎により削平されている。検出面の標高は0.97ｍ前後である。検出した長さは2.53ｍで、幅0.70ｍ、深さ0.14ｍを測る。溝の方位はＮ－14°－Ｗである。底面のレベルは南から北に向かって緩やかに下がる。埋土は単一層であり、拳大の小石が多量に出土した。所属時期は遺構面及び出土遺物より 16 世紀と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、土師質土器小皿、同鍋、同擂鉢、瓦器椀、瓦がある。172 は土師質土器椀であり、高台の断面は逆台形で、接合痕が明瞭に残る。





第49図　ＳＰ２-2206～2208出土遺物実測図（２）



第 50 図　２工区第３遺構面遺構配置図

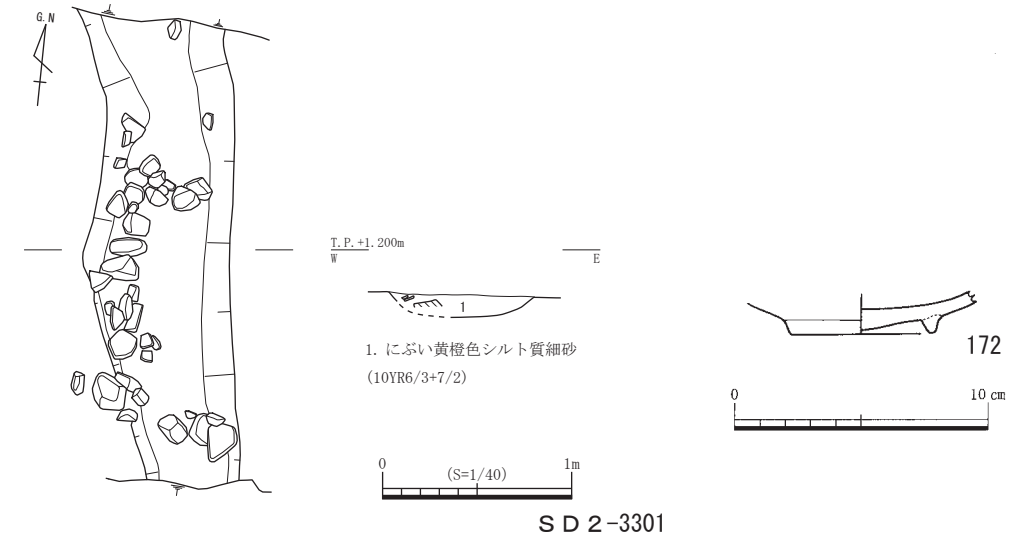
ＳＤ２－3302（第 50・51 図）

調査区中央から西端にかけて検出した溝であり、ＳＤ２－3301・ＳＰ２－3302・ＳＸ２－3301 に切られ、ＳＫ２－3305 を切っている。検出面の標高は 0.93 ～ 0.98 ｍである。検出した長さは 6.00 ｍ、幅 0.45 ～ 0.81 ｍ、深さ 0.08 ｍを測る。溝の方位はＮ－ 70°－Ｗである。底面のレベルは東から西に向かって緩やかに下がる。埋土は灰白色細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 16 世紀と考えられる。

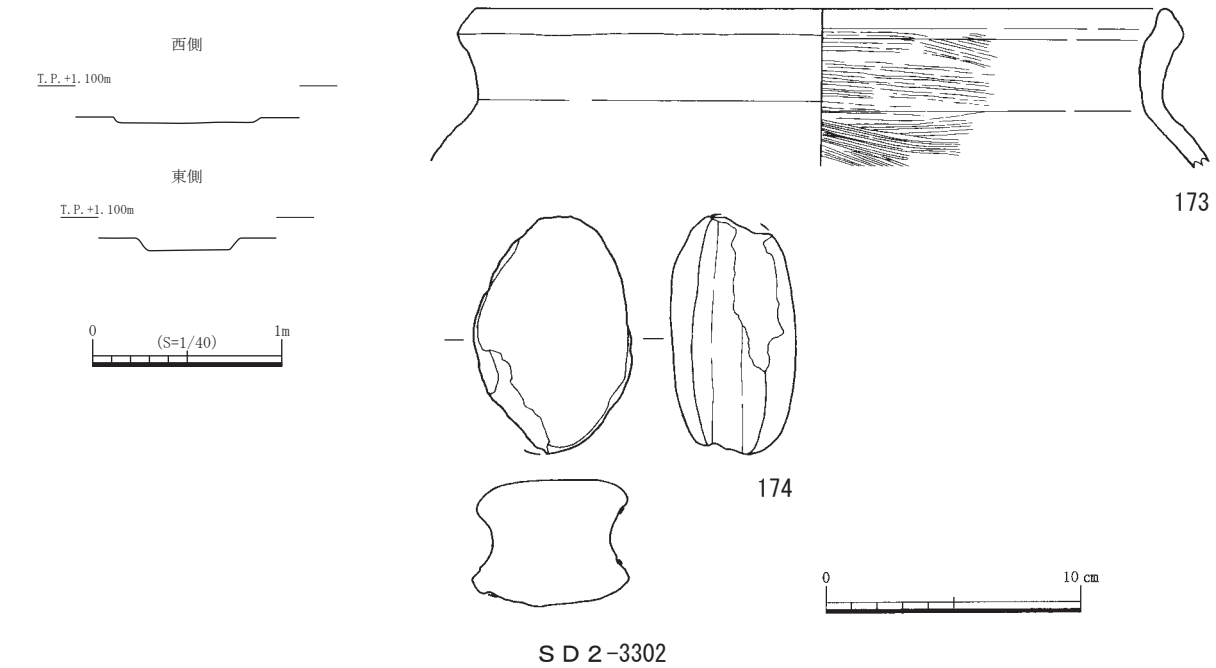
出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿がある。173 は土師質土器甕で、口縁部は直立気味に外反する。内面の調整は横方向のハケが施されている。174 は有溝土錘である。

ＳＤ２－3303（第 52 ～ 56 図）

調査区北端において検出した溝であり、北側と西壁南端はコンクリート基礎により削平され、東壁は上方を削平されている。検出面の標高は 0.98 ｍである。検出した長さは 4.15 ｍ、幅 1.26 ～ 1.71 ｍ、深さ 0.76 ｍを測る。溝の方位はほぼ東西である。底面のレベルは北から南に緩やか



ＳＤ２-3301



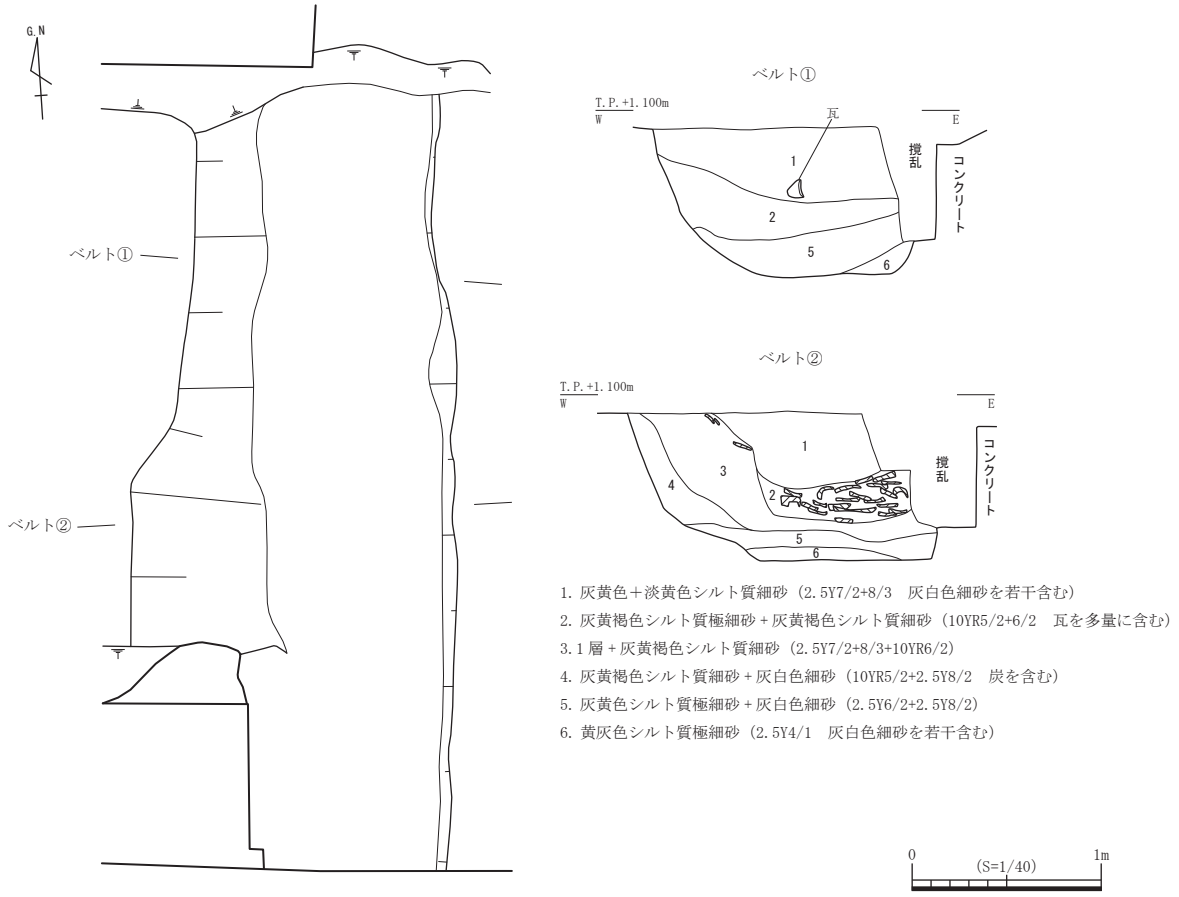
ＳＤ２-3302

第 51 図　ＳＤ２-3301・3302 平・断面図、出土遺物実測図

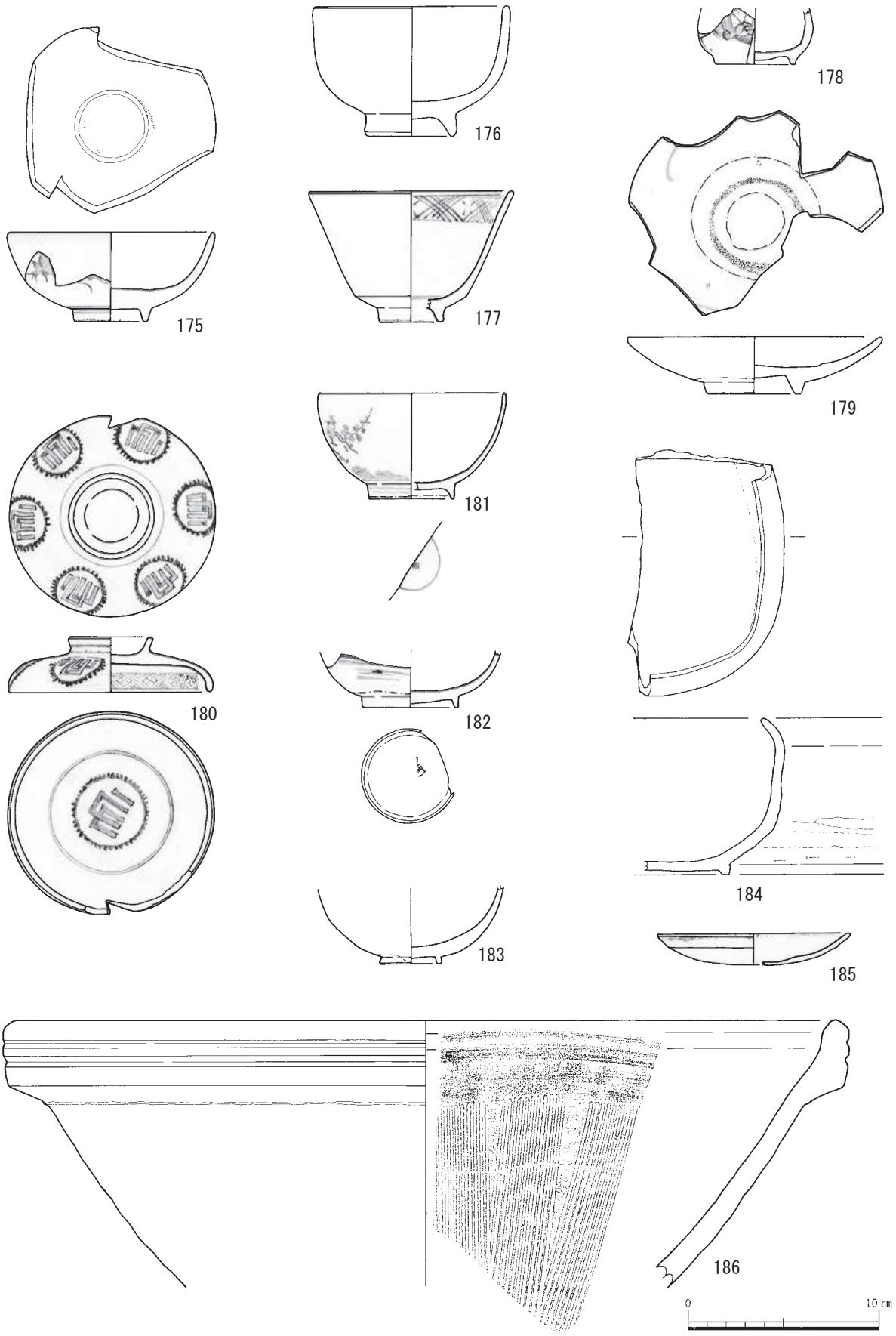
に下がる。埋土は６層に分けられ、堆積状態は自然堆積を示す。規模から考えて、屋敷地の境界を示す溝の可能性が高い。出土遺物の時期は 17 世紀後半～ 19 世紀初頃までを示し、埋没時期は 19 世紀初頭である。

175 は肥前系磁器碗で、底部の器厚が厚く、体部外面に草花文と考えられる染付がある。畳付と見込みに砂目が付き、見込みに輪状の釉ハギが見られる。176 は肥前系磁器碗で、畳付に砂目が付着している。177 は肥前系磁器碗で、体部下位に僅かな稜を持ち直線的に立ち上がる。内面に四方襷文が描かれている。178 は肥前系磁器小瓶で、外面に草花文が描かれ、畳付に砂目が付着している。179 は肥前系磁器皿で、削り出し高台である。見込みに蛇ノ目釉ハギと輪状の砂目が見られる。180 は肥前系磁器蓋で、外面に円状の連弧文に囲まれた「コ」の字状連続文が６個描かれている。内面に四方襷文、見込みに円状の連弧文に囲まれた「コ」の字状連続文が描かれている。181 は肥前系陶器碗で、外面に梅の染付があり、高台内に銘款が記されている。182 は京・信楽系陶器碗で、外面に流水文の染付、高台内に「しの」の刻印が見られる。183 は京・信楽系陶器碗である。184 は陶器鉢で、高台は円形だが体部は楕円形を呈する。体部下半外面はヘラケズリが施されている。産地は不明。185 は備前焼陶器灯明皿で、外面下半はヘラケズリが施されている。口縁部外面と内面に上薬がかかっている。口縁部には煤が付着している。186 は備前焼陶器擂鉢で、口縁部が肥大し２本の沈線を有している。内面には 11 本１単位の卸目を放射状に巡らせている。口縁端部と顎部に重ね焼き時の熔着痕が見られる。187 は土師質土器灯明皿で、底部の切り離しは回転糸切りである。口縁部に煤が付着している。188 は土師質土器杯で、底部は回転糸切り後に中央に板目が残る。189 は青磁碗、190 は青磁香炉である。

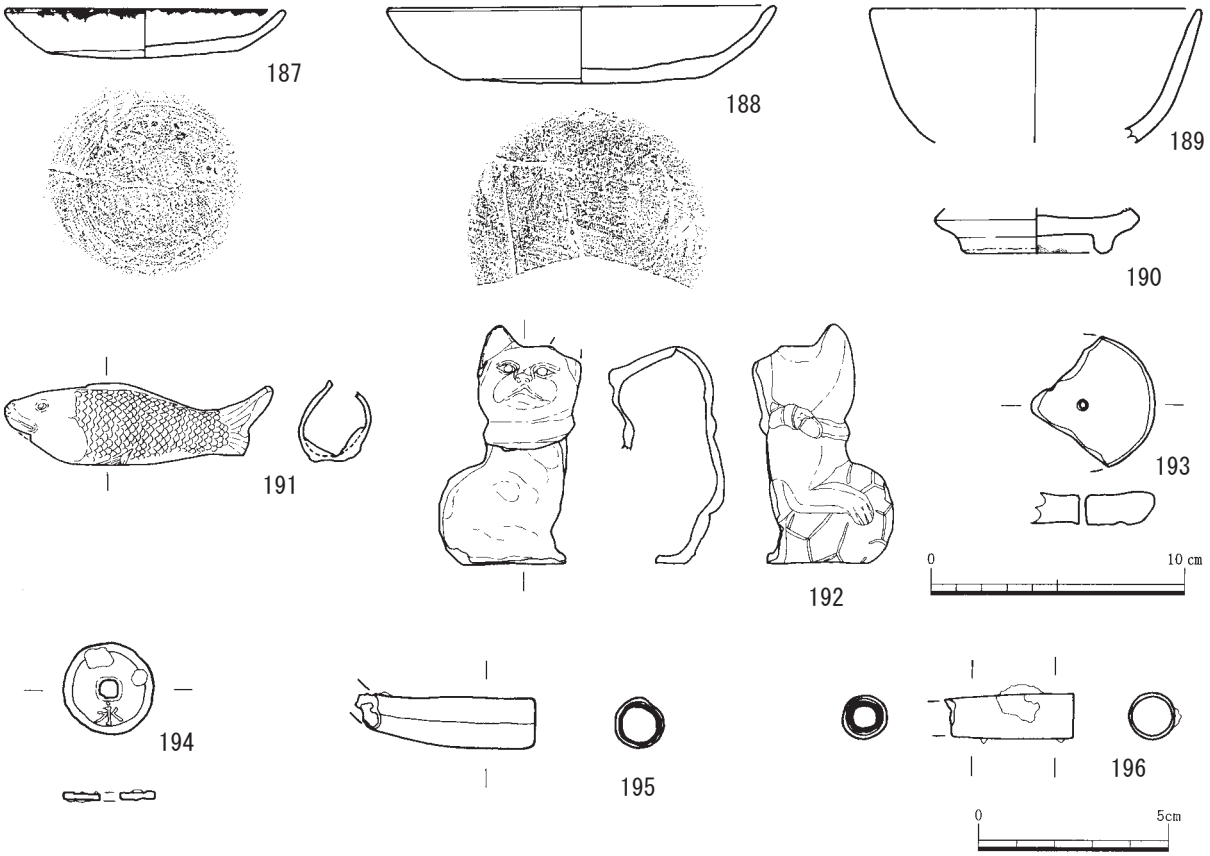
191 は土人形の鯉で、製作方法は型合わせであり、上半部に彩色痕が点在している。192 は土人形の犬で、製作方法は型合わせである。193 は土製の紡錘車である。



第 52 図　ＳＤ２-3303 平・断面図



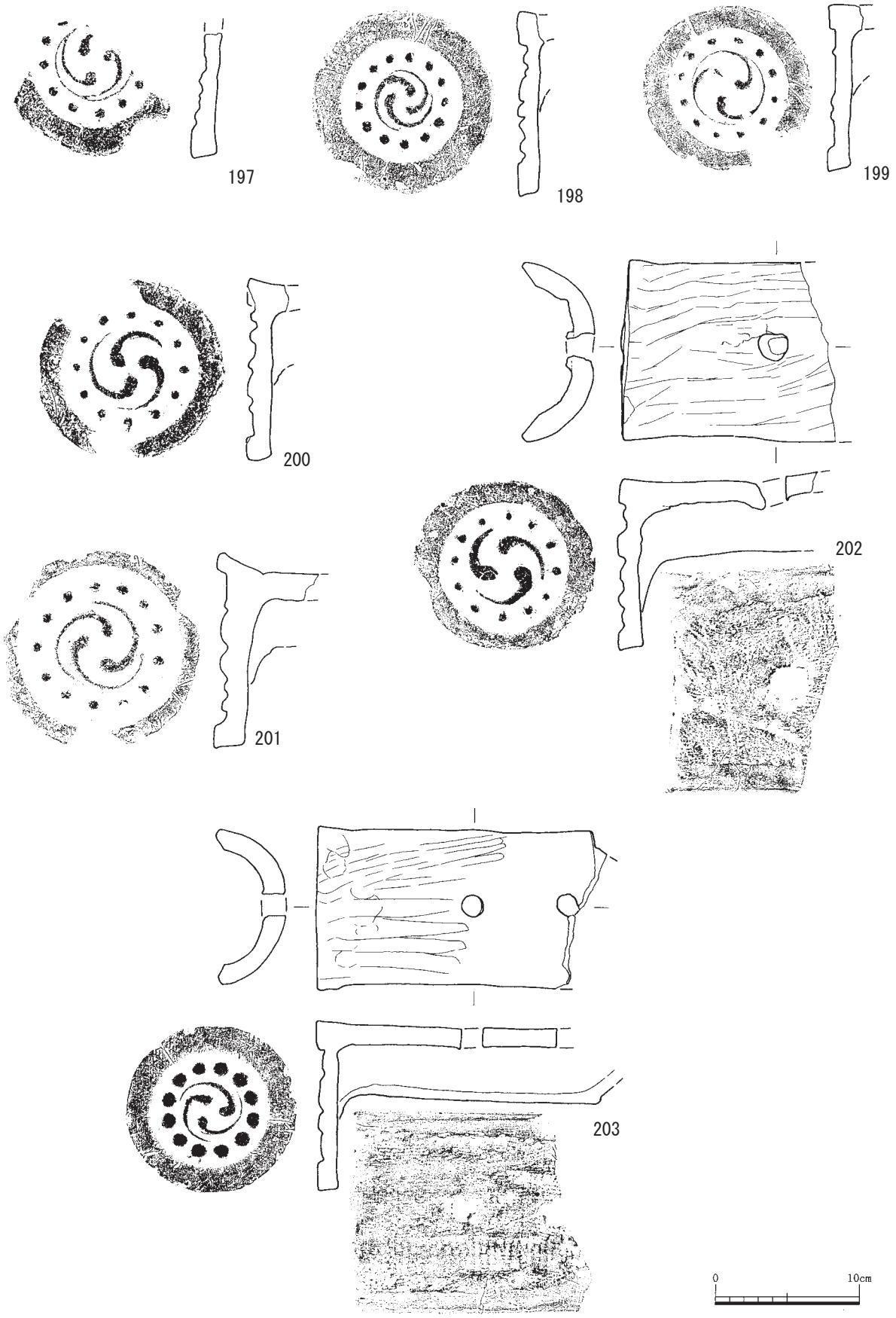
第53図　ＳＤ２-3303出土遺物実測図（１）



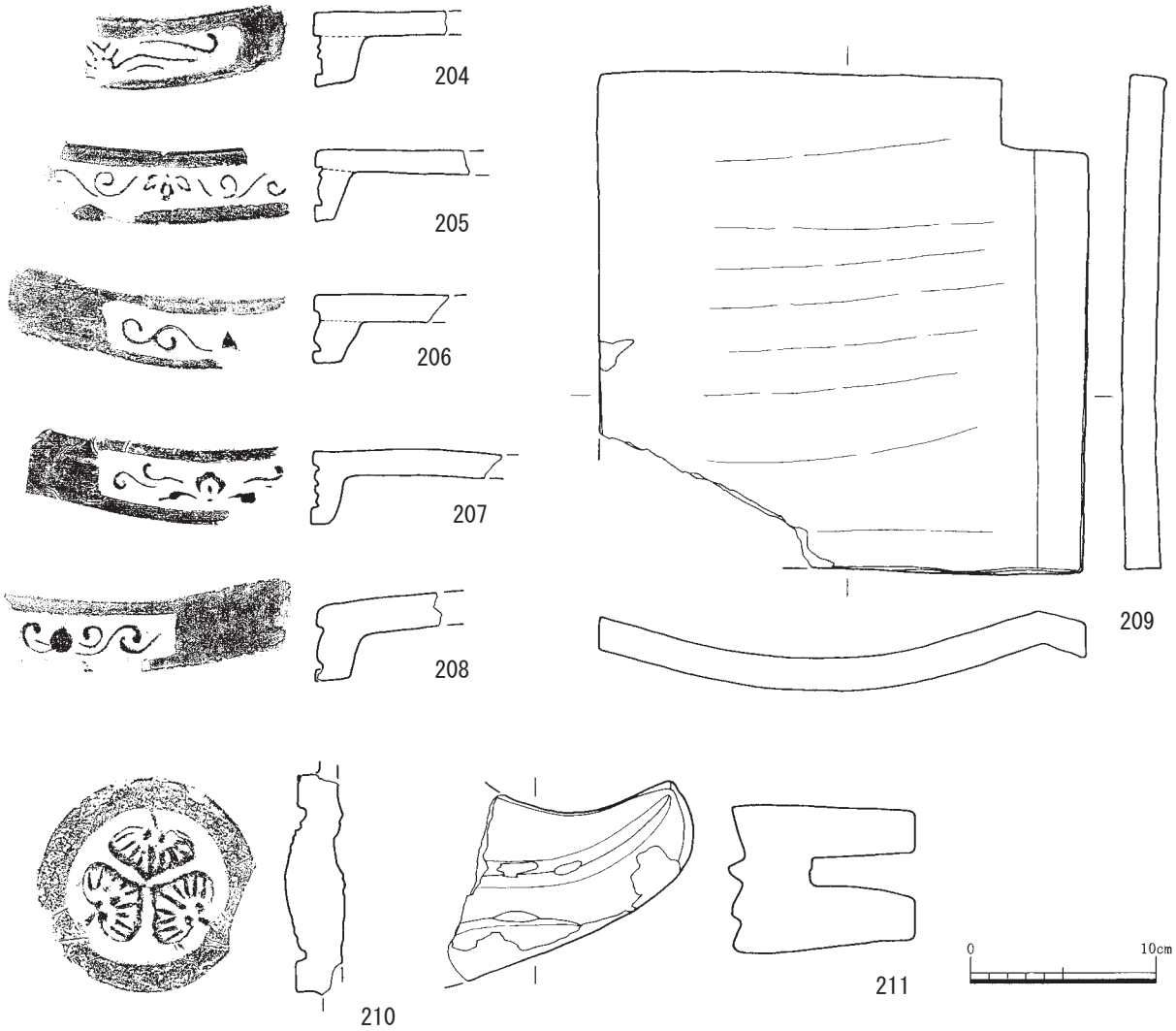
第54図　ＳＤ２-3303出土遺物実測図（２）

194は寛永通宝。195・196は真鍮製煙管の雁首であり、内部に竹が残存している。

197～203は巴文の軒丸瓦である。197は巴尾部が繋がり圏線状となり、瓦当裏面の調整は指オサエの後に周縁をナデている。佐藤分類Ⅱ類12である。198は巴尾部が僅かに繋がり、瓦当裏面は弱いナデの後に周縁をナデている。瓦当裏面にカキメを付け丸瓦と接合している。佐藤分類Ⅱ類10である。199は巴尾部が僅かに繋がり、瓦当裏面は弱いナデの後に周縁をナデている。佐藤分類Ⅱ類15に類似する。200の瓦当裏面は指オサエの後に周縁をナデている。佐藤分類Ⅳ類47に類似する。201の瓦当裏面は弱いナデの後に周縁をナデている。佐藤分類Ⅳ類47に類似する。202は釘穴を有する軒丸瓦で、凹面に布目が残る。瓦当裏面の調整は指オサエの後に周縁をナデている。佐藤分類Ⅳ類43である。203は釘穴２個を持ち、凹面に布目・コビキＢが残る。瓦当にキラ粉が付着している。瓦当裏面は弱いナデの後に周縁をナデている。佐藤分類Ⅳ類206に類似する。204～208は軒平瓦である。204は中心飾りを陽刻線で表し、唐草文は長く延びて１転させる唐草とその下側に２条平行する波状の子葉を伴う。佐藤分類Ⅴ類13である。205は中心飾りに陽刻線による輪郭をもつ三葉を置き、唐草は上・下に大きく２転している。接合面にカキメがある。206は唐草文の蔓が連続して下・上に２転している。接合面にカキメがある。207は中心飾りに上向の半裁花菱文を配し、唐草は上・下に２転している。佐藤分類ＸＸⅡ類148に類似する。208は中心飾りに宝珠文を配し、唐草は左右で異なる巻き方をしている。佐藤分類ＸＸ類80である。209は桟瓦である。210は鬼瓦の中心部であり、高松松平家家紋の三葉葵文がある。211は鬼瓦の破風の一部である。



第55図　ＳＤ２-3303出土遺物実測図（３）



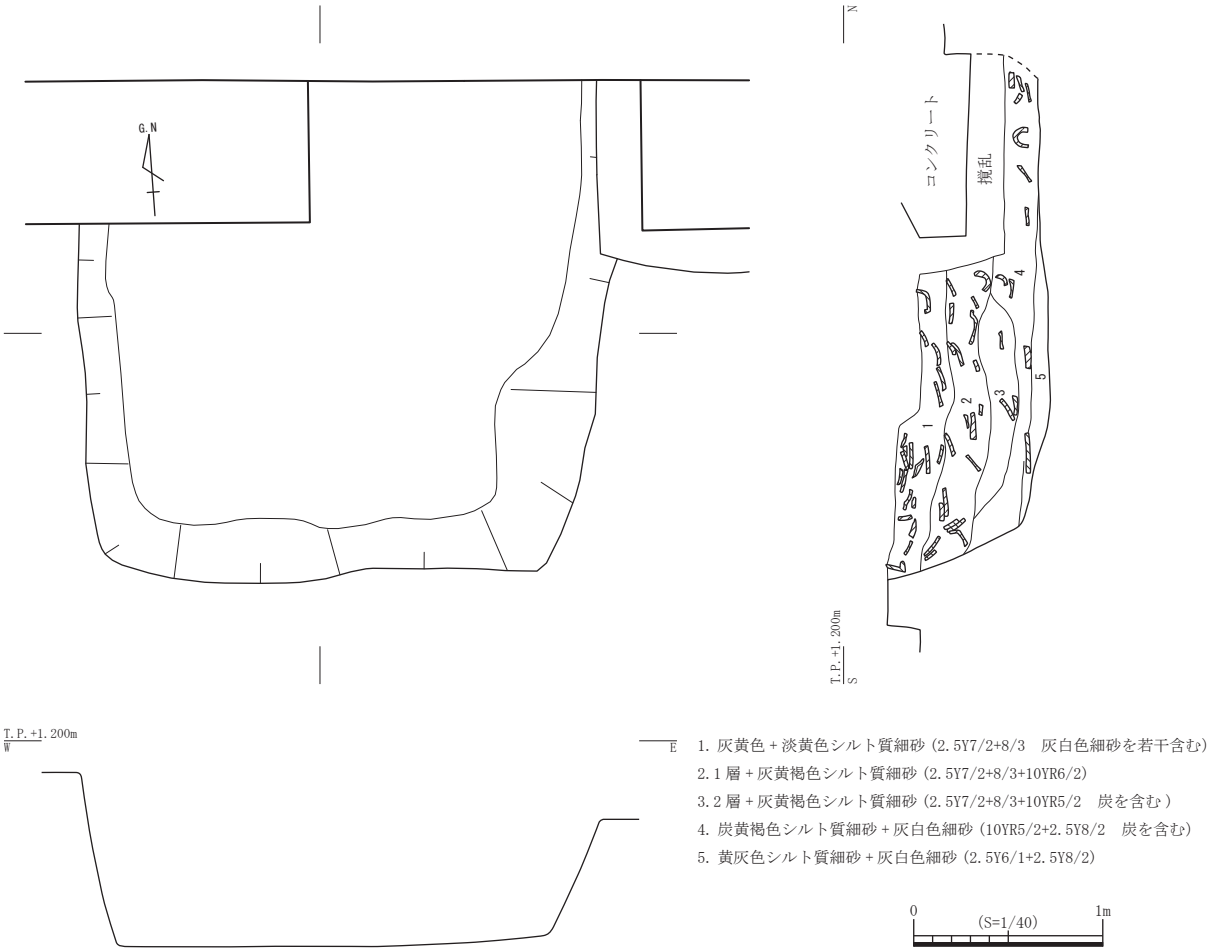
第56図　ＳＤ２-3303出土遺物実測図（４）

土坑

ＳＫ２－3301（第57～65図）

調査区中央東寄りにおいて検出した土坑であり、ＳＸ２－3301を切っている。検出面の標高は0.95ｍである。土坑の北側はコンクリート基礎により削平されている。平面形は方形を呈し、南北辺は2.60ｍ以上、東西辺は2.75ｍを測り、確認面からの深さは0.93ｍである。南側の掘り込みはやや緩やかな傾斜であるが、東側・西側は急傾斜である。埋土は５層に分かれ、第３・４層には炭化材が含まれ、全ての層から多量の瓦が出土した。出土遺物の時期は17世紀中葉～18世紀末までを示し、埋没時期は18世紀末である。

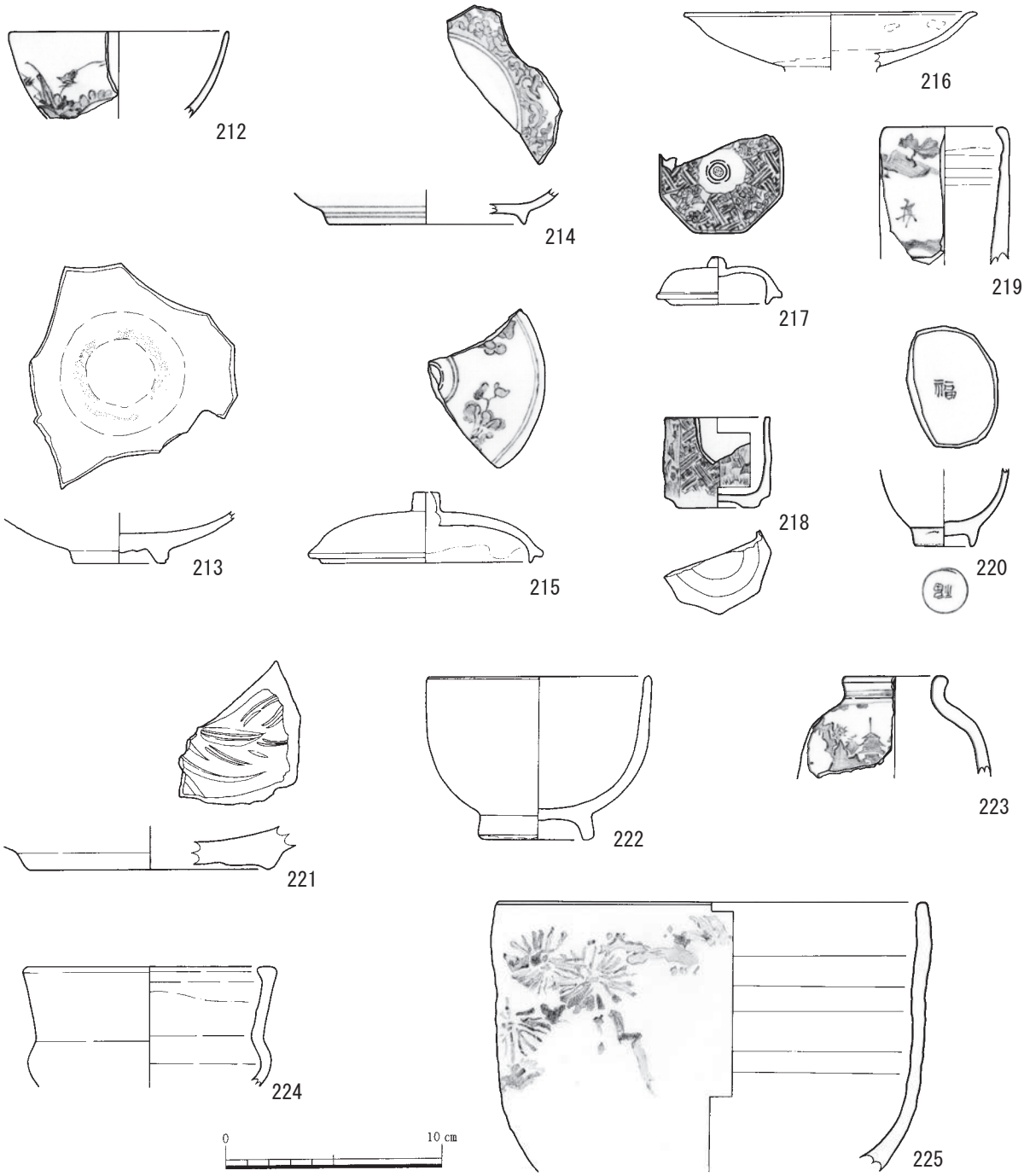
212は瀬戸・美濃系磁器碗で、外面に草花文の染付が見られる。213は肥前系磁器皿で、蛇ノ目釉ハギが施され、削り出し高台の畳付と見込みに砂目が付着している。214は肥前系磁器皿で、高台に３本の圏線と高台内に１本の圏線を巡らせ、内面には２本の圏線と花唐草が描かれている。215は肥前系磁器蓋で、外面に圏線と草花文が描かれている。口縁部に砂目が付着している。216は肥前系磁器皿で、口縁部がやや外反している。217は肥前系磁器蓋で、218とセット関係である。器形は六角形を呈する。外面は区画文様であり、紗綾形文と草花文が区画間文様として描かれている。218は肥前系磁器小鉢で、器形・文様は217と同一である。219は肥前系磁器香炉で、外面に遠山が描かれている。220は肥前系磁器小鉢で、高台内に圏線と「福」字銘、見込みに「福」字銘が書き込まれている。221は青磁皿で、蛇ノ目凹形高台であり、内面に片刃彫の文様が描か



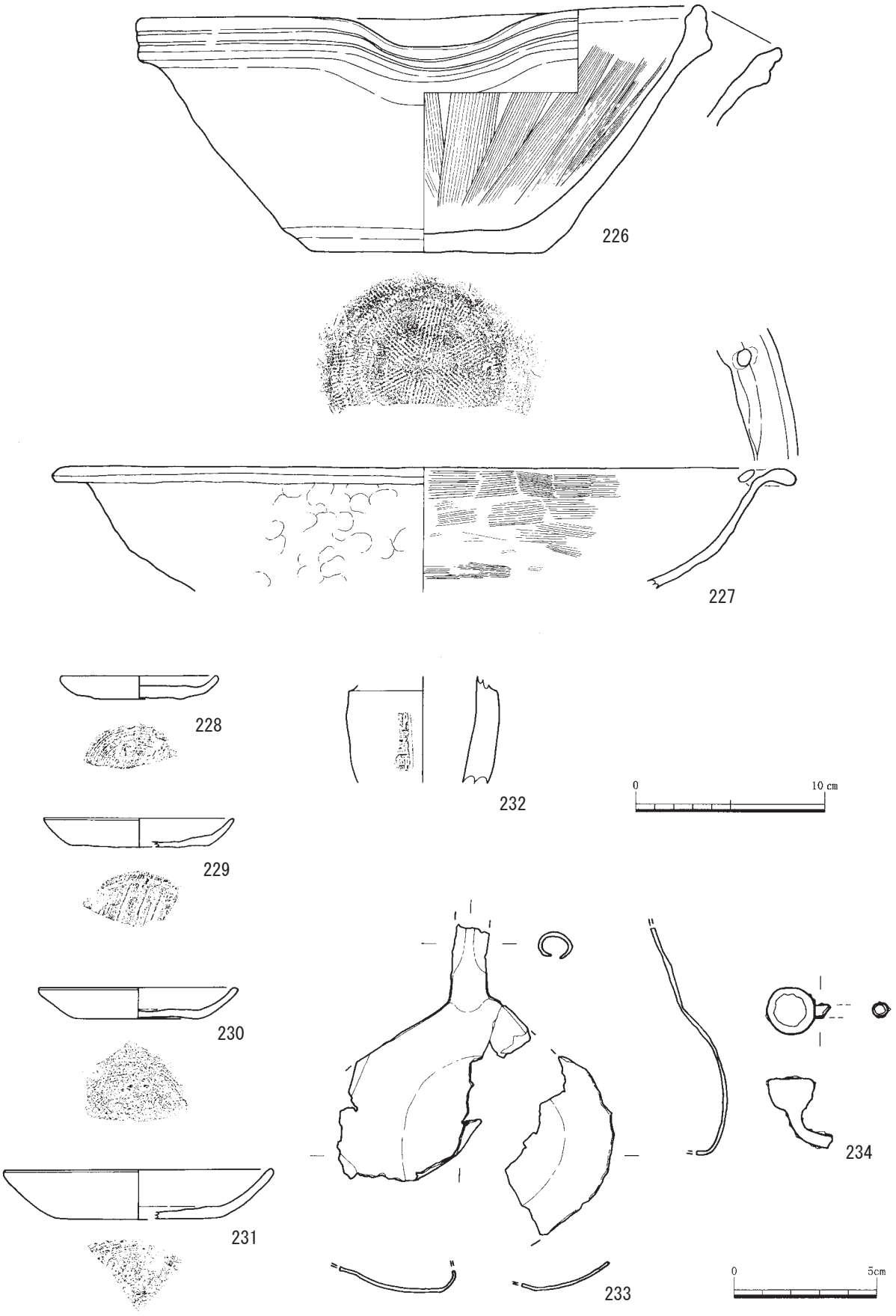
第 57 図　ＳＫ２-3301 平・断面図

れている。222 は京・信楽系陶器碗で、高い高台を有している。223 は肥前系陶器小壺で、外面に陶胎染付による五重塔・松が描かれている。224 は陶器香炉で、外面に貫入が見られる。225 は京・信楽系陶器甕で、外面に松が描かれている。226 は備前焼陶器擂鉢で、片口を有している。卸目は 15 本 1 単位で放射状に入り、見込みにも＊形の卸目が入る。口縁部に２本の沈線が巡っている。227 は瓦質土器焙烙である。228 は土師質土器小皿で、体部が非常に短い。底部切り離しは回転糸切りである。229 は土師質土器灯明皿で、底部に板目が残る。口縁部内外面に煤が付着している。230 は土師質土器皿で、底部切り離しは回転糸切りである。231 は土師質土器杯で、底部切り離しは回転糸切りである。232 は土師質土器焼塩壺で、体部外面に「御壺塩師」の刻印を持つ。233 は青銅製食器と思われ、柄部の断面は「Ｃ」字状である。234 は真鍮製煙管の雁首である。235 ～ 251 は三巴文の軒丸瓦である。235 は巴尾部が繋がり、凹面は布目・コビキＢが残る。瓦当裏面の調整は縦方向の強いナデの後に周縁にナデを施している。佐藤分類Ⅱ類 14 である。236 は長い巴尾部で珠径が大きい。凹面は布目・コビキＢが残る。瓦当裏面の調整は指オサエの後に周縁にナデを施している。佐藤分類Ⅳ類 60 である。237 は巴尾部が短く、巴頭部の括れが小さい。瓦当裏面の調整は弱いナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類 62 である。238 は太く長い巴である。瓦当裏面の調整は弱いナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類 63 である。239 は短い巴で、やや乱れる。瓦当裏面の調整は弱いナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類 67 である。240 は巴頭部が大きく、明瞭に括れる。三巴文の中央に小さな珠が見られる。瓦当裏面の調整は指オサエの後に周縁にナデが施されている。241 は太くやや扁平な巴文で、珠径が小さい。表面に燻しがなく、瓦当面上半が黒くすすけている。

凹面は布目が残る。瓦当裏面の調整は指オサエの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類117である。242は太く短い巴文で、珠は８個である。瓦当裏面の調整は弱いナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類155である。243～251は釘穴を持つ三巴文の軒丸瓦である。243は巴頭部が明確に括れ、細く長い巴尾部は繋がり圏線状になっている。凹面は布目・コビキＢが残る。瓦当裏面の調整は弱いナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅱ類８である。244は長い巴尾部を有している。凹面は布目・コビキＢが残る。瓦当裏面の調整は指オサエの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類43である。245は巴尾部がやや短い。凹面は布目・コビキＢが残る。瓦当裏面の調整はナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類47で

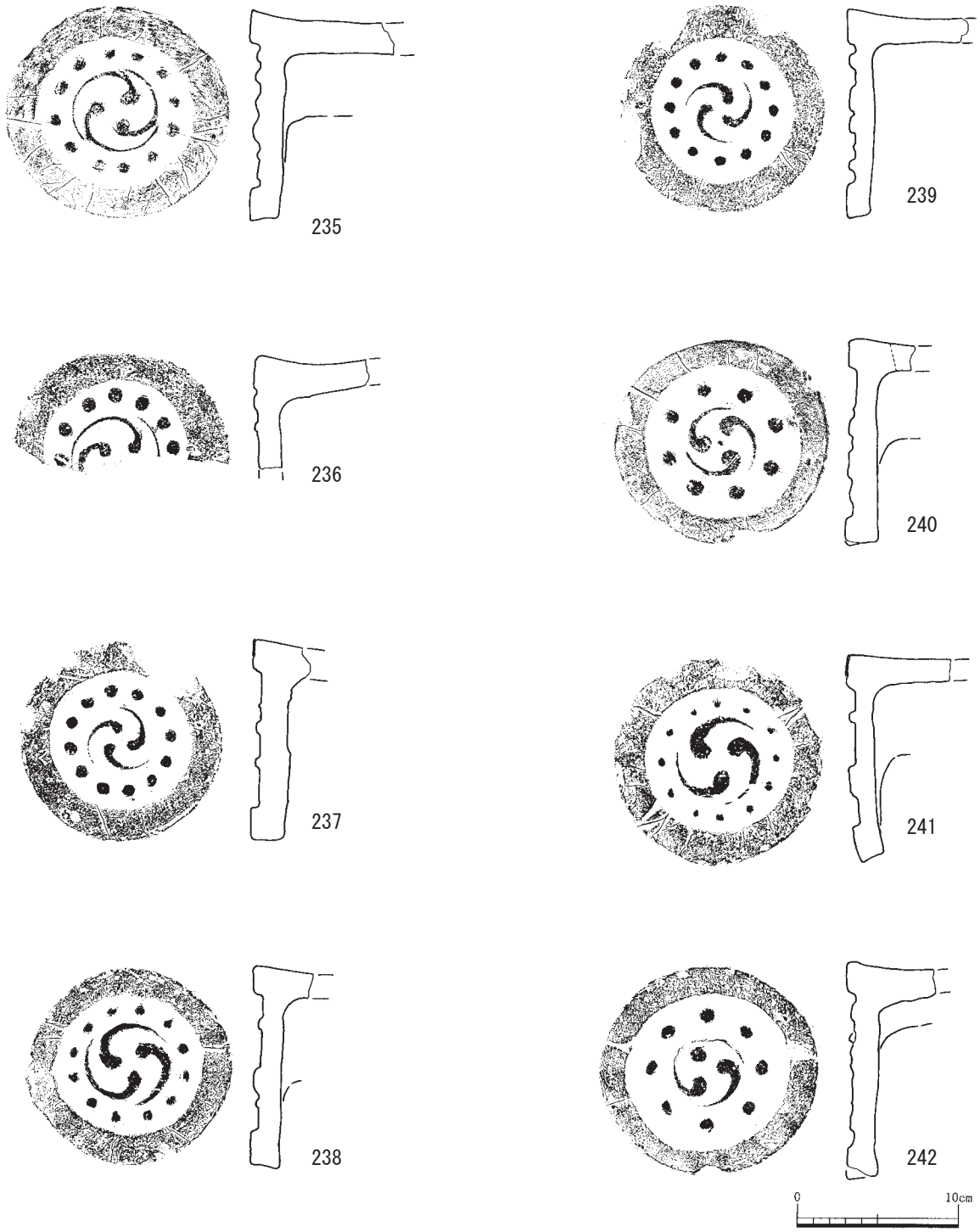


第58図　ＳＫ２-3301出土遺物実測図（１）

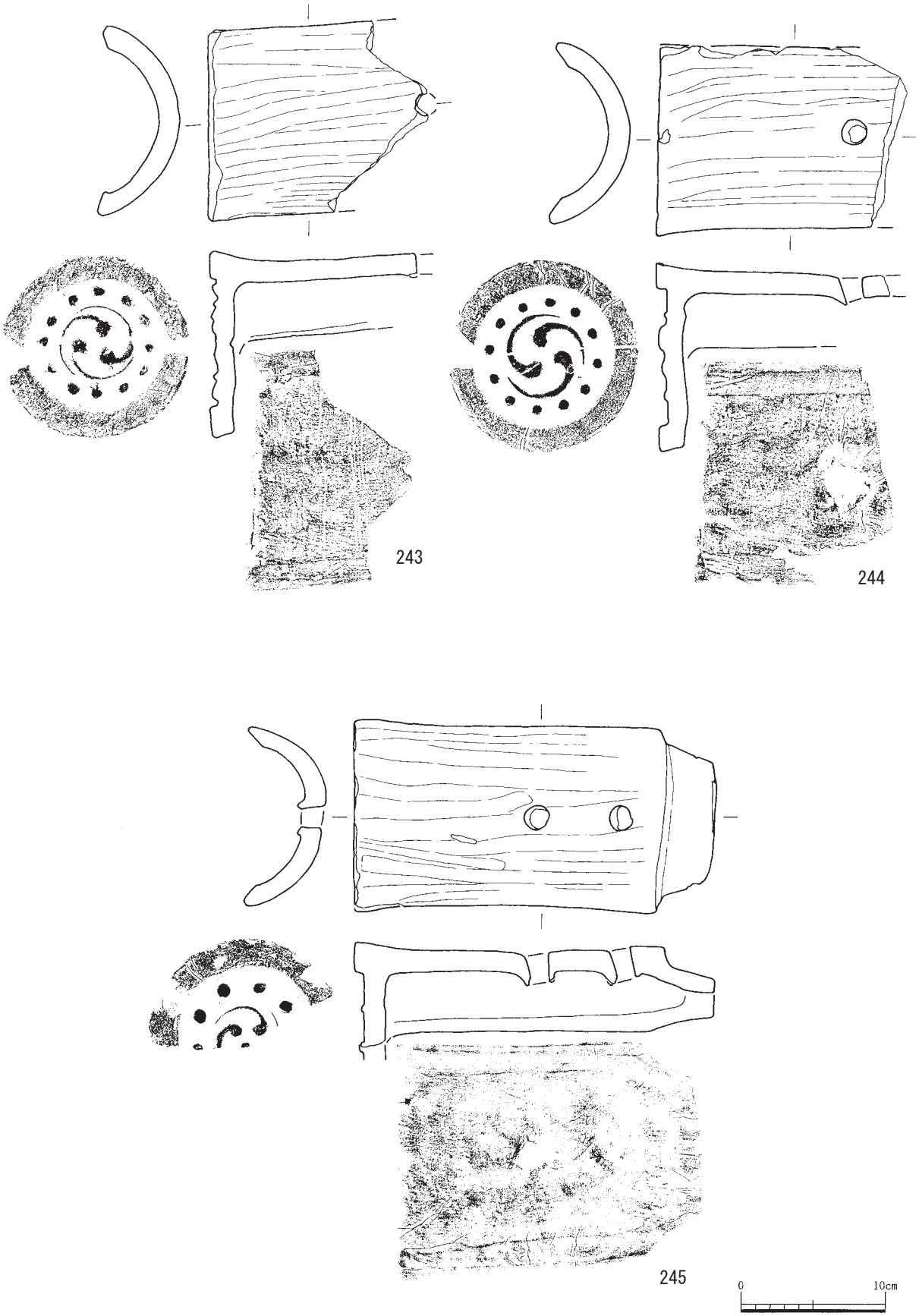


第59図　ＳＫ２-3301出土遺物実測図（２）

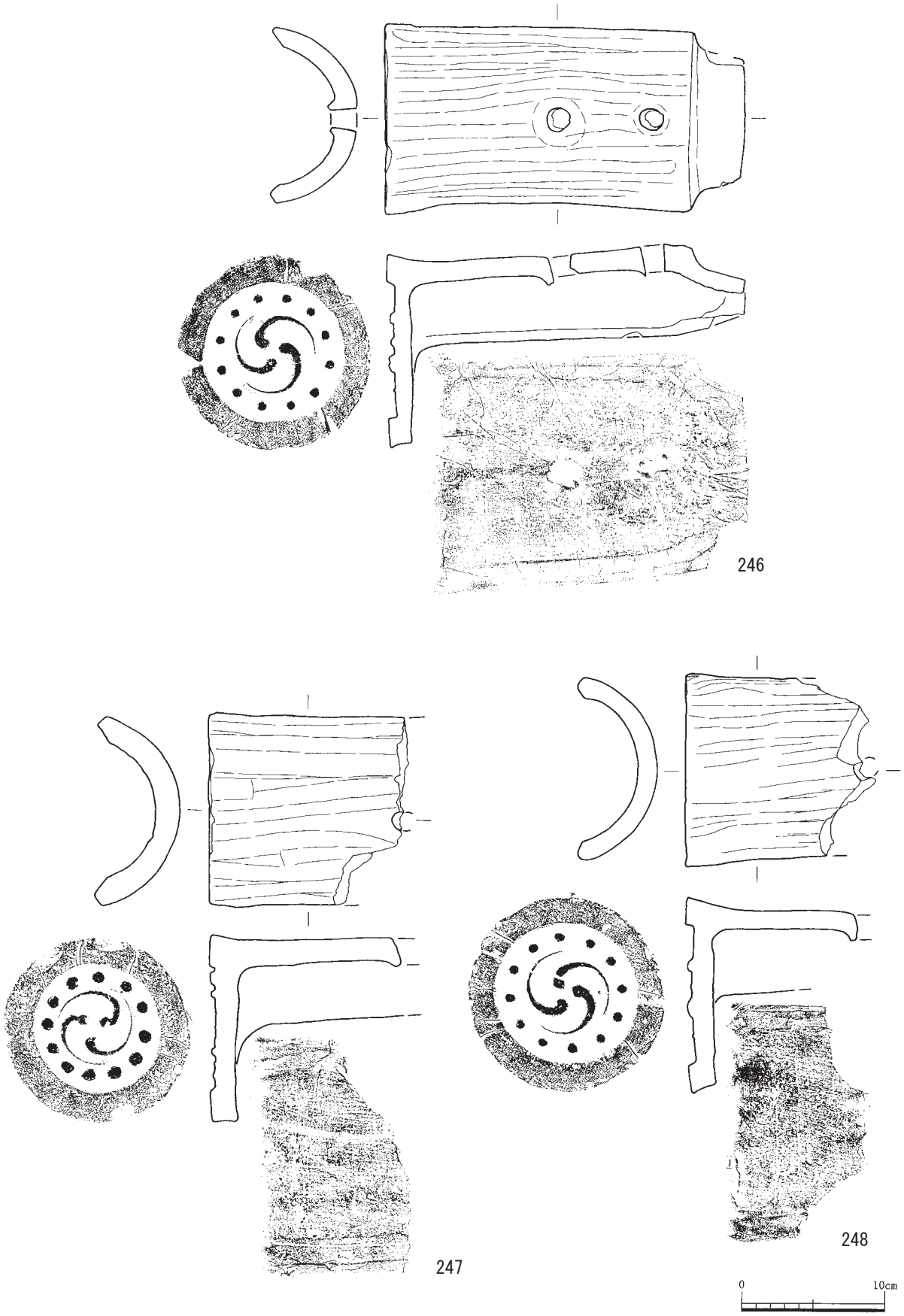
ある。246 は巴頭部の括れが不明瞭で、巴尾部は長い。凹面は布目・コビキＢが残る。瓦当裏面の調整は指オサエの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類 55 である。247・248 は巴尾部が長く、珠径が大きい。凹面は布目・コビキＢが残る。瓦当裏面の調整は弱いナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類 60 である。249 の凹面は布目・コビキＢが残る。瓦当裏面の調整は弱いナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類 64 である。250 は太く短い巴文で、凹面は布目・コビキＢが残る。瓦当裏面の調整はナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類 75 である。251 は大きい巴頭部から延びる巴尾部は短い。凹面は布目・コビキＢが残る。瓦当裏面の調整は指オサエの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類 154 である。



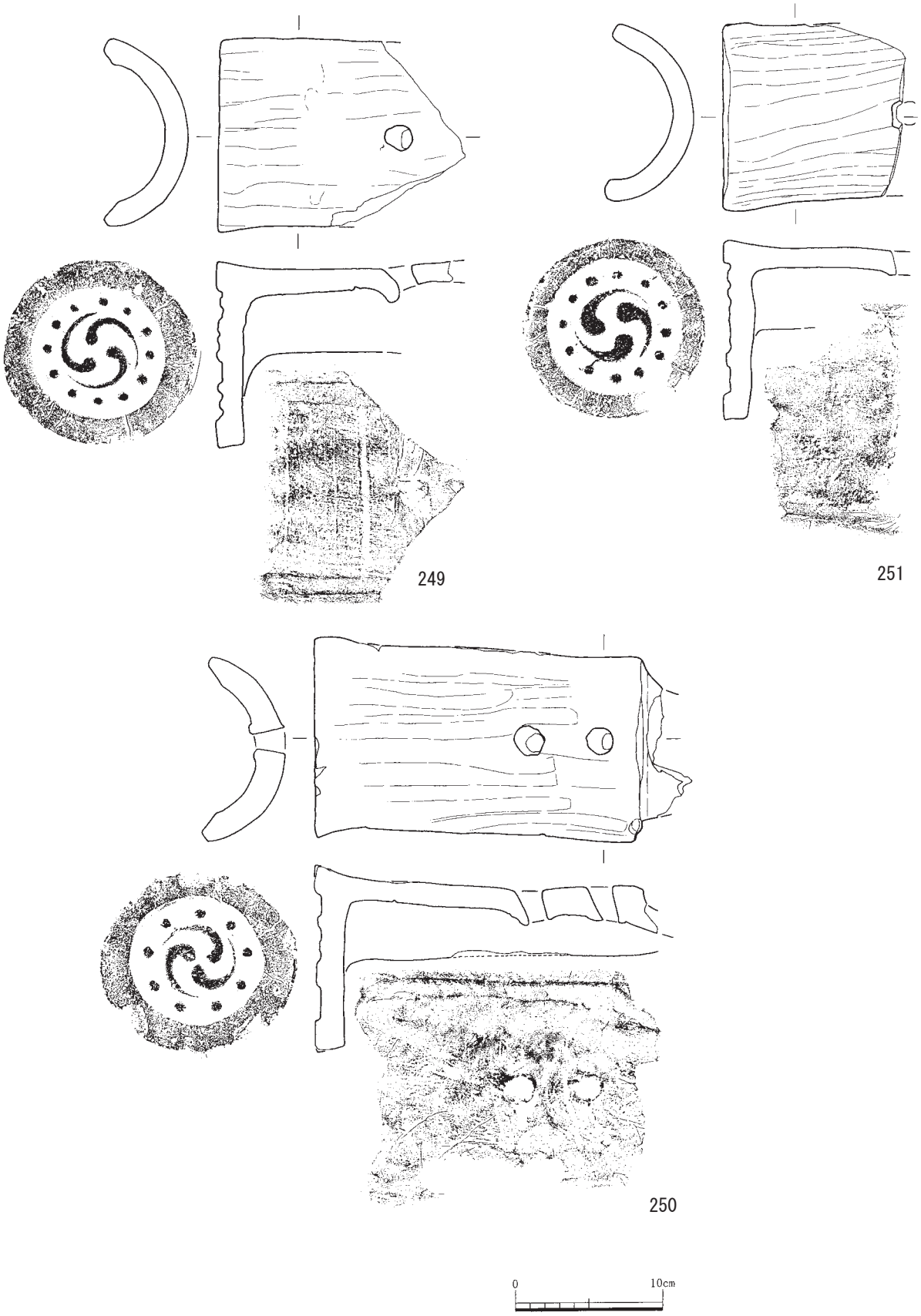
第60図　ＳＫ２-3301出土遺物実測図（３）



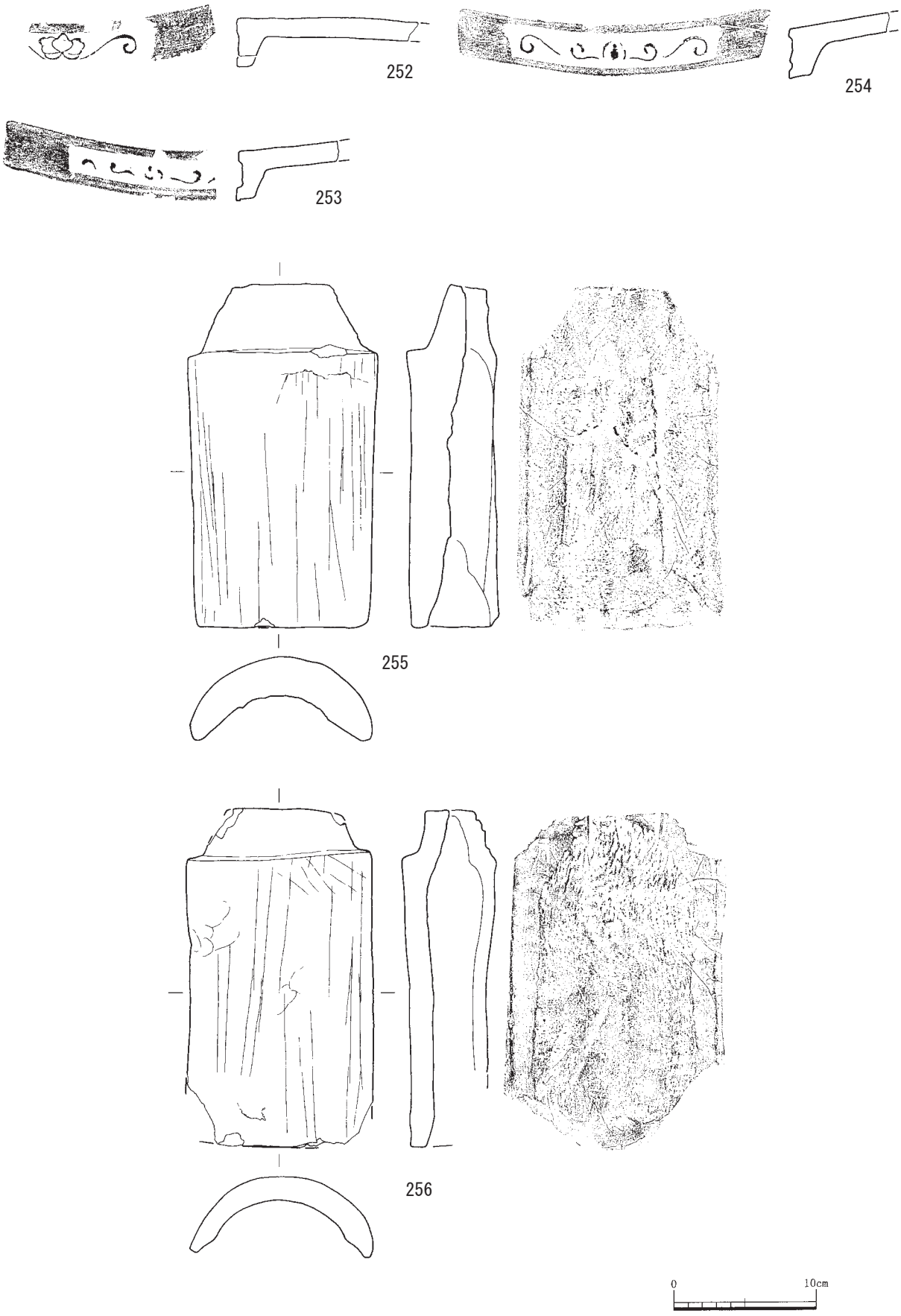
第61図　ＳＫ２-3301出土遺物実測図（４）



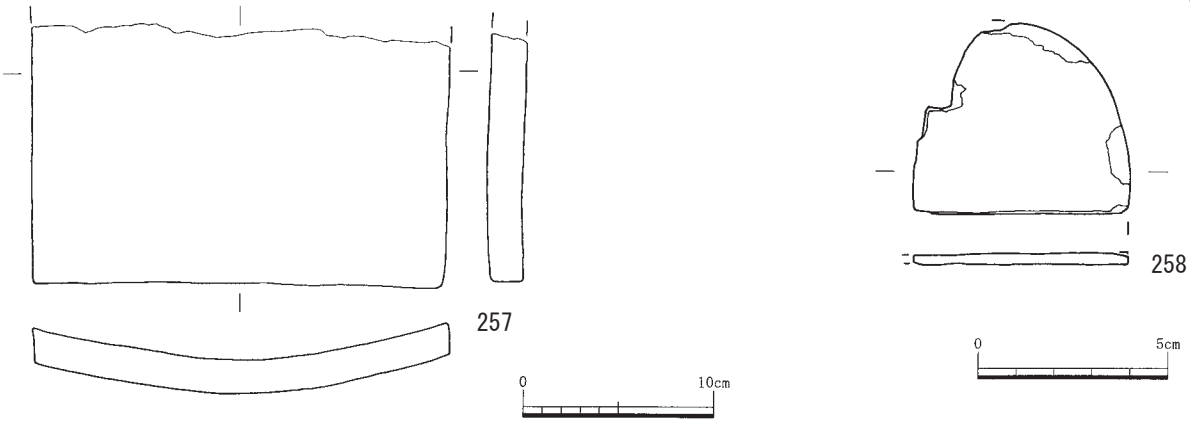
第62図　ＳＫ２-3301出土遺物実測図（５）



第63図　ＳＫ２-3301出土遺物実測図（６）



第64図　ＳＫ２-3301出土遺物実測図（７）



第65図　ＳＫ２-3301出土遺物実測図（８）

252 ～ 254 は軒平瓦である。252 は中心飾りに陽刻線による五葉の花弁を持つ花文を配し、唐草文は１転である。253 は三巴文を中心飾りとし、唐草文の１・２転目が大きく分離している。佐藤分類ＸＩＸ類 61 である。254 は中心飾りに陽刻宝珠と陽刻線の子葉を配されている。

255・256 は玉縁式丸瓦である。255 は凸面に板ナデを施し、凹面に布目・抜取紐痕が残り、板ナデが幅広く施されている。256 は凹面に布目が残る。

257 は平瓦である。

258 は曲物の底板である。

ＳＫ２－ 3303（第 66 図）

調査区ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は 0. 96 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 0. 78 ｍ、深さ 0. 10 ｍを測り、南東側に段を有する。埋土は灰白色細砂＋黄灰色シルト質細砂の単一層である。

出土遺物はない。

ＳＫ２－ 3304（第 66 図）

調査区西端において検出した土坑であり、ＳＫ２－ 3307 に切られている。検出面の標高は 0. 96 ｍである。平面形は不整な円形を呈し、長軸 0. 61 ｍ、短軸 0. 50 ｍ、深さ 0. 26 ｍを測る。埋土は灰黄色シルト質細砂の単一層である。底面で拳大の小石を検出した。所属時期は遺構面・出土遺物より 17 世紀と考えられる。

出土遺物は土師質土器小皿の小片のみである。

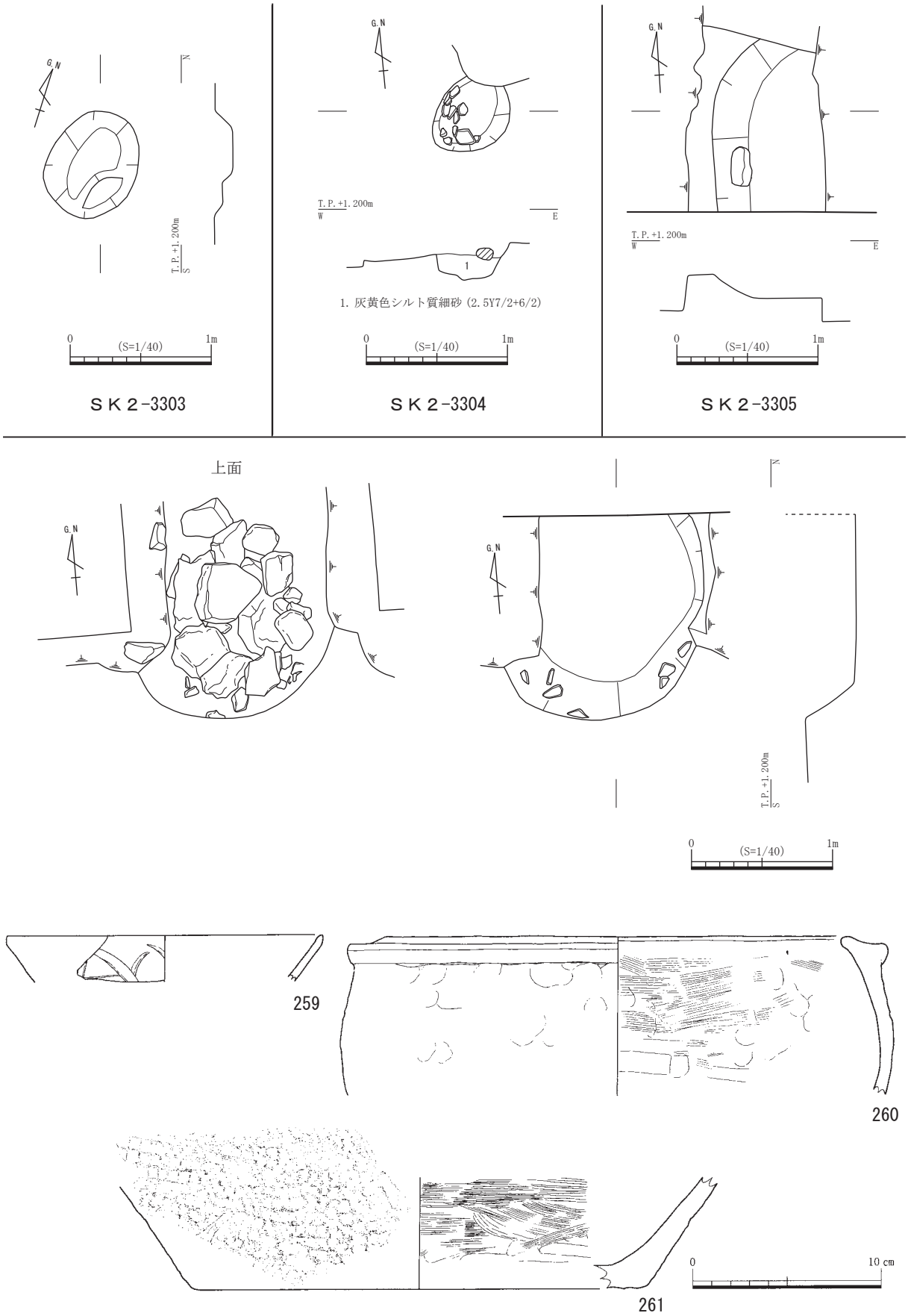
ＳＫ２－ 3305（第 66 図）

調査区中央やや西寄りにおいて検出した土坑であり、ＳＤ２－ 3302 に切られている。検出面の標高は 0. 96 ｍである。東側と南側はコンクリート基礎により削平されているため平面形は不明である。検出した規模は南北 1. 21 ｍ、東西 0. 80 ｍで、深さは 0. 17 ｍである。埋土は灰白色細砂＋灰黄色シルト質細砂の上層と灰白色細砂＋灰黄色シルト質細砂＋明灰黄色シルト質細砂の下層である。所属時期は遺構面・出土遺物より 17 世紀と考えられる。

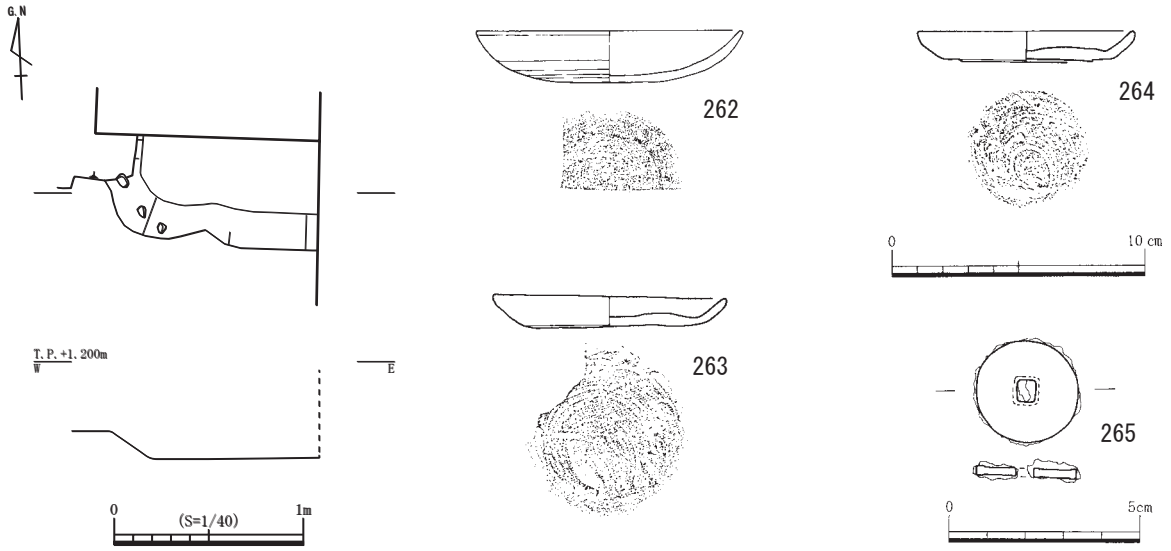
出土遺物は土師質土器杯・丸瓦であるが、図化できるものはない。

ＳＫ２－ 3306（第 66 図）

調査区中央やや西寄りにおいて検出した土坑であり、西側と北側はコンクリート基礎により削平されている。遺構検出時には井戸と想定しＳＥ２－ 3301 として遺物を取り上げたが、調査により土坑と判明したので土坑と報告する。検出面の標高は 0. 96 ｍである。平面形は楕円形と想定される。検出した規模は南北 1. 45 ｍ、東西 1. 15 ｍで、深さは 0. 36 ｍである。上面には直径 0. 10 ～ 0. 40 ｍの石が多量に検出されるが、不規則に積み上げられている。埋土は黄灰＋灰黄褐色シ



第 66 図　ＳＫ２-3303 ～ 3306 平・断面図、出土遺物実測図



第 67 図　ＳＫ２-3307 平・断面図、出土遺物実測図

ルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面・出土遺物より 16 世紀と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、土師質土器小皿、同鍋、土錘がある。259 は青磁碗で、外面に片刃彫りの蓮弁文が施されている。260 は土師質土器足釜で、口縁部が内傾し、口縁部外面直下に顎が付く。額より下に煤が付着している。261 は土師質土器甕であり、体部・底部外面に格子状タタキ、内面に横方向のハケが施されている。

ＳＫ２－ 3307（第 67 図）

調査区中央西端において検出した土坑であり、ＳＫ２－ 3304 を切り、北側・東側はコンクリート基礎により削平されている。遺構検出時には柱穴と想定しＳＰ２－ 3304 として遺物を取り上げたが、調査により土坑と判明したので土坑と報告する。検出面の標高は 1.00 ｍである。検出範囲が狭いため平面形は不確定要素が高いが方形と想定される。検出した規模は南北 0.56 ｍ、東西 1.10 ｍで、深さは 0.31 ｍである。所属時期は遺構面・出土遺物より 17 世紀末～ 18 世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、同足釜、須恵器甕である。262 は備前焼陶器灯明皿で、体部外面下半はヘラケズリが施され、底面は回転糸切り後にナデが施されている。口縁部内外面に煤が付着している。263・264 は土師質土器小皿で、器高が低い。底部切り離しは回転糸切りである。

265 は古銭であるが、錆のため判読不明である。

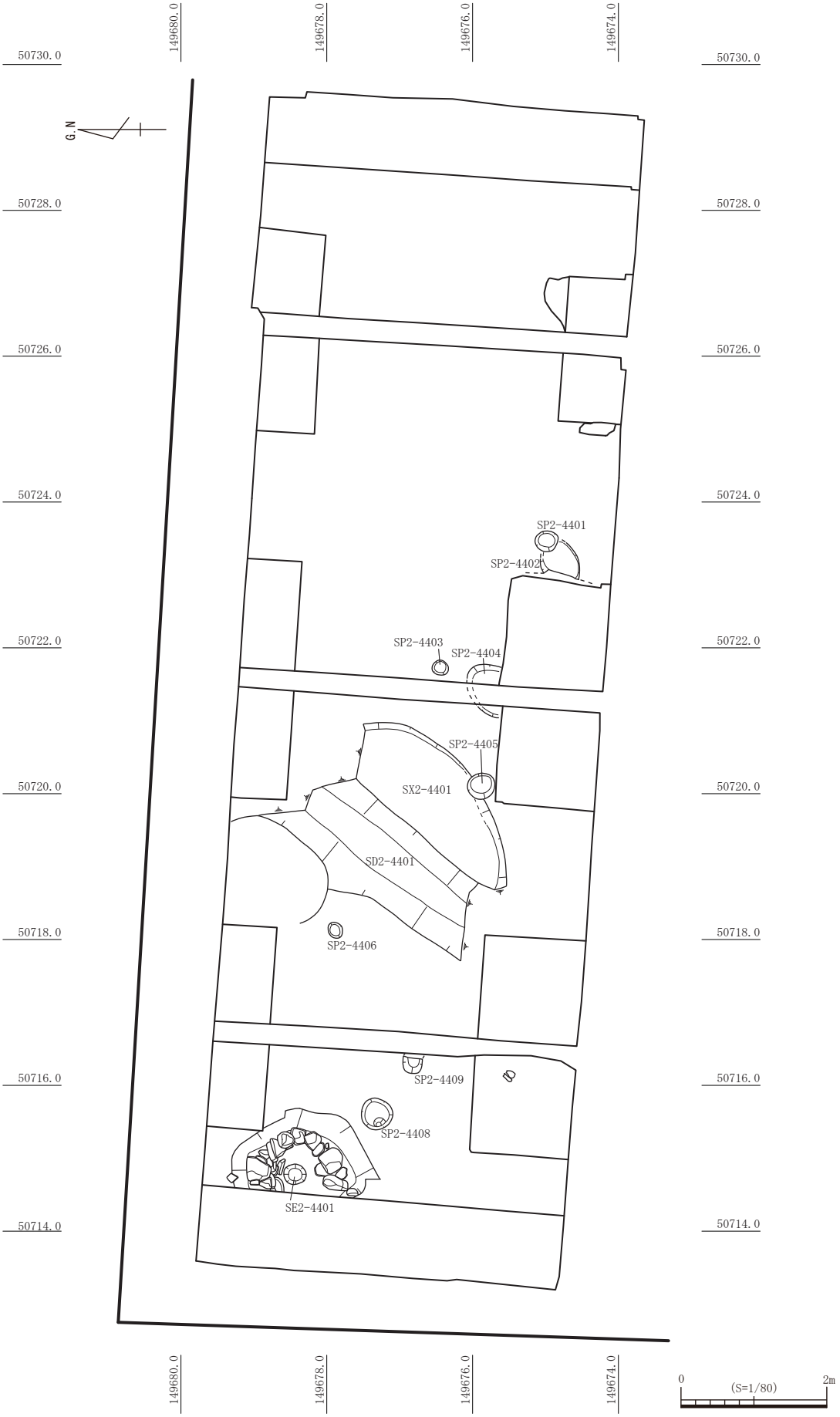
（４）第４遺構面（第 68 図）

溝

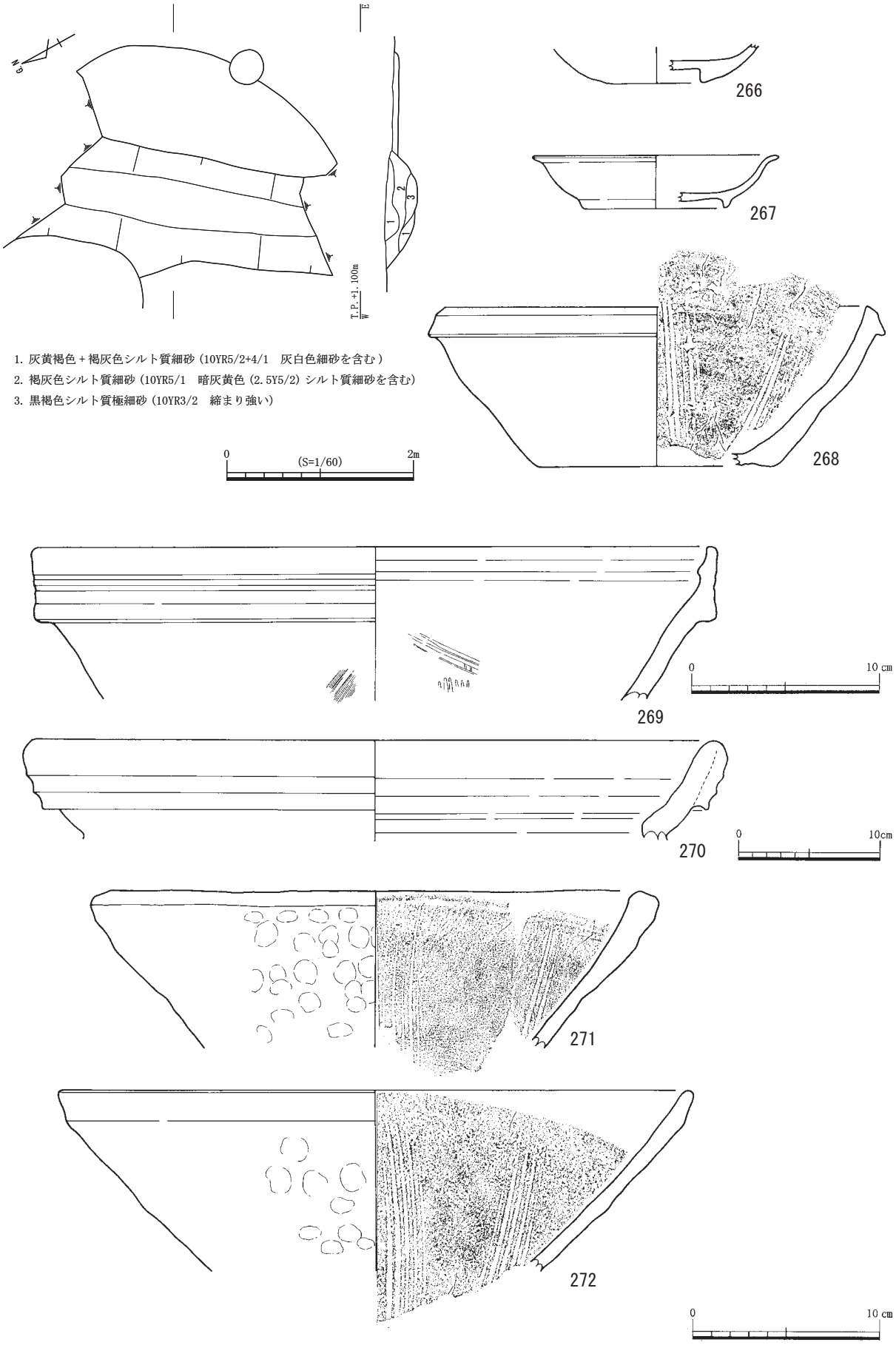
ＳＤ２－ 4401（第 69 図）

調査区中央西寄りにおいて検出した溝であり、ＳＸ２－ 4401 を切っている。北・南端はコンクリート基礎により削平されている。検出面の標高は 0.83 ｍである。検出した長さは 2.60 ｍで、幅 1.05 ｍ、深さ 0.35 ｍを測る。溝の方位はＮ－ 40°－Ｅである。底面のレベルは南から北に向かって緩やかに下がる。埋土は３層に分かれる。所属時期は遺構面及び出土遺物より 15 世紀中葉～ 16 世紀後葉と考えられる。

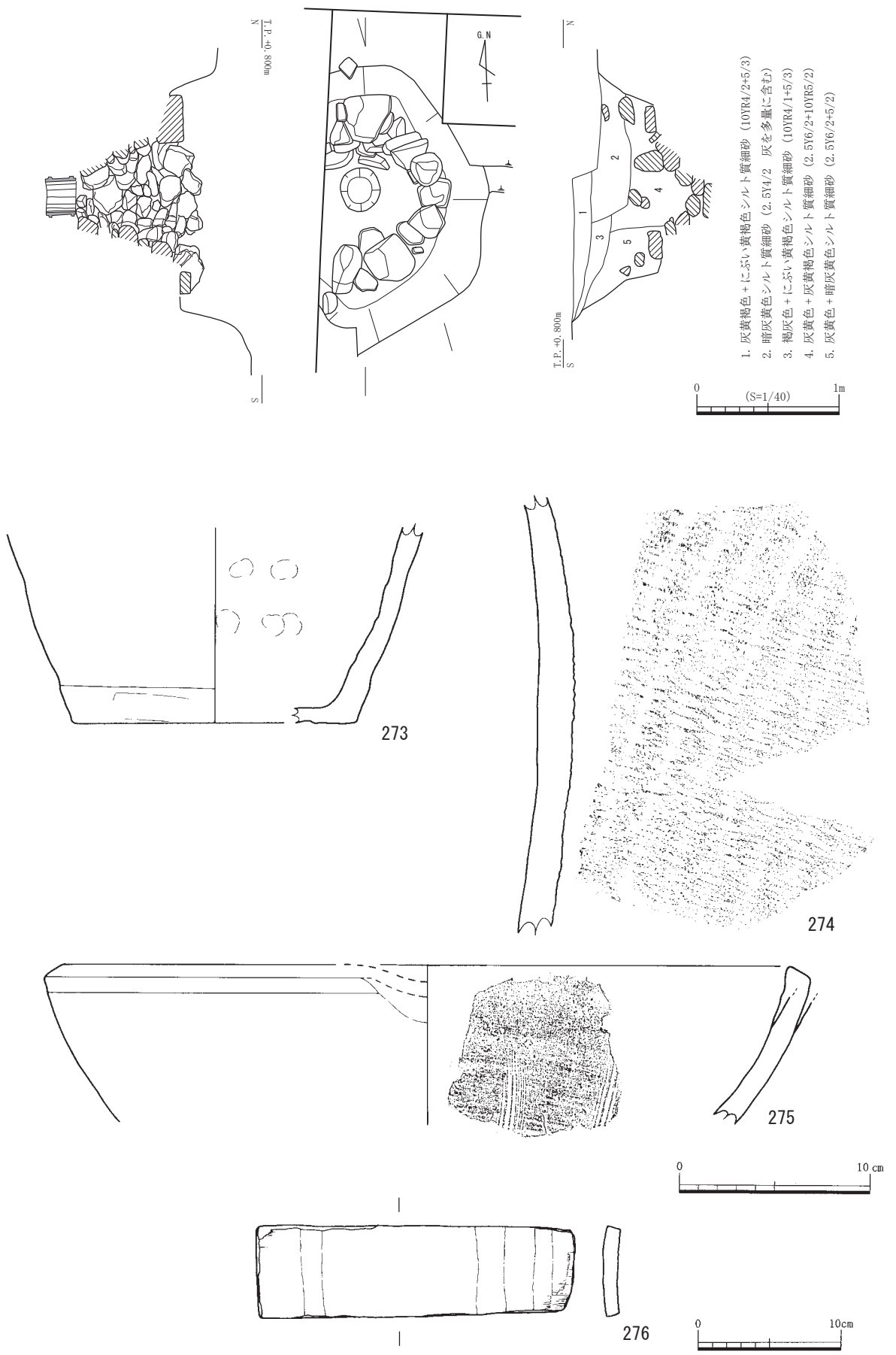
出土遺物は図化した以外に備前焼陶器大甕、土師質土器小皿、同鍋、瓦器椀がある。266 は輸入磁器皿で、碁笥底である。267 は輸入磁器の端反りの皿である。268 は備前焼陶器擂鉢であり、口縁部はやや下方に拡張する。内面には５本１単位の卸目が粗く放射状に見られる。269 は備前



第 68 図　２工区第４遺構面遺構配置図



第 69 図　ＳＤ２-4401 平・断面図、出土遺物実測図



第 70 図　ＳＥ２-4401 平・断面図、出土遺物実測図

焼陶器擂鉢で、口縁部内面に稜を持ち、外面は浅い２本の沈線を巡らせている。卸目は放射状と斜め方向に施されている。270 は備前焼陶器大甕で、口径 48 ㎝を測る。271・272 は土師質土器擂鉢で、口縁部は体部からそのまま延びる。卸目は５本１単位で放射状に施されている。

井戸

ＳＥ２－ 4401（第 70 図）

調査区西端において検出した石組みと結物を井側とする井戸であり、西半分はコンクリート基礎の下になっているため調査不可能であった。検出面の標高は 0.85 ｍ前後である。掘り方の平面形はやや角張った円形を呈し、直径は 2.03 ｍを測る。石組みの最上部は遺構面からの深さ約 0.35 ｍにおいて検出し､結物の上部までが石組みとなっている。石組みは自然石の乱積みであり、石の規模は直径約 0.20 ｍ位の大きい石と 0.10 ｍ未満の小さい石で構成される。石材は安山岩である。結物は直径 0.26 ｍ、高さ 0.22 ｍを測り、最上端の標高は－ 0.50 ｍである。結物は幅 6.5 ㎝の板材を組み合わせており、上端と下端には竹製の箍がある。井戸の底面は標高－ 0.72 ｍであり、常時湧水が認められる。所属時期は遺構面及び出土遺物より 14 世紀中葉～後葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶磁器碗、土師質土器小皿がある。273 は陶器甕で、体部内面の下位に自然釉がかかっている。274 は陶器甕で、外面に筵の圧痕が残る。275 は陶器擂鉢で、片口を有する。卸目は５本１単位である。

276 は結物の板材で、長さ 22 ㎝、幅 6.5 ㎝を測り、外面に箍の痕跡が残る。

（５）第５遺構面（第 71 図）

溝

ＳＤ２－ 5501（第 72 図）

調査区西側において検出した溝で、北・南側はコンクリート基礎により削平され、ＳＰ２－ 5505 に切られる。検出面の標高は 0.73 ｍ前後である。検出した長さは 2.93 ｍ､幅 0.12 ～ 0.17 ｍ、深さ 0.06 ｍを測り、方位はＮ－ 37°－Ｅである。底面はほぼ平坦である。埋土は灰白色細砂を含む灰黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 16 世紀末頃と考えられる。

出土遺物は土師質土器鍋、須恵質土器杯、骨があるが、図化できるものはない。

土坑

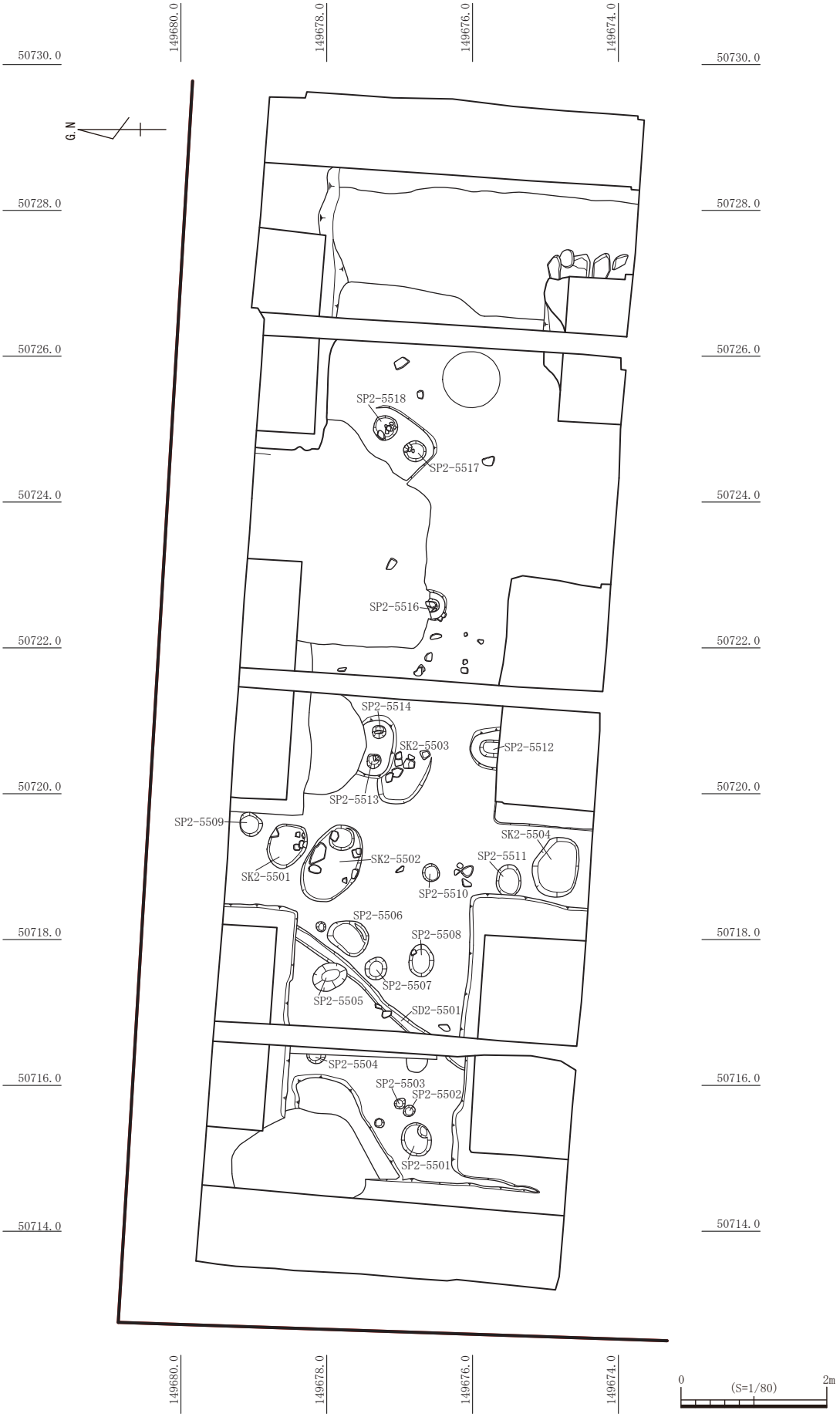
ＳＫ２－ 5502（第 72 図）

調査区中央やや西寄りにおいて検出した土坑である。検出面の標高は 0.56 ｍ前後である。平面形は楕円形を呈し、長軸 1.12 ｍ、短軸 0.62 ｍを測る。東側に直径 0.35 ｍの円形の落ち込みがあり、深さは 0.24 ｍである。埋土は灰白色＋灰黄色シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 13 世紀初頭と考えられる。

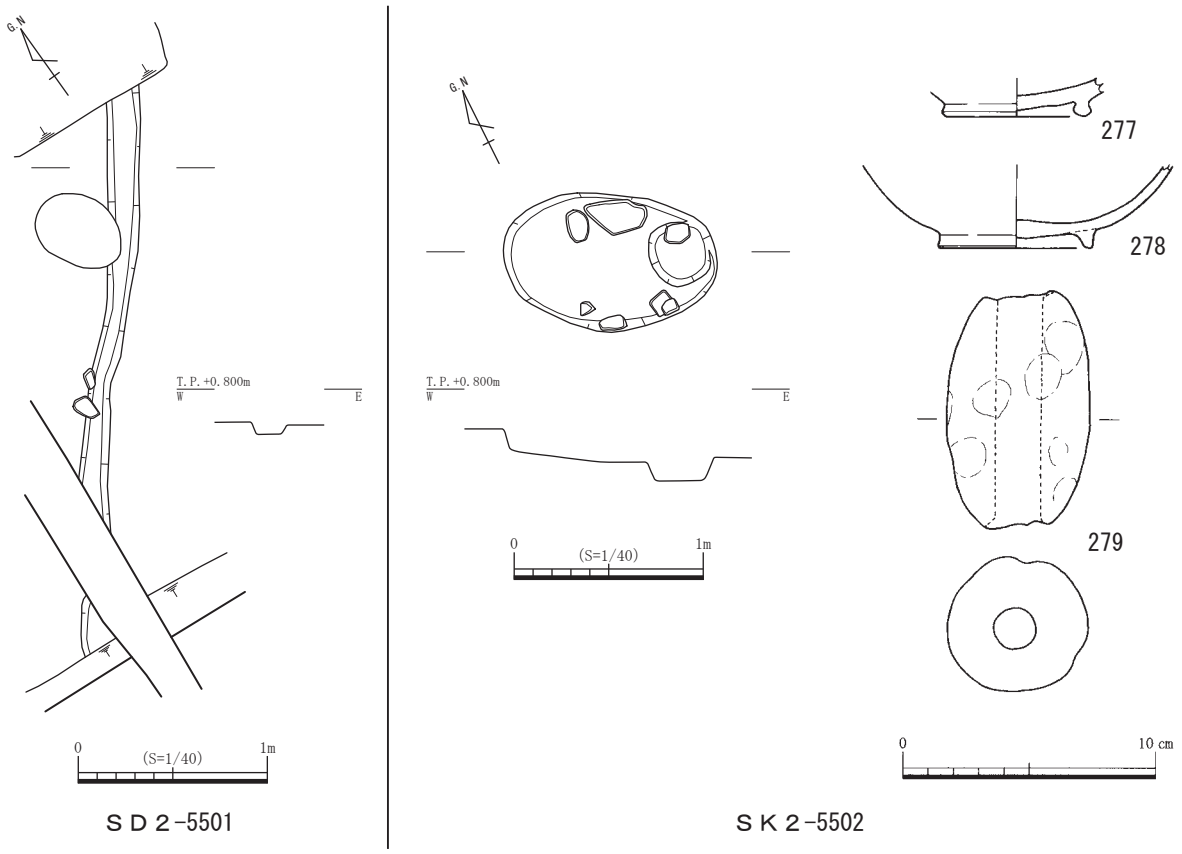
出土遺物は図化した以外に土師質土器鍋､須恵質土器杯である｡277･278 は土師質土器椀であり、277 は丸っぽい高台、278 はやや高い高台が付いている。279 は管状土錘で、重量 276 ｇの大型の土錘である。

２工区第５遺構面出土遺物（第 73 図）

280 は輸入白磁碗で、口縁部が短く水平に延びる。281 は輸入青磁碗で、内面は二叉片刃による分割の中に飛雲文が施されている。産地は龍泉窯である。282・283 は輸入青磁碗で、282 の内



第 71 図　２工区第５遺構面遺構配置図



第 72 図　ＳＤ２-5501・ＳＫ２-5502 平・断面図、出土遺物実測図

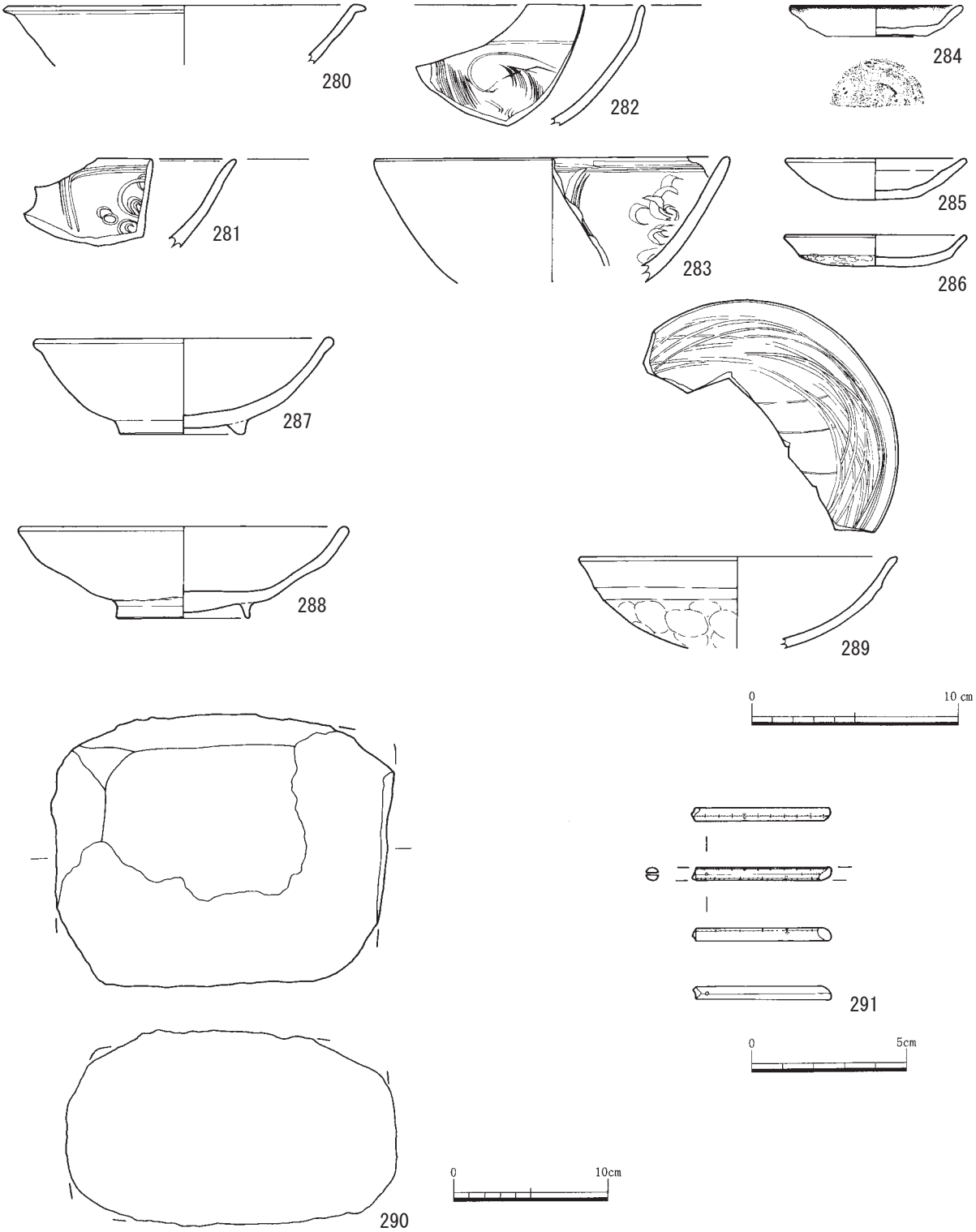
面は片刃彫が施され、283 の内面は二叉片刃による分割の中に飛雲文が見られる。産地は共に龍泉窯である。284 は須恵質土器小皿で、口縁部内外面に重ね焼きに伴う黒斑があり、底部は回転ヘラ切り後にナデが施されている。285 は土師質土器小皿である。286 は瓦器小皿で、体部と口縁部の境に僅かな稜を持つ。287・288 は土師質土器椀で、287 は口縁部が僅かに肥大し、断面三角形の高台を張り付ける。288 は底面が厚くなり、高台は細く高い。289 は瓦器椀で、体部と口縁部の境に僅かな稜を持つ。体部外面は指頭圧、内面はヘラ磨きが施され、見込みに暗文が見られる。

290 は五輪塔の地輪であり、石材は天霧系凝灰岩である。

291 はコンクリート基礎の掘り方から出土した象牙製の竿秤であり、直径 4.5 ㎜で二つの目盛りが刻まれている。

２工区深掘り出土遺物（第 74 図）

292 ～ 294 は深掘り部の現地表面から約 2.00 ｍ下の砂礫層上面において出土した土師質土器小皿である。器形は歪であり、底部は切り離し後にナデが施されている。



第 73 図　２工区第５遺構面出土遺物実測図

第 74 図　２工区深掘り出土遺物実測図

第４節　３工区の遺構と遺物

１　調査の概要

３工区は２工区から約 40 ｍ東に位置し、４工区と隣接する。対象面積は 212 ㎡であるが、北側に接する歩道に対する保護措置として境界から約１ｍ内側を残して掘削し、南側にある建物の駐車場への進入路を確保するため調査対象範囲の北側のみの掘削となった。さらに、調査対象範囲の中央にガス管と水道管が南北に配されていることが判明したため調査不可能となった。このような状況から調査が実施できたのは対象面積の 1/7 以下の 28 ㎡である。

アスファルト舗装を取り除くと調査区の中央に東西にコンクリート基礎が延び、それに伴う攪乱も大きく入り込んでいる。このため調査区内で調査ができたのは南西部のみである。調査は第１遺構面～第３遺構面まで実施した。

２　基本土層（第 75 図）

調査区北側にはコンクリート基礎があるので、土層観察を南壁において行うが、攪乱が著しく良好な堆積を示すのは約１ｍ幅のみである。基本土層は１工区とほぼ同様であり、遺構面は３面検出される。

Ａ層:表土に相当する埋め立てである。表面はアスファルト舗装であり、その下は花崗土である。

Ｂ層：第２次世界大戦の高松空襲による焦土・焼土層で、第 75 図の第１層である。

Ｃ層：ＳＸ３－1101 の埋土の焼土層（第４層）であり、第１遺構面である。標高は 1.28 ｍである。

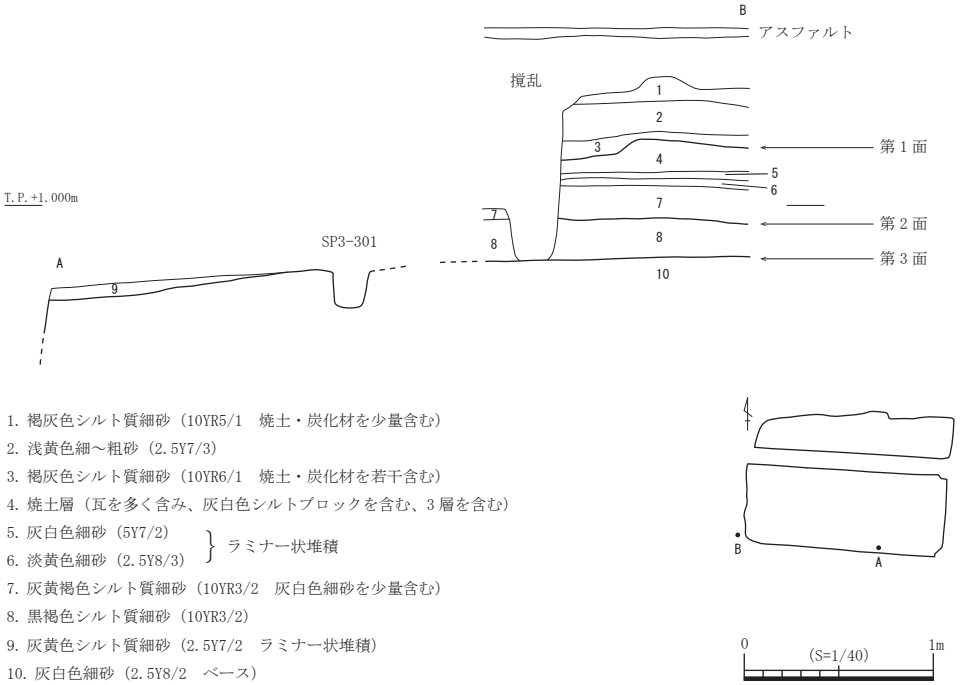
Ｄ層：第５・６層の細砂であり、ラミナー状堆積をなす。

Ｅ層：第７層である。

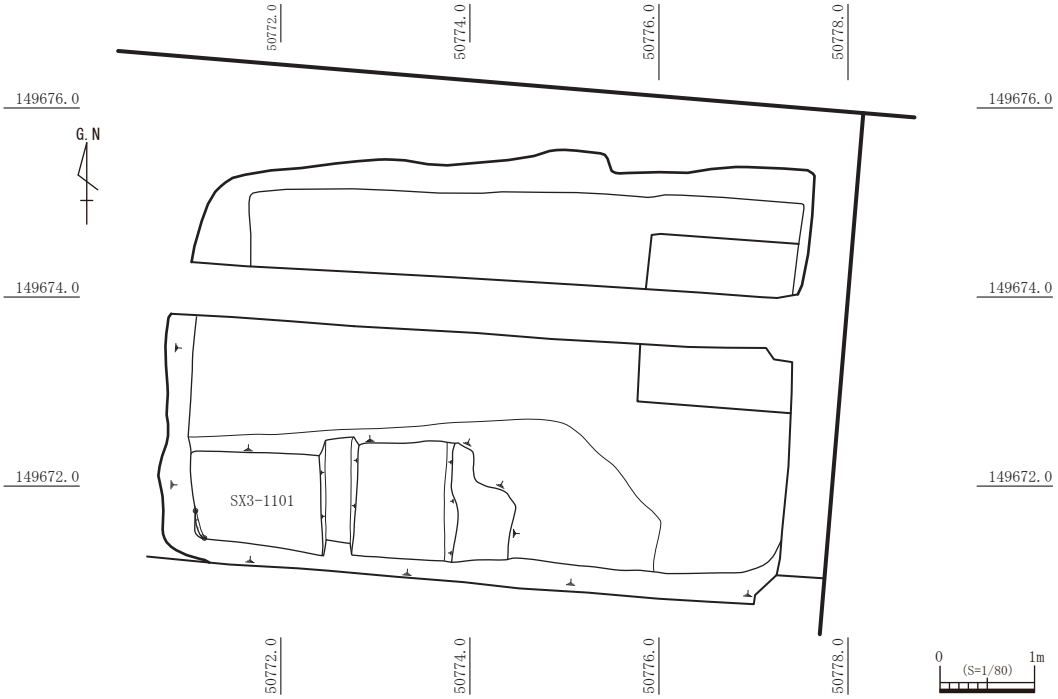
Ｆ層：黒褐色シルト質細砂（第８層）であり、その上面において遺構を検出した。第２遺構面であり、標高は 0.90 ｍ前後である。

Ｇ層：中・近世の基盤層が東側に緩やかに下がる部分に堆積する第９層であり、ラミナー状堆積をなす。

Ｈ層：中・近世の基盤層と考えられている層で、第 10 ～ 12 層である。第 10 層の上面に遺構を検出した。第３遺構面であり、標高は 0.70 ｍ前後である。



第 75 図　３工区土層図



第 76 図　３工区第１遺構面遺構配置図

３　遺構・遺物

（１）第１遺構面（第 76 図）

性格不明遺構

ＳＸ３－ 1101（第 76 図）

調査区南西隅において検出した落ち込みであり、南西隅に長さ 0.30 ｍの落ち込みを検出した。検出面の標高は 1.28 ｍである。深さは 0.14 ｍで、平面形・規模は不明である。埋土は瓦を多く含み、灰白色シルトブロック・褐灰色シルト質細砂を含む焼土層である。

出土遺物は土師質土器椀、丸瓦、平瓦があるが、図化できるものはない。

（２）第２遺構面（第 77 図）

柱穴

ＳＰ３－ 2204（第 78 図）

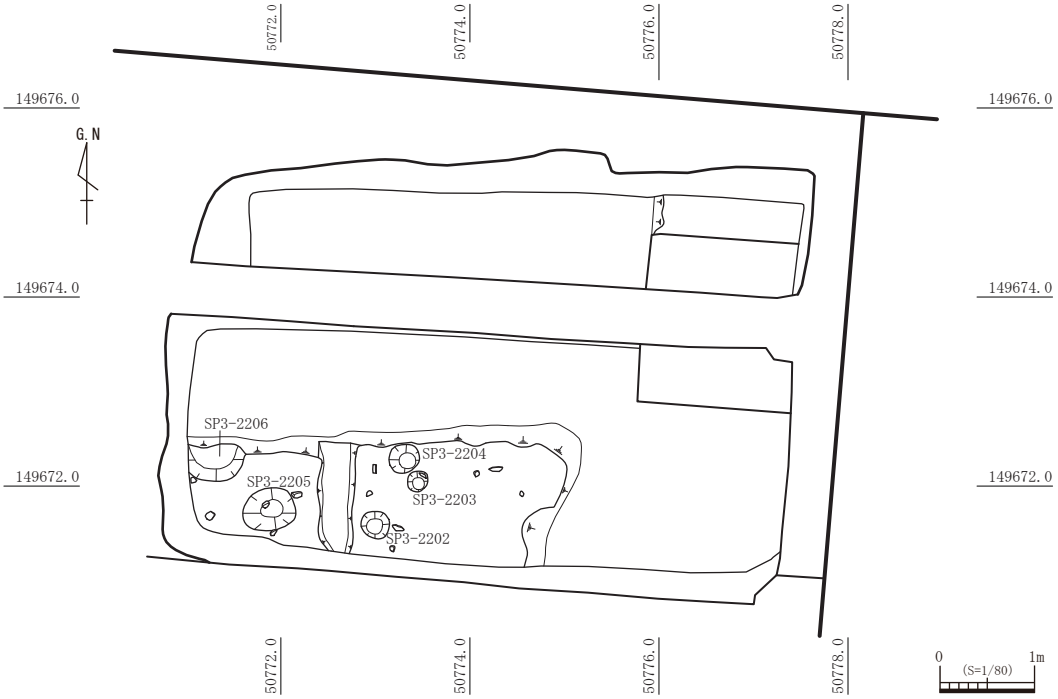
調査区中央において検出した柱穴である。検出面の標高は 0.95 ｍである。平面形は円形であり、直径 0.32 ｍ、深さ 0.32 ｍを測る。底面が南東側に片寄る。埋土は焼土を含むにぶい黄橙色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀前半と考えられる。

出土遺物は 295 の備前焼陶器鉢のみである。

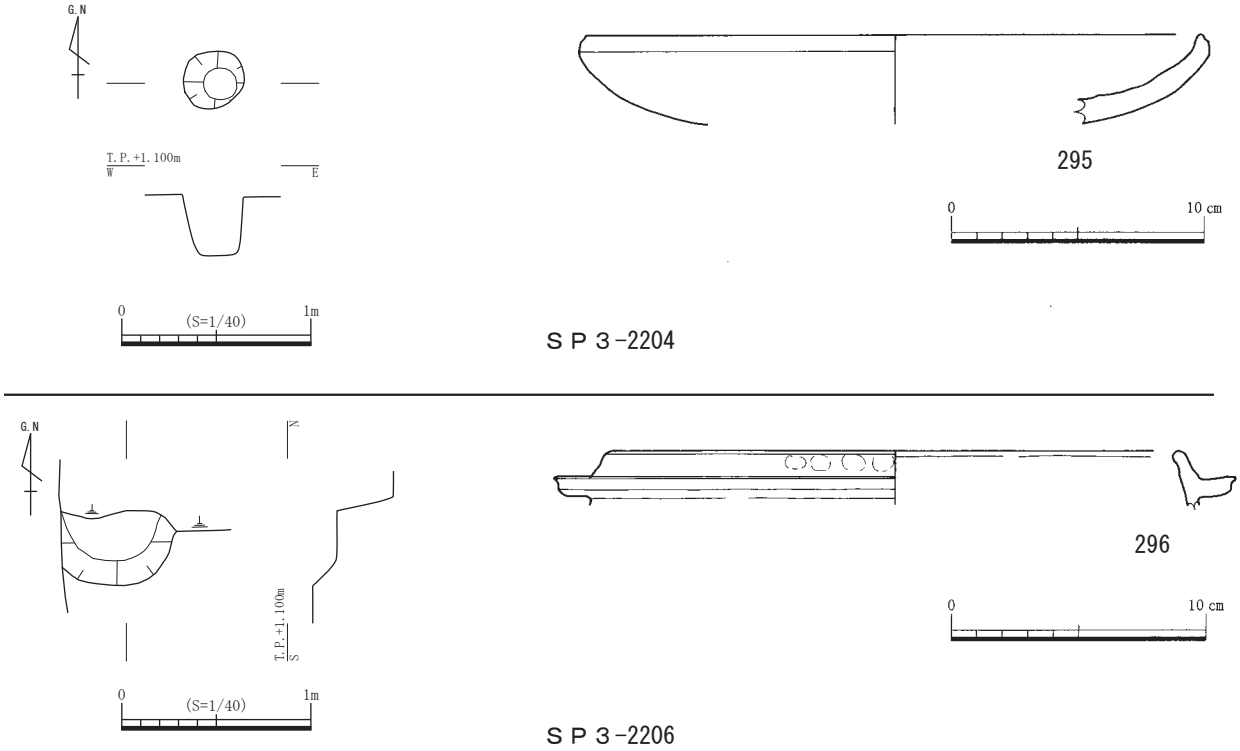
ＳＰ３－ 2206（第 78 図）

調査区西端において検出した柱穴であり、北側は攪乱により削平されている。規模から土坑の可能性も考えられる。検出面の標高は 0.96 ｍである。平面形は円形を呈し、直径は 0.60 ｍ以上、深さ 0.12 ｍを測る。埋土は炭化材を若干含む灰黄褐色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器杯がある。296 は土師質土器羽釜で、口縁部直下に顎が水平に付く。



第 77 図　３工区第２遺構面遺構配置図



第 78 図　ＳＰ３-2204・2206 平・断面図、出土遺物実測図

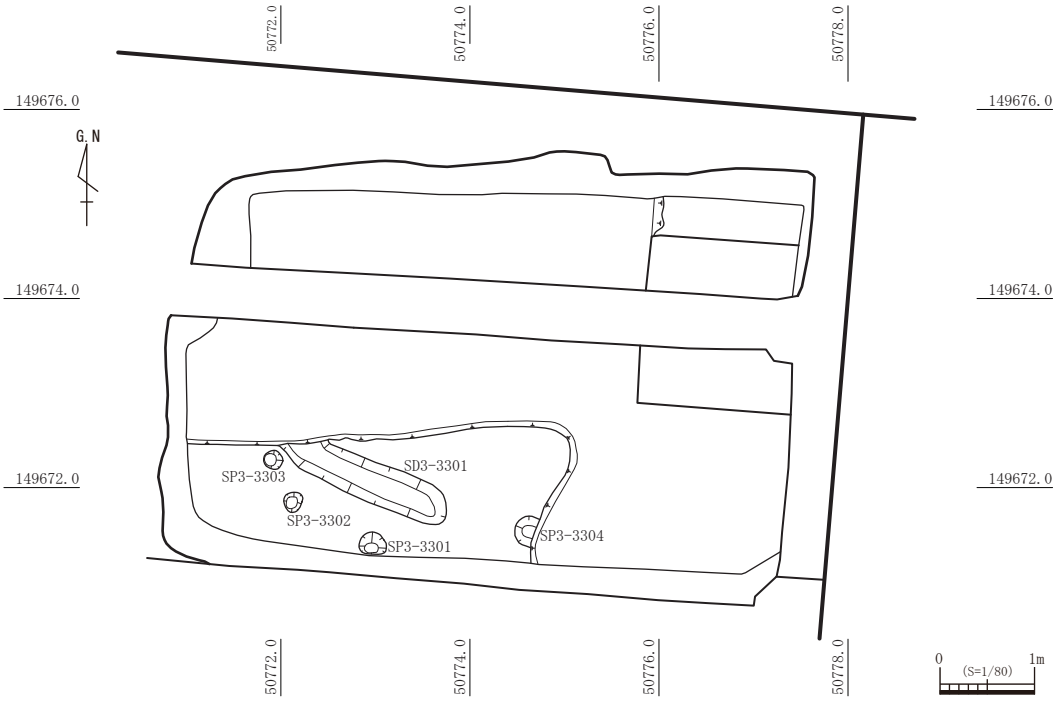
（３）第３遺構面（第 79 図）

溝

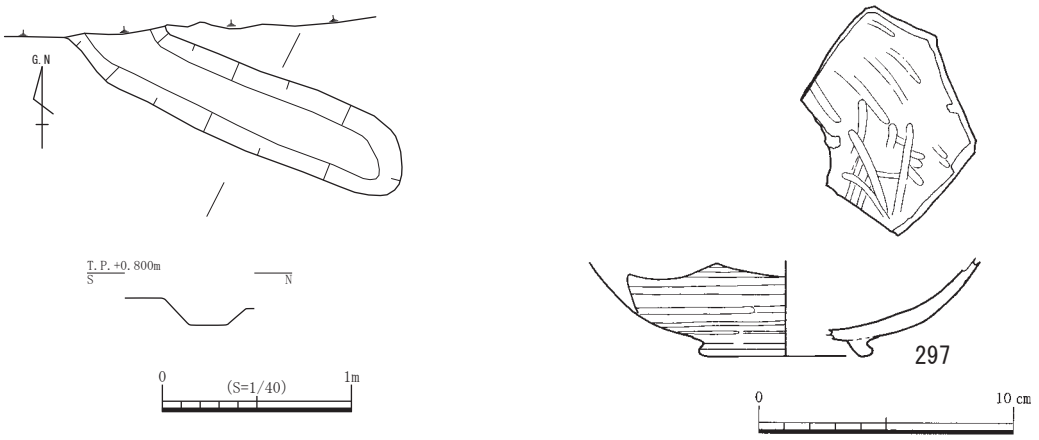
ＳＤ３－ 3301（第 80 図）

調査区南東側において検出した溝で、北側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 0.67 ｍである。検出できた溝の長さは 1.92 ｍ、幅 0.43 ｍ、深さ 0.15 ｍを測る。溝の方位はＮ－ 62 °－Ｗである。底面のレベルは北西方向に緩やかに下がる。埋土はにぶい黄褐色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 12 世紀末と考えられる。

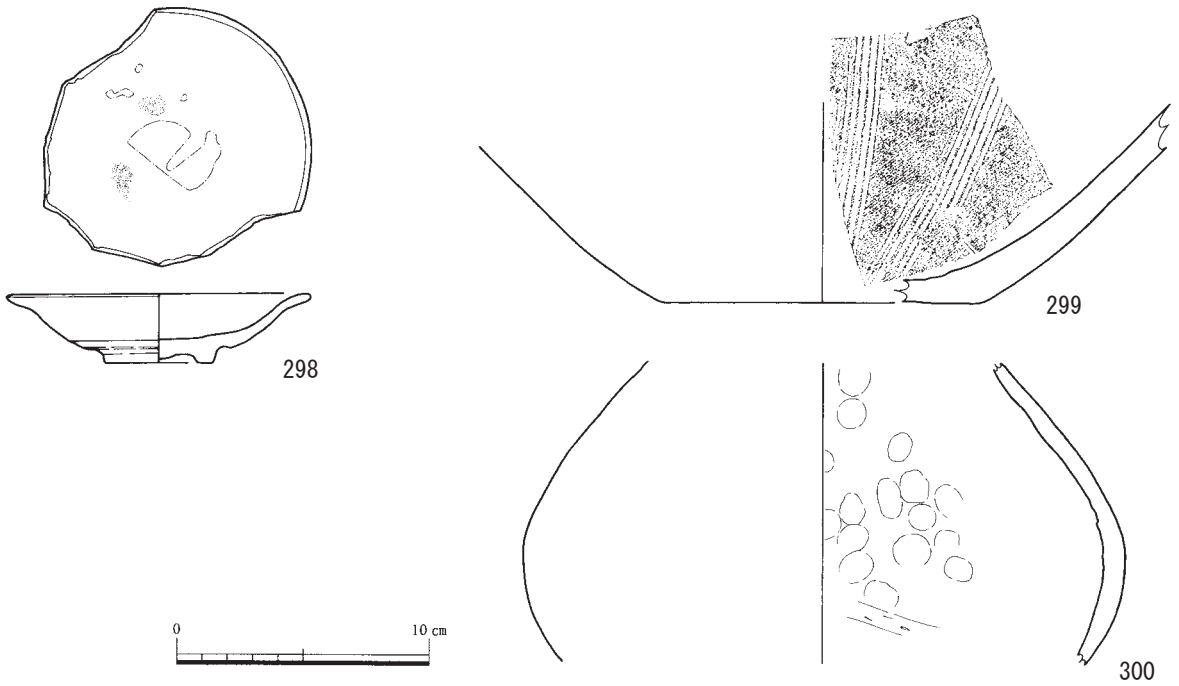
出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、瓦器椀がある。297 は須恵質土器椀で、貼り付け高台である。体部内・外面は回転ナデ後にヘラミガキが施され、外面に重ね焼きによる黒斑がある。



第 79 図　３工区第３遺構面遺構配置図



第 80 図　ＳＤ３-3301 平・断面図、出土遺物実測図



第 81 図　３工区第３遺構面出土遺物実測図

３工区第３遺構面出土遺物（第 81 図）

298 は基盤層が緩やかに下がる微低地より出土した肥前系陶器皿であり、口縁部が僅かに外反する。見込みには砂目が残る。299 は基盤層が緩やかに下がる微低地より出土した備前焼陶器擂鉢であり、卸目が放射状に施されている。内面には黄ゴマが付着している。

300 は中・近世の基盤層と考えられているＨ層中より出土した弥生土器壺であり、体部内面上半は指頭圧、下半はヘラケズリが施されている。

第５節　４工区の遺構と遺物

１　調査の概要

４工区は３工区と５工区に挟まれた調査区である。対象面積は 147 ㎡であるが、北側に接する歩道に対する保護措置として境界から約 1.00 ｍ内側を残して掘削し、さらに南側にある建物への進入路を確保するため西端から約 2.60 ｍの範囲では調査が実施できなかった。結果として、実質的な調査面積は約 103 ㎡である。

調査区中央西寄りの位置にはコンクリート基礎が南北方向にあり、それに伴う攪乱が第２遺構面より下まで達している。攪乱は第３遺構面までは達していないが、コンクリート基礎を撤去することは工程上不可能であり、その部分の調査はできなかった。

調査は第１遺構面～第３遺構面の３面において実施したが、第２遺構面では調査区北側に下層の遺構面を検出した。

２　基本土層（第 82 図）

調査区南壁において土層観察を行い、土層図を作成した。壁面には複数の遺構や整地層が重複しており、水平堆積を呈した範囲が非常に少ないが、その特徴からＡ～Ｇ層に分類し、基本土層とした。

Ａ層：表土に相当する埋め立てである。コンクリート基礎より東側は、花崗土が約 0.5 ｍ埋め建てられ、西側の表面はアスファルト舗装であり、その下は花崗岩である。

Ｂ層：第１・２層であり、焼土を若干含み、第２次世界大戦の高松空襲による焼土層である。標高は 1.60 ｍ前後である。

Ｃ層：第４層黄褐色シルト質細砂であり、焼土・炭化材を少量含む。上面において遺構を検出した。第１遺構面である。標高は 1.40 ～ 1.50 ｍである。

Ｄ層：第５層灰黄褐色シルト質細砂であり、焼土・炭化材を多量に含む。

Ｅ層：焼土・炭化材を少量含む第６・７層灰黄褐色＋にぶい黄色シルト質細砂と第 10 ～ 12 層である。上面において遺構を検出した。第２遺構面である。標高は 1.20 ～ 1.30 ｍである。

Ｆ層：第 13 ～ 15 層であり、中・近世の基盤層と考えられる。第 13 層上面において遺構を検出した。第３遺構面である。標高は 0.84 ～ 1.00 ｍである。

Ｇ層：第 16 層砂礫層であり、湧水が認められる。

３　遺構・遺物

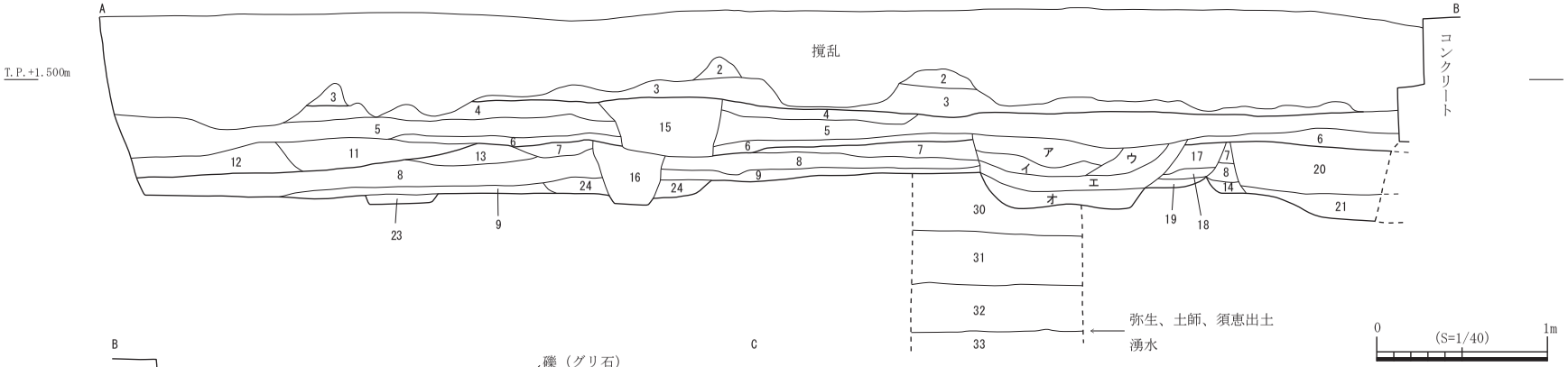
（１）第１遺構面（第 83 図）

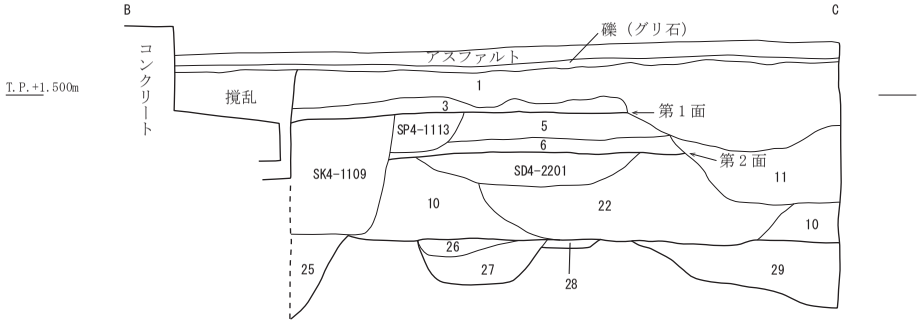
土坑

ＳＫ４－ 1101（第 84 図）

調査区南東隅において検出した土坑で、西側は攪乱により削平を受けている。検出面の標高は 1.36 ｍ前後である。平面形は円形を呈し、直径 1.38 ｍを測る。土坑中央に備前焼陶器大甕の体部下半（第 84 図 303）が埋められている。大甕は検出面より確認しており、底面までの深さは 0.68 ｍで、水甕として使用されていたと考えられる。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀第３四半期と考えられる。

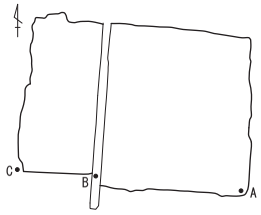
出土遺物は図化した以外に陶磁器碗がある。301 は肥前系磁器紅猪口で、外面に笹文が見られる。高台に砂目が付着している。302 は備前焼陶器大甕の体部上端である。外面の一部に黄ゴマが付着している。303 と同一個体の可能性がある。303 は備前焼陶器大甕の体部下半である。底径 40.5 ㎝、現存高 68.8 ㎝を測り、外面の調整は横方向と縦方向の板ナデが施され、内面は横方向と縦方向のナデ・板ナデが施され、一部に当て具痕が残る。底部内面に自然釉がかかっている。



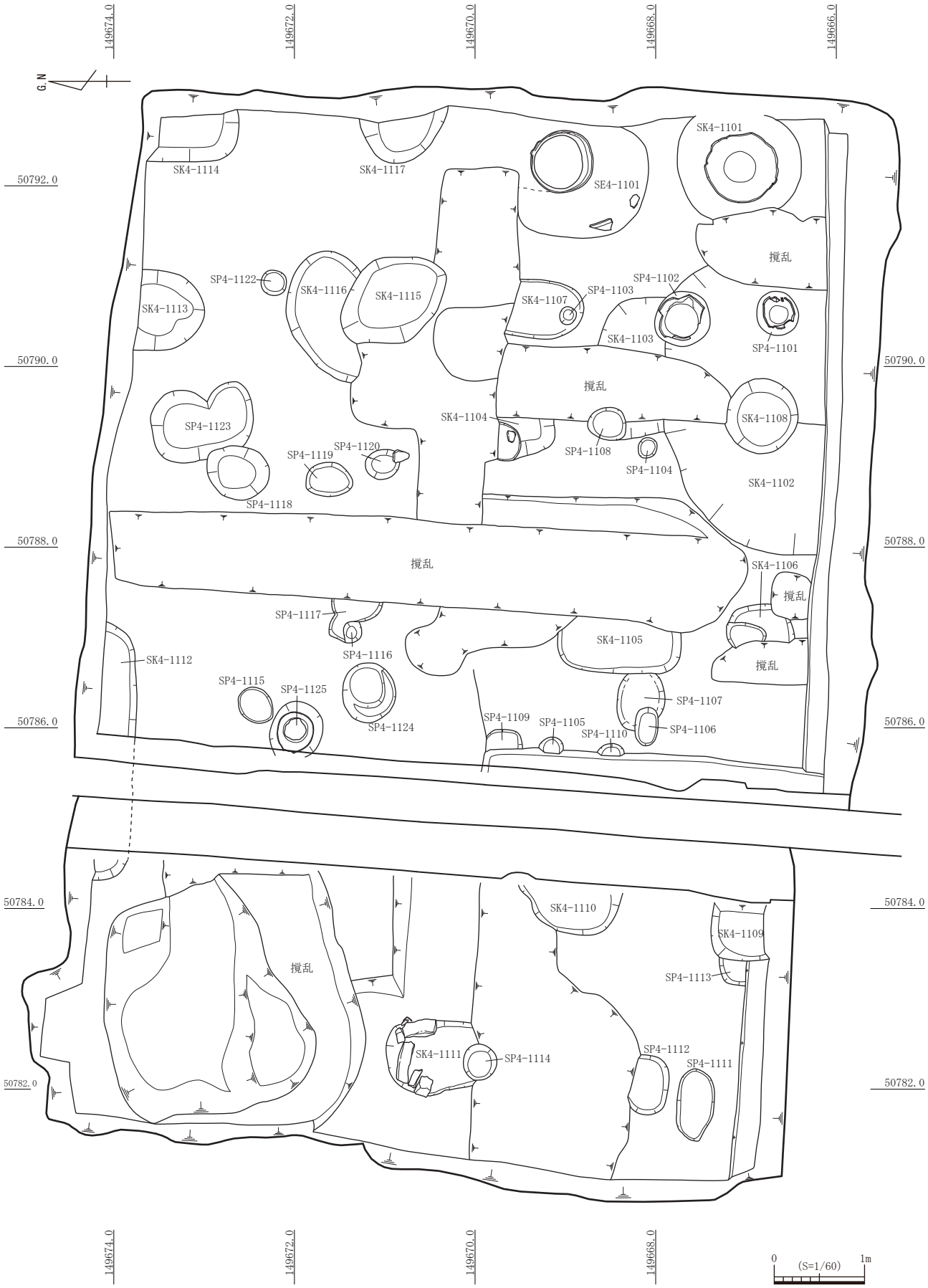


1. 焼土（高松空襲）
2. 灰黄色シルト質細砂（2.5Y6/2　焼土を若干含む）
3. 灰黄色＋にぶい黄色シルト質細砂（2.5Y6/2+6/3　焼土を若干含む）
4. にぶい黄色＋灰黄褐色シルト質細砂（2.5Y6/4+10YR6/2）
5. 黄褐色シルト質細砂（2.5Y5/3　焼土・炭化材を少量含む）－第１面
6. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　焼土・炭化材多量に含む）－第２面上層の焼土層 } 第２面
7. 灰黄褐色＋にぶい黄色シルト質細砂（10YR4/2+2.5Y6/3　焼土・炭化材を少量含む）
8. 6層とほぼ同じだが、灰黄褐色シルト質細砂がやや少ない
9. 灰黄色シルト質細砂（2.5Y7/2）
10. にぶい黄褐色シルト質細砂（10YR5/3　瓦を多量に含む）
11. 浅黄色＋にぶい黄色シルト質細砂（2.5Y7/3+6/3）
12. 黄灰色＋灰黄色シルト質細砂（2.5Y6/1+7/2）
13. 浅黄色＋灰黄褐色シルト質細砂（2.5Y7/3+10YR5/2）
14. にぶい黄褐色シルト質細砂（10YR4/3）
15. 淡黄色シルト質細砂（2.5Y8/3　焼土を含む）
16. にぶい黄色シルト質細砂（2.5Y6/3　淡黄色（2.5Y8/3）シルト質細砂を含む）
17. にぶい黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト（2.5Y6/3+2.5Y8/3）
18. にぶい黄色シルト質細砂（2.5Y6/3　焼土・炭化材を含む）
19. 暗灰黄色シルト質細砂（2.5Y5/2）
20. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR5/2　焼土・炭化材を少量含む）
21. 褐灰色シルト質細砂（10YR4/1）
22. 灰黄色シルト質細砂（2.5Y6/2 瓦多量）－SK4-205
23. 灰白色＋灰黄色シルト質細砂（2.5Y8/1+6/2）
24. にぶい黄褐色シルト質細砂（10YR4/3） } SP4-3379
25. 暗灰黄色シルト質細砂（2.5Y4/2）－SK4-301
26. 暗灰黄色シルト質細砂＋灰白色細砂（2.5Y5/2+5Y8/1）
27. 灰白色細砂（5Y8/1）
28. 黄褐色シルト質細砂（2.5Y5/3）－SP4-3380
29. にぶい黄褐色＋にぶい黄色シルト質細砂（10YR5/3+2.5Y6/3　焼土・炭化材を若干含む）－SK4-3304
30. 淡黄色細砂－第３面
31. 灰白色細砂
32. 淡黄色粗砂
33. 暗茶色粗～中砂（Fe・礫を含む）

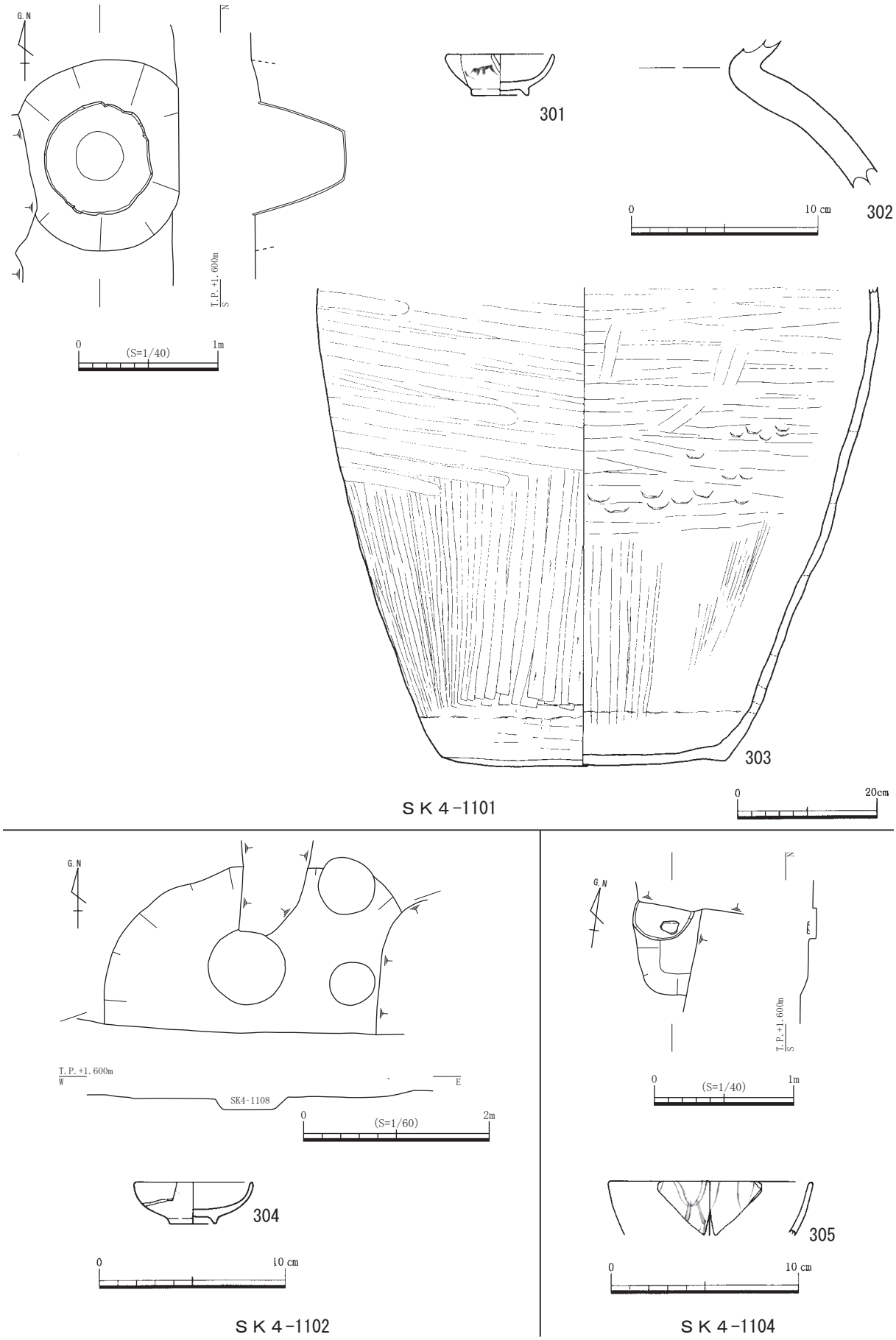
ア．暗灰黄色シルト質細砂（2.5Y4/2　焼土を若干含む）
イ．ア層＋灰黄色シルト質細砂（2.5Y4/2+2.5Y6/2）
ウ．イ層とほぼ同じだが灰黄色シルト質細砂が多い（焼土を若干含む）
エ．灰黄色＋灰白色シルト質細砂（2.5Y6/2+7/2）
オ．灰白色シルト質細砂（2.5Y7/2）



第82図　４工区土層図



第 83 図　４工区第１遺構面遺構配置図



第 84 図　ＳＫ４-1101・1102・1104 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＫ４－1102（第84図）

調査区南東隅において検出した土坑であり、ＳＫ４－1108を切っており、ＳＰ４－1101・1102に切られている。南側は調査区外となる。検出面の標高は1.45ｍである。平面形は円形を呈し、直径は2.93ｍ以上で、深さは0.10ｍである。埋土は灰黄褐色＋にぶい黄色シルト質細砂（第82図の第３層）の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀第３四半期と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、同植木鉢、青磁碗、須恵器甕、軒丸瓦、丸瓦がある。304は肥前系磁器紅猪口である。

ＳＫ４－1104（第84図）

調査区中央やや東寄りにおいて検出した土坑であり、東側・北側は攪乱により削平されている。検出面の標高は1.49ｍである。検出部分が少ないため平面形は不明である。検出した規模は南北方向で0.63ｍ、深さ0.05ｍである。北側に円形の落ち込みがある。埋土は灰白色シルトブロック・焼土・炭化材を含むにぶい黄褐色シルト質極細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗がある。305は肥前系磁器碗であり、外面の文様は二重網目文、内面は一重網目文である。

ＳＫ４－1105（第85図）

調査区中央において検出した土坑であり、東側は攪乱により削平されている。検出面の標高は1.45ｍである。平面形は隅丸方形を呈し、南北長1.36ｍ、東西長0.62ｍ以上、深さ0.10ｍを測る。埋土はにぶい橙色＋にぶい黄橙色シルト質細砂の単一層であり、瓦片が多量に出土した。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、軒丸瓦、平瓦がある。306は肥前系磁器碗で、外面の文様は草花文である。307は瀬戸・美濃系鉢で、口縁端部が上方に屈曲する。内面に波状沈線が見られる。

ＳＫ４－1106（第86図）

調査区中央南端において検出した土坑であり、東側・西側は攪乱により削平されている。検出面の標高は1.45ｍ前後である。平面形は楕円形を呈し、長軸0.75ｍ、短軸0.40ｍ以上、深さ0.14ｍを測る。北側に円形の落ち込みがある。埋土はにぶい黄橙色＋浅黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、同酒盃、陶器碗、軒丸瓦がある。308は肥前系磁器小杯で、外面の文様は松文である。

ＳＫ４－1111（第85図）

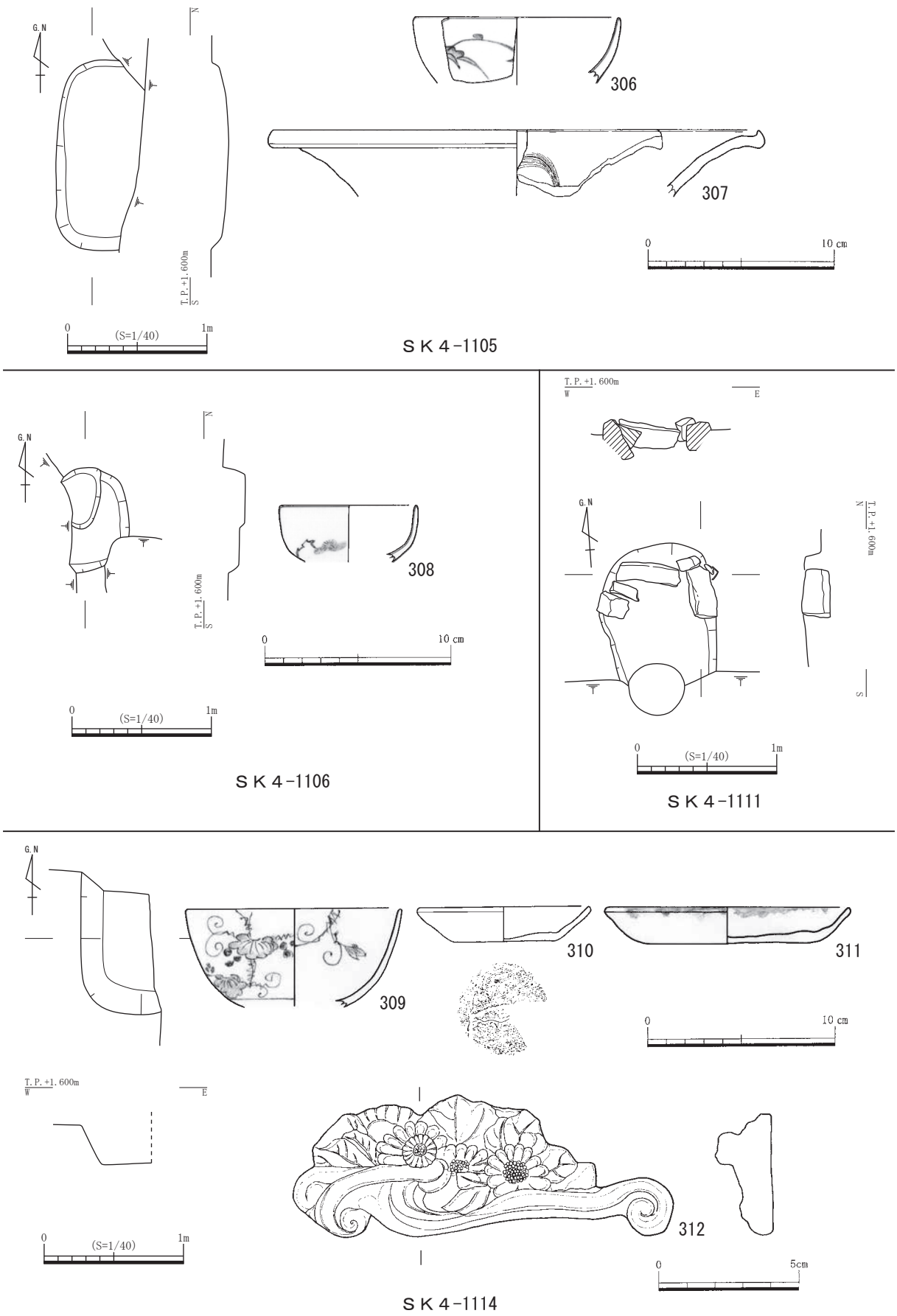
調査区西端において検出した土坑であり、ＳＰ４－1114に切られ、南端は攪乱により削平されている。検出面の標高は1.28ｍであるが、検出作業時に深く掘りすぎたことによるものであり、本来の検出面は約0.10ｍ上である。平面形は隅丸方形を呈し、南北辺1.03ｍ以上、東西辺0.82ｍ、深さ0.15ｍを測る。土坑の内側には板状の石材が「コ」の字状に置かれている。１工区第２遺構面で検出したＳＫ１－2212と同様の遺構である。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

出土遺物は磁器碗、陶器碗があるが、図化できるものはない。

ＳＫ４－1114（第85図）

調査区北東隅において検出した土坑であり、北側・東側は歩道の調査区外となる。検出面の標高は1.35ｍである。平面形は隅丸方形と推定され、南北長1.00ｍ以上、東西長0.50ｍ以上、深さ0.30ｍを測る。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半～中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、土師質土器鍋、丸瓦、平瓦がある。309は肥前系磁器碗で、



第85図　SK4-1105・1106・1111・1114平・断・立面図、出土遺物実測図

内外面の文様は葡萄文であり、全面に貫入が入っている。310 は土師質土器小皿で、底部切り離しは回転糸切りである。311 は土師質土器灯明皿で、口径 12.8 ㎝を測る。底部は回転糸切り後にナデが施されている。口縁部内外面に煤が付着している。312 は鉄製の文鎮で、土坑とは関係がない近代のもので混入したと考えられるが、裏面に刻字があるので報告する。刻字は５行に書かれており、その文面は以下の通りである。

「　　第十八回卒業生
　　□□　恒
奉□□下以ヵ恩賜金謹□以受典之
　大正二年三月十三日
　　香川縣立高松中学校　　」

ＳＫ４－1115（第 86 図）

調査区東側において検出した土坑であり、ＳＫ４－1116 を切っている。検出面の標高は 1.43 ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径 0.93 × 1.27 ｍ、深さ 0.13 ｍを測る。埋土は灰黄褐色＋黄灰色シルト質細砂であり、焼土・炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀第３四半期と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、同蓋、陶器碗、備前焼陶器鉢、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦がある。313 は肥前系磁器中瓶で、外面に２本の圏線と染付が見られる。314 は理兵衛焼陶器碗で、外面に「丸に三葉葵紋」の家紋が見られる。315 は陶器腰錆碗である。

ＳＫ４－1116（第 86 図）

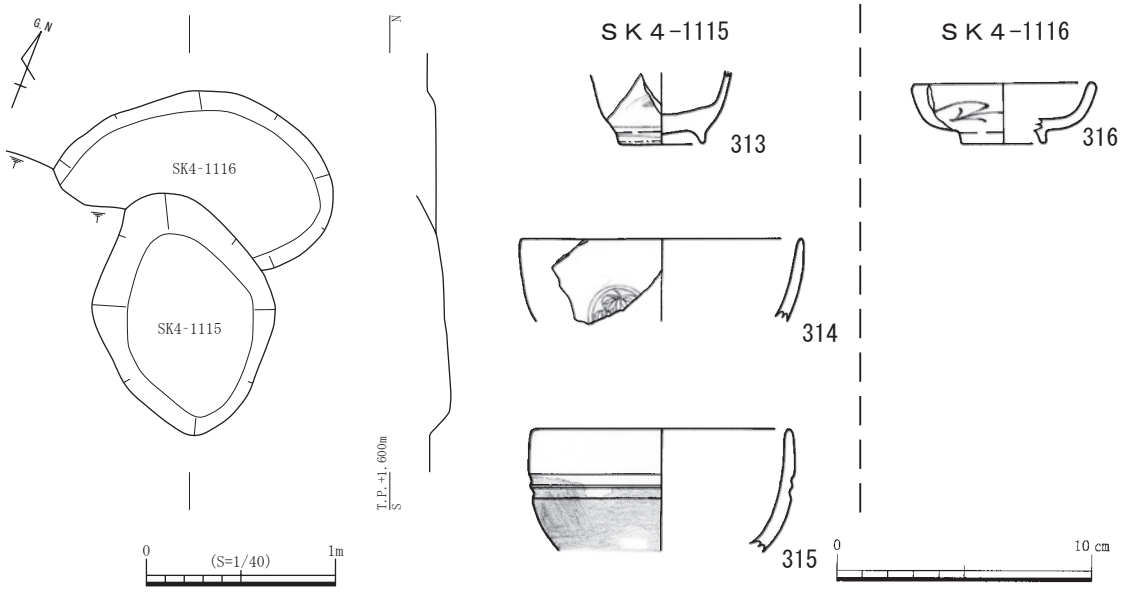
調査区東側において検出した土坑であり、ＳＫ４－1115 に切られている。検出面の標高は 1.43 ｍである。平面形は楕円形を呈し、長軸 1.45 ｍ、深さ 0.07 ｍを測る。埋土は黄灰色＋浅黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後半と考えられる。

出土遺物は 316 の肥前系磁器酒盃のみである。

柱穴

ＳＰ４－1101（第 87 図）

調査区南東側において検出した遺構であり、ＳＫ４－1102 を切っている。検出時は柱穴と考え、ＳＰの遺構番号で遺物を取り上げたので柱穴として報告するが、内面に白色物質が付着する陶器甕の底部が出土したことから埋甕式便槽遺構である。検出面の標高は 1.40 ｍである。平面形は



第 86 図　ＳＫ４-1115・1116 平・断面図、出土遺物実測図

円形を呈し、直径 0.50 m、深さ 0.16 mを測る。甕内部の埋土は焼土・灰・炭化材を多量に含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀と考えられる。

出土遺物は陶器碗、軒平瓦片があるが、図化できるものはない。

ＳＰ４－1102（第 87 図）

調査区南東側において検出した遺構であり、ＳＫ４－1102 を切っており、ＳＰ４－1101 の北側に位置する。検出時は柱穴と考え、ＳＰの遺構番号で遺物を取り上げたので柱穴として報告するが、内面に白色物質が付着する土師質土器甕の底部が出土したことから埋甕式便槽遺構である。検出面の標高は 1.40 mである。平面形は円形を呈し、直径 0.60 m、深さ 0.12 mを測る。甕内部の埋土には焼土・灰・炭化材を多量に含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後半と考えられる。

出土遺物は陶器碗があるが、図化できるものはない。

ＳＰ４－1111（第 87 図）

調査区南西隅において検出した柱穴であり、形状・規模から土坑とも考えられる。検出面の標高は 1.30 mであるが、検出作業時に深く掘りすぎたことによるものであり、本来の検出面は約 0.10 m上である。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.80 m、短軸 0.40 m、深さ 0.06 mを測る。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、同皿、陶器皿、土師質土器小皿がある。317 は京・信楽系陶器皿で、見込みに草花文の染付、高台内中央には刻印が見られる。318 は肥前系磁器皿で、内面に平行線の区画文様と波状文が描かれている。

ＳＰ４－1118（第 87 図）

調査区中央において検出した柱穴であり、ＳＰ４－1123 を切っている。検出面の標高は 1.40 mである。平面形は不整な円形を呈し、直径 0.60 × 0.70 m、深さ 0.10 mを測る。埋土はにぶい黄色シルト質細砂＋淡黄色シルトの単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、同燗徳利、備前焼陶器甕、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦がある。319 は備前系陶器擂鉢である。

ＳＰ４－1122（第 87 図）

調査区北東側において検出した柱穴であり、ＳＰ４－1123 を切っている。検出面の標高は 1.39 mである。平面形は円形で、直径 0.28 m、深さ 0.10 mを測る。埋土は黄灰色＋灰白色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後半と考えられる。

出土遺物は 320 の肥前系陶器皿のみである。

ＳＰ４－1123（第 88 図）

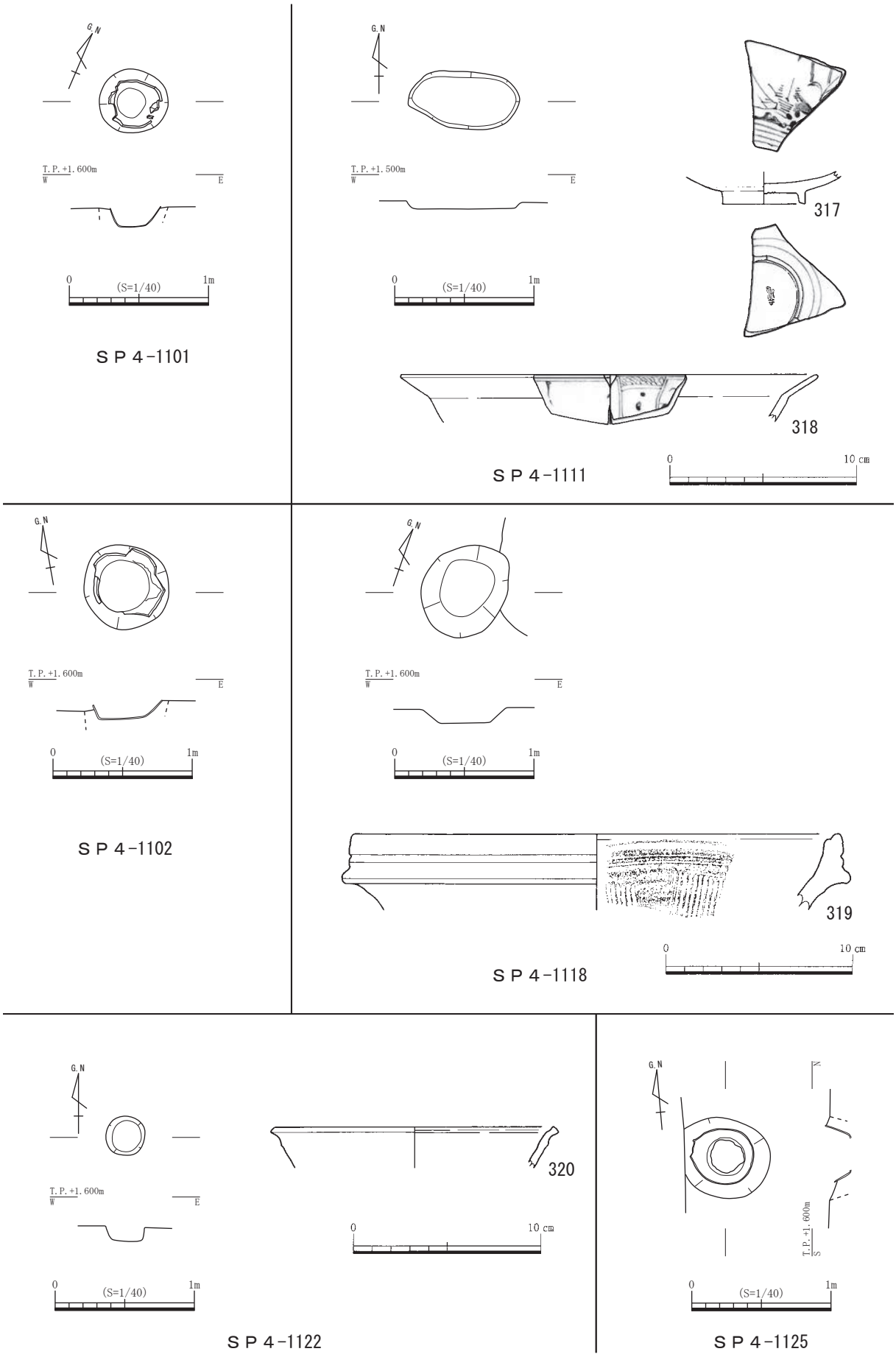
調査区北東側において検出した柱穴であり、ＳＰ４－1122 に切られている。検出面の標高は 1.39 mである。平面形は東側に括れのある楕円形で、長軸 1.15 m、短軸 0.81 m、深さ 0.08 mを測る。埋土は黄灰色＋淡黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器香炉、丸瓦がある。321 は軒平瓦で、中心飾りが「へ」の字形の陽刻線であり、唐草は連続して延び、上・下に２転させている。燻しのない瓦である。

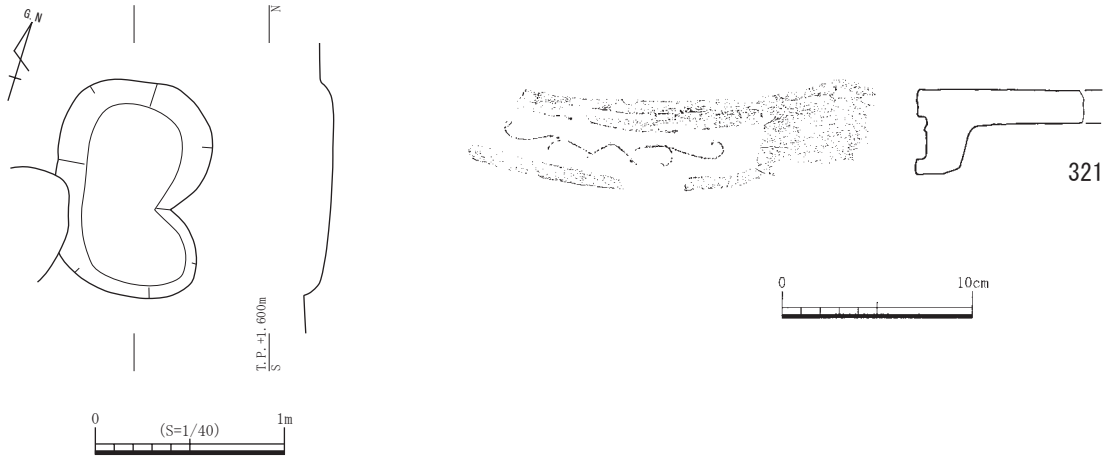
ＳＰ４－1125（第 87 図）

調査区中央において検出した遺構である。検出時は柱穴と考え、ＳＰの遺構番号で遺物を取り上げたので柱穴として報告するが、内面に白色物質が付着する土師質土器甕の底部が出土したことから埋甕式便槽遺構である。検出面の標高は 1.46 mである。平面形は円形を呈し、直径 0.60 m、深さ 0.15 mを測る。甕内部の埋土は焼土を少量に含むにぶい黄色シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後半と考えられる。

出土遺物は陶器碗、軒平瓦片があるが、図化できるものはない。



第87図　ＳＰ４-1101・1102・1111・1118・1122・1125 平・断面図、出土遺物実測図



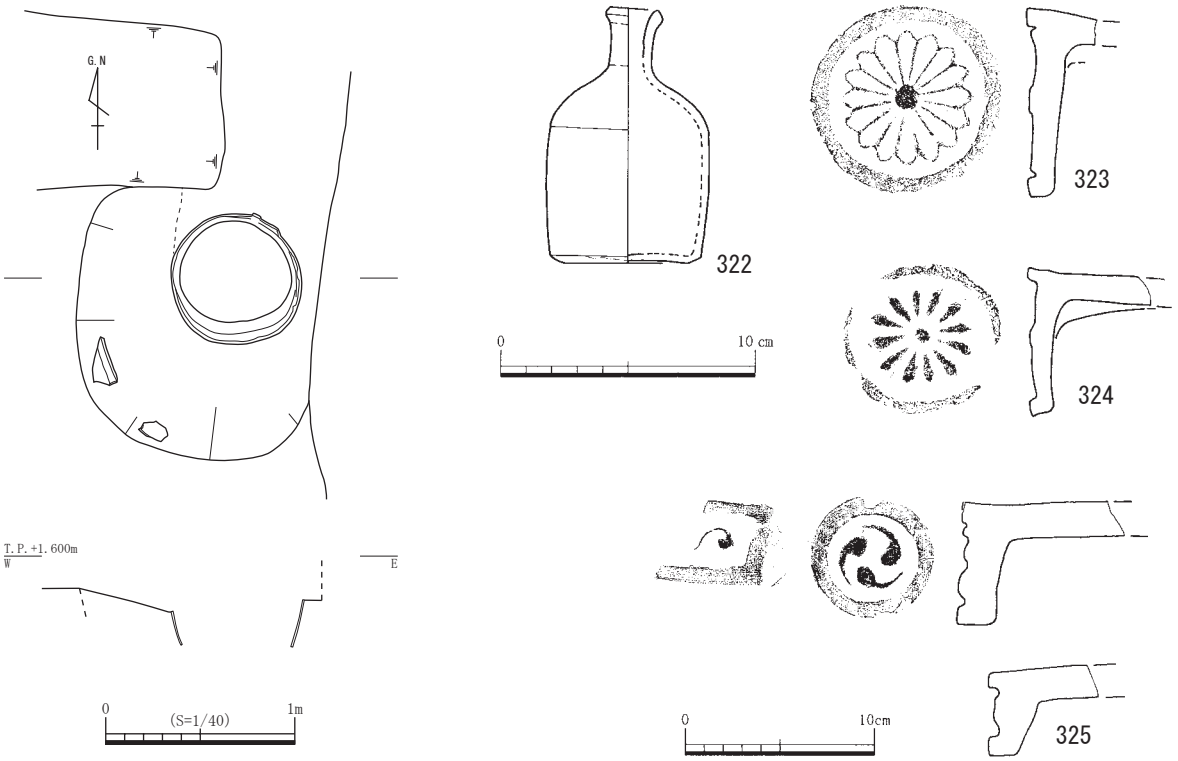
第 88 図　ＳＰ４-1123 平・断面図、出土遺物実測図

井戸

ＳＥ４－ 1101（第 89 図）

調査区東端において検出した土器を井側とする井戸であり、東側は調査区外となる。検出面の標高は 1.40 m前後である。掘り方は直径 1.40 m以上の円形であり、約 0.10 mのみ掘り下げた。井側は顎を有する円筒で、内径 0.60 mを測り、下に数段続くと考えられる。所属時期は近代以降である。

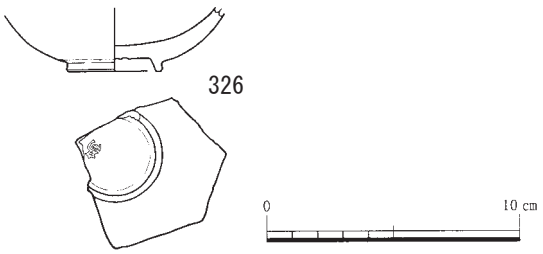
出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、軟質施釉土器、土師質土器小皿、軒丸瓦がある。322 は陶器そばつゆ徳利で、腰丸形である。323 は菊丸瓦で、花弁の輪郭を陽刻線で表し、瓦当裏面は弱いナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類の菊丸瓦Ⅰ類 1 である。324 は陽刻菊花文の菊丸瓦で、瓦当裏面の調整は弱いナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類の菊丸瓦Ⅲ類 16 である。325 は軒桟瓦で、小丸瓦当は短い巴尾部の三巴文である。



第 89 図　ＳＥ４-1101 平・断面図、出土遺物実測図

４工区第１遺構面出土遺物（第 90 図）

326 は攪乱より出土した理兵衛焼陶器碗で、高台内に「高」の刻印が見られる。



第 90 図　４工区第１遺構面出土遺物実測図

（２）第２遺構面（第 91 図）

溝

ＳＤ４－ 2201（第 92 図）

調査区西端において検出した溝であり、ＳＥ４－ 2202・ＳＫ４－ 2205・2206 を切っている。検出面の標高は 1.15 ｍ前後である。検出した溝の長さは溝の北端から約 4.75 ｍを測り、若干屈曲している。幅は 0.73 ｍ、深さ 0.08 ～ 0.25 ｍであり、底面のレベルは北から南に緩やかに下がる。溝の方位はＮ－ 15°－Ｗである。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、同酒盃、陶器碗、備前焼陶器擂鉢、同甕、土師質土器鍋、同焙烙、ニシガイがある。

327 は肥前系磁器碗で、半筒形である。328 は肥前系陶器碗で、高い高台を有する。内面に草花文の上絵が見られる。329 は土師質土器焼塩壷である。330 は備前焼陶器灯明皿で、体部下半と底部はヘラケズリが施され、内面と口縁部外面には上薬がかかっている。口縁部内外面に煤が付着する。331 は備前焼陶器蓋で、裏面に僅かな突起を有する。表面は口縁部周縁のヘラケズリ以外は未調整で、口縁端部はヘラナデ、裏面は回転ナデが施されている。332 は陶器鉢で、口縁部が外反する。内面は雷文、菊唐草文、花文の陰刻が見られる。333 は備前焼陶器擂鉢で、片口を有する。口縁部外面に２本の沈線を巡らせている。卸目は８本１単位で全面に引かれている。

334・335 は三巴文の軒丸瓦である。334 は凹面にゴザ目が残り、瓦当裏面は指頭圧の後に周縁のナデが施されている。佐藤分類Ⅳ類 76 に類似する。335 は凹面に布目が残り、瓦当裏面は板ナデ後に周縁のナデが施されている。巴尾部が長く、珠数が多い。佐藤分類Ⅳ類 47 に類似する。336・337 は軒平瓦である。336 は中心飾りに先端の肥厚する五弁花文を配し、カキメを伴う接合である。佐藤分類Ⅷ類 42 である。337 は中心飾りに三巴文を配し、唐草は２転させている。カキメを伴う接合である。佐藤分類ＸＩＸ類 62 である。

ＳＤ４－ 2202（第 93 図）

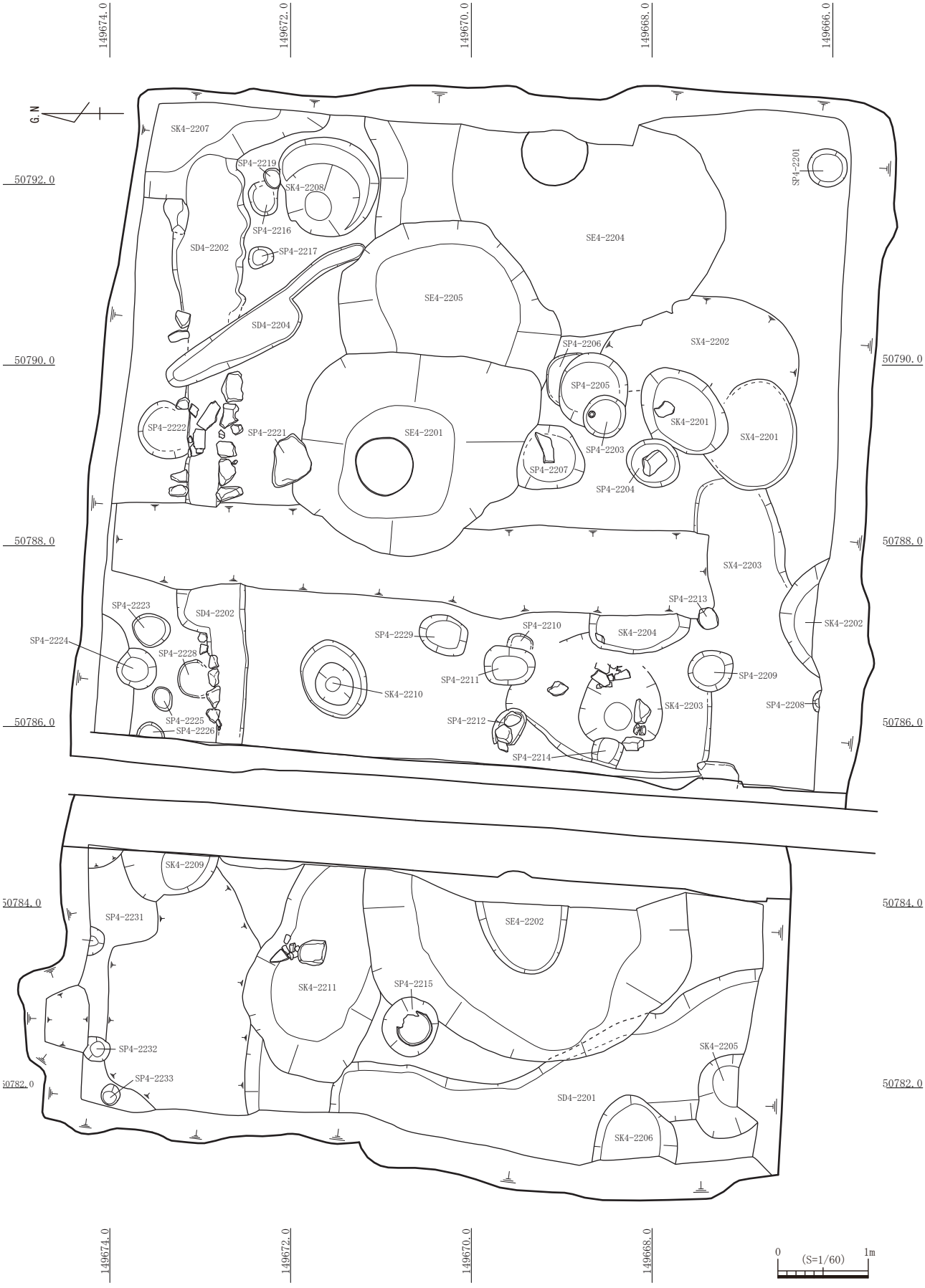
調査区北側において検出した溝である。検出面の標高は 1.25 ～ 1.34 ｍである。東端はＳＫ４－ 2207 に切られ、西端は攪乱により削平されている。ＳＰ４－ 2222 を切り、ＳＤ４－ 2204 に切られている。検出した溝の長さは 6.52 ｍを測り、幅は東側に向かって次第に広くなり、西端では 0.30 ｍであるが東端では 0.78 ｍとなる。西端での深さは 0.07 ｍ、東端では 0.19 ｍであり、底面のレベルは西側から東側に向かって下がっており、その比高差は 0.20 ｍである。溝の方位はＮ－ 90°－Ｅである。石積みは溝の両側に部分的で検出し、１段のみ部分的に石積みが残存している。石は自然石であり、溝の内側に向かって面を持つ。石材は安山岩が大部分を占め、凝灰岩・花崗岩・砂岩は数点のみである。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器甕、須恵器甕、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、硯がある。338 は玉縁式丸瓦で、玉縁に面取りがある。凸面の調整は板ナデ、凹面は布目が残る。

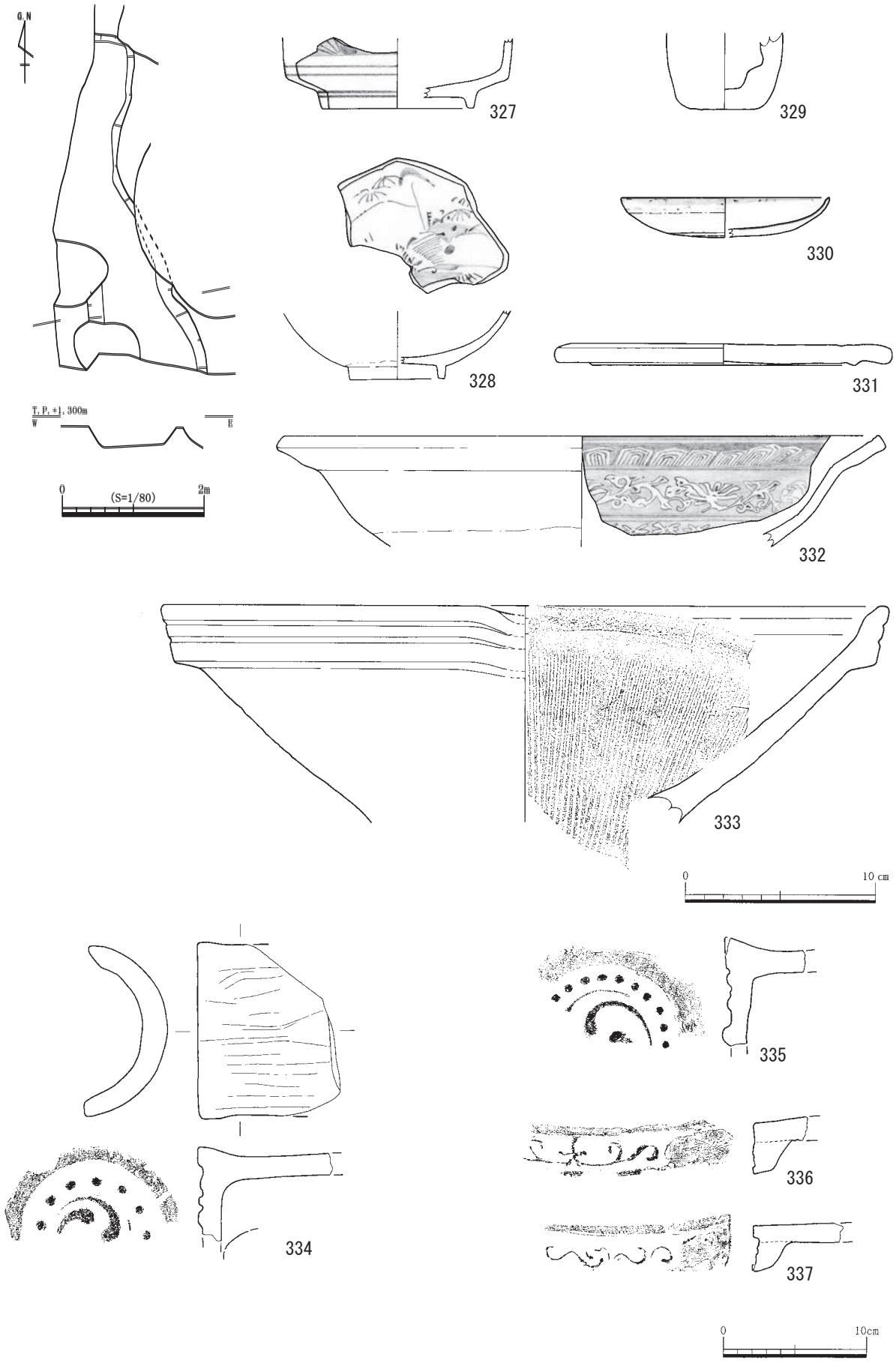
ＳＤ４－ 2204（第 93 図）

調査区北東側において検出した溝であり、ＳＤ４－ 2202 を切っている。検出面の標高は 1.28 ｍである。全長は 2.62 ｍ、幅は 0.16 ～ 0.48 ｍ、深さ 0.02 ～ 0.09 ｍを測る。溝の方位はＮ－ 34°－Ｗである。埋土は灰黄褐色＋にぶい黄橙色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀と考えられる。

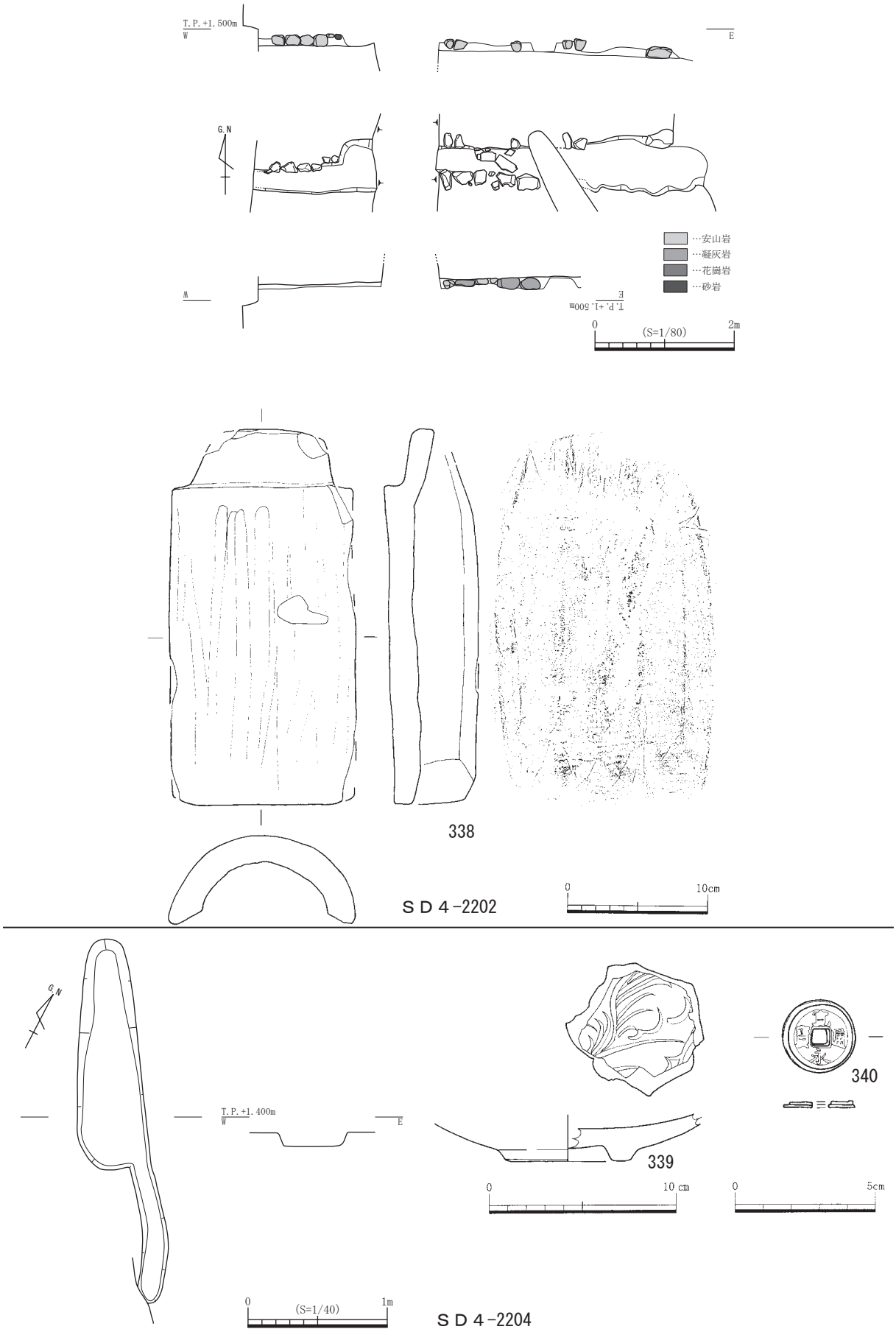
出土遺物は図化した以外に丸瓦、平瓦がある。339 は青磁皿で、内面に片刃彫りによる草花文が見られる。540 は寛永通宝で、２枚が重なっている。



第 91 図　４工区第２遺構面遺構配置図



第 92 図　ＳＤ４-2201 平・断面図、出土遺物実測図



第93図　SD4-2202・2204平・断・立面図、出土遺物実測図

土坑

ＳＫ４－2201（第94図）

調査区南東側において検出した土坑であり、ＳＰ４－2204と重複し、ＳＸ４－2201・2202を切っている。検出面の標高は1.24ｍである。平面形は楕円形を呈し、長軸1.10ｍ、短軸0.84ｍ、深さ0.21ｍを測る。埋土は２層であり、共に焼土を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀後半と考えられる。

出土遺物は磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同擂鉢があるが、図化できるものはない。

ＳＫ４－2202（第94図）

調査区中央南端において検出した土坑であり、南側は調査区外となる。ＳＸ４－2203を切っている。検出面の標高は1.20ｍである。検出範囲が狭いため平面形・規模は不明である。深さは0.32ｍを測る。埋土は５層に細分されるが、第１～３層と第４・５層に大別される。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、軒平瓦、丸瓦がある。341は肥前系磁器瓶で、外面に草花文が描かれ、外面中位に亀甲状の成形が見られる。342は京・信楽系陶器碗で、外面に赤橙色と緑色のよる葉文の上絵が描かれている。

ＳＫ４－2203（第94図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＰ４－2214を切っており、ＳＫ４－2204・ＳＰ４－2209・2211・2212に切られている。検出面の標高は1.18ｍ前後である。平面形は長方形を呈し、東側の掘り込みは浅くわずかである。土坑の掘り込みは浅いが、中央に円形の落ち込みがある。南北方向の長さは2.26ｍ、深さ0.09ｍを測る。中央の落ち込みは直径0.90ｍ、底面からの深さ0.29ｍであり、10～25㎝の石が出土した。埋土は５層で、自然堆積を示す。出土した土器は16世紀前半～18世紀後半のものであり、最終的な埋没時期は18世紀後半である。

出土遺物は図化した以外に磁器瓶、陶器碗、同皿、土師質土器小皿、同鍋、丸瓦、平瓦がある。343は肥前系陶器皿で、第１層より出土した。内面に煤が付着し、見込みに砂目が残る。344は肥前系陶器皿で、第１層より出土した。体部下半から底部にかけてはヘラケズリが施されている。見込みに４カ所の砂目が残る。345は肥前系陶器皿で、第１層より出土した。口縁部内面に葉文の染付が見られる。

346は粘板岩製の砥石で、長辺6.7㎝、短辺4.8㎝、厚さ1.0㎝の小型である。表面と裏面の２面に使用痕が残り、側面には製作時の加工痕がある。裏面にはひらがなと考えられる刻字が見られる。

347は真鍮製の煙管雁首で、内側に竹が残存する。

ＳＫ４－2204（第95図）

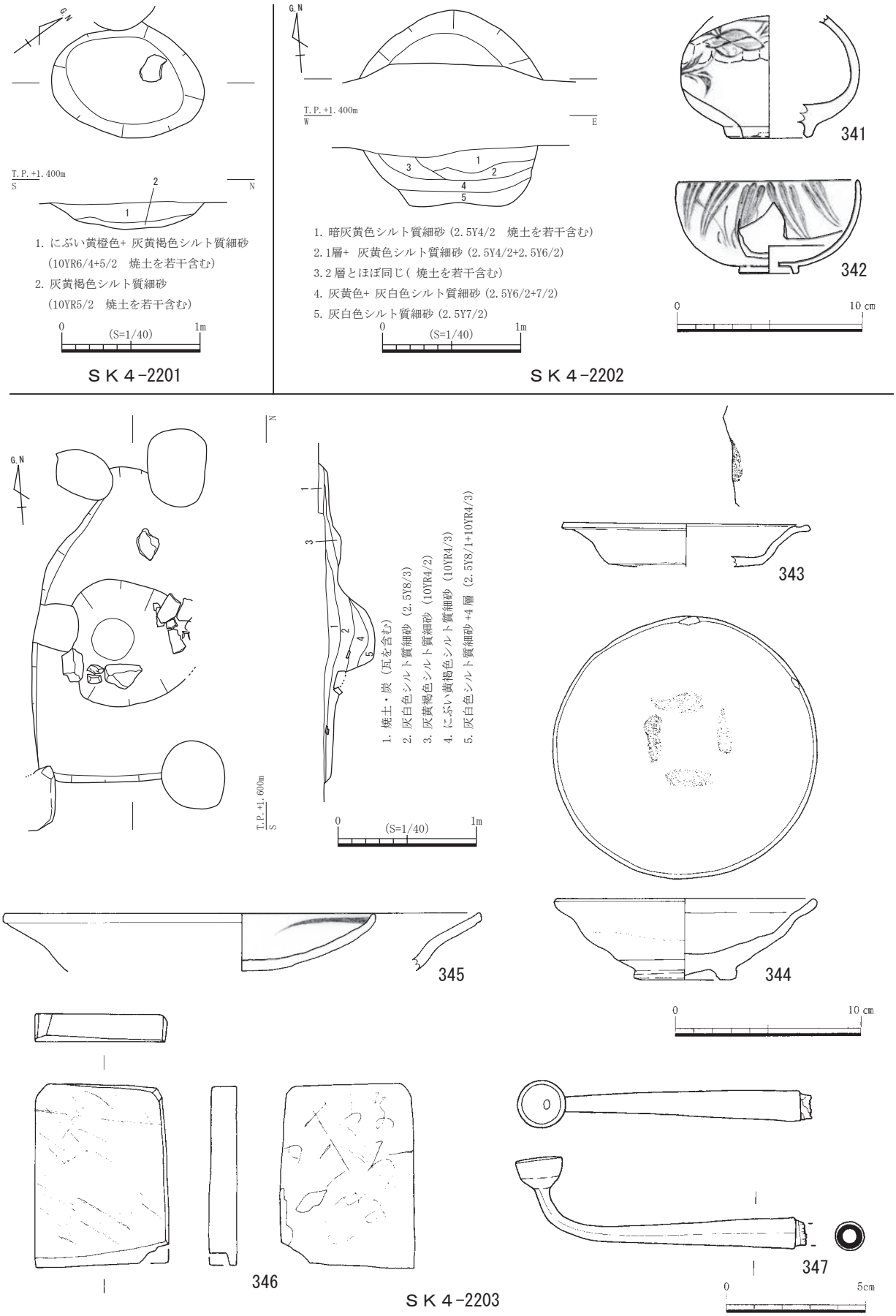
調査区中央のＳＫ４－2203の東側において検出した土坑であり、東側は攪乱により削平されている。検出面の標高は1.23ｍである。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸1.10ｍ、短軸0.42以上、深さ0.25ｍを測る。埋土は若干色の異なる灰黄褐色シルト質細砂の２層である。出土した土器は古い時期を示すものもあるが、検出した面などから所属時期は18世紀中葉と考える。

出土遺物は図化した以外に磁器酒盃、陶器碗、同瓶、土師質土器小皿、同焙烙、平瓦、壁土がある。348は肥前系陶器皿で、畳付に糸切り痕が残る。高台内側と見込みに砂目が残存する。

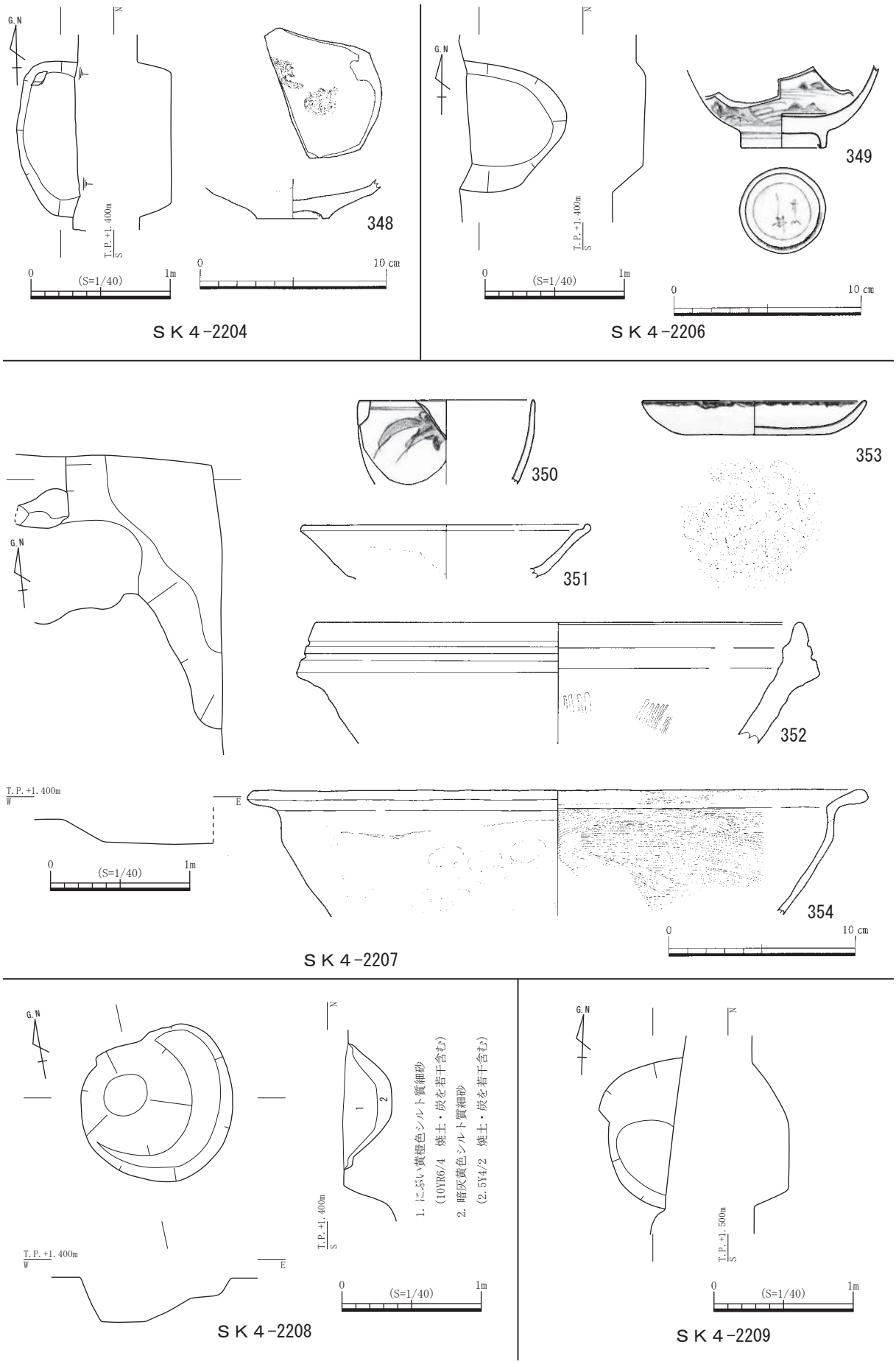
ＳＫ４－2206（第95図）

調査区南西隅において検出した土坑であり、西側は調査区外となる。検出面の標高は1.19ｍである。平面形は楕円形と推定され、規模は南北0.92ｍ、東西0.70ｍ以上、深さ0.23ｍを測る。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、備前焼陶器擂鉢、土師質土器小皿、同焙烙、軒丸瓦、丸瓦がある。349は肥前系磁器碗で、外面に山水文が描かれ、高台内には銘があるが、かなり崩れた文字絵であり解読不明である。畳付に砂目が付着している。



第 94 図　ＳＫ４-2201 ～ 2203 平・断面図、出土遺物実測図



第 95 図　ＳＫ４-2204・2206 ～ 2209 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＫ４－2207（第95図）

調査区北東隅において検出した落ち込みであり、規模が大きいが土坑として報告する。しかし、隣接する５工区第２遺構面では検出していないことから溝の可能性も考えられる。ＳＤ４－2202を切っており、北側・東側は調査区外である。検出面の標高は1.25ｍである。検出範囲が狭いため平面形・規模は不明である。検出した南北方向の長さは1.90ｍ、東西は1.05ｍ、深さ0.28ｍである。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦がある。350は肥前系磁器碗で、外面に草花文が描かれている。351は肥前系陶器皿で、口縁部は折縁である。352は備前焼陶器擂鉢で、口縁部外面に明確な沈線を２本巡らせている。口縁端部と顎部に重ね焼きに伴う熔着痕を残す。353は土師質土器灯明皿で、口縁部内外面に煤が付着している。底面には回転糸切り後に板目が残る。354は土師質土器焙烙で、体部外面は粗いハケ、内面は細かいハケが施されている。口縁部と体部の外面には煤が付着する。

ＳＫ４－2208（第95図）

調査区北東隅において検出した土坑である。検出面の標高は1.27ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径1.08ｍ、深さ0.31ｍを測る。最深部は土坑の西側に片寄っており、東側には浅い段を有する。埋土は２層に分かれ、共に焼土・炭化材を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀と考えられる。

出土遺物は陶器碗、土師質土器小皿、平瓦があるが、図化できるものはない。

ＳＫ４－2209（第95図）

調査区北西部において検出した土坑であり、東側はコンクリート基礎のため調査できなかった。検出面の標高は1.33ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.97ｍ、深さ0.29ｍを測る。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀と考えられる。

出土遺物は軒丸瓦、丸瓦、平瓦があるが、図化できるものはない。

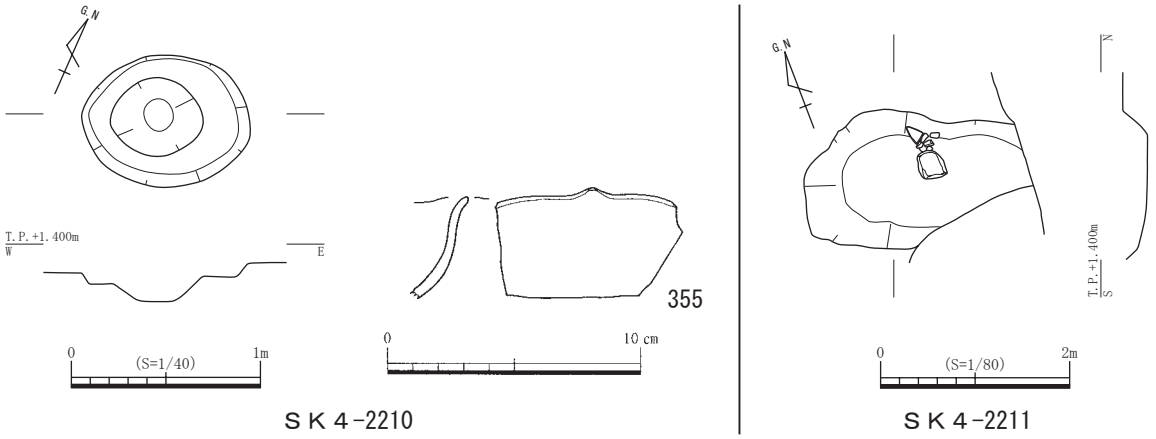
ＳＫ４－2210（第96図）

調査区中央において検出した土坑である。検出面の標高は1.27ｍ前後である。平面形は楕円形を呈し、長軸0.88ｍ、短軸0.70ｍ、深さ0.20ｍを測る。中央に円形の落ち込みを有する。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀中葉以降と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶器碗、土師質土器小皿、軒丸瓦、丸瓦、ニシガイがある。355は京・信楽系陶器皿で、口縁部が輪花状になっている。

ＳＫ４－2211（第96図）

調査区西側において検出した土坑であり、ＳＥ４－2202に切られている。検出面の標高は1.32ｍである。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸2.37ｍ以上、短軸1.45ｍ、深さ0.44ｍを測る。底面から５～30㎝の石が出土した。埋土は灰白色シルト＋灰黄色シルト質細砂の単一層である。



第96図　ＳＫ４-2210・2211平・断面図、出土遺物実測図

所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀と考えられる。

出土遺物は土師質土器鍋、丸瓦、弥生土器甕があるが、図化できるものはない。

柱穴

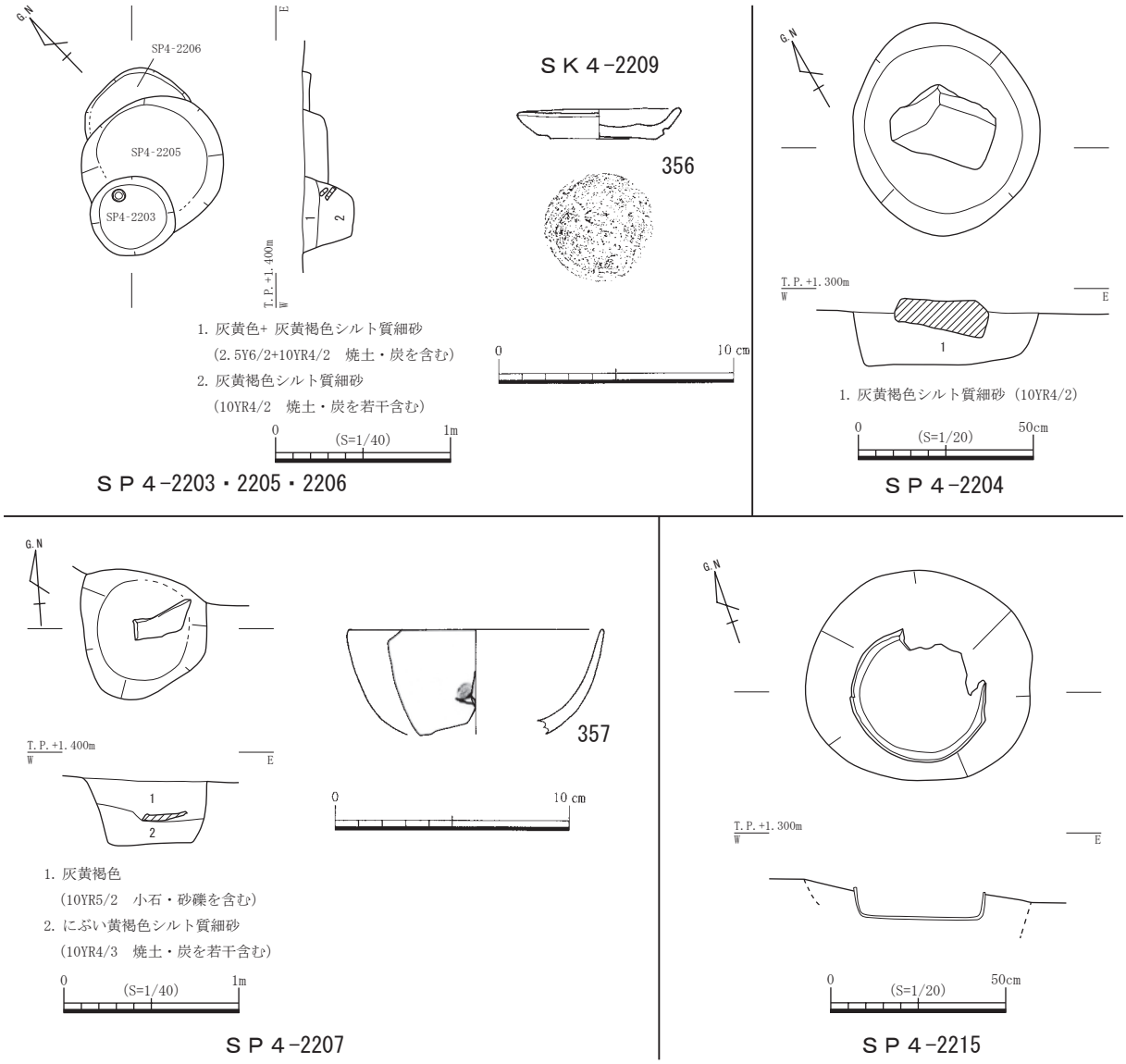
ＳＰ４－2203（第 97 図）

調査区中央東寄りにおいて検出した柱穴であり、ＳＰ４－2205 を切っている。検出面の標高は 1.24 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 0.45 ｍ、深さ 0.28 ｍを測る。残存長 10 ㎝、直径７㎝の柱材と考えられる植物遺体が柱穴の北寄りの位置から出土した。埋土は２層であり、共に焼土と炭化材を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、丸瓦がある。356 は土師質土器小皿で、やや歪な器形である。底面には回転糸切り後に板目が残る。体部外面下位に糸切り用の糸が食い込んだ痕跡がある。

ＳＰ４－2204（第 97 図）

調査区南東側において検出した柱穴であり、ＳＫ４－2201 と重複している。検出面の標高は 1.23 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 0.60 ｍ、深さ 0.15 ｍを測る。柱穴の中央において底面から約 0.06 ｍ上に長方形の石を検出した。埋土は単一層である。



第 97 図　ＳＰ４-2203 ～ 2207・2215 平・断面図、出土遺物実測図

出土遺物は土師質土器椀があるが、図化できるものはない。

ＳＰ４－2205（第97図）

調査区中央東寄りにおいて検出した柱穴であり、ＳＰ４－2206を切っており、ＳＰ４－2203に切られている。検出面の標高は1.24ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.75ｍ、深さ0.13ｍを測る。

出土遺物はない。

ＳＰ４－2206（第97図）

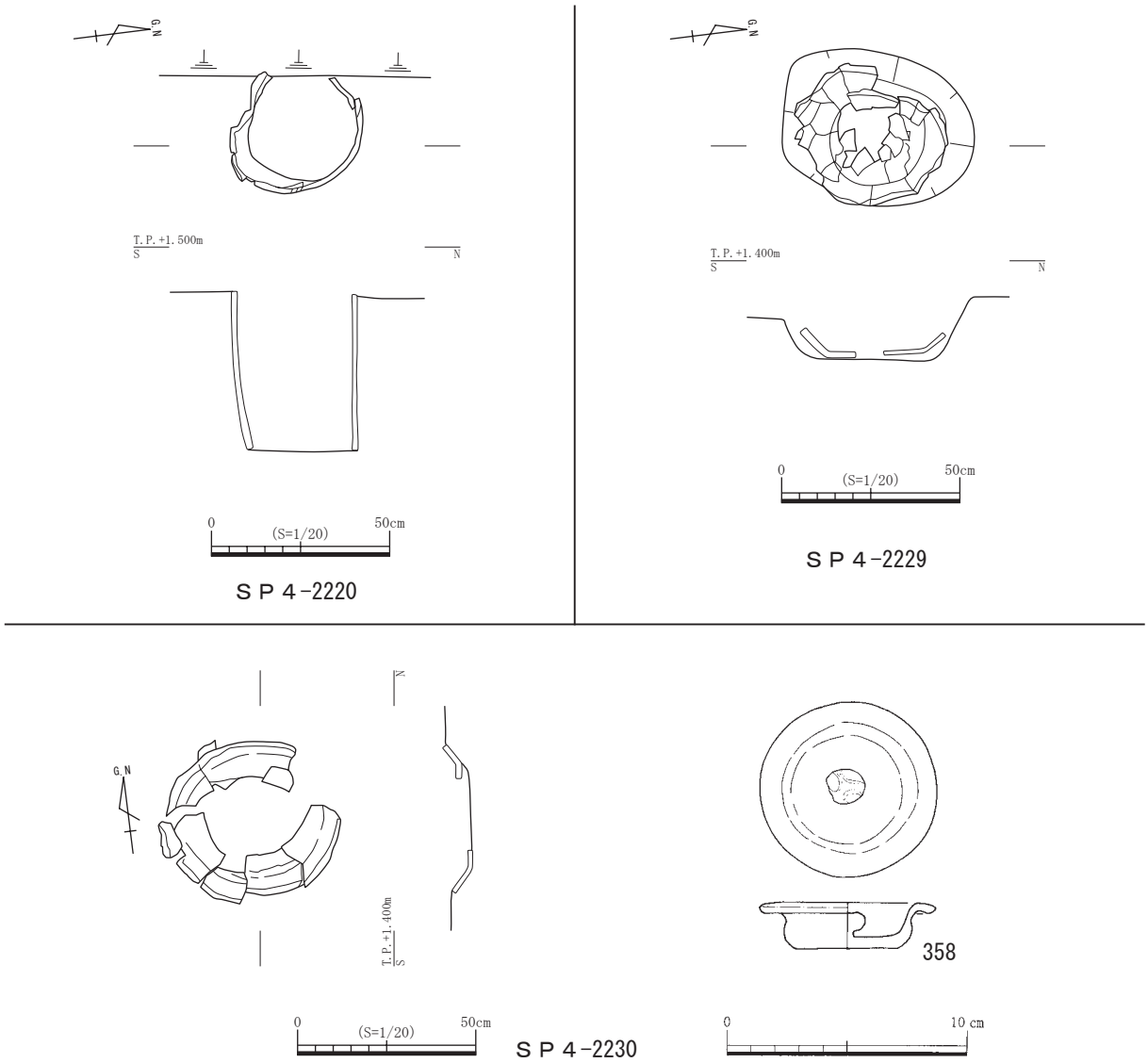
調査区中央東寄りにおいて検出した柱穴であり、ＳＰ４－2205に切られる。検出面の標高は1.24ｍである。検出範囲が少ないため平面形・規模は不明である。

出土遺物はない。

ＳＰ４－2207（第97図）

調査区南東側において検出した柱穴であり、ＳＥ４－2201と重複している。検出面の標高は1.23ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径0.70ｍ、深さ0.38ｍを測る。柱穴の中央において底面から約0.06ｍ上で薄い石が検出した。埋土は２層であり、下層は焼土・炭化材を若干含む。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、同酒盃、陶器燗徳利、同甕、土師質土器小皿、同焙烙、軒丸瓦、丸瓦がある。357は肥前系磁器碗で、見込みに砂目が付着している。



第98図　ＳＰ４-2220・2229・2230平・断面図、出土遺物実測図

ＳＰ４－2215（第97図）

調査区西側中央において検出した埋甕を有する遺構であり、ＳＥ４－2202を切っている。本来は土坑とすべきだが検出時にＳＰの遺構番号を付けたのでそのまま報告する。検出面の標高は1.12ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.60ｍ、深さ0.08ｍを測る。中央に底径33㎝の土師質土器甕が設置される。甕内部の埋土は焼土・炭化材を若干含む灰黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

出土遺物は磁器碗、同酒盃、陶器碗、土師質土器小皿、丸瓦があるが、図化できるものはない。

ＳＰ４－2220（第98図）

調査区中央において検出した埋甕を有する遺構であり、ＳＥ４－2201を切っている。本来は土坑とすべきだが検出時にＳＰの遺構番号を付けたのでそのまま報告する。検出面の標高は1.36ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.58ｍ、深さ0.44ｍを測る。中央に直径35㎝の土師質土器甕が設置されていた。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

出土遺物は磁器碗、土師質土器小皿、箱庭道具（橋）、釘があるが、図化できるものはない。

ＳＰ４－2229（第98図）

調査区中央において検出した埋甕を有する遺構であり、本来は土坑とすべきだが検出時にＳＰの遺構番号を付けたのでそのまま報告する。検出面の標高は1.26ｍである。平面形は楕円形を呈し、長軸0.52ｍ、短軸0.42ｍ、深さ0.16ｍを測る。中央に直径28㎝の土師質土器甕が設置されていた。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

出土遺物は埋甕のみである。

ＳＰ４－2230（第98図）

調査区西側中央において検出した埋甕を有する遺構であり、ＳＫ４－2211を切ってる。本来は土坑とすべきだが検出時にＳＰの遺構番号を付けたのでそのまま報告する。検出面の標高は1.24ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.41ｍ、深さ0.06ｍを測る。中央に底径30㎝の土師質土器甕が設置されていた。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

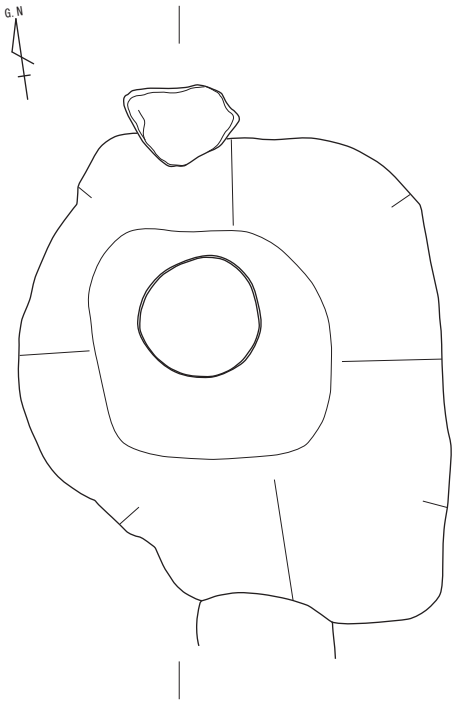
出土遺物は358の軟質施釉陶器蓋のみである。

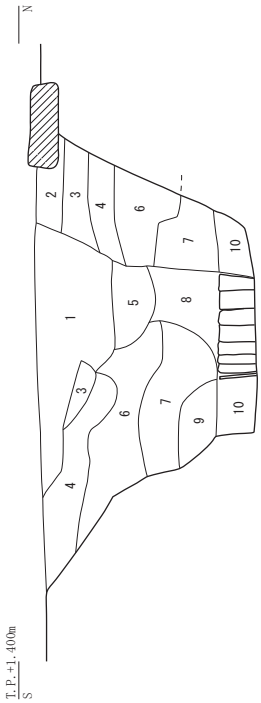
井戸

ＳＥ４－2201（第99図）

調査区中央において検出した結物を井側とする井戸であり、ＳＥ４－3302を切っており、ＳＰ４－2220に切られている。検出面の標高は1.25ｍ前後である。掘り方の平面形は不整な円形を呈し、直径は2.57ｍを測る。掘り方の傾斜は緩やかであり、検出面から1.15ｍまで掘り下げたが、安全面からこれより下を掘り下げることは不可能であった。木製の結物は標高0.35ｍにおいて最上部を検出し、約0.20ｍの長さまで確認した。検出した標高や湧水点から井側はこの結物１段のみであると考えられ、土層の観察では井戸の南側が非常に乱れた堆積状態を示しており、井側の抜き取り痕と考えられる。井側は幅10㎝の板を円形に組み合わせており、井側の内側には焼土・炭化材を少量含む灰黄褐色シルト質細砂が充填されていた。所属時期は遺構面や井戸の構造及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

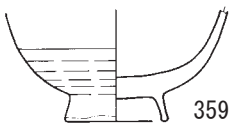
出土遺物は図化した以外に磁器碗、同酒盃、陶器碗、同瓶、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、菊丸瓦がある。359は肥前系磁器で、高い高台を持つ。360は肥前系磁器碗で、高台内に中国の年号を省略した銘款が記されているが、非常に崩れた文字である。361は肥前系陶器鉢で、口縁部が屈曲する。体部外面下半はヘラケズリが施されている。内面の装飾は刷毛目である。362は弥生土器の製塩土器である。　363は三巴文の軒丸瓦で、巴尾部は細く長い。瓦当裏面の調整は指頭圧後に周縁にナデが施されている。佐藤分類のⅣ類47に類似する。

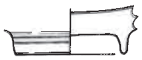


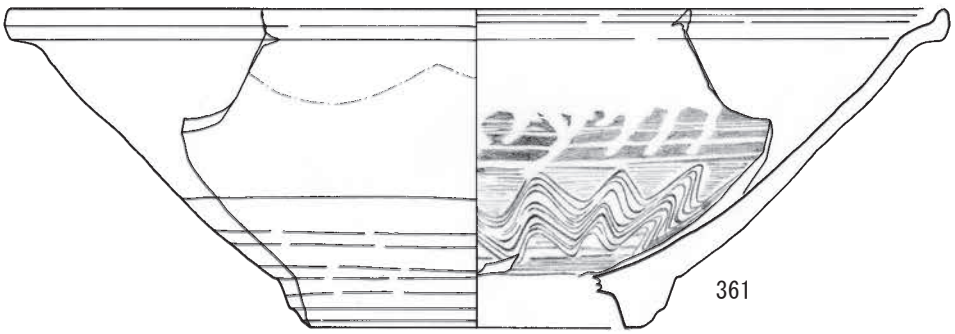


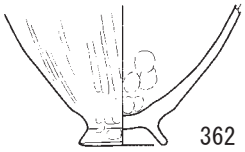
1. 灰黄褐色＋灰黄色シルト質細砂
（10YR4/2+2.5Y6/2　焼土・炭を少量含む）
2. にぶい黄橙色＋灰黄褐色シルト質細砂
（10YR7/2+6/2　焼土を若干含む）
3. 2 層＋灰白色シルト
（10YR7/2+6/2+7.5Y8/1　焼土・炭を若干含む）
4. 灰白色細砂＋2 層
（5Y8/1+10YR7/2+6/2）
5. 灰黄褐色シルト質極細砂＋にぶい黄橙色シルト質細砂
（10YR6/2+10YR7/3　焼土・炭を若干含む）
6. 淡黄色細砂＋灰黄褐色シルト質細砂
（2.5Y8/2+10YR6/2）
7. 淡黄色粗～細砂＋にぶい黄色シルト質細砂
（2.5Y8/4+6/3）
8. 暗灰黄色シルト質細砂＋淡黄色細砂
（2.5Y5/2+7/3）
9. 灰黄褐色シルト質細砂＋8 層
（2.5Y5/1+5Y8/2）
10. 黄灰色シルト質細砂＋灰白色細砂＋灰白色粘土
（2.5Y5/1+5Y8/2）

0　(S=1/40)　1m





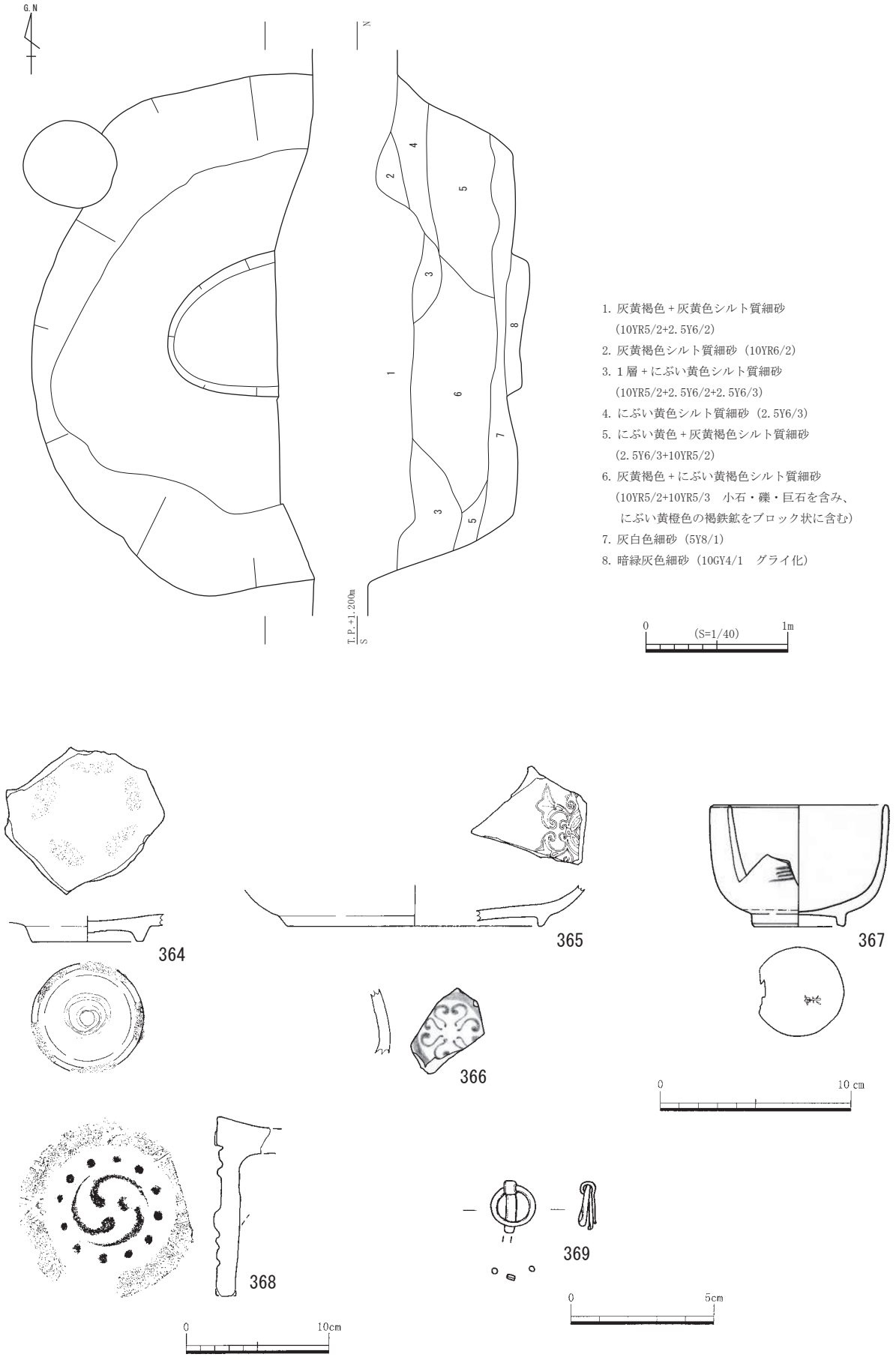




0　10 cm

0　10cm

第 99 図　ＳＥ４-2201 平・断面図、出土遺物実測図

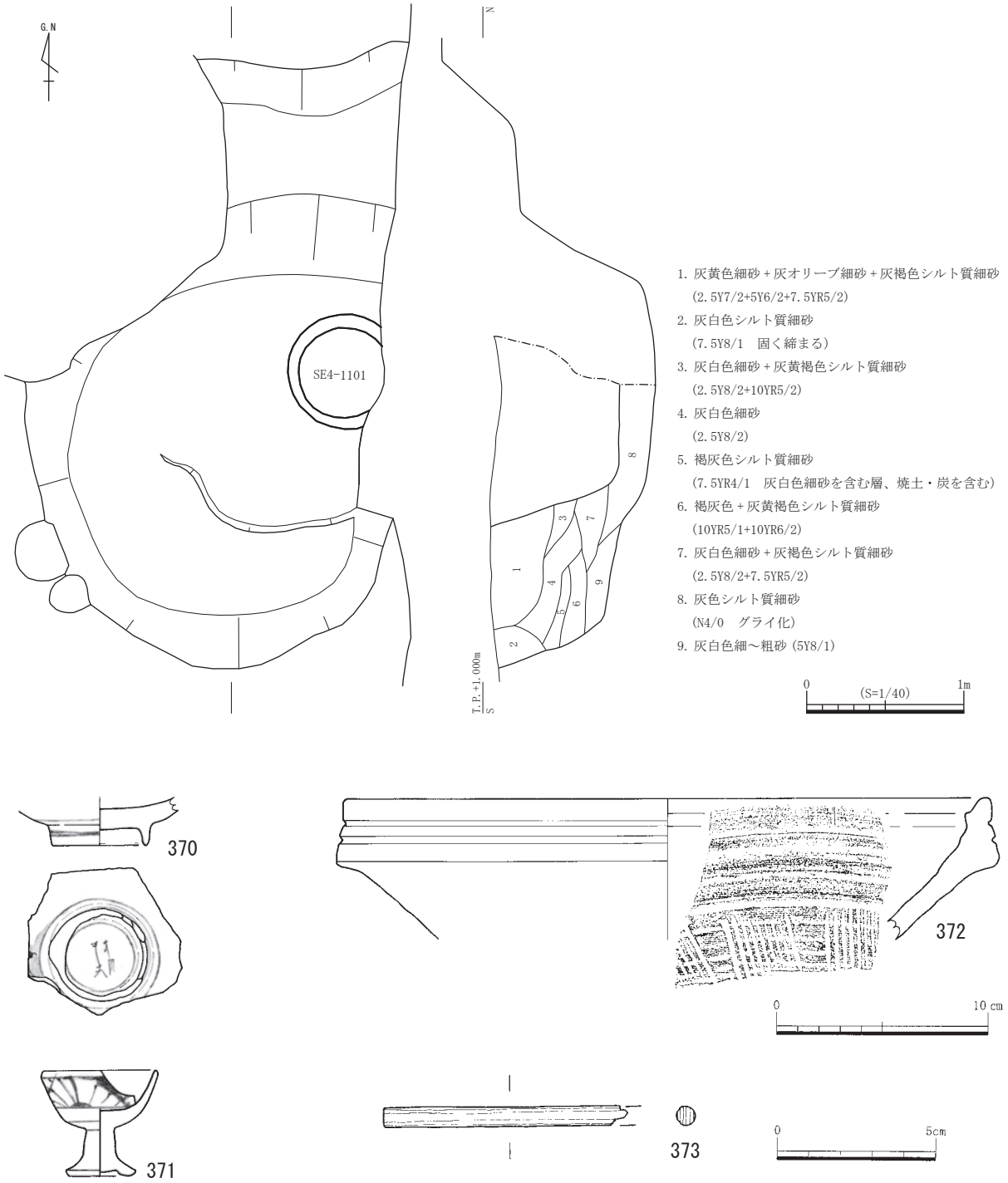


第 100 図　ＳＥ４-2202 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＥ４－2202（第100図）

調査区西側において検出した素掘りの井戸であり、ＳＫ４－2211を切っており、ＳＤ４－2201・ＳＰ４－2215に切られ、東側はコンクリート基礎のため調査ができなかった。検出面の標高は1.10ｍである。掘り方の平面形は円形を呈し、直径3.60ｍ、深さ約1.00ｍを測る。底面は直径2.50ｍであり、中央部が円形に落ち込む。その比高差は0.10ｍである。湧水が僅かであるが見られる。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、同酒盃、陶器碗、同瓶、須恵器甕、弥生土器壺、同甕、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、菊丸瓦がある。364は肥前系磁器皿で、削り出し高台である。畳付と見込



第101図　ＳＥ４-2204平・断面図、出土遺物実測図

みに砂目が付着している。365 は白磁皿で、内面に陽刻の文様がある。366 は理兵衛焼陶器小壺で、外面に松平大膳家紋が見られる。367 は京・信楽系陶器碗で、高台内に「京」の刻印が見られる。

368 は三巴文の軒丸瓦で、瓦当裏面の調整は指頭圧後に周縁をナデに施されている。佐藤分類のⅣ類 75 に類似する。369 は飾り金具と考えられる。

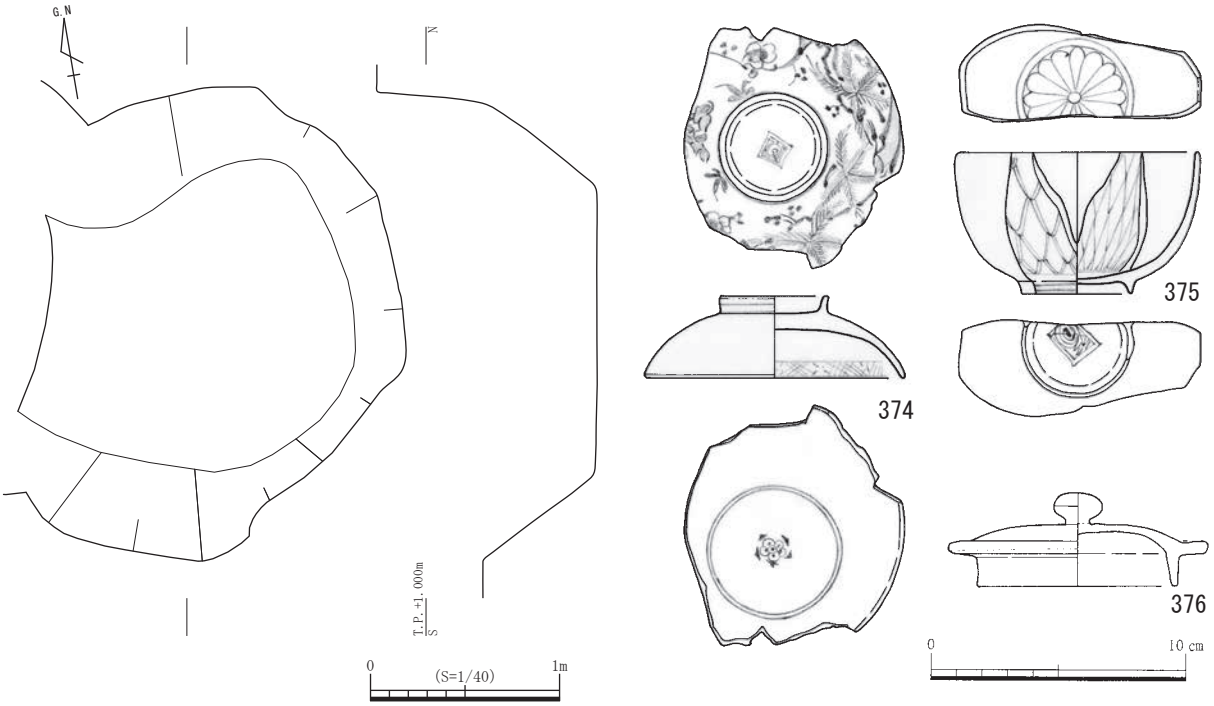
ＳＥ４－2204（第 101 図）

調査区東端中央において検出した素掘りの井戸であり、北側は第１遺構面ＳＥ４－1101 に切られ、さらに北西側はＳＥ４－3302 にも切られている。調査工程の都合により、本井戸は南側と北側に分かれて調査を実施したため、遺構検出面が南側と北側で異なる事態となった。調査を先に実施した第２遺構面の調査区南側では本井戸を検出することができなかったが、北側において検出した。そこで、南側に関しては第３遺構面において検出し調査を実施した。このため断面図に示す検出面のレベルが大きく違っている。また、南北方向の土層図は南側のみ作成した。北側での検出面の標高は 1.28 ｍである。掘り方の平面形は円形を呈し、直径は 3.86 ｍ、深さは 1.35 ｍを測る。底面の標高は－ 0.10 ｍであり、湧水点になっているので調査中も常時少量の水が湧いていた。埋土は９層に細分できる。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦がある。370 は肥前系磁器椀で、やや高い高台を持つ。高台内に中国の年号を省略した銘款が記されているが、崩れた文字である。371 は肥前系磁器仏飯器である。372 は備前焼陶器擂鉢で、口縁部外面に２本の沈線が巡っている。卸目は９本１単位である。373 は木製の箸で、加工痕が明瞭に見える。

ＳＥ４－2205（第 102 図）

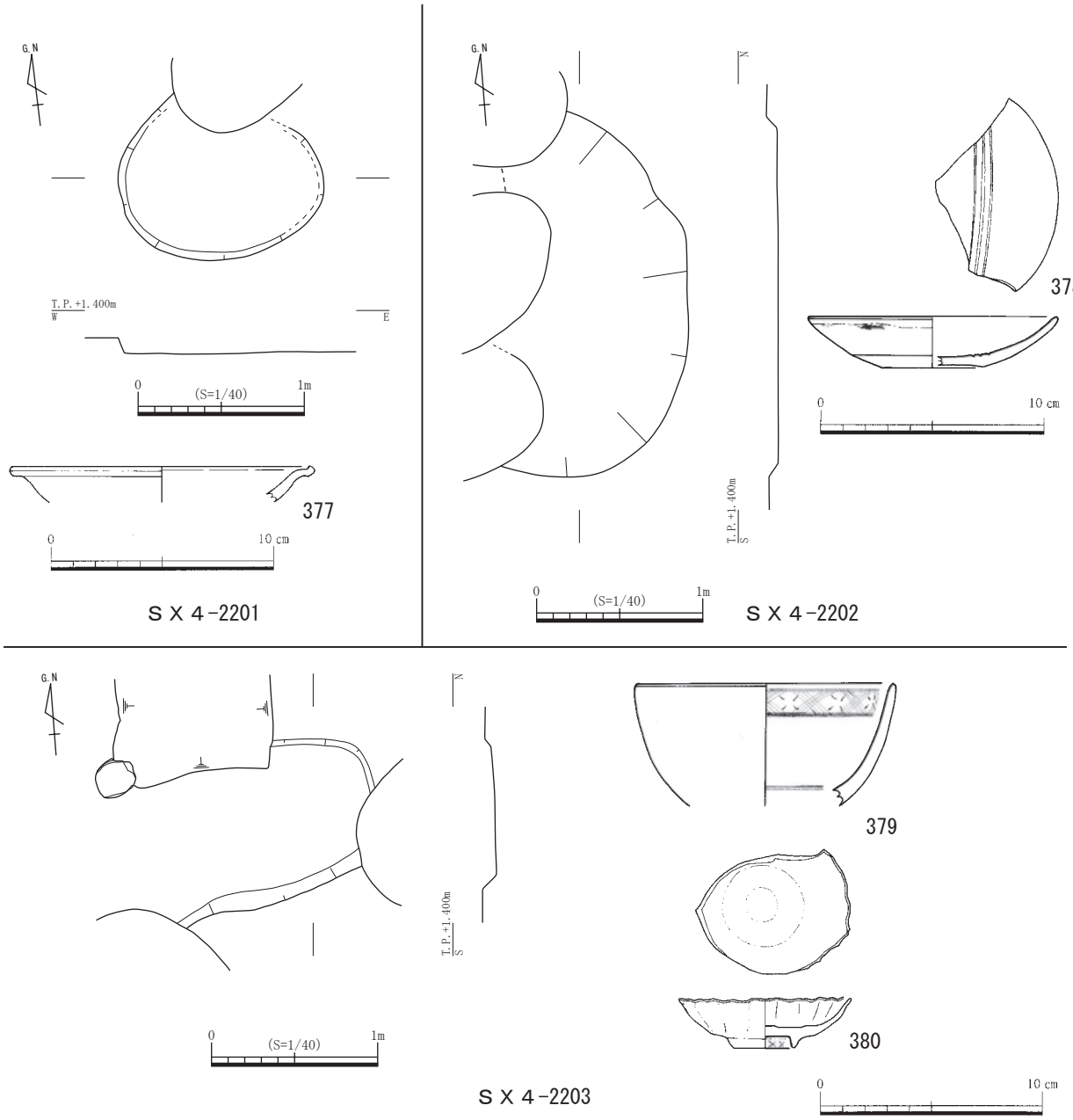
調査区東側中央において検出した素掘りの井戸であり、ＳＥ４－2201 とＳＥ４－3301 に挟まれる所に位置し、ＳＥ４－2201 に切られ、ＳＥ４－3301 を切っている。調査工程の都合により、本井戸は南側と北側に分かれて調査を実施したため、遺構検出面が南側と北側で異なる事態となった。調査を先に実施した第２遺構面の調査区南側では本井戸を検出することができなかっ



第 102 図　ＳＥ４-2205 平・断面図、出土遺物実測図

たが、北側において検出した。そこで、南側に関しては第３遺構面において検出し調査を実施した。このため断面図に示す検出面のレベルが大きく違っている。検出面の標高は 1.28 mである。掘り方の平面形は不整な円形を呈し、直径 2.47 m、深さ 1.15 mを測る。底面の標高は 0.10 mであるが、西側にあるＳＥ４－ 2201 の影響を受けて湧水は認められなかった。土層断面図は作成することができなかった。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、同瓶、青磁碗、陶器擂鉢、土師質土器小皿、丸瓦がある。374 は肥前系磁器蓋で、外面に草花文、つまみ内に二重方形枠内「福」が描かれ、口縁部内面に四方襷、見込みに圏線と五弁花文が描かれている。375 は肥前系磁器碗で、外面に二重網目文、内面に一重網目文、見込みに菊花文、高台内に二重方形枠内「福」が描かれている。376 は京・信楽系陶器蓋である。



第 103 図　ＳＸ４-2201 ～ 2203 平・断面図、出土遺物実測図

性格不明遺構

ＳＸ４－2201（第103図）

調査区南東側において検出した遺構であり、ＳＫ４－2201に切られ、ＳＸ４－2202･2203を切っている。検出面の標高は1.20ｍである。平面形は楕円形を呈し、直径1.25×1.02ｍ、深さ0.06を測り、非常に浅い遺構である。埋土はにぶい黄色シルト質細砂である。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同鍋、丸瓦、平瓦がある。377は肥前系陶器皿で、口縁部が屈曲する。

ＳＸ４－2202（第103図）

調査区南東側において検出した遺構であり、ＳＫ４－2201・ＳＰ４－2203～2205・ＳＸ４－2201に切られている。検出面の標高は1.24ｍ前後である。平面形は円形を呈し、直径2.20ｍ、深さ0.09ｍを測り、非常に浅い遺構である。埋土は焼土・炭化材を含む灰黄褐色シルト質細砂である。

出土遺物は図化した以外に陶器碗、輸入陶器碗がある。378は京・信楽系陶器灯明皿で、見込みに３本の沈線を有する。体部外面下半と底面は回転ヘラケズリが施され、口縁部外面に煤が付着する。

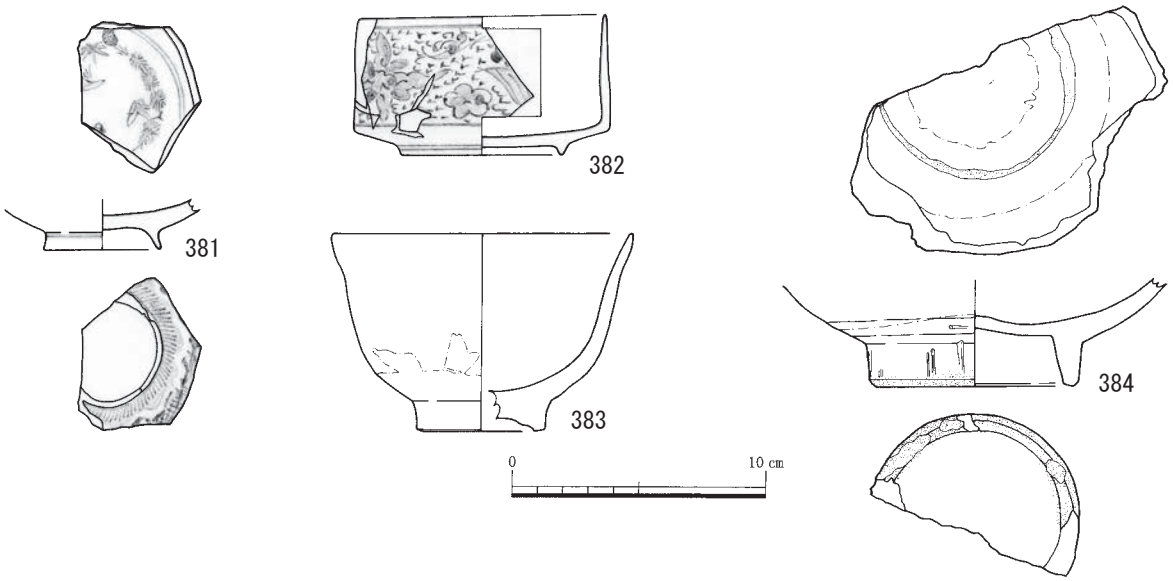
ＳＸ４－2203（第103図）

調査区中央南端において検出した遺構であり、ＳＫ４－2202・ＳＸ４－2201に切られている。検出面の標高は1.22ｍである。平面形は西側の掘り込みが消滅しているため不明だが、長方形と思われる。長辺は1.40ｍ以上、短辺は0.92ｍ、深さ0.08ｍを測り、非常に浅い遺構である。

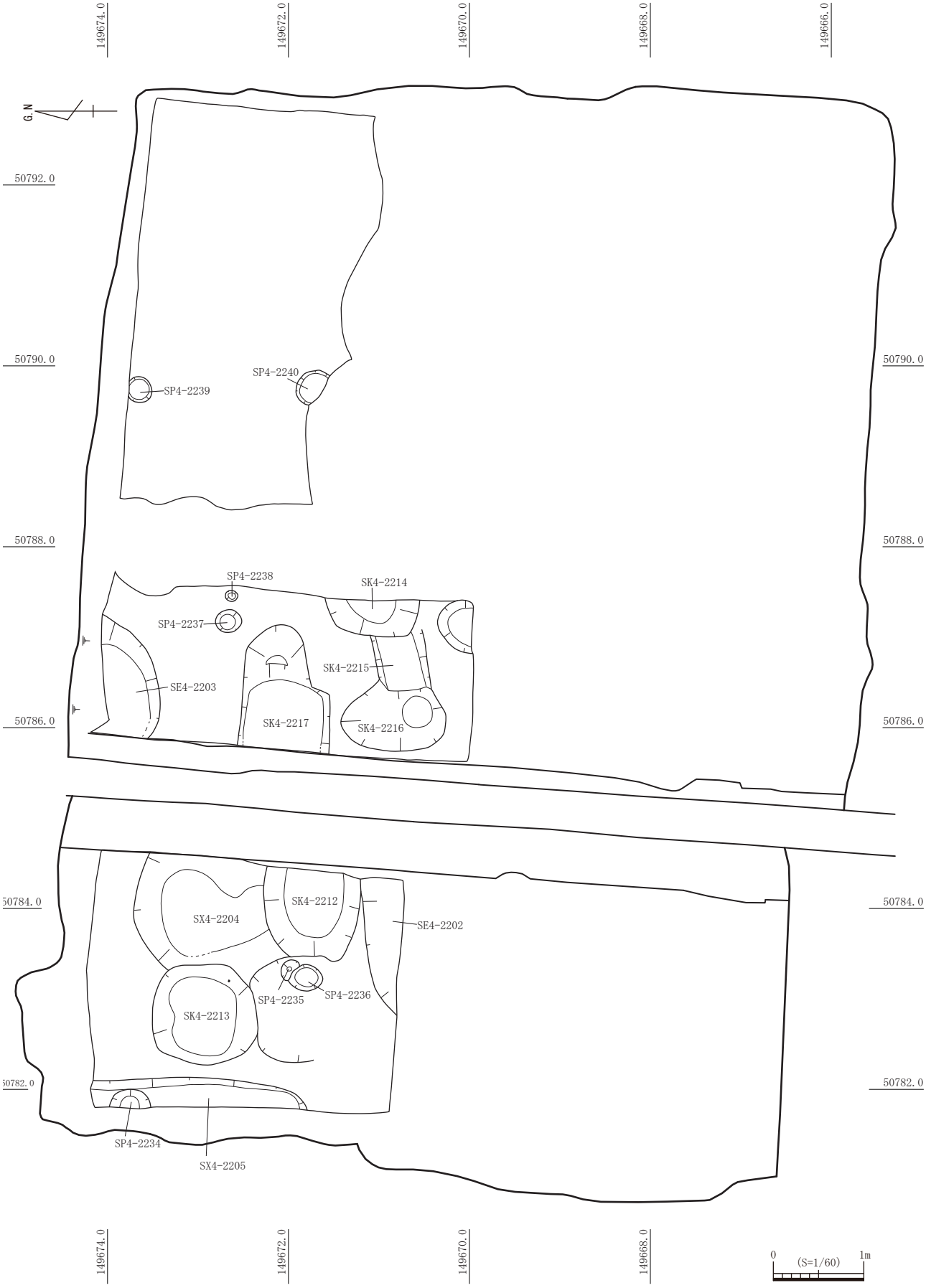
出土遺物は図化した以外に磁器碗、土師質土器杯、同鍋、丸瓦、平瓦がある。379は肥前系磁器碗で、口縁部内面に四方襷が描かれている。380は磁器皿で輸入磁器の可能性がある。口縁部は輪花であり、見込みに蛇ノ目釉ハギが見られる。高台内に煤が付着し、「××」の墨書がある。

４工区第２遺構面出土遺物（第104図）

381～384は第２遺構面を覆う焼土層から出土した遺物である。381は肥前系磁器鉢で、細く高い高台を持つ。外面には山水？、内面は環状の松竹梅が描かれ、見込みに砂目が残る。382は肥前系磁器小碗で、半筒形である。外面に草花文が描かれている。383は肥前系陶器碗で、削り出し高台である。384は肥前系陶器鉢で、高い高台を持つ。見込みに蛇ノ目釉ハギが見られ、畳付と見込みには砂目がある。



第104図　４工区第２遺構面出土遺物実測図



第 105 図　４工区第２遺構面下層遺構配置図

（３）第２遺構面下層（第 105 図）

土坑

ＳＫ４－ 2212（第 106 図）

調査区北西側において検出した土坑であり、ＳＸ４－ 2204 を切っており、東側はコンクリート基礎の下で調査ができなかった。検出面の標高は 0.95 ｍである。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.94 ｍ以上、短軸 1.05 ｍ、深さ 0.25 ｍを測る。埋土は黄褐色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀中頃と考えられる。

出土遺物は土師質土器小皿、軒丸瓦があるが、図化できるものはない。

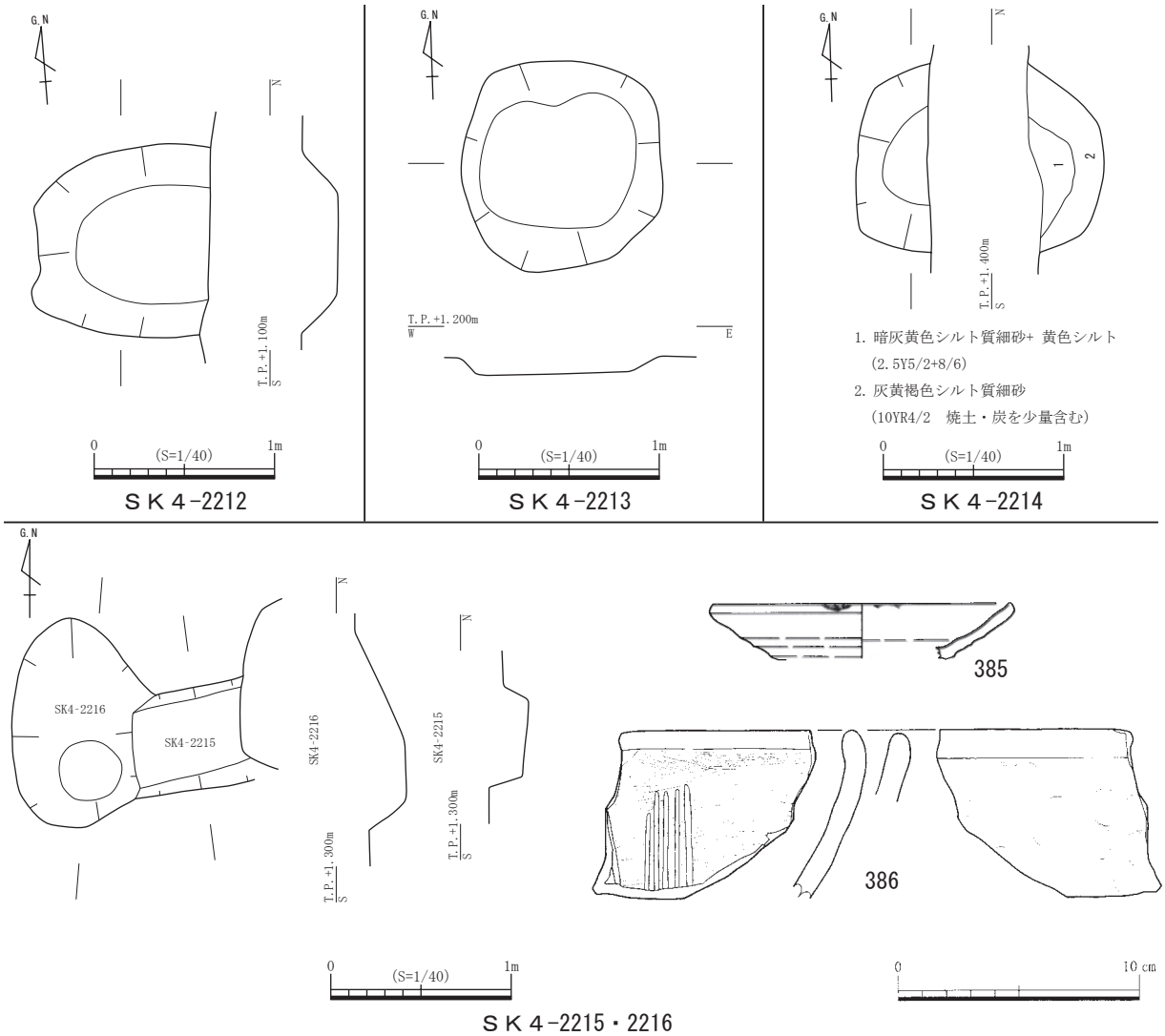
ＳＫ４－ 2213（第 106 図）

調査区北西側において検出した土坑であり、ＳＸ４－ 2204 を切っている。検出面の標高は 1.01 ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径 1.15 ｍ、深さ 0.07 ｍを測る。埋土は焼土・炭化材を含む褐色シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀中頃と考えられる。

出土遺物は丸瓦、釘があるが、図化できるものはない。

ＳＫ４－ 2214（第 106 図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＫ４－ 2215 を切っており、東側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 1.19 ｍである。平面形は不整な円形と推測され、直径 1.05 ｍ、深さ 0.43 ｍを測る。埋土は２層であり、下層は焼土・炭化材を少量含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀中頃と考えられる。出土遺物は丸瓦があるが、図化できるものはない。



第 106 図　ＳＫ４-2212 ～ 2216 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＫ４－2215（第106図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＫ４－2214・2216に切られている。土坑として報告するが、２基の土坑を繋ぐ溝状の遺構であり、２工区第２遺構面のＳＰ２－2207と同様の機能を持つと考えられる。検出面の標高は1.14ｍである。規模は幅0.55ｍ、深さ0.18ｍを測る。埋土は焼土・炭化材である。所属時期は遺構面及び出土遺物より17世紀中頃と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、丸瓦、平瓦、骨がある。385は土師質土器皿で、底面の切り離しは回転糸切りである。口縁部の一部に煤が付着する。

ＳＫ４－2216（第106図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＫ４－2215を切っている。検出面の標高は1.15ｍ前後である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.17ｍ、短軸0.75ｍ、深さ0.28ｍを測る。埋土は黄褐色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より17世紀中頃と考えられる。

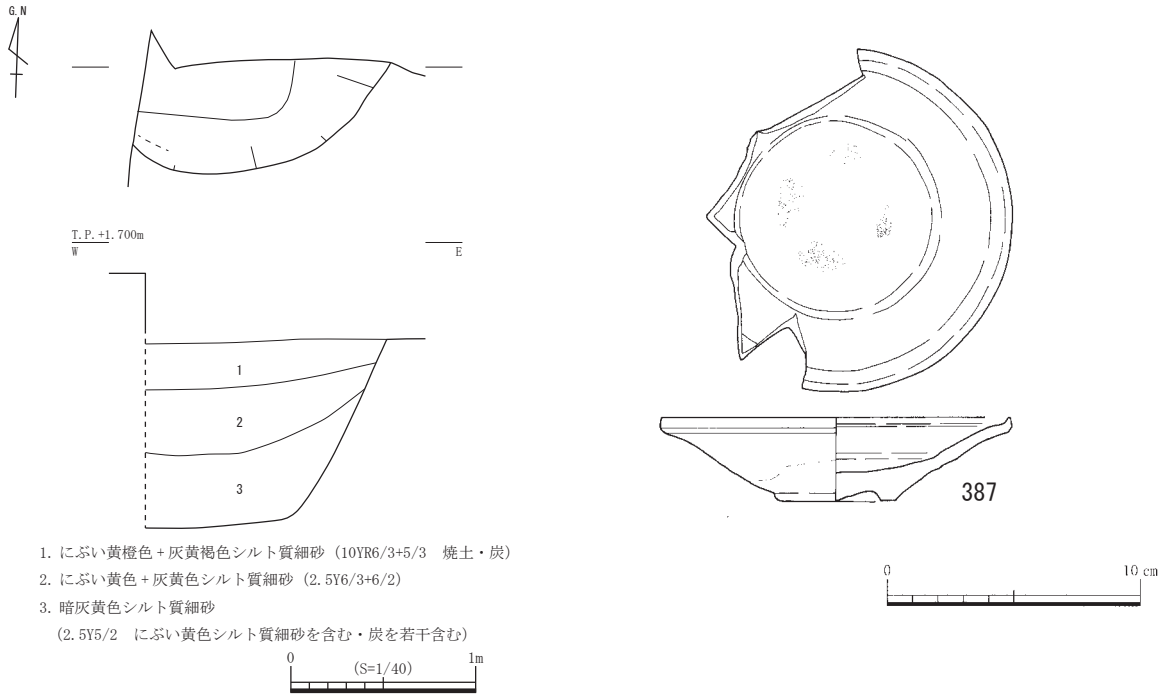
出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、丸瓦、平瓦、ニシガイがある。386は土師質土器擂鉢で、片口を有する。内面は斜め方向のハケが施され、内面には５本１単位の卸目がある。内面の一部に煤が付着している。

井戸

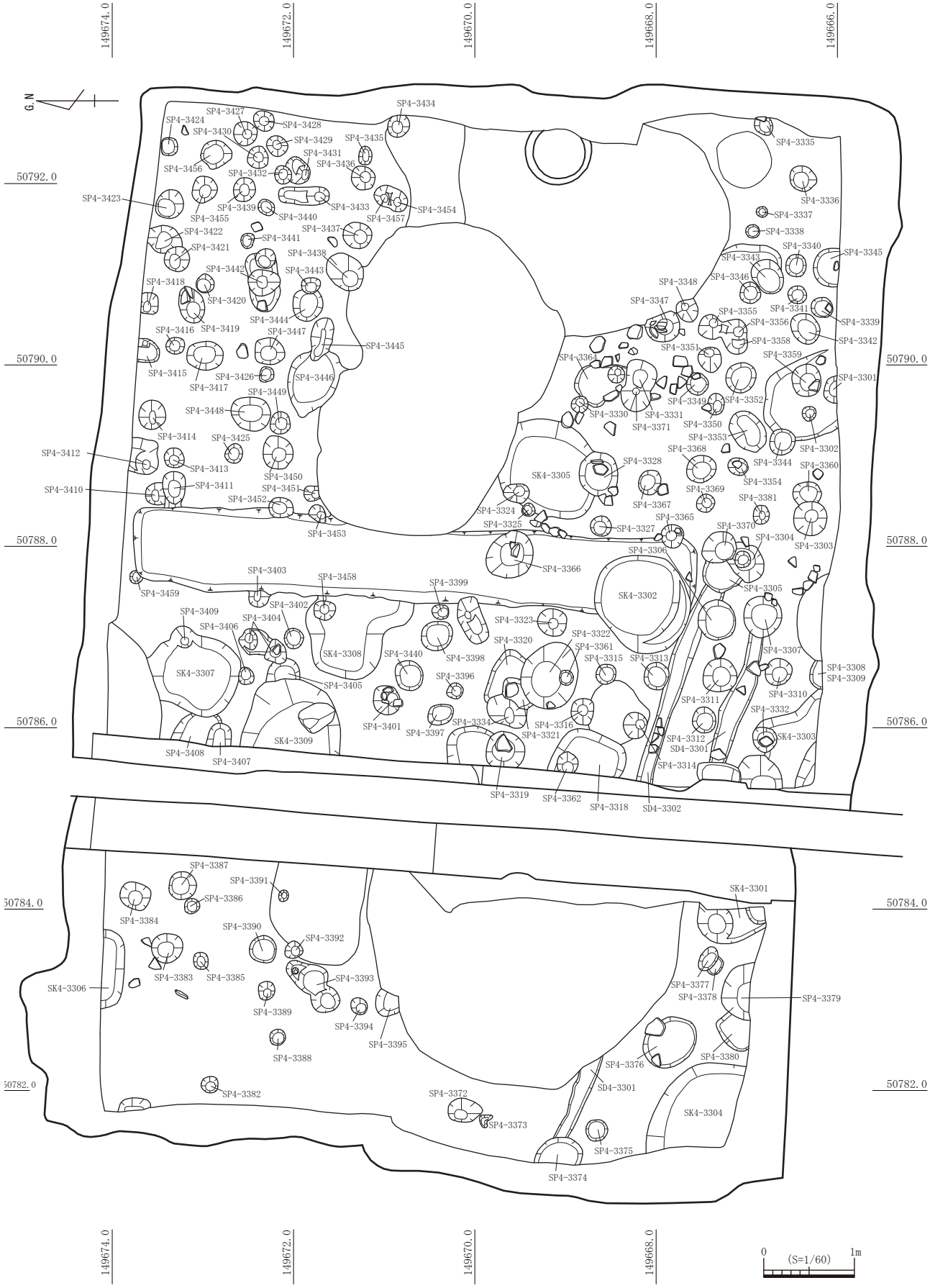
ＳＥ４－2203（第107図）

調査区中央北端において検出した素掘りの井戸であり、北側は調査区外となる。検出面の標高は1.18ｍである。掘り方の平面形は円形と推測され、直径は1.30ｍ以上であり、深さは1.00ｍを測る。底面の標高は0.16ｍであり、湧水点に近くなっており調査中も常時少量の水が湧いていた。埋土は３層に分層でき、最上の第１層は焼土・炭化材を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より17世紀中頃と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、灰釉陶器碗、軒丸瓦、軒平瓦、鬼瓦、丸瓦、平瓦がある。387は肥前系陶器土器皿で、口縁部が僅かに立ち上がる。削り出し高台であり、見込みと畳付に砂目が付着している。



第107図　ＳＥ４-2203平・断面図、出土遺物実測図



第 108 図　４工区第３遺構面遺構配置図

（４）第３遺構面（第 108 図）

溝

ＳＤ４－ 3301（第 109 図）

調査区南西側において検出した溝であり、ＳＥ４－ 2202・ＳＰ４－ 3307・3374 に切られている。検出面の標高は 0.99 ｍである。検出した長さはＳＥ４－ 2202 に切られた部分とコンクリート基礎下を含めると 5.95 ｍになり、幅は 0.15 ～ 0.27 ｍ、深さは 0.05 ｍを測る。溝の方向はＮ－ 68°－Ｗであり、ＳＤ４－ 3302 とほぼ平行して延びている。

出土遺物は土師質土器小皿の小片のみである。

ＳＤ４－ 3302（第 109 図）

調査区南西側において検出した溝であり、ＳＥ４－ 2202・ＳＰ４－ 3305・3306 に切られる。検出面の標高は 0.99 ｍである。検出した長さは 2.30 ｍ、幅は 0.18 ～ 0.23 ｍ、深さは 0.07 ｍを測る。溝の方向はＮ－ 68°－Ｗであり、ＳＤ４－ 3301 とほぼ平行して延びる。

出土遺物はない。

土坑

ＳＫ４－ 3301（第 109 図）

調査区南西側において検出した土坑であり、コンクリート基礎の下にあるため遺構の一部のみ検出しており、平面形・規模は不明である。検出面の標高は 0.87 ｍである。検出面からの深さは 0.10 ｍであり、底面に円形の落ち込みがあり、深さ 0.32 ｍである。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器瓶、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦、菊丸瓦がある。388 は肥前系磁器仏飯器で、外面に雨降文と圏線が描かれ、高台内側と畳付に砂目が付着している。

ＳＫ４－ 3302（第 109 図）

調査区中央において検出した土坑である。検出面の標高は 0.98 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 0.97 × 1.13 ｍ、深さ 0.42 ｍを測り、南西側に三日月型の段を持つ。埋土は４層に分かれ、上層の第１～３層は焼土・炭化材を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀と考えられる。

出土遺物は磁器瓶、土師質土器小皿、同杯、平瓦があるが、図化できるものはない。

ＳＫ４－ 3304（第 109 図）

調査区南西隅において検出した土坑であり、西側と南側が調査区外となるので土坑全体の 1/4 程度を検出した。検出面の標高は 0.88 ｍである。平面形は円形と推測でき、検出した長さは 0.93 ｍ、深さ 0.30 ｍを測る。掘り込みの傾斜は非常に緩やかである。埋土はにぶい黄褐色＋にぶい黄色シルト質細砂であり、焼土・炭化材を若干含む。

出土遺物はない。

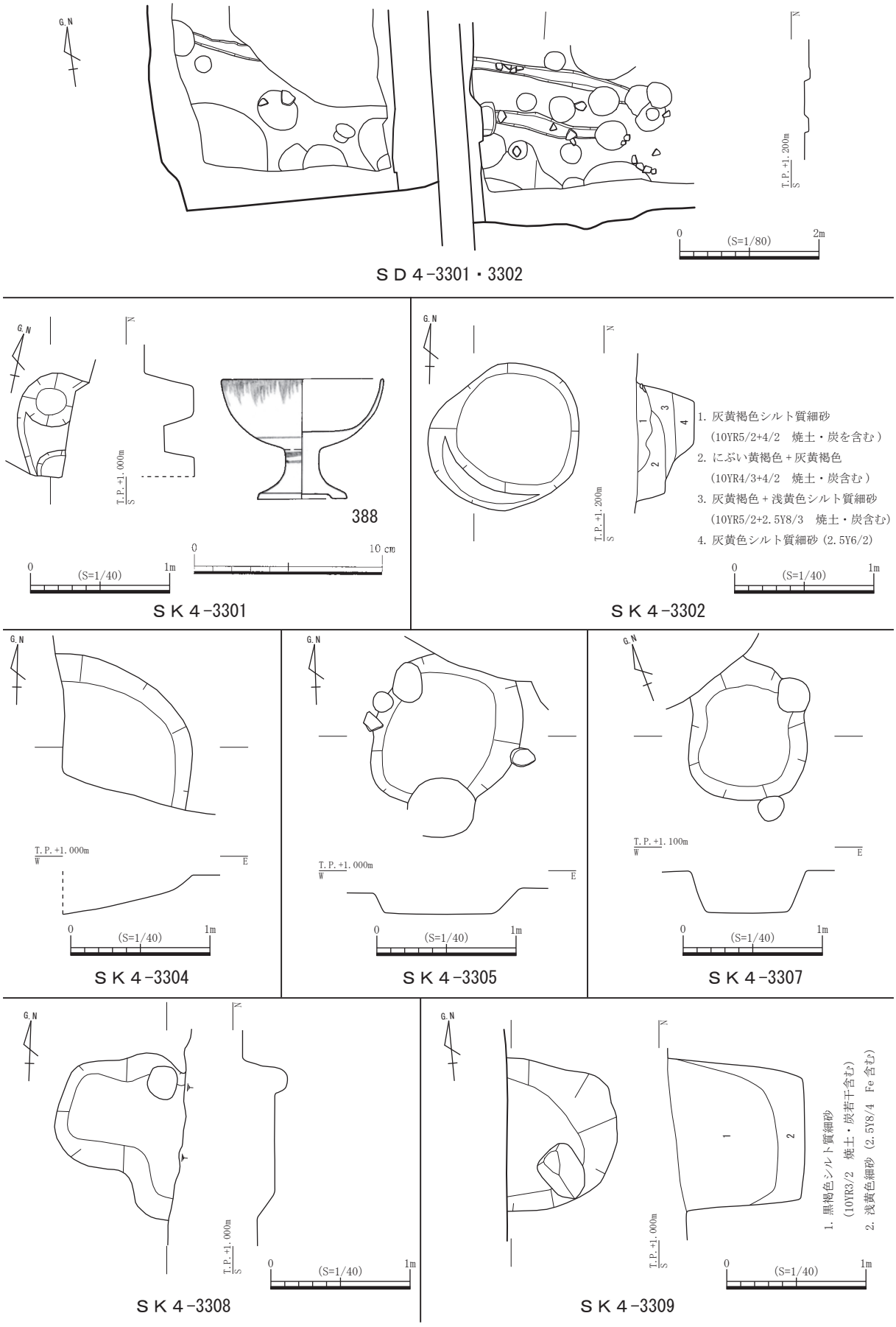
ＳＫ４－ 3305（第 109 図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＥ４－ 2201・ＳＰ４－ 3324・3325 に切られている。検出面の標高は 0.85 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 1.02 ｍ、深さ 0.17 ｍを測る。埋土は明灰黄色＋灰黄褐色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より中世と考えられる。

出土遺物は土師質土器杯のみである。

ＳＫ４－ 3307（第 109 図）

調査区中央北側において検出した土坑であり、ＳＥ４－ 2203 に切られ、ＳＰ４－ 3408・3409 を切っている。検出面の標高は 0.92 ｍである。平面形は隅丸長方形を呈し、長辺 1.00 ｍ、短辺



第109図　ＳＤ４-3301・3302・ＳＫ４-3301・3302・3304・3305・3307～3309平・断面図、出土遺物実測図

0.84 m、深さ 0.28 mを測る。埋土は黄褐色＋にぶい黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より中世と考えられる。

出土遺物は土師質土器小皿、同杯、瓦器椀がある、図化できるものはない。

ＳＫ４－3308（第 109 図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＰ４－3458 を切っており、東側は攪乱により削平されている。検出面の標高は 0.80 ～ 0.90 mである。平面形は南側に抉れの入る不整な円形を呈し、直径 1.15 m、深さ 0.15 mを測る。埋土は灰黄褐色＋暗灰黄色シルト質細砂の単一層であり、礫を多く含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より中世と考えられる。

出土遺物は土師質土器杯のみである。

ＳＫ４－3309（第 109 図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＰ４－3405 を切っており、西側はコンクリート基礎の下になる。検出面の標高は 0.83 ～ 0.93 mである。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸 0.80 m以上、短軸 1.10 m、深さ 0.98 mを測る。底面近くで 38 × 40 ㎝と 29 × 40 ㎝の大きさの石が出土した。埋土は２層に分かれ、上層の第１層は焼土・炭化材を若干含む。

出土遺物は丸瓦、燻しのない平瓦がある。

柱穴

ＳＰ４－3310（第 110 図）

調査区中央南端において検出した柱穴である。検出面の標高は 1.02 mである。平面形は円形を呈し、直径 0.30 m、深さ 0.20 mを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細砂で焼土・炭化材を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、燻しのない平瓦がある。389 は肥前系磁器紅猪口で、外面に草花文が描かれ、畳付に砂目が付着している。

ＳＰ４－3323（第 110 図）

調査区中央において検出した柱穴である。検出面の標高は 0.96 mである。平面形は円形を呈し、直径 0.31 m、深さ 0.52 mを測る。埋土は褐灰色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 14 世紀末～ 15 世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、同鍋がある。390 は土師質土器杯であり、体部の傾斜は緩やかである。391 は土師質土器羽釜である。

ＳＰ４－3328（第 110 図）

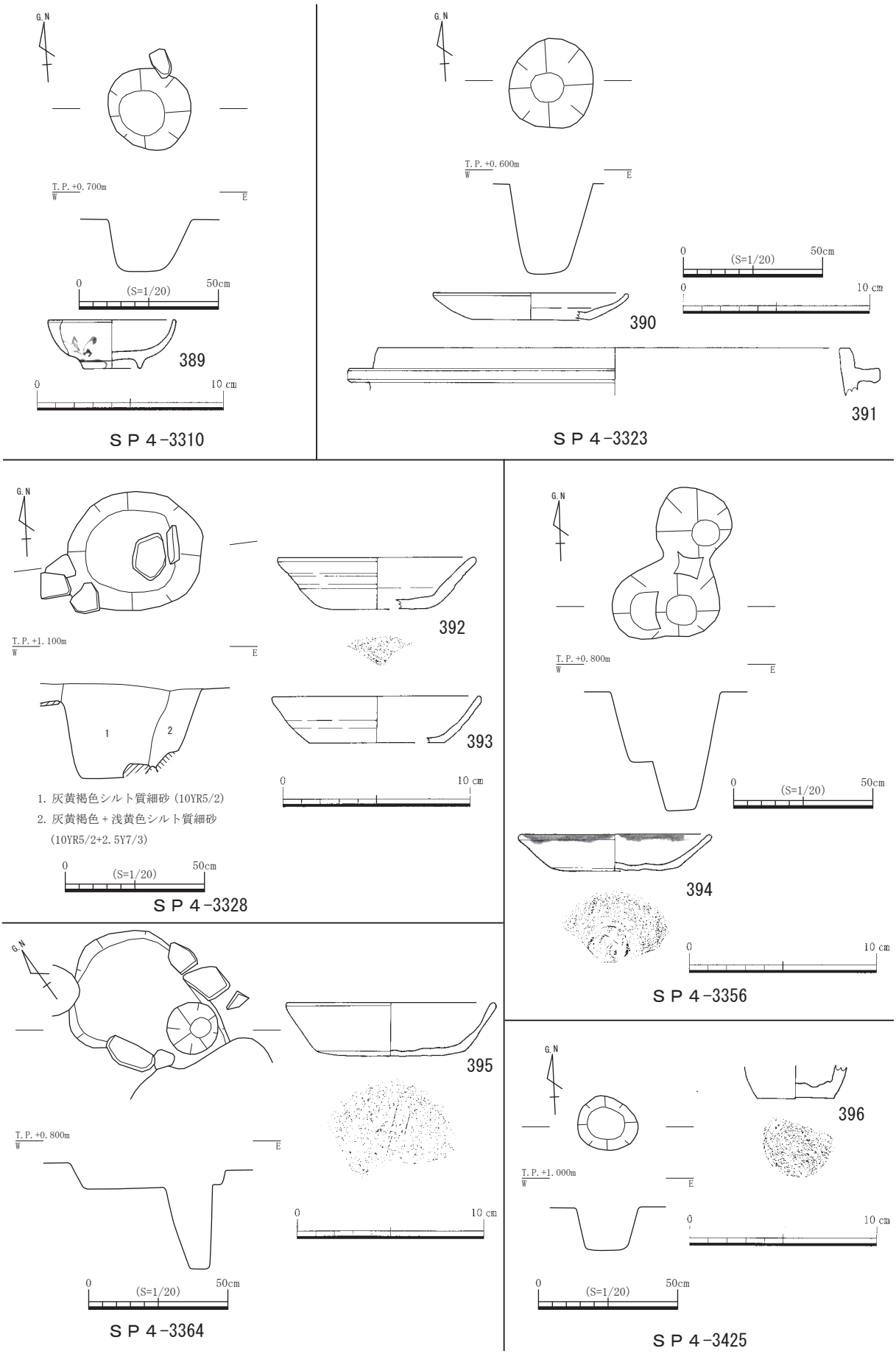
調査区中央において検出した柱穴であり、ＳＫ４－3305 を切っている。検出面の標高は 0.90 mである。平面形は円形を呈し、直径 0.42 × 0.48 m、深さ 0.29 mを測る。埋土は 2 層に分かれる。所属時期は遺構面及び出土遺物より 14 世紀中～後葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶器碗、同甕、土師質土器小皿、同椀、同足釜がある。392 は備前焼陶器杯で、底部の切り離しは回転糸切りである。393 は土師質土器杯である。

ＳＰ４－3356（第 110 図）

調査区南東側において検出した柱穴であり、ＳＰ４－3355 と重複している。検出面の標高は 0.90 mである。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.38 m、短軸 0.27 m、深さ 0.42 mを測る。西側に深さ 0.25 mの段を持つ。埋土は褐灰色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 14 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、同杯がある。394 は土師質土器灯明皿で、底部は回転ヘラ切りで切り離した後に、中央に板目、周縁にナデが施されている。口縁部内外面に煤が付着している。



第 110 図　ＳＰ４-3310・3323・3328・3356・3364・3425 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＰ４－3364（第110図）

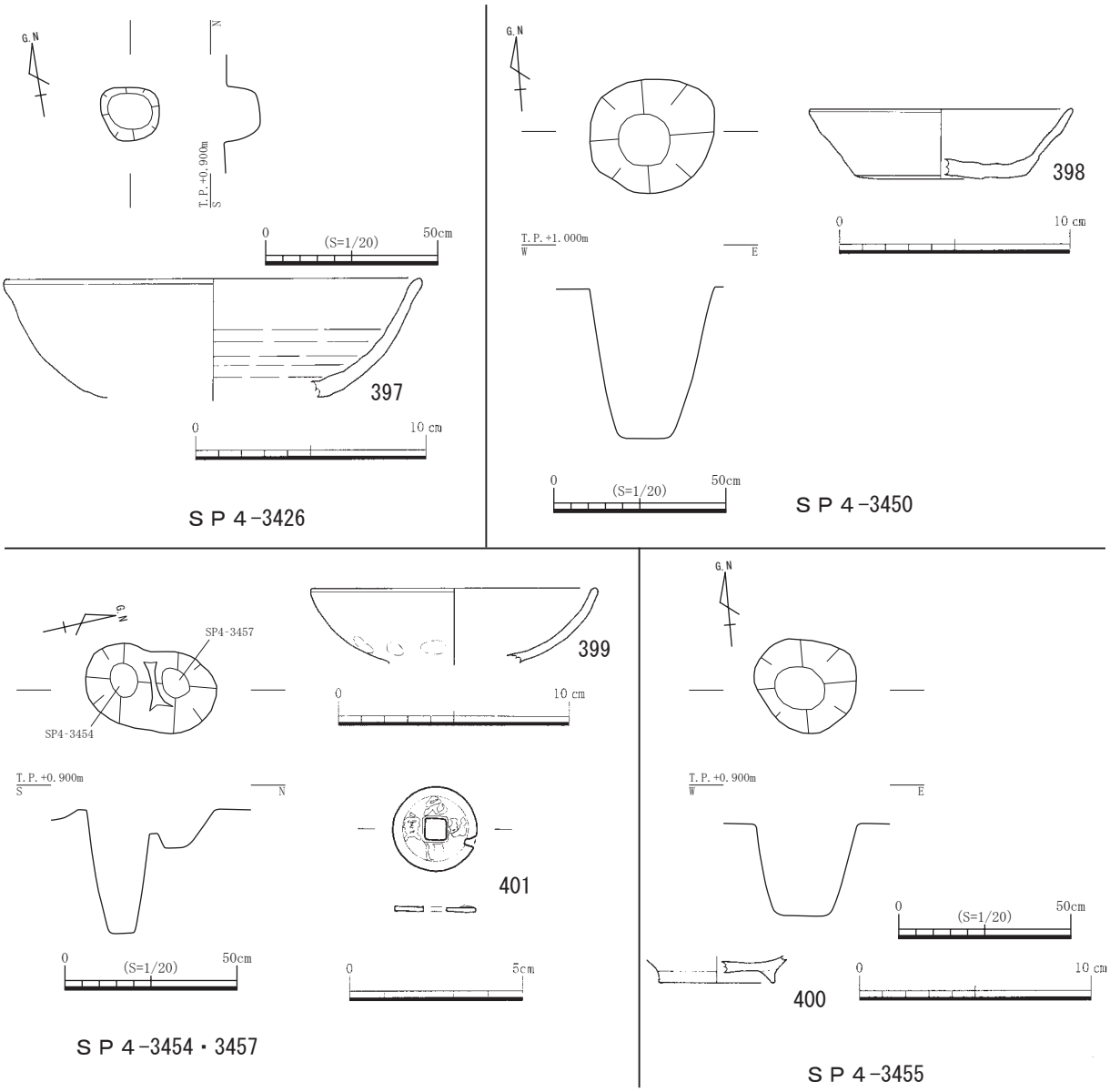
調査区南東側において検出した柱穴であり、ＳＰ４－3330・3331と重複している。検出面の標高は0.90ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径0.60×0.45ｍ、深さ0.05ｍを測る。南東隅に直径0.18ｍ、深さ0.31ｍの落ち込みがある。埋土は灰黄褐色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より13世紀末～14世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器杯がある。395は土師質土器杯で、底部は回転ヘラ切りで切り離した後に、中央に板目、周縁にナデが施されている。

ＳＰ４－3425（第110図）

調査区中央北側において検出した柱穴である。検出面の標高は0.90ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.22ｍ、深さ0.13ｍを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より14世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に備前焼陶器擂鉢、土師質土器小皿、平瓦がある。396は備前焼陶器小壺で、底部の切り離しは回転糸切りである。



第111図　ＳＰ４-3426・3450・3454・3455・3457平・断面図、出土遺物実測図

ＳＰ４－3426（第111図）

調査区中央北側において検出した柱穴である。検出面の標高は0.84ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径0.16ｍ、深さ0.07ｍを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より13世紀初頭と考えられる。

出土遺物は397の土師質土器椀のみである。

ＳＰ４－3450（第111図）

調査区中央北側において検出した柱穴である。検出面の標高は0.87ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径0.35ｍ、深さ0.43ｍを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より13世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器杯の小片がある。398は土師質土器杯で、底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

ＳＰ４－3454（第111図）

調査区東端中央において検出した柱穴であり、ＳＰ４－3457と重複している。検出面の標高は0.83ｍである。平面形はやや不整な円形を呈し、直径0.25ｍ、深さ0.36ｍを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より13世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器杯、同甕がある。399は土師質土器椀で、体部外面下半には指頭圧が部分的に見られる。

ＳＰ４－3455（第111図）

調査区北東端において検出した柱穴である。検出面の標高は0.80ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径0.30ｍ、深さ0.27ｍを測る。

出土遺物は図化した以外に土師質土器杯、同甕がある。400は土師質土器椀の高台部分である。

ＳＰ４－3457（第111図）

調査区東端中央において検出した柱穴であり、ＳＰ４－3454と重複している。検出面の標高は0.83ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.23ｍ、深さ0.11ｍを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より13世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器杯、同鍋がある。401は青銅製の宋銭である。

第６節　５工区の遺構と遺物

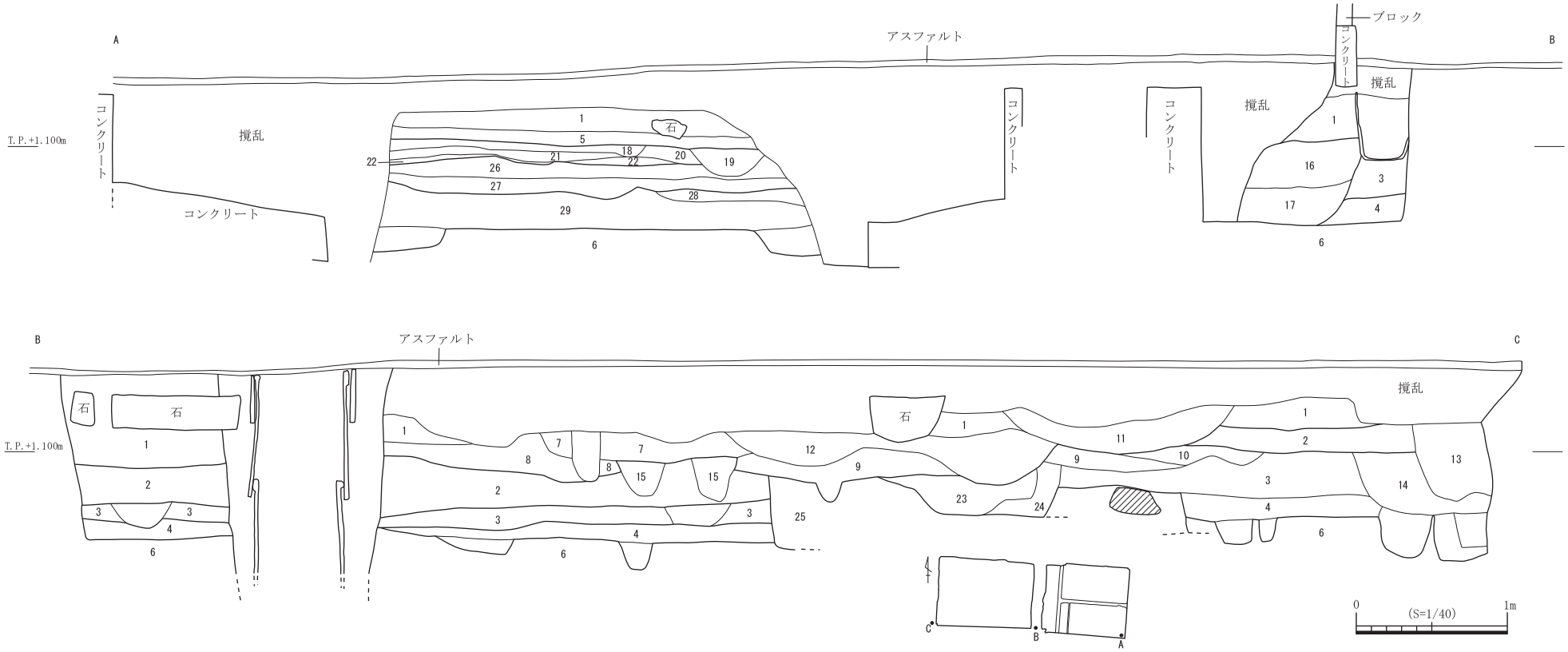
１　調査の概要

５工区は４工区の東側に隣接し、調査対象範囲の東端に位置する調査区である。対象面積は165㎡であるが、北側に接する歩道と東側の道路の保護のため境界から約1.00ｍ内側を残して掘削し、さらに南側にある建物の保護のため境界から約0.50ｍ内側を残して掘削した。さらに調査区中央に水道管・ガス管が設置されているので約1.60ｍの幅で保護を講じた。結果として、実質的な調査面積は137㎡である。

調査に先立ちアスファルトと埋め立てた花崗土を撤去すると、調査区中央から東側はコンクリート基礎とその掘り方が広い面積を占めており、調査が実施できたのはコンクリート基礎間の一部分だけである。調査は第１遺構面～第４遺構面まで実施したが、第３遺構面の調査区東側については掘り下げすぎにより遺構が消滅した部分がある。

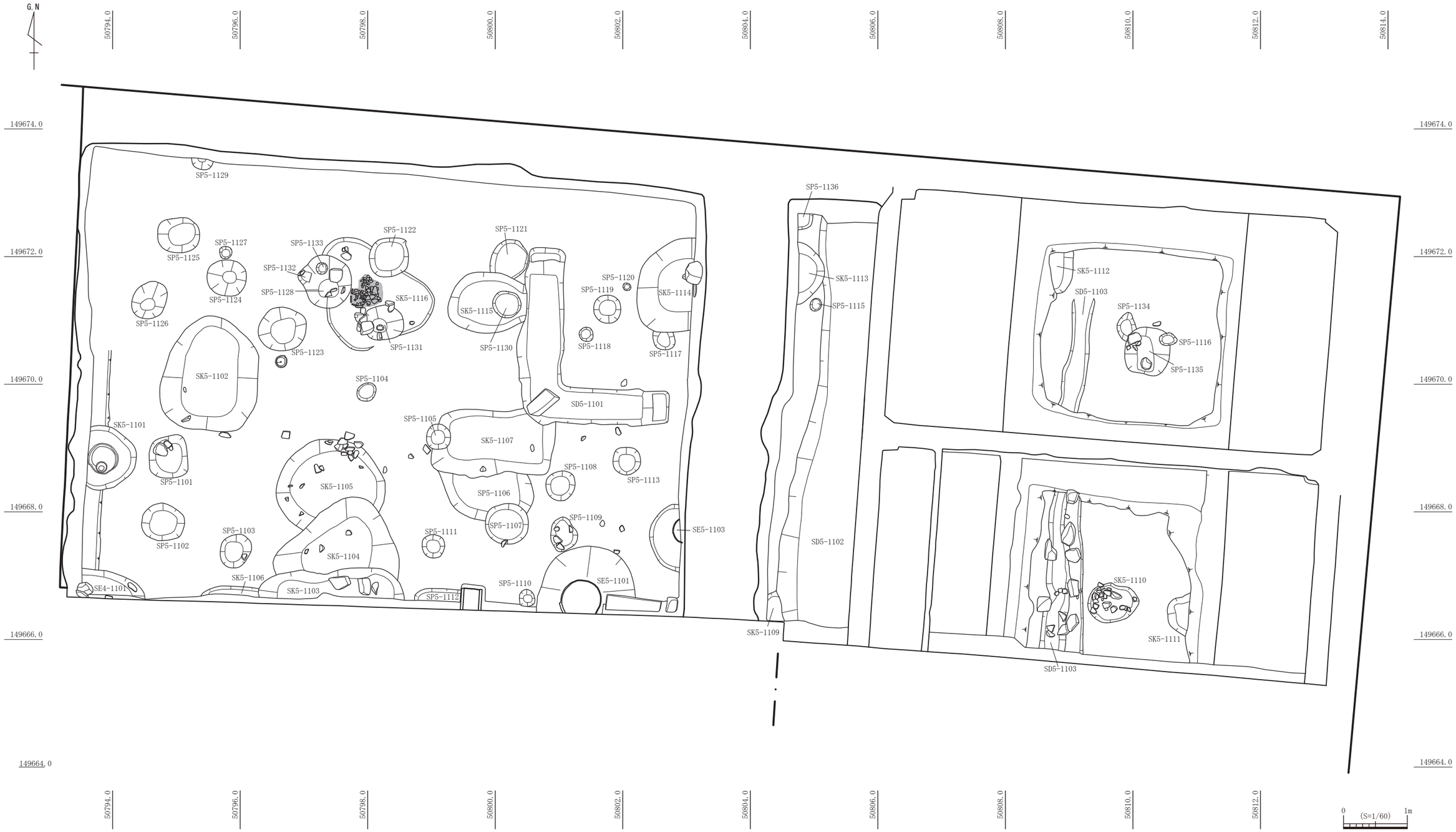
２　基本土層（第112図）

調査区南壁において土層観察を行い、土層図を作成した。壁面には複数の遺構や整地層が重複し、コンクリート基礎や攪乱があるため水平堆積を呈した範囲が非常に少ないが、その特徴から



1. にぶい黄色シルト質細砂（2.5Y6/3）
2. 灰黄色シルト質細砂（2.5Y6/2）
3. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2）
4. 灰白色細砂＋灰黄褐色シルト質細砂（2.5Y8/1+10YR5/2　にぶい褐色シルト質細砂（7.5YR5/3）を含む）
5. 灰黄褐色＋浅黄色シルト質細砂（10YR5/2+2.5Y7/3　焼土・炭化材を少量含む）
6. 黄灰褐色砂質シルト（地山）
7. にぶい黄色＋黄褐色シルト質細砂（2.5Y6/3+5/3）
8. 灰黄色＋浅黄色シルト質細砂（2.5Y7/2+7/4）
9. 灰黄褐色＋浅黄色シルト質細砂（10YR5/2+2.5Y7/3）
10. 焼土・炭化材
11. にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/3　淡黄色シルトを含む）
12. 浅黄色＋灰黄色シルト質細砂（2.5Y7/3+6/2　漆喰を含む）
13. 褐灰色シルト質細砂（10YR7/1）
14. 灰黄褐色＋褐灰色シルト質細砂（10YR6/2+6/1　焼土・炭化材を含む）
15. 黄褐色シルト質細砂（2.5Y5/3　焼土・炭化材を含む）
16. 灰白色細砂＋灰黄色シルト質細砂（2.5Y8/1+6/2）
17. 暗灰黄色シルト質細砂（2.5Y5/2）
18. 淡黄色シルト（5Y8/3　焼土が下端に堆積）
19. 灰黄色＋暗灰黄色シルト質細砂（2.5Y6/2+5/2　焼土を若干含む）
20. にぶい黄色シルト質細砂（2.5Y6/3　焼土を若干含む）
21. 淡黄色シルト（5Y8/3　焼土・炭化材を少量含む）
22. 灰・炭化材
23. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR5/2）
24. にぶい黄色シルト質細砂＋灰白色シルト（2.5Y6/3+8.2　焼土・炭化材を若干含む）
25. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　灰黄色シルト質細砂（2.5Y6/2）を若干含む）
26. にぶい黄色シルト質細砂＋灰黄色細砂（2.5Y6/3+7/2）
27. 灰白色細～粗砂（5Y8/2）
28. 灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　炭化材を含む）
29. 黒褐色シルト質細砂（10YR3/2）

第112図　５工区土層図



第 113 図　５工区第１遺構面遺構配置図

Ａ～Ｇ層に分類し、基本土層とした。

Ａ層：表土に相当する埋め立てであり、表面はアスファルト舗装であり、その下は花崗土と第２次世界大戦の高松空襲による焼土を含む攪乱である。

Ｂ層：第２次世界大戦の高松空襲による焼土層であり、部分的に検出した。

Ｃ層：第２層灰黄色シルト質細砂であり、上面において遺構を検出した。第１遺構面であり、標高は 1.20 ～ 1.40 ｍである。

Ｄ層：第３層灰黄褐色シルト質細砂であり、上面において遺構を検出した。第２遺構面であり、調査区中央部では検出面のレベルが低くなっており、標高は 0.95 ～ 1.20 ｍである。

Ｅ層：第４層灰白色細砂＋灰黄褐色シルト質細砂であり、上面において遺構を検出した。第３遺構面であり、調査区中央部では検出面のレベルが低くなっており、標高は 0.85 ～ 1.00 ｍである。

Ｆ層：中・近世の基盤層と考えられている黄灰色砂質シルトであり、その上面において遺構を検出した。第４遺構面であり、標高は 0.70 ～ 0.80 ｍである。

３　遺構・遺物

（１）第１遺構面（第 113 図）

溝

ＳＤ５－ 1101（第 114 図）

調査区中央において検出したＬ字形を呈する溝である。検出面の標高は 1.25 ｍである。平面形はＬ字形であり、幅 0.55 ～ 0.74 ｍ、深さ 0.39 ｍを測る。Ｂ層上面から掘り込んでおり、ほぼ垂直な傾斜である。両端に段を有する。溝内には第２次世界大戦の高松空襲に伴う焼土・灰・炭化材が充填されている。

ＳＤ５－ 1102（第 114 図）

調査区中央において検出した溝であり、東側はコンクリート基礎により削平され、西側の落ち込みのみ検出した。検出面の標高は 1.15 ～ 1.30 ｍである。検出した長さは 6.40 ｍ、検出した幅は 1.15 ｍ、深さ 0.40 ～ 0.50 ｍを測る。溝の方向はＮ－８°－Ｅである。底面のレベルは南から北に向かって緩やかに下がる。埋土は上層の灰白色細砂＋灰黄色シルト質細砂と下層の暗灰黄色シルト質細砂の２層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同鍋、丸瓦がある。402 は肥前系磁器碗である。403 は肥前系陶器碗で、削り出し高台である。見込みに胎土目が３カ所残る。404 は玉縁式丸瓦で、凸面は板ナデ・ミガキが施され、凹面は布目・コビキＢが残る。

ＳＤ５－ 1103（第 114 図）

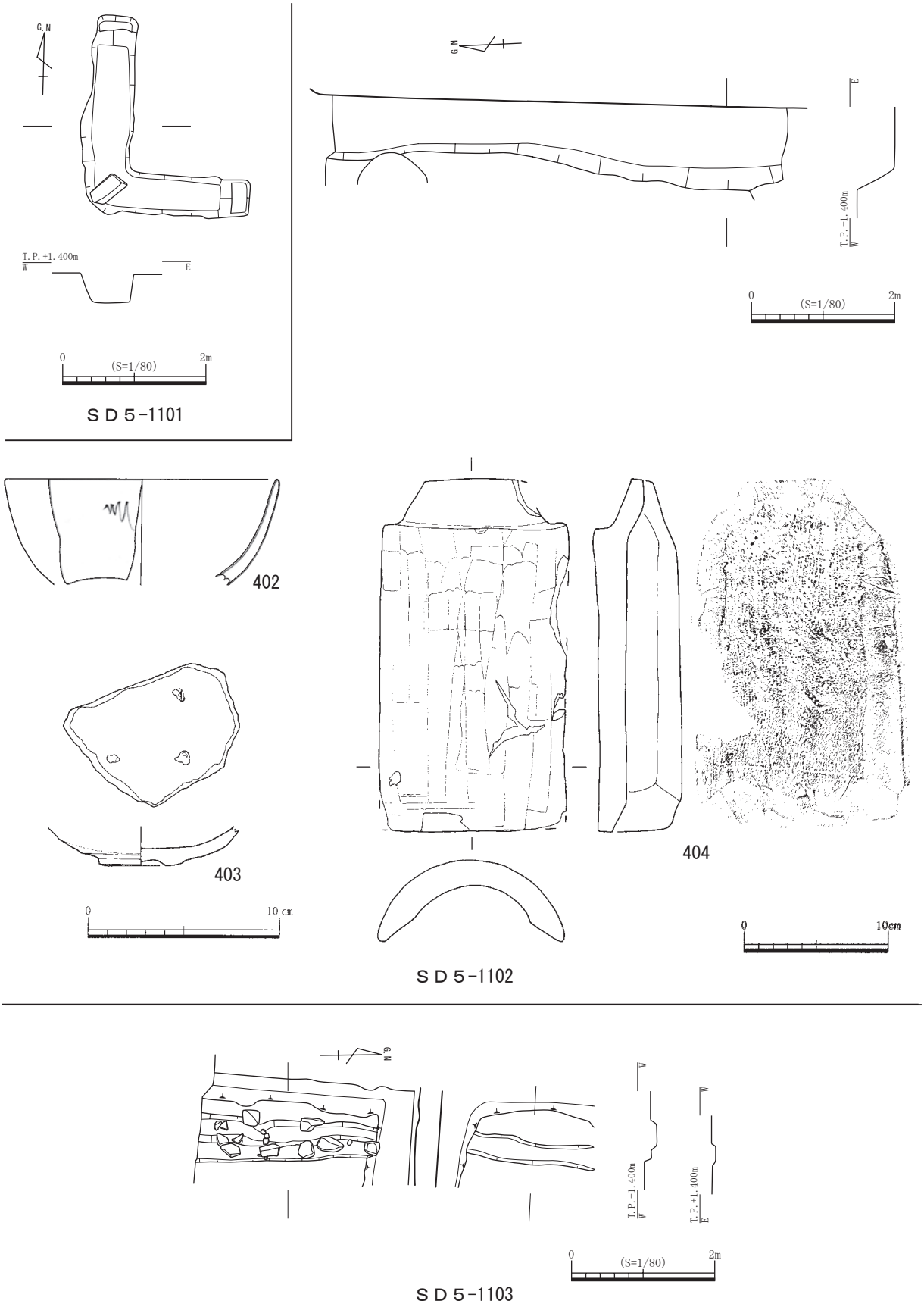
調査区東側において検出した溝であり、溝の中央はコンクリート基礎により削平されている。検出面の標高は 1.16 ～ 1.30 ｍである。溝の北端は自然消滅しており、本来は北に延びていたと考えられる。検出した長さは 5.50 ｍ、幅は 0.27 ～ 0.67 ｍ、深さ 0.02 ～ 0.16 ｍを測る。溝の方向はＮ－５°－Ｅである。南側の調査区では溝の東側に段を持ち、溝の両側に６個の石を並べている。底面のレベルは南から北に向かって緩やかに下がる。埋土は灰黄色＋暗灰黄色シルト質細砂であり、焼土を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後半～ 19 世紀初頭と考えられる。

出土遺物は陶器碗、土師質土器小皿、同鍋、丸瓦があるが、図化できるものはない。

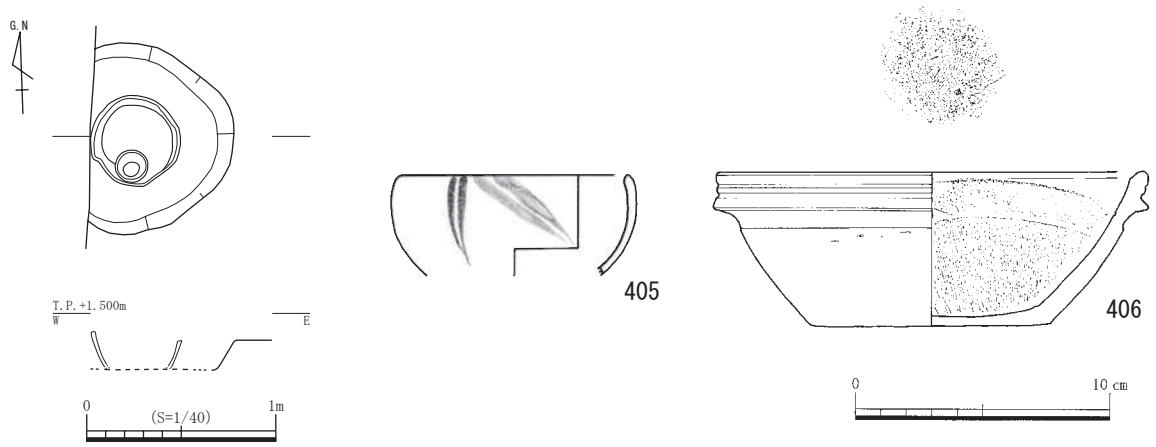
土坑

ＳＫ５－ 1101（第 115 図）

調査区西端において検出した埋甕の土坑である。検出面の標高は 1.36 ｍである。掘り方の平



第 114 図　ＳＤ５-1101 ～ 1103 平・断面図、出土遺物実測図



第 115 図　ＳＫ５-1101 平・断面図、出土遺物実測図

面形は円形を呈し、直径 1.01 m、深さ 0.14 mを測る。土坑の中央には直径 0.47 mの甕が設置されており、その中から 406 の擂鉢が出土した。甕内の埋土はにぶい黄褐色シルト質細砂であり、掘り方の埋土はにぶい黄色シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後葉～ 19 世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した土器のみである。405 は京・信楽系陶器碗で、外面に暗茶色と明緑灰色の草花文の上絵が描かれている。406 は明石焼陶器擂鉢で、体部外面はヘラケズリ後にナデが施されている。卸目の最上位に細い沈線を巡らせている。卸目は体部内面の全面に及び、見込みにも卸目が入っている。

ＳＫ５－ 1102（第 116 図）

調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は 1.25 ～ 1.36 mである。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸 1.77 m、短軸 1.45 m、深さ 0.24 mを測る。埋土は２層に分かれ、共に焼土・炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

出土遺物は磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同鍋、瓦器椀があるが、図化できるものはない。

ＳＫ５－ 1103（第 116 図）

調査区西側南端において検出した土坑であり、ＳＫ５－ 1104 を切っている。検出面の標高は 1.42 mである。土坑の南側は調査区外となっており、平面形は楕円形と推測される。長軸は 2.27 m、短軸 0.45 m以上、深さは 0.22 mを測る。埋土は２層に分かれ、上層は漆喰を多量に含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、平瓦がある。407 は瀬戸・美濃系陶器碗である。408 は堺・明石系陶器擂鉢で、口縁部外面に２本の浅い沈線を巡らせ、体部外面はヘラケズリが施されている。卸目は内面全域に見られる。

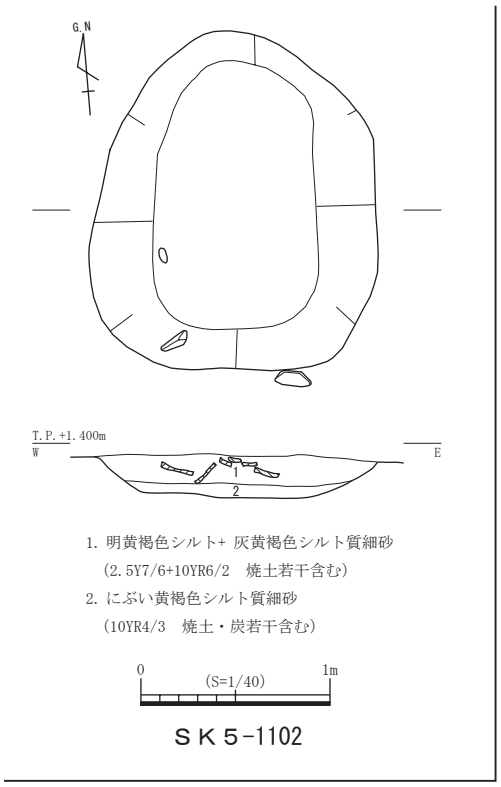
ＳＫ５－ 1104（第 116 図）

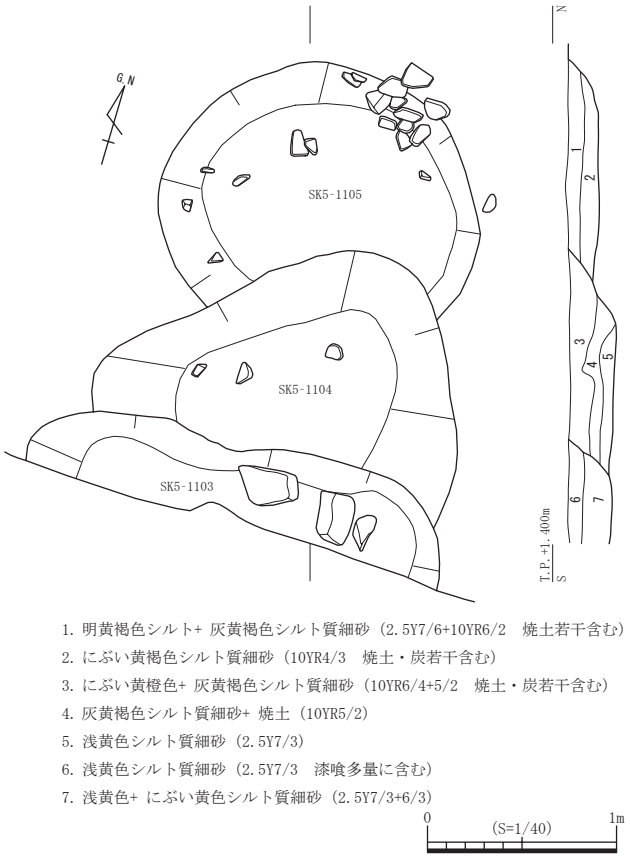
調査区西側南端において検出した土坑であり、ＳＫ５－ 1105 を切っており、ＳＫ５－ 1103 に切られている。検出面の標高は 1.33 mである。検出した平面形は丸い三角形を呈し、東西方向は 1.97 m、南北は 1.10 m以上、深さは 0.25 mを測る。埋土は３層に分かれ、上層は焼土・炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

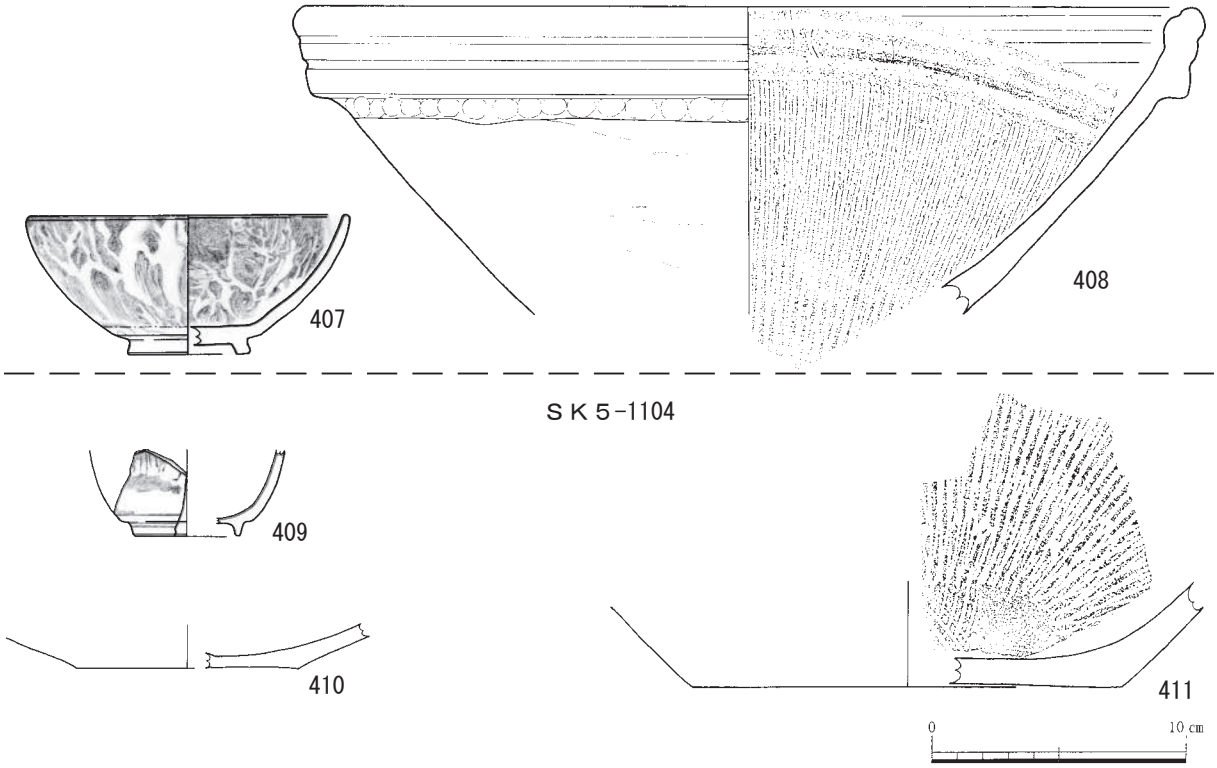
出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同足釜がある。409 は肥前系磁器碗で、外面に山水文が描かれ、畳付に砂目が付着している。410 は陶器土瓶で、外面に煤が付着する。411 は備前焼陶器擂鉢で、底部は板目状の圧痕後にナデが施されている。

ＳＫ５－ 1107（第 117 図）

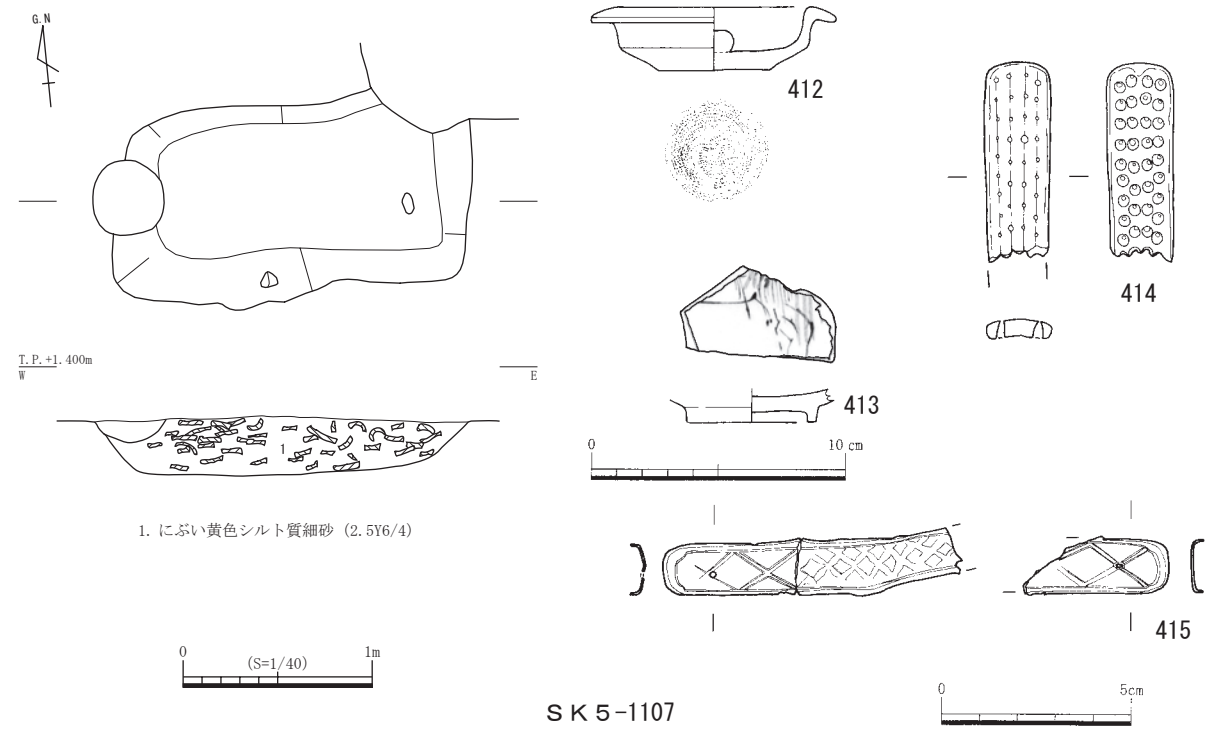
調査区ほぼ中央において検出した土坑であり、ＳＤ５－ 1101・ＳＰ５－ 1105 に切られ、ＳＰ５－ 1106 を切っている。検出面の標高は 1.30 m前後である。平面形は長方形を呈し、長辺 1.84 m、短辺 1.03 m、深さ 0.25 mを測る。埋土はにぶい黄色シルト質細砂であり、瓦を多量に含む。



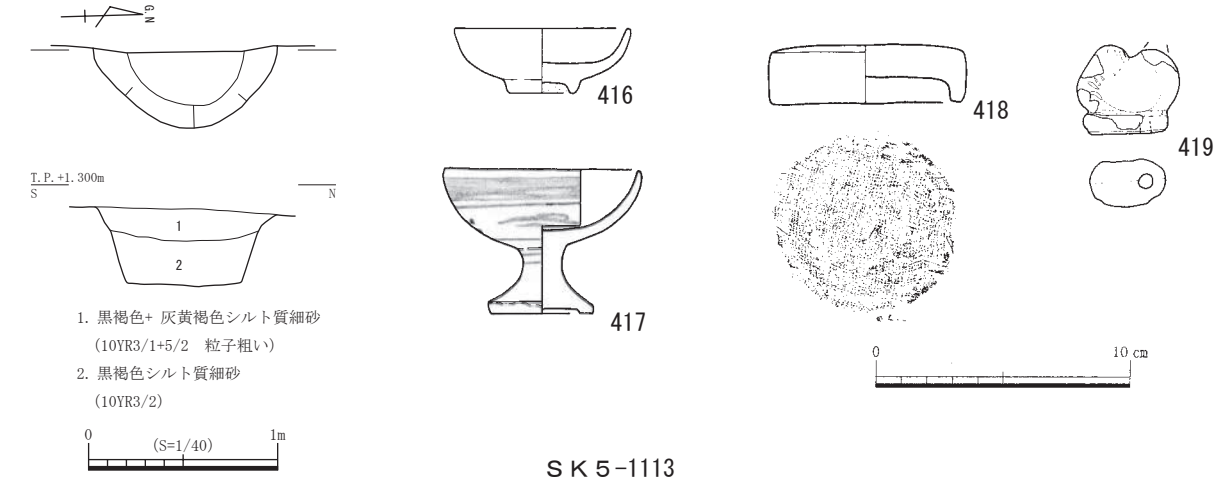




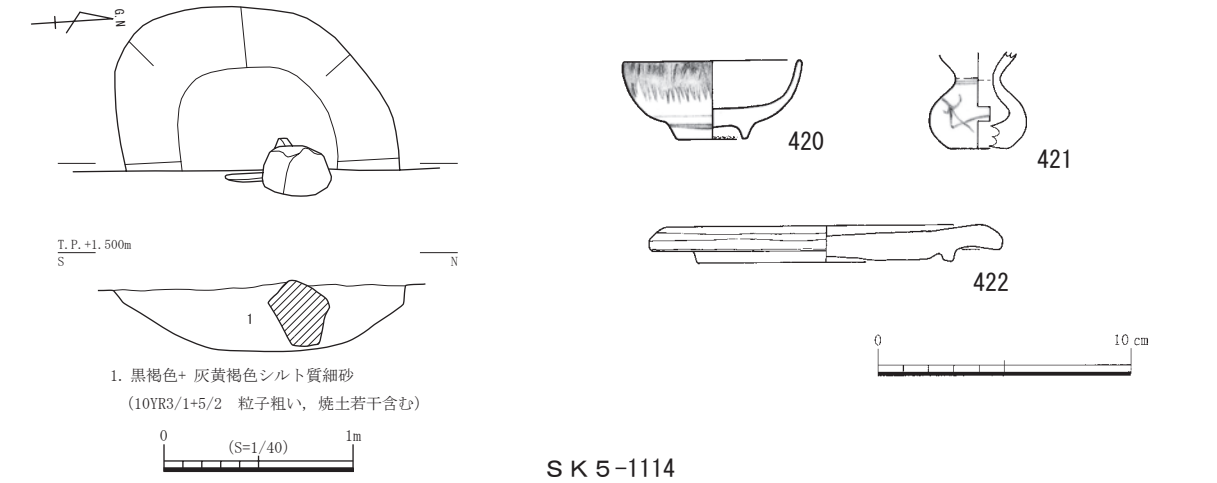
第 116 図　ＳＫ５-1102 ～ 1105 平・断面図、出土遺物実測図



ＳＫ５-1107



ＳＫ５-1113



ＳＫ５-1114

第 117 図　ＳＫ５-1107・1113・1114 平・断面図、出土遺物実測図

所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同甕、丸瓦、平瓦がある。412 は軟質施釉陶器蓋で、底部には回転糸切りが見られる。413 は京・信楽系陶器皿で、削り出し高台である。見込みに山水文が描かれている。414 は骨製の櫛払である。415 は青銅製の小柄と考えられ、２個に割れているが、本来は１個体である。断面は「コ」の字形をなす。外面に格子目状の飾りが見られる。

ＳＫ５－ 1113（第 117 図）

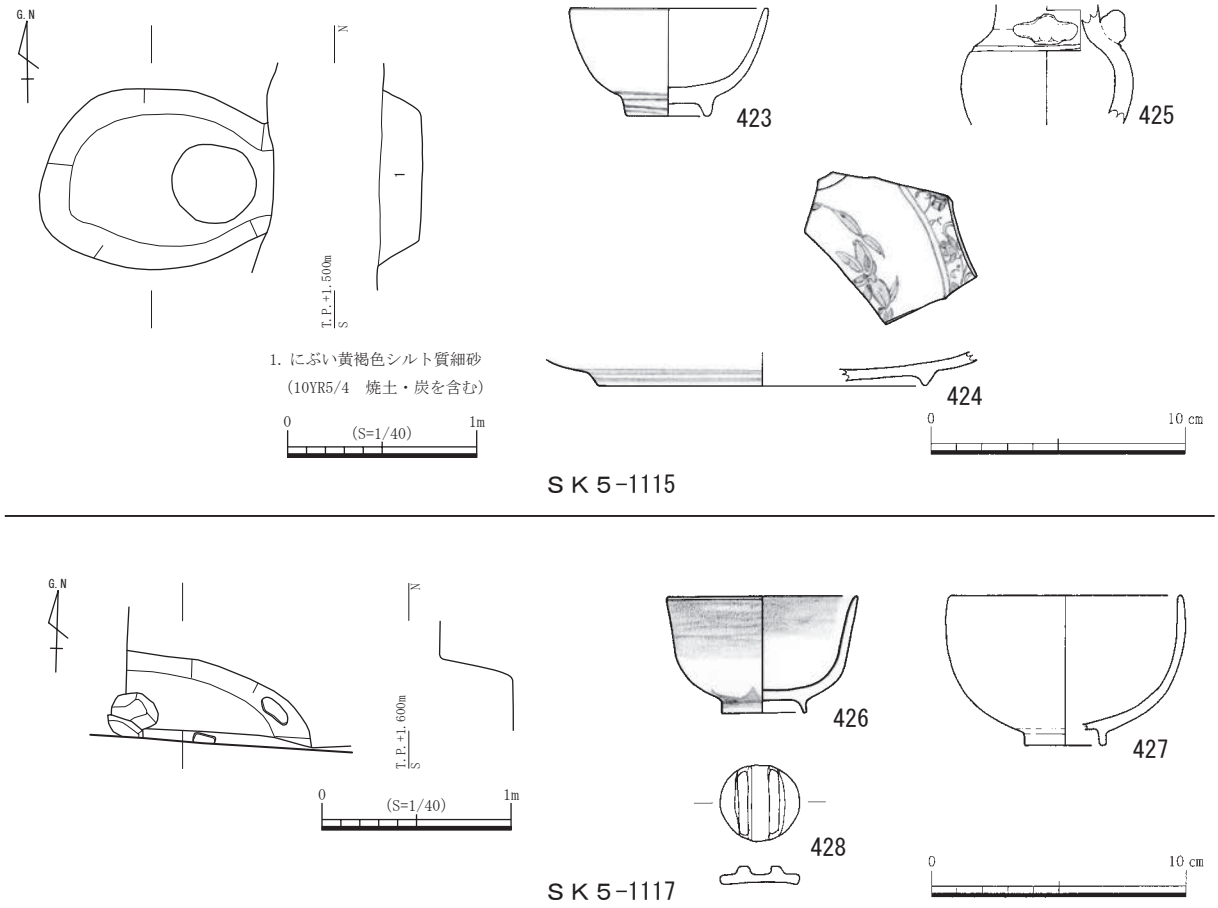
調査区中央やや東側において検出した土坑であり、ＳＤ５－ 1102 と重複している。土坑の西側は調査区外となる。検出面の標高は 1.18 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 0.98 ｍ、深さ 0.42 ｍを測る。埋土は２層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀初頭～中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同こね鉢がある。416 は肥前系磁器酒盃で、高台内に砂目が付着している。417 は肥前系磁器仏飯器で、削り出し高台である。418 は土師質土器焼塩壷の蓋で、内面に布目が残る。419 は土人形の鶏である。

ＳＫ５－ 1114（第 117 図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＰ５－ 1117 を切っており、東側は調査区外である。検出面の標高は 1.23 ｍである。平面形は不整な円形を呈し、直径 1.45 ｍ、深さ 0.22 ｍを測る。埋土は焼土を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器甕、土師質土器小皿、丸瓦がある。420 は肥前系磁器小碗で、高台内に砂目が付着している。外面の染付は雨降り文である。421 は肥前系磁器小壷で、外面に松葉文が描かれている。422 は備前焼陶器火入の蓋で、口縁部外面に面取りが見られる。



第 118 図　ＳＫ５-1115・1117 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＫ５－1115（第118図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＤ５－1101に切られ、ＳＰ５－1121･1130を切っている。検出面の標高は1.25ｍである。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸は1.21ｍ以上、短軸0.95ｍ、深さ0.24ｍを測る。埋土は１層であり、焼土・炭化材を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同鍋、軒丸瓦、平瓦、骨がある。423は肥前系磁器碗で、高台内に砂目が付着している。424は肥前系磁器皿で、低い高台が付く。見込みの染付は草花文である。425は青磁小壺である。

ＳＫ５－1117（第118図）

調査区南西隅において検出した土坑であり、一部分の検出であるため平面形・規模は不明である。検出面の標高は1.43ｍである。深さは0.50ｍを測り、埋土は褐灰色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀後半と考えられる。

426は肥前系磁器小碗である。427は京･信楽焼陶器碗である。428はままごと道具の蓋である。

柱穴

ＳＰ５－1114（第119図）

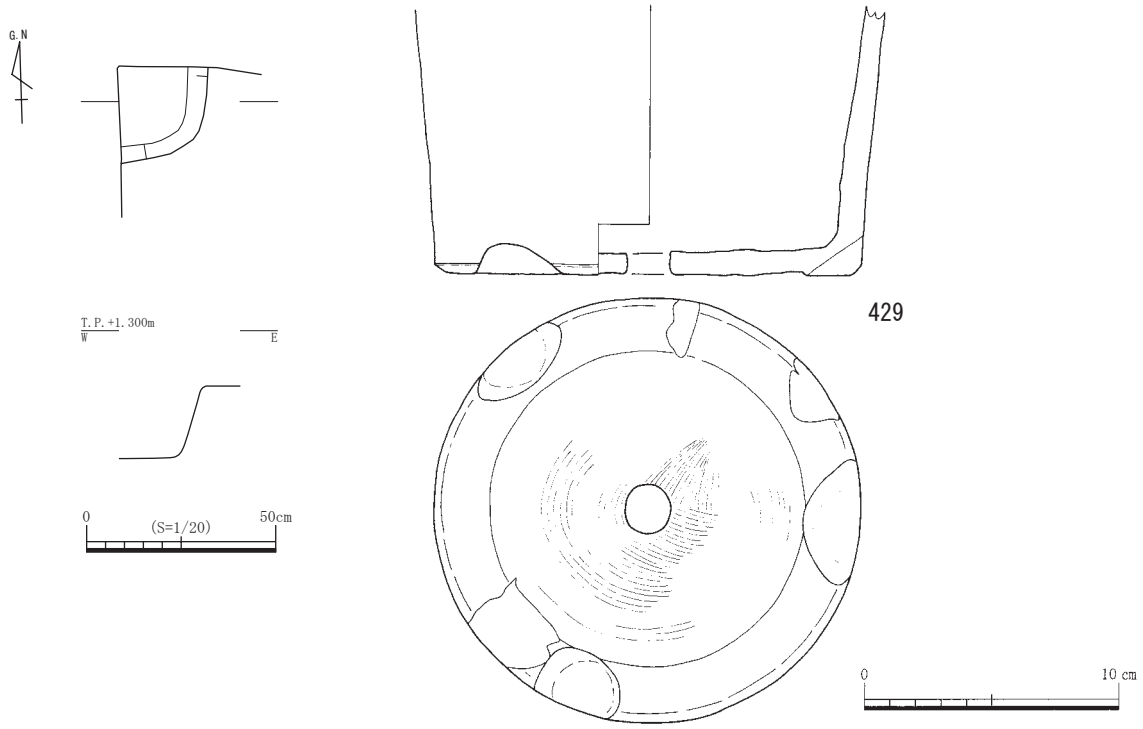
調査区中央北端において検出した柱穴であり、全体の約1/４を検出しただけであり、平面形や直径は不明である。検出面の標高は1.15ｍである。深さは0.19ｍである。所属時期は19世紀と考えられる。

出土遺物は429の陶器植木鉢のみである。底面に３ヵ所の抉りが入り、体部外面は施釉されている。

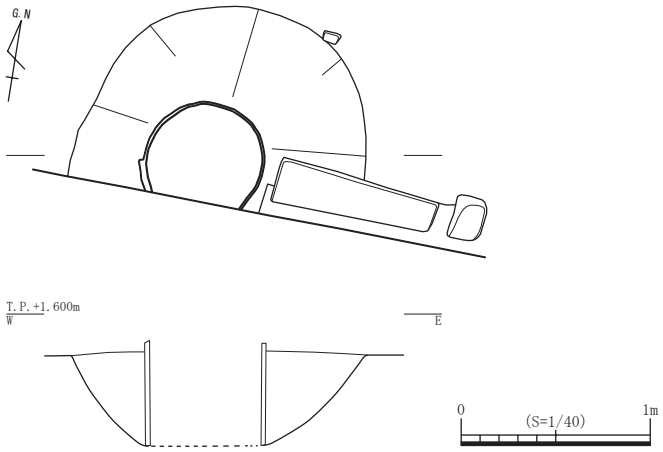
井戸

ＳＥ５－1101（第120図）

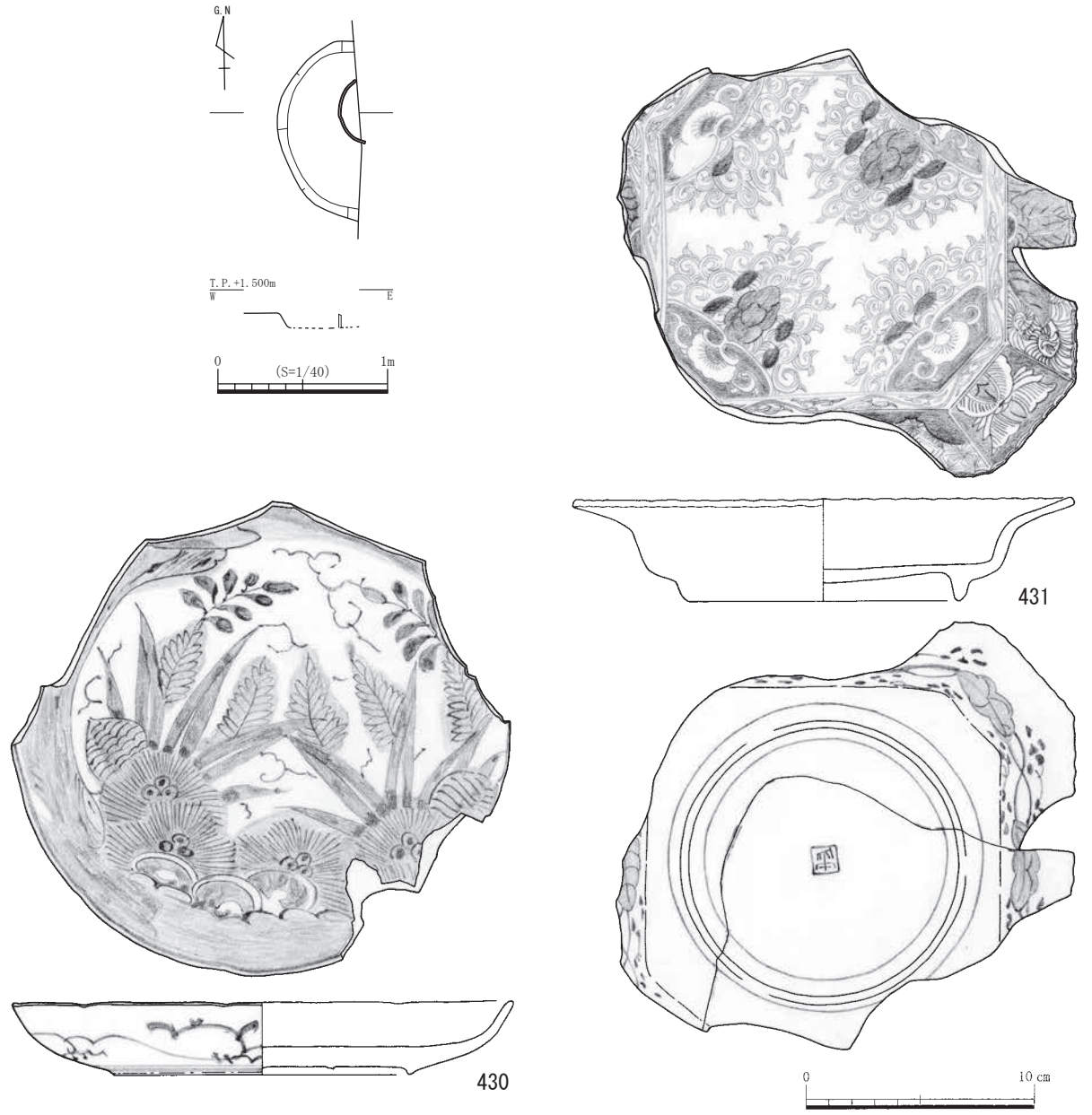
調査区中央南端において検出した土器を井側とする井戸であり、南側は調査区域外となる。ア



第119図　ＳＰ５-1114平・断面図、出土遺物実測図

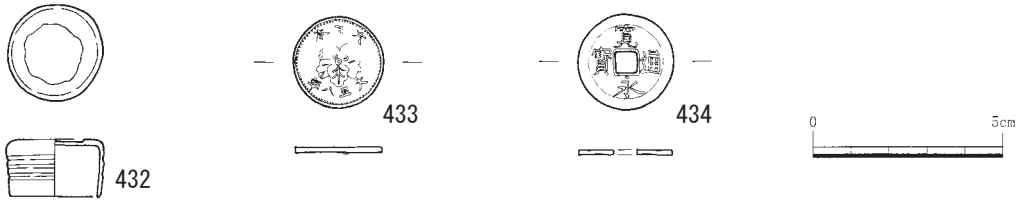


ＳＥ５-1101



ＳＥ５-1102

第 120 図　ＳＥ５-1101・1102 平・断面図、出土遺物実測図



第121図　５工区第１遺構面出土遺物実測図

スファルトを撤去した時点で井側を検出した。掘り方の平面形は円形であり、直径は1.55ｍを測り、深さは1.35ｍまで確認したが、完掘しなかったので底面までの深さは不明である。井側は最上部が突帯状になる円筒で、内径0.55ｍ、長さ0.85ｍであり、３段重なっているのは確認した。掘り方の埋土は黄灰色＋灰黄色シルト質細砂と灰白色細砂である。所属時期は近代以降である。

掘り方からの出土遺物は磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同焙烙、土人形、井側内からの出土遺物は磁器碗、陶器碗、青磁碗、鉄等があるが、図化できるものはない。

ＳＥ５－1102（第120図）

調査区中央南において検出した土器を井側とする井戸であり、ＳＥ５－1101の北東方向に位置する。井戸の西側は調査区外である。遺構検出では土坑と考えてＳＫ５－1108として遺物を取り上げた。検出面の標高は1.36ｍである。掘り方の平面形は円形であり、直径1.05ｍを測り、第１遺構面では0.10ｍのみ掘り下げた。井側は円筒で、内径0.34ｍであり、下に数段続くと考えられる。所属時期は近世以降である。

出土遺物は図化した以外に磁器皿、同碗、陶器瓶、同蓋、土師質土器鍋、ガラス、タイル等がある。430は肥前系磁器輪花皿で、高台内に重ね焼き痕が４カ所見られる。外面の染付は唐草文、内面は草花文である。431は肥前系磁器八角皿で、漆による焼継がある。

５工区第１遺構面出土遺物（第121図）

432は青銅製の蓋である。433は大正八年発行の一銭硬貨である。434は寛永通宝である。

（２）第２遺構面（第122図）

溝

ＳＤ５－2201（第123図）

調査区中央において検出した溝であり、第１遺構面のＳＤ５－1101・ＳＫ５－1107・1115に切られている。検出面の標高は1.05～1.22ｍである。検出した溝の長さは6.55ｍ、幅0.25～0.37ｍ、深さ0.04～0.14ｍを測る。底面のレベルは南から北に向かって緩やかに下がり、その比高差は0.11ｍである。溝の方位はＮ－10°－Ｅである。埋土は暗灰黄色シルト質細砂の単一層であり、焼土・炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀中葉～後葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、管状土錘がある。435は肥前系磁器小碗で、外面は花文、高台内に落款が見られる。

ＳＤ５－2202（第123図）

調査区中央において検出した溝であり、ＳＤ５－2201の東側に位置する。検出面の標高は1.05ｍである。検出した溝の長さは1.32ｍ、幅0.20～0.35ｍ、深さ0.04ｍを測る。溝の方位はＮ－20°－Ｅである。埋土は暗灰黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀中葉～後葉と考えられる。

出土遺物は土師質土器小皿、同椀があるが、図化できるものはない。

土坑

ＳＫ５－2201（第124図）

調査区西端中央において検出した土坑であり、ＳＫ５－2215を切っている。検出面の標高は1.20ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.90ｍ、深さ0.38ｍを測る。埋土は２層に分かれる。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同鍋、丸瓦、平瓦がある。436は京・信楽焼陶器碗で、外面に笹文が描かれている。437は肥前系陶器鉢で、口縁部は外方向に拡張し、片口を有する。内外面共に白土がかけられ、直線及び波状の櫛目が施されている。

ＳＫ５－2203（第124図）

調査区南西側に検出した土坑であり、第１遺構面ＳＰ５－1103とＳＰ５－2230に切られている。検出面の標高は1.21ｍである。平面形は中央が括れる楕円形を呈し、長軸1.95ｍ、短軸0.87ｍ、深さ0.14ｍを測る。埋土は単一層で焼土・炭化材を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より17世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、同酒盃、陶器碗、土師質土器小皿、平瓦がある。438は肥前系陶器碗で、削り出し高台である。体部下位はヘラケズリが施されている。

ＳＫ５－2204（第124図）

調査区南西側において検出した土坑である。検出面の標高は1.23ｍである。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸1.07ｍ、短軸0.85ｍ、深さ0.41ｍを測る。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦、釘がある。439は白磁壺である。440は土人形の猿と思われ、型合わせである。441は寛永通宝である。

ＳＫ５－2206（第125図）

調査区南東側において検出した土坑であり、南側は調査区外となる。検出面の標高は1.20ｍである。平面形は長方形と考えられ、長辺1.52ｍ、短辺0.72ｍ以上、深さ0.10ｍを測る。埋土は灰黄色シルト質細砂と炭化材層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に陶器碗、土師質土器小皿、ニシガイ、ハマグリ、アサリがある。442は備前焼陶器で窯道具である。上端部は短く直立し、下端部には大きな抉りが入る。443は燻しのかからない玉縁式丸瓦で、ＳＫ５－2201出土の丸瓦と接合した。凸面は縦方向の板ナデが施され、凹面は布目が残る。

ＳＫ５－2208（第125図）

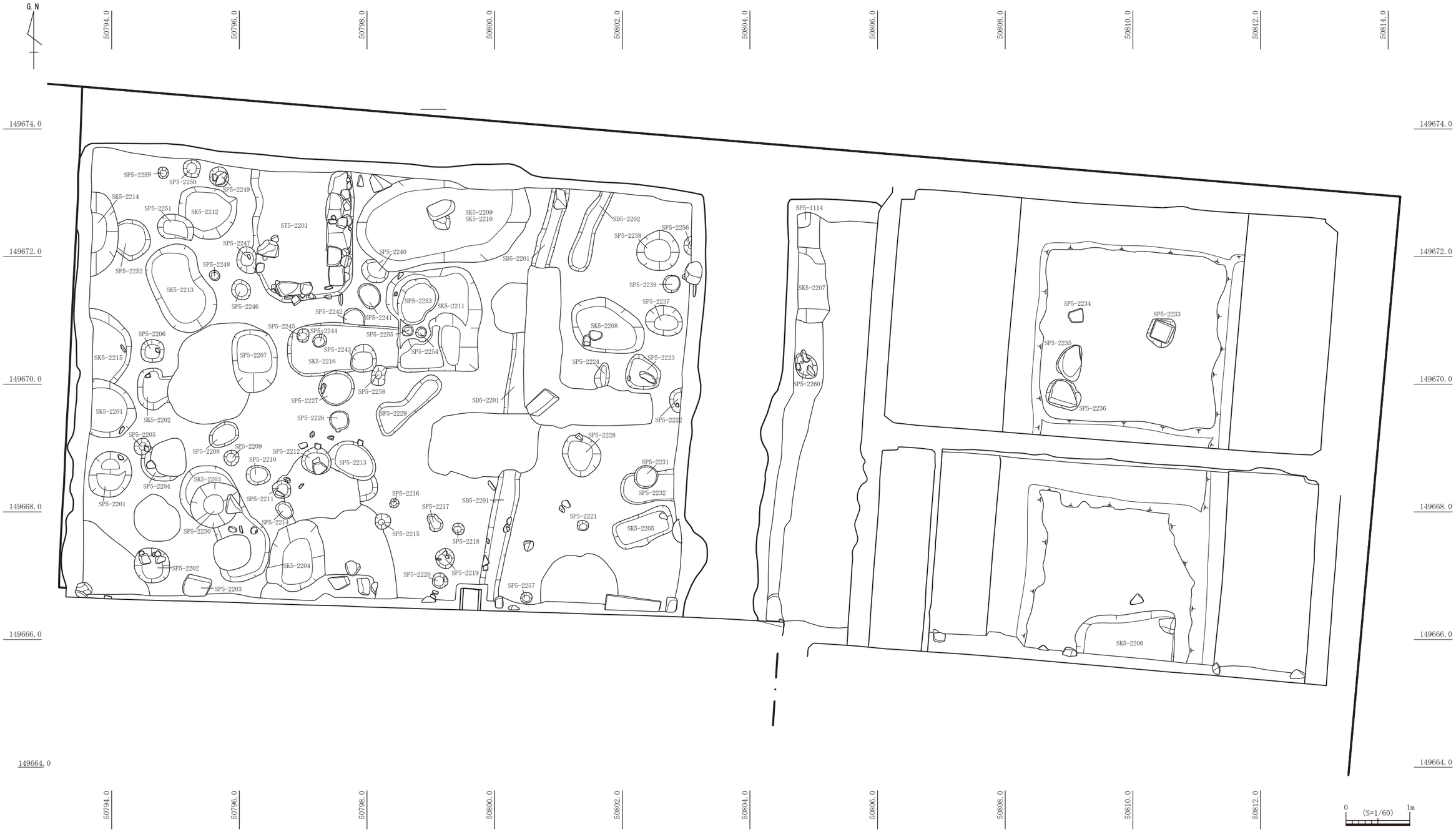
調査区中央において検出した土坑である。検出面の標高は1.00ｍである。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸1.23ｍ、短軸0.81ｍ、深さ0.15ｍを測る。埋土は灰白色細砂＋黄灰色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より18世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器捏ね鉢、土師質土器小皿、同鍋がある。444は肥前系陶器皿で、口縁部は輪花であり、高台は削り出しにより畳付の幅が大きく違う。見込みに胎土目が２カ所残る。

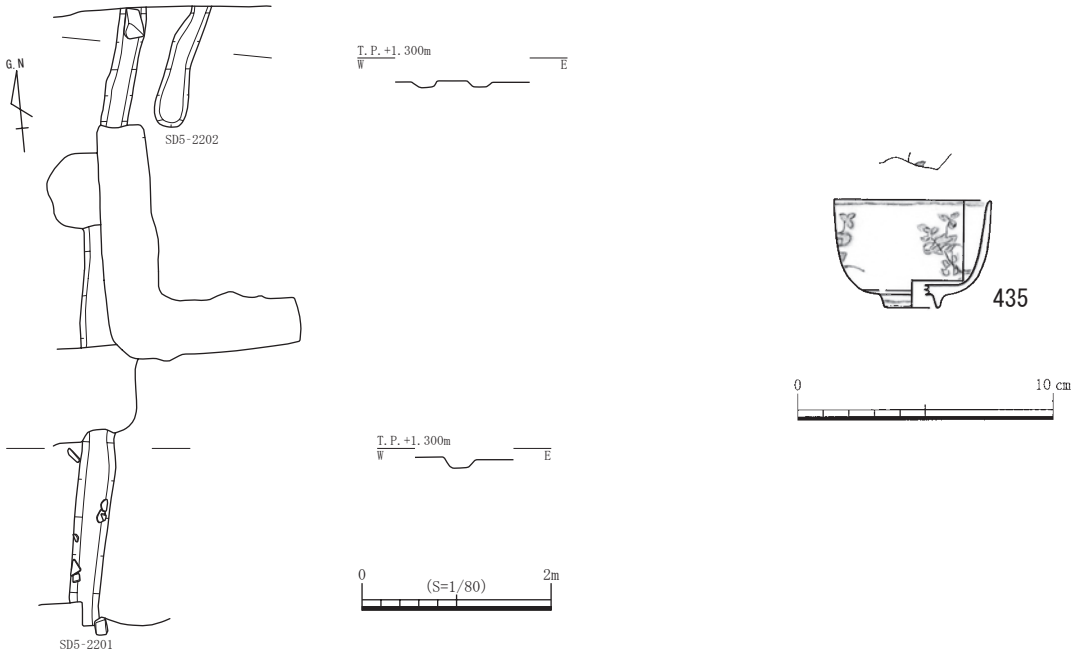
ＳＫ５－2209（第126図）

調査区中央北端において検出した土坑であり、北側の一部が調査区外となる。遺構検出時にはＳＫ５－2209の東側にＳＫ５－2210があるとしていたが、調査の結果で１基の土坑と判明した。検出面の標高は1.04ｍである。平面形は楕円形を呈し、長軸2.74ｍ、短軸1.35ｍ、深さ0.24ｍを測る。土坑の中央には長さ0.45ｍの石が出土した。埋土は４層に分層され、第１・３層は焼土を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より17世紀～18世紀と考えられる。

出土遺物は磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同鍋、同焼塩壺、釘があるが、図化できるものはない。



第 122 図　５工区第２遺構面遺構配置図



第 123 図　ＳＤ５-2201・2202 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＫ５－ 2213（第 126 図）

調査区北西側において検出した土坑である。検出面の標高は 1.05 ｍである。平面形は楕円形を呈し、長軸 1.40 ｍ、短軸 0.87 ｍ、深さ 0.13 ｍを測る。埋土は灰白色細砂を若干含む黄灰色シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀～ 18 世紀と考えられる。

出土遺物は土師質土器小皿、同把手付鍋があるが、図化できるものはない。

ＳＫ５－ 2214（第 126 図）

調査区北西隅において検出した土坑であり、西側は調査区外となる。検出面の標高は 1.05 ｍ前後である。平面形は円形と推定され、直径 1.33 ｍ、深さ 0.21 ｍを測る。埋土はにぶい黄橙色＋にぶい黄褐色シルト質細砂であり、焼土・炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀～ 18 世紀と考えられる。

出土遺物は抜取紐痕のある丸瓦、燻しのかからない平瓦があるが、図化できるものはない。

ＳＫ５－ 2215（第 126 図）

調査区西端中央において検出した土坑であり、西側は調査区外となる。南側はＳＫ５－ 2201 に切られている。検出面の標高は 1.05 ｍである。平面形は円形と推定され、直径 1.10 ｍ以上、深さ 0.17 ｍを測る。埋土は黒褐色シルト質細砂であり、焼土・炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀～ 18 世紀と考えられる。

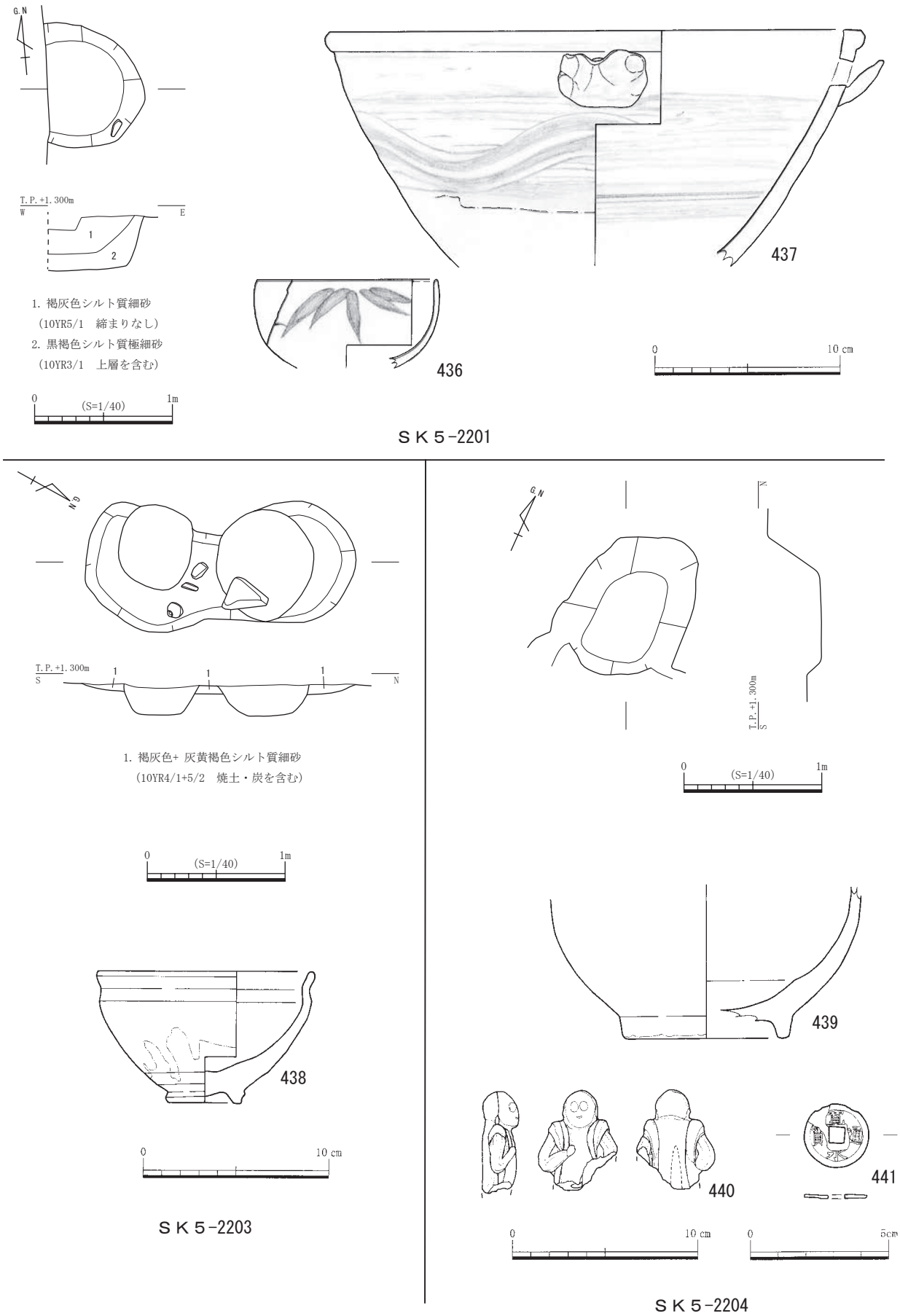
出土遺物は土師質土器小皿があるが、図化できるものはない。

柱穴

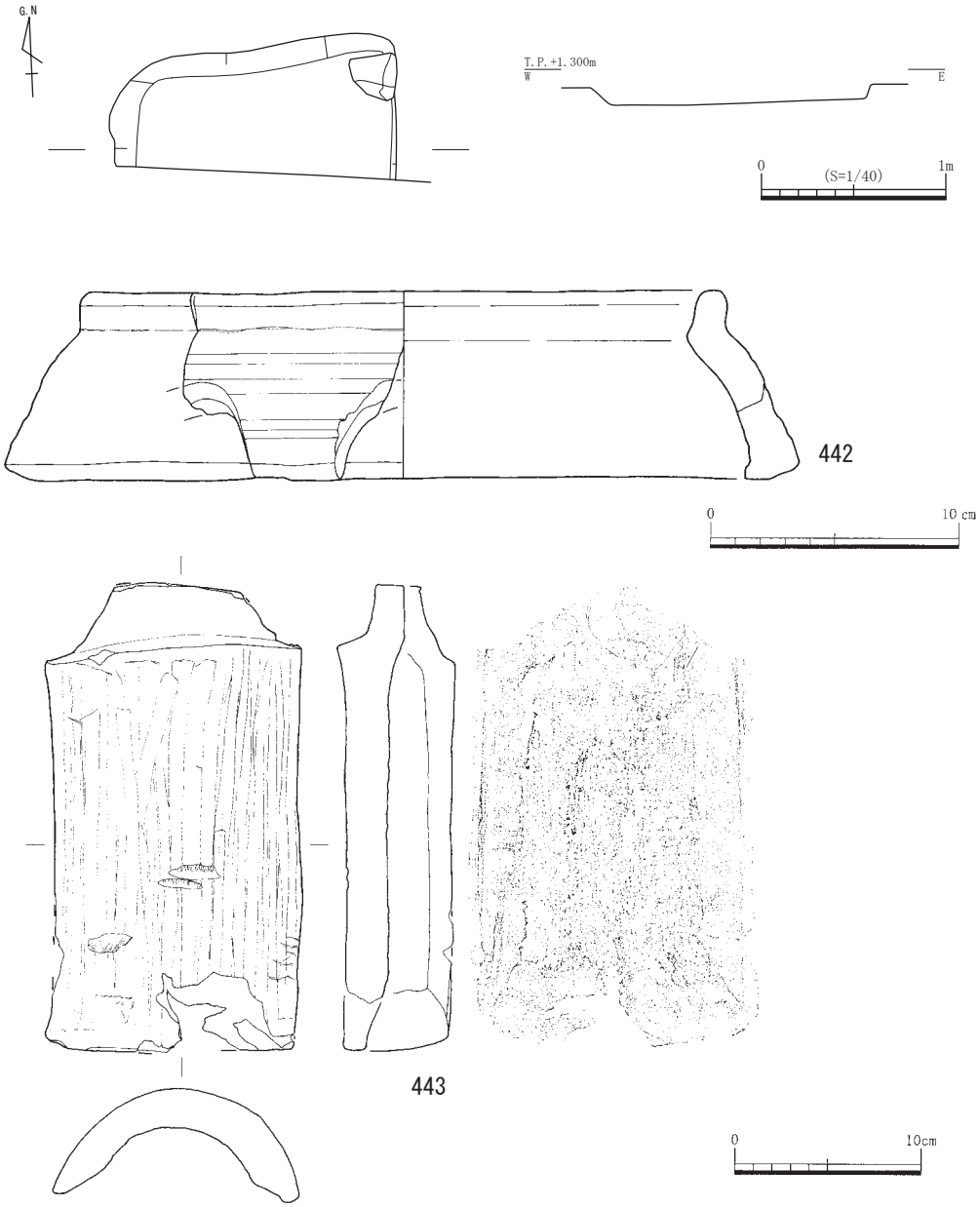
ＳＰ５－ 2201（第 127 図）

調査区南西隅において検出した柱穴である。検出面の標高は 1.19 ｍである。平面形は円形柄を呈し、直径 0.70 ｍ、深さ 0.42 ｍを測り、南側に段を有する。埋土は２層であり、第１層から備前焼陶器大甕の破片が多量に出土した。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀初頭と考えられる。

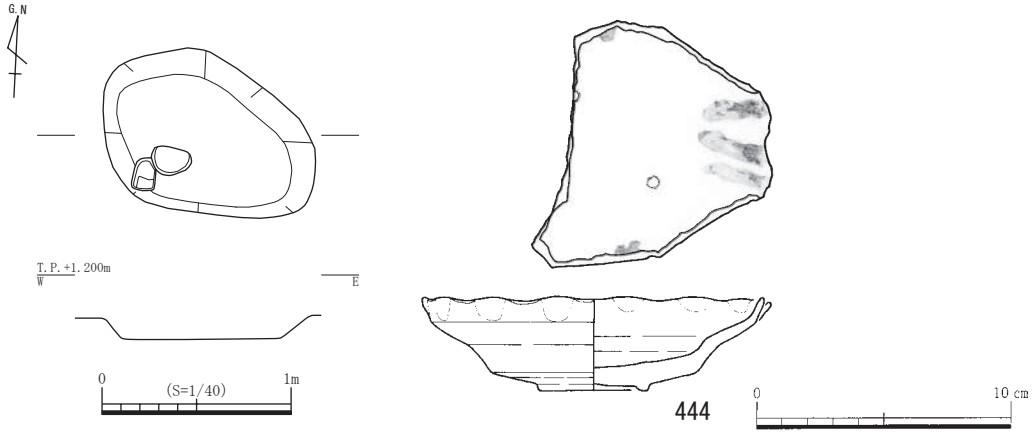
出土遺物は図化した以外に備前焼陶器大甕、土師質土器鍋、軒平瓦、丸瓦、平瓦がある。445 は肥前系陶器皿で、口縁部が僅かに屈曲する。見込みに胎土目が残る。



第 124 図　ＳＫ５-2201・2203・2204 平・断面図、出土遺物実測図



ＳＫ５-2206



ＳＫ５-2208

第 125 図　ＳＫ５-2206・2208 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＰ５－2208（第 127 図）

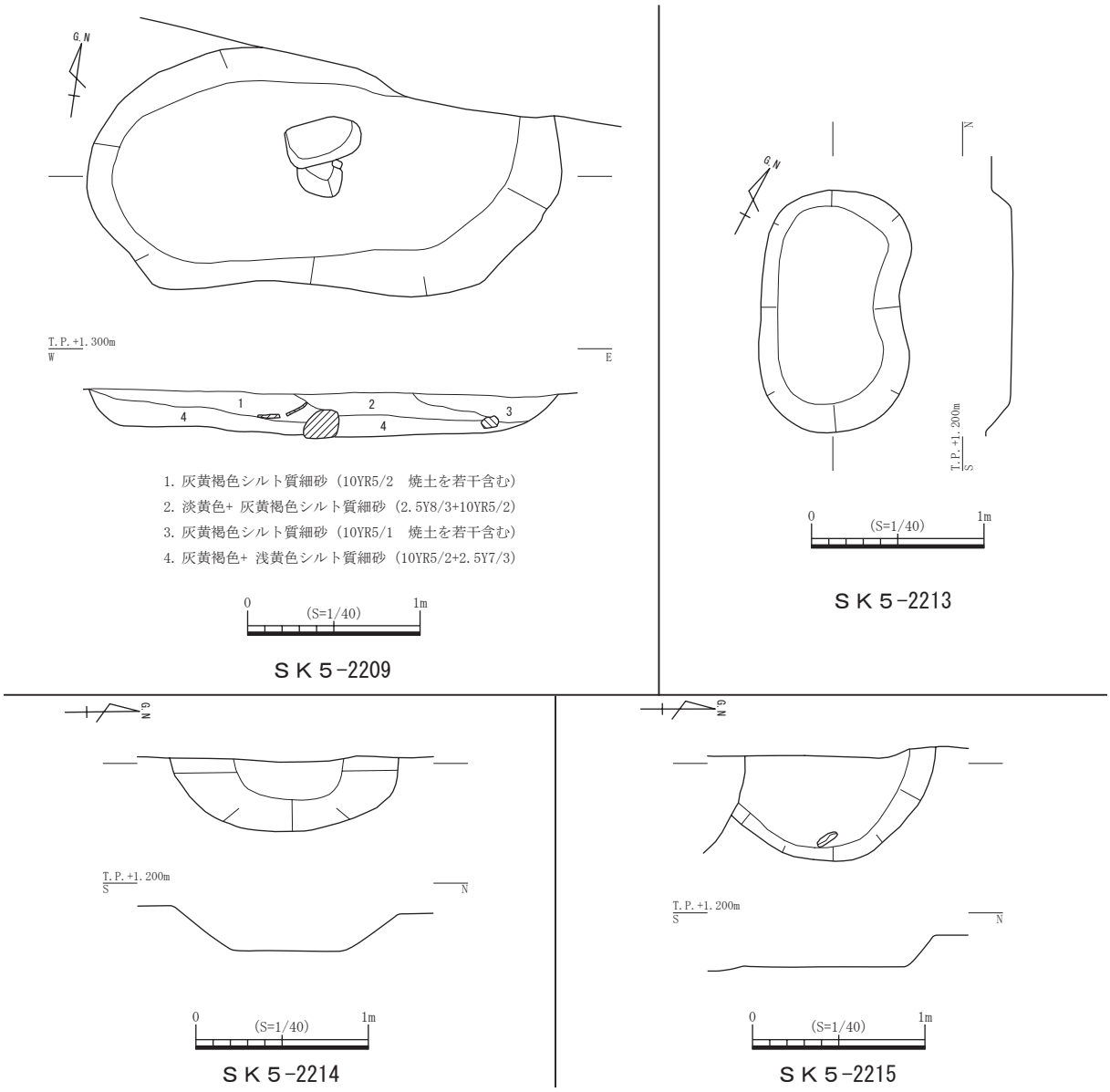
調査区西側において検出した柱穴である。検出面の標高は 1.19 ｍである。平面形は楕円形を呈し、長軸 0.48 ｍ、短軸 0.35 ｍ、深さ 0.09 ｍを測る。埋土は浅黄色シルト質細砂であり、焼土・炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀中葉と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿がある。446 は肥前系陶器皿で、口縁部が僅かに屈曲する。

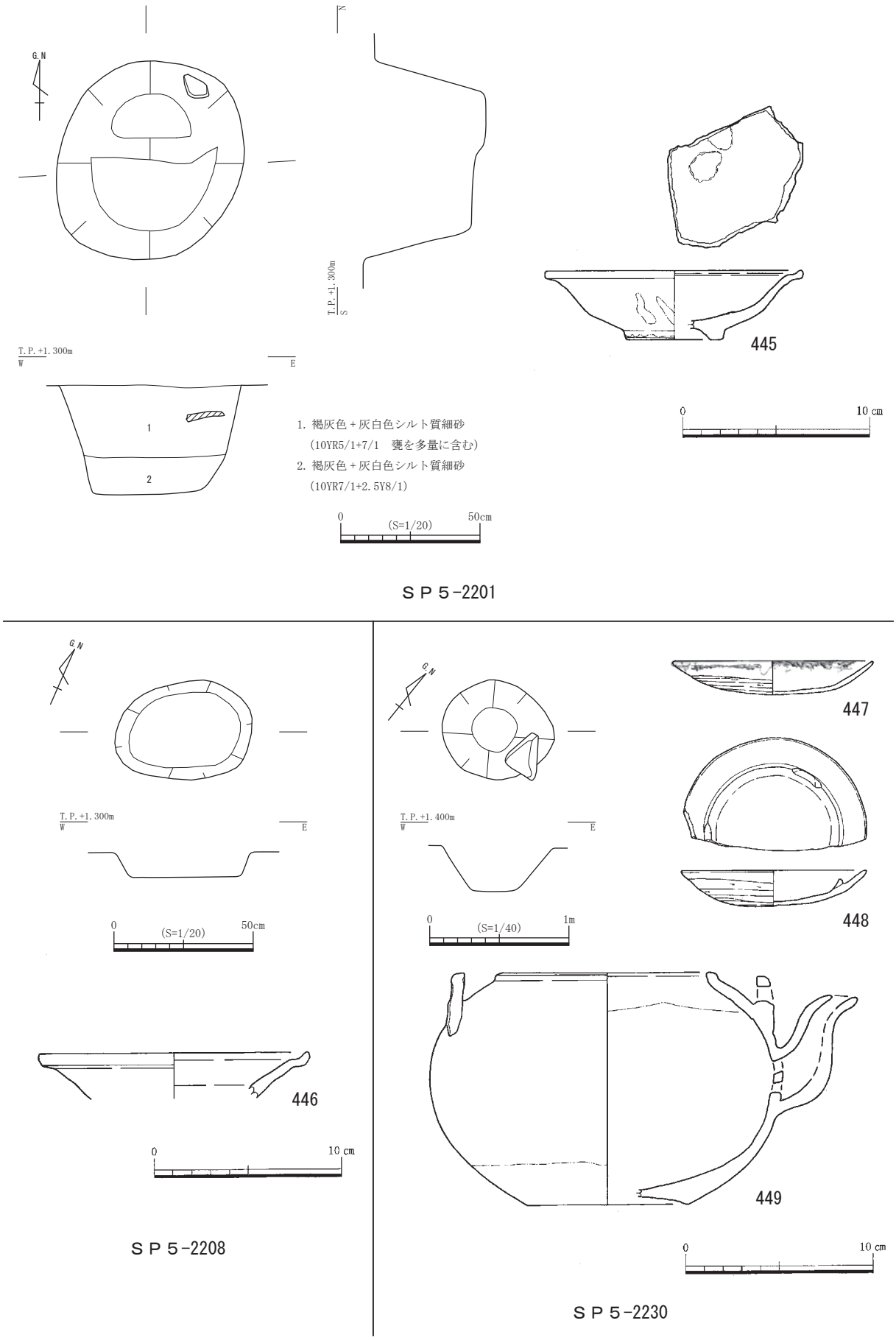
ＳＰ５－2230（第 127 図）

調査区南西側において検出した柱穴であり、ＳＫ５－2203 を切っている。検出面の標高は 1.20 ｍである。平面形は円形でを呈し、直径 0.70 × 0.80 ｍ、深さ 0.29 ｍを測る。埋土は明黄褐色シルト＋灰黄褐色シルト質細砂の単一層であり、焼土・炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀後半と考えられる。

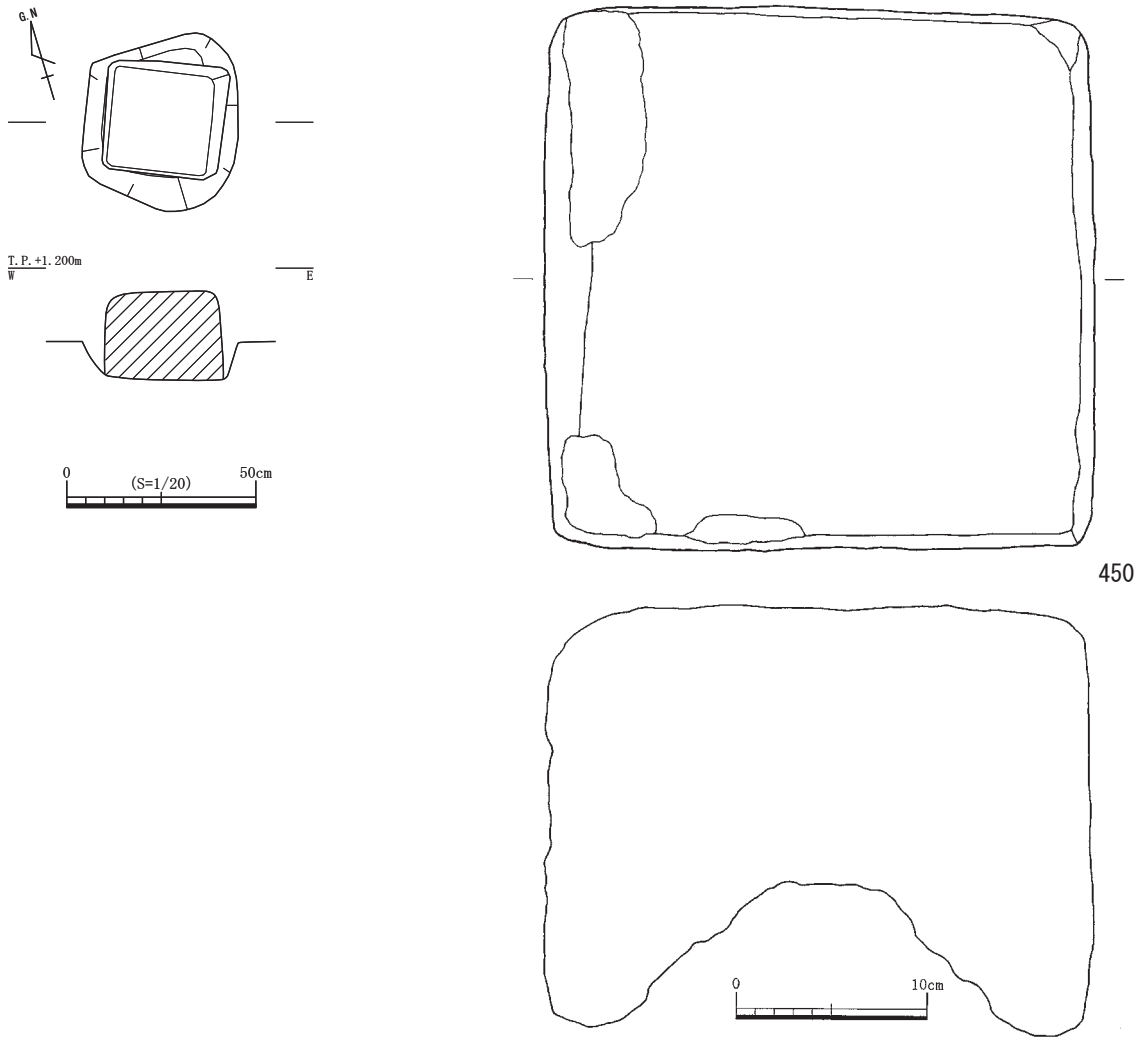
出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器人形徳利がある。447 は備前焼陶器灯明皿で、体部外面は回転ヘラケズリが施され、口縁部の内外面に煤が付着している。448 は備前焼陶器灯明皿の受皿で、体部外面は回転ヘラケズリが施されている。受け部に抉りが２カ所残存する。449 は軟質施釉陶器土瓶で、底部と体部下端に煤が付着している。



第 126 図　ＳＫ５-2209・2213 ～ 2215 平・断面図



第 127 図　ＳＰ５-2201・2208・2230 平・断面図、出土遺物実測図



第 128 図　ＳＰ５-2233 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＰ５－ 2233（第 128 図）

調査区北東側において検出した柱穴である。掘り込みを検出した標高は 1.01 ｍであるが、出土した地輪上面の標高が 1.14 ｍであることから本来の掘り込み面はこのレベルであったと考えられる。平面形は不整な円形を呈し、直径 0.40 ｍ、地輪上面からの深さ 0.22 ｍを測る。

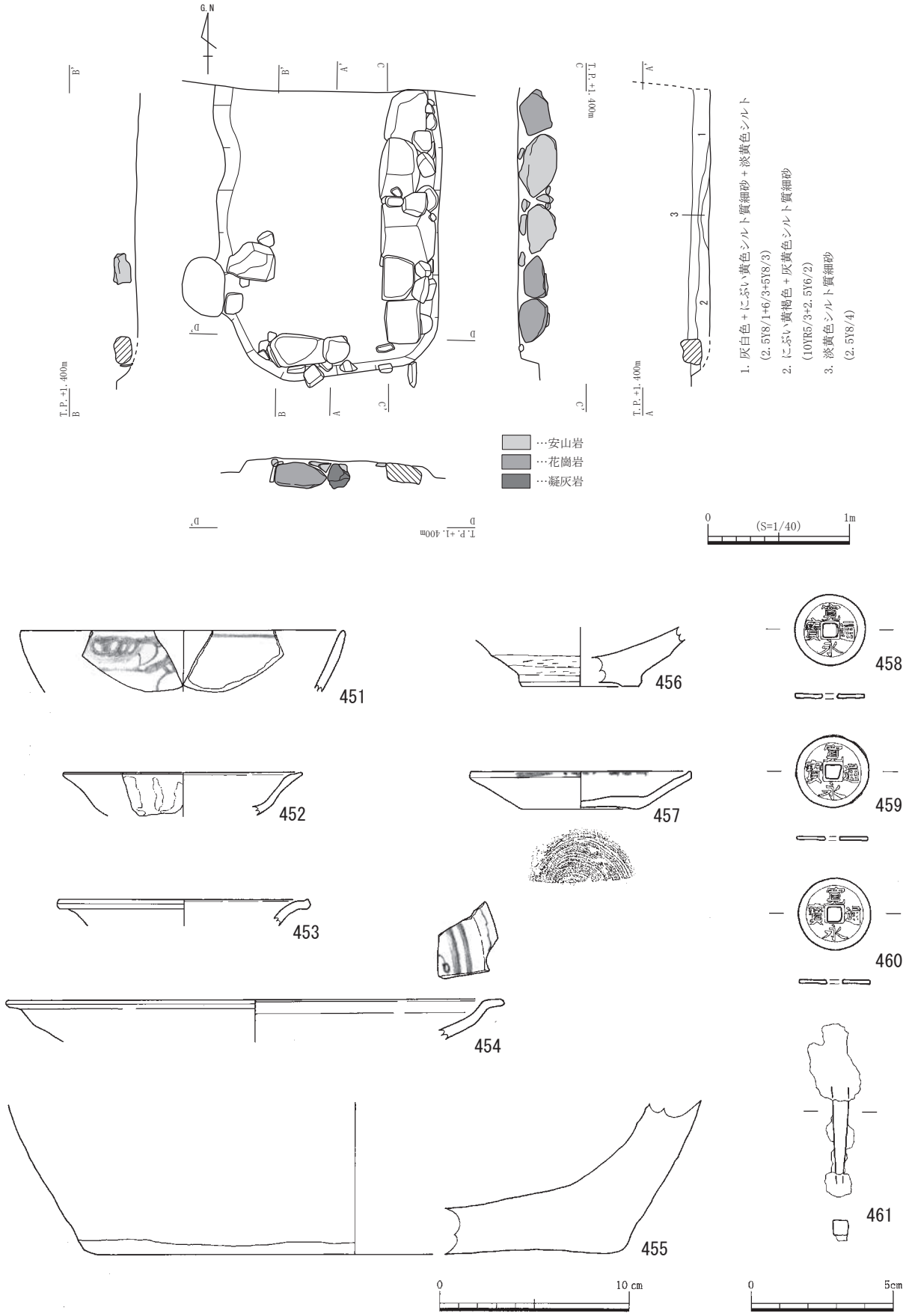
出土遺物は 450 の五輪塔の地輪のみである。石材は豊島石であり、裏面は深く抉られている。

墓

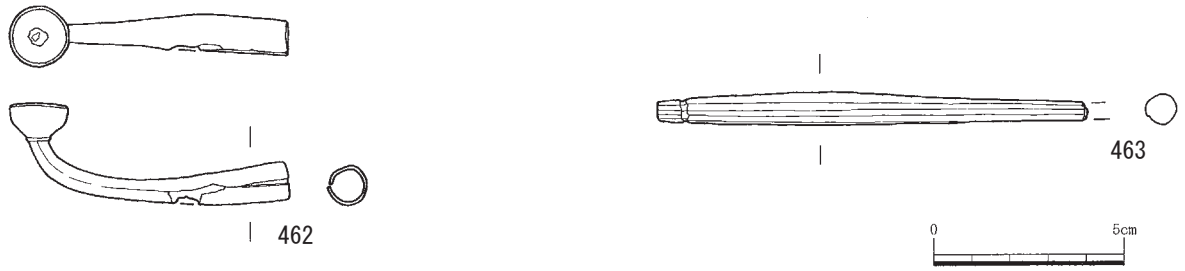
ＳＴ５－ 2201（第 129 図）

調査区北西側において検出した石組みを持つ墓であり、北側は調査区外となっている。掘り方の検出面の標高は 0.99 ～ 1.06 ｍであるが、石組み最上部の標高は 1.19 ｍであり、本来の掘り込み面はこのレベルであったと考えられる。掘り方の平面形は長方形を呈し、検出した南北方向の長辺は 2.02 ｍ、東西方向の短辺は 1.57 ｍ、深さ 0.07 ～ 0.15 ｍを測る。主軸方向はほぼ東西方向である。底面は平坦である。石組みは西面の遺存状態が非常に悪く、１石のみの検出である。石組みの内法は南北方向 1.73 ｍ以上、東西 0.75 ｍを測る。石組みは１段のみ残存し、安山岩と花崗岩を主体とした自然石である。裏込め部分には小角礫が使用されている。石積み内の埋土は３層に分層される。所属時期は遺構面及び出土遺物より 18 世紀初頭と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、鉄がある。454・455 は掘り方か



第 129 図　ＳＴ５-2201 平・断・立面図、出土遺物実測図



第 130 図　５工区第２遺構面出土遺物実測図

ら出土し、その他の遺物は石積み内部から出土した。451 は陶器碗。452 は肥前系陶器皿で、口縁部が細くなる。453 は肥前系陶器皿で、口縁部が僅かに屈曲する。454 は肥前系陶器皿で、口縁部は水平方向に延びる。455 は備前焼陶器大甕で、底部と体部の境にヘラナデ、底部内面に指頭圧が施されている。456 は肥前系陶器鉢で、削り出し高台である。体部外面下位はヘラケズリが施されている。見込みに胎土目が残り、底部に煤が付着している。457 は土師質土器灯明皿で、底部切り離しは回転糸切りであり、口縁部に煤が付着している。459 ～ 460 は寛永通宝である。461 は断面方形の釘である。

５工区第２遺構面出土遺物（第 130 図）

462 は真鍮製の煙管の雁首であり、肥反しの形状から 18 世紀前半のものである。463 は象牙製の簪で、全面に細かな加工が施され、上端に浅い抉りがある。

（３）第３遺構面（第 131 図）

土坑

ＳＫ５－ 3301（第 132 図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＰ５－ 3336 を切っている。検出面の標高は 0.85 m前後である。平面形は不整な円形を呈し、直径 1.87 m、深さ 0.13 ～ 0.25 mを測り、底面は凹凸が著しい。埋土は２層に分層される。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀と考えられる。

出土遺物は陶器碗、土師質土器杯、同小皿、同焼塩壺、丸瓦があるが、図化できるものはない。

ＳＫ５－ 3302（第 132 図）

調査区北東側において検出した土坑である。検出面の標高は 0.90 m前後である。平面形は円形を呈し、直径 1.25 × 1.42 m、深さ 0.26 mを測り、底面は東側に片寄っている。埋土は明黄褐色細～粗砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀と考えられる。

出土遺物は磁器碗、土師質土器小皿、平瓦、青銅品があるが、図化できるものはない。

ＳＫ５－ 3303（第 132 図）

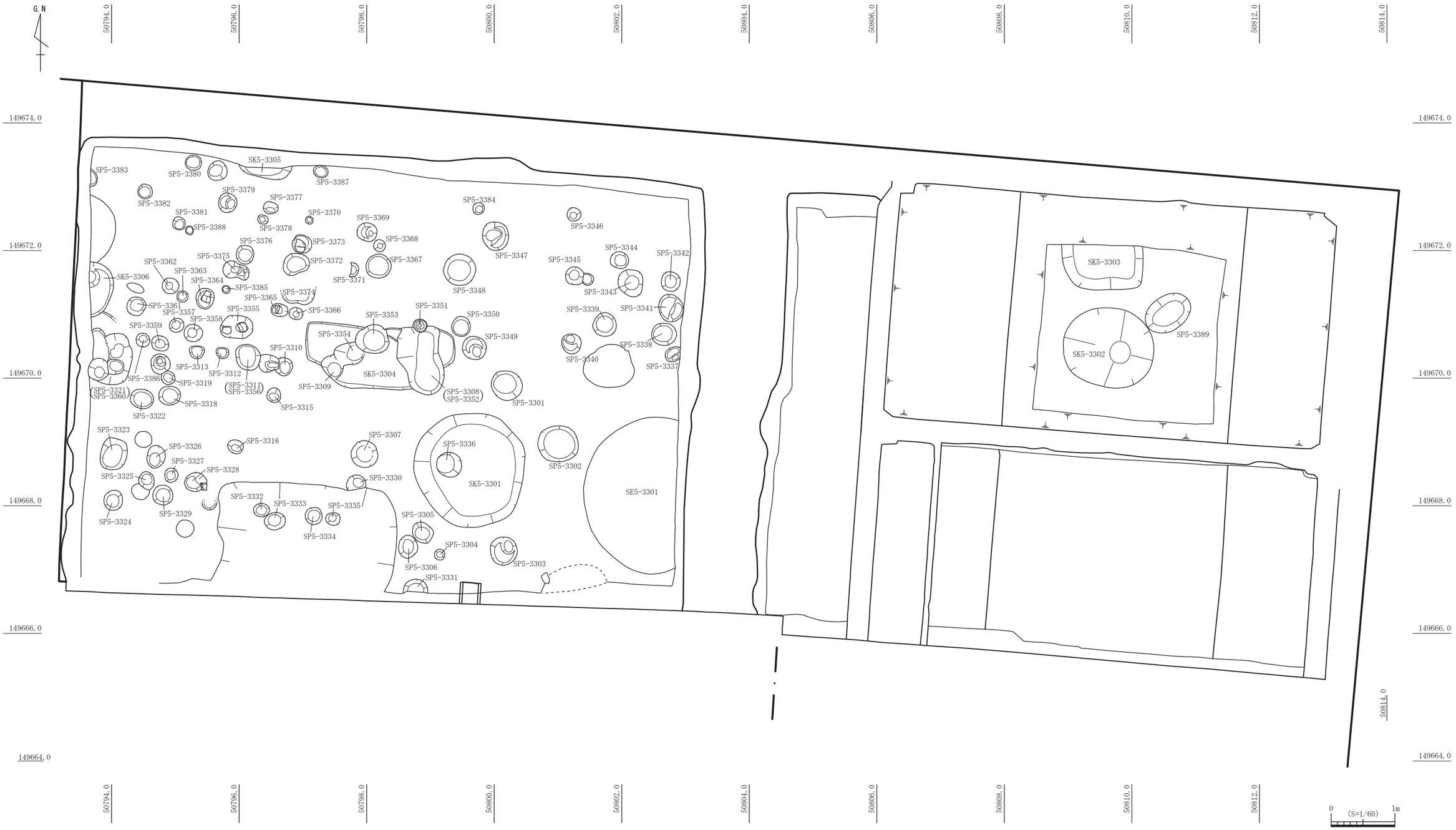
調査区北東側において検出した土坑であり、北側はコンクリート基礎により削平されている。検出面の標高は 0.93 m前後である。平面形は方形を呈し、東西方向の長さ 1.27 m、深さ 0.07 mを測る。埋土は灰白色細砂を若干含む浅黄色＋灰黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀と考えられる。

出土遺物は土師質土器小皿、同杯、平瓦があるが、図化できるものはない。

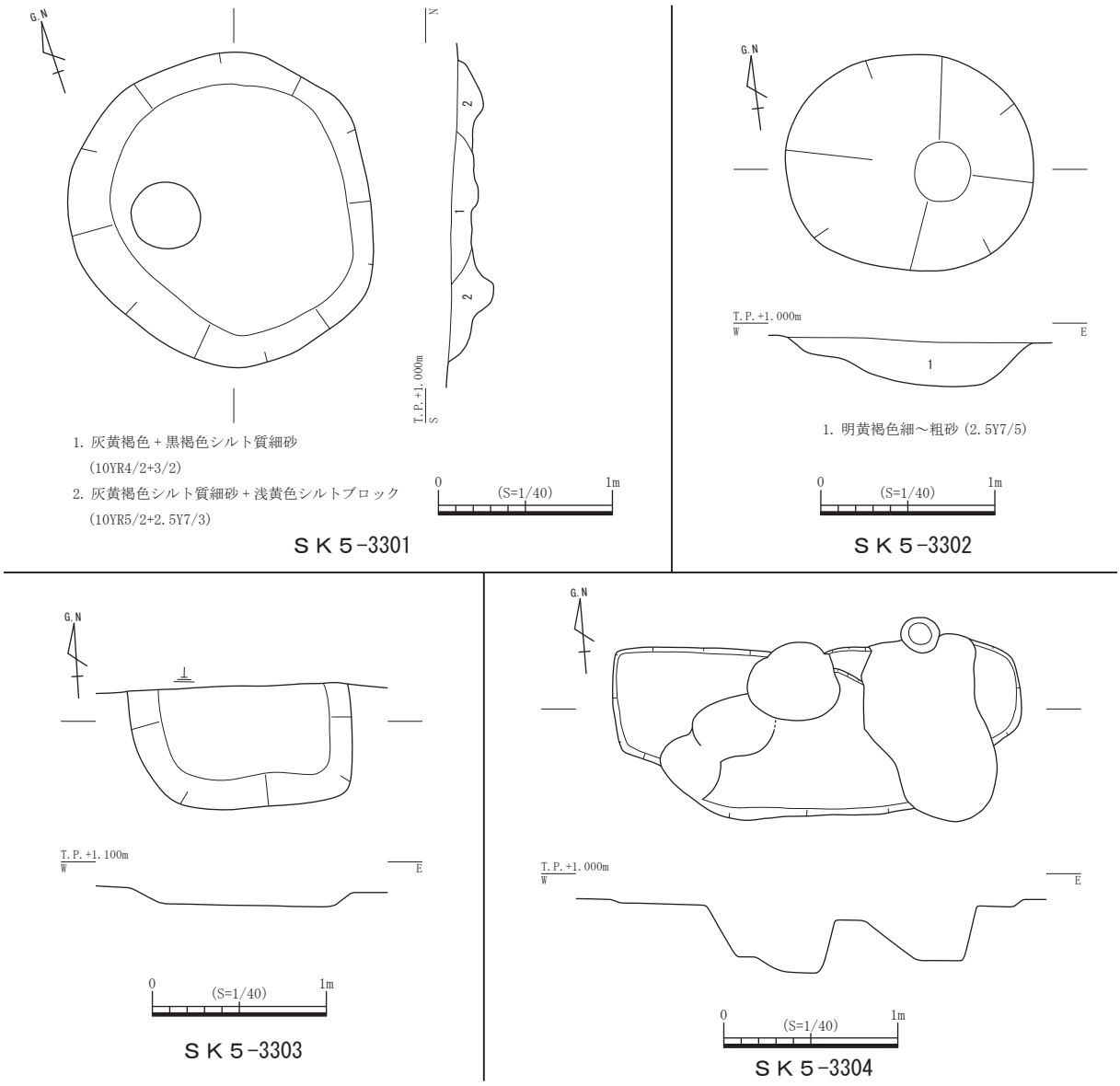
ＳＫ５－ 3304（第 132 図）

調査区中央やや西寄りにおいて検出した土坑であり、ＳＰ５－ 3309・3352 ～ 3354 に切られる。検出面の標高は 0.86 m前後である。平面形はやや歪な長方形を呈し、長辺 2.34 m、短辺 0.97 m、深さ 0.11 mを測る。埋土はにぶい黄橙色シルト質細砂の単一層で焼土・炭化材を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀と考えられる。

出土遺物磁器碗、陶器皿、土師質土器杯、同椀、丸瓦があるが、図化できるものはない。



第 131 図　５工区第３遺構面遺構配置図



第 132 図　ＳＫ５-3301 ～ 3304 平・断面図

柱穴

ＳＰ５－ 3321（第 133 図）

調査区西端中央において検出した柱穴であり、西側は調査区外となる。検出面の標高は 0.85 m前後である。平面形は円形を呈し、直径 0.84 mを測る。円形の落ち込みが３ヵ所あり、３基の柱穴の可能性も考えられる。最深部の深さは 0.41 mである。埋土は灰黄褐色シルト質細砂であり、焼土・炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 13 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器小皿、同椀がある。464 は土師質土器杯で、底部には回転ヘラ切り後に板目が残る。

ＳＰ５－ 3343（第 133 図）

調査区中央において検出した柱穴である。検出面の標高は 0.80 mである。平面形は不整な円形を呈し、直径 0.41 m、深さ 0.31 mを測る。埋土は灰白色シルト質細砂を含む暗灰黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器擂鉢、丸瓦、平瓦がある。465 は土師質土器杯で、第４遺構面ＳＰ５－ 4539 出土の土器と接合した。底部の切り離しは回転糸切りである。

ＳＰ５－3352（第133図）

調査区中央において検出した柱穴であり、ＳＫ５－3304を切っており、ＳＰ５－3351に切られている。検出面の標高は0.83ｍである。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸1.10ｍ、深さ0.10ｍを測る。埋土はにぶい黄橙色シルト質細砂の単一層で焼土・炭化材を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より17世紀中葉と考えられる。

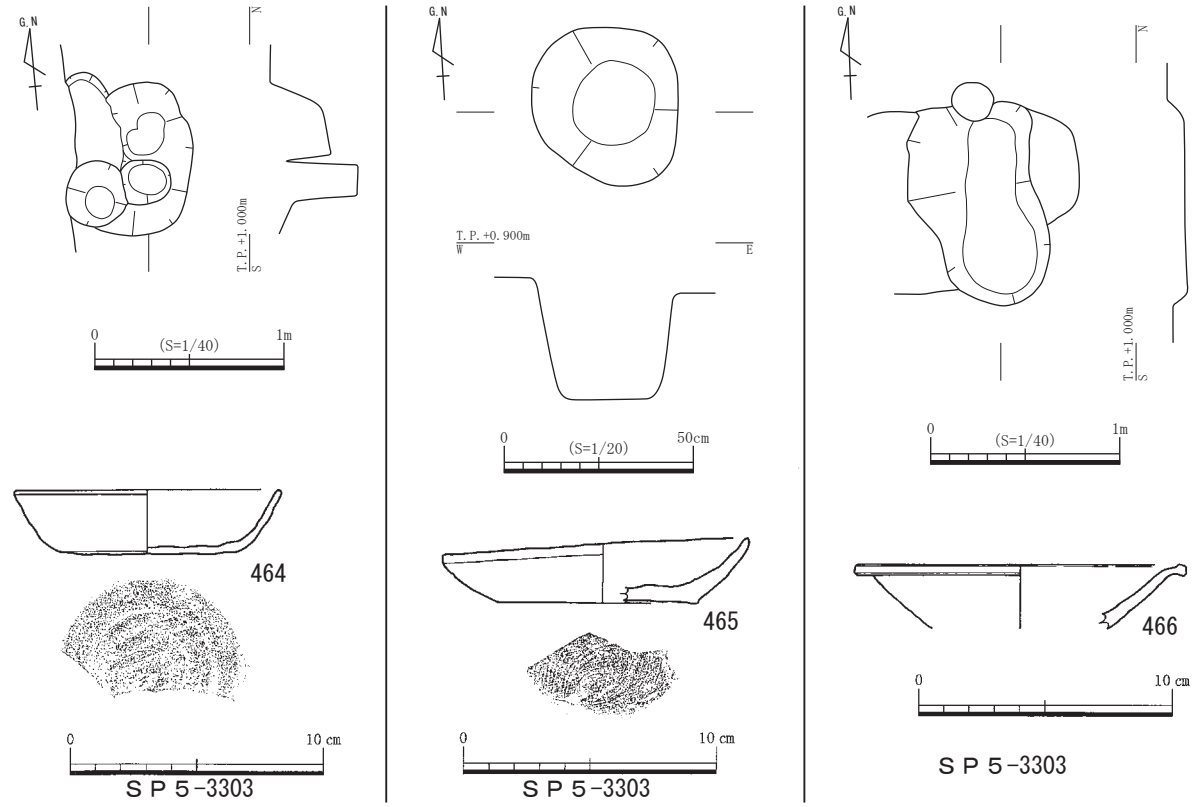
出土遺物は図化した以外に陶器碗、土師質土器杯、同小皿、同足釜、須恵器甕、平瓦がある。466は肥前系陶器皿で、口縁部が少し拡張している。

井戸

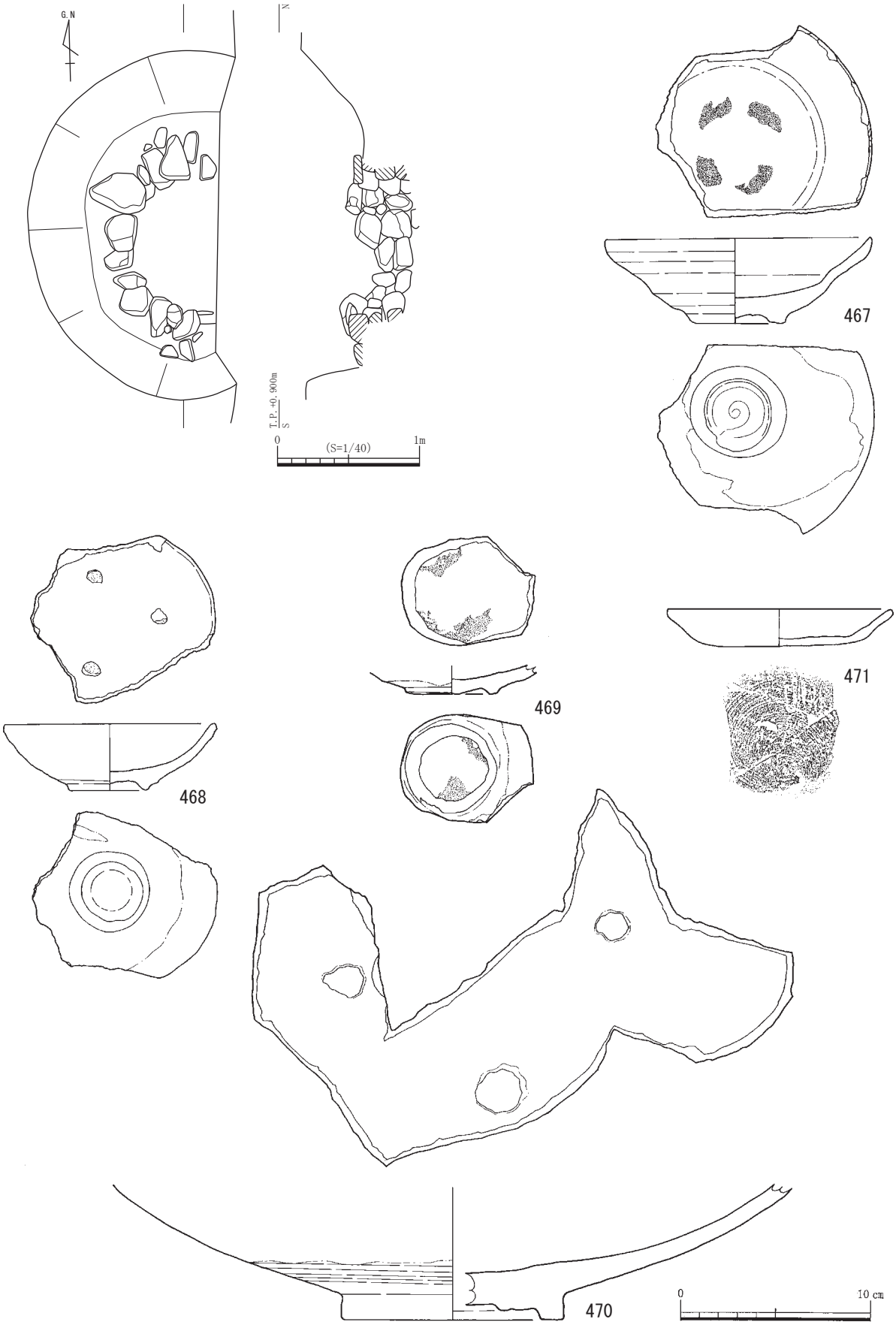
ＳＥ５－3301（第134図）

調査区中央において検出した石組みの井戸であり、東側は調査区外となる。検出面の標高は0.82ｍ前後である。掘り方の平面形は円形を呈し、直径は2.46ｍを測り、傾斜は非常に緩やかである。石組みは確認面からの深さ約0.25ｍから井戸底面まで検出され、最上位の標高は0.48ｍである。石組みの平面形は円形であり、その内径は0.92ｍであり、２段ないし３段積の石が残存する。井戸底面の標高は－0.08ｍであり、僅かな湧水が認められる。石材は安山岩の自然石を主体とし、積み方は乱積みである。所属時期は遺構面及び出土遺物より17世紀初頭～中葉と考えられる。

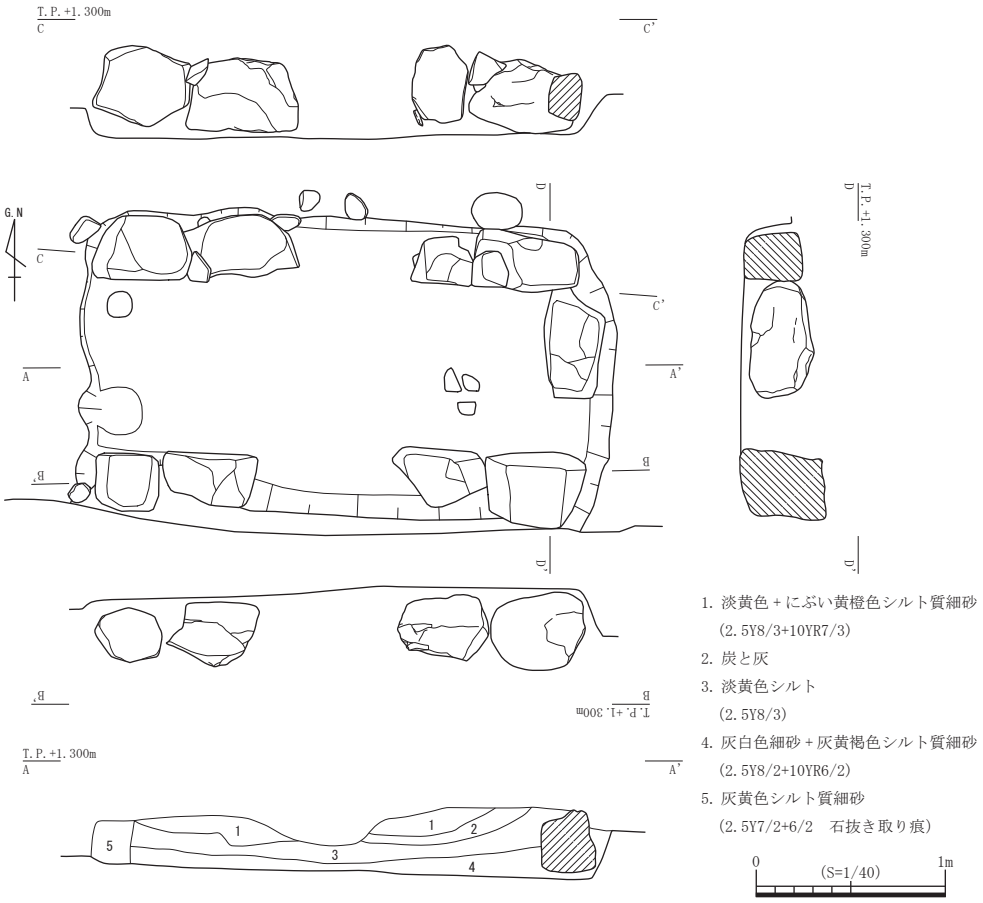
出土遺物は図化した以外に磁器碗、同皿、陶器碗、同擂鉢、軟質施釉土器蓋、土師質土器小皿、軒丸瓦、丸瓦がある。467は肥前系陶器皿で、やや大型の器形である。削り出し高台で、体部下半に回転ヘラケズリが見える。見込みに砂目が３カ所見られる。468は肥前系陶器皿で、削り出し高台である。見込みに胎土目が３カ所見られる。469は肥前系陶器皿で、削り出し高台のため高台幅が均一でない。高台内と見込みに砂目が見られる。470は肥前系陶器鉢で、底径11.7㎝を測る大型の鉢である。底部は蛇ノ目凹形高台で、見込みに胎土目が見られる。煤が薄く付着しており二次的に火災を受けたと思われる。471は土師質土器灯明皿で、底部の切り離しは回転糸切りである。口縁部内外面に煤が付着している。



第133図　ＳＰ５-3321・3343・3352平・断面図、出土遺物実測図



第 134 図　ＳＥ５-3301 平・断面図、出土遺物実測図



第 135 図　ＳＴ５-3301 平・断・立面図

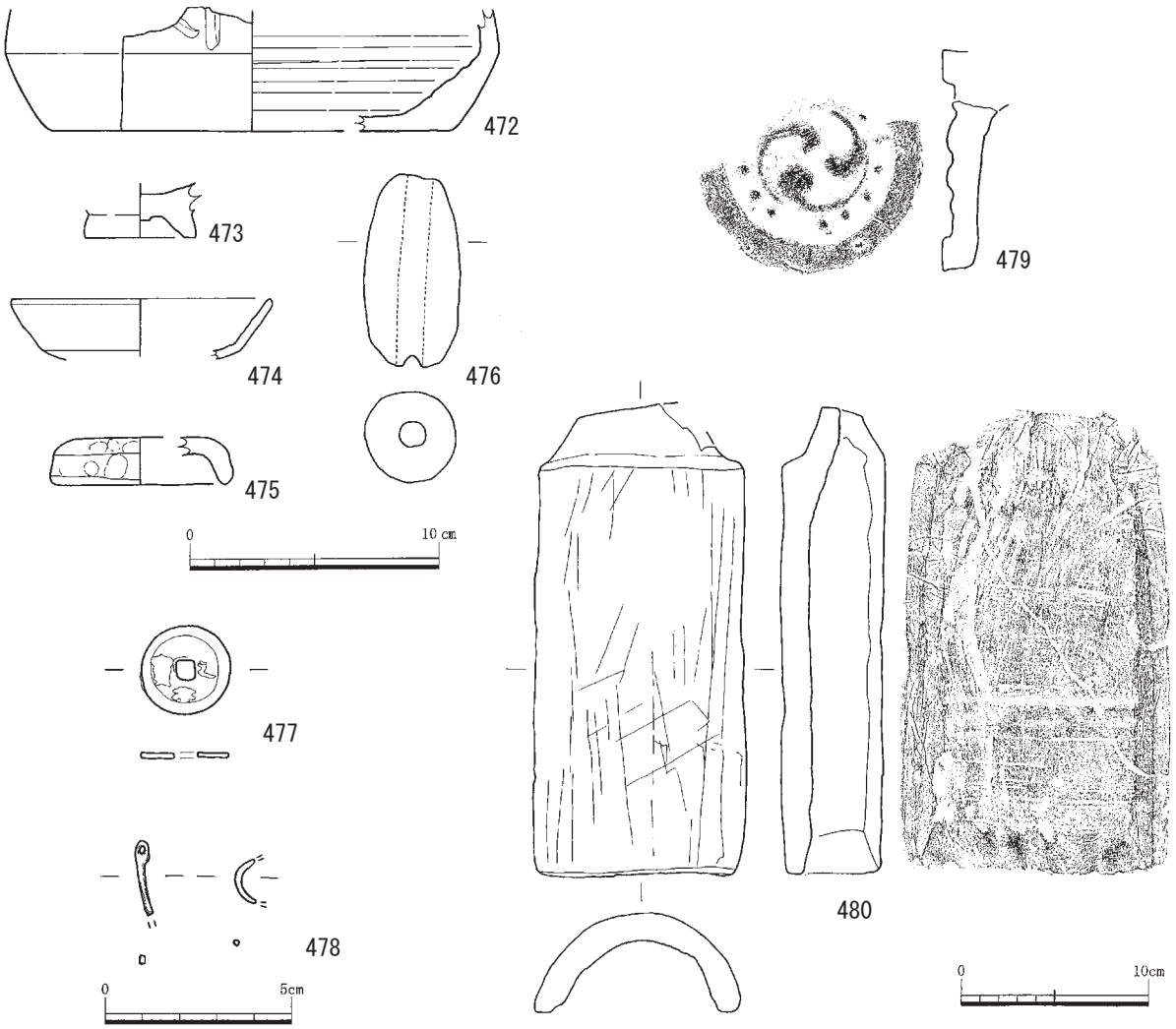
墓

ＳＴ５－ 3301（第 135・136 図）

調査区南西側において検出した石組みを持つ墓である。掘り方の検出面の標高は 0.86 m前後であるが、石組みの最上部は 1.16 mであり、本来の掘り込み面はこのレベルであったと考えられる。石組みの最上部は第２遺構面のＳＴ５－ 2201 とほぼ同じ高さであり、第３遺構面検出の遺構として報告するが、ＳＴ５－ 2201 とほぼ同時期である可能性も考えられる。掘り方の平面形は東西方向に主軸を持つ長方形であり、東西方向の長辺は 2.82 m、短辺は 1.58 m、深さは 0.17 mを測る。石組みの主軸方位はＮ－ 90°－Ｅであり、西面の石が抜き取られているため東西方向の内法は不明であるが、土層図と使用されている石の幅を参考にすると約 2.15 mと推定される。南北方向の内法は 0.85 ～ 0.90 mを測る。石組みは１段のみ残存し、北面と南面には４石、東面には１石がある。石材は安山岩を主体とした自然石である。石組み内の底面は平坦であり、標高は 0.68 mである。石組み内の埋土はレンズ状堆積を示す第１～４層に分層され、西端にある第５層は石の抜き取り痕である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 17 世紀後半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、同杯、丸瓦、平瓦がある。472 は備前焼陶器壺で、外面に刻印が見られる。473 は陶器碗で、削り出し高台である。474 は土師質土器杯で、底部は切り離し後にナデが施されている。475 は土師質土器焼塩壺の蓋。476 は大型の管状土錘で、重さ 95.7 g を測る。

477 は古銭であり、文字は不明だが寛永通宝と思われる。478 は青銅製品。

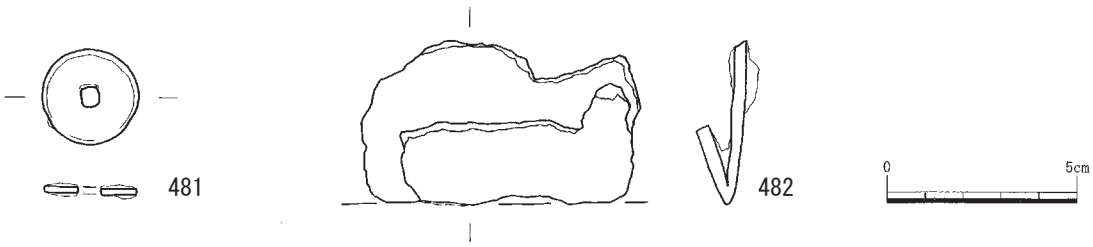


第 136 図　ＳＴ５-3301 出土遺物実測図

479 は三巴文の軒丸瓦で、巴頭部が大きく、巴尾部は細く長い。瓦当裏面の調整はナデの後に周縁にナデが施されている。佐藤分類Ⅱ類６に類似する。480 は行基式丸瓦で、凹面には布目・コビキＢが残る。

５工区第３遺構面出土遺物（第 137 図）

481 は古銭で、文字は錆のため判読不可能である。482 は鉄製鍬の先である。



第 137 図　５工区第３遺構面出土遺物実測図

（４）第４遺構面（第 138 図）

溝

ＳＤ５－ 4401（第 139 図）

調査区北東隅において検出した溝であり、東側はコンクリート基礎により削平されている。検出面の標高は 0.72 ｍである。溝の方位はＮ－ 84°－Ｗである。検出した溝の中央と東端において南北方向の溝と合流する。南北の溝は規模・埋土共に東西の溝と同じであり、これらの溝は同一遺構である。東西方向の長さは 4.10 ｍ、幅 0.15 ｍ、深さ 0.03 ｍを測る。底面のレベルは西から東に僅かに下がる。埋土は暗灰黄色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 13 世紀～ 14 世紀と考えられる。

出土遺物は土師質土器小皿、同擂鉢があるが、図化できるものはない。

ＳＤ５－ 4402（第 139 図）

調査区中央北側において検出した溝であり、東側は調査区外となる。検出範囲が狭いため遺構の性格・平面形・規模は不明であるが、溝として報告する。検出面の標高は 0.73 ｍである。検出した長さは約 2.10 ｍ、幅 0.23 ｍ、深さ 0.17 ｍを測る。溝の方位はＮ－５°－Ｅである。

出土遺物はない。

ＳＤ５－ 4403（第 139 図）

調査区中央北側において検出した溝であり、北側は調査区外となる。ＳＰ５－ 4532・4573 に切られている。検出面の標高は 0.70 ｍである。検出した長さは 1.30 ｍ、幅 0.30 ｍ、深さ 0.03 ｍを測る。溝の方位はＮ－ 21°－Ｅである。埋土は黄灰色シルト質細砂の単一層である。

出土遺物はない。

ＳＤ５－ 4404（第 139 図）

調査区中央北側において検出した溝であり、北側は調査区外となる。ＳＰ５－ 4574 を切っており、ＳＰ５－ 4442・4549 に切られている。検出面の標高は 0.75 ｍ前後である。検出した長さは約 2.95 ｍ、幅 0.80 ～ 1.00 ｍ、深さ 0.13 ｍを測る。溝の方位はＮ－ 25°－Ｅである。底面のレベルは南から北に向かって緩やかに下がり、偶蹄目の足跡を多数検出した。埋土は黄灰色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 13 世紀～ 14 世紀と考えられる。

出土遺物は土師質土器小皿、同杯、同鍋があるが、図化できるものはない。

ＳＤ５－ 4405（第 139 図）

調査区南東側において検出した溝であり、西端は後世の削平により消滅している。確認面の標高は 0.73 ｍである。検出した長さは 1.58 ｍ、幅 0.20 ｍ、深さ 0.05 ｍを測る。溝の方位はＮ－ 69°－Ｗである。底面のレベルは東から西に向かって緩やかに下がる。埋土は灰黄褐色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 13 世紀～ 14 世紀と考えられる。

出土遺物は土師質土器小皿の小片のみである。

土坑

ＳＫ５－ 4401（第 140 図）

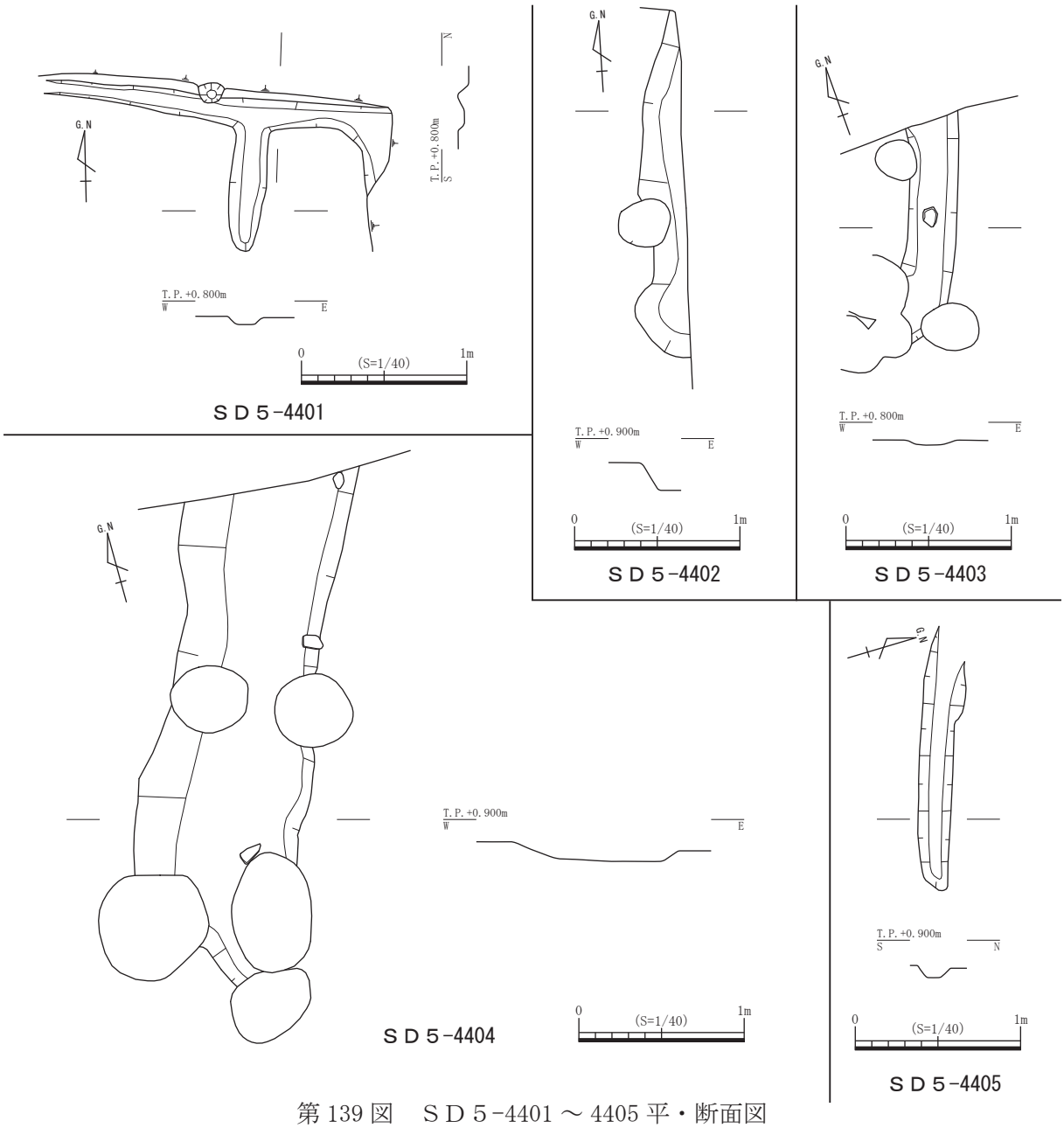
調査区中央において検出した土坑であり、ＳＥ５－ 3301 に切られている。検出面の標高は 0.75 ｍである。平面形は円形を呈し、直径は 1.42 ｍ、深さ 0.31 ｍを測る。底面は平坦であり、埋土は４層に分層され、自然堆積である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 13 世紀～ 14 世紀と考えられる。

出土遺物は土師質土器小皿、同甕、瓦器椀があるが、図化できるものはない。

ＳＫ５－ 4402（第 140 図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＰ５－ 4576 に切られ、ＳＰ５－ 4575・4547・4579 と重複している。検出面の標高は 0.71 ｍである。平面形は不整形をなし、南側は消滅している。南北長は約 1.65 ｍ、東西長は 1.05 ｍ、深さ 0.06 ｍを測る。埋土は暗灰黄色シルト質細

第 138 図　５工区第４遺構面遺構配置図



第 139 図　ＳＤ５-4401 ～ 4405 平・断面図

砂＋灰白色細砂であり、炭化材を少量含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より 13 世紀～ 14 世紀と考えられる。

出土遺物は図化した以外に青磁碗、土師質土器小皿、同鍋がある。483 は土師質土器杯で、底部には回転ヘラ切り後に板目が残る。

ＳＫ５－ 4403（第 140 図）

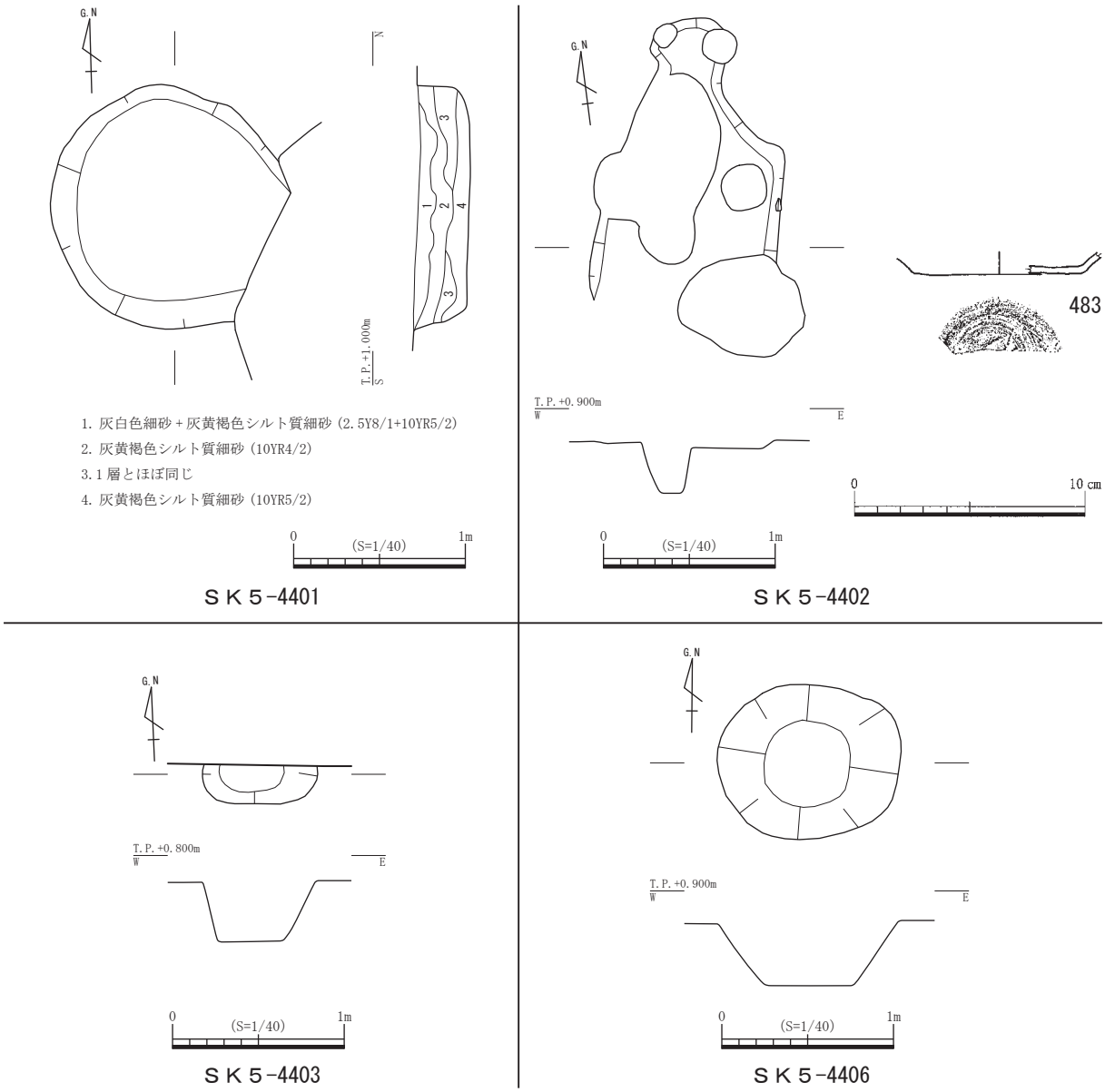
調査区北東隅において検出した土坑であり、北側はコンクリート基礎により削平されている。土坑の上部は削平されているため検出面は低くなっており、標高は 0.64 ｍである。平面形は円形を呈し、直径 0.66 ｍ、深さ 0.34 ｍを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂である。

出土遺物はない。

ＳＫ５－ 4406（第 140 図）

調査区北東側において検出した土坑である。検出面の標高は 0.70 ｍ前後である。平面形はやや不整な円形を呈し、直径は 0.90 × 1.05 ｍ、深さ 0.35 ｍを測る。埋土は黒褐色シルト質細砂＋灰白色細砂の上層と灰黄色シルト質細砂＋灰白色細砂＋小石の下層に分けられる。

出土遺物はない。



第 140 図　ＳＫ５-4401 ～ 4403・4406 平・断面図、出土遺物実測図

柱穴

ＳＰ５－ 4401（第 141 図）

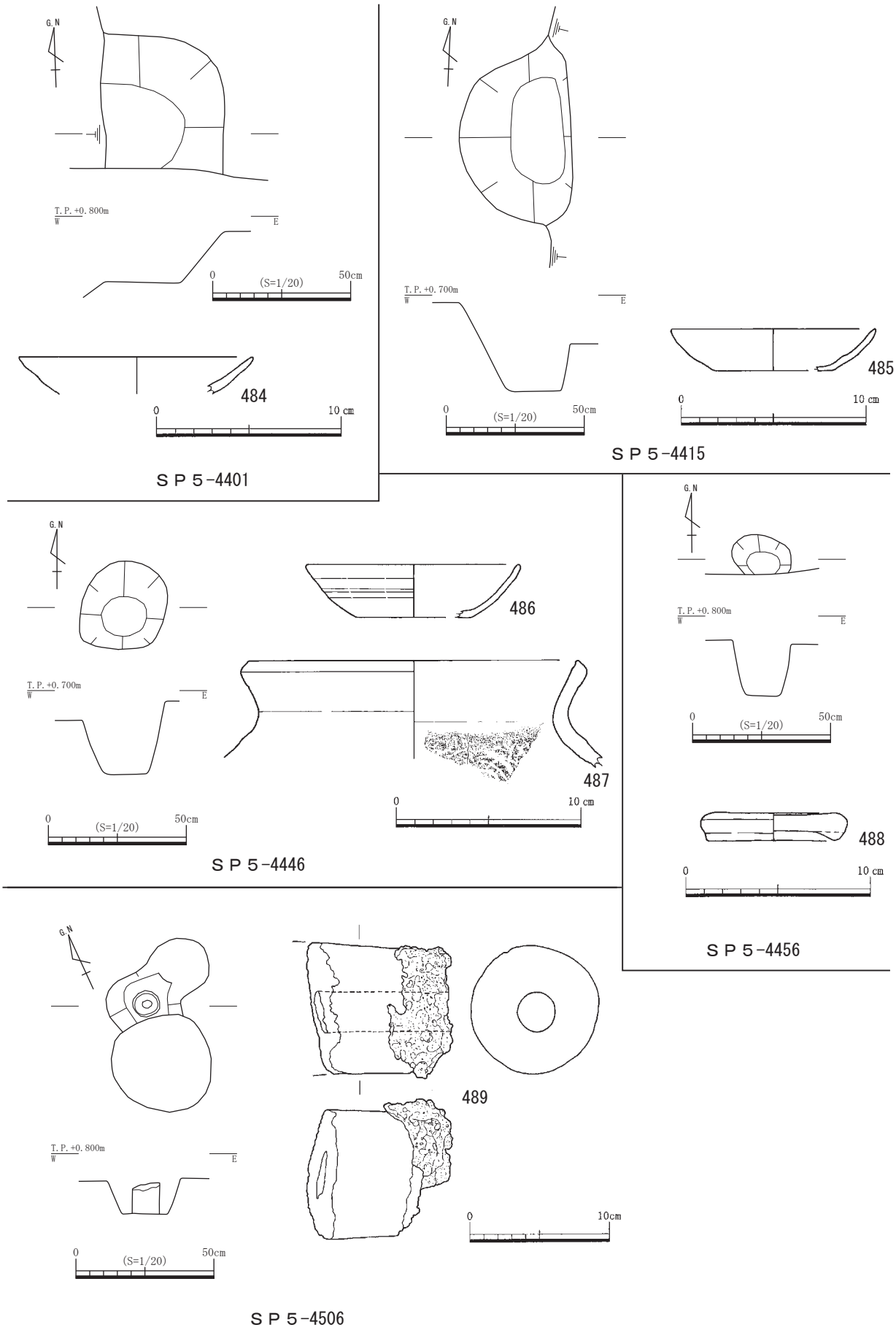
調査区南東側において検出した遺構であり、平面形・規模から土坑の可能性も考えられるが、柱穴で遺物を取り上げているので柱穴として報告する。検出面の標高は 0.75 ｍである。平面形は方形と推定され、検出できた長さは 0.50 ｍ、深さ 0.19 ｍを測る。埋土は黒褐色シルト質細砂の単一層である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 13 世紀～ 14 世紀と考えられる。

出土遺物は 484 の土師質土器杯だけである。

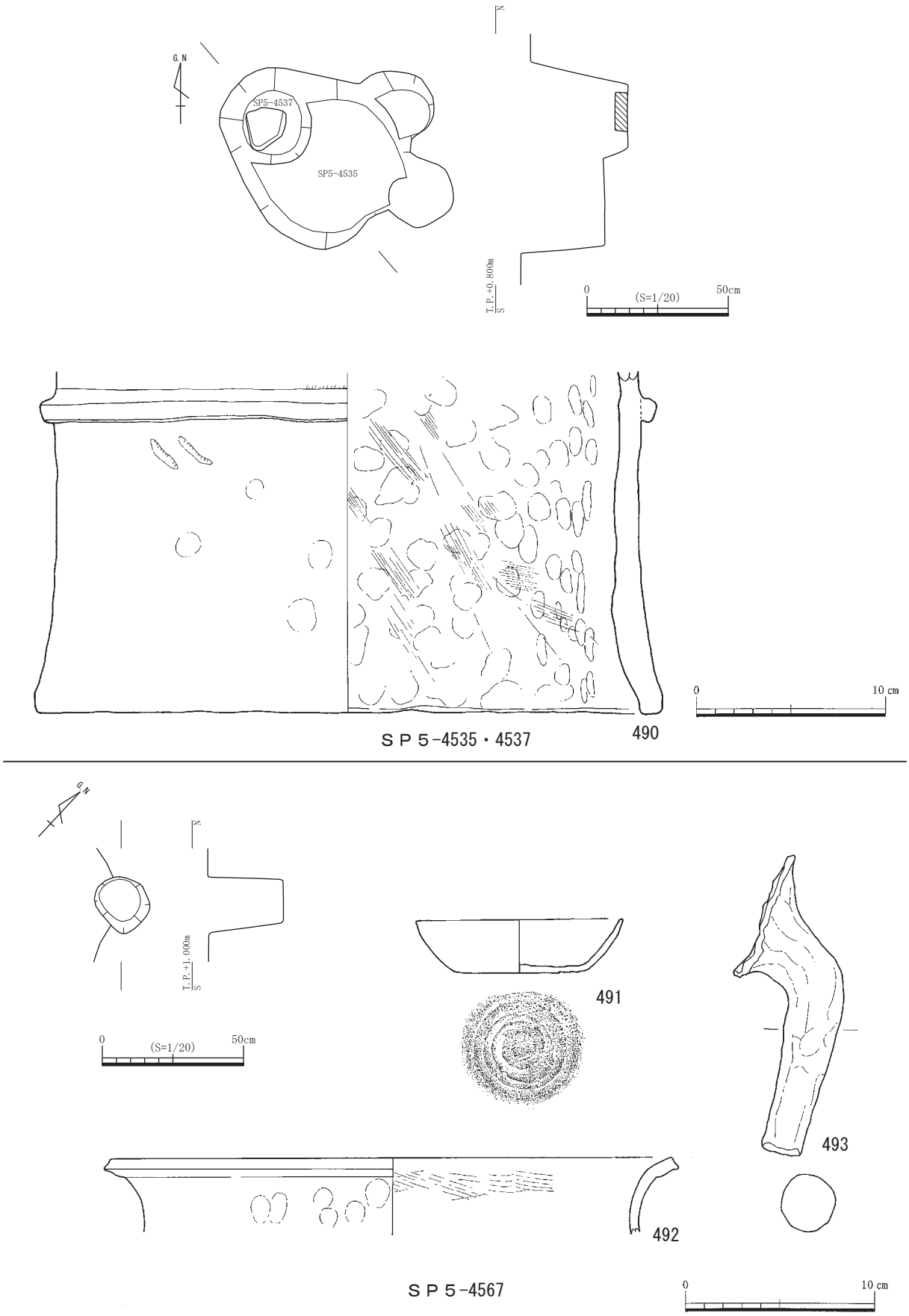
ＳＰ５－ 4415（第 141 図）

調査区南東側において検出した柱穴であり、東側はコンクリート基礎により削平されている。検出面の標高は 0.76 ｍである。平面形は円形を呈し、直径約 0.63 ｍ、深さ 0.32 ｍを測る。埋土は灰黄色＋暗灰黄色シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より 13 世紀～ 14 世紀と考えられる。

出土遺物は 485 の土師質土器杯だけである。



第 141 図　ＳＰ５-4401・4415・4446・4456・4506 平・断面図、出土遺物実測図



第 142 図　ＳＰ５-4535・4537・4567 平・断面図、出土遺物実測図

ＳＰ５－4446（第141図）

調査区中央南側において検出した柱穴であり、第３遺構面ＳＫ５－3301に切られている。検出面の標高は0.60ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.32ｍ、深さ0.26ｍを測る。埋土は灰白色＋黄灰色シルト質細砂で炭化材を若干含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より13世紀前半と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器杯がある。486は土師質土器杯である。487は須恵器甕で、口縁部はヨコナデ、体部内面は青海波状タタキが施されている。

ＳＰ５－4456（第141図）

調査区中央南端において検出した柱穴であり、南側は調査区外となる。検出面の標高は0.70ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.22ｍ、深さ0.26ｍを測る。所属時期は遺構面及び出土遺物より13世紀～14世紀と考えられる。

出土遺物は図化した以外に瓦器椀がある。488は土師質土器焼塩壺の蓋である。

ＳＰ５－4506（第141図）

調査区北東隅において検出した柱穴であり、ＳＰ５－4505・4507と重複している。検出面の標高は0.70ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.27ｍ、深さ0.12ｍを測る。埋土はにぶい黄色シルト質細砂で灰白色細砂を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物より13世紀～14世紀と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器甕、弥生土器甕がある。489は柱穴の中央に直立した状態で出土した羽口であり、直径9.2㎝、孔の直径2.9㎝を測る。片端にはスラグが付着している。

ＳＰ５－4535・4537（第142図）

調査区中央において検出した柱穴であり、検出時には別々の遺構としたが、調査の結果同一の遺構であることが判明した。規模から判断して土坑の可能性が高い。検出面の標高は0.70ｍ前後である。平面形は不整な円形を呈し、直径0.67ｍ、深さ0.30ｍを測る。底面の北西側には円形の最深部があり、板状の自然石が出土した。埋土は灰白色細砂を含む暗灰黄色シルト質細砂である。

出土遺物は490の円筒埴輪だけである。

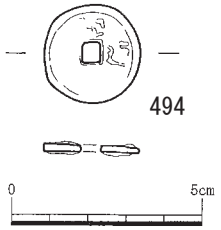
ＳＰ５－4567（第142図）

調査区北西隅において検出した柱穴である。検出面の標高は0.94ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.20ｍ、深さ0.26ｍを測る。埋土は灰白色細砂を含む暗灰黄色シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より13世紀～14世紀と考えられる。

出土遺物は図化した以外に土師質土器足釜がある。491は土師質土器杯で、底部は回転糸切り後に板目が残る。492は土師質土器甕で、口縁部内面に横方向のハケが施されている。493は土師質土器足釜の脚である。

５工区第４遺構面出土遺物（第143図）

494は青銅製の古銭であり、文字は判読不明である。



第143図　５工区第４遺構面出土遺物実測図

第４章　自然化学分析

高松城跡出土木製品の樹種調査結果

（株）吉田生物研究所

１試料

試料は高松市高松城跡から出土した容器１点、建築部材１点の合計２点である。

２観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

３結果

樹種同定結果（針葉樹２種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

（１）スギ科スギ属スギ（Cryptomeria japonica D.Don）

（遺物 No.29）

（写真 No.29）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で１分野に１～３個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

（２）ヒノキ科アスナロ属（Thujopsis sp.）

（遺物 No.31）

（写真 No.31）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ､アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」 保育社（1979）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）

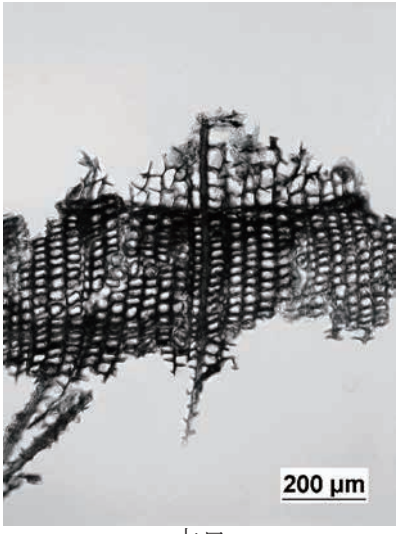
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

◆使用顕微鏡◆

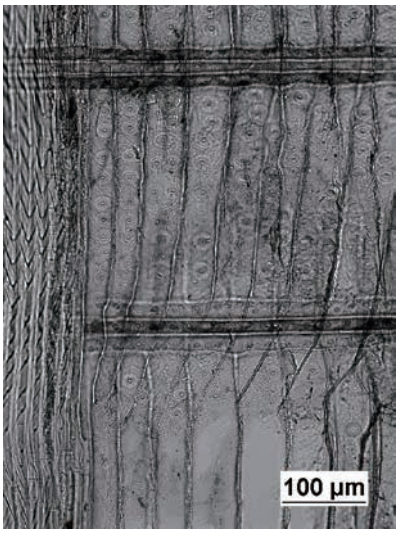
Nikon DS-Fi1

高松市高松城跡出土木製品同定表

No.	遺構	遺物番号	品名	樹種
29	ＳＥ２-4401	276	井戸枠	スギ科スギ属スギ
31	ＳＫ２-3301	258	曲物（底板）	ヒノキ科アスナロ属



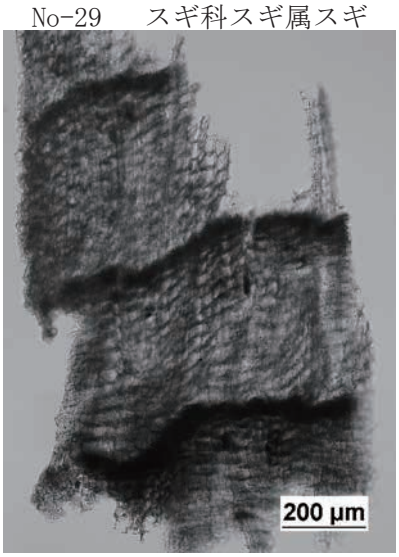
木口



柾目

板目

No-29　スギ科スギ属スギ



木口

柾目

板目

No-31　ヒノキ科アスナロ属

第５章　まとめ

以下、各時期における遺構の変遷を概観するとともに周辺の区画の検討を行い、発掘調査のまとめとしたい。

第１節　遺構の変遷

第３章で述べてきてように、本遺跡では３～５面の遺構面を確認することができ、中世から近代に至る多数の遺構を検出し、弥生土器から近世陶磁器までの遺物が出土した。各工区の遺構面数は、１・３・４工区が３面、２工区が５面、５工区が４面である。本遺跡は高松城中堀とほぼ南隣する位置にあり、周辺部の調査例や絵地図等の史料を参考にすると、当該地区は17世紀前半の生駒期には有力家臣の屋敷地であり、その後は屋敷地と御用屋敷あるいは江戸長屋となり、明治時代初期まで続いている。

出土遺物と検出面から検出した遺構の所属年代を判断した結果、遺構が次の８期に分けられ、その変遷が考えられる。Ⅰ期は弥生時代～古代、Ⅱ期は中世（12世紀中葉～16世紀）、Ⅲ期は17世紀前半、Ⅳ期は17世紀後半、Ⅴ期は18世紀前半、Ⅵ期は18世紀後半、Ⅶ期は19世紀前半、Ⅷ期は明治以降である。

Ⅰ期（弥生時代～古代）

３工区を除く全ての工区において、中・近世の基盤層と考えられている黄灰色砂質シルトの掘り下げを行い、中世以前の遺構の有無を確認した。掘削は地盤と考えられる砂礫層に達するまで掘り下げた。その地点は標高０～0.2ｍを測り、湧水も確認した。全ての工区で深掘り部分には遺構は検出されなかった。しかし、１・２工区では砂礫層直上において弥生時代後期の甕、古墳時代の須恵器蓋、古代の土師質土器小皿が出土した。弥生土器はかなり磨滅しており上流から洪水により流されてきたものである。他の土器は良好な遺存状態であり、近くに当該時期の遺構の存在が考えられる。本遺跡の南西側に位置する高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）では弥生時代後期と平安時代の遺構を検出し、集落の所在が確認されている。

Ⅱ期（12世紀中葉～16世紀）

中・近世の基盤層と考えられている黄灰色砂質シルト上面において溝、土坑、柱穴等の中世の遺構を検出した。当該期は４時期に細分されると考えられる。Ⅱ－１期は12世紀中葉～13世紀前半、Ⅱ－２期は13・14世紀、Ⅱ－３基は15世紀初頭、Ⅱ－４期は16世紀である。

Ⅱ－１期は遺構の検出が非常に少なく、時期決定できたのは２工区ＳＫ２－5502、３工区ＳＤ３－3301、５工区ＳＰ５－4446のみである。遺構面は２工区が第５遺構面、３工区が第３遺構面、５工区が第４遺構面であり、全て最下位で検出した面である。標高は0.60～0.70ｍである。遺構が少ないため遺跡の性格を解明することはできないが、港湾施設を確認した高松城跡（西の丸町地区）や類似する調査成果を出した高松城跡（東町奉行所跡）等の遺跡が周辺に存在しており、当地域は中世当初から港町としての機能を持つ集落であると想定される。

Ⅱ－２期は前段階より遺構がやや増加しており、主な遺構として２工区ＳＥ２－4401と４・５工区の柱穴群がある。遺構面は２工区第４遺構面、４工区第３遺構面、５工区第３・４遺構面である。標高は２工区で0.85ｍ前後、４工区で0.90ｍ前後、５工区で0.90～1.00ｍである。遺構の分布は東側の４・５工区に集中しており、集落の存在が考えられる。ＳＥ２－4401（14世紀中葉～後葉）は石組みと結物を井側とする構造の井戸であり、結物は近世のように規模の大きなものでなく、長さ22㎝、幅6.5㎝の板材を円形に組んだ井側を井戸底面に１段のみ設置している。

Ⅱ－３期は１工区第３遺構面のＳＤ１－3301のみである。標高は1.00ｍ前後である。所属時期は14世紀末～15世紀初頭である。溝の方位はＮ－15°－Ｅであり、高松平野の条里地割（Ｎ－10°－Ｅ）とほぼ同方向を示している。高松城跡の南西にある高松城跡（寿町二丁目地区）で

は条里地割と同方向の２本の溝（16 世紀）が検出されているが、ＳＤ１－ 3301 の検出により条里地割の延伸地割の形成時期が 15 世紀まで遡ると考えられる。

Ⅱ－４期は１・２工区において溝・土坑を検出した。遺構面は１工区が第３遺構面、２工区が第３・４遺構面である。標高は１工区で 1.00 m前後、２工区第３遺構面で 1.00 m前後、第４遺構面で 0.85 mである。ＳＤ２－ 3301・3302 は条里地割と同方向に延びている。

Ⅲ期（17 世紀前半）

調査区全域にわたって土坑、柱穴、井戸等の多数の遺構を確認したが、４工区では遺構が希薄である。高松城跡（西の丸町地区）編年の様相１～３に相当し、細分することができる。遺構面としては、１・２工区が最終面である第３遺構面、３・５工区は中位の第２・３遺構面、４工区は第２遺構面下層である。標高は１・２工区で 1.00 m前後、３工区で 0.95 m、４工区で 1.15 m、５工区で 1.10 ～ 1.20 mと 0.85 m前後である。

様相１にあたる 17 世紀初頭の遺構は少なく、１・３・５工区の数基の柱穴のみである。

様相２・３の 17 世紀第２四半紀になると遺構数は急増してくる。主な遺構としてはＳＥ１－ 3301・3303、ＳＥ５－ 3301 の井戸をはじめ多数の土坑、柱穴がある。ＳＥ１－ 3301 は結物を井側とした井戸で、18 世紀以降に機能するＳＥ１－ 1101 とほぼ同位置にあり、井戸としての機能が長期間働いていたと考えられる。ＳＥ１－ 3302 とＳＥ５－ 3301 は石組みの井戸である。土坑は規模も小さく、出土遺物も少ないことからゴミ捨て場的な性格を有するものでないと考えられる。

当該時期を描いた絵図の『生駒家時代讃岐高松城屋敷割図』では、調査区付近は大手門である古太鼓御門に架かる橋の正面から東側に位置し、三つの区画が描かれており、西から生駒河内、前野次太夫、三野四郎左衛門の屋敷地となっている。調査区は前野次太夫、三野四郎左衛門の屋敷地の北端にあたるが、本調査では区画としての南北方向の明確な溝は検出されなかった。また、門や屋敷と想定される遺構も確認することはできなかった。

Ⅳ期（17 世紀後半）

調査区全域にわたって土坑、柱穴、井戸、墓等の多数の遺構を確認したが、特に１工区と５工区に遺構が集中している。遺構面としては、１工区が最終面である第３遺構面、４工区は第２遺構面、５工区は中位の第２・３遺構面である。標高は１工区で 1.00 m前後、５工区で 1.10 ～ 1.20 mと 0.85 m前後である。高松城跡（西の丸町地区）編年の様相４に相当する。主な遺構としてはＳＴ１－ 3301･3302、ＳＴ５－ 3301 の屋敷墓、ＳＥ４－ 2203 の井戸、土坑、柱穴がある。ＳＴ１－ 3301・3302 は南北に主軸を持つ石組みの墓であり、一つの長辺を共有しており、近親者を埋葬していると考えられる。ＳＴ５－ 3301 は東西に主軸を持つ石組みの墓である。これらの墓には枚数の違いはあるが寛永通宝が埋納されている。ＳＥ４－ 2203 は素掘りである。土坑は規模も小さく、出土遺物も少ないことからゴミ捨て場的な性格を有するものでないと考えられる。17 世紀中葉ごろの景観を描いたと考えられている『高松城下図屏風』は、生駒時代と比較すると調査地付近の屋敷地の区画が異なって描かれている。生駒河内と南隣する３軒の屋敷が１軒の屋敷となっており、前野次太夫と南隣する１軒の屋敷が１軒の屋敷として描かれている。このことは生駒騒動後の屋敷拝領者の変更を記載した『生駒家廃乱記』の内容と一致する。調査地にあたる所は前時期と同じ屋敷地の区画であり、屋敷地の北側部分であると推定される。しかし、Ⅲ期と同様に区画としての南北方向の明確な溝や門や屋敷と想定される遺構は確認することはできなかった。

Ⅴ期（18 世紀前半）

調査区全域にわたって溝、土坑、柱穴、井戸、墓等の遺構を多数検出した。遺構面としては、1・２工区が第２遺構面、４・５工区が第１・２遺構面である。標高は１・２工区が 1.30 ～ 1.40 m、４・５工区が 1.20 ～ 1.30 mである。主な遺構はＳＤ１－ 2201・ＳＤ２－ 3303 の溝、ＳＥ１－ 2201・ＳＥ４－ 2201・2205 の井戸、土坑、柱穴である。ＳＤ１－ 2201 はやや不規則な平面形を

なしており、区画としての機能を持つ溝とは考えられない。ＳＥ１－2202・ＳＥ４－2205は井側を持たない素掘りの井戸であり、ＳＥ４－2201は木製の結物を井側とする井戸である。特に４工区には井戸が５基検出されており、その所属時期は18世紀前半～19世紀まで水源として長期間にわたって使用されていた。土坑は前代同様に規模も小さく、出土遺物も少ないことからゴミ捨て場的な性格を有するものでないと考えられる。

18世紀前半に描かれた『享保年間高松城下図』や『高松城下図』・『高松地図』によれば高松城は大きく改変され、南側石垣中央に設けられていた大手門の古太鼓門に架かる橋がなくなり、旭御門が大手門となり、同時に東ノ丸が増築された。調査地付近に目を転じると、以前は古太鼓御門に架かる橋の正面から東側に三つの区画が描かれていたが、上記の絵図では二つの区画となっており、『享保年間高松城下図』では西側の区画が松平左近の屋敷地、東側が御用屋敷となっている。調査地は松平左近の屋敷地の東部分と御用屋敷に位置しており、この区画と関連する遺構は２工区東端で検出したＳＤ２－3303である。この溝は第３遺構面検出の遺構として報告したが、出土遺物の時期は18世紀～19世紀初頭であり、上面の第１・２遺構面検出のＳＫ２－1104・2205は溝の埋没過程の落ち込みの可能性が高い。すなわち、溝として長期間機能していたと考えられる。方向、規模、時期から判断すると、この溝は松平左近の屋敷地と御用屋敷を区画する溝であると考えられる。しかしながら屋敷や御用屋敷などの建物を想定できる遺構は検出されなかった。

Ⅵ期（18世紀後半）

調査区全域にわたって溝、土坑、柱穴、井戸、墓等の遺構を多数検出した。遺構面としては、１・２工区が第１遺構面、４・５工区が第１・２遺構面である。標高は１・２工区が1.50ｍ、４・５工区が1.20～1.30ｍである。主な遺構としてはＳＤ１－1103・1104、ＳＤ２－3303、ＳＤ４－2201・2202、ＳＤ５－1102・2201・2202の溝、ＳＫ２－3301・ＳＫ４－1101の土坑、ＳＥ４－2202・2204の井戸、ＳＴ５－2201の墓である。溝は規模や構造から、規模が大きく区画溝であるＳＤ２－3303、規模は小さいが両側に石組みを有するＳＤ４－2202、規模がやや大きいＳＤ１－1103・ＳＤ５－1102、規模が小さいＳＤ１－1104・ＳＤ４－2201・ＳＤ５－2201・2202に分類できる。東西方向に直線的に延びるＳＤ１－1103と南北方向に直線的に延びるＳＤ５－1102は、屋敷地内での小規模な区画であると考えられる。ＳＥ４－2202・2204は素掘りの井戸である。ＳＴ５－2201は南北に主軸を持つ石組みの墓で、規模・平面形共に前時期の墓と同一であり、３枚の寛永通宝が出土した。ＳＫ２－3301は規模が大きく、埋土中に陶磁器や土師質土器等の土器、瓦、金属製品、木製品を多量に含んでおり、ゴミ捨て場であると考えられる。ＳＫ４－1101は備前焼大甕が掘り方と密着した状態で出土しており、水瓶と思われる。その他の土坑は規模も小さく、出土遺物も少ないことからゴミ捨て場的な性格を有するものでないと考えられる。

当該期に描かれた『寛政元年巳酉年五月高松之図』では、調査地付近は前時期同様に二区画に分かれており、ＳＤ２－3303がその区画溝である。

Ⅶ期（19世紀前半）

調査区全域にわたって遺構を検出したが、その分布は希薄になる。遺構面としては全工区の第1遺構面であり、標高は1.50ｍ前後である。主な遺構としてはＳＤ２－3303の溝、ＳＫ１－1105・ＳＫ２－1108の土坑、柱穴である。ＳＤ２－3303は前時期から引き続き区画溝として機能していたと考えられる。ＳＫ２－1108は規模の大きな土坑であり、上端から中位まで石組みが検出される。石組みは自然石の乱積みであり丁寧な積み方でないがほぼ垂直である。この土坑は底面まで石組みをしていないという不可解な点もあるが地下室的な機能を有すると考えられる。

当該期に描かれた『高松市街古図』『讃岐高松城下絵図』『天保十五年高松之図』『高松城下町屋敷割図』『安政四未年高松之図』『高松市街之図』では前時期同様に二つの区画となっており、西

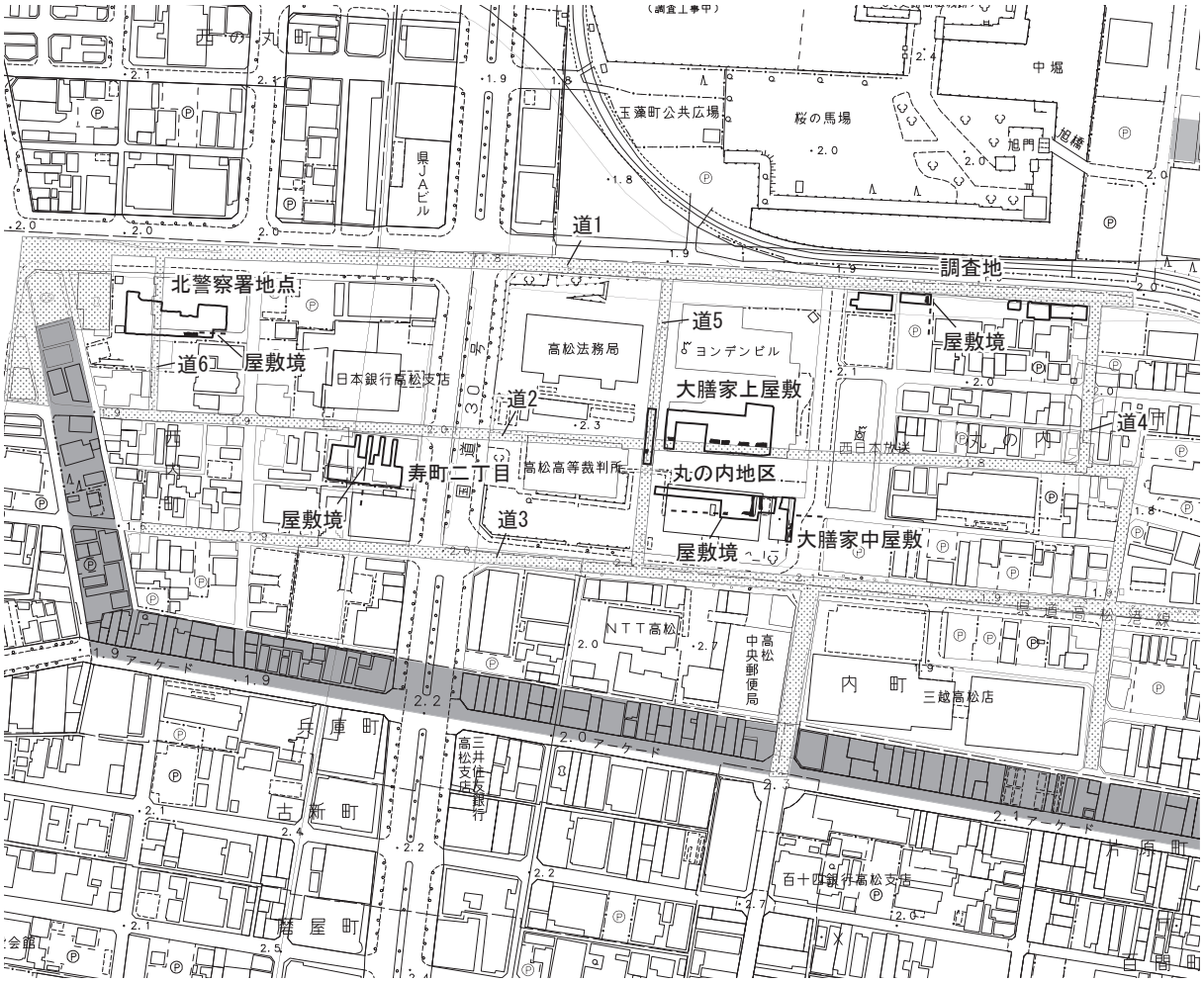
側は松平大膳、東側は江戸長屋と書かれている。松平大膳家上屋敷は平成14年に高松市が実施した「高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）」において詳細に調査され、南面屋敷境の門らしき建物や井戸、石列等が検出され、さらに南側と西側の道路が検出されたことにより屋敷地の南辺と西辺が確定していた。今回の調査で東側の区画溝としてＳＤ２－3303が検出されたことにより、松平大膳家上屋敷の範囲が明確になったといえる。『高松市街古図』では江戸長屋の区画内に堀端に面して長屋門と考えられる長大な建物が描かれ、さらに明治15年に撮影されたと考えられるケンブリッジ大学所蔵の写真にも海鼠塀をもつ長屋門が見え、その内側には数棟のやや小さい建物が写っている。しかし、今回の調査と平成19・20年に高松市が実施した「高松城跡（江戸長屋Ⅰ・Ⅱ）」において江戸長屋と考えられる建物はほとんど確認できなかった。

Ⅷ期（明治以降）

２工区～５工区にかけて僅かな遺構を検出した。遺構面は全工区とも第１遺構面で、標高は1.50ｍ前後である。遺構はＳＤ５－1101の溝、ＳＥ２－1101・1102・ＳＥ４－1101・ＳＥ５－1101・1102の井戸である。ＳＤ５－1101はＬ字形を呈し、埋土に高松空襲の焦土が充填されていた。全ての井戸は土器を井側とする井戸である。

第２節　区画の検討

高松城下における堀や道路等の現状に残る地割と絵地図との照合は、森下友子1996「高松城下の絵図と城下の変遷」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　研究紀要』Ⅳにおいて論考されており、これに随所で行われた発掘調査の結果を加えて外曲輪西部での街路及び屋敷境によ



第144図　調査地周辺地割図（1/4,000）

る区画の検討は「高松城跡（厩跡）」「高松城跡（寿町二丁目地区）」で詳細に行われている。ここでは今回の調査結果を踏まえて区画の検討を行う。

絵地図では外曲輪に東西方向と南北方向にそれぞれ三つの街路が描かれ、役・用途に相応するような屋敷名が記されている。東西方向の街路（第 144 図道１～３）は、随所で行われた発掘調査の結果により現有の道路と同じ位置に比定されている。道１は北警察署地点で確認された東西方向の屋敷境を基に想定され、道２は松平大膳家上屋敷跡で確認され、道３は松平大膳家中屋敷跡・丸の内地区で確認された東西方向の屋敷境を基に想定されている。南北方向の街路（第 144 図道４～６）は、現有道路と現有の地割の位置に比定されている。道４は現有の道路であり、鍵形に折れている。道５は松平大膳家上屋敷跡で確認され、道６は北警察署地点で確認されている。さらに寿町二丁目地区では南北方向の屋敷境を検出されている。

今回の調査で検出した２工区のＳＤ２－ 3303 は南北方向に直線的に延び、幅 1.26 ～ 1.71 m、深さ 0.76 mを測る大規模な溝である。陶磁器や瓦等が多量に出土し、その年代は 17 世紀後半～ 19 世紀初頭までの長期間を示す。土層断面の観察では数回の掘り直しが認められ、長期間にわたって溝としての機能を保っていたと考えられる。このように方向・規模・年代から判断すると、この溝は屋敷地を区画する屋敷境である可能性が高く、絵地図に描かれた調査地付近の屋敷地が三つの区画から二つに変化した 18 世紀前半に当たると考えられる。絵地図に記載されている屋敷拝領者は、18 世紀前半では松平左近の屋敷地と御用屋敷であり、18 世紀後半では志摩殿の屋敷地、19 世紀は松平大膳家の屋敷地と江戸長屋であり、この溝は区画する屋敷境であると考えられる。これにより西側にある松平大膳家の屋敷地の区画が明確になった。前述したように、屋敷地の北側は道１、南側は道２、西側は道５により区画されていることはすでに確認されており、今回東側の区画としてＳＤ２－ 3303 が検出されたことのより全方向の区画が明らかになり、屋敷の規模が確定した。江戸長屋に関しても同様なことが言える。すなわち、北側は道１、南側は道２、東側は道４、西側はＳＤ２－ 3303 により区画される。

第３節　屋敷墓について

今回の調査において屋敷墓と考えられる遺構が、1 工区の第３遺構面のＳＴ１－ 3301・3302 と５工区の第２遺構面ＳＴ５－ 2201・第３遺構面ＳＴ５－ 3301 の４基検出された。その詳細は第３章に述べているので、ここではその概要のみ示す。４基の墓は石組みを有する土壙であり、石組みの内法は長辺 1.70 ～ 2.15 m、短辺 0.60 ～ 0.90 mを測り、石組みは 1 段のみ残存する。主軸方向は、ＳＴ１－ 3301・3302・ＳＴ５－ 2201 が南北方向、ＳＴ５－ 3301 が東西方向である。ＳＴ５－ 2201 とＳＴ５－ 3301 は単独で存在するが、ＳＴ１－ 3301 と 3302 は 1 面の石組みを共有し並列している。時期は 17 世紀後半に比定される。

香川県においては数カ所の遺跡で屋敷墓が確認されている。遺跡としては、下川津遺跡・西村遺跡・延命遺跡・空港跡地遺跡・高松城跡（東ノ丸）・高松城跡（博物館）・高松城跡（東町奉行所跡）・高松城跡（厩跡）がある。屋敷墓の初現は下川津遺跡の９～ 10 世紀の建物群に伴う墳墓であり、下川津遺跡では 13 世紀代まで屋敷墓が存続する。西村遺跡では 12 世紀中葉～ 13 世紀の屋敷墓が県内で最も数多く検出されている。延命遺跡では 12 世紀後葉～ 13 世紀の集石による墳墓、空港跡地遺跡では 13 世紀の礫敷きの火葬土壙が検出されている。高松城跡（東ノ丸）では 15 世紀に比定される火葬墓 13 基と土葬墓 1 基が確認され、漁民の墓と考えられている。高松城跡（博物館）では 16 世紀末の石組みの墓、高松城跡（東町奉行所跡）では 16 世紀の墓である可能性の高い土坑が検出されている。高松城跡（厩跡）では 17 世紀中葉の石組みの土坑が検出されている。これらの中で今回の調査で検出された墓と平面形態・規模・年代的に類似するのは、高松城跡（厩跡）のＳＸ 107 である。

讃岐の古代末～中世にかけての屋敷墓は主として中讃、西讃に分布し、沖積地と台地上に立地する集落の屋敷地内に屋敷と隣接するように存在する。墓の種類は土葬墓と火葬墓があり、構造

的には土壙墓と集石墓がある。讃岐における「中世前期屋敷墓」の特長は空港跡地遺跡を例として同一遺跡内で区画により屋敷墓の在否があることが挙げられる。その要因として、『空港跡地遺跡Ⅳ』第５章まとめにおいて、「村落内の階層構成（考古学的には建物群の規模の序列）を前提とした自立性の問題と直結するのではない・・・それとは別の側面（生産・流通関係からみた経営単位の社会的位置）も考慮すべきである。」と論じている。

近世になると各階層の人々は檀家制度に組み込まれ、寺院の中の一族の墓域に代々の親族が葬られるようになった。しかし、中世からの屋敷墓という墓制は近世以降も継承された。近世の屋敷墓は非常に調査例が少なく、讃岐では高松城跡（厩跡）の１基と本遺跡の４基のみであり、高松城跡（厩跡）では墓の可能性もある性格不明遺構としている。これらの墓は石組みを有する土壙であり、屋敷地内に集中して存在する。調査では墓の下部構造は解明できるが、上部構造は不明である。塚の存在や墓標の存在が考えられるが、『高松城下図屏風』にはそれらしいものは描かれていない。また、墓のある場所が有力家臣の屋敷地の正面と言える所であることも疑問である。有力家臣の屋敷地にある屋敷墓を論ずるには、民俗学や文献史学などを十分に参照しつつ、さらに多くの考古学の事例の蓄積が必要である。

引用文献・参考文献

江戸遺跡研究会編 2001『図説江戸考古学研究辞典』柏書房

小川賢・片桐節子 2004『新ヨンデンビル別館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）』高松市教育委員会ほか

小川賢・片桐節子 2005『共同住宅建設（コトデン片原町パーキング跡地）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告高松城跡（東町奉行所跡）』高松市教育委員会ほか

小川賢・片桐節子 2006『高松市丸亀町商店街 A 街区第一種市街地再開発事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告高松城跡（厩跡）』高松市教育委員会ほか

小川賢・片桐節子 2007『寿町二丁目テナントビル建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（寿町二丁目地区）』高松市教育委員会ほか

小川賢・渡邊誠 2008『高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第１冊　高松城跡（江戸長屋跡Ⅰ）』高松市教育委員会

小川賢・渡邊誠 2009『高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第２冊　高松城跡（江戸長屋跡Ⅱ）』高松市教育委員会

小川賢 2012『雨水管渠整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（大手前地区城内中学校跡地）』高松市教育委員会ほか

大嶋和則 2002『香川県弁護士会会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）』高松市教育委員会

大嶋和則 2009『史跡高松城跡整備報告書　第４冊　高松城史料調査報告書』高松市

香川県教育委員会 1987『高松城東の丸跡発掘調査報告書』

北山健一郎 1999『香川県歴史博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡』香川県教育委員会

佐藤竜馬 2000『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第４冊　空港跡地遺跡Ⅳ』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか

九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』

佐藤竜馬ほか 2002『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第４冊 高松城跡（西の丸地区）』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか

四国村落遺跡研究会 2007『港町の原像ー中世港町・野原と讃岐の港町―』

松本和彦 2003『高松家庭裁判所移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（丸の内地区）』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか

松本和彦ほか 2003『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報告　第５冊　高松城跡（西の丸地区）Ⅲ』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか

山元素子・岡本利 1999『高松北警察署に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城』（財）香川県埋蔵文化財調査センター

森下友子 1996「高松城下の絵図と城下の変遷」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　研究紀要Ⅳ』（財）香川県埋蔵文化財調査センター

第１表　遺構表

1区　第1面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD1－1101	SD1-101		27	10	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　焼土を含む)	
SD1－1102	SD1-102		15	3	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　焼土を含む)	
SD1－1103	SD1-103		84	38	第7図	
SD1－1104	SK1-112		92～137	17	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3　焼土を多量に含む) 灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2) 灰黄色＋にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/2＋6/3)	
SK1－1101	SK1-101	不整円形	69×49	21	灰黄色シルト質細砂(10YR6/2＋5/2　炭を多量含む)	
SK1－1102	SK1-102	不整楕円形	(182)×136	20	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2) 灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2　炭化材を含む)	
SK1－1103	SK1-103	楕円形	98×80	16	第8図	
SK1－1104	SK1-104	不整円形	(105)×(102)	20	第8図	
SK1－1105	SK1-105	不整楕円形	255×160	20	第8図	SK1-1106と合体
SK1－1107	SK1-107	楕円形	143×(47)	27	浅黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2＋7/3) 灰黄色細砂(2.5Y6/2)	
SK1－1108	SK1-108	楕円形	(150)×(30)	23	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2　炭化材を含む) 浅黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/3+7/2)	
	SK1-109					SE1-1101に変更
SK1－1110	SK1-110	不整楕円形	113×60	13	渇灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SK1－1111	SK1-111	楕円形	(60)×56	12	渇灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
	SK1-112					SD1-1104に変更
SK1－1113	SK1-113	円形	69	38	灰白色シルト＋灰黄色シルト質細砂(7.5Y8/2＋2.5Y7/2) 灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2)	
SK1－1114	SK1-114	方形	(204)×(98)	18	第9図	
SK1－1115	SK1-115	(方形)	(88)×(58)	34	灰黄褐色＋にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/2＋6/3) 灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2) にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3) 灰白色細砂(2.5Y8/2)	
SK1－1116	SK1-116	長方形	(107)×77	17	灰色＋灰黄色シルト質細砂(5Y8/2＋2.5Y7/2) 灰黄褐色＋にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR5/2＋6/3) 浅黄色＋にぶい黄橙色シルト質細砂(2.5Y7/3＋10YR6/3) 灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2　焼土を含む)	
SK1－1117	SK1-117	不明	(96)×(37)	22	—	
SP1－1101	SP1-101	円形	40	14	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2) 灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP1－1102	SP1-102	不整円形	55×40	14	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP1－1103	SP1-103	円形	30	40	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP1－1104	SP1-104	不整円形	58×40	10	第10図	
SP1－1105	SP1-105	円形	40	10	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3)	
SP1－1106	SP1-106	楕円形	87×56	17	浅黄色細～粗砂(2.5Y7/3)	
SP1－1107	SP1-107	円形	35	7	黄灰色細～粗砂(2.5Y6/1)	
SP1－1108	SP1-108	円形	38	32	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/3)	
SP1－1109						欠番
SP1－1110	SP1-110	円形	93×83	27	—	石
SP1－1111	SP1-111	円形	38	8	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2　にぶい黄色シルト質細砂・焼土を含む)	
SP1－1112	SP1-112	円形	45	16	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2　にぶい黄色シルト質細砂・焼土を含む)	
SP1－1113						欠番
SP1－1114	SP1-114	不整楕円形	57×(35)	12	—	
SP1－1115	SP1-115	隅丸方形	(55)×48	10	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2)	
SP1－1116	SP1-116	円形	37	35	—	
SP1－1117	SP1-117	円形	31	11	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2　灰白色シルトを含む)	
SE1－1101	SK1-109	円形	80	97	第10図	

1区　第2面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD1－2201	SD1-201		70～80	20	第12図	
SK1－2201						欠番
SK1－2202	SK1-202	不明	(100)×(65)	10	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3 褐灰色シルト質細砂・焼土・炭化材を含む)	
SK1－2203	SK1-203	楕円形	140×(37)	60	浅黄色＋灰黄褐色シルト質細砂(2.5Y8/4＋10YR4/2)	
SK1－2204	SK1-204	円形	106×(40)	4	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3)	
SK1－2205	SK1-205	円形	135×(80)	7	—	
SK1－2206	SK1-206	不整円形	125×95	10	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土を含む)	
SK1－2207	SK1-207	不整楕円形	100×56	27	—	
SK1－2208	SK1-208	不明	(130)×(30)	6	灰黄色シルト質細砂(2.5YR6/2　焼土を多量に含む)	
SK1－2209	SK1-209	不明	(84)×(43)	5	—	
SK1－2210	SK1-210	長方形	184×102	20	淡黄色シルト＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y8/3＋6/3焼土・炭化材を含む) 灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/3)	
SK1－2211	SK1-211	円形	90×77	12	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SK1－2212	SK1-212	隅丸方形	98×(65)	45	淡黄色シルト＋灰黄色シルト質細砂(5Y8/3＋2.5Y7/2) 黒褐色シルト質細砂(10YR3/1　焼土・炭化材を多量に含む)	
SP1－2201	SP1-201	円形	64×56	11	焼土・炭化材(にぶい黄橙色シルト質細砂10YR6/3を若干含む)	
SP1－2202	SP1-202	円形	42	10	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3)	
SP1－2203	SP1-203	円形	25	6	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3)	
SP1－2204	SP1-204	不明	—	10	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3)	
SP1－2205	SP1-205	円形	63	16	第14図	
SP1－2206	SP1-206	円形	56	9	浅黄色細砂(2.5Y7/3)	
SP1－2207	SP1-207	不明	(60)×(43)	20	灰白色シルト質細砂＋灰白色細砂(7.5Y7/2＋7/1)	
SP1－2208	SP1-208	円形	31×25	5	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3)	
SP1－2209	SP1-209	円形	64×56	15	—	
SP1－2210	SP1-210	楕円形	(45)×37	14	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3　焼土を若干含む)	
SP1－2211	SP1-211	円形	48	13	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3　焼土を若干含む)	
SP1－2212	SP1-212	円形	26	6	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3　焼土を若干含む)	

SP1－2213	SP1-213	円形	37以上	18	灰黄褐色シルト質細砂（10YR5/2　焼土を若干含む）	根石
SP1－2214	SP1-214	円形	25以上	20	灰黄褐色シルト質細砂（10YR5/2　焼土を若干含む）	
SP1－2215	SP1-215	円形	25	3	黒褐色シルト質細砂（7.5YR3/1　焼土を若干含む）	
SP1－2216	SP1-216	円形	47×38	14	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/3　焼土・炭化材を若干含む）	
SP1－2217	SP1-217	円形	26	10	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/3　焼土・炭化材を若干含む）	
SP1－2218	SP1-218	円形	25以上	10	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/3　焼土・炭化材を若干含む）	
SP1－2219	SP1-219	円形	43×34	10	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/3　焼土・炭化材を若干含む）	
SP1－2220	SP1-220	楕円形	（55）×43	10	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/3　焼土・炭化材を若干含む）	
SP1－2221	SP1-221	円形	35×23	11	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂 （10YR6/2＋8/1　焼土・炭化材を若干含む）	
SP1－2222	SP1-222	円形	27×22	36	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR7/3）	
SP1－2223	SP1-223	円形	28	17	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/3　焼土を若干含む）	
SP1－2224	SP1-224	不明	（28）×（25）	13	灰黄色シルト質細砂（2.5YR7/2）	
SP1－2225	SP1-225	円形	（28）×（20）	9	灰黄色細砂（2.5Y7/2）	
SP1－2226	SP1-226	円形	28×22	5	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/3）	
SP1－2227	SP1-227	円形	58	55	浅黄色＋にぶい黄色シルト質細砂 （2.5Y7/3＋6/3　焼土・炭化材を若干含む）	
SP1－2228	SP1-228	不明	（24）×（15）	20	—	
SP1－2229	SP1-229	円形	56以上	44	焼土・炭化材（にぶい黄橙色シルト質細砂10YR6/3を若干含む）	
SE1－2201						欠番
SE1－2202		不明	164以上	120	第15図	SD1-2202、SE1-3302を変更
SX1－2201	SX1-201	不明	—	8	焼土・炭化材 灰黄色シルト質細砂（2.5Y7/2） にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR7/4）	
SX1－2202	SX1-202	不明	225以上	28	第16図	
SX1－2203	SX1-203	不明	—	20	第16図	

1区　第3面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD1－3301	SD1-301	—	100	30	第20図	
SD1－3302	SD1-302	—	143	8	にぶい黄褐色シルト質細砂（2.5YR5/3）	
SK1－3301	SK1-301	—	（113）×（85）	10	—	
SK1－3302	SK1-302	—	（100）×（37）	30	—	
SK1－3303	SK1-303	隅丸長方形	133×75	38	第21図	
SK1－3304	SK1-304	不整円形	81×56	23	—	
SK1－3305	SK1-305	—	—	5	—	
SK1－3306	SK1-306	—	（74）×（39）	5	—	
SK1－3307	SK1-307	長方形	145×110	65	第21図	
SK1－3308	SK1-308	不整方形	125×125	32	—	
SK1－3309	SK1-309	長方形	145×90	66	—	近代の遺構
SK1－3310	SK1-310	隅丸長方形	（120）×96	20	第21図	
SK1－3311	SK1-311	円形	93	7	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　焼土・炭化材・灰を多量に含む）	
SK1－3312	SK1-312	円形	—	30	第22図	
SK1－3313	SK1-313	隅丸方形	（71）×78	30	第23図	
SK1－3314	SK1-314	隅丸方形	（48）×73	13	—	
SK1－3315		隅丸方形	135	56	暗灰黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト（2.5Y5/2＋5Y8/3）	整理段階に新たに設置
SP1－3301	SP1-301	円形	21	29	淡黄色シルト＋黄褐色シルト質細砂 （2.5Y8/3＋5/3　焼土・炭化材を多量に含む）	
SP1－3302	SP1-302	円形	40	50	第24図	根石を有す
SP1－3303	SP1-303	円形	20	25	暗灰黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト（2.5Y5/2＋5Y8/3）	
SP1－3304	SP1-304	円形	20	28	暗灰黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト（2.5Y5/2＋5Y8/3）	SK1-3302を切る
SP1－3305	SP1-305	円形	32×28	43	暗灰黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト（2.5Y5/2＋5Y8/3）	SK1-3302を切る
SP1－3306	SP1-306	円形	24	5	灰色色＋灰黄色シルト質細砂（5Y6/1＋2.5Y6/2）	SK1-3302を切る
SP1－3307	SP1-307	円形	20	28	—	SD1-3301を切る
SP1－3308	SP1-308	不整楕円	44×24	26	—	SP1-3309と合体
SP1－3309						SP1-3308と合体
SP1－3310	SP1-310	円形	43×37	37	淡黄色＋にぶい黄色シルト質細砂（5Y8/3＋2.5Y6/3）	
SP1－3311	SP1-311	不整円形	40×34	36		
SP1－3312	SP1-312	不整円形	63×47	50		SP1-3313と合体
SP1－3313						SP1-3312と合体
SP1－3314	SP1-314	円形	25	33	淡黄色＋灰黄褐色シルト質細砂（2,5Y8/3＋10YR4/2）	
SP1－3315	SP1-315	—	（66）×（22）	53	淡黄色＋にぶい黄橙色シルト質細砂（2,5Y7/3＋10Y6/3）	
SP1－3316	SP1-316	円形	34	8	灰黄褐色シルト質細砂（10YR6/2）	
SP1－3317	SP1-317	円形	50	12		第1面あるいは第2面の遺構
SP1－3318	SP1-318	不整円形	27	5	灰黄褐色シルト質細砂（10YR6/2）	
SP1－3319	SP1-319	円形	57	5	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂 （10YR6/2＋7/1炭化材を若干含む）	
SP1－3320	SP1-320	楕円形	（40）×22	13	灰黄褐色＋灰黄色シルト質細砂 （10YR 5/2＋2,5Y7/1　焼土・炭化材を若干含む）	
SP1－3321	SP1-321	方形	36×（30）	7	灰黄褐色シルト質細砂（10YR5/2　焼土・炭化材を含む）	
SP1－3322	SP1-322	円形	19×13	12	灰黄褐色シルト質細砂（10YR5/2　焼土・炭化材を含む）	
SP1－3323	SP1-323	円形	20×17	10	灰黄褐色シルト質細砂（10YR5/2　焼土・炭化材を含む）	
SP1－3324						SK1-3307になる
SP1－3325	SP1-325	円形	55	52	第24図	
SP1－3326	SP1-326	円形	67	46	第24図	
SP1－3327	SP1-327	円形	30	5	灰色＋灰黄色シルト質細砂（5Y6/1＋2,5Y6/2）	
SP1－3328	SP1-328	円形	18	13	—	
SP1－3329						欠番
SP1－3330	SP1-330	楕円形	20×12	38	—	SK1-3304に切られる
SP1－3331	SP1-331	長方形	30×10	9	—	
SP1－3332	SP1-332	台形	15	10	—	
SP1－3333	SP1-333	不整方形	（32）×（23）	5	—	
SP1－3334	SP1-334	円形	8	31	—	
SP1－3335	SP1-335	円形	18	28	—	
SP1－3336	SP1-336	円形	12×8	22	—	
SP1－3337	SP1-337	不整円形	14×8	17	—	

SP1－3338	SP1-338	円形	23	10	—	
SP1－3339	SP1-339	円形	38×30	14	—	
SP1－3340	SP1-340	不整方形	(27)×27	5	—	
SP1－3341	SP1-341	不整円形	32×25	22	—	
SP1－3342	SP1-342	円形	21	14	灰褐色シルト質細砂(10YR6/2)	
SP1－3343	SP1-343	円形	18	12	灰褐色シルト質細砂(7,5YR4/2)	
SP1－3344	SP1-344	円形	117×(39)	13	灰白色細砂(5Y7/1)＋灰黄色シルト質細砂(2,5Y6/2)	
SP1－3345	SP1-345	円形	(32)×(11)	24	灰黄色シルト質細砂(2,5Y6/2)	
SP1－3346	SP1-346	円形	32以上	33	第24図	
SP1－3347	SP1-347	円形	53	48	第24図	SP1-3346を切る
SP1－3348	SP1-348	円形	50×(23)	34	灰褐色シルト質細砂(10YR6/2炭化材を若干)	SP1-3349と合体
SP1－3349						欠番
SP1－3350	SP1-350	円形	30×25	10	灰褐色シルト質細砂(10YR6/2　炭化材を含む)	
SP1－3351	SP1-351	円形	22	22	灰褐色シルト質細砂(10YR6/2　淡黄色細砂を含む)	
SP1－3352	SP1-352	円形	40	5	—	
SP1－3353						欠番
SP1－3354						欠番
SP1－3355	SP1-355	円形	60×55	9	—	SP1-3374を切る
SP1－3356	SP1-356	円形	40	19	—	SE1-3301を切る
SP1－3357	SP1-357	不整円形	40×26	8	—	
SP1－3358						欠番
SP1－3359						欠番
SP1－3360						欠番
SP1－3361	SP1-361	円形	30	60	—	
SP1－3362	SP1-362	不整長方形	64×33	46	—	根石
SP1－3363	SP1-363	不整楕円形	(38)×21	13	—	
SP1－3364	SP1-364	楕円形	40×35	7	灰褐色シルト質細砂(10YR6/2　焼土を多く含む)	
SP1－3365	SP1-365	円形	22	11	灰褐色シルト質細砂(10YR6/2)	
SP1－3366	SP1-366	円形	24	21	—	
SP1－3367	SP1-367	円形	21	11	—	
SP1－3368	SP1-368	円形	23	12	灰褐色シルト質細砂(10YR6/2　淡黄色細砂を含む)	
SP1－3369	SP1-369	円形	17	4	灰褐色シルト質細砂(10YR6/2　淡黄色細砂を含む)	
SP1－3370	SP1-370	円形	25	4	灰褐色シルト質細砂(10YR6/2　淡黄色細砂を含む)	
SP1－3371	SP1-371	不整形	25	4	灰褐色シルト質細砂(10YR6/2　淡黄色細砂を含む)	
SP1－3372	SP1-372	円形	23×20	9	—	
SP1－3373	SP1-373	不整円形	13×9	2	—	
SP1－3374	SP1-374	不整円形	65×60	25	—	SX1-3302を切り、SP1-3355に切られる
SP1－3375	SP1-375	円形	13	13	—	SP1-3363に切られる
SP1－3376	SP1-376	円形	38	5	—	SX1-3302に切られる
SP1－3377	SP1-377	円形	45	7	—	SX1-3302に切られる
SP1－3378	SP1-378	円形	45	21	—	SX1-3302に切られる
SP1－3379	SP1-379	不整円形	(25)×(20)	34	—	
SP1－3380	SP1-380	円形	18	24	—	
SP1－3381						SP1-3339と同一
SP1－3382	SP1-382	円形	17	22	—	
SP1－3383	SP1-383	楕円形	(21)×20	6	—	
SP1－3384	SP1-384	円形	20	9	—	
SP1－3385	SP1-385	円形	36	54	—	SK1-3303に切られる
SP1－3386	SP1-386	円形	30	43	—	SK1-3303に切られる
SP1－3387	SP1-387	不整円形	60×40	59	—	SP1-3388と合体　SK1-3303に切られる
SP1－3388						欠番
SP1－3389						欠番
SP1－3390						欠番
SP1－3391	SP1-391	不整円形	50×45	45	第25図	SD1-3301を切る
SP1－3392	SP1-392	円形	38×32	40	第25図	SD1-3301を切る
SP1－3393	SP1-393	不整楕円形	80×34	30	第25図	SD1-3301を切り、SP1-3392に切られる
SP1－3394	SP1-394	楕円形	60×40	28	第25図	SD1-3301を切る
SP1－3395	SP1-395	円形	31	20	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭を含む)	SK1-3310を切る
SP1－3396	SP1-396	楕円形	63×49	27	第26図	
SP1－3397						欠番
SP1－3398	SP1-398	円形	35	5	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2　焼土・炭化材を若干含む)	SD1-3302に切られる
SP1－3399	SP1-399	円形	23	25	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP1－3400	SP1-400	不整円形	30	21	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP1－3401	SP1-401	円形	25×(12)	38	灰黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト(2,5Y6/2＋5Y8/3)	
SP1－3402	SP1-402	円形	21	20	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2)	
SP1－3403	SP1-403	楕円形	(27)×20	40	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2)	
SP1－3404	SP1-404	楕円形	29×20	10	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2)	
SP1－3405	SP1-405	円形	27	30	灰黄褐色シルト質細砂＋淡黄色シルト(10YR6/2＋5Y8/3)	SP1-3406を切る
SP1－3406	SP1-406	細い楕円形	(30)×13	3	—	
SP1－3407	SP1-407	円形	15	2	—	
SP1－3408	SP1-408	円形	21	7	—	
SP1－3409	SP1-409	不整形	38×21	19	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP1－3410	SP1-410	円形	10	10	—	
SP1－3411	SP1-411	不整円形	22	18	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	SP1-3413を切る
SP1－3412	SP1-412	不整円形	36×25	29	—	SK1-3304を切る
SP1－3413	SP1-413	不整円形	35×32	21	灰黄褐色シルト質細砂＋淡黄色シルト(10YR6/2＋5Y8/3)	SP1-3411に切られる
SP1－3414	SP1-414	—	(30)×(20)	21	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP1－3415	SP1-415	円形	20	10	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土・炭化材を含む)	
SP1－3416	SP1-416	円形	16	9	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土・炭化材を含む)	
SP1－3417	SP1-417	円形	11	9	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP1－3418	SP1-418	円形	31×27	9	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3)	
SP1－3419	SP1-419	円形	30×24	10	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP1－3420	SP1-420	円形	24	5	にぶい黄色シルト質細砂(2,5Y6/3)	
SP1－3421	SP1-421	不整楕円形	87×45	14	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3　焼土を含む)	SP1-3422に切られる
SP1－3422	SP1-422	円形	28	13	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土・炭化材を含む)	
SP1－3423	SP1-423	円形	43	10	灰黄色シルト質細砂(2,5Y6/2)	

SP1－3424	SP1-424	円形	21	3	にぶい黄褐色シルト質細砂（10YR5/3　焼土・炭化材を含む）	
SP1－3425	SP1-425	円形	21	15	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルト質細砂（5Y8/3）含む）	
SP1－3426	SP1-426	円形	25	14	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルト質細砂（5Y8/3）含む）	
SP1－3427	SP1-427	—	（35）×（30）	5	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2）	
SP1－3428	SP1-428	—	（28）×（27）	13	灰黄褐色シルト質細砂（10YR6/2　焼土・炭化材を含む）	SK1-3313に切られる
SP1－3429	SP1-429	不整円形	38×29	4	灰黄褐色＋淡黄色シルト質細砂（10YR6/2＋5Y8/3）	
SP1－3430						欠番
SP1－3431	SP1-431	楕円形	18×（15）	4	灰黄褐色シルト質細砂（10YR6/2）	SK1-3313に切られる
SP1－3432	SP1-432	円形	16	5	灰黄褐色シルト質細砂（10YR6/2）	
SP1－3433	SP1-433	円形	15	10	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルト質細砂（5Y8/3）含む）	
SP1－3434	SP1-434	円形	25×21	17	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルト質細砂（5Y8/3）含む）	SP1-3435と合体
SP1－3435						欠番
SP1－3436	SP1-436	円形	12	12	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルト質細砂（5Y8/3）含む）	
SP1－3437	SP1-437	円形	17	28	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR7/3）	
SP1－3438	SP1-438	円形	47×（40）	25	土層図	
SP1－3439	SP1-439	円形	17	10	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルト質細砂（5Y8/3）含む）	
SP1－3440	SP1-440	円形？	（67）×（37）	10	土層図	SP1-3441を切る。土坑である
SP1－3441	SP1-441	円形	（77）×（55）	9	土層図	SP1-3440に切られる。土坑である
SP1－3442	SP1-442	円形	35	11	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルト質細砂（5Y8/3）含む）	
SP1－3443	SP1-443	円形	30	33	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルト質細砂（5Y8/3）含み、焼土・炭化材を若干含む）	
SP1－3444						欠番
SP1－3445	SP1-445	不整円形	45	46	にぶい黄褐色＋淡黄色シルト質細砂（10YR5/3＋2,5Y8/3）	SP1-3446を切る。段を有する。
SP1－3446	SP1-446	円形	35	9	灰黄褐色シルト質細砂（10YR5/2）	SP1-3445と3447に切られる
SP1－3447	SP1-447	円形	32×28	13	にぶい黄褐色＋淡黄色シルト質細砂（10YR5/3＋2,5Y8/3）	SP1-3446を切る
SP1－3448	SP1-448	円形	25	5	—	
SP1－3449	SP1-449	不整円形	34×32	7	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルト質細砂・焼土・炭化材を含む）	根石を有す
SP1－3450	SP1-450	不整円形	26	33	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルト質細砂を含む）	
SP1－3451	SP1-451	円形	26	33	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂（10YR6/2＋2,5Y8/2）	
SP1－3452	SP1-452	円形	17	19	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2）	
SP1－3453	SP1-453	不整円形	14×10	15	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂（10YR6/2＋2,5Y8/2）	
SP1－3454						欠番
SP1－3455						欠番
SP1－3456						欠番
SP1－3457						欠番
SP1－3458	SP1-458	円形	15	42	—	
SP1－3459	SP1-459	円形	20	11	—	
SP1－3460	SP1-460	円形	25	38	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3461	SP1-461	円形	49	24	—	根石を有す
SP1－3462	SP1-462	楕円形	45×35	33	灰黄色＋灰白色シルト質細砂（2,5Y6/2＋7/2　炭化材を若干含む）	根石を有す
SP1－3463						欠番
SP1－3464	SP1-464	円形	18	11	—	
SP1－3465	SP1-465	円形	28	11	—	根石を有す
SP1－3466	SP1-466	不整円形	46	26	—	根石を有す
SP1－3467	SP1-467	円形	20	42	暗灰黄色シルト質細砂（2,5Y5/2）	
SP1－3468	SP1-468	円形	28×22	5	—	
SP1－3469	SP1-469	楕円形	（30）×30	36	灰黄色＋灰白色シルト質細砂（2,5Y6/2＋7/2　炭化材を若干含む）	SK1-2212に切られる
SP1－3470	SP1-470	円形	20	23	灰黄色＋灰白色シルト質細砂（2,5Y6/2＋7/2　炭化材を若干含む）	段を有する
SP1－3471	SP1-471	円形	21	17	灰黄色＋灰白色シルト質細砂（2,5Y6/2＋7/2　炭化材を若干含む）	
SP1－3472	SP1-472	楕円形	（52）×40	26	灰黄色シルト質細砂（2,5Y6/2）	SP1-3490と重複
SP1－3473	SP1-473	円形	—	32	灰白色シルト質細砂（2,5Y7/1＋7/1）	
SP1－3474	SP1-474	不整楕円形	46×28	33	黄灰色＋灰白色シルト質細砂（2,5Y6/1＋10YR7/1）	
SP1－3475						欠番
SP1－3476	SP1-476	円形	19×12	5	黄灰色＋灰白色シルト質細砂（2,5Y6/1＋10YR7/1）	
SP1－3477	SP1-477	円形	28×25	20	灰白色細砂＋灰黄褐色シルト質細砂（5Y8/2＋10YR5/2）	
SP1－3478	SP1-478	円形	20×16	20	灰黄褐色シルト質細砂（10YR6/2）	
SP1－3479	SP1-479	円形	20×16	11	黄灰色＋灰白色シルト質細砂（2,5Y6/1＋10YR7/1）	
SP1－3480	SP1-480	円形	14	9	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2）	
SP1－3481	SP1-481	円形	29×24	48	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2）	
SP1－3482	SP1-482	円形	27×24	24	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　炭化材粒を若干含む）	
SP1－3483	SP1-483	円形	30×27	35	褐灰色シルト質細砂（10YR6/1　淡黄色シルトを含む）	SP1-3484と合体
SP1－3484						欠番
SP1－3485	SP1-485	円形	18×15	12	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3486	SP1-486	円形	33	6	褐灰色シルト質細砂（10YR6/1　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3487	SP1-487	円形	30×25	32	褐灰色シルト質細砂（10YR6/1　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3488	SP1-488	楕円形	33×26	53	灰黄色＋灰白色シルト質細砂（2.5Y6/2＋7/2　炭化材を若干含む）	
SP1－3489	SP1-489	不整円形	55	23	灰褐色＋淡黄色シルト質細砂（7.5YR5/2＋2.5Y8/3）	SP1-3490と接続
SP1－3490	SP1-490	楕円形	87	13	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2）	SP1-3489と接続
SP1－3491	SP1-491	円形	24×18	19	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3492	SP1-492	円形	19×14	16	褐灰色シルト質細砂（10YR4/1）	
SP1－3493	SP1-493	円形	44×38	32	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3494	SP1-494	円形	20	17	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3495						欠番
SP1－3496	SP1-496	不整円形	33	18	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	SP1-3461に切られる
SP1－3497	SP1-497	不整円形	25	7	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/3）	
SP1－3498	SP1-498	円形	20	17	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルト質細砂を含む）	
SP1－3499	SP1-499	円形	24	23	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　炭化材粒を若干含む）	
SP1－3500						SP1-3503と合体
SP1－3501	SP1-501	円形	15×13	13	灰黄色＋灰白色シルト質細砂（2,5Y6/2＋7/2　炭化材を若干含む）	
SP1－3502	SP1-502	円形	27	34	にぶい黄褐色シルト質細砂（10YR5/3）	
SP1－3503	SP1-503	楕円形	34×27	41	褐灰色＋淡黄色シルト質細砂（10YR5/1+2.5Y8/3）	
SP1－3504	SP1-504	不整円形	27×16	23	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3505	SP1-505	円形	22×16	13	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3506	SP1-506	楕円形	52×30	49	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3507	SP1-507	円形	45×40	9	—	

SP1－3508	SP1-508	不整楕円	58×48	28	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3509	SP1-509	楕円形	38×（17）	21	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3510	SP1-510	円形	23	16	灰黄褐色シルト質細砂（10YR4/2　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3511	SP1-511	不整円形	83×（57）	8	褐灰色シルト質細砂（10YR6/1　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3512	SP1-512	円形	36	6	褐灰色シルト質細砂（10YR6/1　淡黄色シルトを含む）	
SP1－3513	SP1-513	円形	30	31	灰黄色シルト質細砂（2.5Y6/2＋7/2）	
SP1－3514	SP1-514	不整円形	45	6	—	
SP1－3515	SP1-515	円形	26	11	—	
SP1－3516	SP1-516	円形	30×25	29	—	
SP1－3517	SP1-517	楕円形	33×25	4	—	
SP1－3518	SP1-518	不整円形	27	4	—	
SP1－3519	SP1-519	円形	20×17	2	—	
SP1－3520	SP1-520	円形	26×23	8	—	
SP1－3521	SP1-521	楕円形	（62）×45	10	—	
SP1－3522	SP1-522	円形	11	7		
SP1－3523		円形	45	15	—	
ST1－3301	ST1-301					
ST1－3302	ST1-302					
SE1－3301	SE1-201		37.5	110	第28図	
SE1－3302						欠番
SE1－3303	SE1-301	円形	122以上	38		
SX1－3301	SX1-301	不整形		5	—	
SX1－3302	SX1-302	不整形		5	—	
SX1－3303	SX1-303	不整形		10	—	
SX1－3304	SX1-304	不整形		25	—	
SX1－3305	SX1-305	不整形		52	—	
SX1－3306	SX1-306	不整形		5	—	
SX1－3307	SX1-307	不整形		13	—	
SX1－3308	SX1-308	不整形		9	—	

2区　第1面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SK2－1101	SK2-101	楕円形	82×72	22	第34図	
SK2－1102	SK2-102	長方形	（193）×97	29	第34図	
SK2－1103	SK2-103	不明	（111）×（95）	24	第34図	
SK2－1104	SK2-104	不整円形	168×（129）	38	第35図	
SK2－1105	SK2-105	不明	（124）×（45）	35	—	
SK2－1106	SK2-106	方形	（74）×85	24	第37図	
SK2－1107	SK2-107	楕円形	86×70	19	—	
SK2－1108	SE2-103	円形	286	115	第38図	
SP2－1101	SP2-101	円形	25	24	—	
SP2－1102	SP2-102	円形	40×36	30	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2　焼土、炭化材を含む)	
SP2－1103	SP2-103	不明	（10）	19	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2　焼土、炭化材を含む)	
SP2－1104	SP2-104	円形	25	48	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2　焼土、炭化材を含む)	
SE2－1101	SE2-101	方形	（140）			土器枠
SE2－1102	SE2-102	方形	135			土器枠

2区　第2面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SK2－2201	SK2-201	円形	82	19	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土、炭化材を若干含む)	
SK2－2202	SK2-202	不明	（125）	17	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2　焼土、炭化材を多量に含む)	
SK2－2203	SK2-203	楕円形	100×76	33	第44図	
SK2－2204	SK2-204	不整方形	（93）	27	第44図	
SK2－2205	SK2-205	不明	（117）	26	第44図	
SK2－2206	SK2-206	隅丸長方形	192×120	37	第45図	
SK2－2207	SK2-207	隅丸長方形	190×143	26	第46図	
SP2－2201	SP2-201	円形	34	23	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2)	
SP2－2202	SP2-202	円形	28	14	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2)	
SP2－2203	SP2-203	楕円形	（30）×28	5	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2)	
SP2－2204	SP2-204	方形	（50）×（45）	36	—	
SP2－2205	SP2-205	楕円形	（65）×（35）	11	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR6/3　焼土、炭化材を若干含む) 褐灰色＋淡黄色シルト質細砂(10YR5/1＋5Y8/3)	
SP2－2206	SP2-206	楕円形	80×60	28	第48図	SP2-2207と繋がる
SP2－2207	SP2-207	溝状	（80）×32	7	第48図	丸瓦
SP2－2208	SP2-208	円形	70	26	第48図	SP2-2207と繋がる
SP2－2209	SP2-209	楕円形	90×72	23	第47図	段を有す
SP2－2210	SP2-210	楕円形	60×40	48	浅黄色＋にぶい黄褐色シルト質細砂(2.5Y7/3＋10YR5/3　焼土、炭化材を含む) 浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3)	段を有す
SP2－2211	SP2-211	円形	23×20	35	—	
SP2－2212						欠番
SP2－2213	SP2-213	円形	22	20	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3)	
SP2－2214	SP2-214	円形	25	10	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3)	
SP2－2215	SP2-215	円形	30×25	37	—	SP2-2208に切られる
SP2－2216	SP2-216	円形	52	50	第47図	SX2-2201に切られる SP2-2217を切る
SP2－2217	SP2-217	円形	75×70	13	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2)	SP2-2216に切られる
SX2－2201	SX2-201	不整形	（300）×145	25	灰黄褐色シルト質細砂＋焼土(10YR6/2　炭化材を含む) 淡黄色細砂＋灰黄褐色シルト質細砂(5Y8/3＋10YR6/2)	

2区　第3面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD2－3301	SD2-301		70	14	第51図	
SD2－3302	SD2-302		45～81	8	灰白色細砂(5Y8/2)	SD2-3301に切られる
SD2－3303	SK2-302		126～171	76	第52図	
SK2－3301	SK2-301	方形	（260）×275	93	第57図	

SK2－3303	SK2-303	楕円形	78×63	10	灰白色細砂＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y8/2＋7/1)	
SK2－3304	SK2-304	不整円形	61×50	26	第66図	
SK2－3305	SK2-305	不明	(121)×(80)	17	灰白色細砂＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y8/1＋7/2) 灰白色細砂＋黄灰色＋明灰黄色シルト質細砂(2.5Y8/1＋7/2＋5/2)	
SK2－3306	SE2-301	円形	(145)×(115)	36	—	
SK2－3307	SP2-304	方形	(110)×(56)	31	—	
SP2－3301	SP2-301	円形	33	26	灰黄色＋灰白色シルト質細砂(2.5Y7/2＋8/2)	
SP2－3302	SP2-302	円形	23	4	—	
SP2－3303	SP2-303	円形	20	13	浅黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/3＋7/2　焼土、炭化材を含む)	
SX2－3301	SX2-301	方形	332×(250)	16	灰白色細砂＋灰白色シルト質細砂(5Y7/1＋7/2) 灰白色＋淡黄色細砂＋灰白色シルト(2.5Y8/2＋8/3＋5Y8/2)	

2区　第4面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD2－4401	SD2-401		105	33	第69図	
SP2－4401	SP2-401	円形	32×28	23	浅黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/3＋7/2　灰白色細砂若干含む)	SP2-4402を切る
SP2－4402	SP2-402	楕円形	(63)×52	10	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2＋7/2)	SP2-4401に切られる
SP2－4403	SP2-403	円形	23	14	浅黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/3＋7/2　灰白色細砂若干含む)	
SP2－4404	SP2-404	円形	71×(44)	9	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2＋7/2)	
SP2－4405	SP2-405	円形	36	9	—	SX2-4401を切る
SP2－4406	SP2-406	円形	23	13	浅黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/3＋7/2　灰白色細砂若干含む)	
SP2－4407						欠番
SP2－4408	SP2-408	円形	44	24	—	
SP2－4409	SP2-409	円形	25	19	—	
SE2－4401	SE2-401	円形	203	134	第70図	
SX2－4401	SX2-401	円形	(95)	10	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3　灰白色細砂を含む)	

2区　第5面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD2－5501	SD2-501		12～17	6	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　灰白色細砂を含む)	
SK2－5501	SK2-501	不整円形	63×52	12	灰黄色シルト質細砂＋灰白色細砂(2.5Y6/2＋8/1)	
SK2－5502	SK2-502	楕円形	112×73	24	灰白色細砂＋灰黄色シルト質細砂(5Y7/1＋6/2)	
SK2－5503	SK2-503	楕円形	75×60	17	灰白色シルト質細砂(2.5Y7/1＋8/1)	
SK2－5504	SK2-504	楕円形	82×62	8	—	
SP2－5501	SP2-501	円形	45×42	20	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/3) 灰白色細砂＋灰黄色シルト質細砂(5Y8/2＋2.5Y6/2)	
SP2－5502	SP2-502	円形	17	8	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP2－5503	SP2-503	円形	17	15	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP2－5504	SP2-504	円形	26	8	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP2－5505	SP2-505	楕円形	48×35	33	黒褐色シルト質極細砂＋灰黄色シルト質細砂(10YR3/1+2.5Y6/2) 暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2)	SD2-5501に切られる
SP2－5506	SP2-506	不整楕円形	57×45	16	灰白色細砂＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y8/2＋7/2)	
SP2－5507	SP2-507	円形	32	13	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/4　灰白色細砂を含む)	
SP2－5508	SP2-508	楕円形	45×34	11	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　灰白色細砂を含む)	
SP2－5509	SP2-509	不整円形	33×29	14	黄灰色シルト質細砂(2.5Y6/1)	
SP2－5510	SP2-510	円形	24	11	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP2－5511	SP2-511	楕円形	(41)×34	5	—	
SP2－5512	SP2-512	楕円形	(25)×23	12	黄灰色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/1＋6/2)	
SP2－5513	SP2-513	不整円形	20	13	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP2－5514	SP2-514	円形	18	12	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP2－5515	SP2-515	円形	13	13	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP2－5516	SP2-516	円形	20	8	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP2－5517	SP2-517	円形	32×29	10	灰白色シルト質細砂(5Y7/2　灰白色細砂を含む)	
SP2－5518	SP2-518	円形	34	16	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　灰白色細砂を含む)	

3区　第1面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SX3－1101	SX3-101	不明		14	焼土(褐灰色シルト質細砂、灰白色シルトブロックを含む)	

3区　第2面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SP3－2201						欠番
SP3－2202	SP3-202	円形	30	10	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3　焼土を含む)	
SP3－2203	SP3-203	円形	25×20	17	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3　焼土を含む)	
SP3－2204	SP3-204	円形	32	32	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3　焼土を含む)	
SP3－2205	SP3-205	楕円形	55×45	20	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2　炭化材を若干含む)	
SP3－2206	SP3-206	円形	(60)×(39)	12	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2　炭化材を若干含む)	

3区　第3面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD3－3301	SD3-301		43	15	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP3－3301	SP3-301	不整円形	30×24	22	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP3－3302	SP3-302	不整円形	21×18	11	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP3－3303	SP3-303	円形	20	15	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP3－3304	SP3-304	円形	32×(21)	10	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR4/3)	

4区　第1面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SK4－1101	SK4-101	円形	138	68	—	備前焼大甕
SK4－1102	SK4-102	円形	(340)	8	—	SP4-1101・1102に切られる
SK4－1103	SK4-103	隅丸方形	155×(75)	7	浅黄色＋黄褐色シルト質細砂(2.5Y6/3＋5/3　焼土、炭化材を若干含む)	SP4-1102・1108に切られる
SK4－1104	SK4-104	方形？	(63)×(46)	5	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土を若干含む)	
SK4－1105	SK4-105	隅丸方形	137×(62)	10	にぶい橙色＋にぶい黄橙色シルト質細砂(5YR6/3＋10YR6/3)	
SK4－1106	SK4-106	楕円形	75×(40)	14	にぶい黄橙色＋浅黄色シルト質細砂(10YR6/3＋2.5Y7/3)	
SK4－1107	SK4-107	楕円形	(78)×65	7	—	
SK4－1108	SK4-108	円形	80	10	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR5/3　焼土を若干含む)	

SK4－1109	SK4-109	方形？	(58)×(54)	45	—	
SK4－1110	SK4-110	円形？	103×(46)	17	—	
SK4－1111	SK4-111	隅丸方形	(103)×82	15	—	
SK4－1112	SK4-112	方形	285×(44)	19	—	
SK4－1113	SK4-113	円形	90×(73)	17	—	
SK4－1114	SK4-114	隅丸方形	(100)×(50)	30	—	
SK4－1115	SK4-115	不整円形	127×93	13	灰黄褐色＋黄灰色シルト質細砂(10YR6/2＋2.5Y6/1　焼土、炭化材を若干含む)	
SK4－1116	SK4-116	不整楕円形	145×(60)	7	黄灰色＋浅黄色シルト質細砂(2.5Y6/1＋5Y7/3)	
SK4－1117	SK4-117	円形？	98×(48)	42	—	
SP4－1101	SP4-101	円形	50×46	16	焼土、灰、炭化材	埋甕
SP4－1102	SP4-102	円形	64×60	12	焼土、灰、炭化材	埋甕
SP4－1103	SP4-103	円形	18	20	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	SK4-1107を切る
SP4－1104	SP4-104	円形	20	23	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土を若干含む)	
SP4－1105	SP4-105	円形	27	14	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP4－1106	SP4-106	楕円形	42×25	12	—	SP4-1107を切る
SP4－1107	SP4-107	楕円形	(62)×52	11	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3)	SK4-1105,SP4-1106に切られる
SP4－1108	SP4-108	円形	42×36	22	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土を若干含む)	
SP4－1109	SP4-109	円形	(40)×(22)	8	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土を若干含む)	
SP4－1110	SP4-110	円形	30	16	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP4－1111	SP4-111	楕円形	80×40	6	—	
SP4－1112	SP4-112	楕円形	65×(40)	7	—	
SP4－1113	SP4-113	不明	(30)×(28)	7	—	SK4-1109に切られる
SP4－1114	SP4-114	円形	40	6	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR5/3　焼土を若干含む))	
SP4－1115	SP4-115	円形	42×37	3	にぶい黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト(2.5Y6/3＋8/4)	
SP4－1116	SP4-116	楕円形	37×26	13	にぶい黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト(2.5Y6/3＋8/4)	
SP4－1117	SP4-117	円形？	56	3	にぶい黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト(2.5Y6/3＋8/4)	
SP4－1118	SP4-118	円形	60×70	10	にぶい黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト(2.5Y6/3＋8/4)	SP4-1123を切る
SP4－1119	SP4-119	楕円形	50×46	9	にぶい黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト(2.5Y6/3＋8/4)	
SP4－1120	SP4-120	円形	38	7	にぶい黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト(2.5Y6/3＋8/4)	
SP4－1121						欠番
SP4－1122	SP4-122	円形	28	10	黄灰色＋灰白色シルト質細砂(2.5Y6/1＋8/1)	
SP4－1123	SP4-123	不整楕円形	115×81	8	黄灰色＋浅黄色シルト質細砂(2.5Y6/1＋5Y7/3)	
SP4－1124	SP4-124	円形	67×58	13	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR7/3)	
SP4－1125	SP4-125	円形	60	15	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3　焼土を少量含む)	埋甕
SE4－1101	SE4-101	円形	(140)×(127)		—	土器の井戸枠

4区　第2面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD4－2201	SD4-201		73	8～25	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3　締まりがなく、瓦を多量に出土)	
SD4－2202	SD4-202		30～78	7～19	—	石組み
SD4－2203						欠番
SD4－2204	SD4-204		16～48	2～9	灰黄褐色＋にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/2＋6/3)	
SK4－2201	SK4-201	楕円形	110×84	21	第94図	
SK4－2202	SK4-202	不明	(40)	32	南壁土層図	
SK4－2203	SK4-203	長方形	226	38	土層図	
SK4－2204	SK4-204	楕円形	110×(42)	25	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3　瓦が多量に出土)	
SK4－2205	SK4-205	楕円形	94×(43)	16	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3　瓦が多量に出土)	
SK4－2206	SK4-206	不整円形	72×(70)	23	—	
SK4－2207	SK4-207	不明	(190)×(105)	28	—	
SK4－2208	SK4-208	円形	108	31	第95図	
SK4－2209	SK4-209	円形？	97×(55)	29	—	
SK4－2210	SK4-210	楕円形	88×70	20	—	
SK4－2211	SK4-211	楕円形	(237)×145	44	灰白色シルト＋灰黄色シルト質細砂(7.5Y8/1＋2.5Y6/2)	
SK4－2212	SK4-212	楕円形	(94)×105	25	黄褐色シルト質細砂(2.5Y5/3)	第2面下層
SK4－2213	SK4-213	円形	115×111	7	褐色シルト質細砂(10YR4/4　焼土・炭化材を含む)	第2面下層
SK4－2214	SK4-214	円形	105×(40)	43	第106図	第2面下層
SK4－2215	SK4-215	溝状	55	18	焼土・炭化材	第2面下層
SK4－2216	SK4-216	楕円形	117×75	28	黄褐色シルト質細砂(2.5Y5/3)	第2面下層
SK4－2217	SK4-217	不整楕円形	(136)×101	30	灰白色細～粗砂(10YR7/4)	第2面下層
SP4－2201	SP4-201	円形	43	24	—	
SP4－2202						欠番
SP4－2203	SP4-203	円形	45	28	第97図	植物遺体
SP4－2204	SP4-204	円形	60×53	15	第97図	石
SP4－2205	SP4-205	円形	80×75	13	—	SP4-2203に切られ、SP4-2206を切る
SP4－2206	SP4-206	円形？	(16)	4	—	
SP4－2207	SP4-207	不整円形	80×73	39	第97図	石
SP4－2208	SP4-208	円形？	25×(7)	11	—	
SP4－2209	SP4-209	円形	50×45	22	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP4－2210	SP4-210	円形	28×(16)	20	褐灰色シルト質細砂(10YR5/1　焼土を若干含む)	
SP4－2211	SP4-211	楕円形	57×42	34	灰黄褐色＋褐灰色シルト質細砂(10YR5/2＋5/1　締まりなし)	
SP4－2212	SP4-212	楕円形	45×32	5	—	石
SP4－2213	SP4-213	不明	—	—	—	根石
SP4－2214	SP4-214	円形	33	21	焼土を多く含む	
SP4－2215	SP4-215	円形	60	8	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　焼土・炭化材を若干含む)	埋甕
SP4－2216	SP4-216	円形	38×32	15	にぶい黄橙色＋灰白色シルト質細砂 (10YR5/3＋2.5Y7/3　焼土を若干含む)	
SP4－2217	SP4-217	円形	30×23	23	にぶい黄橙色＋灰白色シルト質細砂(10YR6/3＋7/1　焼土を若干含む)	
SP4－2218						欠番
SP4－2219	SP4-219	円形	23×17	6	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR7/3　焼土を若干含む)	
SP4－2220	SP4-220	円形	58	44	—	埋甕
SP4－2221	SP4-221	—	—	—	—	根石
SP4－2222	SP4-222	円形	65×(55)	8	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2)	SD4-2202に切られる
SP4－2223	SP4-223	円形	40×35	7	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2)	
SP4－2224	SP4-224	円形	45	28	浅黄色＋灰白色シルト質細砂(2.5Y7/3+8/2　焼土・炭化材を含む)	
SP4－2225	SP4-225	円形	28×22	9	浅黄色＋灰白色シルト質細砂(2.5Y7/3+8/2　焼土・炭化材を含む)	

SP4－2226	SP4-226	円形	30	14	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2)	
SP4－2227	SP4-227	円形	43×(35)	5	浅黄色＋灰白色シルト質細砂(2.5Y7/3+8/2　焼土・炭化材を含む)	
SP4－2228						欠番
SP4－2229	SP4-229	楕円形	52×42	16	—	埋甕
SP4－2230	SP4-230	円形	41	6	—	埋甕
SP4－2231	SP4-231	円形	32×(16)	13		
SP4－2232	SP4-232	円形	30	6	焼土	
SP4－2233	SP4-233	円形	24×20	18	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR7/4)	
SP4－2234	SP4-234	円形	45×(20)	33	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	第2面下層
SP4－2235	SP4-235	円形	25×(13)	9	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土を若干含む)	第2面下層
SP4－2236	SP4-236	円形	38×30	20	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土を若干含む)	第2面下層
SP4－2237	SP4-237	円形	29×25	31	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土を若干含む)	第2面下層
SP4－2238	SP4-238	円形	12	21	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土を若干含む)	第2面下層
SP4－2239	SP4-239	円形	30×27	7	褐色シルト質細砂(7.5YR4/3　炭化材を若干含む)	第2面下層
SP4－2240	SP4-240	円形	40×(28)	8	褐色シルト質細砂(7.5YR4/3　炭化材を若干含む)	第2面下層
SE4－2201	SE4-201	不整円形	259×225	115	第99図	井戸枠
SE4－2202	SE4-202	不整円形	360	100	第100図	
SE4－2203	SE4-203	円形	(130)	100	第107図	第2面下層
SE4－2204	SE4-301	円形	386	135	第101図	
SE4－2205	SE4-302	円形	247	115	第102図	
SX4－2201	SX4-201	楕円形	125×102	6	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3)	
SX4－2202	SX4-202	円形	220	9	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を含む)	
SX4－2203	SX4-203	長方形	(140)×92	8	—	
SX4－2204	SX4-204	円形	(145)×(105)	14	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2)	第2面下層
SX4－2205	SX4-205	不明	(238)×(33)	6	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR7/4)	第2面下層

4区　第3面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD4－3301	SD4-301		15～27	5	—	
SD4－3302	SD4-302		18～23	7	—	
SK4－3301	SK4-301	楕円形？	(75)×(37)	32	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2)	
SK4－3302	SK4-302	円形	97×113	42	第109図	
SK4－3303	SK4-303	不明	(114)×(66)	22	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SK4－3304	SK4-304	円形	(93)×(90)	30	にぶい黄褐色＋にぶい黄色シルト質細砂(10YR5/3＋2.5Y6/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SK4－3305	SK4-305	円形	102	17	明灰黄色＋灰黄褐色シルト質細砂(2.5Y5/2＋10YR4/2)	
SK4－3306	SK4-306	隅丸方形	86×(25)	7	淡黄色シルト質細砂＋淡黄色シルト(2.5Y8/4＋5Y8/4)	
SK4－3307	SK4-307	円形	100×84	28	黄褐色＋にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y5/3＋7/3)	
SK4－3308	SK4-308	不整円形	115×(92)	15	灰黄褐色＋暗灰黄色シルト質細砂(10YR4/2＋2.5Y5/2　礫を多量に含む)	
SK4－3309	SK4-309	不整楕円形	110×(80)	98	第109図	
SP4－3301	SP4-301	円形	30	13	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3)	
SP4－3302	SP4-302	円形	15	4	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2　焼土を含む)	
SP4－3303	SP4-303	円形	37	23	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3)	
SP4－3304	SP4-304	楕円形	40×36	45	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2　焼土を含む)	
SP4－3305	SP4-305	円形	45	7	灰黄褐色＋にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/2＋6/3)	
SP4－3306	SP4-306	円形	44	51	灰黄褐色シルト質細砂＋淡黄色シルト(10YR5/2＋5Y8/3) 灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2) 灰黄褐色＋にぶい黄色シルト質細砂(10YR5/2＋2.5Y6/3)	
SP4－3307	SP4-307	円形	45	10	灰黄褐色＋にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5/3)	
SP4－3308	SP4-308	円形	(32)×(13)	6	—	SP4-3309と合体
SP4－3309						欠番
SP4－3310	SP4-310	円形	30	20	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2　焼土・炭化材を含む)	
SP4－3311	SP4-311	円形	37	47	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2　焼土・炭化材を含む)	
SP4－3312	SP4-312	円形	28	9	—	
SP4－3313	SP4-313	円形	30	7	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP4－3314	SP4-314	円形	29	50	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP4－3315	SP4-315	円形	22	37	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP4－3316	SP4-316	円形	29×24	35	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/1＋4/2)	
SP4－3317						SP4-3318と合体
SP4－3318	SP4-318	隅丸方形	76×(45)	19	—	
SP4－3319	SP4-319	円形	42	33	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2) 灰黄褐色＋浅黄色シルト質細砂(10YR＋2.5Y7/3)	石
SP4－3320	SP4-320	不整円形	65×(32)	7	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	SP4-3321・3322・3334に切られる
SP4－3321	SP4-321	不整円形	40	16	灰黄色シルト質細砂(10YR6/2)	石
SP4－3322	SP4-322	円形	75×62	41	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR7/2＋6/3) にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3)	
SP4－3323	SP4-323	円形	31	52	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3324	SP4-324	円形	30×21	29	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2)	
SP4－3325	SP4-325	円形	15	8	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP4－3326						欠番
SP4－3327	SP4-327	円形	23	16	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP4－3328	SP4-328	円形	48×42	29	第110図	
SP4－3329						欠番
SP4－3330	SP4-330	円形	17	23	灰黄色シルト質細砂(10YR5/2)	
SP4－3331	SP4-331	不整円形	33	43	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	SP4-3371を切る
SP4－3332	SP4-332	円形	28	13	—	石
SP4－3333						欠番
SP4－3334	SP4-334	楕円形	47×28	29	—	
SP4－3335	SP4-335	円形	20	9	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP4－3336	SP4-336	円形	28	15	暗灰黄色＋褐灰色シルト質細砂(2.5Y5/2＋10YR4/1)	
SP4－3337	SP4-337	円形	12	9	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP4－3338	SP4-338	円形	14	7	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP4－3339	SP4-339	円形	24	10	—	
SP4－3340	SP4-340	円形	25	11	暗灰黄色＋褐灰色シルト質細砂(2.5Y5/2＋10YR4/1)	
SP4－3341	SP4-341	円形	19	14	—	
SP4－3342	SP4-342	楕円形	35×29	15	褐灰色シルト質細砂(10YR6/1　灰白色シルト質細砂・炭化材を含む)	

SP4－3343	SP4-343	楕円形	40×32	27	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2　焼土・炭化材を含む)	
SP4－3344	SP4-344	円形	29	21	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP4－3345	SP4-345	円形	42	9	灰白色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y8/1＋6/2)	
SP4－3346	SP4-346	円形	24	20	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP4－3347	SP4-347	円形	37	24	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3348	SP4-348	楕円形	(36)×24	39	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3349	SP4-349	円形	25	7	灰黄色＋灰黄褐色シルト質細砂(2.5Y6/＋10YR5/2)	
SP4－3350	SP4-350	楕円形	23×18	7	褐灰色＋灰白色シルト質細砂(10YR5/1＋2.5Y7/1)	
SP4－3351	SP4-351	不整円形	28×26	26	褐灰色シルト質細砂(10YR6/1　灰白色シルト質細砂・炭化材を含む)	
SP4－3352	SP4-352	円形	33	12	灰黄色＋灰黄褐色シルト質細砂(2.5Y6/＋10YR5/2)	
SP4－3353	SP4-353	楕円形	47×35	21	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP4－3354	SP4-354	円形	22	9	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2)	
SP4－3355	SP4-355	楕円形	27	40	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP4－3356	SP4-356	楕円形	38×27	42	褐灰色シルト質細砂(10YR6/1)	
SP4－3357						欠番
SP4－3358	SP4-358	円形	25	25	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP4－3359	SP4-359	円形	36×32	51	—	
SP4－3360	SP4-360	円形	32	16	褐灰色シルト質細砂(10YR6/1　灰白色シルト質細砂・炭化材を含む)	SP4-3303に切られる
SP4－3361	SP4-361	円形	16	11	—	SP4-3322に切られる
SP4－3362	SP4-362	円形	24	56	—	SP4-3318に切られる
SP4－3363						欠番
SP4－3364	SP4-364	不整円形	60×45	8	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP4－3365	SP4-365	円形	25	38	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP4－3366	SP4-366	円形	50	32	—	
SP4－3367	SP4-367	円形	27	24	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP4－3368	SP4-368	円形	32	9	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2)	
SP4－3369	SP4-369	円形	20	8	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP4－3370	SP4-370	円形	40×33	30	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2)	
SP4－3371	SP4-371	円形	33	52	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2)	
SP4－3372	SP4-372	不整円形	37×27	13	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2　焼土を含む)	
SP4－3373	SP4-373	三角形	15	6	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2　焼土を含む)	
SP4－3374	SP4-374	円形	50×(29)	6	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2)	SD4-3301を切る
SP4－3375	SP4-375	円形	24	8	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2　焼土を含む)	
SP4－3376	SP4-376	円形	63×50	9	—	
SP4－3377	SP4-377	楕円形	28×17	7	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2)	SP4-3378を切る
SP4－3378	SP4-378	円形	21	4	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2)	
SP4－3379	SP4-379	円形	63×(31)	23	暗灰黄色シルト質細砂＋灰白色細砂(2.5Y5/2＋5Y8/1) 灰白色細砂(5Y8/1)	SP4-3380を切る
SP4－3380	SP4-380	不整円形	45×(36)	5	黄褐色シルト質細砂(2.5Y5/3)	
SP4－3381	SP4-381	円形	20×17	11	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP4－3382	SP4-382	円形	18	11	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/1)	
SP4－3383	SP4-383	円形	35×32	40	浅黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/3＋6/2　焼土・炭化材を含む)	
SP4－3384	SP4-384	円形	34×29	32	黒褐色シルト質細砂(10YR3/2)	
SP4－3385	SP4-385	円形	19×16	13	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/1)	
SP4－3386	SP4-386	円形	17	11	黒褐色シルト質細砂(10YR3/2)	
SP4－3387	SP4-387	円形	30	34	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/1)	
SP4－3388	SP4-388	円形	17	17	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/1)	
SP4－3389	SP4-389	円形	21×18	19	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/1)	
SP4－3390	SP4-390	円形	30	12	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/2)	
SP4－3391	SP4-391	円形	13×10	23	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/3)	SK4-2212に切られる
SP4－3392	SP4-392	円形	20×18	25	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/4)	SK4-2213に切られる
SP4－3393	SP4-393	楕円形	72×30	31	黒褐色シルト質細砂(10YR3/2)	3個のピット
SP4－3394	SP4-394	円形	20×18	13	灰黄色＋浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/2＋7/4)	
SP4－3395	SP4-395	円形	30×(28)	22	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2)	SE4-2202に切られる
SP4－3396	SP4-396	円形	18	8	灰黄色＋暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP4－3397	SP4-397	円形	30×23	6	灰黄色＋暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2＋5/3　炭化材を若干含む)	
SP4－3398	SP4-398	円形	35×32	7	灰黄色＋暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2＋5/4　炭化材を若干含む)	
SP4－3399	SP4-399	円形	18×15	10	暗灰黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2＋6/2　灰白色細砂を含む)	
SP4－3400	SP4-400	円形	34×30	11	灰黄色＋暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2＋5/4　炭化材を若干含む)	
SP4－3401	SP4-401	円形	30	23	灰黄色＋暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2＋5/5　炭化材を若干含む)	石
SP4－3402	SP4-402	円形	22	8	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3403	SP4-403	円形	24×(17)	22	褐灰色シルト質細砂(10YR4/2)	2個のピット
SP4－3404	SP4-404	楕円形	55×20	25	褐灰色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP4－3405	SP4-405	円形	37×(22)	12	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y8/1＋5/1　焼土・炭化材を若干)	SK4-3309・SP4-3403に切られる
SP4－3406	SP4-406	円形	18	13	褐灰色シルト質細砂(10YR4/3)	
SP4－3407	SP4-407	楕円形	27×(25)	19	黄灰色シルト質細砂(2.5Y4/1)	
SP4－3408	SP4-408	楕円形？	(56)×(30)	19	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3)	
SP4－3409	SP4-409	円形	25	35	褐灰色シルト質細砂(10YR4/3)	SK4-3307に切られる
SP4－3410	SP4-410	円形	24	23	灰白色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y8/2＋7/2　灰白色細砂を含む)	SP4-3411に切られる
SP4－3411	SP4-411	楕円形	35×24	36	褐灰色シルト質細砂(10YR4/3)	SP4-3410を切る
SP4－3412	SP4-412	楕円形	37×(31)	21	褐灰色シルト質細砂(10YR4/4)	
SP4－3413	SP4-413	円形	22	18	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/1)	
SP4－3414	SP4-414	円形	32	24	灰白色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y8/2＋7/2　灰白色細砂を含む)	
SP4－3415	SP4-415	円形？	25×(24)	7	黄灰色＋灰白色シルト質細砂(2.5Y6/1＋7/1　白色細砂を含む)	
SP4－3416	SP4-416	円形	20	19	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/1)	
SP4－3417	SP4-417	円形	40×32	27	黄灰色＋浅黄色シルト質細砂(2.5Y5/1＋7/3　焼土を若干含む)	
SP4－3418	SP4-418	円形	23×(18)	23	灰白色細砂＋灰白色シルト質細砂(2.5Y8/1＋7/1)	
SP4－3419	SP4-419	楕円形	41×25	15	黄灰色＋浅黄色シルト質細砂(2.5Y5/1＋7/3)	
SP4－3420	SP4-420	円形	21	14	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂 (10YR5/2＋2.5Y8/1焼土・炭化材を若干含む)	
SP4－3421	SP4-421	円形	27	21	黄灰色＋浅黄色シルト質細砂(2.5Y5/1＋7/3　焼土を若干含む)	SP4-3422を切る
SP4－3422	SP4-422	円形	(37)×31	26	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	SP4-3421に切られる
SP4－3423	SP4-423	円形	32	18	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3424	SP4-424	円形	20	6	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/1)	
SP4－3425	SP4-425	円形	22	13	灰白色細砂＋灰白色シルト質細砂(2.5Y8/1＋7/1)	
SP4－3426	SP4-426	円形	16	7	灰白色細砂＋灰白色シルト質細砂(2.5Y8/1＋7/1)	

SP4－3427	SP4-427	円形	26	35	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3428	SP4-428	円形	25×22	18	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3429	SP4-429	円形	23	29	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3430	SP4-430	円形	25×22	23	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3431	SP4-431	円形	30×26	18	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	SP4-3432に切られる
SP4－3432	SP4-432	円形	20	21	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/1)	SP4-3431を切る
SP4－3433	SP4-433	楕円形	56×20	12	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/2)	
SP4－3434	SP4-434	円形	24	17	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1　焼土・炭化材を若干含む)	
SP4－3435	SP4-435	楕円形	20×15	5	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1　焼土・炭化材を若干含む)	
SP4－3436	SP4-436	円形	25	35	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂 (10YR5/2＋2.5Y8/1焼土・炭化材を若干含む)	
SP4－3437	SP4-437	円形	32×28	32	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂 (10YR5/2＋2.5Y8/1焼土・炭化材を若干含む)	
SP4－3438	SP4-438	楕円形	47×32	41	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂 (10YR5/2＋2.5Y8/1焼土・炭化材を若干含む)	
SP4－3439	SP4-439	円形	25	40	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3440	SP4-440	円形	20	8	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/1)	
SP4－3441	SP4-441	円形	17	10	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/2)	
SP4－3442	SP4-442	楕円形	65×33	37	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/2)	3個のピット
SP4－3443	SP4-443	円形	21	12	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/2)	SP4-3444を切る
SP4－3444	SP4-444	円形	33×30	10	黄灰色＋灰黄色シルト質細砂＋灰白色細砂(2.5Y6/1＋6/2＋8/1)	SP4-3443に切られる
SP4－3445	SP4-445	楕円形	50×24	21	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/2)	SP4-3446を切る
SP4－3446	SP4-446	楕円形	(70)×55	20	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	SP4-3445に切られる
SP4－3447	SP4-447	円形	33×29	28	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP4－3448	SP4-448	円形	45×36	35	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/2)	
SP4－3449	SP4-449	円形	25×21	30	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3450	SP4-450	円形	35	43	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/2)	
SP4－3451	SP4-451	円形	(16)×15	13	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/2)	
SP4－3452	SP4-452	円形	27×23	36	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/2)	
SP4－3453	SP4-453	円形	23×13	38	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3454	SP4-454	円形	25	36	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/4)	
SP4－3455	SP4-455	円形	30	27	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3456	SP4-456	円形	34	12	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP4－3457	SP4-457	円形	23	11	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/4)	
SP4－3458	SP4-458	円形	23	31	—	SK4-3308に切られる
SP4－3459	SP4-459	円形	15	4	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y8/4)	

5区　第1面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD5－1101	SD5-101		55～74	39	高松空襲による焼土	近代
SD5－1102	SD5-102		115	40～50	灰白色細砂＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y8/1＋6/2) 暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2)	
SD5－1103	SD5-103		27～67	2～16	灰黄＋暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2＋5/2　焼土を若干含む)	
SK5－1101	SK5-101	円形	101×(75)	14	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3) にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3)	埋甕
SK5－1102	SK5-102	楕円形	177×145	24	第116図	
SK5－1103	SK5-103	楕円形	227×(46)	22	第116図	SK5-1104を切る
SK5－1104	SK5-104	不整円形	197×(110)	25	第116図	SK5-1105を切る
SK5－1105	SK5-105	円形	167×152	18	第116図	
SK5－1106	SK5-106	不明	(90)×(13)	10	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を含む)	
SK5－1107	SK5-107	長方形	184×103	25	第117図	SP5-1106を切り、SP5-1105に切られる
	SK5-108					SE5-1102に変更
SK5－1109	SK5-109	不明	(45)×(37)	45	—	埋甕
SK5－1110	SK5-110	楕円形	80×60	5	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　小石・礫を多量に含む)	
SK5－1111	SK5-111	不明	68×(33)	9	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　小石・礫を多量に含む)	
SK5－1112	SK5-112	不明	(65)×(37)	5	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2)	
SK5－1113	SK5-113	円形	98×(40)	42	第117図	
SK5－1114	SK5-114	不整円形	145×(87)	22	第117図	
SK5－1115	SK5-115	楕円形	(121)×95	24	第118図	SP5-1130を切る
SK5－1116	SK5-116	不整円形	177×175	5	黒褐色シルト質細砂(10YR3/2　炭化材を少量含む)	SP5-1122・1128・1131に切られる
SP5－1101	SP5-101	隅丸方形	65×60	42	明黄褐色シルト＋灰黄褐色シルト質細砂(2.5Y7/6＋10YR6/2)	
SP5－1102	SP5-102	円形	67×60	29	明黄褐色シルト＋灰黄褐色シルト質細砂(2.5Y7/6＋10YR6/2)	
SP5－1103	SP5-103	円形	55×48	20	明黄褐色シルト＋灰黄褐色シルト質細砂(2.5Y7/6＋10YR6/2)	
SP5－1104	SP5-104	円形	30	5	明黄褐色シルト(2.5Y7/6)	
SP5－1105	SP5-105	円形	38	11	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	SK5-1107を切る
SP5－1106	SP5-106	不整円形	135×70	11	—	SK5-1107・SP5-1107に切られる
SP5－1107	SP5-107	円形	67×65	11	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－1108	SP5-108	円形	47	11	明黄褐色シルト＋灰黄褐色シルト質細砂(2.5Y7/6＋10YR6/4)	
SP5－1109	SP5-109	不整円形	55×42	13	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－1110	SP5-110	円形	27×24	29	褐灰色シルト質細砂(10YR4/1)	
SP5－1111	SP5-111	円形	37	10	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－1112	SP5-112	楕円形？	(71)×(18)	7	—	
SP5－1113	SP5-113	円形	43	17	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－1114	SP5-114	不明	—	19	—	土器のみ
SP5－1115	SP5-115	円形	20	21	暗灰黄色シルト質細砂＋灰白色細砂(2.5Y5/2＋8/1)	
SP5－1116	SP5-116	楕円形	28×20	7	黄灰色シルト質細砂(2.5Y5/1)	SP5-1135を切る
SP5－1117	SP5-117	円形	33	14	—	SK5-1114に切られる
SP5－1118	SP5-118	円形	22	24	—	
SP5－1119	SP5-119	円形	44	12	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－1120	SP5-120	円形	12	8	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－1121	SP5-121	不整円形	(57)×57	23	淡黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/4＋7/2　焼土・炭化材を少量含む)	SK5-1115に切られる
SP5－1122	SP5-122	円形	61	17	淡黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/4＋7/2　焼土・炭化材を少量含む)	
SP5－1123	SP5-123	円形	76×68	13	淡黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/4＋7/2　焼土・炭化材を少量含む)	SK5-1116を切る
SP5－1124	SP5-124	円形	61×56	19	淡黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/4＋7/2　焼土・炭化材を少量含む)	
SP5－1125	SP5-125	円形	65×55	11	淡黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/4＋7/2　焼土・炭化材を少量含む)	

SP5－1126	SP5-126	円形	61×51	14	淡黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/4＋7/2　焼土・炭化材を少量含む)	
SP5－1127	SP5-127	円形	20	4	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3　焼土を多量に含む)	
SP5－1128	SP5-128	円形	80	21	淡黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/4＋7/4　焼土・炭化材を少量含む)	SP5-1132・1133を切る
SP5－1129	SP5-129	円形	33×(16)	14	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/4)	
SP5－1130	SP5-130	円形	45×40	31	淡黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/4＋7/2　焼土・炭化材を少量含む)	SK5-1115に切られる
SP5－1131	SP5-131	楕円形	64×55	22	淡黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/4＋7/2　焼土・炭化材を少量含む)	SK5－1116に切られる
SP5－1132	SP5-132	円形	20	12	淡黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/4＋7/4)	SP5-1128に切られる
SP5－1133	SP5-133	円形	18	23	淡黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/4＋7/4)	SP5-1129に切られる
SP5－1134		不整円形	45×30	9	灰黄褐色＋浅黄色シルト質細砂（10YR5/2＋2.5Y7/3　焼土・炭化材を若干含む）	SP5-1135に切られる
SP5－1135		隅丸方形	75×70	16	にぶい黄色＋灰黄色シルト質細砂（2.5Y6/3＋6/2）	SP5-1116に切られる
SP5－1136		不明	(25)×(25)	20	—	
SE5－1101	SE5-101	円形	155	(135)		土器の井戸枠
SE5－1102	SK5-108	円形	105	—		土器の井戸枠

5区　第2面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD5－2201	SD5-201		25～37	4～11	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SD5－2202	SD5-202		20～35	4	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2　焼土・炭化材を若干含む)	
SK5－2201	SK5-201	円形	90×(72)	38	第124図	SK5-2215を切る
SK5－2202	SK5-202	不整円形	65×(47)	8	灰黄色シルト質細砂＋灰白色細砂(2.5Y6/2＋10YR8/2)	SK5-1102に切られる
SK5－2203	SK5-203	不整楕円形	195×88	14	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/1＋5/2　焼土・炭化材を含む)	SP5-2230を切る
SK5－2204	SK5-204	隅丸方形	104×85	41	—	
SK5－2205	SK5-205	長方形	95×45	15	灰白色細砂(2.5Y8/2　小石を多量に含む)	
SK5－2206	SK5-206	長方形	152×(77)	10	炭化材＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2)	
SK5－2207	SK5-207	不明	118×(50)	26	—	
SK5－2208	SK5-208	不整楕円形	123×81	15	灰白色細砂＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y8/1＋5/1)	
SK5－2209	SK5-209	楕円形	274×135	24	第126図	SK5-2210と合体
SK5－2210						SP5-2209と合体
SK5－2211	SK5-211	方形	158×127	19	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/4　焼土・炭化材を少量含む)	
SK5－2212	SK5-212	円形	90×81	10	黄灰色シルト質細砂(2.5Y6/1　焼土・炭化材を少量含む)	
SK5－2213	SK5-213	楕円形	140×87	13	黄灰色シルト質細砂(2.5Y6/2　灰白色細砂を少量含む)	
SK5－2214	SK5-214	円形	133×(40)	21	にぶい黄橙色＋にぶい黄褐色シルト質細砂 （10YR6/3＋5/3　焼土・炭化材を少量含む）	SP5-2252を切る
SK5－2215	SK5-215	円形	(110)×(60)	17	黒褐色シルト質細砂（10YR3/1　焼土・炭化材を若干含む）	SK5-2201に切られる
SK5－2216	SK5-216	隅丸長方形	(176)×78	9	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/3　焼土・炭化材を含む）	
SP5－2201	SP5-201	円形	70	42	土層図	
SP5－2202	SP5-202	円形	55	34	明黄褐色シルト（2.5Y7/6） 褐灰色＋灰白色シルト質細砂（10YR5/1＋7/1）	
SP5－2203	SP5-203	不明	—	—	—	
SP5－2204	SP5-204	円形	52×(20)	9	灰白色シルト＋灰黄色シルト質細砂（2.5Y8/2＋6/2）	SP5-1101に切られる
SP5－2205	SP5-205	円形	25	64	灰白色シルト＋灰黄色シルト質細砂（2.5Y8/2＋6/2　焼土を含む）	
SP5－2206	SP5-206	円形	35	13	浅黄色シルト質細砂（2.5Y7/4　灰黄色シルト質細砂を含む）	第1面の遺構か？
SP5－2207	SP5-207	楕円形	98×70	26	灰白色細砂＋にぶい黄色シルト質細砂（5Y8/2＋2.5Y6/3） にぶい黄褐色シルト質細砂（10YR5/3　焼土・炭化材を少量含む） にぶい黄褐色＋灰白色シルト質細砂（10YR5/3＋2.5Y8/2）	
SP5－2208	SP5-208	楕円形	48×35	9	浅黄色シルト質細砂（2.5Y7/4　焼土・炭化材を含む）	
SP5－2209	SP5-209	円形	24	12	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/4　焼土・炭化材を含む)	
SP5－2210	SP5-210	楕円形	38×30	18	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/4　焼土・炭化材を含む)	
SP5－2211	SP5-211	円形	28	19	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/4　焼土を若干含む）	SK5-1105に切られる
SP5－2212	SP5-212	円形	46×42	12	黄色シルト＋にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y8/6＋6/4)	SK5-1105に切られる
SP5－2213	SP5-213	楕円形	78×53	5	浅黄色シルト質細砂（2.5Y7/4　焼土・炭化材を含む）	SK5-1105・SP5-2212に切られる
SP5－2214	SP5-214	円形	29×24	12	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/4　焼土を若干含む）	SK5-1105に切られる
SP5－2215	SP5-215	円形	25	14	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/4　焼土を若干含む）	SK5-1104に切られる
SP5－2216	SP5-216	円形	15	7	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/4　焼土を若干含む）	
SP5－2217	SP5-217	不整楕円形	30×20	5	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/4　焼土を若干含む）	
SP5－2218	SP5-218	円形	20×18	10	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/4　焼土を若干含む）	
SP5－2219	SP5-219	円形	30	7	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/4　焼土を若干含む）	
SP5－2220	SP5-220	円形	25	6	にぶい黄橙色シルト質細砂（10YR6/4　焼土を若干含む）	
SP5－2221	SP5-221	円形	18×15	13	にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR5/3)	
SP5－2222	SP5-222	円形	36	20	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	第1面の遺構
SP5－2223	SP5-223	不整円形	54×46	10	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2)	
SP5－2224	SP5-224	不整円形	(37)×23	7	灰白色シルト質細砂(2.5Y8/1　炭化材を若干含む)	
SP5－2225						欠番
SP5－2226	SP5-226	円形	33×30	9	浅黄色シルト質細砂（2.5Y7/4　焼土・炭化材を含む）	
SP5－2227	SP5-227	円形	55	8	浅黄色シルト質細砂（2.5Y7/4　焼土・炭化材を含む）	
SP5－2228	SP5-228	不整円形	65×60	17	灰黄褐色シルト＋灰白色細砂(10YR5/2＋2.5Y7/1)	
SP5－2229	SP5-229	不整楕円形	120×27	7	淡黄色シルト質細砂(2.5Y8/4)	
SP5－2230	SP5-230	円形	80×70	29	—	SK5-2203に切られる
SP5－2231	SP5-231	円形	36	13	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　淡黄色シルトブロック・灰白色細砂)	SP5-2232を切る
SP5－2232	SP5-232	長方形	(84)×45	13	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　淡黄色シルトブロックを多量に含む)	SP5-2231に切られる
SP5－2233	SP5-233	不整円形	48×40	10	—	
SP5－2234	SP5-234	不明	—	—	—	根石のみ
SP5－2235	SP5-235	楕円形	52×32	—	—	根石
SP5－2236	SP5-236	不整円形	55×43	6	—	根石
SP5－2237	SP5-237	楕円形	58×46	15	灰白色細砂＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y8/1＋5/1)	
SP5－2238	SP5-238	円形	66×63	11	灰白色細砂＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y8/1＋5/1)	
SP5－2239	SP5-239	円形	27	11	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2)	
SP5－2240	SP5-240	円形	43×36	19	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3)	SK5-2209に切られる
SP5－2241	SP5-241	円形	40×32	15	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3)	
SP5－2242	SP5-242	円形	34×(25)	18	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3)	SK5-2216に切られる
SP5－2243	SP5-243	円形	44×40	38	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3)	SK5-2216に切られる
SP5－2244	SP5-244	円形	21	8	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3)	SK5-2216に切られる
SP5－2245	SP5-245	円形	21	14	浅黄色シルト質細砂(2.5Y7/3)	SK5-2216に切られる
SP5－2246	SP5-246	円形	33×29	12	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2)	
SP5－2247	SP5-247	楕円形	44×30	16	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2　焼土・炭化材を若干含む)	

SP5－2248	SP5-248	円形	17	6	灰黄褐色＋灰白色シルト質細砂(10YR6/2＋8/2)	
SP5－2249	SP5-249	円形	32	23	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3)	石
SP5－2250	SP5-250	円形	30	9	灰黄色＋にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/2＋6/3 焼土を若干含む)	
SP5－2251	SP5-251	楕円形	58×35	7	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2 焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－2252	SP5-252	円形	65×(50)	6	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2 焼土・炭化材を若干含む)	SK5-2214に切られる
SP5－2253	SP5-253	不整円形	76×55	17	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3 焼土・炭化材・浅黄色シルトブロックを含む)	SK5-2211に切られる
SP5－2254	SP5-254	円形	17	38	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3 焼土・炭化材・浅黄色シルトブロックを含む)	SK5-2211に切られる
SP5－2255	SP5-255	円形	17	34	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3 焼土・炭化材・浅黄色シルトブロックを含む)	SK5-2211に切られる
SP5－2256	SP5-256	円形	30×(12)	9	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2)	
SP5－2257		円形	17	12	—	
SP5－2258		楕円形	32×21	8	—	
SP5－2259		円形	18	5	—	
SP5－2260		不整円形	45×33	10	—	
ST5－2201	ST5-201					

5区 第3面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SK5－3301	SK5-301	円形	187	13～25	第132図	SP5-3336を切る
SK5－3302	SK5-302	円形	143×125	26	第132図	
SK5－3303	SK5-303	隅丸方形	127×(70)	7	浅黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/4＋7/2 灰白色細砂を若干含む)	
SK5－3304	SK5-304	長方形	234×97	11	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	SP5-3314と同一
SK5－3305	SK5-305	円形？	(83)×(16)	17	—	
SK5－3306	SK5-306	円形？	(86)×(37)	20	褐灰色シルト質細砂(10YR5/1 焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3301	SP5-301	円形	36	25	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3302	SP5-302	円形	64×56	14	褐灰色シルト質細砂(10YR6/1)	
SP5－3303	SP5-303	円形	44	32	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3304	SP5-304	円形	16	6	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3305	SP5-305	円形	35×31	14	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3306	SP5-306	円形	36×30	17	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3307	SP5-307	円形	41	24	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3308	SP5-308	不整楕円形	107×65	31	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	SP5-3352と同一
SP5－3309	SP5-309	円形	36	26	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	SK5-3304を切る
SP5－3310	SP5-310	円形	52×27	14	灰黄褐色＋にぶい橙色シルト質細砂(10YR5/2＋7.5YR6/4)	2基の柱穴が連結
SP5－3311	SP5-311	円形	40	20	灰黄褐色＋にぶい橙色シルト質細砂(10YR5/2＋7.5YR6/4)	SP5-3356と同一
SP5－3312	SP5-312	円形	19	7	灰黄褐色＋にぶい橙色シルト質細砂(10YR5/2＋7.5YR6/4)	
SP5－3313	SP5-313	不整円形	24	7	灰黄褐色＋にぶい橙色シルト質細砂(10YR5/2＋7.5YR6/4)	
SP5－3314						欠番
SP5－3315	SP5-315	円形	23	15	—	
SP5－3316	SP5-316	円形	24×20	23	黄灰色シルト質細砂(2.5Y6/2 炭化材を若干含む)	
SP5－3317						欠番
SP5－3318	SP5-318	円形	34×30	9	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3319	SP5-319	円形	20	7	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3320	SP5-320	円形	30	38	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3321	SP5-321	円形	84	41	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2 焼土・炭化材を若干含む)	SP5-3360と同一
SP5－3322	SP5-322	円形	35×30	6	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3323	SP5-323	円形	50×40	9	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3324	SP5-324	円形	30	18	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3325	SP5-325	円形	30×25	8	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3326	SP5-326	円形	37×28	42	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3327	SP5-327	円形	20	13	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3328	SP5-328	円形	35×30	15	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3329	SP5-329	円形	30	18	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	
SP5－3330	SP5-330	円形	30	14	にぶい黄橙色細砂(10YR7/4)	
SP5－3331	SP5-331	円形	38	12	灰白色細砂(2.5Y8/2)	
SP5－3332	SP5-332	円形	25×20	9	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	ST5-3301を切る
SP5－3333	SP5-333	円形	34×27	18	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	ST5-3301を切る
SP5－3334	SP5-334	円形	26	13	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	ST5-3301を切る
SP5－3335	SP5-335	円形	23×19	3	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	ST5-3301を切る
SP5－3336	SP5-336	円形	40	28	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3 焼土・炭化材を含む)	SK5-3301に切られる
SP5－3337	SP5-337	円形	28×22	16	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2 灰白色細砂を含む)	
SP5－3338	SP5-338	円形	40×35	6	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2 灰白色細砂を含む)	
SP5－3339	SP5-339	円形	38	36	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2 灰白色細砂を含む)	
SP5－3340	SP5-340	円形	30	27	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2 灰白色細砂を含む)	
SP5－3341	SP5-341	円形	42	23	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2 灰白色細砂を含む)	
SP5－3342	SP5-342	円形	30	36	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2)	
SP5－3343	SP5-343	円形	45×40	28	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2 灰白色シルト質細砂を含む)	
SP5－3344	SP5-344	円形	27	32	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2 灰白色細砂を含む)	
SP5－3345	SP5-345	円形	45×27	26	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2 灰白色シルト質細砂を含む)	ピット2個が合体
SP5－3346	SP5-346	円形	22	16	—	
SP5－3347	SP5-347	円形	44×40	44	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2 灰白色シルト質細砂を含む)	
SP5－3348	SP5-348	円形	50	47	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2 灰白色シルト質細砂を含む)	
SP5－3349	SP5-349	円形	36	43	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2 灰白色シルト質細砂を含む)	
SP5－3350	SP5-350	円形	30	25	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2 灰白色細砂を含む)	
SP5－3351	SP5-351	円形	21	30	—	SK5-3304を切る
SP5－3352	SP5-352	不整楕円形	110×67	10	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3)	SP5-3308と同一
SP5－3353	SP5-353	円形	50×45	34	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y5/3 焼土・炭化材を少量含む)	
SP5－3354	SP5-354	円形	47×35	23	—	SP5-3353に切られる
SP5－3355	SP5-355	楕円形	50×35	25	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3)	根石
SP5－3356						SP5-3311と同一
SP5－3357	SP5-357	円形	22	16	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3 焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3358	SP5-358	円形	27	39	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3 焼土・炭化材を若干含む)	

SP5－3359	SP5-359	円形	26	22	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3360						SP5-3321と同一
SP5－3361	SP5-361	円形	30	16	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3362	SP5-362	円形	25	29	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3363	SP5-363	円形	18	9	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3364	SP5-364	円形	32×28	33	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	根石
SP5－3365	SP5-365	円形	26×20	12	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	根石
SP5－3366	SP5-366	円形	20	11	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3367	SP5-367	円形	39	45	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2　灰白色シルト質細砂を含む)	
SP5－3368	SP5-368	円形	18	8	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3369	SP5-369	円形	30	29	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3370	SP5-370	円形	13	15	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3371	SP5-371	円形	22	33	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3372	SP5-372	不整円形	42×32	46	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/2　灰白色シルト質細砂を含む)	
SP5－3373	SP5-373	円形	30	14	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	根石
SP5－3374	SP5-374	不整円形？	52×(12)	25	にぶい黄橙色シルト質細砂(10YR6/3)	
SP5－3375	SP5-375	不整楕円形	40×20	28	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3376	SP5-376	円形	29	21	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3377	SP5-377	円形	23×18	5	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3378	SP5-378	円形	17	16	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3379	SP5-379	円形	30	19	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3380	SP5-380	円形	25	15	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3381	SP5-381	円形	22	19	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3382	SP5-382	円形	22	15	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3383	SP5-383	円形	30	19	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3384	SP5-384	円形	18	7	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－3385	SP5-385	円形	12	18	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3386	SP5-386	円形	20	16	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3387	SP5-387	円形	23×18	18	灰黄褐色＋にぶい赤褐色シルト質細砂(10YR5/2＋5YR5/3　焼土・炭化材を若干含む)	
SP5－3388	SP5-388	円形	14	13	—	
SP5－3389		楕円形	77×54	8	浅黄色＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/4＋7/2　灰白色細砂を若干)	
SE5－3301	SE5-301	円形	246	(75)		
ST5－3301	ST5-301					

5区　第4面

遺構番号	旧番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD5－4401	SD5-401		15	3	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2)	
SD5－4402	SD5-402		23	17	—	
SD5－4403	SD5-403		30	3	黄灰色シルト質細砂(2.5Y6/1)	
SD5－4404	SD5-404		80～100	13	黄灰色シルト質細砂(2.5Y6/1)	底面に偶蹄目の足跡
SD5－4405	SD5-405		20	5	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SK5－4401	SK5-401	円形	142	31	第140図	
SK5－4402	SK5-402	不整楕円形	(165)×105	6	暗灰黄色シルト質細砂＋灰白色細砂(2.5Y5/2＋8/1　炭化材を少量含む)	
SK5－4403	SK5-403	円形	66	34	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR4/2＋2.5Y8/2)	
SK5－4404	SK5-404	楕円形	71×42	34	灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR4/2＋2.5Y8/2)	
SK5－4405	SK5-405	溝状	(74)×40	8	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　炭化材を若干含む)	
SK5－4406	SK5-406	不整円形	105×90	35	黒褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(10YR3/2＋2.5Y8/2) 灰黄色シルト質細砂＋灰白色細砂＋小石(10YR5/2＋2.5Y8/2)	
SP5－4401	SP5-4001	隅丸方形？	(50)	19	黒褐色シルト質細砂(10YR3/2)	
SP5－4402	SP5-4002	円形	26×20	25	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4403	SP5-4003	円形	21	12	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	SX5-4401に切られる
SP5－4404	SP5-4004	円形	15	20	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4405	SP5-4005	円形	22×18	11	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4406	SP5-4006	円形	24	15	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4407	SP5-4007	不整楕円形	76×50	27	にぶい黄褐色＋黄褐色シルト質細砂(10YR5/3＋2.5Y5/3　炭化材を少量含む)	SX5-4401を切る
SP5－4408	SP5-4008	円形	18	15	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4409	SP5-4009	円形	15×12	12	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4410	SP5-4010	円形	25	26	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4411	SP5-4011	円形	21	17	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4412	SP5-4012	不明	—	6	—	

SP5－4413	SP5-4013	楕円形	48×27	18	黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(2.5Y5/3＋8/1)	SX5-4401に切られる
SP5－4414	SP5-4014	円形	35	26	黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(2.5Y5/3＋8/1)	SX5-4401に切られる
SP5－4415	SP5-4015	円形	63	32	灰黄色＋暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2＋5/2)	SX5-4401に切られる
SP5－4416	SP5-4016	円形	26×23	27	黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂(2.5Y5/3＋8/1)	SX5-4401に切られる
SP5－4417						欠番
SP5－4418	SP5-4018	円形	55	13	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	SP5-4420と重複
SP5－4419	SP5-4019	円形	18×14	4	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4420	SP5-4020	円形	30×26	18	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4421	SP5-4021	楕円形	31×13	3	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4422	SP5-4022	円形	41×34	27	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4423	SP5-4023	円形	20	22	灰黄色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y6/2＋6/1　炭化材を若干含む)	
SP5－4424	SP5-4024	楕円形	24×13	4	灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4425						欠番
SP5－4426	SP5-4026	不整円形	30×21	13	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4427						欠番
SP5－4428	SP5-4028	円形	15	5	灰白色シルト質細砂(2.5Y7/1)	
SP5－4429	SP5-4029	楕円形	42×20	32	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7/1＋6/1　炭化材を若干含む)	SP5-4527と重複
SP5－4430	SP5-4030	円形	33×29	11	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7/1＋6/1　炭化材を若干含む)	
SP5－4431	SP5-4031	不整楕円形	38×13	10	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7/1＋6/1　炭化材を若干含む)	SP5-4432と重複
SP5－4432	SP5-4032	方形	16×14	5	灰黄色シルト質細砂(2.5Y7/2)	SP5-4431と重複
SP5－4433	SP5-4033	円形	29×25	16	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7/1＋6/1　炭化材を若干含む)	
SP5－4434	SP5-4034	円形	20	8	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7/1＋6/1　炭化材を若干含む)	SK5-4401に切られる
SP5－4435	SP5-4035	円形	20	19	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7/1＋6/1　炭化材を若干含む)	石
SP5－4436	SP5-4036	円形	19	7	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7/1＋6/1　炭化材を若干含む)	
SP5－4437	SP5-4037	円形	42×38	24	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4438	SP5-4038	円形	30×27	10	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7/1＋6/1　炭化材を若干含む)	石
SP5－4439	SP5-4039	円形	23×18	21	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4440	SP5-4040	楕円形	55×22	39	—	2個のピット
SP5－4441	SP5-4041	楕円形	68×30	30	—	2個のピット
SP5－4442	SP5-4042	楕円形	33×20	14	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4443	SP5-4043	円形	55	28	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4444	SP5-4044	円形	28	21	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7/1＋6/1　炭化材を若干含む)	
SP5－4445	SP5-4045	円形	36×29	31	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7/1＋6/1　炭化材を若干含む)	
SP5－4446	SP5-4046	円形	32	26	灰白色＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7/1＋6/1　炭化材を若干含む)	
SP5－4447	SP5-4047	不整円形	59×(23)	11	暗灰黄色シルト質細砂＋灰白色細砂(2.5Y5/2＋8/1　炭化材を少量含む)	
SP5－4448	SP5-4048	円形	40×35	30	—	
SP5－4449	SP5-4049	不整楕円形	45×19	32	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4450	SP5-4050	円形	22	20	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　炭化材を若干含む)	SP5-4451に切られる
SP5－4451	SP5-4051	円形	42×37	37	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4452	SP5-4052	円形	32	37	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4453	SP5-4053	楕円形	39×16	16	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　炭化材を若干含む)	SP5-4455に切られる
SP5－4454	SP5-4054	楕円形	42×19	27	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4455	SP5-4055	円形	52×40	26	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4456	SP5-4056	円形	22	20	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4457	SP5-4057	円形	20	4	—	
SP5－4458	SP5-4058	円形？	24×(18)	11	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	SP5-4459を切る
SP5－4459	SP5-4059	円形？	(24)×(15)	20	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2＋5/2)	SP5-4458に切られる
SP5－4460	SP5-4060	円形？	44×(15)	21	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4461	SP5-4061	円形	24×21	35	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4462	SP5-4062	円形	32	13	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2＋5/2)	SP5-4463と合体
SP5－4463	SP5-4063	不整円形	39×27	13	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4464	SP5-4064	円形	24	38	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4465	SP5-4065	不整円形	30×26	21	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4466	SP5-4066	円形	21	14	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4467	SP5-4067	円形	39×35	53	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4468	SP5-4068	円形	22×19	7	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4469	SP5-4069	円形	14	19	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　焼土・炭化材を含む)	
SP5－4470	SP5-4070	円形	15	12	—	
SP5－4471	SP5-4071	楕円形	45×32	42	—	
SP5－4472	SP5-4072	円形？	40×(25)	43	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4473	SP5-4073	円形	27×22	22	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4474	SP5-4074	円形	27×24	20	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4475	SP5-4075	円形	28×23	31	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4476	SP5-4076	不整円形	38×35	33	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2＋5/2)	
SP5－4477	SP5-4077	円形	14	11	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　焼土・炭化材を含む)	ST5-3301に切られる
SP5－4478	SP5-4078	円形	34×25	11	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2＋5/2)	ST5-3301に切られる
SP5－4479	SP5-4079	円形？	30×(22)	11	—	
SP5－4480	SP5-4080	円形？	15×(7)	16	—	
SP5－4481	SP5-4081	円形？	44	19	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2＋5/2)	SP5-4479に切られる
SP5－4482	SP5-4082	不整円形	37×27	45	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2＋5/2)	
SP5－4483	SP5-4083	円形	40×37	30	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2＋5/2)	
SP5－4484	SP5-4084	楕円形	38×20	5	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	SP5-4485と合体
SP5－4485	SP5-4085	円形	14	9	—	
SP5－4486	SP5-4086	円形？	32×(15)	24	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4487	SP5-4087	隅丸方形？	(35)×(21)	31	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4488						欠番
SP5－4489	SP5-4089	不整円形	30×26	29	灰黄褐色シルト質細砂(10YR6/2＋5/2)	
SP5－4490	SP5-4090	楕円形	(26)×19	16	—	SP5-4455に切られる
SP5－4491	SP5-4091	円形	12	8	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4492	SP5-4092	円形	15	4	褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/1＋5/2　炭化材を若干含む)	
SP5－4493	SP5-4093	円形	33×28	21	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4494						欠番
SP5－4495	SP5-4095	楕円形	32×23	6	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4496	SP5-4096	円形	20	13	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4497	SP5-4097	円形	16	3	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	

SP5－4498	SP5-4098	円形	18	7	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4499	SP5-4099	円形	14	5	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4500	SP5-4100	円形	22	18	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4501	SP5-4101	円形	28	40	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4502	SP5-4102	円形	(14)×15	9	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4503						欠番
SP5－4504	SP5-4104	円形	16	7	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4505	SP5-4105	円形	38	29	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3　灰白色細砂を含む)	SP5-4506を切る
SP5－4506	SP5-4106	円形	27	12	にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/3　灰白色細砂を含む)	
SP5－4507	SP5-4107	円形	21	18	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4508	SP5-4108	不整円形	39×29	31	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4509						欠番
SP5－4510						欠番
SP5－4511	SP5-4111	円形	17	5	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4512	SP5-4112	不整円形	(25)×26	7	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4513	SP5-4113	円形	20	11	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4514	SP5-4114	円形	(21)×20	13	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4515	SP5-4115	円形	18×16	13	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4516	SP5-4116	円形	17	10	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4517	SP5-4117	円形	30×27	10	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4518	SP5-4118	円形	18	21	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4519	SP5-4119	円形	21	16	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4520	SP5-4120	円形	32×28	27	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4521	SP5-4121	円形	32×30	38	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	
SP5－4522	SP5-4122	円形	24×22	26	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4523	SP5-4123	円形	35	40	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4524	SP5-4124	楕円形	(28)×30	41	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4525	SP5-4125	円形	45	50	灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/2)	SK5-4404と重複
SP5－4526	SP5-4126	円形？	32×(17)	24	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4527	SP5-4127	円形	25	12	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SP5-4429と重複
SP5－4528						SP5-4432と同一
SP5－4529	SP5-4129	円形	23	11	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4530	SP5-4130	円形	37×30	22	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SP5-4550に切られる
SP5－4531	SP5-4131	円形	34×25	12	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4532	SP5-4132	円形	35×29	12	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SD5-4403を切る
SP5－4533	SP5-4133	円形	15	14	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	石
SP5－4534	SP5-4134	円形	23	39	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SP5-4535と重複
SP5－4535	SP5-4135	円形	67	30	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SP5-4534・4537と重複
SP5－4536	SP5-4136	不整円形	20×18	6	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4537	SP5-4137	円形	40	34	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	根石　SP5-4535と重複
SP5－4538	SP5-4138	円形	25×23	10	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4539	SP5-4139	円形	35	27	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SP5-3344に切られる
SP5－4540	SP5-4140	不整円形	37×30	20	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4541	SP5-4141	不整円形	24×20	12	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4542	SP5-4142	不整円形	22×20	9	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4543	SP5-4143	円形	33×30	22	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4544	SP5-4144	円形？	23×(6)	6	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4545	SP5-4145	不整円形	26×23	11	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SD5-4403を切る
SP5－4546	SP5-4146	円形	24	13	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4547	SP5-4147	円形	15×12	20	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4548	SP5-4148	円形	43	32	灰黄褐色シルト質細砂(10YR5/2　焼土を若干含む)	
SP5－4549	SP5-4149	不整円形	65×60	25	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SD5-4404を切る
SP5－4550	SP5-4150	円形	29×23	25	黄灰色シルト質細砂(2.5Y5/1)	SP5-4530を切る
SP5－4551	SP5-4151	円形？	29×(9)	23	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SP5-3367に切られる
SP5－4552	SP5-4152	円形？	(14)×21	19	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SP5-3372に切られる
SP5－4553	SP5-4153	円形	13×11	15	にぶい褐色シルト質細砂(7.5YR5/3)	
SP5－4554	SP5-4154	楕円形	23×14	4	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4555	SP5-4155	円形	23×20	21	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂・炭化材を含む)	
SP5－4556	SP5-4156	正方形	10	6	にぶい褐色シルト質細砂(7.5YR5/3)	
SP5－4557	SP5-4157	円形？	30	9	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4558	SP5-4158	方形	20×16	3	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SP5-3311・3355に切られる
SP5－4559	SP5-4159	円形	30×27	39	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4560	SP5-4160	楕円形	24×18	17	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4561	SP5-4161	不整円形	21×(13)	14	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4562	SP5-4162	円形	46×41	7	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4563	SP5-4163	不整円形	21×18	12	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	根石
SP5－4564	SP5-4164	円形	16	6	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4565	SP5-4165	円形	15	7	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4566	SP5-4166	円形	42×36	36	黄灰色シルト質細砂(2.5Y4/1　灰白色細砂・炭化材を含む)	
SP5－4567	SP5-4167	円形	20×17	26	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4568	SP5-4168	円形	10×7	12	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4569	SP5-4169	円形	35×17	12	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4570	SP5-4170	円形	38×36	53	黄灰色シルト質細砂(2.5Y4/1　灰白色細砂・炭化材を含む)	SP5-4571を切る
SP5－4571	SP5-4171	円形？	(13)×13	15	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4572	SP5-4172	円形？	18×(12)	16	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4573	SP5-4173	不整楕円形	53×36	31	黄灰色シルト質細砂(2.5Y4/1　灰白色細砂・炭化材を含む)	2個のピット
SP5－4574	SP5-4174	円形	45×40	29	黄灰色シルト質細砂(2.5Y4/1　灰白色細砂・炭化材を含む)	SD5-4404に切られる
SP5－4575	SP5-4175	円形	20	22	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	
SP5－4576	SP5-4176	円形	27	36	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SK5-4402に切られる
SP5－4577	SP5-4177	円形	25	15	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	SK5-3301に切られる
SP5－4578	SP5-4178	円形	26	9	暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y4/2　灰白色細砂を含む)	根石
SX5－4401	SX5-401	不整円形	235×(180)	10	灰黄褐色＋灰黄色シルト質細砂(10YR4/2＋2.5Y7/2)	

第2表　遺物観察表
土器

報文番号	出土遺構	種別	器種名	産地	法量(cm)			胎土	色調1（胎土）	色調2（上釉,内外色調）	色調3（呉須,上絵）	調整	備考
					口径	器高	底径						
1	SD1-1102	磁器	蓋	肥前系	9.0	[1.7]		精良	灰白5Y8/1	透明	上絵：青	外面：施釉 内面：施釉	
2	SD1-1103	磁器	碗	肥前系	11.0	[5.8]	4.8	密	灰白N8/0	透明	呉須：淡青色	外面：施釉，草花文 内面：施釉	内外面に貫入あり
3	SD1-1103	陶器	擂鉢	備前系	(27.4)	[5.0]		やや密	外面：にぶい赤褐2.5YR4/3 内面：にぶい赤褐2.5YR5/4			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ，卸目	
5	SD1-1104	陶器	蓋	理兵衛焼		[1.3]		密	灰白2.5Y7/1	灰白5Y7/1	呉須：暗赤褐	外面：施釉 内面：施釉	三葉葵
6	SD1-1104	陶器	碗	理兵衛焼（京焼系）		[2.2]	(3.6)	密	灰白10YR8/2	灰白7.5Y7/1		外面：施釉 内面：施釉	内外面に貫入あり
8	SK1-1104	磁器	碗	肥前系	(17.8)	[4.1]		精良	白	透明	呉須：群青色	外面：山水門，圏線2 内面：唐草文，圏線2	
9	SK1-1105	磁器	皿	肥前系	11.2	[2.6]	6.2	精良	白	透明	呉須：淡・明青色	外面：輪花，圏線，コウモリ 内面：雷文，草花文	高台内に銘款
10	SK1-1105	磁器	皿	肥前系		[1.7]	(7.4)	精良	明緑灰7.5GY8/1	透明	呉須：青・淡青色	外面：松，圏線2 内面：圏線3	蛇ノ目凹形高台
13	SK1-1113	陶器	皿	瀬戸美濃系	(11.0)	[1.9]		やや粗	灰白5Y8/1	浅黄5Y7/4（灰釉）		外面：施釉 内面：施釉	
14	SK1-1114	磁器	小杯	肥前系	(7.0)	3.0	(3.2)	密	灰白N8/0	明緑灰7.5GY8/1	呉須：淡青色	外面：施釉，笹文 内面：施釉	
15	SK1-1114	陶器	碗	肥前系	(9.4)	7.0	(5.2)	やや密	褐灰7.5YR5/1	灰褐5YR5/2	暗灰黄	外面：白泥によるﾊｹﾒ 内面：回転ﾅﾃﾞ	
17	SP1-1104	磁器	中瓶	肥前系		[2.4]	4.0	精良	灰白N8/0	透明	呉須：明青色	外面：松葉状，圏線 内面：回転ﾅﾃﾞ	
19	SE1-1101	磁器	小碗	肥前系	(8.0)	[3.3]		密	灰白5Y8/1	透明	呉須：暗青色	外面：草花文，施釉 内面：施釉	
20	SE1-1101	須恵質土器	擂鉢		(26.8)	[4.6]		やや密	灰N5/0	灰N6/0		外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	
22	SD1-2201	磁器	碗	肥前系		[2.8]	3.8	密	灰白N8/1	透明	呉須：暗青色	外面：施釉，圏線2，亀甲文他 内面：施釉	
23	SD1-2201	陶器	甕			[6.2]	18.0	密	橙5YR6/6			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	刻印㊇
29	SK1-2212	磁器	碗	肥前系		[1.8]	(4.3)	精良	灰白N8/0	透明	呉須：暗青色，淡青色	外面：施釉 内面：施釉	底面に「宣徳年製」
31	SP1-2205	陶器	皿			[2.3]	(4.7)	密	灰白7.5Y8/1	透明		外面：施釉 内面：施釉	畳付・見込みに砂目4ヶ所
32	SP1-2212	陶器	皿	肥前系	(12.6)	[1.8]		密	灰白5Y7/2	灰オリーブ5Y6/2		外面：施釉 内面：施釉	
33	SE1-2202	陶器	皿	肥前系	(13.0)	[2.5]		密	淡黄2.5Y8/4	明青色5B7/1		外面：施釉 内面：施釉	
34	SE1-2202	陶器	皿	肥前系	(13.8)	[1.5]		密	オリーブ黄5Y6/3	透明		外面：施釉 内面：施釉	
35	SE1-2202	陶器	鉢	中国	(18.9)	[5.5]		密	明赤褐5YR5/6	灰白5GY8/1	上絵：赤，緑色10R4/6	外面：施釉 内面：施釉	
36	SE1-2202	陶器	鉢	肥前系		[5.0]	(7.0)	密	灰白N7/0	オリーブ灰5GY6/1		外面：施釉 内面：施釉	
37	SE1-2202	陶器	擂鉢	堺		[4.55]	(8.3)	密	外面：にぶい赤褐5YR5/4 内面：にぶい赤褐5YR5/4			外面：回転ﾅﾃﾞ，ﾅﾃﾞ 内面：卸目	底部：回転糸切り
38	SE1-2202	土師質土器	杯		12.3	2.7	6.5	密	外面：灰白5Y8/1 内面：灰白5Y8/1			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	内外面に煤付着
40	SX1-2202	磁器	蓋	肥前系	(5.6)	[1.9]		密	灰白N8/0	透明	呉須：暗青色	外面：施釉，花文 内面：施釉	
42	SX1-2203	陶器	皿	肥前系		[1.8]	3.5	密	にぶい黄褐10YR5/4	灰白10Y7/1		外面：回転ﾅﾃﾞ，ﾍﾗｹｽﾞﾘ 内面：施釉	削り出し高台
44	SD1-3301	土師質土器	甕		(21.0)	[6.05]		やや粗	外面：にぶい赤褐5YR5/4 内面：赤褐5YR4/6			外面：ﾅﾃﾞ，格子状ﾀﾀｷ 内面：ﾅﾃﾞ，ﾍﾗﾅﾃﾞ	
45	SD1-3301	瓦質土器	甕		(21.4)	[4.9]		粗	外面：暗灰N3/0 内面：暗灰N3/0			外面：回転ﾅﾃﾞ，ﾊｹ 内面：横方向のﾊｹ	
46	SD1-3301	陶器	壺	備前	(20.8)	[6.6]		やや密	外面：赤灰2.5YR5/1 内面：褐灰10YR4/1			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ，指頭圧	
47	SK1-3305	磁器	皿	肥前系	(18.9)	3.6	(8.2)	精良	灰白2.5Y8/1	白	呉須：黒	外面：施釉，圏線2 内面：施釉，松文	
49	SK1-3308	磁器	蓋	肥前系	(9.0)	[2.8]		精良	灰白N8/0	透明	呉須：淡/濃青色	外面：施釉，草花文 内面：施釉	
50	SK1-3312	土師質土器	小皿		(8.6)	1.9	(6.3)	やや密	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：灰白10YR8/2			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	底部：回転糸切り
51	SK1-3312	土師質土器	灯明皿		11.5	2.3	7.0	やや粗	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ，摩滅	煤付着 底部：回転糸切り
52	SK1-3313	白磁	碗		(16.4)	[3.3]		精良	灰白5Y7/1	灰白7.5Y7/1		外面：施釉 内面：施釉	
53	SK1-3313	須恵質土器	皿		(14.4)	1.7	(11.6)	粗	外面：灰白N8/0 内面：灰白N8/0			外面：摩滅 内面：摩滅	
54	SK1-3314	陶器	擂鉢	備前	(28.4)	[6.0]		粗	外面：橙2.5YR6/6 内面：明赤褐2.5YR5/6			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	

報文番号	出土遺構	種別	器種名	産地	法量(cm)			胎土	色調1（胎土）	色調2（上釉,内外色調）	色調3（呉須,上絵）	調整	備考
					口径	器高	底径						
56	SP1-3346	土師質土器	杯			[1.2]	4.4	密	外面:浅黄橙10YR8/3 内面:浅黄橙7.5YR8/3			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部に静止糸切り
57	SP1-3362	土師質土器	擂鉢		33.3	16.5	16.3	粗	外面:にぶい黄橙10YR7/3 内面:にぶい黄橙10YR7/3			外面:ﾅﾃﾞ, 接合痕, 板ﾅﾃﾞ 内面:ﾅﾃﾞ, 卸目	
58	SP1-3374	陶器	碗	肥前系		[2.3]	(4.8)	精良	黄灰2.5Y6/1	灰オリーブ5Y5/2		外面:回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ, 施釉 内面:施釉, 蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	見込み・畳付に砂目
59	SP1-3385	土師質土器	小皿		8.2	1.8	3.6	やや粗	外面:橙5YR7/6 内面:浅黄橙7.5YR8/4			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ, 指ﾅﾃﾞ	底面:静止糸切り後にﾅﾃﾞ
61	SP1-3490	陶器	擂鉢	備前		[9.85]	(13.2)	密	外面:にぶい赤褐5YR5/4 内面:灰褐5YR4/2			外面:指押さえ後指ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ, 横方向のﾅﾃﾞ 内面:横方向のﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
62	SP1-3406	土師質土器	小皿		(9.8)	[1.65]	(7.4)	密	外面:にぶい橙7.5YR7/4 内面:にぶい橙7.5YR7/4			外面:回転ﾅﾃﾞ, 回転ﾍﾗ切り 内面:回転ﾅﾃﾞ	
63	ST1-3301	土師質土器	小皿		(8.0)	1.2		密	外面:浅黄橙10YR8/3 内面:淡黄2.5Y8/3			外面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ 内面:ﾅﾃﾞ	
66	ST1-3302	陶器	碗			[1.5]	(4.5)	細	外面:にぶい黄橙10YR7/2 内面:灰褐5YR6/2			外面:ﾅﾃﾞ 内面;砂目痕	削り出し高台
67	ST1-3302	須恵質土器	皿		(17.5)	[2.15]		やや密	外面:灰黄2.5Y7/2 内面:黄灰2.5Y6/1			外面:回転ﾅﾃﾞ, 指押さえ, ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	
74	SE1-3301	陶器	皿	肥前系	(11.2)	3.0	(4.0)	密	にぶい黄 2.5Y6/3	オリーブ5Y5/4		外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	畳付に回転糸切り
75	SE1-3301	陶器	小鉢	肥前系	(11.2)	[3.6]		密	灰白10Y7/1	灰 7.5Y6/1		外面:施釉 内面:施釉	
77	SE1-3301	土師質土器	杯			[1.2]	(6.4)	密	外面:灰白2.5Y8/2 内面:灰白2.5Y8/2			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
78	SE1-3301	土師質土器	焼塩壷			[5.8]	(5.4)	密	外面:にぶい橙7.5YR7/4 内面:淡赤橙2.5YR7/4			外面:指ﾅﾃﾞ 内面:指ﾅﾃﾞ	
76	SE1-3301	陶器	大甕	備前	(30.2)	[10.0]		密	灰N6/0	にぶい赤褐5YR4/3		外面:施釉, 指頭圧 内面:施釉, 板ﾅﾃﾞ	
86	SX1-3303	陶器	碗			[2.5]	(5.0)	精良	灰黄2.5Y6/2	にぶい黄褐10YR5/3		外面:施釉 内面:施釉	高台・見込みに砂目
88	SX1-3304	土師質土器	灯明皿		11.0	1.8	5.4	やや粗	外面:浅黄橙7.5YR8/3 内面:浅黄橙7.5YR8/3			外面:回転ﾅﾃﾞ, 指押さえ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
89	SX1-3305	土師質土器	小皿		8.0	1.8	4.3	やや粗	外面:灰白10YR8/2 内面:浅黄橙7.5YR8/3			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:静止糸切り
90	SX1-3305	土師質土器	盤		(24.0)	2.5	(20.4)	やや密	外面:にぶい橙7.5YR7/3 内面:にぶい橙7.5YR7/4			外面:摩滅 内面:摩滅	口縁内面に若干の沈線
91	SX1-3307	須恵質	杯		12.0	1.9	7.4	密	外面:灰白10YR8/2 内面:灰白10YR8/2			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
92	SX1-3308	青磁	碗			[2.5]		精良	灰白N7/0	オリーブ灰2.5GY6/1		外面:施釉, 片刃彫 内面:施釉, 片刃彫	
94	1工区深堀り	須恵器	蓋		14.0	4.5		やや密	外面:オリーブ灰2.5GY5/1 内面:オリーブ灰2.5GY6/1			外面:回転ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ 内面:回転ﾅﾃﾞ	口縁端部がいびつに変形
95	1工区深堀り	弥生土器	高杯		(19.0)	[3.4]		密	外面:橙7.5YR6/6 内面:橙7.5YR6/6			外面:摩滅 内面:ﾅﾃﾞ	
96	1工区深堀り	弥生土器	甕			[2.8]	(5.6)	密	外面:にぶい褐7.5YR5/4 内面:明黄褐10YR6/6			外面:ﾅﾃﾞ 内面:摩滅	
100	SK2-1104	磁器	酒盃	肥前系	(6.5)	[3.0]	2.7	精良	灰白N8/0	明緑灰10GY8/1	呉須:暗青色	外面:施釉, 笹文, 底面に砂目 内面:施釉	
101	SK2-1104	磁器	碗	肥前系		[5.0]	4.0	密	灰白10Y8/1	透明	呉須:淡・暗青色	外面:施釉, 牡丹, 圏線 内面:施釉	
102	SK2-1104	磁器	中瓶	肥前系		[5.0]	4.4	精良	灰白N8/0	明緑灰7.5GY8/1	呉須:明青色	外面:施釉, 草花文, 圏線 内面:施釉	
103	SK2-1104	陶器	鉢形	京信楽系	6.4	2.75	3.1	やや密	灰黄2.5Y7/2	緑色		外面:回転ﾅﾃﾞ, 施釉 内面:回転ﾅﾃﾞ, 施釉	付着物(うるし?)をかき取った痕跡
104	SK2-1104	陶器	小碗	京信楽系	9.0	4.7	3.4	精良	灰白7.5Y8/1	透明		外面:施釉 内面:施釉	内外面に貫入あり
105	SK2-1104	陶器	灯明皿	備前	11.0	2.0	4.2	密	灰白2.5Y8/1	透明		外面:施釉 内面:施釉	
106	SK2-1104	土師質土器	七輪		(24.8)	17.3	19.6	やや粗	外面:にぶい黄橙10YR6/3 内面:にぶい橙7.5YR6/4			外面:横ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ, ﾊｹ 内面:横ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	

報文番号	出土遺構	種別	器種名	産地	法量(cm)			胎土	色調1（胎土）	色調2（上釉,内外色調）	色調3（呉須,上絵）	調整	備考
					口径	器高	底径						
107	SK2-1104	陶器	土人形			[6.4]		密	灰白2.5Y8/2	灰白7.5Y8/2	上絵:オリーブ黒	外面:全面施釉 内面:頭部のみ施釉, 指押さえ	
108	SK2-1104	土師質土器	玩具			[11.6]		密	外面:にぶい橙7.5YR7/4 内面:にぶい橙7.5YR7/4			内面:指押さえ	
115	SK2-1106	土師質土器	焼塩壷（蓋）		6.0	6.6	1.1	密	外面:浅黄橙7.5YR8/6 内面:橙7.5YR7/6			外面:ナデ 内面:布目痕	
116	SK2-1108	磁器	酒盃	瀬戸美濃系	6.6	2.8	2.35	精良	灰白N8/0	透明	呉須:濃青色～淡青色	外面:施釉, 松 内面:施釉, 鶴・松・山	高台内に銘款
117	SK2-1108	磁器	碗	肥前系	8.6	4.3	3.0	精良	灰白N8/0	灰白	呉須:赤	外面:施釉, 草花文.圏線 内面:施釉	
118	SK2-1108	磁器	中碗	瀬戸美濃系	9.6	4.6	3.4	精良	灰白N8/0	明緑灰7.5GY8/1（内・外面）	呉須:明青色	外面:施釉, 染付 内面:施釉, 宝文	
119	SK2-1108	磁器	碗	瀬戸美濃系	(9.7)	6.7	3.75	精良	灰白N8/0	透明	呉須:淡青色～濃青色	外面:施釉, 圏線3 内面:施釉, 圏線6, 記号	
120	SK2-1108	磁器	皿	肥前系	11.0	1.9	6.65	精良	白	透明	呉須:紺色, 緑色	外面:施釉, 草文 内面:施釉, 草文, 文字	高台内に「変形字銘」
121	SK2-1108	磁器	散り蓮華		長さ9.3	5.6		精良	白	透明	呉須:明青色	外面:施釉 内面:施釉	
122	SK2-1108	白磁	皿		9.6	1.9	4.9	精良	白	透明		外面:施釉 内面:施釉, 陰刻	
123	SK2-1108	青磁	水鉢			[7.6]	(14.0)	精良	灰白N8/0	緑灰10GY6/1		外面:施釉 内面:施釉	
124	SK2-1108	青磁	鉢		(36.4)	[9.6]		精良	灰白N8/0	明オリーブ灰2.5GY7/1		外面:施釉 内面:施釉	
125	SK2-1108	陶器	蓋	唐津	8.7	2.0	7.2	精良	灰白N7/0	灰黄2.5Y6/2（内・外面）		外面:施釉 内面:施釉	
126	SK2-1108	陶器	蓋		9.4	2.6		密	灰白N8/0	透明		外面:施釉 内面:施釉, 蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	
127	SK2-1108	陶器	碗	京信楽系	12.8	5.3	4.0	精良	灰白N7/0	透明		外面:施釉 内面:施釉	
128	SK2-1108	陶器	皿	京信楽系		[1.8]	5.6	精良	灰白2.5Y8/2	透明	呉須:黒, オリーブ灰	外面:施釉 内面:施釉	底部に陰刻
129	SK2-1108	陶器	灯明皿		8.5	1.7	4.0	精良	灰白5Y8/1	灰白5Y7/1		外面:回転ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ 内面:回転ﾅﾃﾞ, 施釉	重ね焼痕
130	SK2-1108	陶器	灯明受皿		8.0	5.2	4.8	密	灰白2.5Y7/1	透明		外面:施釉 内面:施釉	貫入あり
131	SK2-1108	軟質施釉陶器	行平		(14.2)	6.5		精良	橙2.5YR6/6	明赤褐2.5YR5/8		外面:回転ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部から体部に煤付着
132	SK2-1108	陶器	香炉	中国	(8.0)	8.0	(6.1)	精良	にぶい赤褐2.5YR5/3	透明		外面:施釉 内面:施釉, 指ﾅﾃﾞ	陰刻
133	SK2-1108	陶器	小壷	備前	6.2	7.3	3.0	密	外面:灰赤2.5YR5/2 内面:灰褐7.5YR4/2			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
134	SK2-1108	灰釉陶器	壷			[5.85]	7.75	精良	灰白5Y7/1	灰5Y6/1		外面:灰釉 内面:灰釉	
135	SK2-1108	陶器	火入	備前	12.7	6.95	13.0	密	外面:にぶい赤褐2.5YR4/4 内面:赤褐10R4/4			外面:回転ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	重ね焼き痕
136	SK2-1108	陶器	植木鉢	備前	9.1	7.3	5.4	密	灰白5Y7/1	にぶい赤褐2.5YR5/3		外面:回転ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ 内面:回転ﾅﾃﾞ	
137	SK2-1108	土師質土器	皿		15.8	[2.65]	9.1	やや密	外面:灰白2.5Y8/2 内面:灰白2.5Y8/2			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
138	SK2-1108	土師質土器	焼塩壷			[8.8]	5.4	やや密	外面:橙5YR6/8 内面:橙5YR6/6			外面:ナデ, 底部:布目 内面:ナデ	底部:接合痕
146	SE2-1101	磁器	皿	肥前系	(9.6)	2.2	(5.8)	密	灰白	透明	呉須:明青色	外面:施釉, 口錆 内面:施釉, 草花文	
147	SE2-1101	陶器	皿	瀬戸美濃系	8.9	2.7	3.9	密	灰白2.5Y8/2	暗赤褐5YR3/6		外面:施釉 内面:施釉	型作り
149	SK2-2206	磁器	皿	肥前系		[1.35]	6.6	精良	灰白7.5Y8/1	明緑灰10GY8/1	呉須:紺	外面:施釉 内面:施釉, 草花文	
150	SK2-2206	陶器	皿	唐津	12.6	3.5	4.0	精良	外面:浅黄橙7.5YR8/3	灰10Y5/1		外面:施釉 内面:施釉, 蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	見込みに砂目
151	SK2-2206	陶器	碗	京信楽系		[1.1]	(3.6)	密	灰白N8/0	明緑灰7.5GY8/1		外面:施釉 内面:施釉	削り出し高台, 内外面に貫入あり
152	SK2-2206	陶器	碗	京信楽系		[1.2]	5.6	精良	灰白10YR8/1	淡黄2.5Y8/3		外面:施釉 内面:施釉	底面:「松吉」
156	SK2-2207	陶器	蓋		(9.5)	2.6		粗	灰白2.5Y7/1	透明		外面:施釉 内面:施釉	
157	SK2-2207	土師質土器	皿		9.3	1.5	7.0	やや密	外面:浅黄橙7.5YR8/6 内面:浅黄橙7.5YR8/6			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
158	SK2-2207	土師質土器	焙烙		28.8	[7.1]		やや密	外面:黄灰2.5Y5/1 内面:灰白2.5Y7/1			外面:ナデ, 指押さえ 内面:ナデ, ﾊｹﾒ	
163	SP2-2204	土師質土器	小皿		8.4	1.6	6.0	密	外面:にぶい黄橙10YR7/3 内面:にぶい黄橙10YR7/3			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
164	SP2-2204	土師質土器	小皿		8.6	1.3	5.8	やや密	外面:灰白10YR8/2 内面:灰白10YR8/2			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
165	SP2-2204	土師質土器	羽釜			[6.1]		やや粗	外面:褐灰10YR1/6 内面:灰白10YR1/7			外面:ナデ, 指押さえ後ﾊｹ・ナデ 内面:ﾊｹ	

報文番号	出土遺構	種別	器種名	産地	法量(cm)			胎土	色調1（胎土）	色調2（上釉,内外色調）	色調3（呉須,上絵）	調整	備考
					口径	器高	底径						
166	SP2-2209	陶器	皿	中国		[2.6]	8.4	密	浅黄橙7.5YR8/3	透明	呉須:濃青色	外面:施釉 内面:施釉, 草花文, うろこ状文	内外面に貫入あり
167	SP2-2216	土師質土器	甕		49.0	[6.2]		粗	外面:橙2.5YR7/6 内面:橙2.5YR7/6			外面:ﾅﾃﾞ, ﾊｹﾒ 内面:回転ﾅﾃﾞ, ﾊｹﾒ	
168	SP2-2208	陶器	火入	備前		[3.1]	(16.2)	やや密	外面:暗赤褐2.5YR3/3 内面:暗赤褐2.5YR3/3			外面:回転ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ, 工具痕 内面:回転ﾅﾃﾞ	底面にﾍﾗ記号
172	SD2-3301	土師質土器	椀			[1.6]	5.6	やや密	外面:灰白2.5Y8/2 内面:灰白10YR8/2			外面:回転ﾅﾃﾞ, 指頭圧, ﾅﾃﾞ 内面:ﾅﾃﾞ	
173	SD2-3302	土師質土器	甕		(27.3)	[6.5]		密	外面:赤橙10R6/6 内面:灰赤5/2			外面:剝離のため不明 内面:横ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
175	SD2-3303	磁器	碗	肥前系	10.8	4.7	3.8	精良	灰白N8/0	灰白2.5GY8/1	呉須:緑灰7.5GY5/1	外面:施釉 内面:施釉, 蛇の目釉ハギ	見込み:砂目
176	SD2-3303	磁器	碗	肥前系	9.9	6.8	4.1	精良	浅黄橙10YR8/3	透明		外面:施釉 内面:施釉	高台畳付に砂目
177	SD2-3303	磁器	碗	肥前系	10.6	6.9	3.2	精良	灰	緑灰	呉須:青灰	外面:施釉 内面:施釉, 四方襷, 圏線	畳付に砂目
178	SD2-3303	磁器	小瓶	肥前系		[3.0]	4.0	精良	白	明青灰	呉須:青・青灰	外面:施釉, 草花文 内面:工具によるﾅﾃﾞ	畳付に砂目
179	SD2-3303	磁器	皿	肥前系	13.3	3.0	7.0	精良	白	明青灰	呉須:青灰5B5/1	外面:施釉 内面:施釉, 蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	見込み:高台内面に砂目
180	SD2-3303	磁器	蓋	肥前系	10.6	2.9		精良	白	透明	明青色	外面:施釉, 圏線 内面:施釉, 四方襷	
181	SD2-3303	陶器	碗	肥前系	9.6	5.6	4.4	精良	白	透明	群青	外面:施釉, 梅, 草花文, 圏線 内面:施釉	高台内「□明□□」
182	SD2-3303	陶器	碗	京・信楽		[3.0]	5.0	精良	灰白	透明	緑灰	外面:施釉, 流水文 内面:施釉	高台内『しの』
183	SD2-3303	陶器	碗	京・信楽		[4.0]	3.1	精良	灰白	透明		外面:施釉 内面:施釉	
184	SD2-3303	陶器	鉢			[8.2]	(10.0)	精良	灰白7.5Y7/1	褐7.5YR4/3		外面:施釉, 回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 内面:施釉	
185	SD2-3303	陶器	灯明皿	備前	10.0	1.65	2.0	精良	赤灰褐	赤褐		外面:回転ﾅﾃﾞ, ﾍﾗ削り後にﾅﾃﾞ 内面:上薬, 回転ﾅﾃﾞ	
186	SD2-3303	陶器	擂鉢	備前	42.6	[14.0]		やや密	赤褐	透明		外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ, 卸目	重ね焼き痕
187	SD2-3303	土師質土器	灯明皿		11.0	2.0	7.65	やや密	外面:浅黄橙10YR8/3 内面:灰白10YR8/2			外面:回転ナデ 内面:回転ﾅﾃﾞ後に指ﾅﾃﾞ	口縁部に煤付着 底部:回転糸切り
188	SD2-3303	土師質土器	杯		(15.2)	3.0	(9.6)	密	外面:灰白10YR8/2 内面:浅黄橙10YR8/4			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り後に板目
189	SD2-3303	青磁	碗		12.8	[5.3]		精良	白	青緑灰		外面:施釉 内面:施釉	
190	SD2-3303	青磁	香炉			[1.8]	5.5	精良	白	緑灰		外面:施釉 内面:施釉	
212	SK2-3301	磁器	碗	瀬戸美濃系	(10.0)	[4.0]		精良	灰白N8/0	灰白N8/0	呉須:淡青色～濃青色	外面:施釉, 草花文 内面:施釉	
213	SK2-3001	磁器	皿	肥前系		[2.2]	4.4	精良	灰白N8/0	明緑灰7.5GY8/1		外面:施釉 内面:施釉, 蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	見込みと畳付に砂目
214	SK2-3301	磁器	皿	肥前系		[1.6]	(9.2)	精良	灰白N8/0	透明	呉須:濃青色	外面:施釉, 圏線4本 内面:施釉, 圏線2本, 花唐草	
215	SK2-3301	磁器	蓋	肥前系	(9.6)	3.25		精良	灰白N8/0	明緑灰7.5GY8/1	呉須:濃青色	外面:施釉, 草花文, 圏線4 内面:施釉	口縁部に砂目付着
216	SK2-3301	磁器	皿		(13.4)	[2.8]		精良	灰白N8/0	明緑灰5G7/1		外面:施釉 内面:施釉	
217	SK2-3301	磁器	蓋	肥前系	4.4	2.2		精良	灰白N8/0	明緑灰7.5GY8/1	呉須:濃青色	外面:施釉, 区画間の紗綾形文, 草花文 内面:施釉	208とセット関係
218	SK2-3301	磁器	鉢	肥前系	(4.8)	4.2	3.8	精良	灰白N8/0	明緑灰7.5GY8/1	呉須:濃青色	外面:施釉, 区画間の紗綾形文, 草花文 内面:施釉	209とセット関係
219	SK2-3301	磁器	香炉	肥前系	(5.6)	[6.1]		精良	灰白N8/0	明緑灰10GY8/1	呉須:濃青色	外面:施釉, 遠山 内面:口縁部に施釉	
220	SK2-3301	磁器	小杯	肥前系		[3.6]	2.7	微	灰白N8/0	灰白N8/0	呉須:濃青色	外面:施釉, 圏線 内面:施釉	内外面に「福」
221	SK2-3301	青磁	皿			[2.0]	(11.2)	精良	灰白N8/0	明緑灰7.5GY8/1		外面:施釉 内面:施釉	蛇ノ目凹形高台
222	SK2-3301	磁器	碗	京・信楽系	(10.3)	7.5	4.8	精良	灰白10YR8/2	淡黄2.5Y8/3		外面:施釉 内面:施釉	
223	SK2-3301	磁器	小瓶	肥前系	(4.6)	[4.7]		精良	灰7.5Y6/1	明オリーブ灰2.5GY7/0	呉須:濃青色	外面:施釉, 陶胎染付-五重塔, 松 内面:施釉	外面に貫入
224	SK2-3301	陶器	香炉		(11.6)	[5.6]		精良	灰白2.5Y7/1	オリーブ灰5GY6/1		外面:施釉 内面:施釉	外面に貫入

報文番号	出土遺構	種別	器種名	産地	法量(cm)			胎土	色調1（胎土）	色調2（上釉,内外色調）	色調3（呉須,上絵）	調整	備考
					口径	器高	底径						
225	SK2-3301	陶器	小甕	京信楽系	(19.8)	[12.5]		精良	灰白2.5Y8/2	淡黄2.5Y8/3	呉須:黒褐	外面:施釉, 松 内面:施釉	
226	SK2-3301	陶器	擂鉢	備前	30.0	13.1	12.2	やや粗	外面:赤灰2.5YR4/1 内面:赤褐10R4/4			外面:回転ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ 内面:回転ﾅﾃﾞ, 卸目14条1単位	
227	SK2-3301	瓦質土器	焙烙		(39.0)	[6.6]		粗	外面:灰N4/0 内面:灰N5/0			外面:ﾅﾃﾞ, 指頭圧 内面:ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
228	SK2-3301	土師質土器	小皿		(8.2)	1.2	(4.8)	密	外面:浅黄橙7.5YR8/3 内面:にぶい橙7.5YR7/4			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
229	SK2-3301	土師質土器	灯明皿		(10.0)	1.5	(7.3)	密	外面:灰白2.5Y8/1 内面:灰白2.5Y8/1			外面:回転ﾅﾃﾞ, 板目 内面:回転ﾅﾃﾞ, 指ﾅﾃﾞ	煤付着
230	SK2-3301	土師質土器	皿		(10.4)	1.6	(6.5)	密	外面:灰白10YR8/2 内面:灰白10YR8/2			外面:回転ﾅﾃﾞ, 指ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
231	SK2-3301	土師質土器	杯		(14.2)	2.6	(8.6)	密	外面:灰白10YR8/2 内面:灰白10YR8/2			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ, 指ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
232	SK2-3301	土師質土器	焼塩壷			[5.7]		密	外面:橙2.5YR6/6 内面:橙2.5YR6/6			外面:ﾅﾃﾞ, 横方向のﾅﾃﾞ 内面:ﾅﾃﾞ	刻印『御壷塩師』
259	SK2-3306	青磁	碗		16.6	[2.45]		精良	灰白5Y7/0	灰オリーブ7.5Y5/2		外面:施釉, 片刃彫の蓮弁文 内面:施釉	
260	SK2-3306	土師質土器	足釜		24.4	[8.4]		粗	外面:にぶい橙5YR7/4 内面:にぶい橙7.5YR7/4			外面:指頭圧, ﾅﾃﾞ 内面:ﾊｹ, 指頭圧, ﾅﾃﾞ	煤付着
261	SK2-3306	土師質土器	甕			[5.8]	(23.5)	密	外面:にぶい橙5YR6/4 内面:にぶい橙5YR6/4			外面:格子状ﾀﾀｷ 内面:ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	
262	SK2-3307	陶器	灯明皿		(10.4)	2.0	(3.8)	精良	外面:明赤褐2.5YR5/6 内面:褐7.5YR4/3			外面:回転ﾅﾃﾞ, ﾍﾗ削り 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り後にﾅﾃﾞ
263	SK2-3307	土師質土器	小皿		9.15	1.2	6.9	密	外面:にぶい黄橙10YR7/3 内面:にぶい黄橙10YR7/3			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
264	SK2-3307	土師質土器	小皿		(8.5)	1.2	(6.45)	密	外面:浅黄橙10YR8/3 内面:浅黄橙10YR8/3			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
266	SD2-4401	磁器	皿	中国		[1.9]	4.6	精良	灰白5Y8/1			外面:施釉 内面:施釉	
267	SD2-4401	磁器	皿	中国	12.8	[2.8]	7.5	精良	灰白5Y7/1			外面:施釉 内面:施釉	
268	SD2-4401	陶器	擂鉢	備前	22.4	[8.5]	12.4	粗	外面:明赤褐2.5YR5/6 内面:明赤褐2.5YR5/6			外面:横ﾅﾃﾞ, 回転ﾅﾃﾞ 内面:横ﾅﾃﾞ, 回転ﾅﾃﾞ, 卸目	
269	SD2-4401	陶器	擂鉢	備前	36.0	[8.2]		やや密	外面:暗赤褐2.5YR3/2 内面:暗赤褐2.5YR3/2			外面:回転ﾅﾃﾞ, ﾊｹ 内面:回転ﾅﾃﾞ, 卸目	
270	SD2-4401	陶器	大甕	備前	48.0	[7.1]		やや粗	外面:にぶい赤褐5YR4/3 内面:にぶい赤褐5YR4/3			外面:ﾅﾃﾞ 内面:ﾅﾃﾞ	
271	SD2-4401	土師質土器	擂鉢		30.0	[8.4]		粗	外面:にぶい黄橙10YR7/2 内面:にぶい黄橙10YR7/3			外面:横ﾅﾃﾞ, 指押さえ 内面:ﾅﾃﾞ, 卸目	
272	SD2-4401	土師質土器	擂鉢		33.2	[9.7]		粗	外面:褐灰10YR5/1 内面:褐灰10YR6/1			外面:ﾅﾃﾞ, 指頭圧 内面:ﾅﾃﾞ	
273	SE2-4401	陶器	甕			[10.3]	14.6	やや密	外面:黄灰2.5Y5/1 内面:灰5Y5/1			外面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 内面:指頭圧後にﾅﾃﾞ, 自然釉	
274	SE2-4401	陶器	甕			[22.8]		普通	外面:にぶい褐7.5YR5/4 内面:灰褐7.5YR6/2			外面:むしろの圧痕 内面:ﾅﾃﾞ	
275	SE2-4401	陶器	擂鉢		38.0	[8.3]		やや粗	外面:黄灰2.5Y5/1 内面:黄灰2.5Y5/1			外面:横ﾅﾃﾞ, 回転ﾅﾃﾞ 内面:横ﾅﾃﾞ, 回転ﾅﾃﾞ, 卸目	
277	SK2-5502	土師質土器	椀			[1.5]	7.1	密	外面:黄灰2.5YR6/1 内面:褐灰7.5YR5/1			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:ﾅﾃﾞ	
278	SK2-5502	土師質土器	椀			[3.2]	6.0	密	外面:灰白2.5Y8/1 内面:灰白2.5Y8/1			外面:回転ﾅﾃﾞ, 摩滅 内面:ﾅﾃﾞ	
280	2工区 第5面直上	白磁	碗	中国	16.2	[2.9]		精良	灰白5Y8/1	灰白5Y7/1		外面:施釉 内面:施釉	
281	2工区 第5面直上	青磁	碗	龍泉窯		[4.3]		精良	灰白N7/0	淡黄2.5Y8/3		外面:施釉 内面:施釉, 二又片刃による分割, 飛雲文	
282	2工区 第5面直上	青磁	碗	龍泉窯		[5.9]		精良	灰白N7/0	灰7.5Y6/1		外面:施釉 内面:施釉, 片刃彫	
283	2工区 第5面直上	青磁	碗	龍泉窯	17.0	[6.1]		精良	灰10Y6/1	オリーブ灰10Y5/2		外面:施釉 内面:施釉, 片刃彫	
284	2工区 第5面直上	須恵質土器	小皿		8.2	1.5	4.8	密	外面:灰白2.5Y7/1 内面:灰白2.5Y7/1			外面:回転ﾅﾃﾞ, 底部:回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ, 中央:指ﾅﾃﾞ	重ね焼きの黒斑あり
285	2工区 第5面直上	土師質土器	小皿		(8.4)	2.0	(4.4)	密	外面:にぶい橙7.5YR7/4 内面:橙7.5YR7/6			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	

報文番号	出土遺構	種別	器種名	産地	法量(cm)			胎土	色調1（胎土）	色調2（上釉,内外色調）	色調3（呉須,上絵）	調整	備考
					口径	器高	底径						
286	2工区 第5面直上	瓦器	小皿		8.8	1.5	7.4	密	外面：灰白5Y7/2 内面：灰白5Y7/1			外面：回転ﾅﾃﾞ，底部：指頭圧 内面：回転ﾅﾃﾞ，ﾅﾃﾞ	
287	2工区 第5面直上	土師質土器	椀		(14.2)	4.7	5.9	やや粗	外面：淡黄2.5Y8/3 内面：淡黄2.5Y8/4			外面：回転ﾅﾃﾞ，摩滅 内面：ﾅﾃﾞ，指頭圧の後にﾅﾃﾞ	高台貼付
288	2工区 第5面直上	土師質土器	椀		15.6	4.5	6.2	やや密	外面：浅黄2.5Y7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/4			外面：回転ﾅﾃﾞ，ﾅﾃﾞ 内面：ﾅﾃﾞ	高台貼付
289	2工区 第5面直上	瓦器	椀		15.2	5.0	4.3	精良	外面：暗灰N3/0 内面：暗灰N3/0			外面：回転ﾅﾃﾞ，指押さえ，ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ，暗文，ﾍﾗﾐｶﾞｷ，ﾅﾃﾞ	
292	2工区 深掘り	土師質土器	小皿		8.2	1.5	4.7	密	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6			外面体部：ﾅﾃﾞ 底面：切り離し後ﾅﾃﾞ 内面：ﾅﾃﾞ，指頭圧後ﾅﾃﾞ	全体的に歪みあり
293	2工区 深掘り	土師質土器	小皿		7.9	2.1	4.9	密	外面：明黄橙10YR6/6 内面：橙7.5YR6/6			外面体部：ﾅﾃﾞ 底面：切り離し後ﾅﾃﾞ 内面：ﾅﾃﾞ，指頭圧後ﾅﾃﾞ	全体的に歪な器形
294	2工区 深掘り	土師質土器	小皿		8.2	1.6	4.7	密	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6			外面体部：ﾅﾃﾞ 底面：切り離し後ﾅﾃﾞ 内面：指頭圧後ﾅﾃﾞ，ﾅﾃﾞ	全体的に歪な器形
295	SP3-2204	陶器	鉢	備前	24.0	[3.6]		やや密	外面：明赤褐2.5YR3/3 内面：赤褐10R4/4			外面：回転ﾅﾃﾞ，ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	
296	SP3-2206	土師質土器	羽釜		22.0	[2.1]		やや粗	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：にぶい黄橙10YR7/2			外面：粗いﾊｹ(4本)，ﾅﾃﾞ，指頭圧，横ﾅﾃﾞ 内面：横ﾅﾃﾞ，ﾅﾃﾞ	
297	SD3-3301	須恵質土器	椀			[3.7]	5.8	やや密	外面：灰白10YR7/1 内面：灰白10YR7/1			外面：ﾍﾗﾐｶﾞｷ，回転ﾅﾃﾞ 内面：ﾍﾗﾐｶﾞｷ，回転ﾅﾃﾞ	貼付高台
298	3工区 第3遺構面	陶器	皿	肥前系	11.5	2.7	4.2	精良	素地：にぶい橙7.5YR7/3	釉：灰オリーブ7.5Y6/2		外面：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ，施釉 内面：施釉	見込みに砂目
299	3工区 第3遺構面	陶器	擂鉢	備前		[7.9]	12.4	やや密	外面：灰褐7.5YR4/2 内面：黒褐7.5YR3/1			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ，卸目	内面全体に黄ゴマ付着
300	3工区 第3遺構面	弥生土器	壺			[6.9]		やや密	外面：にぶい黄橙7.5YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/3			外面：ﾅﾃﾞ 内面：指頭圧，ﾍﾗ削り	
301	SK4-1101	磁器	紅猪口	肥前系	5.6	2.2	3.0	普通	灰白5Y8/1	灰白10Y9/1	呉須：明青色と濃青色	外面：施釉，笹文 内面：施釉	
302	SK4-1101 (甕内部)	陶器	大甕	備前		[7.9]		密	外面：暗褐7.5YR3/3 内面：暗褐7.5YR3/3			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ，ﾅﾃﾞ	
303	SK4-1101	陶器	大甕	備前	40.5	[68.8]		密	暗赤褐10R3/2	暗赤褐10R3/2		外面：ﾅﾃﾞ，板ﾅﾃﾞ 内面：ﾅﾃﾞ，板ﾅﾃﾞ，当て具痕	
304	SK4-1102	磁器	紅猪口	肥前系	6.2	2.2	2.6	普通	灰白N8/0		呉須：明青色	外面：施釉，染付 内面：施釉	
305	SK4-1104	磁器	碗	肥前系	10.9	[2.9]		精良	灰白N8/0		呉須：淡青色	外面：施釉，二重網目文 内面：施釉，一重網目文	
306	SK4-1105	磁器	碗	肥前系	10.8	[3.5]		普通	灰白7.5Y7/1		呉須：淡青色	外面：施釉，草花文 内面：施釉	
307	SK4-1105	磁器	鉢	瀬戸美濃系	(25.8)	[3.5]		普通	灰白5Y8/2		上絵：緑色	外面：施釉 内面：施釉	
308	SK4-1106	磁器	小杯	肥前系	7.2	[3.0]		精良	灰白N8/0		呉須：暗青色	外面：施釉，松文 内面：施釉	
309	SK4-1114	磁器	碗	肥前系	(11.4)	[5.2]		精良	灰白N8/0		呉須：暗青色	外面：施釉，葡萄文 内面：施釉，葡萄文	内外面に貫入
310	SK4-1114	土師質土器	小皿		9.0	1.9	5.2	密	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	底部：回転糸切り
311	SK4-1014	土師質土器	灯明皿		12.8	1.9	8.4	普通	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1			外面：回転ﾅﾃﾞ 底面：回転ﾅﾃﾞ後ナデ 内面：回転ﾅﾃﾞ，1方向からの指ﾅﾃﾞ	煤付着
313	SK4-1115	磁器	中瓶	肥前系		[2.8]	3.1	普通	灰白N8/0		呉須：淡青色	外面：施釉，染付 内面：施釉	
314	SK4-1015	陶器	碗	理兵衛焼	11.0	[3.3]		精良	灰白2.5Y8/2		呉須：淡青色	外面：施釉，三葉葵 内面：施釉	内外面に貫入
315	SK4-1115	陶器	腰錆碗		10.2	[4.8]		密	灰黄2.5Y6/1	暗赤褐5YR3/3		外面：施釉 内面：施釉	内外面の一部に貫入
316	SK4-1116	磁器	酒盃	肥前系	7.0	2.3	3.4	精良	灰白5Y7/1		呉須：オリーブ黒色	外面：施釉 内面：施釉	
317	SP4-1111	陶器	皿	京・信楽系		[1.7]	4.4	密			呉須：黒色・橙色	外面：施釉 内面：施釉，草花文	高台内に刻印
318	SP4-1111	磁器	皿	肥前系	22.0	[2.55]		密			呉須：淡・暗青色	外面：施釉 内面：施釉	
319	SP4-1118	陶器	擂鉢	備前	25.6	[4.05]		密	橙7.5YR6/6(橙7.5YR6/6)	にぶい黄褐10YR5/4		外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ，卸目	
320	SP4-1122	陶器	皿	肥前系	15.7	[1.4]		精良		灰オリーブ5Y5/2		外面：施釉 内面：施釉	

報文番号	出土遺構	種別	器種名	産地	法量(cm)			胎土	色調1 (胎土)	色調2 (上釉,内外色調)	色調3 (呉須,上絵)	調整	備考
					口径	器高	底径						
322	SE4-1201	陶器	そばつゆ徳利		2.4	10.1	5.85	密	明赤褐2.5YR5/6	暗褐10YR3/3		外面:施釉 内面:施釉(口縁部付近)	
326	4工区 第1遺構面	陶器	碗	理兵衛焼		[2.5]	3.6	精良	灰オリーブ5Y6/2			外面:施釉 内面:施釉	高台内に「高」の刻印
327	SD4-2201	磁器	碗	肥前系		[3.7]	7.8	精良	灰白		呉須:淡・暗青色	外面:施釉, 染付, 圏線4 内面:施釉	
328	SD4-2201	陶器	碗	肥前系		[3.5]	4.9	精良	灰白2.5Y8/2		上絵:赤, 暗灰 呉須:薄緑	外面:施釉 内面:施釉	
329	SD4-2201	土師質土器	焼塩壺			[4.0]	2.8	粗	外面:にぶい橙7.5YR7/4 内面:橙2.5YR6/6			外面:ナデ 内面:未調整	
330	SD4-2201	陶器	灯明皿	備前	10.8	[2.1]		精良	外面:にぶい赤褐5YR5/3	にぶい赤褐5YR4/3		外面:回転ナデ, ヘラ削り, ナデ 内面:回転ナデ	口縁部に煤付着
331	SD4-2201	陶器	蓋		13.6	1.1	17.6	密	外面:赤褐2.5YR4/6 内面:橙2.5YR6/6			外面:未調整, ヘラ削り 内面:回転ナデ, ヘラナデ	
332	SD4-2201	陶器	鉢		31.0	[5.8]		精良	明赤褐2.5YR5/6	灰白7.5Y8/2		外面:施釉 内面:施釉 内面陰刻:雷文・菊唐草・花	
333	SD4-2201	陶器	擂鉢	備前	37.7	[11.5]		やや密	外面:暗赤褐10R3/2 内面:にぶい赤7.5R4/3			外面:横ナデ, 回転ナデ 内面:横ナデ, 回転ナデ, 卸目	
339	SD4-2204	青磁	皿			[2.5]	6.0	精良	灰白N8/0	明緑灰10GY7/1		外面:施釉 内面:施釉, 片刃彫による草花文	
341	SK4-2202	磁器	瓶	肥前系		[6.6]	4.0	精良	灰白N8/0	白	上絵:赤, 明オリーブ灰	外面:施釉, 草花文	
342	SK4-2202	陶器	碗	京・信楽系	9.6	5.0	3.0	精良	灰白7.5Y7/1	明オリーブ灰2.5GY7/1	上絵:赤橙, 緑	外面:施釉, 葉文 内面:施釉	内外面貫入
343	SK4-2203	陶器	皿	肥前系	13.2	[2.3]		精良	灰白10YR7/1	灰オリーブ5Y6/2		外面:ヘラケズリ, 施釉 内面:施釉	内面に煤付着 砂目
344	SK4-2203	陶器	皿	肥前系	13.8	4.4	5.5	精良	明赤褐2.5YR5/6	オリーブ灰10Y6/2		外面:ヘラケズリ, 施釉 内面:施釉	砂目4ヶ所
345	SK4-2203	陶器	皿	肥前系	25.6	[2.9]		精良	灰5Y6/1	灰オリーブ7.5Y6/2	呉須:黒褐色	外面:施釉 内面:施釉	
348	SK4-2204	陶器	皿	肥前系		[2.1]	3.9	密	灰黄褐10YR6/2	灰7.5Y6/1		外面:ヘラケズリ, 糸切り 内面:施釉	見込みに砂目2ヶ所
349	SK4-2206	磁器	碗	肥前系		[4.4]	4.4	密	灰白N8/0	透明	呉須:暗青色	外面:施釉, 山水文 内面:施釉	高台内に銘
350	SK4-2207	磁器	碗	肥前系	4.3	[4.55]		精良	灰白N8/0	透明	呉須:暗青色	外面:施釉, 草花文 内面:施釉	
351	SK4-2207	陶器	皿	肥前系	15.2	[2.9]		密	にぶい黄橙10YR6/4	灰白5Y7/1		外面:施釉 内面:施釉	
352	SK4-2207	陶器	擂鉢	備前	25.8	[6.5]		密	胎土:灰白5Y7/1	外面:赤褐10R5/4 内面:灰赤10R6/2		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ, 卸目	
353	SK4-2207	土師質土器	灯明皿		11.8	1.85	8.5	密	外面:浅黄橙7.5YR8/3 内面:浅黄橙7.5YR8/4			外面:回転ナデ, 回転糸切り, 板状痕 内面:回転ナデ, ナデ	口縁部内外面に煤付着
354	SK4-2207	土師質土器	焙烙		32.4	[6.8]		密	外面:灰黄橙10YR4/2 内面:灰白10YR7/1			外面:ハケ, 指押さえ 内面:ハケ	外面に煤付着
355	SK4-2210	陶器	皿	京・信楽系		[4.1]		密	灰白2.5Y8/2	灰白5Y7/2		外面:施釉 内面:施釉	
356	SP4-2203	土師質土器	小皿		7.3	1.3	4.6	密	外面:浅黄橙7.5YR8/4 内面:浅黄橙7.5YR8/4			外面:回転ナデ, 回転糸切り, 板状痕 内面:回転ナデ	
357	SP4-2207	磁器	碗	肥前系	10.8	[4.5]		精良	灰白N8/0	透明	呉須:淡青色	外面:施釉, 染付 内面:施釉	見込みに砂目
358	SP4-2230	軟質施釉陶器	蓋		7.35	1.95	4.2	密	灰白2.5Y8/2	淡黄2.5Y8/3		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ, 施釉	
359	SE4-2201	磁器	碗	肥前系		[4.4]	4.0	精良	灰白N8/0	透明		外面:施釉, ヘラケズリ 内面:施釉	
360	SE4-2201	磁器	碗	肥前系		[1.9]	4.2	精良	灰白N8/0	透明	呉須:青灰5B6/1	外面:施釉, 圏線2 内面:施釉	『大明年製』
361	SE4-2201	陶器	鉢	肥前系	36.8	12.6	13.0	精良	赤10R5/6	灰オリーブ7.5Y5/2	呉須:灰白N8/0	外面:ヘラケズリ, 施釉 内面:施釉, ハケメ	
362	SE4-2201	弥生土器	製塩土器			[5.5]	3.4	やや粗	外面:にぶい褐7.5YR5/4 内面:にぶい褐7.5YR5/4			外面:摩滅, ナデ 内面:ナデ, 指頭圧	
364	SE4-2202	磁器	皿	肥前系		[1.4]	5.8	精良	灰白N8/0	透明		外面:施釉 内面:施釉	畳付・見込みに砂目5ヶ所
365	SE4-2202	白磁	皿			[2.2]	13.2	精良	白	透明		外面:施釉 内面:施釉, 陽刻	
366	SE4-2202	陶器	小壺	理兵衛焼		[3.5]		精良	灰白N7/0	透明	呉須:淡青色	外面:家紋(大膳家) 内面:回転ナデ	
367	SE4-2202	陶器	碗	京・信楽系	9.0	6.4	4.6	精良	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/1	呉須:紺色	外面:施釉 内面:施釉	刻印『京』
370	SE4-2204	磁器	碗	肥前系		[2.25]	4.4	精良	灰白7.5Y7/1	透明	呉須:暗・淡青色	外面:施釉, 圏線 内面:施釉	高台内に『太明年製』
371	SE4-2204	磁器	仏飯器	肥前系	5.2	5.0	3.25	密	白	明緑灰7.5GY8/1	呉須:明淡青色・暗濃青色	外面:施釉 内面:施釉	

報文番号	出土遺構	種別	器種名	産地	法量(cm)			胎土	色調1（胎土）	色調2（上釉,内外色調）	色調3（呉須,上絵）	調整	備考
					口径	器高	底径						
374	SE4-2205	磁器	蓋	肥前系	10.2	3.2	4.2	密	灰白10Y9/1	透明	呉須:明・濃青色	外面:施釉, 二重方形枠内「福」, 草花文 内面:施釉, 四方襷, 圏線, 五弁花文	
375	SE4-2205	磁器	碗	肥前系	9.3	5.55	4.3	密	白	透明	呉須:淡・暗青色	外面:施釉, 二重網目文 内面:施釉, 一重網目文, 菊花文	高台内:二重方形枠内に「福」
376	SE4-2205	陶器	蓋	京・信楽系	7.9	3.7		精良	淡黄2.5Y8/3	灰オリーブ7.5Y6/2		外面:施釉 内面:回転ﾅﾃﾞ	
377	SX4-2201	陶器	皿	肥前系	13.2	[1.6]		密	灰白2.5Y7/1	灰白10Y7/1		外面:施釉 内面:施釉	
378	SX4-2202	陶器	灯明皿	京・信楽系	11.0	2.3	4.4	精良	灰白2.5Y8/2	灰白7.5Y7/2		外面:施釉 内面:施釉, 櫛描線3条	口縁部に煤付着
379	SX4-2203	磁器	碗	肥前系	(11.4)	[5.5]		精良	灰白N8/0	外面:明緑灰5G7/1 内面:灰白5GY8/1	呉須:明青色	外面:施釉 内面:施釉, 四方襷	
380	SX4-2203	磁器	皿	中国？	7.7	2.2	2.7	精良	灰白5Y8/1	白		外面:施釉 内面:施釉, 蛇ノ目釉ハギ	高台内に墨書「XX」
381	4工区 第2遺構面	磁器	鉢	肥前系		[2.0]	(4.5)	精良	灰白N8/0	透明	呉須:明青色	外面:施釉 内面:施釉	
382	4工区 第2遺構面	磁器	小碗	肥前系	17.6	5.5	6.2	精良	灰白N8/0	透明	呉須:明青色	外面:施釉, 草花文 内面:施釉	
383	4工区 第2遺構面	陶器	碗	肥前系	(11.7)	7.8	5.0	密	浅黄2.5Y7/3	にぶい黄2.5Y6/3		外面:ﾍﾗｹｽﾞﾘ, 施釉 内面:施釉	
384	4工区 第2遺構面	陶器	鉢	肥前系		[4.2]	(7.9)	やや密	にぶい黄橙10YR7/4	暗オリーブ5Y4/3		外面:回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ, 施釉 内面:施釉, 蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	畳付・見込みに胎土目
385	SK4-2215	土師質土器	皿		12.2	2.3	7.6	密	外面:橙5YR7/6 内面:橙5YR7/6			外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	口縁の一部に煤付着
386	SK4-2216	土師質土器	擂鉢			[6.9]		密	外面:灰白2.5Y8/2 内面:褐灰10YR5/1			外面:回転ﾅﾃﾞ, ﾊｹ 内面:回転ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	内面に煤付着片口
387	SE4-2203	陶器	皿	肥前系	13.6	3.3	2.6	精良	にぶい赤褐5YR4/4	暗灰黄2.5Y4/2		外面:施釉 内面:施釉	畳付・見込みに砂目
388	SK4-3301	磁器	仏飯器	肥前系	8.6	6.4	4.7	精良	灰白N8/0	透明	呉須:明青色	外面:施釉, 雨降文 内面:施釉	高台内側と畳付に砂付着
389	SP4-3310	磁器	紅猪口	肥前系	6.6	2.6	4.0	精良	白	明緑灰10GY8/1	呉須:暗・淡青色	外面:施釉, 草花文 内面:施釉	
390	SP4-3323	土師質土器	杯		10.4	1.45	6.2	密	外面:浅黄橙10YR8/4 内面:浅黄橙10YR8/3			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	
391	SP4-3323	土師質土器	羽釜		25.0	[2.6]		やや密	外面:にぶい黄橙10YR7/3 内面:にぶい黄橙10YR7/4			外面:回転ﾅﾃﾞ, 指押さえ, ﾅﾃﾞ, 工具痕？ 内面:回転ﾅﾃﾞ	
392	SP4-3328	陶器	杯	備前	10.4	2.8	5.6	やや粗	外面:にぶい赤褐2.5YR4/3 内面:にぶい赤褐5YR4/3			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ, 指ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
393	SP4-3328	土師質土器	杯		11.0	2.5	8.2	やや密	外面:にぶい橙7.5YR7/4 内面:にぶい橙7.5YR6/4			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	
394	SP4-3356	土師質土器	灯明皿		10.0	1.9	6.8	密	外面:淡黄2.5Y8/3 内面:淡黄2.5Y8/3			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転ﾍﾗ切り後に板目, ﾅﾃﾞ 口縁部に煤付着
395	SP4-3364	土師質土器	杯		11.0	2.9	7.8	やや密	外面:にぶい黄橙10YR7/4 内面:浅黄橙10YR8/3			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転ﾍﾗ切り後に板目, ﾅﾃﾞ
396	SP4-3425	陶器	小壺	備前		[1.8]	4.0	やや粗	外面:暗赤褐5YR3/3 内面:暗赤褐5YR3/3			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	底部:回転糸切り
397	SP4-3426	土師質土器	椀		17.8	[4.3]	8.0	やや密	外面:浅黄橙10YR8/4 内面:浅黄橙10YR8/4			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	
398	SP4-3450	土師質土器	杯		11.3	3.0	7.3	密	外面:浅黄橙10YR8/3 内面:浅黄橙10YR8/3			外面:回転ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ, 指ﾅﾃﾞ	底部:回転ﾍﾗ切り
399	SP4-3454	土師質土器	杯		12.2	[2.75]	6.4	やや密	外面:灰白10YR8/2 内面:灰白10YR8/2			外面:ﾅﾃﾞ, 回転ﾅﾃﾞ, 指頭圧 内面:ﾅﾃﾞ	
400	SP4-3455	土師質土器	椀			[1.15]	5.0	密	外面:浅黄2.5Y8/3 内面:灰白2.5Y8/2			外面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ 内面:ﾅﾃﾞ	
402	SD5-1102	磁器	碗	肥前系	(14.0)	[5.5]		精良	灰白N8/0		呉須:暗青色	外面:施釉 内面:施釉	
403	SD5-1102	陶器	碗	肥前系		[2.0]	4.2	密	にぶい黄橙10YR7/4	灰白5Y7/2		外面:施釉 内面:施釉	胎土目3ヶ所
405	SK5-1101	陶器	碗	京・信楽系	(8.8)	[4.0]		密	灰白2.5Y8/2	淡黄2.5Y8/3	上絵:暗茶・明緑灰	外面:施釉, 花草文 内面:施釉	
406	SK5-1101	陶器	擂鉢	明石	16.7	6.1	9.4	やや密	赤10R5/6	赤褐10R4/3		外面:回転ﾅﾃﾞ, ﾍﾗ削り後ﾅﾃﾞ 内面:回転ﾅﾃﾞ	
407	SK5-1103	陶器	碗	瀬戸美濃系	(12.4)	5.5	4.6	密	橙2.5YR6/6	浅黄2.5Y7/3	白	外面:高台にﾍﾗｹｽﾞﾘ, 施釉 内面:施釉	
408	SK5-1103	陶器	擂鉢	堺・明石系	(34.8)	[12.2]		密	にぶい赤褐5YR5/3	灰赤2.5YR5/2		外面:回転ﾅﾃﾞ, 指頭圧, ﾍﾗｹｽﾞﾘ 内面:回転ﾅﾃﾞ	

報文番号	出土遺構	種別	器種名	産地	法量(cm)			胎土	色調1 (胎土)	色調2 (上釉,内外色調)	色調3 (呉須,上絵)	調整	備考
					口径	器高	底径						
409	SK5-1104	磁器	碗	肥前系		[3.4]	(4.0)	精良	灰白5Y8/1		呉須:暗青色	外面:施釉, 山水文 内面:施釉	高台に砂目
410	SK5-1104	陶器	土瓶			[1.7]	(8.6)	密	灰白5Y7/2			外面:施釉 内面:部分的に施釉	外面に煤付着
411	SK5-1104	陶器	擂鉢	備前焼		[4.2]	(16.8)	密	明赤褐2.5YR5/6	にぶい赤褐 2.5YR4/3		外面:ナデ 内面:卸目	
412	SK5-1107	軟質施釉陶器	蓋		7.6	2.5	4.2	精良	外面:橙5YR6/6	内面:明赤褐 2.5YR5/8(施釉)		外面:回転ナデ 内面:施釉	底面:回転糸切り
413	SK5-1107	陶器	皿	京・信楽系		[1.3]	5.0	密	灰白2.5Y8/2	浅黄2.5Y8/3	呉須:暗青色	外面:施釉 内面:施釉, 山水文	
416	SK5-1113	磁器	酒盃	肥前系	6.8	2.55	2.5	精良	灰白N8/0			外面:施釉 内面:施釉	
417	SK5-1113	磁器	仏飯器	肥前系	8.7	5.8	4.0	精良	灰白7.5Y8/1 淡青色			外面:施釉, 圏線, 染付 内面:施釉	
418	SK5-1113	土師質土器	焼塩壺 (蓋)		7.4	2.3	7.4	やや密	外面:にぶい橙5YR7/4 内面:にぶい橙5YR7/4			外面:ナデ 内面:布目	
420	SK5-1114	磁器	小碗	肥前系	7.0	3.1	2.8	精良	灰白		呉須:薄青色, オリーブ灰	外面:施釉, 雨降り文 内面:施釉	
421	SK5-1114	磁器	小壺	肥前系		[3.8]	2.2	密	灰白N8/0		呉須:青色	外面:施釉, 松葉文 内面:ナデ	
422	SK5-1114	陶器	火入(蓋)	備前	13.8	1.4	10.0	やや粗	外面:赤灰2.5YR6/1 内面:灰赤2.5YR5/2			外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	
423	SK5-1115	磁器	碗	肥前系	7.8	4.25	3.2	精良	灰白2.5Y8/1	明緑灰7.5GY8/1	呉須:青色	外面:施釉, 圏線4 内面:施釉	高台内に砂目
424	SK5-1115	磁器	皿	肥前系		[1.3]	12.8	精良	灰白N8/0	明緑灰7.5GY8/1	呉須:青色	外面:施釉 内面:施釉, 草花文	
425	SK5-1115	青磁	壺			[4.7]		精良	灰白7.5Y7/1	明オリーブ灰 2.5GY7/1		外面:施釉 内面:回転ナデ	
426	SK5-1117	磁器	小碗	肥前系	7.4	4.6	3.3	精良	灰白N8/0	透明	呉須:暗青色	外面:施釉 内面:施釉	
427	SK5-1117	陶器	碗	京・信楽系	9.0	5.9	3.65	精良	灰白5Y8/1	灰白5Y8/2		外面:施釉 内面:施釉	
429	SP5-1114	陶器	植木鉢			[10.65]	(16.0)	粗	灰白5Y7/1	にぶい黄褐 10YR5/3		外面:施釉 内面:回転ナデ, 指ナデ	
430	SE5-1103	磁器	輪花皿	肥前系	21.8	3.2	13.0	精良	灰白N8/0	透明	呉須:暗青色	外面:施釉, 唐草文 内面:施釉, 草花文	高台内に重焼痕4ヶ所
431	SE5-1102	磁器	八角皿	肥前系	21.6	4.5	11.8	密	白	透明	呉須:明青色・暗青色	外面:施釉, 唐草文 内面:施釉, 草花文	漆による焼継 高台内に銘
435	SD5-2201	磁器	小碗	肥前系	6.2	4.2	2.2	精良	灰白N8/0	薄青色	呉須:濃青色	外面:施釉, 圏線, 花文 内面:施釉, 圏線	
436	SK5-2201	陶器	碗	京・信楽系	(9.7)	[4.75]		精良	淡黄2.5Y8/3	灰白5Y7/2	上絵:淡緑色	外面:施釉, 笹文 内面:施釉	
437	SK5-2201	陶器	鉢	唐津	(29.0)	[12.7]		密	にぶい赤褐2.5YR4/4	暗オリーブ7.5Y4/3		外面:ｸｼﾒ 内面:ｸｼﾒ	
438	SK5-2203	陶器	碗	唐津	(11.5)	7.1	4.0	密	にぶい赤褐7.5R5/3	灰褐5YR4/2		外面:施釉 内面:施釉	
439	SK5-2204	白磁	壺			[8.0]	8.9	精良	灰白N8/0	明オリーブ灰2.5GY		外面:施釉 内面:回転ナデ	
442	SK5-2206	陶器	窯道具	備前	(25.5)	[7.6]		密	外面:赤灰2.5YR4/1 内面:灰赤2.5YR4/2			外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	
444	SK5-2208	陶器	皿	肥前系	13.3	3.7	4.3	やや精良	にぶい黄橙10YR7/3	灰白5Y7/2	呉須:オリーブ黒	外面:施釉 内面:施釉	見込みに胎土目
445	SP5-2201	陶器	皿	肥前系	(13.7)	3.7	(5.2)	密	灰N6/0	灰白5Y8/2		外面:施釉 内面:施釉	胎土目
446	SP5-2208	陶器	皿	肥前系	(14.4)	[2.4]		精良	にぶい黄橙10YR6/3	黄灰2.5Y5/1		外面:施釉 内面:施釉	
447	SP5-2230	陶器	灯明皿	備前	10.7	1.8		密	にぶい赤褐2.5YR4/4	にぶい赤褐 2.5YR4/4		外面:回転ナデ, 回転ヘラ切り 内面:回転ナデ, ナデ	口縁部に煤付着
448	SP5-2230	陶器	灯明皿	備前	(5.9)	1.9		密	褐灰7.5YR4/1	褐灰7.5YR4/1		外面:回転ナデ, 回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ, ナデ	
449	SP-2230	軟質施釉陶器	土瓶		11.7	12.4	8.5	精良	灰白2.5Y8/2	にぶい赤褐 2.5YR4/3		外面:施釉 内面:施釉	煤付着
451	ST5-2201	陶器	碗		(16.9)	[3.2]		精良	淡黄2.5Y8/3	明オリーブ灰 2.5GY7/1	呉須:青灰色	外面:施釉 内面:施釉, 圏線	
452	ST5-2201	陶器	皿	肥前系	(12.5)	[2.25]		精良	灰N6/0	明オリーブ灰 5GY7/1		外面:施釉 内面:施釉	
453	ST5-2201	陶器	皿	肥前系	(13.1)	[1.4]		精良	灰5Y6/0	灰7.5Y6/1		外面:施釉 内面:施釉	
454	ST5-2201	陶器	皿	肥前系	(26.1)	[2.1]		精良	浅黄橙10YR8/4	灰黄2.5Y7/2	呉須:淡青色	外面:施釉 内面:施釉	
455	ST5-2201	陶器	大甕	備前		[8.0]	(28.2)	粗	外面:橙2.5YR6/6 内面:橙2.5YR6/6			外面:回転ナデ, ナデ 内面:回転ナデ, 指押さえ	
456	ST5-2201	陶器	鉢	肥前系		[2.4]	(6.1)	やや密	灰黄2.5Y7/2	灰オリーブ7.5Y6/2		外面:施釉 内面:施釉	見込みに胎土目
457	ST5-2201	土師質土器	灯明皿		11.6	2.0	6.1	密	外面:にぶい黄橙 10YR7/4 内面:にぶい黄橙 10YR7/4			外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	底部:回転糸切り
464	SP5-3321	土師質土器	杯		10.5	2.5	7.0	密	外面:灰白2.5Y8/2 内面:灰白2.5Y8/2			外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	底部:回転ヘラ切り後に板目

報文番号	出土遺構	種別	器種名	産地	法量(cm)			胎土	色調1（胎土）	色調2（上釉,内外色調）	色調3（呉須,上絵）	調整	備考
					口径	器高	底径						
465	SP5-3343	土師質土器	杯		12.0	2.6	7.8	やや密	外面：にぶい橙 7.5YR7/4 内面：にぶい橙 7.5YR7/4			外面：回転ﾅﾃﾞ，ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ(工具痕)	底部：回転糸切り
466	SP5-3352	陶器	皿	肥前系	13.0	[2.5]		精良	灰白N7/0	灰白7.5Y7/0		外面：施釉 内面：施釉	
467	SE5-3301	陶器	皿	肥前系	13.9	4.5	5.05	密	浅黄2.5Y7/3	灰白5Y7/1		外面：施釉 内面：施釉	砂目3ヶ所
468	SE5-3301	陶器	皿	肥前系	11.0	3.5	4.15	精良	褐7.5YR4/3	灰7.5Y6/1		外面：施釉 内面：施釉	見込みに胎土目3ヶ所
469	SE5-3301	陶器	皿	肥前系		[1.1]	4.8	精良	灰白2.5Y7/1	灰オリーブ5Y6/2		外面：施釉 内面：施釉	高台内・見込みに砂目
470	SE5-3301	陶器	鉢	肥前系		[7.0]	11.7	精良	灰5Y6/1	灰白10YR8/1		外面：施釉 内面：施釉	見込みに胎土目　蛇ノ目凹形高台
471	SE5-3301	土師質土器	灯明皿		11.8	2.1	8.0	やや密	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	口縁部に煤付着　回転糸切り
472	ST5-3301	陶器	壺	備前		[5.9]	(16.0)	密	灰赤2.5YR5/2	外面：暗赤褐 10R3/3 内面：赤10R5/6		外面：ﾅﾃﾞ，板ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	刻印
473	ST5-3301	陶器	碗			[2.2]	(4.4)	密	灰黄2.5Y6/2	明オリーブ灰 5GY7/1		外面：施釉 内面：施釉	
474	ST5-3301	土師質土器	杯		(10.4)	[2.4]		やや密	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	
475	ST5-3301	土師質土器	焼塩壺（蓋）		6.8	1.9	5.4	粗	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：にぶい橙5YR7/4			外面：ﾅﾃﾞ，指頭圧 内面：ﾅﾃﾞ	
483	SK5-4402	土師質土器	杯			[0.8]	7.4	やや密	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ，ﾅﾃﾞ	底部：回転ヘラ切り後に板目
484	SP5-4401	土師質土器	皿		12.6	[2.0]		密	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	
485	SP5-4415	土師質土器	杯		11.0	2.2	6.4	やや密	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/2			外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ	
486	SP5-4446	土師質土器	杯		11.5	2.85	6.2	やや密	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2			外面：回転ﾅﾃﾞ後にﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ後にﾅﾃﾞ	
487	SP5-4446	須恵器	甕		18.6	[5.2]		密	外面：灰白N7/0 内面：灰白N7/0			外面：横ﾅﾃﾞ，ﾅﾃﾞ 内面：ﾅﾃﾞ，青海波状ﾀﾀｷ	
488	SP5-4456	土師質土器	焼塩壺（蓋）		6.8	1.5	7.8	やや密	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1		外面：摩滅 内面：摩滅	
491	SP5-4567	土師質土器	杯		10.8	2.8	7.0	やや密	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		外面：回転ﾅﾃﾞ 内面：回転ﾅﾃﾞ，ﾅﾃﾞ	底部：回転ヘラ切り後に板目
492	SP5-4567	土師質土器	甕		30.0	[2.8]		粗	外面：にぶい橙 7.5YR6/4 内面：にぶい橙 7.5YR6/4			外面：ﾅﾃﾞ，指頭圧 内面：ﾅﾃﾞ，ﾊｹ	
493	SP5-4567	土師質土器	足釜					やや密	外面：にぶい黄褐 10YR7/4			外面：ナデ，指ナデ	

土製品

報文番号	出土遺構名	名称	法量（cm）			重さ（g）	備考
			長さ	幅	厚さ		
7	SK1-1103	羽口	(8.9)	5.1			外面全体的に媒化
43	SX1-2203	壁土	(9.0)	(10.5)	(3.7)		
109	SK2-1104	有溝土錘	8.4	5.9	4.3	247.2	
174	SD2-3302	土錘	9.4	6.2	5.0	283.4	
191	SD2-3303	人形(魚)	3.2	10.5	2.8		彩色痕のようなものあり
192	SD2-3303	人形(犬)	9.5	(5.5)	(4.5)		
193	SD2-3303	紡錘車	(5.1)	(4.8)	1.8	(28.4)	
279	SK2-5502	土錘	9.4	5.65	2.2	275.8	
419	SK5-1113	土人形(にわとり)	(3.5)	3.9			
428	SK5-1117	ままごと道具（蓋）	3.0	3.05	6.5		
440	SK5-2204	土人形(さる)	(5.4)				
476	ST5-3301	土錘	7.7	3.9	3.6	(95.7)	
489	SP5-4506	羽口	(10.4)	径9.2			スラグ付着
490	SP5-4535・4537	埴輪	器高(18.0)	底径33.0			黒斑あり

瓦

報文番号	出土遺構名	種別	法量(cm)				焼成	胎土	色調(器面)	色調(断面)	調整	備考
			全長	幅	厚さ	瓦当厚さ						
4	SD1-1103	軒平瓦	(8.2)	(12.0)		2.6	良	密	凸面:灰黄2.5Y7/2 凹面:にぶい黄橙10YR6/3	灰白7.2Y8/1	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:摩滅	
11	SK1-1105	軒丸瓦	(2.4)	12.7	1.6	1.7	良	密	凸面:浅黄橙10YR8/4 凹面:灰5Y6/1	灰N6/0	凸面:ﾍﾗﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ後弱いﾅﾃﾞ	
12	SK1-1105	軒平瓦	(8.4)	(17.0)	1.4	2.5	良	密	凸面:暗灰N3/0 凹面:灰N4/0	灰白5Y8/1	凸面:横方向のﾅﾃﾞ, 粗いﾅﾃﾞ 凹面:摩滅	
16	SK1-1114	軒丸瓦	(2.8)	13.0	1.7	1.4	良	精良	凸面:灰N5/0 凹面:灰N6/0	灰白5Y8/1	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指ﾅﾃﾞ	
18	SP1-1104	軒丸瓦	(4.1)	11.6	1.5	1.9	良	密	凸面:灰7.5Y6/1 凹面:灰N5/0	灰黄2.5Y7/2	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:板ﾅﾃﾞ	
21	SE1-1101	軒丸瓦	(6.0)	13.0	1.6	2.0	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ 凹面;ｺﾋﾞｷB, ﾅﾃﾞ	瓦中央部に笵傷
24	SD1-2201	軒丸瓦	(9.1)	12.0	1.7	1.9	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N5/0	灰7.5Y5/1	凸面:板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ	
25	SD1-2201	軒丸瓦	(7.0)	(12.8)	1.5	2.0	良	密	凸面:灰5Y6/1 凹面:灰5Y6/1	灰白5Y7/1	凸面:板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ	巴頭部の中央に小さな珠文
26	SD1-2201	軒丸瓦	(3.5)	(12.6)	1.9	1.8	良	密	凸面:灰5Y5/1 凹面:灰7.5Y5/1	灰白5Y7/1	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:指押さえ, ﾅﾃﾞ	
27	SD1-2201	丸瓦	(15.9)	(12.9)	1.9		良	やや密	凸面:灰N6/0 凹面:灰N6/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ 凹面:布目, 抜取紐痕	
28	SD1-2201	丸瓦	24.5	12.7	1.5		良	密	凸面:暗灰N3/0 凹面:灰N4/0	灰白N8/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:布目, ｺﾋﾞｷB, ﾅﾃﾞ	
30	SK1-2212	軒丸瓦		13.3		2.0	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰黄2.5Y7/2	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	接合:刻み目
39	SE1-2202	丸瓦	27.0	13.6	2.3		やや不良	密	凸面:浅黄橙7.5YR8/6 凹面:浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾊｹ, ﾍﾗ切り 凹面:ﾍﾗ切り, 布目	
48	SK1-3305	軒平瓦	(6.5)	(15.0)	1.4	1.3	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰N5/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	接合:ｶｷ目
64	ST1-3301	鬼瓦	15.2	11.8	5.4		良	密	凸面:明赤褐2.5YR5/6 凹面:明赤褐2.5YR5/6	明赤褐2.5YR5/6	凸面:ﾅﾃﾞ, 粗いﾅﾃﾞ 凹面:粗い板ﾅﾃﾞ	家紋
79	SE1-3301	軒平瓦	(13.5)	22.8	1.3	1.2	良	密	凸面:灰7.5Y5/1 凹面:灰白5Y7/1	灰10Y5/1	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
80	SE1-3301	軒平瓦	(14.9)	22.9	1.8	1.7	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白7.5Y7/2	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:板ﾅﾃﾞ	
81	SE1-3301	軒丸瓦		13.0		1.9	良	密	凸面:灰5Y5/1 凹面:灰白5Y7/1	灰7.5Y5/1	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ	
82	SE1-3301	軒丸瓦	(5.8)	(13.1)	1.4	1.9	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰N6/0	凸面:縦方向の板ﾅﾃﾞ 凹面:指押さえ, ﾅﾃﾞ	
83	SE1-3301	丸瓦	26.0	13.0	1.6		良	密	凸面:灰5Y5/1 凹面:灰N4/0	灰白7.5Y7/1	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:ﾍﾗ削り, 布目, ｺﾋﾞｷB	
84	SE1-3301	平瓦	(24.0)	(21.7)	1.55		良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白2.5Y7/1	凸面:粗いﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	凸面下部に弓状圧痕あり
97	SK2-1101	軒平瓦	(10.5)	(13.8)	1.6	1.25	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白5Y7/1	凸面:ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ 凹面:ﾅﾃﾞ	
98	SK2-1102	軒丸瓦	(1.7)	13.3	1.5	2.1	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N5/0	灰白2.5GY8/1	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ	
99	SK2-1102	菊丸瓦	(2.1)	9.3	1.9		良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N4/0	灰N6/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
112	SK2-1104	軒丸瓦		13.3		1.6	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N5/0	灰白7.5Y7/1	凸面:ﾅﾃﾞ, 刻み目 凹面:ﾅﾃﾞ	
113	SK2-1004	軒丸瓦		13.3		1.8	良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N6/0	灰白N7/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
114	SK2-1104	菊丸瓦	11.7	14.0	1.8		良	やや密	凸面:暗灰N3/0 凹面:暗灰N3/0	灰白N7/0	凸面:横方向のﾅﾃﾞ 凹面;ｺﾋﾞｷB, ﾀﾀｷ, ﾅﾃﾞ, 指押さえ	
139	SK2-1108	軒丸瓦	(3.8)	13.6	1.8	1.8	良	やや粗	凸面:灰N5/0 凹面:灰N6/0	灰白N8/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 弱いﾅﾃﾞ, 指押さえ	
140	SK2-1108	軒丸瓦	11.4	13.5	2.2	1.9	良	密	凸面:灰N7/0 凹面:灰N4/0	灰N7/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ, ｺﾞｻﾞ目, ｺﾋﾞｷB	
141	SK2-1108	軒丸瓦	(9.0)	12.7	1.9	1.5	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N5/0	灰N5/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ, 布目, ｺﾋﾞｷB	
142	SK2-1108	軒平瓦	9.6	14.5	1.5		良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰5Y6/0	灰N4/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ	
143	SK2-1108	軒平瓦	17.1	18.5	1.9		良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰4/0	灰N4/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
144	SK2-1108	丸瓦	21.0	12.0	1.3		良	密	凸面:灰白N7/0 凹面:灰N4/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ 凹面:布目, ﾅﾃﾞ	
145	SK2-1108	平瓦	24.1	21.1	1.4		良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N5/0	灰白N7/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 粗いﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ	弓状圧痕
153	SK2-2206	軒平瓦	(13.3)	(17.6)	1.55	1.3	良	やや密	凸面:灰N6/0 凹面:灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:板ﾅﾃﾞ	
154	SK2-2206	軒丸瓦	(7.7)	13.0	1.2	1.9	良	やや密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N5/0	灰白5Y8/1	凸面:板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ, ｺﾞｻﾞ目	
155	SK2-2206	軒丸瓦	(6.3)	12.9	1.5	1.9	良	やや密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N6/0	灰白7.5Y8/1	凸面:板ﾅﾃﾞ 凹面:指押さえ, ﾅﾃﾞ	
159	SK2-2207	軒丸瓦	(9.3)	13.6	1.7	1.5	良	やや密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N5/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ, 布目	
160	SK2-2207	軒平瓦	(11.6)	(18.1)	1.8	1.8	良	やや粗	凸面:灰N6/0 凹面:灰N6/0	灰N5/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
161	SK2-2207	軒平瓦	(9.3)	(14.5)	1.8	1.7	良	粗	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰N6/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:横方向のﾅﾃﾞ, 粗いﾅﾃﾞ	
169	SP2-2207	丸瓦	27.8	13.5	1.8		良	密	凸面:灰白N4/0 凹面:暗灰N3/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ 凹面:布目, ｺﾋﾞｷB, ﾀﾀｷ, ﾅﾃﾞ	

報文番号	出土遺構名	種別	法量(cm)				焼成	胎土	色調(器面)	色調(断面)	調整	備考
			全長	幅	厚さ	瓦当厚さ						
170	SP2-2207	丸瓦	27.7	14.5	2.2		良	密	凸面:暗灰N3/0 凹面:灰N4/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ 凹面:布目, ｺﾋﾞｷB, ﾅﾃﾞ	
171	SP2-2207	丸瓦	27.3	13.7	1.7		良	密	凸面:灰N4/0 凹面:暗灰N3/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾐｶﾞｷ 凹面:布目, ｺﾋﾞｷB, ﾀﾀｷ	
197	SD2-3303	軒丸瓦				1.8	やや良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N5/0	灰白N8/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:指おさえ, 指ﾅﾃﾞ	
198	SD2-3303	軒丸瓦	(1.4)			1.5	良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N5/0	灰N6/1	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	接合:ｶｷ目
199	SD2-3303	軒丸瓦				1.6	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白N8/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	瓦当面にｷﾗ粉
200	SD2-3303	軒丸瓦	(3.4)		1.8	1.2	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰N6/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指おさえ	
201	SD2-3303	軒丸瓦	7.1		1.9	1.2	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白N8/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
202	SD2-3303	軒丸瓦	(15.0)	12.8	1.5	1.7	良	密	凸面:灰N6/0 凹面:灰白N7/0	灰白7.5Y8/1	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 布目, 指頭圧	いぶしなし
203	SD2-3303	軒丸瓦	20.3	11.8	1.4	1.5	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白5Y	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ 凹面:ﾅﾃﾞ, 布目, ｺﾋﾞｷB	瓦当面にキラ粉
204	SD2-3303	軒平瓦	(7.1)	(10.9)	1.3	2.0	良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N6/0	灰白5Y7/1	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	接合:ｶｷ目
205	SD2-3303	軒平瓦	(8.4)	(9.6)	1.3	1.1	良	粗	凸面:灰N5/0 凹面:灰N4/0	灰白5Y8/1	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	接合:ｶｷ目
206	SD2-3303	軒平瓦	(7.5)	(15.2)	1.5	1.4	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N5/0	灰N5/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 粗いﾅﾃﾞ	接合:ｶｷ目
207	SD2-3303	軒平瓦	(10.3)	(13.8)	1.3	1.0	良	密	凸面:灰白N7/0 凹面:灰N4/0	灰白N8/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 粗いﾅﾃﾞ	
208	SD2-3303	軒平瓦	(8.7)	(15.8)	(1.9)	1.9	良	やや密	凸面:釉(明黄褐10YR7/6) 凹面:釉(明黄褐10YR7/6)	浅黄橙10YR8/3	凸面:施釉 凹面:施釉	
209	SD2-3303	桟瓦	27.0	26.5	1.8		良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白7.5Y8/1	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
210	SD2-3303	鬼瓦	(12.1)	(11.6)	3.2		良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N5/0	灰白N7/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	三葉菱紋
211	SD2-3303	鬼瓦	(9.1)	(13.3)	(3.5)		良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰N4/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
235	SK2-3301	軒丸瓦	(9.0)	13.8	2	1.9	良	密	凸面:灰白7.5Y7/1 凹面:灰白N7/0	灰白N7/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 布目, ﾍﾗﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 布目, ｺﾋﾞｷB	
236	SK2-3301	軒丸瓦	(7.0)	(13.6)	1.7	1.4	良	密	凸面:灰白5Y8/1 凹面:灰白5Y8/1	灰白N7/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:指押さえ, ﾅﾃﾞ, 布目, コビキB	いぶしなし
237	SK2-3301	軒丸瓦	(3.0)	12.8		2.2	良	密	凸面:暗灰N3/0 凹面:暗灰N3/0	灰N5/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
238	SK2-3301	軒丸瓦	(3.75)	13.0	1.7	1.8	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰N4/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
239	SK2-3301	軒丸瓦	(7.1)	12.6	1.5	1.4	良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N4/0	灰白N7/0 灰N4/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 布目	
240	SK2-3301	軒丸瓦	(4.1)	(13.5)	1.6	2.05	良	密	凸面:暗灰N3/0 凹面:灰N5/0	灰N6/0	凸面:ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ	
241	SK2-3301	軒丸瓦	(6.5)	13.0	1.4	1.6	良	密	凸面:灰黄2.5Y7/2 凹面:灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1	凸面:ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:布目, ﾅﾃﾞ, 指押さえ	
242	SK2-3301	軒丸瓦	(6.7)	(13.5)	(1.55)	1.9	良	密	凸面:灰白5Y7/1 凹面:灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	凸面:ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
243	SK2-3301	軒丸瓦	(15.3)	13.2	1.4	1.6	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N5/0	灰N6/0	凸面:ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ 凹面:布目, ｺﾋﾞｷB, ﾅﾃﾞ	
244	SK2-3301	軒丸瓦	(17.2)	(13.1)	1.5	1.8	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ 凹面:布目, ｺﾋﾞｷB, ﾅﾃﾞ	
245	SK2-3301	軒丸瓦	25.1	13.1	1.5	(1.5)	良	密	凸面:暗灰N3/0 凹面:灰N4/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 布目, ｺﾋﾞｷB	
246	SK2-3301	軒丸瓦	25.1	13.4	1.4	1.6	良	密	凸面:暗灰N3/0 凹面:灰N4/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:布目, ｺﾋﾞｷB, ﾅﾃﾞ, 指押さえ	
247	SK2-3301	軒丸瓦	(15.0)	13.7	1.7	1.8	良	密	凸面:暗灰N3/0 凹面:灰N4/0	灰N6/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:布目, ｺﾋﾞｷB, 紐痕	
248	SK2-3301	軒丸瓦	(13.3)	13.6	1.3	1.7	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N5/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:布目, ｺﾋﾞｷB, ﾅﾃﾞ	
249	SK2-3301	軒丸瓦	(16.9)	13.3	1.6	1.9	良	密	凸面:灰白7.5Y7/1 凹面:灰白7.5Y7/1	灰白N8/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指頭圧, 布目, ｺﾋﾞｷB	
250	SK2-3301	軒丸瓦	(25.8)	13.7	1.9	1.95	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白N8/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ 凹面:布目, ｺﾋﾞｷB, ﾅﾃﾞ	
251	SK2-3301	軒丸瓦	(12.5)	12.9	1.4	1.85	良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N5/0	灰N6/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ, 布目, コビキB	
252	SK2-3301	軒平瓦	(13.3)	(13.8)	1.5	1.5	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰N5/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 粗いﾅﾃﾞ	
253	SK2-3301	軒平瓦	(7.6)	(15.6)	1.4	1.2	良	密	凸面:灰白2.5Y8/2 凹面:灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y8/1	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ	
254	SK2-3301	軒平瓦	(9.4)	22.3	1.5	2.0	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰白N7/0	灰白N7/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 指ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
255	SK2-3301	丸瓦	24.4	13.4	2.8		良	密	凸面:灰N6/0 凹面:灰N4/0	灰白5Y8/1	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ, 布目	抜取紐痕
256	SK2-3301	丸瓦	24.1	13.1	1.7		良	密	凸面:暗灰N3/0 凹面:暗灰N3/0	灰白N8/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ, 指ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ, 布目	
257	SK2-3301	平瓦	13.6	22.0	1.8		良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白N8/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 横方向の板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	

報文番号	出土遺構名	種別	法量(cm)				焼成	胎土	色調(器面)	色調(断面)	調整	備考
			全長	幅	厚さ	瓦当厚さ						
321	SP4-1123	軒平瓦	(8.8)	(21.7)	1.8	2.4	良	密	凸面:橙5YR6/6 凹面:橙5YR7/6	橙2.5YR6/8	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	いぶしなし
323	SE4-1101	菊丸瓦	(3.7)	10.1	(1.4)	1.4	良	密	凸面:暗灰N3/0 凹面:灰N4/0	灰N6/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指押さえ	
324	SE4-1101	菊丸瓦	(5.9)	8.0	(1.4)	1.2	良	密	凸面:灰5Y4/1 凹面:灰5Y6/1	灰白5Y8/1	凸面:ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
325	SE4-1101	軒桟瓦	(7.8)	(12.6)	1.8	2.1	良	密	凸面:暗灰N3/0 凹面:暗灰N3/0	灰白N7/0	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	凸面にキラ粉付着
334	SD-2201	軒丸瓦	(10.0)	12.6	1.5	1.6	良	密	凸面:灰7.5Y4/1 凹面:暗灰N3/0	灰N6/1	凸面:縦方向板ﾅﾃﾞ 凹面:指頭圧, ﾅﾃﾞ, ｺﾞｻﾞ目	
335	SD4-2201	軒丸瓦	(8.6)	(8.3)	1.5	1.6	良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N4/0	灰N5/0	凸面:縦方向板ﾅﾃﾞ 凹面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ, 布目	
336	SD4-2201	軒平瓦	(4.1)	(15.1)	1.6	2.6	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N6/1	灰N5/0	凸面:横方向にﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	接合:ｶｷ目
337	SD4-2201	軒平瓦	(6.5)	(13.8)	1.4	2.3	良	密	凸面:灰7.5Y5/1 凹面:灰N6/1	灰7.5Y5/1	凸面:ﾅﾃﾞ, 粗いﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 摩滅	接合:ｶｷ目
338	SD4-2202	丸瓦	26.9	13.3	1.9		良	やや密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白2.5GY8/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 布目	
363	SE4-2201	軒丸瓦	(5.9)	13.2	1.6	1.5	良	密	凸面:灰N5/0 凹面:灰N5/0		凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指頭圧の後にﾅﾃﾞ	
368	SE4-2202	軒丸瓦	(3.9)	12.7	1.8	1.8	良	密	凸面:灰N7/0 凹面:灰N7/0	灰N6/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 指頭圧の後にﾅﾃﾞ	いぶし無し
404	SD5-1102	丸瓦	24.5	13.0	1.9		良	やや密	凸面:暗灰N3/0 凹面:灰N4/0	灰白N7/0	凸面:板ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 布目, ｺﾋﾞｷB	
443	SK5-2206	丸瓦	25.4	13.9	2.1		良	やや密	凸面:にぶい黄橙 10YR7/4 凹面:橙5YR6/6	灰N6/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 布目	いぶし無し
479	ST5-3301	軒丸瓦		11.7		1.8	良	密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白5Y7/1	凸面:ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ	
480	ST5-3301	丸瓦	25.3	11.4	1.4		良	やや密	凸面:灰N4/0 凹面:灰N4/0	灰白N7/0	凸面:ﾅﾃﾞ, 板ﾅﾃﾞ 凹面:ﾅﾃﾞ, 布目, ｺﾋﾞｷB	

木製品

報文番号	出土遺構名	名称	法量(cm)			備考
			長さ	幅	厚さ	
258	SK2-3301	曲物(底)	5.0	5.7	0.3	柾目
276	SE2-4401	井戸枠	22.3	6.5	1.1	箍痕あり
373	SE4-2204	箸	(7.5)	0.6	0.6	

石製品

報文番号	出土遺構名	名称	法量(cm)			重さ	備考
			長さ	幅	厚さ		
148	SK2-2202	砥石	(9.0)	4.8	6.0	438.5g	材質:花崗岩製 割れた面(2面)に半円形の使用痕がある
290	2工区第5面直上	五輪塔(地輪)	17.6	21.5	12.7	4.0kg	材質:凝灰岩(天霧系)
346	SK4-2203	砥石	6.7	4.8	1.0	70.1g	材質:粘板岩, 4方向の側面:製作時の加工痕, 使用面:2面
450	SP5-2233	五輪塔(地輪)	28.8	29.1	22.3	29.0kg	材質:集磈凝灰岩(豊島石)

鉄製品

報文番号	出土遺構名	名称	法量(cm)			備考
			長さ	幅	厚さ	
60	SP1-3409	小刀	(15.4)	1.9	0.4	鉄
85	SX1-3301	小柄	(15.8)	1.5	(0.7)	鉄
461	ST5-2201	釘	(6.1)	0.5	0.5	鉄
482	5工区第3遺構面	鏃の先	7.8	4.2	0.3	鉄

金属製品

報文番号	出土遺構名	名称	法量(cm)			備考
			長さ	幅	厚さ	
41	SX1-2202	古銭	2.5	2.5	0.13	ひずみあり「寛永通寶」
55	SP1-3326	不明	(8.9)	1.4	0.45	
60	SP1-3409	小刀	(15.4)	1.9	0.4	鉄
65	ST1-3301	小刀	(6.6)	1.2	0.5	
68	ST1-3302	古銭	2.45	2.45	0.15	寛永通寶
69	ST1-3302	古銭	2.5	2.5	0.15	寛永通寶
70	ST1-3302	古銭	2.4	2.45	0.16	寛永通寶
71	ST1-3302	古銭	2.5	2.5	0.2	寛永通寶
72	ST1-3302	古銭	2.5	2.5	0.2	寛永通寶
73	ST1-3302	煙管	(4.0)	0.9	0.9	真鍮
85	SX1-3301	小柄	(15.8)	1.5	(0.7)	鉄
87	SX1-3303	古銭	2.2	2.2	0.1	
93	1工区第3遺構面	古銭	2.4	2.4	0.1	文字判読不可能
194	SD2-3303	古銭	2.4	2.4	0.2	「永」の文字のみ判読
195	SD2-3303	キセル(雁首)	(4.8)		(1.3)	真鍮　内部に炭化した筒がある
196	SD2-3303	キセル	(3.4)	1.2		真鍮　内部に炭化した筒がある
233	SK2-3301	食器	(11.0)	(9.7)	0.2	青銅
234	SK2-3301	キセル	2.1	1.7	0.6	
265	SK2-3307	古銭	2.7	2.7	0.2	真鍮
312	SK4-1114	文鎮	13.7	5.0	2.0	裏面に刻字
340	SD4-2204	古銭	上:2.35 下:2.55	上:2.30 下:2.55	上:0.1 下:0.11	寛永通寶　2枚重なる
347	SK4-2203	キセル	(10.75)	3.0	1.05	真鍮・竹
369	SE4-2202	飾り	1.8	1.6	0.55	青銅
401	SP4-3457	古銭	2.40	2.40	0.15	口口通寶
415	SK5-1107	小柄	11.7	1.4	0.05	
432	5工区第1遺構面	蓋	2.0	直径2.2	0.1	
433	5工区第1遺構面	古銭	2.35	2.35	0.15	一銭硬貨
434	5工区第1遺構面	古銭	2.5	2.5	0.15	寛永通寶
441	SK5-2204	古銭	2.3	2.3	0.10	寛永通寶
458	ST5-2201	古銭	2.45	2.45	0.16	寛永通寶
459	ST5-2201	古銭	2.55	2.55	0.17	寛永通寶
460	ST5-2201	古銭	2.5	2.5	0.16	寛永通寶
461	ST5-2201	釘	(6.1)	0.5	0.5	鉄
462	5工区第2遺構面	キセル	7.35	1.0	0.1	真鍮
477	ST5-3301	古銭	2.35	2.4	0.2	
478	ST5-3301	青銅の線	①1.9 ②1.2	①0.4 ②0.2	①0.2 ②0.15	青銅
481	5工区第3遺構面	古銭	2.5	2.5	0.18	
482	5工区第3遺構面	鍬の先	7.8	4.2	0.3	鉄
494	5工区第4遺構面	古銭	2.5	2.5	0.16	青銅　文字判読不可能

その他

報文番号	出土遺構名	名称	法量(cm)			重さ(g)	備考
			長さ	幅	厚さ		
110	SK2-1104	鹿角	1.9	1.1	0.8		両端を切断
111	SK2-1104	鹿角	4.0	3.7	1.7		両端を切断
162	SK2-2207	笄	(8.7)	0.9	1.3		象牙
291	2工区北側撹乱	さおばかり	(4.5)	0.45	0.45		象牙
414	SK5-1107	櫛払	5.1	1.2	0.45		骨製
463	5工区第2遺構面	かんざし	(11.3)	0.9	0.8		象牙

写真図版

図版1

１工区　北側　第３遺構面（西から）

４工区　北側　第３遺構面（南から）

図版2

１工区　南側　第３遺構面（東から）

５工区　南側　第１遺構面（東から）

２工区　第５遺構面（南から）

５工区　北側　第２遺構面（西から）

４工区　南側　第３遺構面（東から）

５工区　北側　第４遺構面（西から）

４工区　南側　第３遺構面（南から）

５工区　南側　第４遺構面（西から）

1工区　北側　第1遺構面（東から）

1工区　ＳＤ１-1102（東から）

1工区　北側　第1遺構面（西から）

1工区　ＳＤ１-1102（西から）

1工区　南側　第1遺構面（東から）

1工区　ＳＫ１-1105・1106

1工区　南側　第1遺構面（西から）

1工区　北側　第2遺構面（東から）

図版4

１工区　北側　第２遺構面（西から）

１工区　ＳＤ１-2201（南から）

１工区　南側　第２遺構面（東から）

１工区　ＳＫ１-2212

１工区　南側　第２遺構面（西から）

１工区　北側　第３遺構面（東から）

１工区　ＳＤ１-2201

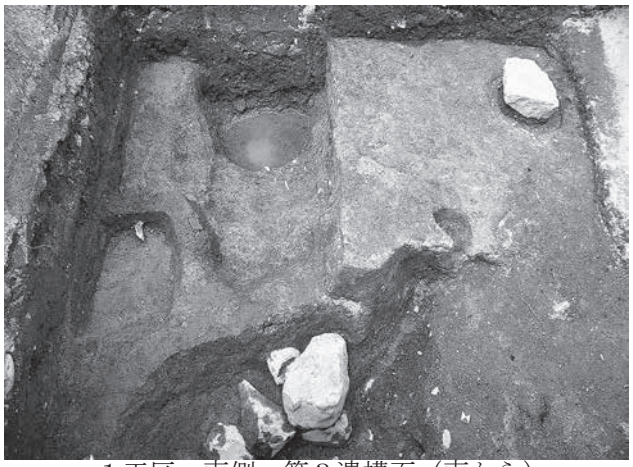
１工区　北側　第３遺構面（西から）

１工区　南側　第３遺構面（東から）

１工区　ＳＤ１-3301（南から）

１工区　南側　第３遺構面（西から）

１工区　ＳＰ１-3326


１工区　南側　第３遺構面（南から）

１工区　ＳＥ１-3301

１工区　ＳＤ１-3301

１工区　ＳＥ１-3301（南から）

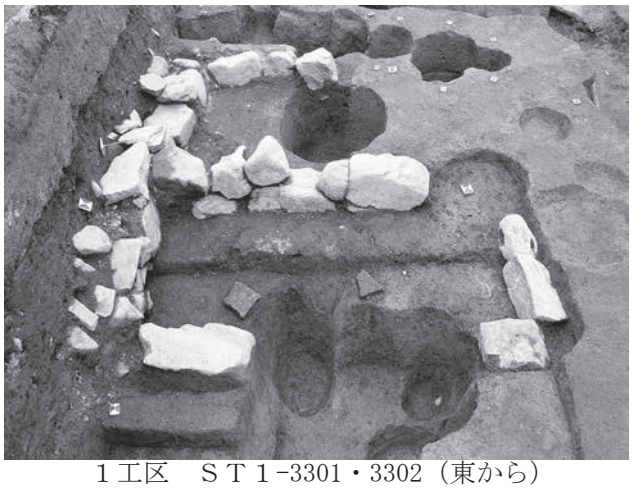
図版6

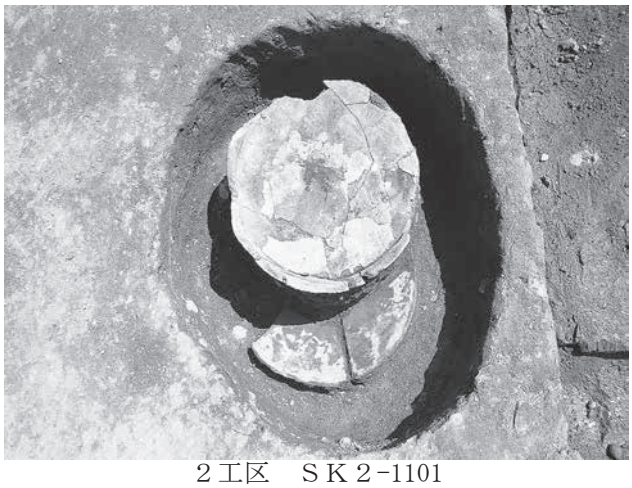
１工区　ＳＴ１-3302

２工区　北側　第１遺構面（東から）

１工区　ＳＴ１-3301・3302（南から）

２工区　北側　第１遺構面（西から）


１工区　ＳＴ１-3301・3302（東から）


２工区　ＳＫ２-1101

１工区　北側　第３遺構面以下

２工区　ＳＫ２-1104（西から）

２工区　ＳＥ２-1103

２工区　ＳＫ２-2207（南から）

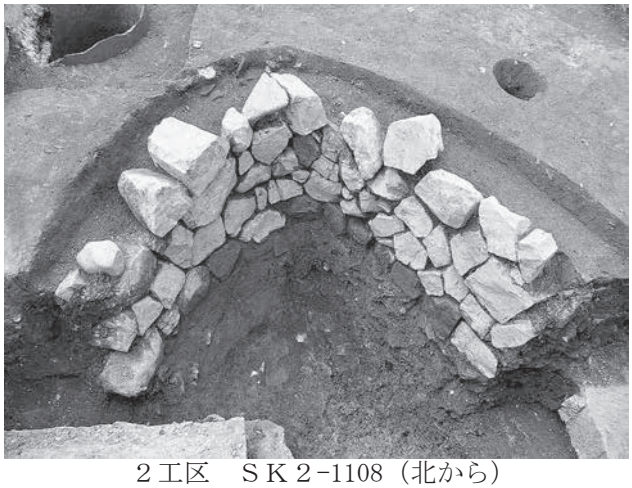
２工区　第２遺構面（東から）

２工区　ＳＫ２-1108

２工区　第２遺構面（西から）

２工区　ＳＫ２-1108（南西から）

２工区　ＳＫ２-2206（西から）


２工区　ＳＫ２-1108（北から）

図版8

２工区　ＳＰ２-2206 ～ 2208

２工区　ＳＤ２-3302（西から）

２工区　第３遺構面（西から）

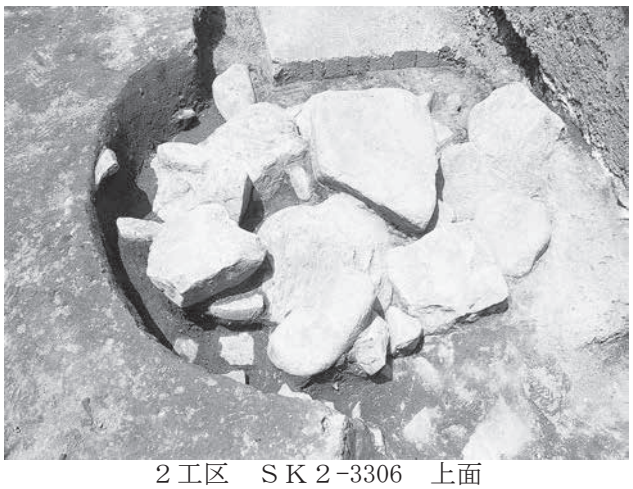
２工区　ＳＤ２-3303

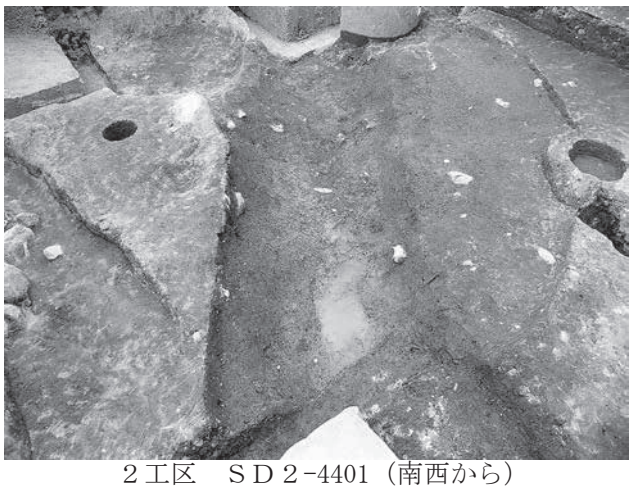
２工区　第３遺構面（西から）

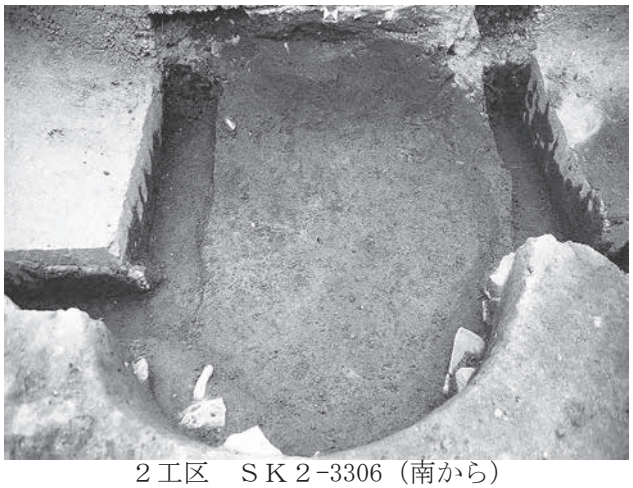
２工区　ＳＤ２-3303（南から）

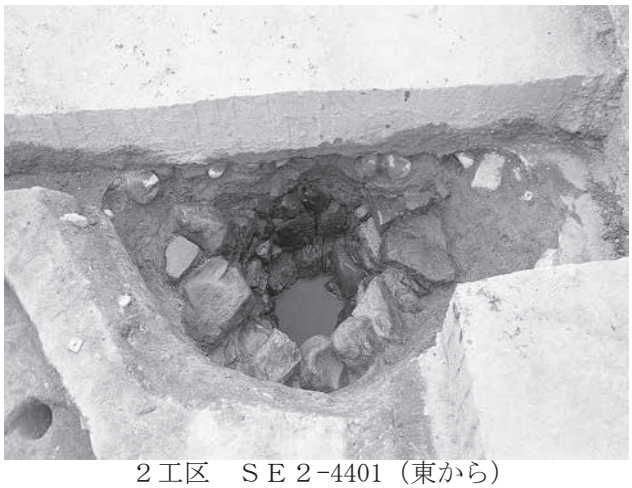
２工区　ＳＤ２-3301（南から）

２工区　ＳＫ２-3301（東から）

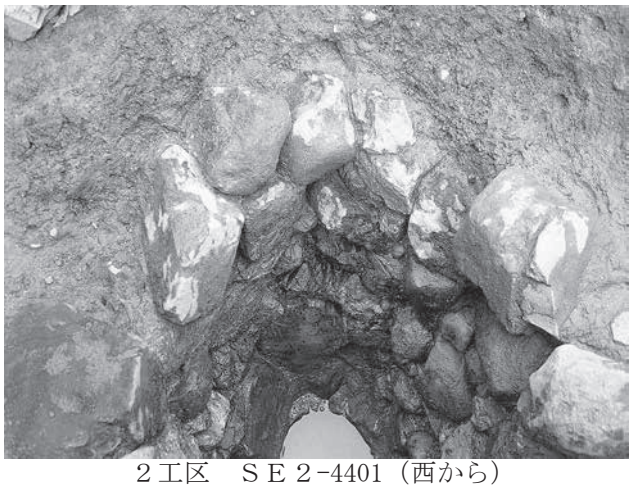

２工区　ＳＫ２-3306　上面


２工区　ＳＤ２-4401（南西から）


２工区　ＳＫ２-3306（南から）


２工区　ＳＥ２-4401（東から）

２工区　第４遺構面（西から）

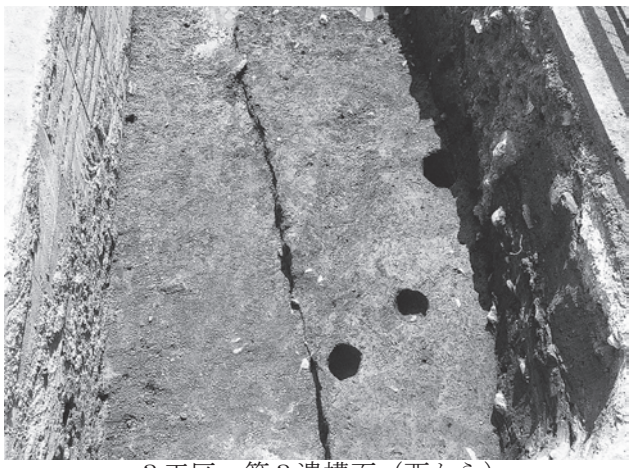

２工区　ＳＥ２-4401（西から）

２工区　ＳＤ２-4401

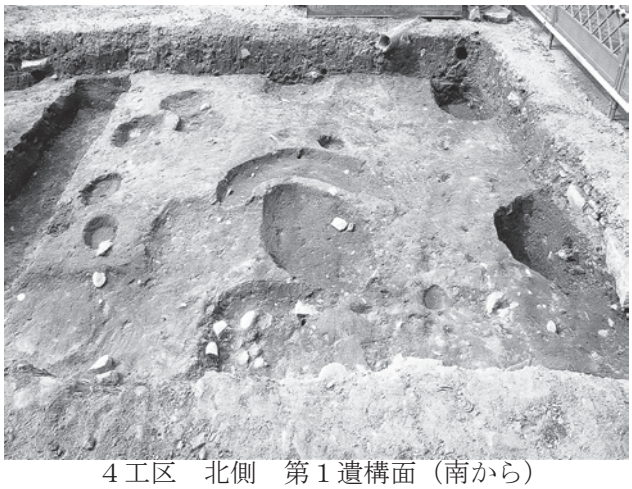
２工区　第５遺構面（西から）

図版10

２工区　第５遺構面（南から）


３工区　第３遺構面（西から）

２工区　第５遺構面以下（南から）


４工区　北側　第１遺構面（南から）

３工区　第１遺構面（東から）

４工区　北側　第１遺構面（東から）

３工区　第２遺構面（西から）

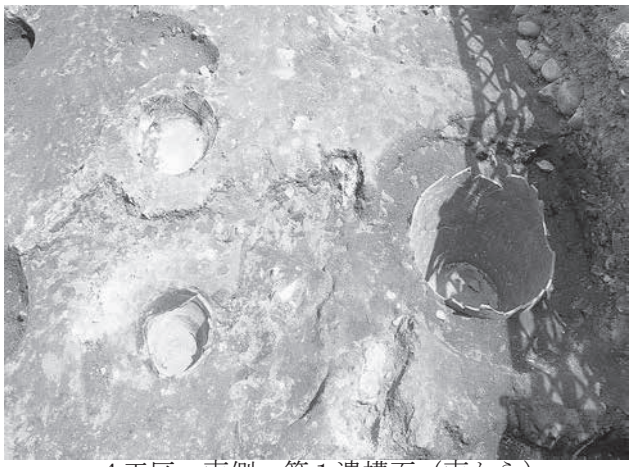
４工区　北側　第１遺構面（西から）

４工区　南側　第１遺構面（東から）

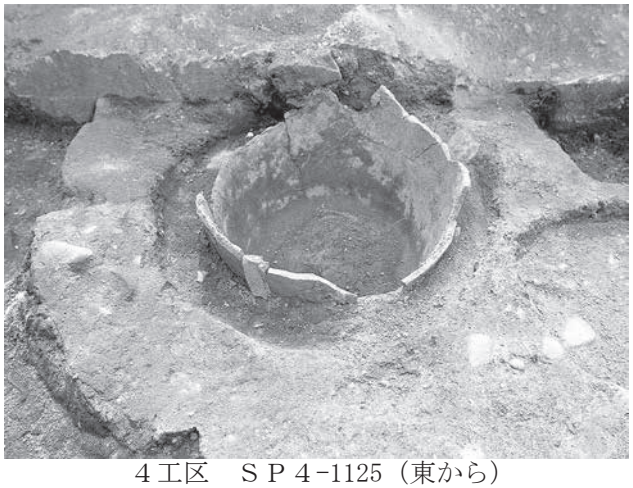
４工区　北側　第２遺構面（東から）

４工区　南側　第１遺構面（南から）

４工区　北側　第２遺構面（西から）


４工区　南側　第１遺構面（南から）

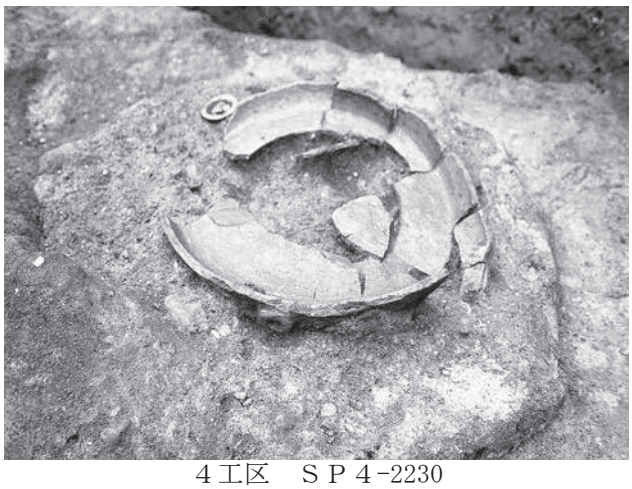
４工区　南側　第２遺構面（南東から）


４工区　ＳＰ４-1125（東から）

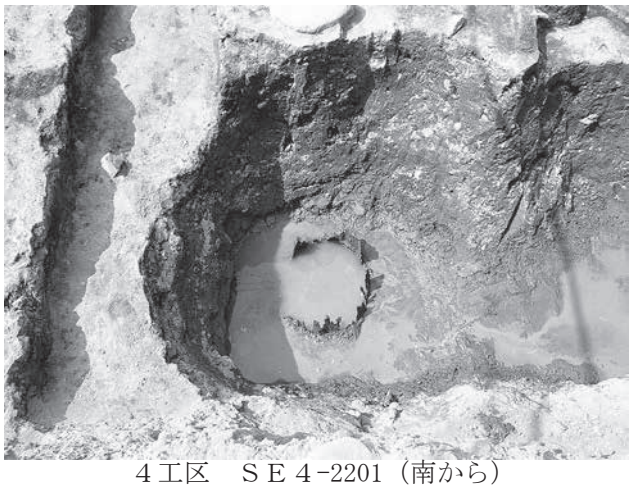
４工区　南側　第２遺構面（南から）

図版12

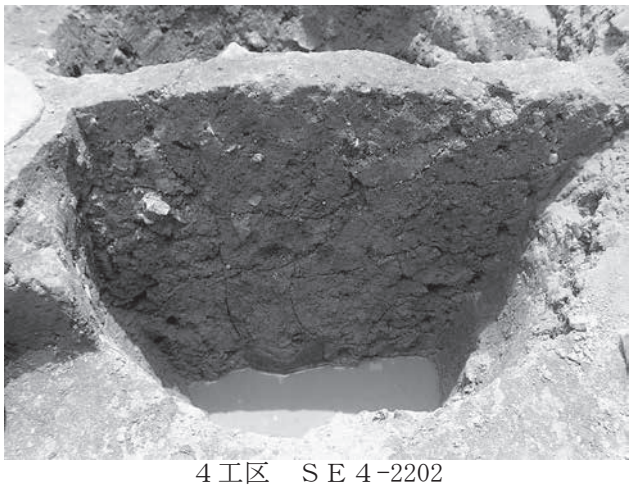
４工区　南側　第２遺構面（西から）

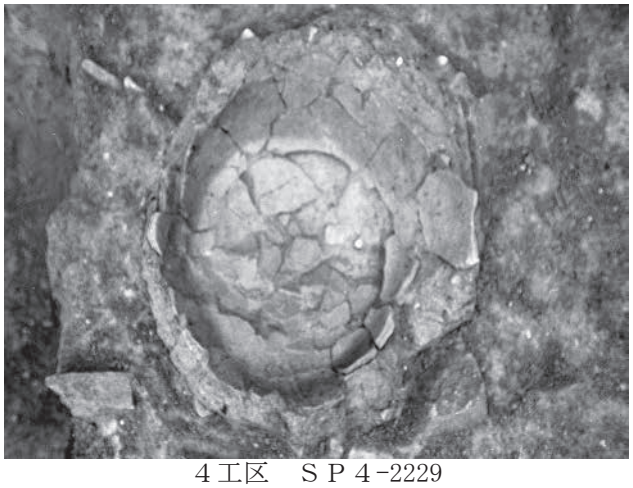

４工区　ＳＰ４-2230

４工区　ＳＤ４-2202（東から）


４工区　ＳＥ４-2201（南から）

４工区　ＳＫ４-2202（南から）

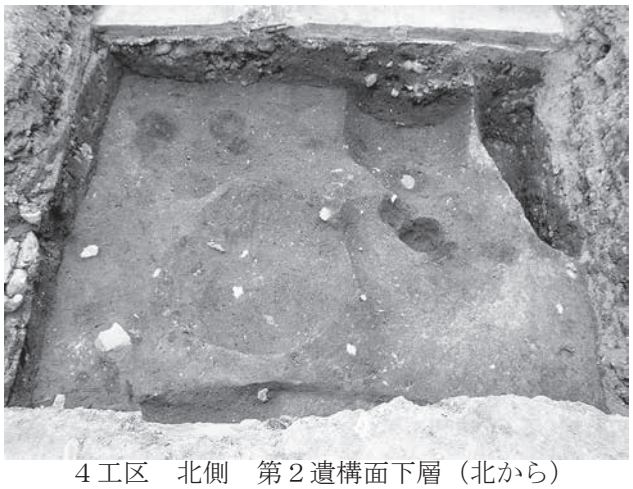

４工区　ＳＥ４-2202


４工区　ＳＰ４-2229

４工区　ＳＥ４-2202（西から）

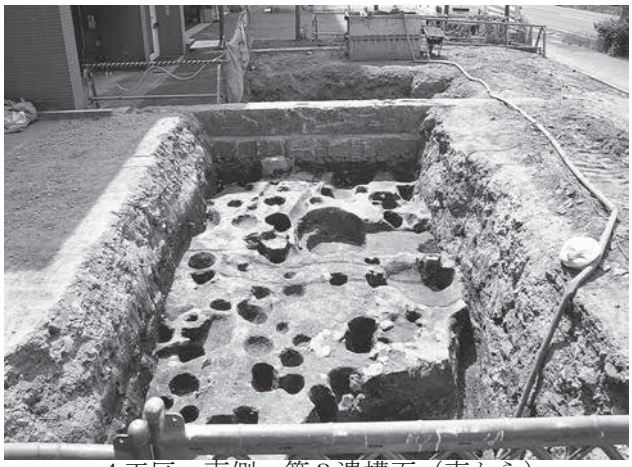
４工区　ＳＥ４-2204・2205（南から）

４工区　北側　第３遺構面（南から）


４工区　北側　第２遺構面下層（北から）

４工区　北側　第３遺構面（南から）

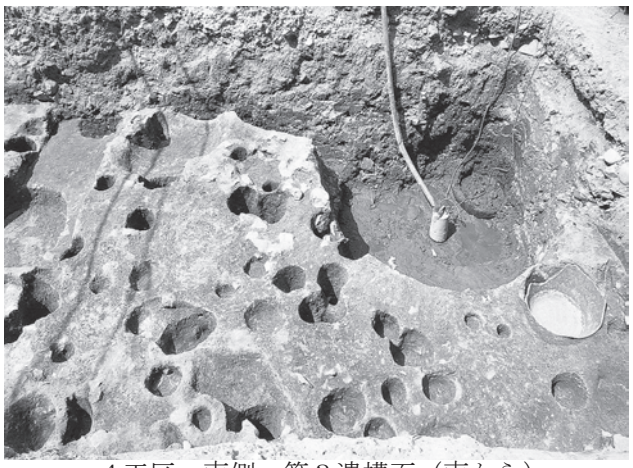
４工区　北側　第２遺構面下層（東から）


４工区　南側　第３遺構面（東から）

４工区　北側　第３遺構面（東から）

４工区　南側　第３遺構面（西から）

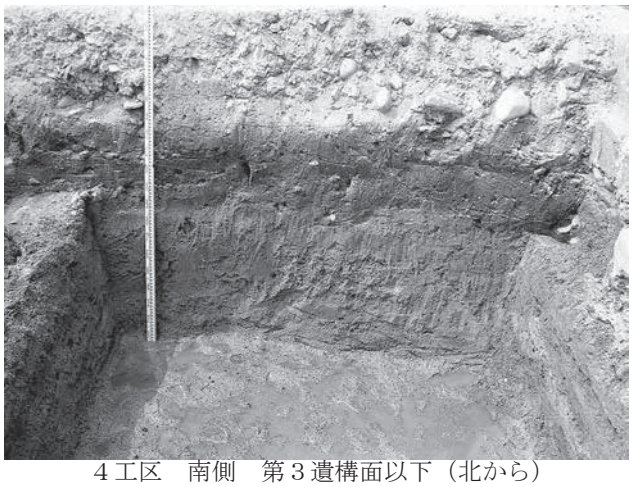
図版14


４工区　南側　第３遺構面（南から）

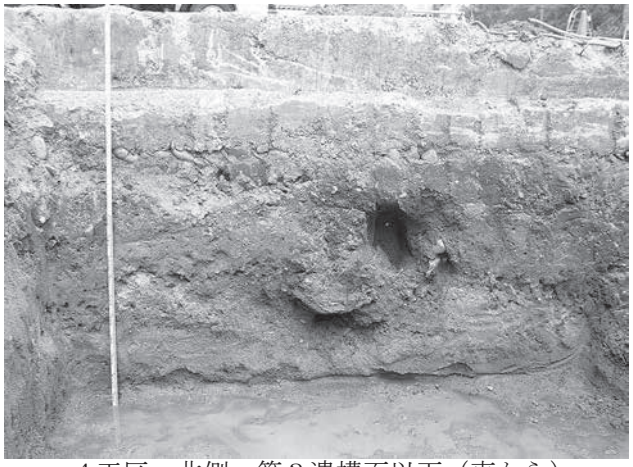
５工区　北側　第１遺構面（東から）

４工区　南壁（北西から）

５工区　北側　第１遺構面（西から）


４工区　南側　第３遺構面以下（北から）

５工区　南側　第１遺構面（東から）

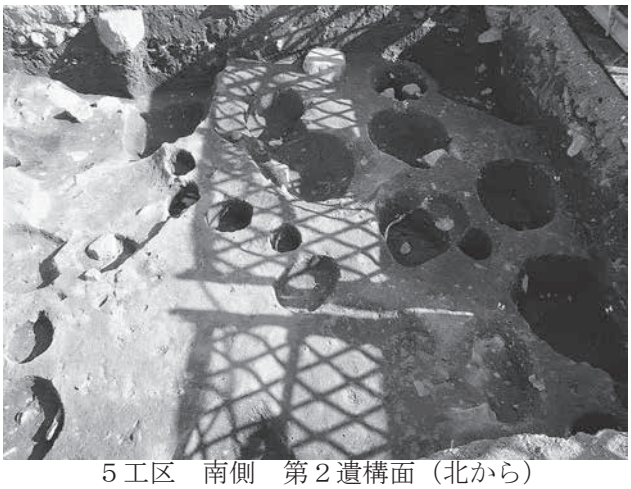

４工区　北側　第３遺構面以下（東から）

５工区　南側　第１遺構面（西から）

５工区　ＳＤ５-1103・ＳＫ５-1110（北から）

５工区　南側　第２遺構面（北から）

５工区　北側　第２遺構面（東から）


５工区　南側　第２遺構面（北から）

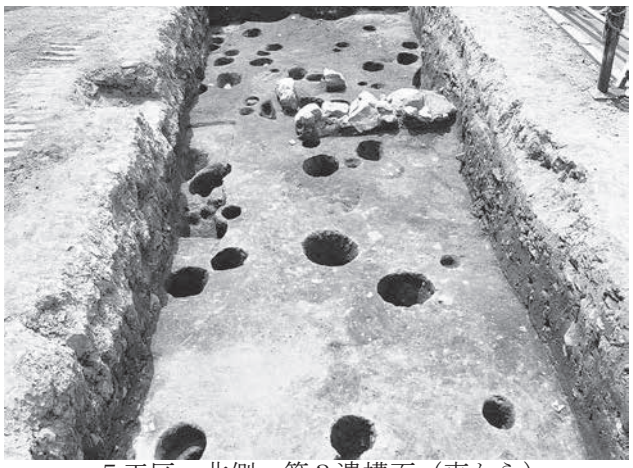
５工区　北側　第２遺構面（西から）

５工区　南側　第２遺構面（西から）

５工区　南側　第２遺構面（東から）

５工区　ＳＴ５-2201（西から）

図版16


５工区　北側　第３遺構面（東から）

５工区　ＳＴ５-3301（西から）

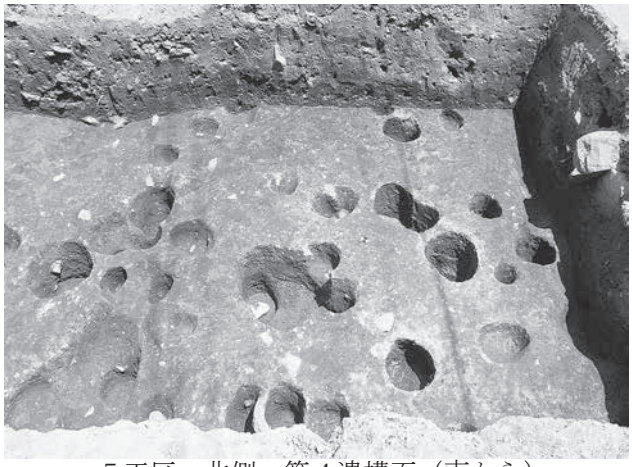
５工区　北側　第３遺構面（西から）

５工区　ＳＴ５-3301（南から）

５工区　ＳＥ５-3301（東から）

５工区　北側　第４遺構面（東から）

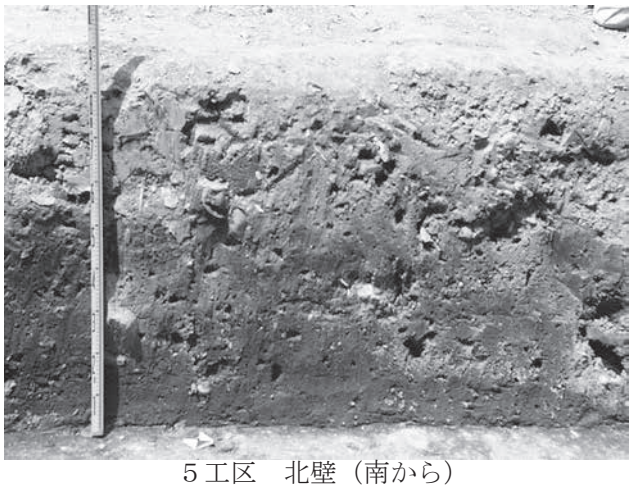
５工区　ＳＴ５-3301


５工区　北側　第４遺構面（南から）

5工区　南側　第４遺構面（東から）

5工区　北壁（南東から）

5工区　南側　第４遺構面（東から）


5工区　北壁（南から）

5工区　北側　第４遺構面（南から）

5工区　南壁（北東から）

5工区　北側　第４遺構面（南から）

5工区　第４遺構面以下（南から）

図版18

5

314

366

64

210

74

103

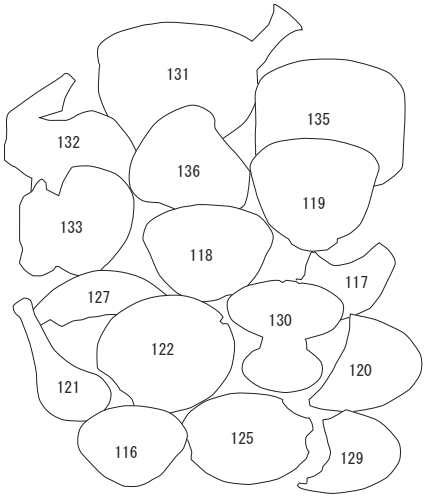
430

438

106
105
104

226
217
222
218

図版20


131
135
132
136
119
133
118
117
127
130
122
120
121
125
116
129

208
184
176
180
188
187

376
374

51

157

94

263
264

147

292
293
294

165
163
164

322

図版22

358

344

367

303

356

382

387

406

420
421
422

442

467

449

468

490

23

高
326

413

図版24

139

200

140

201

198

235

241

247

79

80

142

143

83

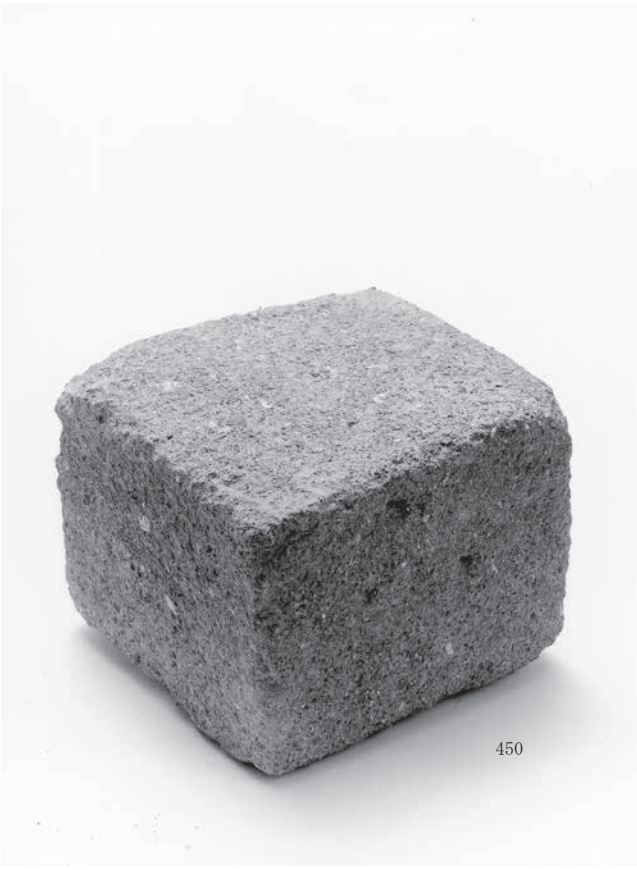
170
169
171

図版26

43

489

274


450

312（表）

312（裏）

414

428

100

111

373

463

291

162

報　告　書　抄　録

ふりがな	たかまつじょうあと（まるのうちちく）
書　　名	高 松 城 跡　（丸の内地区）
副 書 名	都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第1冊
巻　　次	
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 167 集
編著者名	小川 賢・中西克也
編集機関	高松市教育委員会
所 在 地	〒760－8571　香川県高松市番町一丁目 8 番 15 号　　TEL 087－839－2660
発行年月日	西暦 2016 年　2 月 29 日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかまつじょうあと 高松城跡 まるのうちちく （丸の内地区）	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市 まるのうち 丸の内	37201		34° 20′ 53″	134° 03′ 08″	2012. 2.13 ～ 2012. 8. 9	平面積 1,070 ㎡	都市計画 道路高松 海岸線

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高松城跡 （丸の内地区）	城　跡	中　　世 近　　世	溝、井戸 土坑、柱穴 墓	土師質土器、木製品、 金属製品、石製品、 瓦、陶磁器	屋敷境 墓
概要					

都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書　第 1 冊

高松城跡（丸の内地区）

平成 28 年 2 月 29 日

編集・発行　高松市教育委員会
　　高松市番町一丁目 8 番 15 号
印　　刷　有限会社 中央ファイリング